

青森県埋蔵文化財調査報告書 第566集

川原平(4)遺跡Ⅳ

— 津軽ダム建設事業に伴う遺跡発掘調査報告 —

2016年3月

青森県教育委員会



道跡遺景(南西から)



B I 群土坑群(北東から)



第108号土坑 赤色顔料検出(南東から)



第109号土坑 赤色顔料検出(南東から)



第108号土坑 赤色顔料土層(南西から)



第113号土坑 赤色顔料土層(南西から)



第113号土坑 赤色顔料検出(南東から)



第 370 号土坑 玉出土状況 (南から)



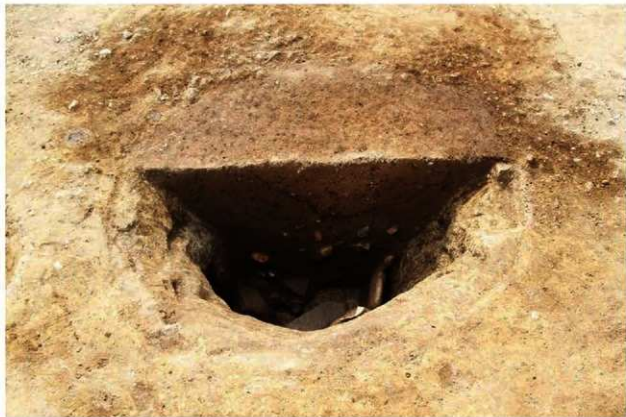
第 370 号土坑 玉出土状況 (南から)



第84号土坑 玉出土状況(北から)



第22号土器埋設遺構 赤色顔料検出(南から)



第14号土坑土層(東から)



第14号土坑底面層(東から)



第28a・28b号竪穴住居跡 完掘(南東から)



第28a号竪穴住居跡 炉1検出(南東から)



A群土坑出土土器



土器埋設遺構出土土器

卷頭圖版7



B I 群土坑出土玉類



赤色顔料関連資料
巻頭図版8

序

青森県埋蔵文化財調査センターでは、平成15年度から津軽ダム建設事業予定地内に所在する遺跡の発掘調査を実施しています。

川原平(4)遺跡については、平成15・23～26年度まで発掘調査を行い、これまで3冊の調査報告書を刊行しております。

本報告書は、平成23～26年度に発掘調査を実施したB区の発掘調査成果をまとめたものです。

調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡の他、縄文時代晩期の土坑墓、土器埋設遺構等が多数発見されました。特に土坑墓から出土した玉類は、この地域では稀少な出土例として注目され、縄文時代晩期の亀ヶ岡文化を考える上でも貴重な発見となりました。

この調査成果が今後、埋蔵文化財の保護等に広く活用され、また、地域の歴史を理解する一助となることを期待します。

最後に、日頃から埋蔵文化財の保護と活用に対してご理解をいただいている国土交通省東北地方整備局津軽ダム工事事務所に厚くお礼申し上げるとともに、発掘調査の実施と報告書の作成にあたりご指導、ご協力をいただきました関係各位に対し、心より感謝いたします。

平成28年3月

青森県埋蔵文化財調査センター
所 長 三 上 盛 一

例 言

- 1 本書は、国土交通省東北地方整備局津軽ダム工事事務所による津軽ダム建設事業に伴い、青森県埋蔵文化財調査センターが平成23～26年度に発掘調査を実施した西目屋村川原平(4)遺跡B区の発掘調査報告書である。
- 2 川原平(4)遺跡の所在地は、青森県津軽郡西目屋村大字川原平字福岡、青森県道跡番号は343022である。
- 3 川原平(4)遺跡の発掘調査報告書は、既に3冊(青森県埋蔵文化財調査報告書第409・527・539集、以下シリーズ番号のみ記載)が刊行されており、本書は4冊目となる。
- 4 発掘調査及び整理・報告書作成の経費は、発掘調査を委託した国土交通省東北地方整備局津軽ダム工事事務所が負担した。
- 5 発掘調査から整理・報告書作成までの期間は、以下のとおりである。

発掘調査期間	平成23年5月11日～7月13日
	平成24年5月8日～9月28日
	平成25年5月7日～9月6日
	平成26年5月1日～11月14日
整理・報告書作成期間	平成24年4月1日～平成28年3月31日
- 6 本書は、青森県埋蔵文化財調査センターが編集し、青森県教育委員会が作成した。執筆と編集は、青森県埋蔵文化財調査センター秦光次郎文化財保護主幹、小山浩平文化財保護主査、工藤忍文化財保護主査、最上法聖文化財保護主事が担当し、文末に執筆者名を記した。依頼原稿については、文頭に執筆者名を記した。
- 7 発掘調査から整理・報告書作成にあたり、以下の業務については委託により実施した。

基準点・水準点測量	株式会社 キタコン
空中写真撮影	株式会社 シン技術コンサル
石器の実測	株式会社 アルカ、株式会社 ラング
遺物の写真撮影	シルバーフォト、フォトショップいなみ
放射性炭素年代測定	株式会社 バレオ・ラボ、株式会社 加速器分析研究所
赤色顔料分析	株式会社 バレオ・ラボ
リン・カルシウム分析	株式会社 バレオ・ラボ
黒曜石産地同定分析	株式会社 アルカ
樹種同定分析	株式会社 バレオ・ラボ
- 8 石器の石質鑑定は調査員の山口義伸氏に依頼した。
- 9 発掘調査成果の一部は、現地見学会、発掘調査報告会等において公表しているが、これらと本書の内容が異なる場合は、正式報告として刊行する本書がこれらに優先する。
- 10 発掘調査及び整理・報告書作成における出土品、実測図、写真等は、現在、青森県埋蔵文化財調査センターが保管している。

- 11 本書に掲載した遺跡位置図等は、国土地理院発行の1/25,000地形図を複写して使用した。
- 12 測量原点の座標値は、世界測地系（JGD2000）に基づく平面直角座標第X系による。
- 13 挿入図の方角は、世界測地系の座標北を示している。
- 14 全体図等の縮尺は、挿入毎にスケール等を示した。
- 15 遺構については、検出順にその種類を示す略号と通し番号を付した。略号の頭に付した「B」はB区を示す。遺構に使用した略号は、以下のとおりである。

BSI—竪穴住居跡 BSB—掘立柱建物跡 BSK—土坑 BSR—土器埋設遺構 BSN—焼土遺構

- 16 遺構実測図の土層断面図等には、水準点を基にした海拔標高を付した。
- 17 遺構実測図の縮尺は、原則として竪穴住居跡の跡等・土器埋設遺構・焼土遺構は1/30、竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑等は1/60に統一し、挿入毎にスケール等を示した。
- 18 遺構実測図に使用した網掛けは、挿入毎に凡例を示した。
- 19 遺跡の基本土層にはローマ数字、遺構内堆積土層には算用数字を使用した。
- 20 基本土層・遺構内堆積土層の色調表記等には、『新版標準土色帖2006年度版』（小山正忠・竹原秀雄）を使用した。
- 21 遺物については、取り上げ順にその種類を示す略号と通し番号を付した。遺物に使用した略号は、以下のとおりである。

P—土器 S—石器 土—土製品 石—石製品

- 22 遺物実測図には、挿入毎に1から通しの図番号を付した。
- 23 遺物実測図の縮尺は、原則として土器・礫石器・石製品は1/3、剥片石器・土製品は1/2、石製品の内玉類は1/1としたが、遺物の大きさによって適宜変更し、挿入毎にスケール等を示した。
- 24 遺物実測図に使用した網掛けは、以下のとおりである。必要に応じて挿入毎に凡例を示した。

土器・土製品・石製品	赤色顔料		漆状・黒色物質	
石器	光沢		スリ	
			アフラット・赤色顔料	

- 25 遺物観察表には、出土地点・法量・諸特徴等を示した。破損品の現存値については（ ）で表記した。
- 26 遺物写真には、遺物実測図と共通の図番号を付した。
- 27 遺物写真は遺物の大きさによって任意の縮尺で掲載した。
- 28 参考文献については巻末に収めたが、依頼原稿分は各文末に付した。
- 29 発掘調査及び整理・報告書作成に際して、下記の方々と機関からご協力・ご指導を得た（敬称略、順不同）。西目屋村教育委員会、岡村道雄、山田康弘、今福利恵、市川健夫、藤澤珠織、中村 大、根岸 洋、阿部昭典、長田友也

目 次

巻頭図版

序

例言

目次

挿図目次・写真図版目次・表目次

第1章 調査の概要	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 調査の方法.....	1
第3節 調査の経過.....	3
第2章 遺跡の概要	9
第1節 遺跡の位置と周辺の遺跡.....	9
第2節 遺構の概要.....	10
第3節 出土遺物の分類.....	11
第4節 地形と地質.....	13
第5節 基本層序.....	15
第3章 検出遺構と出土遺物	21
第1節 竪穴住居跡.....	32
第2節 掘立柱建物跡.....	81
第3節 土坑.....	92
第4節 土器埋設遺構.....	163
第5節 焼土遺構.....	176
第6節 ビット.....	178
第7節 炭窯跡.....	192
第8節 遺構外出土遺物.....	195
1 A地点第Ⅱa層出土遺物.....	197
2 B地点第Ⅱa層出土遺物.....	217
3 その他遺構外出土遺物.....	227
第4章 自然科学分析	271
第1節 放射性炭素年代測定.....	271
第2節 赤色顔料分析.....	282
第3節 リン・カルシウム分析.....	288
第4節 黒曜石産地同定分析.....	323
第5節 樹種同定分析.....	330
第5章 総括	333
引用・参考文献.....	335
土坑一覧表.....	336
ビット一覧表.....	346
遺物観察表.....	351
写真図版.....	389
報告書抄録.....	495

挿図目次

図1 調査区域図		図53 土坑全体図(1)	92
図2 周辺の遺跡	8	図54 土坑全体図(2)	93
図3 基本層序	16	図55 A群土坑(1)	97
図4 B区全体図	17	図56 A群土坑(2)	98
図5 遺構配置割付図	21	図57 A群土坑(3)	99
図6 遺構配置図(1)	22	図58 A群土坑(4)	100
図7 遺構配置図(2)	23	図59 遺構間接合図	101
図8 遺構配置図(3)	27	図60 遺構間接合遺物(1)	102
図9 遺構配置図(4)	28	図61 遺構間接合遺物(2)	103
図10 遺構配置図(5)	29	図62 A群土坑出土遺物(1)	104
図11 遺構配置図(6)	30	図63 A群土坑出土遺物(2)	105
図12 遺構配置図(7)	31	図64 A群土坑出土遺物(3)	106
図13 第2・3号壑穴住居跡・出土遺物	33	図65 A群土坑出土遺物(4)	107
図14 第3号壑穴住居跡	34	図66 A群土坑出土遺物(5)	108
図15 第3号壑穴住居跡出土遺物(1)	36	図67 A群土坑出土遺物(6)	109
図16 第3号壑穴住居跡出土遺物(2)	37	図68 計測基準	110
図17 第4号壑穴住居跡・出土遺物	38	図69 平面形・規模	112
図18 第4号壑穴住居跡出土遺物	39	図70 BⅠ群土坑(1)	119
図19 第5号壑穴住居跡・出土遺物	41	図71 BⅠ群土坑(2)	120
図20 第5号壑穴住居跡出土遺物(1)	42	図72 BⅠ群土坑(3)	121
図21 第5号壑穴住居跡出土遺物(2)	43	図73 BⅠ群土坑(4)	122
図22 第5号壑穴住居跡出土遺物(3)	44	図74 BⅠ群土坑(5)	123
図23 第5号壑穴住居跡出土遺物(4)	45	図75 BⅠ群土坑(6)	124
図24 第5号壑穴住居跡出土遺物(5)	46	図76 BⅠ群土坑(7)	125
図25 第6号壑穴住居跡・出土遺物	47	図77 BⅠ群土坑(8)	126
図26 第6号壑穴住居跡出土遺物	48	図78 BⅠ群土坑(9)	127
図27 第7号壑穴住居跡・出土遺物	50	図79 BⅠ群土坑(10)	128
図28 第8・11号壑穴住居跡・出土遺物	52	図80 BⅠ群土坑(11)	129
図29 第14・15号壑穴住居跡・出土遺物	54	図81 BⅠ群土坑(12)	130
図30 第16号壑穴住居跡・出土遺物	56	図82 BⅠ群土坑(13)	131
図31 第16号壑穴住居跡出土遺物	57	図83 BⅠ群土坑(14)	132
図32 第17号壑穴住居跡・出土遺物	58	図84 BⅠ群土坑(15)	133
図33 第18号壑穴住居跡	59	図85 BⅠ群土坑(16)	134
図34 第18号壑穴住居跡出土遺物	60	図86 BⅠ群土坑(17)	135
図35 第19・20号壑穴住居跡・出土遺物	62	図87 BⅠ群土坑(18)	136
図36 第21号壑穴住居跡	64	図88 BⅠ群土坑(19)	137
図37 第21号壑穴住居跡出土遺物	65	図89 雑出土土坑	138
図38 第23・24・25号壑穴住居跡・出土遺物	68	図90 底面の積き	139
図39 第28a・28b号壑穴住居跡	72	図91 赤色顔料検出土坑	140
図40 第28a・28b号壑穴住居跡出土遺物(1)	73	図92 リン・カルシウム分析土坑	141
図41 第28a・28b号壑穴住居跡出土遺物(2)	74	図93 BⅠ群土坑集中分布域	142
図42 第28a・28b・32号壑穴住居跡・出土遺物	75	図94 BⅠ群土坑出土遺物(1)	143
図43 第33号壑穴住居跡	78	図95 BⅠ群土坑出土遺物(2)	144
図44 第33・34号壑穴住居跡・出土遺物	79	図96 BⅠ群土坑出土遺物(3)	145
図45 第34・35・36号壑穴住居跡・出土遺物	80	図97 BⅠ群土坑出土遺物(4)	146
図46 竪立柱建物跡(1)	85	図98 BⅡ群土坑分布図	147
図47 竪立柱建物跡(2)	86	図99 BⅡ群土坑(1)	148
図48 竪立柱建物跡(3)	87	図100 BⅡ群土坑(2)	151
図49 竪立柱建物跡(4)	88	図101 BⅡ群土坑(3)	152
図50 竪立柱建物跡(5)	89	図102 BⅡ群土坑(4)	153
図51 竪立柱建物跡(6)	90	図103 BⅡ群土坑(5)	154
図52 竪立柱建物跡出土遺物	91	図104 BⅡ群土坑(6)	155

図 105 BⅡ群土坑(7)	157
図 106 BⅡ群土坑出土遺物(1)	158
図 107 BⅡ群土坑出土遺物(2)	159
図 108 BⅡ群土坑出土遺物(3)	160
図 109 BⅡ群土坑出土遺物(4)	161
図 110 BⅡ群土坑出土遺物(5)	162
図 111 土器埋設遺構(1)	170
図 112 土器埋設遺構(2)	171
図 113 土器埋設遺構出土遺物(1)	172
図 114 土器埋設遺構出土遺物(2)	173
図 115 土器埋設遺構出土遺物(3)	174
図 116 土器埋設遺構出土遺物(4)	175
図 117 埴土遺構・出土遺物	177
図 118 ビット配置割付図	178
図 119 ビット配置図(1)	179
図 120 ビット配置図(2)	180
図 121 ビット配置図(3)	181
図 122 ビット配置図(4)	182
図 123 ビット配置図(5)	183
図 124 ビット(1)	185
図 125 ビット(2)	186
図 126 ビット(3)	187
図 127 ビット(4)	188
図 128 ビット出土遺物(1)	189
図 129 ビット出土遺物(2)	190
図 130 ビット出土遺物(3)	191
図 131 炭窯跡(1)	193
図 132 炭窯跡(2)	194
図 133 遠距離搬入合資料	195
図 134 VI群土器の器形	196
図 135 A地点第Ⅱa層出土土器(1)	202
図 136 A地点第Ⅱa層出土土器(2)	203
図 137 A地点第Ⅱa層出土土器(3)	204
図 138 A地点第Ⅱa層出土土器(4)	205
図 139 A地点第Ⅱa層出土土器(1)	206
図 140 A地点第Ⅱa層出土土器(2)	207
図 141 A地点第Ⅱa層出土土器(3)	208
図 142 A地点第Ⅱa層出土土器(4)	209
図 143 A地点第Ⅱa層出土土器(5)	210
図 144 A地点第Ⅱa層出土土器(6)	211
図 145 A地点第Ⅱa層出土土器(7)	212
図 146 A地点第Ⅱa層出土土器(8)	213
図 147 A地点第Ⅱa層出土土器(9)	214

図 148 A地点第Ⅱa層出土土器製品・石製品	215
図 149 A地点第Ⅱa層出土土器製品	216
図 150 B地点第Ⅱa層出土土器(1)	221
図 151 B地点第Ⅱa層出土土器(2)	222
図 152 B地点第Ⅱa層出土土器(3)	223
図 153 B地点第Ⅱa層出土土器(1)	224
図 154 B地点第Ⅱa層出土土器(2)	225
図 155 B地点第Ⅱa層出土土器・石製品	226
図 156 遺構外出土土器(1)	236
図 157 遺構外出土土器(2)	237
図 158 遺構外出土土器(3)	238
図 159 遺構外出土土器(4)	239
図 160 遺構外出土土器(5)	240
図 161 遺構外出土土器(6)	241
図 162 遺構外出土土器(7)	242
図 163 遺構外出土土器(8)	243
図 164 遺構外出土土器(9)	244
図 165 遺構外出土土器(1)	245
図 166 遺構外出土土器(2)	246
図 167 遺構外出土土器(3)	247
図 168 遺構外出土土器(4)	248
図 169 遺構外出土土器(5)	249
図 170 遺構外出土土器(6)	250
図 171 遺構外出土土器(7)	251
図 172 遺構外出土土器(8)	252
図 173 遺構外出土土器(9)	253
図 174 遺構外出土土器(10)	254
図 175 遺構外出土土器(11)	255
図 176 遺構外出土土器(12)	256
図 177 遺構外出土土器(13)	257
図 178 遺構外出土土器(14)	258
図 179 遺構外出土土器(15)	259
図 180 遺構外出土土器(16)	260
図 181 遺構外出土土器(17)	261
図 182 遺構外出土土器(18)	262
図 183 遺構外出土土器(19)	263
図 184 遺構外出土土器(20)	264
図 185 遺構外出土土器(21)	265
図 186 遺構外出土土器(22)	266
図 187 遺構外出土土器製品・石製品	267
図 188 遺構外出土土器製品	268
図 189 遺構外出土土器	269

写真図版目次

写真1 遺跡全景(1)	389
写真2 遺跡全景(2)	390
写真3 基本層序	391
写真4 竪穴住居跡(1)	392
写真5 竪穴住居跡(2)	393
写真6 竪穴住居跡(3)	394
写真7 竪穴住居跡(4)	395

写真8 竪穴住居跡(5)	396
写真9 竪穴住居跡(6)	397
写真10 竪穴住居跡(7)	398
写真11 竪穴住居跡(8)	399
写真12 竪穴住居跡(9)	400
写真13 竪穴住居跡(10)・石製品	401
写真14 竪穴住居跡(11)	402

写真15	壑穴住居跡 (12)	403	写真61	BⅡ群土坑 (1)	449
写真16	壑穴住居跡 (13)	404	写真62	BⅡ群土坑 (2)	450
写真17	壑穴住居跡 (14)	406	写真63	BⅡ群土坑 (3)	451
写真18	壑穴住居跡 (15)	406	写真64	BⅡ群土坑 (4)	452
写真19	壑穴住居跡 (16)	407	写真65	BⅡ群土坑 (5)	453
写真20	壑穴住居跡 (17)	408	写真66	BⅡ群土坑 (6)	454
写真21	壑穴住居跡 (18)	409	写真67	BⅡ群土坑 (7)	455
写真22	壑穴住居跡 (19)	410	写真68	BⅡ群土坑 (8)	456
写真23	壑穴住居跡 (20)	411	写真69	BⅡ群土坑 (9)	457
写真24	榎立柱建物跡 (1)	412	写真70	土器埋設遺構 (1)	458
写真25	榎立柱建物跡 (2)	413	写真71	土器埋設遺構 (2)	459
写真26	榎立柱建物跡 (3)	414	写真72	土器埋設遺構 (3)	460
写真27	榎立柱建物跡 (4)	415	写真73	土器埋設遺構 (4)	461
写真28	A群土坑 (1)	416	写真74	土器埋設遺構・焼土遺構	462
写真29	A群土坑 (2)	417	写真75	ピット (1)	463
写真30	A群土坑 (3)	418	写真76	ピット (2)	464
写真31	A群土坑 (4)	419	写真77	炭窯跡 (1)	465
写真32	A群土坑 (5)	420	写真78	炭窯跡 (2)	466
写真33	A群土坑 (6)	421	写真79	A地点第Ⅱa層遺物出土状況	467
写真34	A群土坑 (7)	422	写真80	B地点第Ⅱa層遺物出土状況	468
写真35	BⅠ群土坑 (1)	423	写真81	壑穴住居跡出土遺物 (1)	469
写真36	BⅠ群土坑 (2)	424	写真82	壑穴住居跡出土遺物 (2)	470
写真37	BⅠ群土坑 (3)	425	写真83	壑穴住居跡出土遺物 (3)	471
写真38	BⅠ群土坑 (4)	426	写真84	壑穴住居跡出土遺物 (4)	472
写真39	BⅠ群土坑 (5)	427	写真85	壑穴住居跡・榎立柱建物跡出土遺物	473
写真40	BⅠ群土坑 (6)	428	写真86	遺構間接合遺物・A群土坑出土遺物	474
写真41	BⅠ群土坑 (7)	429	写真87	A群土坑出土遺物 (1)	475
写真42	BⅠ群土坑 (8)	430	写真88	A群土坑出土遺物 (2)	476
写真43	BⅠ群土坑 (9)	431	写真89	A群土坑・BⅠ群土坑出土遺物	477
写真44	BⅠ群土坑 (10)	432	写真90	BⅠ群土坑出土遺物	478
写真45	BⅠ群土坑 (11)	433	写真91	BⅡ群土坑出土遺物	479
写真46	BⅠ群土坑 (12)	434	写真92	土器埋設遺構出土遺物 (1)	480
写真47	BⅠ群土坑 (13)	435	写真93	土器埋設遺構出土遺物 (2)	481
写真48	BⅠ群土坑 (14)	436	写真94	焼土遺構・ピット出土遺物	482
写真49	BⅠ群土坑 (15)	437	写真95	A地点第Ⅱa層出土遺物 (1)	483
写真50	BⅠ群土坑 (16)	438	写真96	A地点第Ⅱa層出土遺物 (2)	484
写真51	BⅠ群土坑 (17)	439	写真97	A地点第Ⅱa層出土遺物 (3)	485
写真52	BⅠ群土坑 (18)	440	写真98	A地点第Ⅱa層・B地点第Ⅱa層出土遺物	486
写真53	BⅠ群土坑 (19)	441	写真99	B地点第Ⅱa層・遺構外出土遺物	487
写真54	BⅠ群土坑 (20)	442	写真100	道構外出土遺物 (1)	488
写真55	BⅠ群土坑 (21)	443	写真101	道構外出土遺物 (2)	489
写真56	BⅠ群土坑 (22)	444	写真102	道構外出土遺物 (3)	490
写真57	BⅠ群土坑 (23)	445	写真103	道構外出土遺物 (4)	491
写真58	BⅠ群土坑 (24)	446	写真104	道構外出土遺物 (5)	492
写真59	BⅠ群土坑 (25)	447	写真105	道構外出土遺物 (6)	493
写真60	BⅠ群土坑 (26)	448	写真106	道構外出土遺物 (7)	494

表目次

表1	遺跡地名表	9	表4	BⅠ群土坑重複関係	110
表2	土器の分類	11	表5	BⅡ群土坑時期別形態分布状況	149
表3	土製品・石製品の分類	12	表6	BⅡ群土坑形態別分布状況	149
			表7	BⅡ群土坑重複関係	150

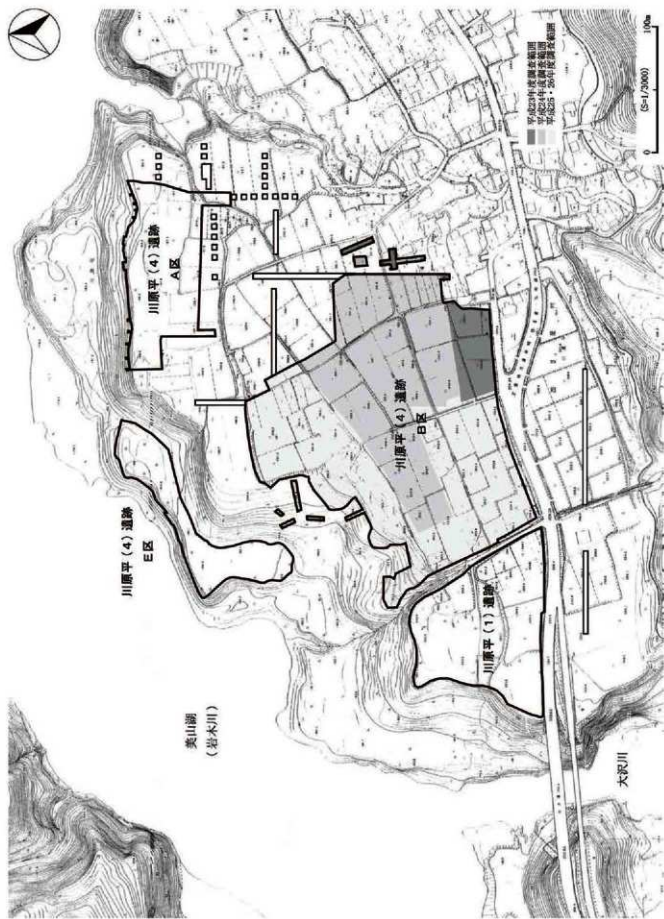


图1 調査区域図

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

津軽ダム建設事業に伴う発掘調査は平成15年度から着手している。川原平(4)遺跡については、平成15年度、同23年度から同26年度まで発掘調査を実施した。調査報告書は、これまで平成15・23・24年度調査分の3冊(第409・527・539集)を刊行しており、調査に至る経緯も記載済みである。

今回の報告書は一連の発掘調査の内、平成23年度から同26年度に実施したB区の発掘調査を対象としたものである。

第2節 調査の方法

1 発掘作業の方法

川原平(4)遺跡では遺跡範囲が広範囲にわたるため、平成15年度の調査に準じて、段丘面等を境界にA区・B区・E区に区別して発掘調査を実施した(図1)。B区では遺構の分布・密度等を確認するためのトレンチ調査を先行させながら、遺構が検出された付近を中心に調査を進めた。また、平成23・24年度に実施したA区・E区の発掘調査も踏まえつつ、主に縄文時代の遺構調査に重点をおいて集落の時期・構造等を把握できるような調査方法を採用した。

[測量基準点・水準点の設置及びグリッドの設定]

測量基準杭及び水準点は、平成23年度調査で測量業者に委託して設置した。この測量基準杭及び水準点は、平成15年度調査で使用していた日本測地系による測量基準から改めて、世界測地系による測量基準に即して設置したものである。測量原点には、測量業者のGPS測量機による4級基準点No.3-8(世界測地系 $X=58654.820$ ・ $Y=-51372.831$ ・ $Z=202.629m$)、No.3-5(世界測地系 $X=58679.756$ ・ $Y=-51221.442$ ・ $Z=201.849m$)を使用した。標高原点は上記4級基準点を基準とし、必要に応じて適宜原点移動して使用した。

グリッドは国土座標(世界測地系) $X=58200.000$ ・ $Y=-51700.000$ を基準点(IA-0グリッド)とした。グリッドは4m四方で設定し、南から北にローマ数字とアルファベット、西から東に算用数字を付けて、南西隅の組み合わせて呼称した。

[基本層序]

遺跡の基本層序については、表土から順にローマ数字を付けて呼称した。

[表土等の調査]

平成23年度のトレンチ調査で、表土は現代の水田等により広範囲に削平されていることが確認されたため、重機を併用して掘削の省力化を図った。出土遺物は、適宜地区単位でグリッド・層位毎に取り上げた。

[遺構の調査]

遺構には、原則として検出順に種類別の番号を付けて精査した。土層観察用の畔は、遺構の形態や大きさ等に応じて、基本的に4分割または2分割で設定したが、遺構の重複や付属施設の有無等により必要に応じて追加した。遺構内の堆積土層には、算用数字を付けて、ローマ数字を付けた基本土層と区別した。遺構の平面図は、主に株式会社CUBIC製「遺構実測支援システム」を用いてトータルステーションによる測量で作成した。遺構の堆積土層断面図や出土遺物の形状実測図等は、簡易造り方測量等で縮尺1/20・1/10の実測図を作成した。遺構内の出土遺物については、基本的に遺構単位で層位毎または堆積土層一括で取

り上げたが、必要に応じてトータルステーションや簡易遺り方測量により、縮尺 1/20・1/10 のドットマップ図・形状実測図等を作成した。

〔遺物包含層の調査〕

遺物包含層は上層から層位毎に人力で掘削した。出土遺物はグリッド・層位毎の取り上げを基本としたが、遺物が密集して出土した区域では、出土状況の写真撮影及びドットマップ図の作成を行った。

〔写真撮影〕

写真撮影には、原則として 35 mmモノクローム、35 mmカラーリバーサル各フィルム及び 1,790 万画素のデジタルカメラを併用し、発掘作業状況、土層堆積状況、遺構の検出・完掘状況等について記録した。

2 整理・報告書作成作業の方法

平成 23～26 年度の発掘調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡 27 棟、掘立柱建物跡 11 棟、土坑 296 基、土器埋設遺構 26 基、焼土遺構 3 基、ビット 578 基、また、時期の詳細が不明な炭竈跡と考えられる遺構 21 基が検出され、土器・石器等の遺物が 562 箱出土した。整理・報告書作成作業は、主に土坑や土器埋設遺構をはじめとする各遺構の構築時期や変遷、遺物包含層の形成過程等の検討に重点をおいて進めた。なお、調査区西端の遺物包含層については、隣接する川原平(1)遺跡で検出されている捨場からの連続性が認められたことから、出土遺物の一部を川原平(1)遺跡の整理・報告書刊行事業に含めている。

〔図面類の整理〕

遺構の平面図は主にトータルステーションによる測量で作成したので、整理作業ではこれを原則として縮尺 1/20 で図化し、簡易遺り方測量で作成した堆積土層断面図や付属施設の実測図等との図面修正を行った。また、遺構一覧表を作成して、発掘作業時の所見等を整理した。

〔写真類の整理〕

35 mmモノクロームフィルムは撮影順に整理してネガアルバムに収納し、35 mmカラーリバーサルフィルムは発掘作業状況、包含層遺物の出土状態、遺構毎の検出・精査状況等に整理してスライドファイルに収納した。デジタルカメラのデータは 35 mmカラーリバーサルフィルムと同様に整理してタイトルを付けた。

〔遺物の洗浄・注記と接合・復元〕

縄文時代の遺構内出土遺物及び包含層出土遺物を優先的に洗浄し、接合・復元作業を早期に進めるようにした。遺物の注記は、調査年度、遺跡名、出土区・遺構名、層位、取り上げ番号等を略記したが、剥片石器等の直接注記できないものは、収納したポリ袋に注記した。接合・復元にあたっては、接合台帳等を作成して同一個体の出土地点・出土層等を整理した。

〔報告書掲載遺物の選別〕

遺物全体の分類を行った上で、遺構に伴って使用・廃棄された資料、遺構の構築・廃絶時期を示す資料、遺存状態が良好で同類の中で代表的な資料、所属時期・型式・器種等の分かる資料等を主として選別した。

〔遺物の観察・図化〕

充分観察した上で、遺物の特徴を適切な表現で図化した。また、遺物観察表・計測表等を作成した。

〔遺物の写真撮影〕

業者に委託して行ったが、実測図等では表現しづらい質感・雰囲気・製作技法・文様表現等を伝えられるように留意した。

〔自然科学分析〕

竪穴住居跡や土坑等の年代を推定するための放射性炭素年代測定、土坑や土器埋設遺構から出土した顔料の原材料を推定するための赤色顔料分析、土坑の用途・機能・性格等を推定するためのリン・カルシウム分析、遺跡内から出土した黒曜石の産地を推定するための黒曜石産地同定分析、竪穴住居跡の構築部材等を推定するための樹種同定分析を行った。

〔遺構・遺物のトレース・版下作成〕

遺構・遺物の実測図やその他の挿図のトレースは、株式会社 CUBIC 製「トレースくん」を用いたデジタルトレースで行った。実測図版・写真図版の版下作成は、Adobe 社製 Creative Suite を用いて行った。

〔遺構の検討・分類・整理〕

遺構毎に種類・構造的特徴・出土遺物・他の遺構との新旧関係等に関する情報を整理し、構築時期や同時性・性格等について検討を加えた。

〔遺物の検討・分類・整理〕

遺物を時代・時期・種類毎に整理し、出土遺物全体の分類・器種構成・個体数等について検討した。

〔調査成果の検討〕

遺構・遺物の検討結果を踏まえて、縄文時代の集落の時期・構造・変遷等について整理・検討した。

第3節 調査の経過

1. 発掘作業の経過

本遺跡B区は平成23～26年度まで4カ年の発掘調査を実施した。平成23・24年度は、トレンチ調査を先行させて主に調査区東側の発掘調査を実施した。平成25・26年度は、主に調査区西側の発掘調査を実施した(図1)。各年度の発掘調査体制は、以下のとおりである。

調査主体 青森県埋蔵文化財調査センター

〔平成23年度〕

所長	松田 守正 (平成24年3月定年退職)
次長	成田 滋彦 (平成24年3月定年退職、現文化財保護主幹)
総務GM	木村 繁博 (平成24年3月定年退職)
調査第二GM	川口 潤 (現副参事)
総括主幹	笹森 一朗 (発掘調査担当者、現調査第三GM)
文化財保護主幹	新山 隆男 (発掘調査担当者)
文化財保護主査	平山 明寿 (発掘調査担当者)
文化財保護主事	岡本 洋 (発掘調査担当者、現文化財保護主査)

〔平成24年度〕

所長	柿崎 隆司
次長 (総務GM)	高橋 雅人
調査第二GM	川口 潤 (現副参事)
文化財保護主事	岡本 洋 (発掘調査担当者、現文化財保護主査)
文化財保護主事	最上 法盟 (発掘調査担当者)

〔平成 25 年度〕

所長	柿崎 隆司 (平成 27 年 3 月定年退職、現文化財保護課主幹専門員)
次長 (総務GM)	高橋 雅人
調査第三GM	白鳥 文雄 (平成 26 年 3 月定年退職)
文化財保護主幹	齋藤 岳 (発掘調査担当者、現総括主幹)
文化財保護主査	小山 浩平 (発掘調査担当者)
文化財保護主事	加藤 陸則 (発掘調査担当者)
文化財保護主事	最上 法聖 (発掘調査担当者)

〔平成 26 年度〕

所長	三上 盛一
次長 (総務GM)	高橋 雅人 (現中南教育事務所長)
調査第三GM	佐藤 一朗
文化財保護主幹	葛城 和徳 (発掘調査担当者、現文化財保護課文化財保護主幹)
文化財保護主査	小山 浩平 (発掘調査担当者)
文化財保護主査	秦 光次郎 (発掘調査担当者、現文化財保護主幹)
文化財保護主査	工藤 忍 (発掘調査担当者)
文化財保護主査	佐藤 智生 (発掘調査担当者)
文化財保護主事	最上 法聖 (発掘調査担当者)
文化財保護主事	永瀬 史人 (発掘調査担当者)

専門の事項に関する指導・助言

〔平成 23 年度〕

調査指導員	村越 潔	国立大学法人弘前大学名誉教授・故人 (考古学)
調査員	葛西 勲	前青森短期大学教授 (考古学)
調査員	上條 信彦	国立大学法人弘前大学人文学部講師 (考古学、現准教授)
調査員	柴 正敏	国立大学法人弘前大学大学院理工学研究科教授 (地質学)
調査員	島口 天	青森県立郷土館主任学芸主査 (地質学、現学芸主幹)

〔平成 24 年度〕

調査員	葛西 勲	前青森短期大学教授 (考古学)
調査員	関根 達人	国立大学法人弘前大学人文学部教授 (考古学)
調査員	山口 義伸	日本第四紀学会会員 (地質学)

〔平成 25 年度〕

調査員	藤沼 邦彦	前国立大学法人弘前大学教授 (考古学)
調査員	三浦 圭介	青森中央学院大学非常勤講師 (考古学)
調査員	福田 友之	青森県考古学会会長 (考古学)
調査員	上條 信彦	国立大学法人弘前大学人文学部准教授 (考古学)
調査員	柴 正敏	国立大学法人弘前大学大学院理工学研究科教授 (地質学)

調査員	佐々木辰雄	日本地質学会会員・故人	(地質学)
調査員	山口 義伸	日本第四紀学会会員	(地質学)
〔平成26年度〕			
調査員	藤沼 邦彦	前国立大学法人弘前大学教授	(考古学)
調査員	三浦 圭介	青森中央学院大学非常勤講師	(考古学)
調査員	福田 友之	青森県考古学会会長	(考古学)
調査員	上條 信彦	国立大学法人弘前大学人文学部准教授	(考古学)
調査員	柴 正敏	国立大学法人弘前大学大学院理工学研究科教授	(地質学)
調査員	山口 義伸	日本第四紀学会会員	(地質学)

発掘作業の経過、業務委託状況等は以下のとおりである。

〔平成23年度〕

- 5月11日 調査器材等の搬入、調査区周辺の環境整備後、グリッドを設定して調査を開始した。
- 5月中旬 遺構の広がり等を把握するためのトレンチ調査を実施した。表土から地山面までの地層土は薄く、現代の水田及び畑作等により広範囲に削平されていることを確認した。また、遺構は主に調査区北側で検出され、南側では希薄であることを確認した。
- 5月下旬 検出遺構の一部について精査を行った。
- 6月～ 川原平(4)遺跡A区・E区及び川原平(1)遺跡の発掘調査に人員を投入した。
- 7月1日～ 配管工事に伴い調査区南東側の発掘調査を開始した。
- 7月13日 完掘後の全景写真を撮影し、調査区南東側の調査を終了した。

〔平成24年度〕

- 5月8日 調査器材等の搬入、調査区周辺の環境整備を行った。
- 5月11日 重機による表土掘削と併行して調査区東側の遺構検出を開始した。
- 5月16日～ 遺構精査を開始した。縄文時代晩期後葉の土坑群を検出し、精査を進めた。複数基がまとまって分布する状況を確認した。
- 6月22日 調査区東側の完掘後の全景写真撮影を行った。
- 6月27日 調査区東側の調査を終了した。
- 7月10日～ 調査区西側の掘削及び遺構検出を開始した。
- 7月中旬～ 縄文時代晩期の土器埋設遺構群を検出し、精査を進めた。
- 9月14日 株式会社シン技術コンサルに委託して、調査区西側の空中写真撮影を行った。
- 9月28日 当年度調査予定範囲の発掘調査を終了した。

〔平成25年度〕

- 5月7日 調査器材等の搬入、調査区周辺の環境整備を行った。
- 5月中旬～ 調査区南西側の遺構検出・精査を開始した。縄文時代中期後葉の堅穴住居跡・土坑等を検出し、精査を進めた。
- 5月下旬～ 調査区南西側の調査と併行し、北西側の調査を開始した。
- 6月下旬 調査区北西側で縄文時代晩期の土坑墓と考えられる楕円形土坑がまとめて検出された。

この内の一部を精査し、ヒスイ製の玉類が出土した。

6月27日 調査区南西側の調査を終了した。

9月6日 調査区北西側については、次年度調査に向けて遺構の養生等を行い、当年度調査予定範囲の発掘調査を終了した。

[平成26年度]

5月1日 調査器材等の搬入、調査区周辺の環境整備を行った。

5月上旬～ 前年度調査において楕円形土坑が検出された調査区北西側を中心に調査を開始した。楕円形土坑は多数に上ることが判明し、精査を進めた。また、楕円形土坑の分布域に近接して新たに柱穴群を検出し、掘立柱建物跡等の可能性を考慮しながら精査を進めた。

5月下旬～ 調査区北側の台地縁辺部において縄文時代中期の竪穴住居跡等を検出し、精査を進めた。

6月下旬 楕円形土坑から赤色顔料の検出事例が確認された。

7月3日 株式会社シン技術コンサルに委託して、1回目の空中写真撮影を行った。

9月中旬 楕円形土坑から緑色凝灰岩製の玉類が出土した。楕円形土坑群の全体像が徐々に明らかになってきた。

9月27日 川原平(1)遺跡と合同で現地見学会を開催した。

9月下旬～ 調査区北西端の斜面部の調査を開始した。多量の遺物が出土し、川原平(1)遺跡の捨場の一部であることが判明した。

11月5日 株式会社シン技術コンサルに委託して、2回目の空中写真撮影を行った。

11月14日 本遺跡の発掘調査を全て終了した。

2 整理・報告書作成作業の経過

整理・報告書作成作業は平成24～27年度の4年で行った。平成24年度は写真類及び遺構図面の整理作業、平成25年度は出土遺物の計量、分類、接合等の基礎整理作業を行った。平成26年度からは本格的に整理・報告書作成作業を開始し、平成23～25年度調査分の遺構図面修正、遺物実測、図版作成等を行った。平成27年度は平成26年度調査分の遺構図面修正、遺物実測等を経て報告書編集作業を行った。

整理・報告書作成体制は、以下のとおりである。

整理主体 青森県埋蔵文化財調査センター

[平成24年度]	総括主幹	笹森 一朗 (現調査第三GM)
	文化財保護主事	岡本 洋 (現文化財保護主査)
[平成25年度]	文化財保護主査	岡本 洋
	文化財保護主事	最上 法聖 (報告書作成担当者)
[平成26年度]	文化財保護主査	小山 浩平 (報告書作成担当者)
	文化財保護主事	最上 法聖 (報告書作成担当者)
[平成27年度]	文化財保護主幹	秦 光次郎 (報告書作成担当者)
	文化財保護主査	小山 浩平 (報告書作成担当者)
	文化財保護主査	工藤 忍 (報告書作成担当者)
	文化財保護主事	最上 法聖 (報告書作成担当者)

整理・報告書作成作業の経過、業務委託状況等は、以下のとおりである。

[平成24年度]

12月中旬～ 赤色顔料分析を株式会社バレオ・ラボに委託した。調査写真・図面類の整理を行った。

[平成25年度]

4月上旬～ 平成23・24年度調査分の遺物を対象に計量及び分類作業を行った。

5月上旬～ 遺物の接合・復元作業を行った。

[平成26年度]

4月上旬～ 平成25年度調査分の遺物を対象に計量及び分類作業を行った。平成23～25年度調査分の遺構図面の修正作業等を開始した。

6月上旬～ 遺物の接合・復元作業を行った。報告書掲載遺物の選別作業を開始した。

7月中旬～ 報告書掲載遺物の実測・拓本等の図化作業を行った。

8月～ 樹種同定分析と放射性炭素年代測定を株式会社バレオ・ラボに委託した。

10月上旬～ 剥片石器の実測図作成を株式会社アルカに委託した。シルバーフォトに委託して土器の写真撮影を行った。

12月下旬～ 報告書掲載遺物のトレース作業を行った。併せて遺物観察表の作成を開始した。

1月下旬～ 遺構実測図のトレース作業を開始した。

2月上旬～ フォトショップいなみに委託して石器の写真撮影を行った。仮図版、仮写真図版、粗原稿の作成を開始した。

3月上旬～ 洗浄・注記作業が済んだ平成26年度調査分の土器について一部計量作業を行った。

[平成27年度]

4月上旬～ 平成26年度調査分の遺物を対象に計量及び分類作業を行った。

5月中旬～ 遺物の接合・復元作業を行った。平成26年度調査分の遺構の図面修正及びトレース作業を開始した。モザイク写真作成を株式会社シン技術コンサルに委託した。

7月下旬～ 赤色顔料分析を株式会社バレオ・ラボに委託した。

8月上旬～ 土器の実測・拓本等の図化作業を行った。フォトショップいなみに委託して剥片石器の写真撮影を行った。リン・カルシウム分析を株式会社バレオ・ラボに委託した。

8月下旬～ 剥片石器の実測図作成を株式会社ラングに委託した。

9月～ 土製品・石製品の実測図作成を行った。土器付着炭化物の放射性炭素年代測定を株式会社加速器分析研究所に委託した。黒曜石産地同定分析を株式会社アルカに委託した。

10月～ 報告書掲載遺物のトレース作業、図版の作成作業を行った。シルバーフォトに委託して土器の写真撮影を行った。

12月～ 原稿・版下等を揃え、報告書の割付・編集を行い、印刷業者を入札・選定して入稿した。

1月～ シルバーフォトに委託して遺物集合写真の撮影を行った。

3月25日 3回の校正を経て報告書を刊行した。

3月下旬 記録類・出土品を整理して収納した。

(笹森・最上)

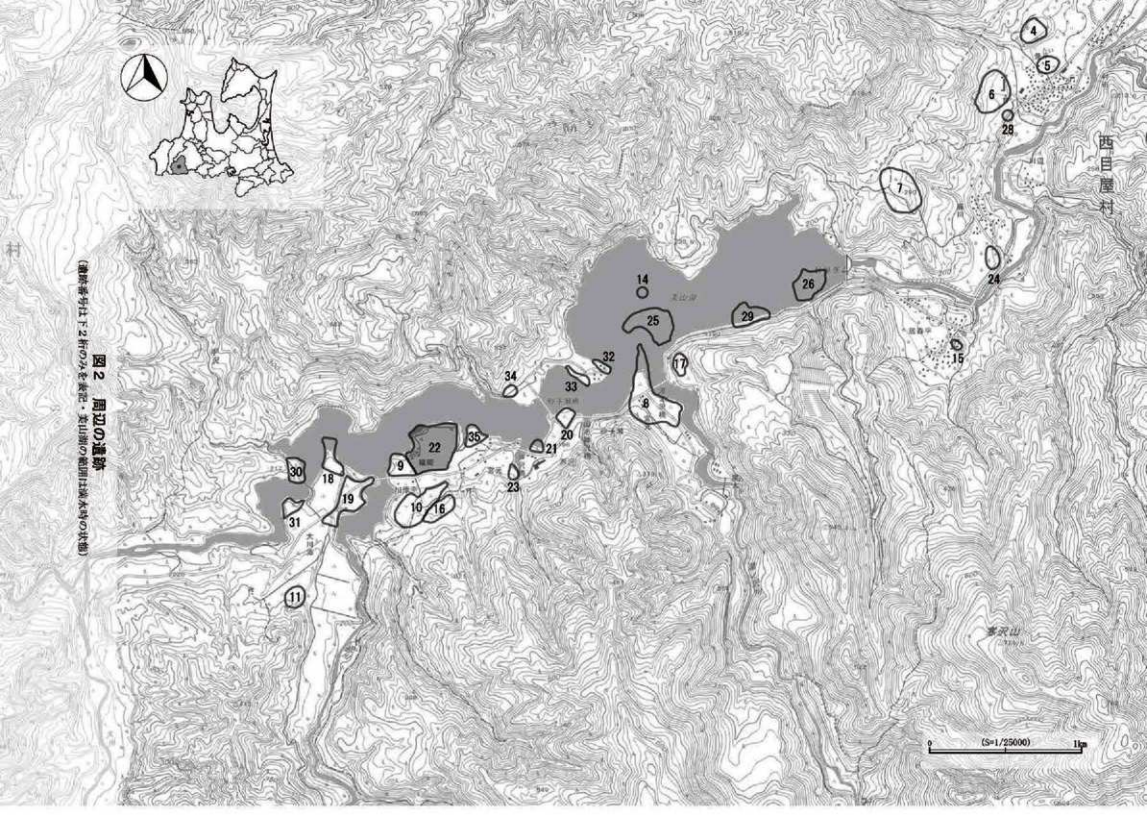


図2 周辺の遺跡
 (遺跡番号は下2桁のみを表記・火山湖の範囲は淡水湖の範囲)

(S=1/25000) 11

第2章 遺跡の概要

第1節 遺跡の位置と周辺の遺跡

本遺跡は、岩木川上流域にあたる中津軽郡西目屋村川原平宇福岡地内に所在し、岩木川とその支流である大沢川との合流点付近に位置する。本遺跡は岩木川右岸の河岸段丘上にあり、B区は標高202m前後の段丘面に位置する。この段丘面の広がり、B区西側に隣接する川原平(1)遺跡でも連続して認められる。なお、B区北側のA区は一段低い標高198mの段丘縁部、A区北東側のE区は更に一段低い標高185mの段丘面に相当する。本遺跡周辺は、近年まで主に水田として利用されていた。

西目屋村では、平成27年8月時点で35遺跡が確認されている。この内、本遺跡が所在する美山湖周辺の29遺跡の位置を図2に示す。昨今の津軽ダム建設事業に伴う発掘調査によって多くの知見が得られつつあり、以下、大まかな時代別に周辺遺跡を概観する。

美山湖周辺では縄文時代草創期以降の生活痕跡が確認されており、隆起線土器や尖頭器等が出土した鬼川辺(1)遺跡、縄文時代早期・前期前葉の土器やトランシエ様式土器が出土した本遺跡E区が知られる。この他、縄文時代早期あるいは前期前葉の遺物は大川添(3)遺跡、大川添(4)遺跡、水上(3)遺跡でも少量出土している。

縄文時代前期末葉以降になると集落形成が活発化したものと思われる。水上(2)遺跡は主に縄文時代前期末葉から後期初頭にかけての大規模な集落跡と考えられ、報告書作成作業を継続中である。この他、縄文時代中期末葉から後期初頭頃の堅穴住居跡等が本遺跡A区、鬼川辺(2)遺跡、大川添(4)遺跡等で検出されている。出土遺物で注目されるのは、大川添(3)遺跡から出土した赤色顔料入りの鳥形土器である。鳥形土器にはキノコ形土製品が蓋として使用されており、貴重な出土事例といえる。また、本遺跡A区からは縄文時代後期初頭の門前式との関連が指摘される土器が出土している。

表1 遺跡地名表(平成27年8月現在)

遺跡番号	遺跡名	7桁+	所在地 (西目屋村)	時代	種別	瓦線 (3桁数字は吉備側No.)
343004	村山	5774	村山字稲藪	中世	散布地	
343006	稲藪(1)	5774-0001F	村山字稲藪	縄文(後)	散布地	
343006	稲藪(2)	5774-0002	村山字稲藪	平安	散布地	
343007	丹波	7272	藤川字瀬の上	縄文(後)	散布地	
343008	砂子瀬	5274	砂子瀬字宮元	縄文(中・後・晩)	集落跡	466・482・815・813
343009	川原平(1)	5774-0001F	川原平字福岡	縄文(後・晩)	散布地	489
343010	川原平(2)	5774-0002	川原平字福岡	縄文(後)	散布地	
343011	鳩山	5774	川原平字大田跡	縄文	散布地	
343014	砂子瀬村元	5774-0001	砂子瀬村元	縄文(中)	散布地	額田1986
343015	赤沢	5774	居森平字赤沢	縄文	散布地	
343016	川原平(3)	5774-0003	川原平字福岡	縄文	散布地	
343017	水上(1)	5274-0001F	砂子瀬字水上、宮元	縄文(中・後)	集落跡	619・532
343018	大川添(1)	5774-0001F	川原平字大田跡	縄文(中)	散布地	260
343019	大川添(2)	5774-0002	川原平字大田跡	縄文	散布地	499・482・815
343020	丹波(1)	7272-0001F	砂子瀬字丹波	縄文	散布地	500
343021	丹波(2)	7272-0002	砂子瀬字丹波	縄文	散布地	540
343022	川原平(4)	5774-0004	川原平字福岡	縄文(中・後)	散布地	409・527・639
343023	川原平(5)	5774-0005	川原平字宮元、平安	縄文	散布地	
343024	瀬の上	5774	藤川字瀬の上	縄文(後・晩)	散布地	
343025	水上(2)	5274-0002	砂子瀬字水上	縄文(中)	散布地	814・528
343026	水上(3)	5274-0003	砂子瀬字水上	縄文(中)	散布地	466・528
343029	稲藪(3)	5774-0003	村山字稲藪	平安	散布地	
343029	水上(4)	5274-0004	砂子瀬字水上	縄文(後・晩)	散布地	466・500
343030	大川添(3)	5774-0003	川原平字大田跡	縄文	散布地	511
343031	大川添(4)	5774-0004	川原平字大田跡	縄文	散布地	512
343032	鬼川辺(1)	5774-0001F	砂子瀬字福岡	縄文	散布地	511
343033	鬼川辺(2)	5774-0002	砂子瀬字福岡	縄文	散布地	511
343034	鬼川辺(3)	5774-0003	砂子瀬字福岡	縄文	散布地	511
343035	川原平(6)	5774-0006	川原平字宮元	縄文(後)、平安	集落跡	

縄文時代後期には、砂子瀬遺跡の環状に分布する掘立柱建物跡群が注目される。この他、水上(1)遺跡、芦沢(2)遺跡、本遺跡E区等では縄文時代後期後葉頃の竪穴住居跡・土坑等が検出されている。

縄文時代後期後葉から晩期には、盛土遺構や捨場等をはじめとする多量の遺物・遺構が発見された川原平(1)遺跡が注目され、報告書作成作業を継続中である。主に縄文時代晩期の集落構造を考える上で、本遺跡B区と一体の遺跡として位置づけ、両遺跡の総体的な検討を要する。

弥生時代以降は縄文時代と比較して生活痕跡が希薄となる。古代以降では、大川添(3)遺跡で平安時代の竪穴住居跡や土師器等が発見されている。平安時代の遺物は鬼川辺(3)遺跡、大川添(4)遺跡等でも少量出土している。また、本遺跡も含め、鬼川辺(1)遺跡、大川添(2)遺跡等では炭窯跡と考えられる遺構が検出されており、時期は不明な点も多いが、放射性炭素年代測定の結果から中世以降のものと考えられる。

第2節 遺構の概要

本遺跡B区からは、縄文時代の竪穴住居跡 27棟、掘立柱建物跡 11棟、土坑 296基、土器埋設遺構 26基、焼土遺構 3基、ピット 578基、また、時期の詳細が不明な炭窯跡と考えられる遺構 21基が検出された。各遺構の概要・分類基準等は以下のとおりである。

〔竪穴住居跡〕 竪穴状の掘り込み、柱穴、壁周溝、炉、貼床、硬化面等のいずれかの組み合わせで構成されるものを認定の基準とした。そのため、竪穴状の掘り込みを有していたか不明なものも含まれる。縄文時代中期のものを主体として、縄文時代晩期のものも少数認められる。

〔掘立柱建物跡〕 柱穴の配置・規模・底面標高値等を検討した上で抽出した。詳細な時期が不明なものもあるが、縄文時代後期から晩期にかけてのものが認められる。

〔土坑〕 縄文時代中期から晩期のものが主体である。分布や平面形から以下のように分類した。

A群：調査区東側の極めて集中的にまとまった分布を示す一群(VK~R-96~106グリッド)。

B I群：A群以外の土坑の内、開口部の長短軸比が1：0.83未満の平面形が楕円形に近いもの。また、遺構の重複や攪乱等により長短軸の計測が困難な場合でも、残存する平面形から楕円形と推測されるものや、出土遺物等から土坑と認定し得るものを含む。

B II群：A群以外の土坑の内、開口部の長短軸比が1：0.83以上の平面形が円形に近いもの。

〔土器埋設遺構〕 掘方が確認できないものを含む。縄文時代晩期を主体とし、縄文時代中期のものも認められる。特に縄文時代晩期のは、楕円形土坑(B I群土坑)群の付近にまとまって分布する。〔焼土遺構〕 周辺に柱穴等の遺構がみられず、ほぼ単独で分布する焼土遺構。焼土・被熱が認められないものでも、石囲炉等の炉跡としての形態を有するものを含む。

〔ピット〕 柱穴と考えられるものを一括したが、土坑との違いを示す明確な基準は設けていない。整理作業時に、竪穴住居跡や掘立柱建物跡に帰属させたものがある。

〔炭窯跡〕 土坑状の掘り込みを有し、堆積土中に炭化物を多量に含むもので、底面から壁面にかけて被熱するものが多い。発掘調査時に土坑として精査し、遺構名の振り替えは行ってないため、土坑の名称を残したままであるが、第3章第3節の土坑と別項立て、同章第7節で扱うものとする。

第3節 出土遺物の分類

1 土器

土器の分類を表2に示す。縄文時代前期から晩期の土器が出土した。主体を占める縄文時代晩期後葉の土器は、器種・器形・文様等で細別した(第3章第8節参照)。器種は、復元個体が極めて少なく、明確な分類が困難なものも多いが、深鉢形、鉢形・台付鉢、浅鉢形・台付浅鉢、壺形、注口土器、小型土器に区分した。鉢系統は、口径1に対して器高の比が1以上のものを深鉢形、0.5以上1未満のものを鉢形、0.5未満のものを浅鉢形とした。破片資料で厳密な器種区分が困難なものは、器形・文様等から判断したものもある。小型土器は、底径・器高5cm以下を目安とした。楕円形土坑(B1群土坑)の出土土器については、小破片でも極力図化した。

表2 土器の分類

群別	類別	分類基準・特記事項	群別	類別	分類基準・特記事項
I群 縄文前期		前期後葉の円筒下層d1式。	IV群 縄文後期前期	A類	大碗B式。
				B類	大碗C式。
II群 縄文中期	A類	中期中葉の円筒上層c1式。	V群 縄文後期中葉	A類	大碗C1式。
	B類	中期中葉の円筒上層d1式。		B類	大碗C2式。
	C類	中期中葉の太本b1式。	VI群 縄文後期後葉		大碗A式・大碗A'式。類別は第3章第8節。
	D類	中期中葉の円筒上層c1式。		VII群 縄文後期	A類
	E類	空行・赤塗等の口縁部残帯をもつ一群。	B類		縄文縄文のみ・短文の一類。
	F類	中期後葉の覆鉢式。			
	G類	中期後葉の太本b2式。			
	H類	中期後葉の短筒式。			
	I類	縄文縄文のみ・条痕・短文の一類。			
	III群 縄文後期	A類	後期初期の平ヶ沢(S)式。		
B類		後期前期の十勝内I式。			
C1類		後期後葉の十勝内V群。			
C2類		站部・列目特徴とする後期後葉の一群。			
C3類		後期末葉の十勝内VI群。			

2 石器

石鏃：尖端部が作出されている刺突具で、基本的に長さ50mm以下のものとした。基準値以外のものも若干数あるが、これらのものは、形態から判断して本器種に含めた。基部形態から以下に分けた。なお、規模や形態は製品に近いが、尖端部が作出されていないと思われるものは未製品とした。

I類—無茎鏃：a 凹基、b 平基、c 円基、d 尖基

II類—有茎鏃：a 茎部の長さが鏃身と同じか、それよりも長いもの。

b 茎部の長さが鏃身よりも短いもの。

石槍：形態分類できるほどの出土点数がないことから、尖端部の作出状況により以下に分けた。

I類—尖端部が作出されているもので、製品と考えられるもの。

II類—形状は製品に近いが、尖端部の作りが弱いもの。 III類—破損品

両面調整石器：両面調整が施された石器で、大きさや調整の度合いにより以下に分けた。

I類—石槍・石鏃の素材段階にあると考えられるもの、小型石槍及び石槍の可能性もある破損品も含めた。

II類—I類よりも規模が大きく、剥離の形成度合いもI類よりも粗く大きいもの。石筥・打製石斧等の素材になり得るものと考えられるもの。

石筥：長方形ないしは楕円形をした器形で、端部に加工を施し刃部が作出されているもの。

石匙：つまみ状突起を有する削器類。刃部に対するつまみの作出位置から以下に分けた。

I類—縦型 II類—斜型 III類—横型 IV類—未製品

石鏝：穿孔を目的として用いられたと考えられるもの。形態から以下に分けた。

I類一つまみ部と細身の錐部があるもので、錐部の長さがつまみ部と同じか、それよりも長いもの。

II類一つまみ部と錐部に分かれるが、錐部の長さが、つまみ部よりも短いもの。

III類一つまみ部がない棒状のもの。また明瞭なつまみ部を確認できないものも含む。

楔形石器：方形ないしは長方形状で、上下両端部に階段状剥離が認められるもの。

両極剥片：両極技法により打割された剥片。

挟み撃ち痕のある剥片：剥片に両極打撃痕がある剥片。

スクレイパー類：1側縁の1/2以上に連続する剥離が施され、刃部が形成されているもの。

石核：剥片を剥離した残りの素材。出土点数が多く、多様な割れ方をしており細分しきれなかったが、

両極技法が用いられた石核については、両極石核として抽出した。

微細剥離痕のある剥片：側縁の1/2以上に連続する微細剥離痕が認められるものを本類とした。

二次加工剥片(R・f)：石器としては認定できないが、加工痕がある剥片を本類とした。

剥片：使用痕跡や加工痕跡が認められないものを本類とした。

打製石斧：長方形・楕円形などの形状に整形され、端部の稜線上にツブレ等の痕跡が確認できるもの。

トランシュ様石器：直刃斧とも言われ、刃部に原礫面ないしは礫面に近い面を残しているもの。

磨製石斧：器面を研磨して作られた石斧。

敲き石：敲打痕があるもの。珪質頁岩の原礫に敲打痕の認められるものも本類に含めた。

凹み石：凹み痕があるもの。凹み痕と敲打痕が混在しているものは凹みを優先させて本類とした。

敲き・磨り石：敲打痕、凹み痕、磨り痕の複合機能が認められるもの。

磨り石：器面及び側縁に磨り痕が認められるもの。

北海道式石冠：側縁に磨り痕、器面に帯状の敲打痕が認められるもの。

礫器：剥離加工が施され、稜縁上にツブレの痕跡が認められるもの。

石鏢：素材の軸線上に剥離加工が施されているもの(I類)。他器種からの転用品も本類に含めた(II類)。

加工礫：剥離加工が施されているが、使用痕跡の認められないもの。

石皿・台石：有縁のものを石皿とし、台石は大型の礫で器面に磨り痕が認められるものとした。

3 土製品・石製品

土製品・石製品の分類を表3に示す。表3に該当しないものは、不明土製品、不明石製品とした。

表3 土製品・石製品の分類

区分		分類基準・特記事項
土製品	土俵	
	塵状土製品	中心部に内径の大きな貫通孔をもつもの。
	有孔土製品	平頭部に貫通孔が施されているもの。
	蓋形土製品	
石製品	土器片加工円盤	土器片の周縁を打ち欠くなどし、円盤状に加工されているもの。
	岩盤	楕円長方形ないしは楕円形の扁平な形態で、縁割が施されているもの。
	磨り礫	形状と形態の異なる自然礫に、縁割が施されているもの。
	石冠	下面が平面で、断面が三角形に加工されたもの。
	隠貼石	中央付近に狭り部を有し、端部が先細りとなるもの。未成品を含む。
	石棒	石棒、石錐、石刀を一括した。
	楕円石製品	中心部に内径の大きな貫通孔をもつもの。
	有孔石製品	径3cm前後のもので穿孔されているもの。
	玉環	ヒスイ及び緑色凝灰岩等を素材とし、穿孔されているもの。穿孔途中の未成品を含む。
	円盤状石製品	扁平な礫の周縁を打ち欠くなどし、円盤状に加工されているもの。

4 その他

土師器、陶器、磁器、銭貨、煙管等が出土しており、必要に応じて本文中で細別した。

第4節 地形と地質

国立大学法人 弘前大学大学院理工学研究科

柴 正敏

1 地形と地質

川原平(4)遺跡及びその周辺を構成する地形は、「山地」、「火山山地」、「台地」及び「低地」である。例として、山地は白神山地、火山山地は岩木山、台地は、本遺跡が立地する川原平台地、低地は赤石川流域の赤石川低地を挙げることができる。川原平台地は、砂礫層からなり、その標高、現河床からの比高、開折の程度の相違から、上位面と下位面に区別できる。

本地域の地質は、「先第三系」、「第三系」及び「第四系」からなる。

「先第三系」は、菱峯山や白神岳を構成する花崗岩類及び長慶平周辺に分布する堆積岩類（チャートや粘板岩等）からなる。

本地域に分布する「第三系」は、下位より「藤倉川層」(Kt)、「砂子瀬層」(Tt, Tm)、「大童子層」(Od) 及び「赤石層」(Am) である(図1)。「藤倉川層」(Kt) は、低温変成作用(グリーンタフ変成作用)を被り、緑色を呈する安山岩質火砕岩類よりなる。「砂子瀬層」(Tt 及び Tm) は、暗灰緑色の流紋岩質凝灰岩(Tt)、砂質シルト岩(Tm)よりなる。「大童子層」(Od) は、主に珪質泥岩、「赤石層」(Am) は、主に暗灰色の板状泥岩よりなる。これら「第三系」の走向・傾斜は、おおむね N45° ~ 50° E、10° ~ 50° N であり、北西部に向かって、より新しい地層が分布することになる。

本地域に分布する「第四系」は、「高位河岸段丘堆積物」(Sg1)、「低位河岸段丘堆積物」(Sg2) 及び「地すべり堆積物」(Mg) よりなる。

2 石材と地質

本遺跡から縄文時代晩期の土坑墓と考えられる楕円形土坑が多数検出された。楕円形土坑の内部からは、赤色顔料、緑色凝灰岩製やヒスイ製の玉類が出土した。これら石材と遺跡周辺の地質との関係を検討する。

赤色顔料の原料と考えられる、赤鉄鉱で鉱染された泥岩が遺跡内に多数出土した。ベンガラ原料の赤鉄鉱で鉱染された泥岩の産地として著名なのは、今別町・赤根沢である。赤根沢の露頭は、中期中新世後期～後期中新世前期の鉱染された小治層の泥岩よりなる。本岩石と同時代で同様な岩相を示す岩石は、本遺跡周辺に広く分布する「大童子層」(Od) 及び「赤石層」(Am) の泥岩がある。

緑色凝灰岩製の玉類の石材の産地については、その変質作用から推察できる。玉の淡青緑色の部分は、変質作用により、粘土鉱物である「スメクタイト」が形成されている。スメクタイトを含む淡緑色凝灰岩は、砂子瀬層の流紋岩質凝灰岩(Tt) 中にみいだすことができる。これら凝灰岩(Tt) は、本遺跡の周辺に広く分布する(図1)。

参考文献

青森県農林水産部農村整備課(2004)、土地分類基本調査 川原平、pp. 35.

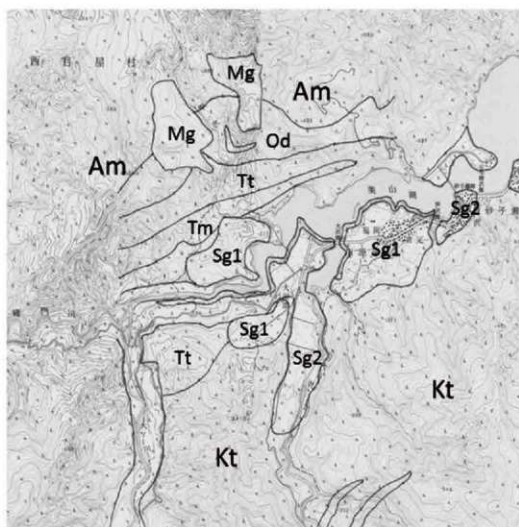


図1 川原平(4)遺跡周辺の地層分布図

Am: 赤石層、Kt: 藤倉川層、Mg: 地すべり堆積物、Od: 大童子層、
Sg1: 段丘堆積物(高位)、Sg2: 段丘堆積物(低位)、Tm、Tt: 砂子瀬層

第5節 基本層序

B区の基本層序の層番号については、第409集における所見を基本的に引き継ぐものの、発掘調査の過程で一部改変した部分もある。また、A区・E区の基本層序の層番号（第527・539集）と対応するものではない。土層図を図3、土層図作成地点を図4に示した。

基本層序は、地点によって土色等の若干の差異は認められるものの、以下のように概略される。

〔第Ⅰ層：黒褐色土〕表土。ほとんどの地点で、表土直下が水田耕作土である。表土と水田耕作土は分層せず一括した。調査区北西側の斜面には、水田造成に伴うものと思われる削平土が堆積する（基本層序④・⑤）。第409集のⅠ層、Ⅱ層に相当する。

〔第Ⅱ層：暗褐色土〕遺物包含層。縄文時代から古代にかけての遺物が出土している。地点によって多量の遺物を包含する黒褐色土が認められ、第Ⅱa層とした。調査区内で確認された第Ⅱa層の範囲は、極めて限定的で、川原平(1)遺跡と接する調査区西端をA地点、調査区中央西寄りなB地点とした(図4)。A地点では、土色や混入物等の差異によって第Ⅱa層をさらに細分した。第409集のⅢ層に相当する。

〔第Ⅲ層：褐色粘質土〕地山に相当する。

〔第Ⅳ層：褐色砂〕砂礫層。地点によって細分され、より黒味を帯びた上層を第Ⅳa層とした（基本層序②）。

〔第Ⅴ層：褐色砂質土〕

〔第Ⅵ層：黄褐色砂〕砂礫層。

本遺跡では、現代の水田耕作等により、広範囲にわたって削平されている。そのため、地点によっては第Ⅱ層を欠く。遺構の多くは第Ⅲ・Ⅳ層で確認したが、第Ⅱ層中で確認されたものもある。

第Ⅱa層の形成時期については、A地点が縄文時代後期後葉から晩期にかけて、B地点が縄文時代晩期後葉と考えられる。第Ⅱ層と第Ⅱa層の上下関係については、第Ⅱa層が第Ⅱ層の上位に堆積している状況を確認した（B地点基本層序）。ただし、第Ⅱa層の上部は水田耕作による削平を受ける。上述したように、第Ⅱ層が縄文時代から古代の遺物を包含する点を踏まえると、第Ⅱa層の上部には、「縄文時代晩期後葉以降に形成された第Ⅱ層」が存在していたものと解釈される。

調査区内は、全体的に平坦な地形であるが、調査区北西側の台地縁辺部で小規模な沢を検出している（基本層序⑤第1・2層）。縄文時代中期後葉から晩期後葉の遺物を含む。出土遺物から縄文時代晩期後葉以降に埋没したものと考えられる。また、調査区東側の土坑群（A群土坑）と調査区西側の楕円形土坑群（B1群土坑）の間には、沢状に浅く落ち込む地形がみられ、北東に向かって緩傾斜する。縄文時代晩期中葉から晩期後葉の遺物を含む。

調査区北側の斜面部には、少数の遺構の分布と遺物包含層の広がり認められたが、遺物の出土状況からみても、斜面捨場の様相を示すものではなかった（基本層序⑥）。一方、A地点南側及び調査区北西端では、特に多量の遺物が出土した。川原平(1)遺跡との境界は大正期の道路により開削されているものの、川原平(1)遺跡で検出されている捨場からの連続性が高いものと思われる。

(最上)

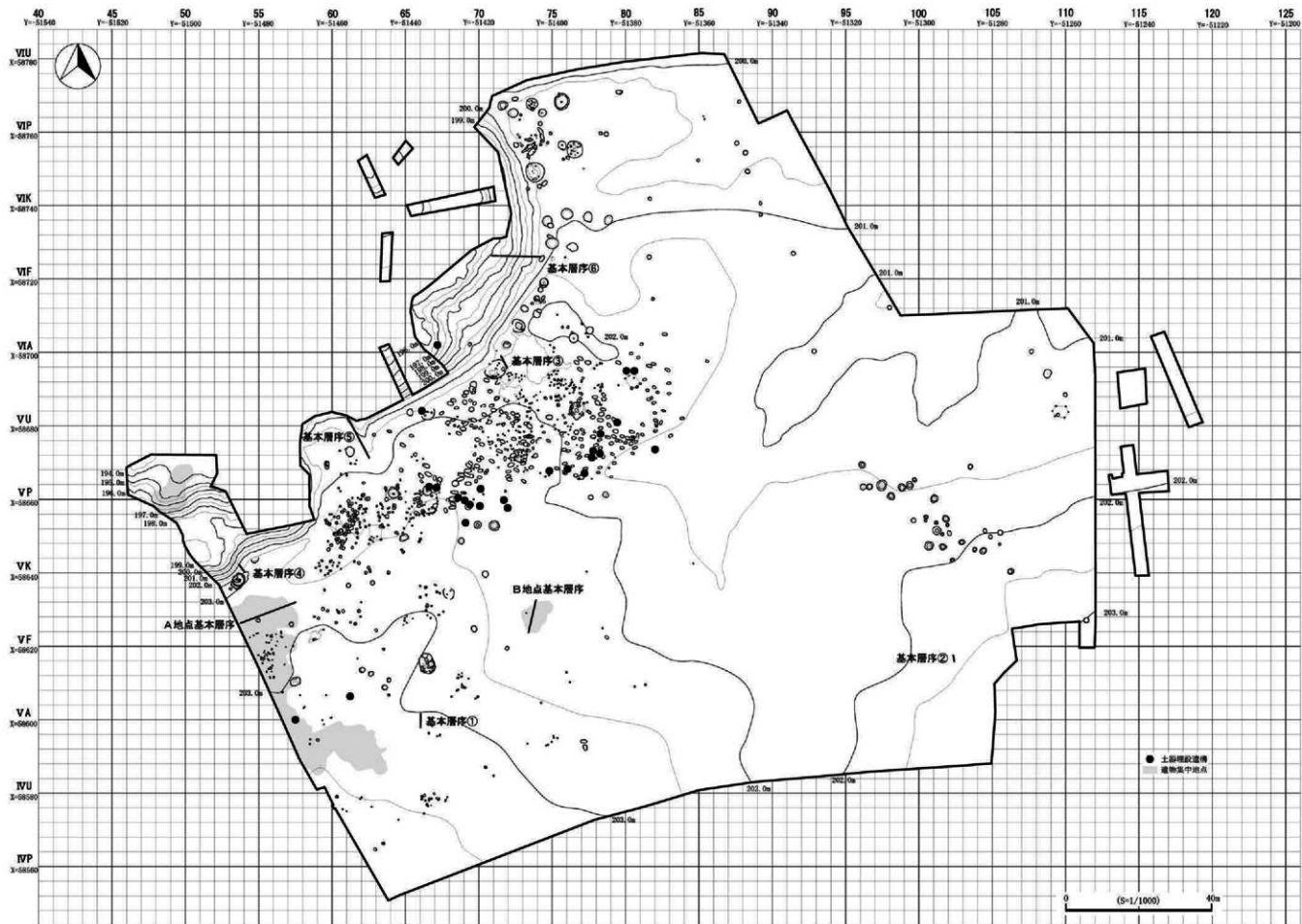


图 4 B区全体图

第3章 検出遺構と出土遺物

本遺跡B区からは、縄文時代の竪穴住居跡 27 棟、掘立柱建物跡 11 棟、土坑 296 基、土器埋設遺構 26 基、焼土遺構 3 基、ピット 578 基、また、時期の詳細が不明な炭炭跡と考えられる遺構 21 基が検出された。

各遺構の配置は、縮尺 1/300 の分割図により示した (図 6~12)。ピットについては他の遺構と異なり、4桁の遺構番号を使用しているため、「BPit」の略号を省略した。また、各種遺構が密に分布する地点 (図 7)、及び掘立柱建物跡が集中し、周囲にピットが密に分布する地点 (図 10) における一部ピットの配置については、本章第 6 節において縮尺 1/100 の図 119~123 に示した。遺構の分布についての概略は、以下のとおりである。

竪穴住居跡は、台地縁辺部を中心に分布する。掘立柱建物跡は、調査区北西側に集中し、ピットの集中域と一部重なりを示す。土坑は、楕円形土坑群 (B I 群土坑) が調査区北西側、円形土坑群 (A 群土坑) が調査区東側、縄文時代中期の大型の土坑 (B II 群土坑の一部) が調査区北側の台地縁辺部を中心に分布する。土器埋設遺構は、楕円形土坑群の分布と概ね重なる。

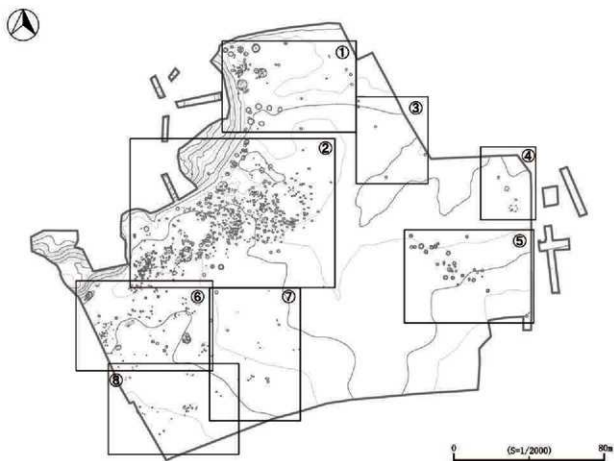


図 5 遺構配置分割図

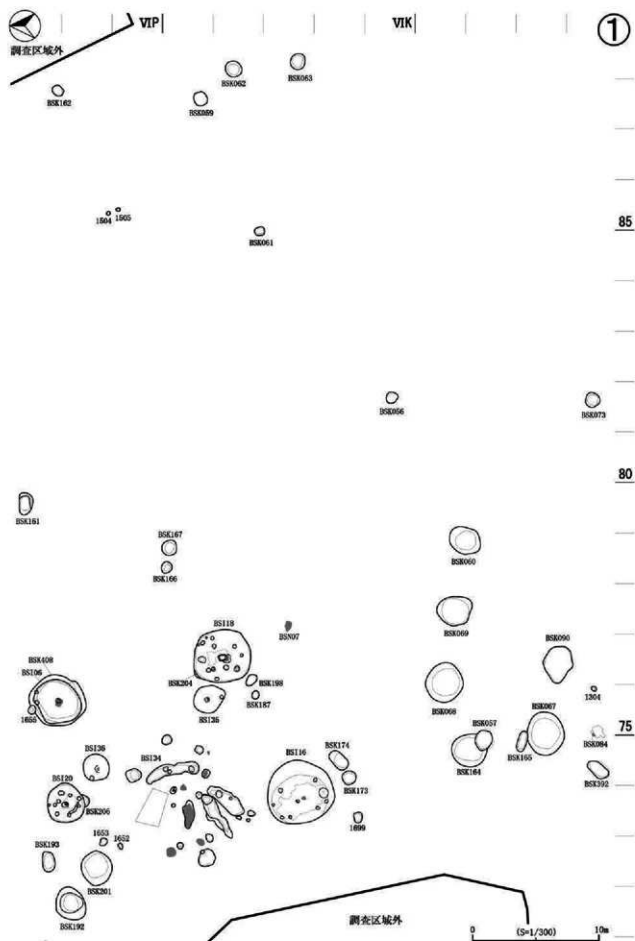


図6 遺構配置図(1)



西友区域外

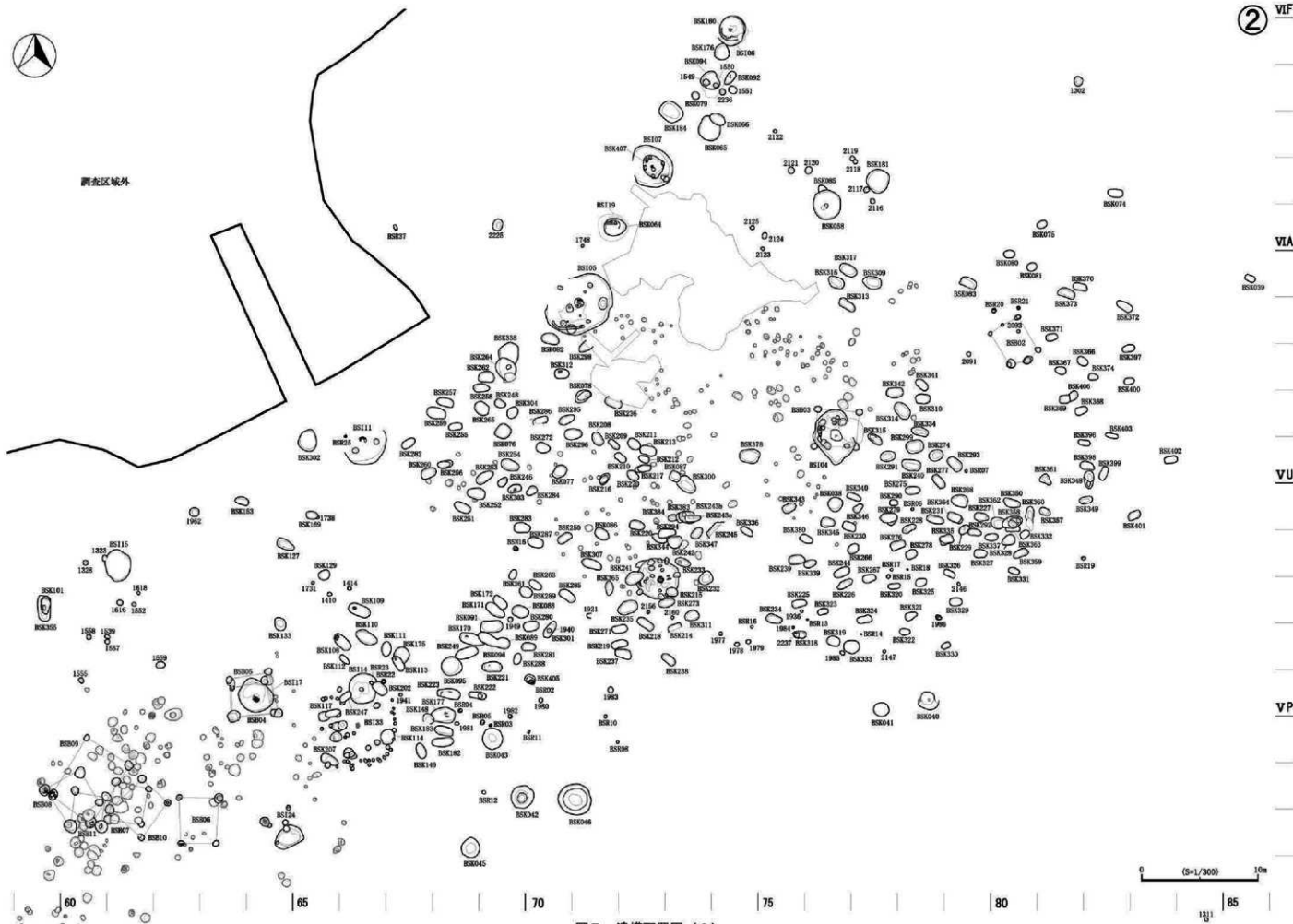


図7 遺構配置図(2)

0 (S=1/300) 10m

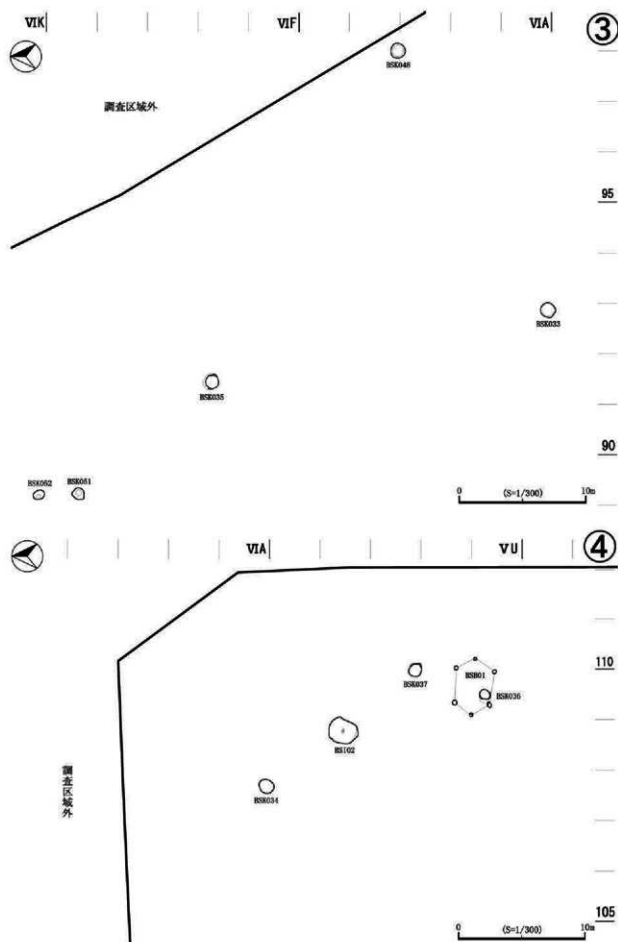


図8 遺構配置図(3)

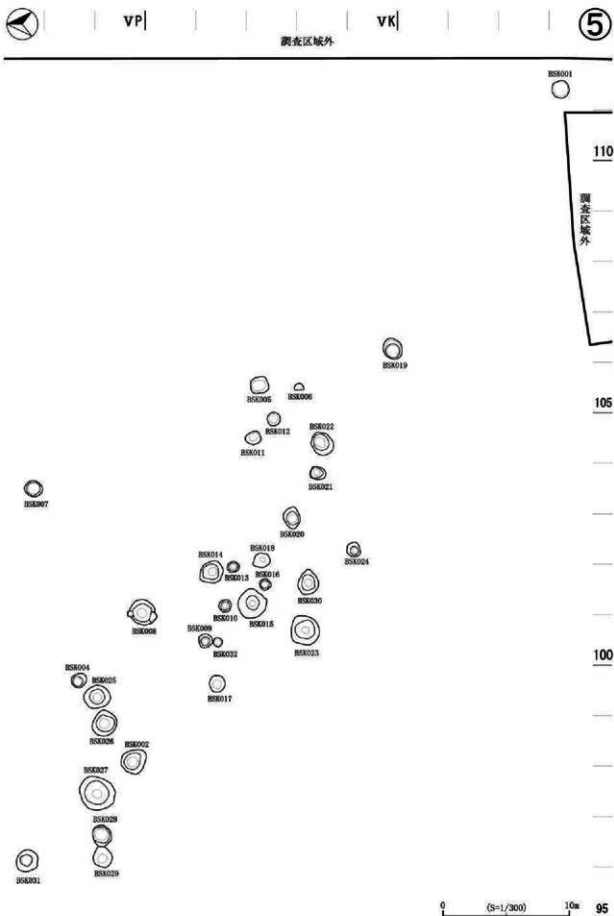


图9 遺構配置図(4)



図10 遺構配置図(5)



図11 遺構配置図(6)

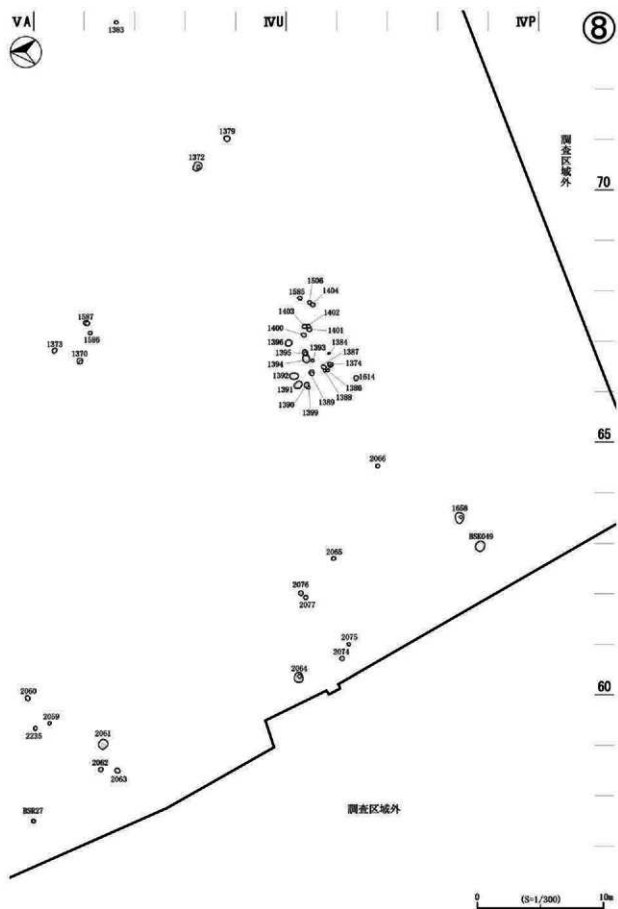


図12 遺構配置図 (7)

第1節 竪穴住居跡

竪穴住居跡は27棟検出した。第1・9・10・12・13・22・26・27・29～31号竪穴住居跡は欠番である。平面図中のピットには()で検出面からの深さをcm単位で示した。

第2号竪穴住居跡 (BSI02: 図13・59・60)

〔位置・確認・重複〕調査区東端のVX-108グリッドに位置する。第1層直下の第Ⅲ層で確認した。遺構上部は現代の水田耕作により削平されている。重複遺構は認められない。

〔平面形・規模〕平面形は不整形である。規模は長軸2.4m、短軸1.9m、床面積3.2㎡で、比較的小型の竪穴規模である。検出面からの深さは10cmである。

〔堆積土〕2層に分層した。第1層が暗褐色土を主体とする竪穴堆積土、第2層が焼土である。

〔壁・床面〕壁面は緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面はほぼ平坦で、第Ⅲ層面をそのまま床としており、貼床・柱穴等は検出されなかった。

〔炉〕竪穴中央部から地床炉を検出した。掘方を伴わず、床面の第Ⅲ層面が火床面となる。焼土範囲は41×31cmの不整形で、焼土の厚さは5cmである。

〔出土遺物〕土器、石器が出土した。土器は主にVI群土器が出土した。図13-6は粗製の鉢形土器である。底部は丸底状を呈し、斜縄文が施文されている。図60-3は遺構間接合資料で、本遺構から直線距離で約50m南西に位置する第15号土坑(A群土坑)出土の土器片と接合している(図59)。石器は堆積土中から石匙1点(図13-7)、剥片類、検出面から石皿1点(図13-8)が出土した。

〔小結〕炉付近の堆積土中から採取した炭化物の放射性炭素年代測定では、3,105±20yrBPの測定値が得られた(第4章第1節参照)。本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代晩期後葉と考えられる。また、遺構間接合資料から本遺構の南側に位置するA群土坑との密接な関係性が示唆される。

第3号竪穴住居跡 (BSI03: 図13～16)

〔位置・確認〕調査区西側のVD・E-66グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

〔重複〕重複は確認できなかったが、本遺構に伴う炉の重複がみられ、建替え等の可能性が示唆される。

〔平面形・規模〕平面形は北側が狭まる卵形で、規模は長軸5.8m、短軸4.1m、床面積16.7㎡である。検出面から炉検出面までの深さは23cmである。

〔堆積土〕11層に分層した。第1層から第9層までが床面上位の堆積土、第10層が壁周溝堆積土、第11層が貼床である。竪穴堆積土は第3層から床面付近にかけて炭化材や二次堆積の焼土を多く含み、焼失住居と考えられる。炭化材の長辺は壁に沿う方向のものや中央部に向くもの等がみられる。炭化材は径3～5cmの丸材が主体で、樹種同定分析によりブナ属、クリ、エゴノキ属、シオジ節の結果が得られた(第4章第5節参照)。

〔壁・床面〕壁面は外傾しながら立ち上がる。前庭部状の落ち込みがみられる北壁では40cmの壁の立ち上がりを確認した。北壁を除く壁高は概ね10cm程度である。床面はほぼ平坦であるが、住居北側の前庭部状の落ち込み部分で周囲より約10cm低い。一方、住居北東側の床面は周囲より約10cm高く(C-C'土層断面)、一部がテラス状となる住居構造の可能性も考えられるが、明瞭な平面範囲は確認できなかった。貼床は中央部付近で検出し、炉1を囲うように2.1×1.9mの馬蹄形状に形成されている。

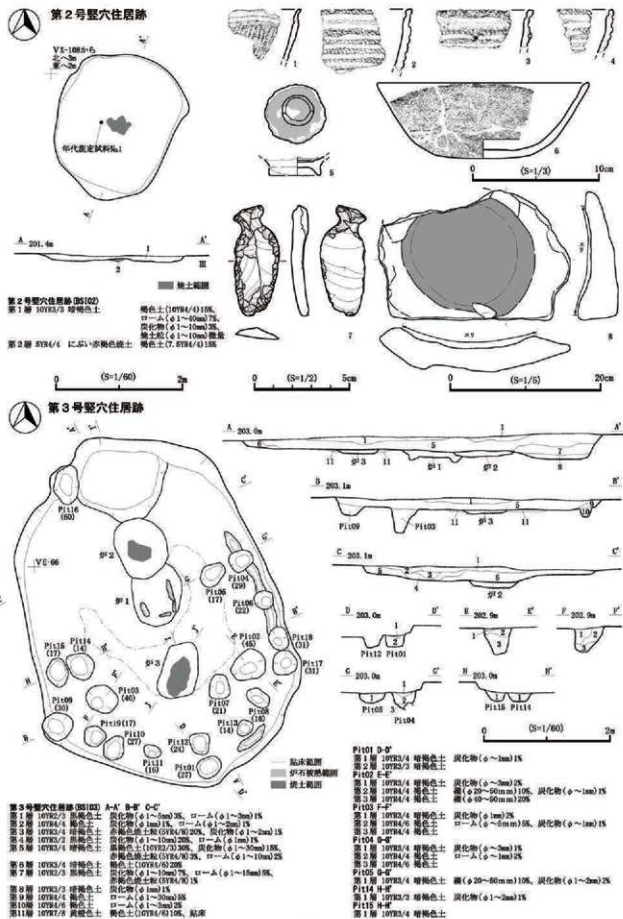


图13 第2・3号竪穴住居跡・出土遺物

遺物・炭化材出土状況(第3層~床面)

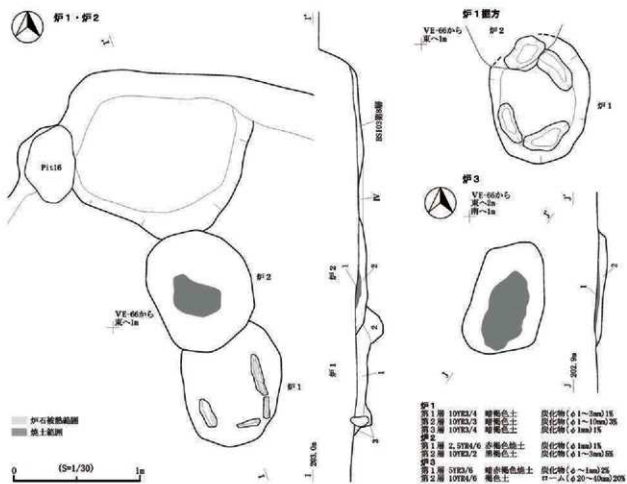


図14 第3号竪穴住居跡

[柱穴・施設] 柱穴は19基検出した。柱穴の規模は径約30～40cm、深さ20cm前後のもの、径約40～60cm、深さ約30～60cm以上のものがある。後者の比較的規模の大きい柱穴は主柱穴の可能性が考えられ、Pit02・03・09・16・17が相当する。特にPit02・03やPit09・17は各柱穴規模が近似し、住居主軸に対してほぼ対称位置に構築されている。その他、規模が近似する柱穴の組み合わせとしてはPit01・12、Pit04・05、Pit14・15が挙げられ、いずれも2基ずつ並列する配置を示すことから、2回以上の建替えの可能性が考えられる。また、Pit09・16・17は壁に接する位置に存在し、これら柱穴付近には住居壁面の張り出しが認められる。住居壁面の張り出しは、Pit01の付近でもわずかに確認される。壁周溝は、東壁及びPit13近くの北壁で検出した。壁周溝の規模は幅11～15cm、深さ7～13cmである。

[炉] 炉は3基検出した。いずれも住居主軸線上に位置する。炉1と炉2は重複し、炉2が新しい。

炉1は石囲炉で、住居中央部付近に位置する。炉石の抜き取り痕跡から長軸約90、短軸約50cmの長方形を呈するものと推測される。焼土は検出されなかったが、炉石の被熱がみられる。

炉2は地床炉で、炉1の北側に位置する。37×35cmの焼土範囲を確認した。掘方は長軸96cm、短軸78cmの楕円形で、炉1の炉石の一部を抜き取った後に、炉2の掘方が構築されている。炉2の北側に接して、落ち込み部分を確認した。形状及び位置関係等から炉2に付属する前庭部施設の可能性が考えられる。落ち込み部分の平面形は、炉2から住居北壁に向かって広がる扇形を呈する。第四層面を掘り込む形で構築されており、底面から貼床や硬化面は検出されなかった。規模は南北最大幅118cm、東西最大幅153cm、周囲の床面からの深さは11cmである。

炉3は地床炉で、住居南寄り位置する。63×30cmの焼土範囲を確認した。長軸94cm、短軸57cmの楕円形の掘方を伴い、貼床を掘り込んで構築されている。

[出土遺物] 土器、石器が出土した。土器はⅡ群H・I類が出土した。図15-5・6は、床面直上から個体で出土した粗製の深鉢形土器である。石器は堆積土中及び床面から、剥片石器類約1.5kg、礫石器類22kg出土した。剥片は微細剥離痕のある剥片(図15-11)、二次加工剥片、剥片等の器種が出土している。礫石器類は凹み石(図15-12・13)、敲き・磨り石(図15-14・15・図16-1)、磨り石(図16-2)、石皿(図16-3)、台石(図16-4)が出土した。

[結] 床面から採取した炭化材の放射性炭素年代測定では、4,010±20yrBPの測定値が得られた(第4章第1節参照)。本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉の最花式期と考えられる。

第4号壁穴住居跡(BSI04:図17・18)

[位置・確認] VU・V-76グリッドに位置する。第四層上面で確認した。

[重複] 第3号掘立柱建物跡の柱2と重複し、新旧関係は不明である。本遺構の東側は、風倒木による攪乱を受ける。

[平面形・規模] 平面形は南側が狭まる卵形で、規模は南北4.7m、検出面からの深さは41cmである。

[堆積土] 6層に分層した。自然堆積の様相を示す。第6層は貼床である。

[壁・床面] 壁面は緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面はほぼ平坦である。貼床は土層断面でのみ確認し、南北の壁寄りにみられる。本遺構の北側からは、130×110cmの範囲で硬化面が検出された。

[柱穴・施設] 柱穴は12基検出した。柱穴の規模は径約20～30cm、深さ20cm前後のもの、径約50～70cm、深さ約40～60cmのものがある。後者の比較的規模の大きい柱穴は主柱穴の可能性が考えられ、Pit01～

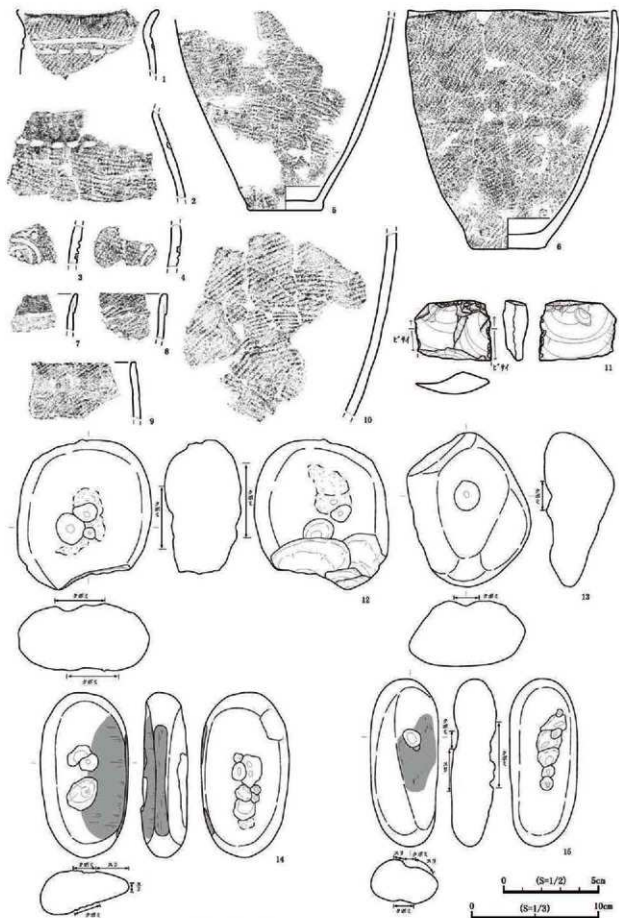


图15 第3号竖穴住居跡出土遺物(1)

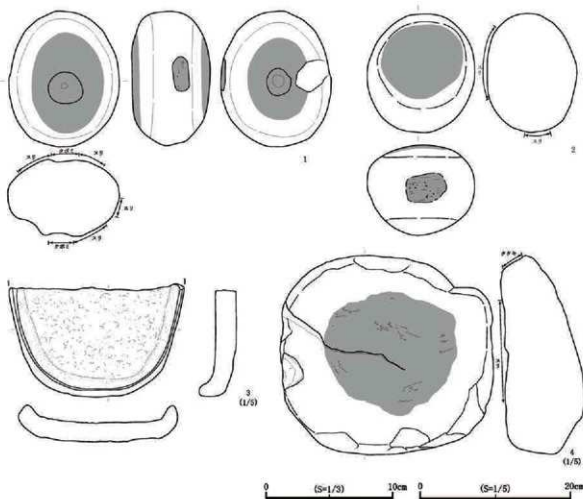


図16 第3号竪穴住居跡出土遺物(2)

04・06が相当する。Pit01とPit06は重複し、Pit01が新しいことから、同時存在としての可能性が考えられる。主柱穴は4本と推定される。本遺構の西壁付近からは、壁周溝を検出した。壁周溝の規模は幅約20cm、深さ16cmである。

〔炉〕 炉は中央部付近で検出した。土器片敷炉の可能性もある。土器は、口縁部から胴部にかけての深鉢形土器破片(図17-1)で、床面とほぼ同じ高さで出土した。土器の出土状態は、全ての破片において外面が上向きであった。土器は二次被熱の痕跡が明瞭に認められ、土器の直下から焼土を検出した。焼土範囲は33×20cmの不整形で、焼土の厚さは2cmである。掘方は長軸111cm、短軸91cmの不整形である。

〔出土遺物〕 土器、石器が出土した。土器は、縄文時代中期後葉の土器が出土した。図17-1は炉出土のⅡ群Ⅰ類の深鉢形土器である。口唇部が肥厚し、胴部に複筋原体による地文縄文がみられる。地文縄文は、概ね横位回転施文であるが、一部斜位回転による横走縄文がみられる。図17-2はⅡ群Ⅱ類、図17-3～6はⅡ群Ⅲ類である。石器は、石鏃(図18-1～3)、石槍(図18-4)、石錐(図18-5)両面調整石器、微細刺離痕のある剥片(図18-6～8)、石核(図18-9)、剥片等の剥片石器類が2.2kg出土した。図18-2は無茎鏃であるが、器体下半にアスファルトが付着している。図18-3は有茎鏃であるが、基部が破損している。先端部が摩耗していることから破損後に石錐へ転用したものと考えられる。

〔小結〕 本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉と考えられる。

第4号竪穴住居跡

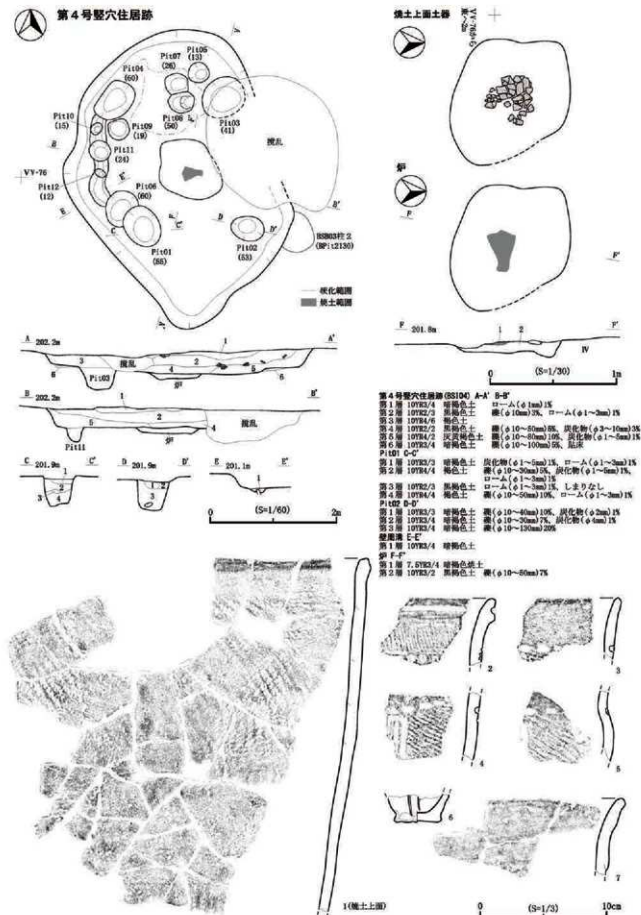


図17 第4号竪穴住居跡・出土遺物

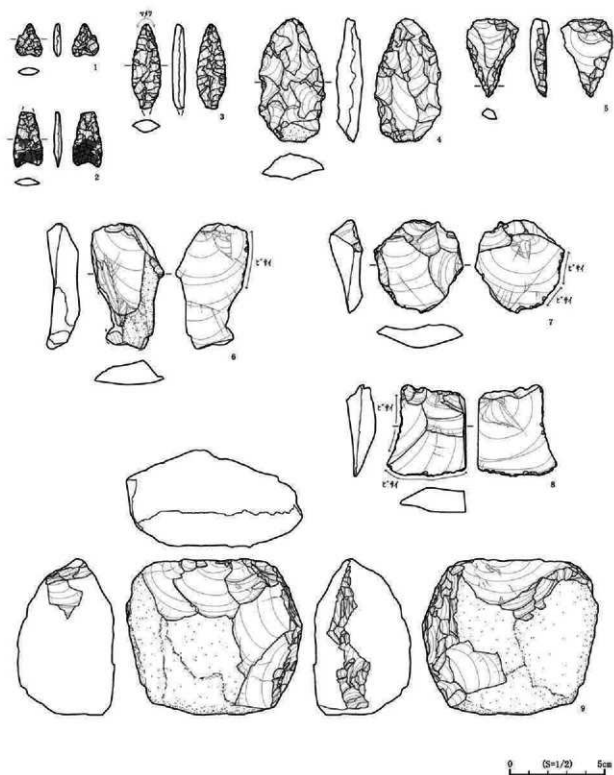


图18 第4号竖穴住居出土遗物

第5号竪穴住居跡 (BSI05: 図19~24)

〔位置・確認〕北側斜面へ向かう台地縁辺部、VX・Y-70・71グリッドに位置する。第Ⅱ層で確認した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕本遺構周辺は北へ向かって緩傾斜しており、北壁の一部を確認できなかったが、平面形はほぼ楕円形を呈する。規模は長軸が6.0m、短軸が残存部で4.6m、検出面からの深さが40cmである。

〔堆積土〕6層に分層した。堆積土は暗褐色土を主体とする。

〔壁・床面〕壁面は緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面はほぼ平坦で、炉の南側からは240×130cmの範囲で硬化面を検出した。第Ⅲ層面をそのまま床としており、貼床は検出されなかった。

〔柱穴・施設〕柱穴は8基検出した。柱穴の規模は径20cm前後、深さ約10~40cmのもの、径約40~50cm、深さ約50~60cmのものがある。後者の比較的規模の大きい柱穴は主柱穴の可能性が考えられ、Pit01~04の4基が相当する。Pit01~04からは、径20cm前後の柱痕が検出されている。本遺構の南壁付近からは、壁周溝を検出した。壁周溝の規模は幅約20cm、深さ約20cmである。本遺構の東壁及び南壁付近からは、径90cm前後、深さ約30cmの土坑を2基検出した。ただし、南壁付近の土坑が壁周溝よりも古いことから、2基の土坑は本遺構に確実に伴う施設が不明である。

〔炉〕炉は2基検出した。炉1は地床炉で、住居中央からやや西寄りに位置する。径約30cmの焼土範囲を確認した。長軸63cm、短軸52cmの楕円形の浅い掘方を伴う。炉2は石囲炉で、住居中央部に位置する。40×33cmの焼土範囲を確認した。径約70cmの円形の浅い掘方を伴う。

〔出土遺物〕土器は、縄文時代中期後葉の土器が出土した。図19-1・2、図20-1~7はⅡ群F類である。図19-1は大小各3単位の波状口縁で、頂部下に渦巻文が施文される。図20-4は足の意匠突起をもつもので、口唇部に凹線が施される。図20-8・9はⅡ群G類である。9はキャリバー形の器形で、口縁部に装飾突起をもつ。胴部文様帯は沈線と刺突により区画され、渦巻文と懸垂文が施文される。図20-10~14はⅡ群I類である。10は頸部に隆帯をもつ無文の壺形土器で、橋状把手部が欠損している。11は口唇部が肥厚し、胴部に縦位の条痕文が施される。石器は剥片石器類8.4kg、礫石器類8.9kgが出土し、前者の出土量は他の遺構よりも突出している。剥片石器は石鏃(図21-1~7)、石錐(図21-8)、石槍(図21-9・10)両面調整石器(図21-11~17)、石鏃(図21-18・19)、石匙(図21-20)、スクレイパー(図21-21~23・図23-1)、微細刺離痕のある剥片(図21-24・25・図22-1~4・図23-3)、石核(図22-5・7)、剥片(図23-2・4・5)等が出土している。図22-6は接合試料で、図22-7・図23-1~5が接合したものである。剥片石器類の中では剥片及び微細刺離痕のある剥片の出土量が最も多く、全体の7割を占めている。また、石鏃や石槍、石鏃の素材段階にあると考えられる両面調整石器の出土が多いこと、石核及び接合試料が出土していることから石器制作に関わる一連のものが廃棄されているといえる。礫石器は回石(図23-6)、鉋き・磨り石(図23-7~9)、磨り石(図24-1~4)、台石(図24-5)が出土している。図24-6は断面が紡錘形の環状土製品である。

〔小結〕本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉の榎林式期と考えられる。

第6号竪穴住居跡 (BSI06: 図25・26)

〔位置・確認〕調査区北端のVIQ・R-75グリッドに位置する。第Ⅱ層で確認した。

〔重複〕第408号土坑(BⅡ群土坑)と重複する。新旧関係は、本遺構が第408号土坑より新しい。

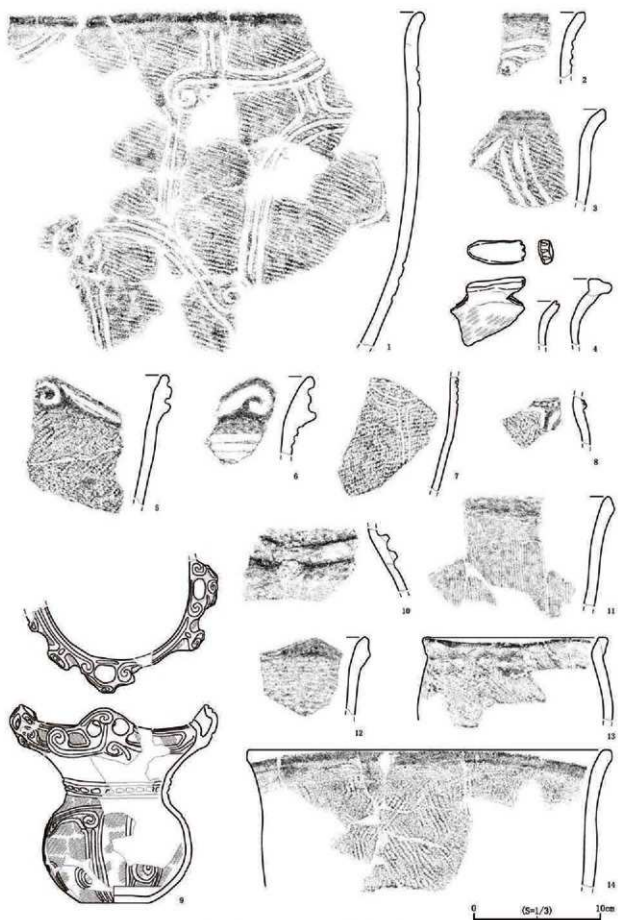


图20 第5号竖穴住居跡出土遺物(1)

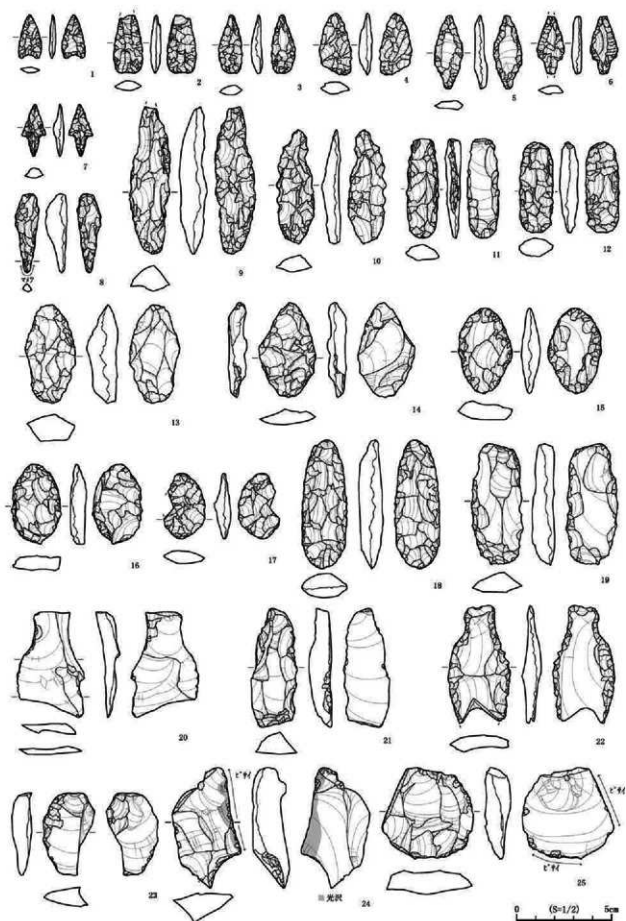


図21 第5号竪穴住居跡出土遺物(2)

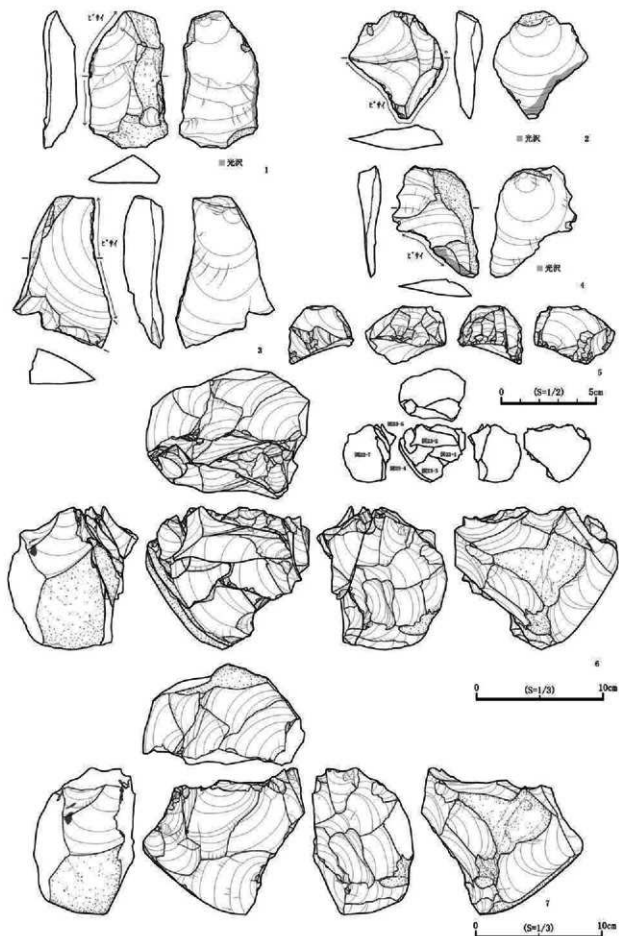


图22 第5号竖穴住居跡出土遺物(3)

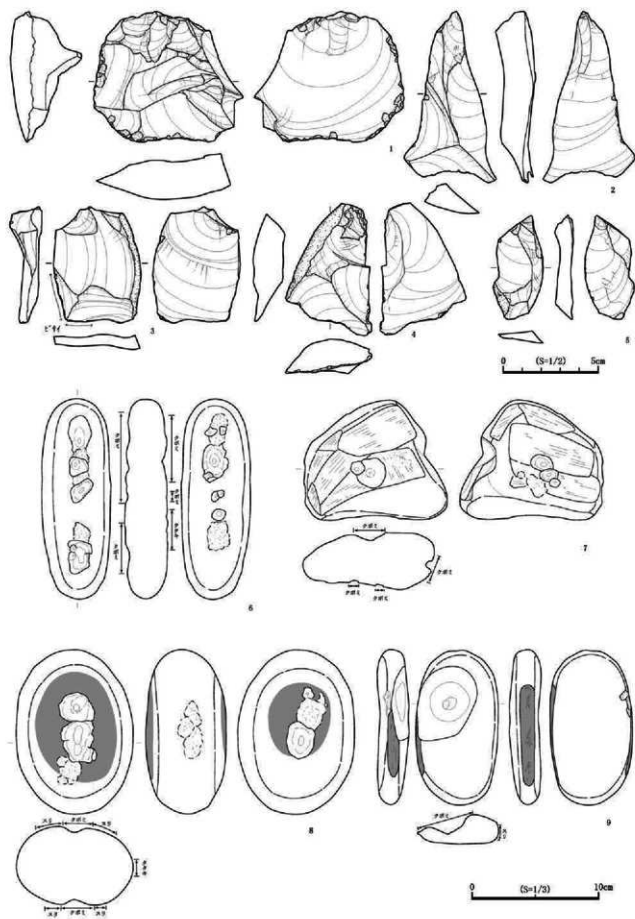


図23 第5号竪穴住居跡出土遺物(4)

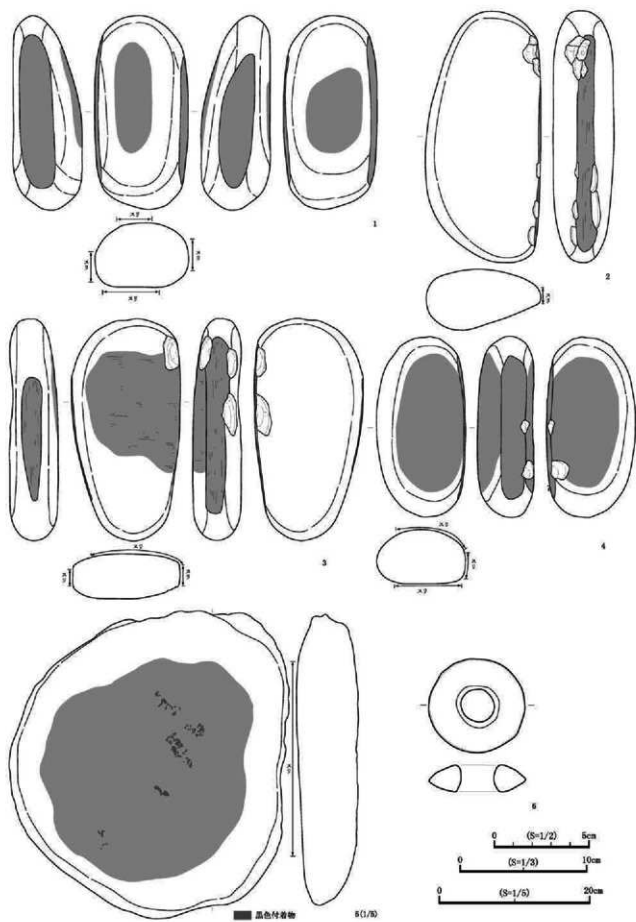


图24 第5号竖穴住居跡出土物(5)

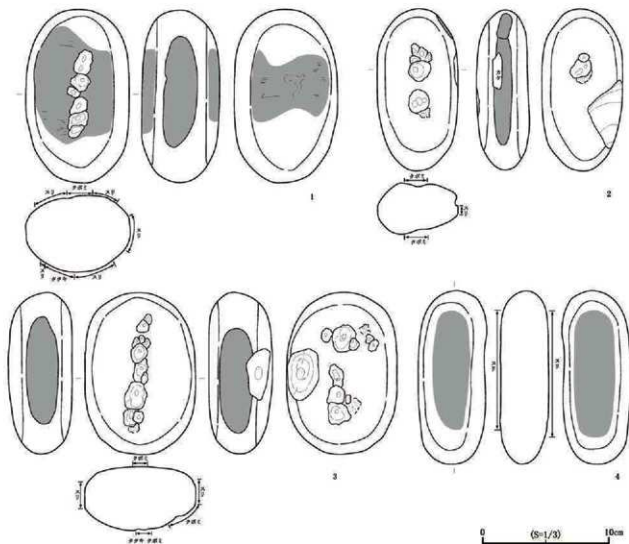


図26 第6号竪穴住居跡出土遺物

本遺構は、第408号土坑の真上に構築されている。

【平面形・規模】平面形は不整形である。規模は長軸3.5m、短軸3.2m、検出面から検出面までの深さは20cmである。掘方の底面は、炉検出面からさらに約20cm下で検出された。

【堆積土】6層に分層した。第1・2層は黒褐色土を主体とし、遺物や礫を多く含む。第3層が焼土、第4～6層が掘方堆積土である。

【壁・床面】壁面の立ち上がりは弱い。床面は南東側でやや低く平坦ではない。

【柱穴・施設】柱穴等は検出されなかった。

【炉】住居中央部付近から地床炉を検出した。焼土範囲は69×44cm、焼土の厚さは10cmである。

【出土遺物】土器は、縄文時代中期後半の土器が出土した。図25-1～4はⅡ群D類である。図25-5はⅡ群E類で、口縁部に沿って陸帯を貼り付けた後、無節原体の側面圧痕が施される。図25-6の口唇部は肥厚せず、幅狭の沈線が施される。石器は剥片石器類2.4kg、礫石器類4.2kgが出土した。剥片石器は石鏃(図25-7・8)、石筈(図25-9)、石錐、スクレイパー、微細剥離痕のある剥片、二次加工剥片、剥片、石核等が出土している。石鏃はいずれも炉内から出土したものであるが、その他は堆積土中からの出土である。礫石器は凹み石(図25-10)、敲き・磨り石(図26-1～3)、磨り石(図26-4)が出土している。

【小结】本遺構の時期は、縄文時代中期後半頃、あるいは中期後葉でも比較的古い時期と考えられる。

第7号竪穴住居跡 (BSI07: 図27)

【位置・確認】北側斜面へ向かう台地縁辺部、VIB・C-72・73グリッドに位置する。第III層上面で確認した。

【重複】第407号土坑(BⅡ群土坑)と重複し、本遺構が新しい。本遺構は、同土坑の真上に構築される。

【平面形・規模】西壁の一部が残存しないが、平面形はほぼ楕円形である。規模は長軸が4.0m、短軸が残存部で3.4m、検出面からの深さが45cmである。

【堆積土】暗褐色土主体で4層に分層した。

【壁・床面】壁の立ち上がりは弱く、床面も平坦ではない。

【柱穴・施設】柱穴は6基検出した。柱穴の規模は、Pit01が径約40cm、深さ24cm、Pit02～06が径30cm前後、深さ36～58cmである。Pit02～06は、第407号土坑の平面プランにほぼ沿うような形で検出された。住居主軸線上の南東壁際からは、段状に高まった施設を検出した。Pit01はこの施設を掘り込んで構築されている。段状の施設は、95×67cmの扇状の平面形で、炉の検出面との比高差が25cmである。

【炉】住居の中央部付近から土器埋設炉を検出した。土器は、口縁部の大部分と底部を欠損する個体(図27-1)で、正位に埋設されている。土器内の堆積土は暗褐色土を主体とし、炭化物及び焼土粒を少量含む。床面の被熱は、土器の南東側に接して、10×5cmの範囲で認められた。

【出土遺物】土器はⅡ群E・F・I類が出土した。図27-1は炉体土器で、Ⅱ群E類の深鉢形土器である。口縁部に沿って1条の隆帯が貼り付けられている。胴部上半には、縦位区画後に弧状及び横位の沈線文が施文される。口縁部は一部が残存するのみであるが、胴部の縦位区画沈線が4単位みられることから、波頂部も同数と推測される。図27-2は、波頂部下に渦巻状の隆帯文が施される。石器は剥片石器類約1kgが出土した。石槍(図27-6)、両面調整石器(図27-8)、微細刺離痕のある剥片(図27-7)、石核(図27-9)二次加工剥片、剥片等が出土している。

【小結】本遺構の時期は、炉体土器から中期後葉でも比較的古い時期と考えられる。

第8号竪穴住居跡 (BSI08: 図28)

【位置・確認】北側斜面へ向かう台地縁辺部、VIE-74グリッドに位置する。第I層直下の第III層で確認した。本遺構の北西側及び上部は、現代の水田耕作により削平されている。

【重複】第180号土坑(BⅡ群土坑)と重複し、本遺構が新しい。

【平面形・規模】平面形は残存部分から円形と推測される。規模は残存する最長部で2.4m、検出面から検出面までの深さは26cmである。

【堆積土】3層に分層した。第1層は、第2層上部に垂れ込む形で堆積している。第3層は焼土である。

【壁・床面】壁面は全体的に緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面は炉付近の一部及びテラス状の部分において硬化している。炉付近の硬化面は炉東側57×54cmの範囲にみられる。テラス状施設の硬化面については【施設】の項で後述する。

【柱穴・施設】本遺構の南側から西側にかけてテラス状施設を検出した。本施設の上にはほぼ平坦で全面に顕著な硬化面が認められる。硬化面の一部はテラス法面にも広がることから、本施設は本住居に伴う付属施設と考えられる。本施設上面の高さは、炉検出面より17cm高い。テラス状施設は第180号土坑の平面プランの外縁に沿って構築されており、かつ炉検出面の床面範囲は同土坑の平面プランとほぼ重なることから、本遺構は同土坑埋没過程の凹地を利用して構築された可能性がある。柱穴は検出されなかった。

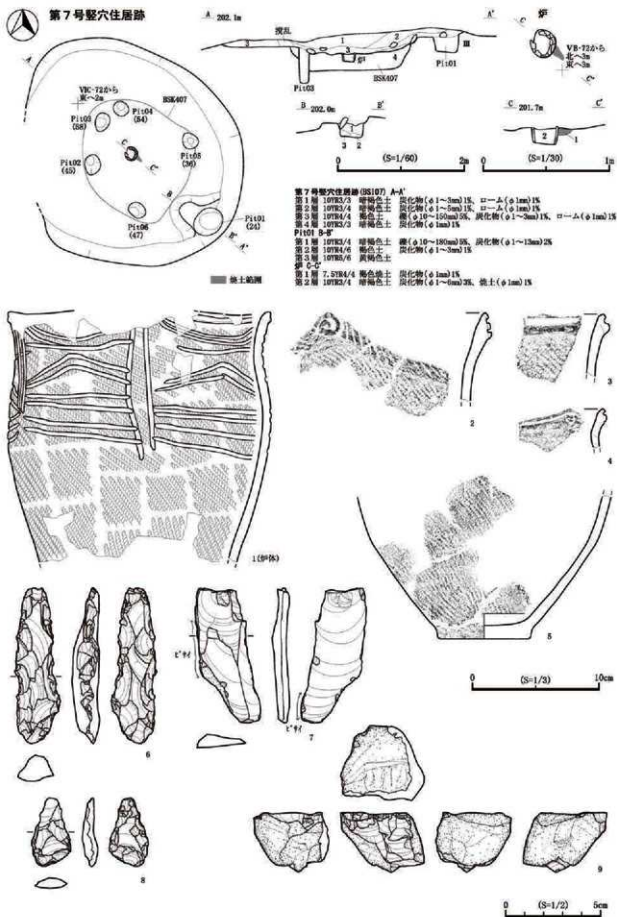


図27 第7号竪穴住居跡・出土遺物

〔炉〕 住居中央部付近から地床炉を検出した。焼土範囲は42×38cmの不整形で、焼成は弱い。

〔出土遺物〕 土器は、縄文時代中期後葉の破片が少量出土した。図28-1はⅡ群F類土器である。石器は剥片石器類125g、礫石器類は図示した凹み石(図28-4)の1点、188gが出土した。剥片石器は石匙(図28-2)、微細刺離痕のある剥片(図28-3)、二次加工剥片、剥片等が出土している。

〔小結〕 本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉の榎林式期と考えられる。(最上)

第11号竪穴住居跡(BSI11:図28)

〔位置・確認〕 北側斜面へ向かう台地縁辺部、VU・V-66グリッドに位置している。第Ⅲ層直下の第Ⅲ層上面で炉及び床面と思われる範囲を確認した。本遺構の北側半分は削平されている。

〔重複〕 本遺構北側には第25号土器埋設遺構を検出しているが、新旧は不明である。

〔平面形・規模〕 現存している南半分は弧状を呈していることから、円形を基本とした平面形であったと推定できる。現存している東西軸長は3.9mである。

〔堆積土〕 炉及び床面での検出であったため土層図は作成していない。

〔壁・床面〕 壁は南半分をわずかな立ち上がりを確認した。硬化面等は特に確認できなかった。

〔柱穴・施設〕 床面から2基のピットを検出した。検出位置から柱穴になると考えられる。それぞれの規模は、Pit01が径51cm、深さ32cmで、Pit02が径50cm、深さ40cmである。

〔炉〕 床面の中軸線上から半円状に竈が配置された炉を検出した。炉石の掘方も半円状でしか検出できなかったことから、本来、このように竈を配置した炉であったと考えられる。竈の内側には弱く被熱した範囲をまばらに検出した。被熱は最も厚いところで5cmである。

〔出土遺物〕 土器、石器が少量出土した。図28-5はⅡ群I類土器である。石器は両面調整石器(図28-6)、微細刺離痕のある剥片、剥片等176gが出土した。

〔小結〕 炉の形態と出土遺物から縄文時代中期の遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。

第14号竪穴住居跡(BSI14:図29)

〔位置・確認〕 調査区北西側のVP-66グリッドに位置している。第Ⅲ層上面で暗褐色土の円形プランとして確認した。

〔重複〕 第202・247号土坑(BI群土坑)と重複し、本遺構の方が古い。また、第23号土器埋設遺構との新旧は不明である。

〔平面形・規模〕 平面形は円形で、規模は長軸4.2m、短軸2.3m、検出面からの深さは25cmである。

〔堆積土〕 暗褐色土を主体として2層に分層した。

〔壁・床面〕 壁は開くように立ち上がっている。床面からは炉と思われる施設の周辺にて1.2m×1.8mの硬化範囲を検出した。

〔柱穴・施設〕 柱穴等は検出されなかった。北側の床面上からは、深鉢形土器(図29-2)が破れずに横に倒れた状態で出土した。土器は瓦壊しきれておらず、内部に暗褐色土の堆積が認められた。住居廃絶時に土器を立てていたものと考えられる。

〔炉〕 床面のほぼ中央から円形の浅い掘り込みを検出した。規模は径約38cm、深さ約10cmで、落ち込んでいく際から、被熱した範囲を検出した。断ち割って確認したが、上面が弱く被熱している程度であった。

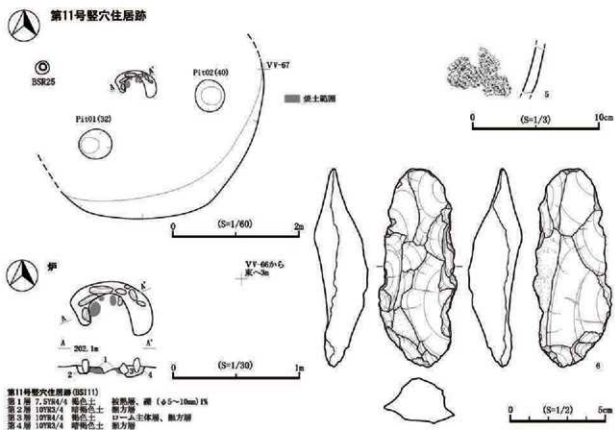
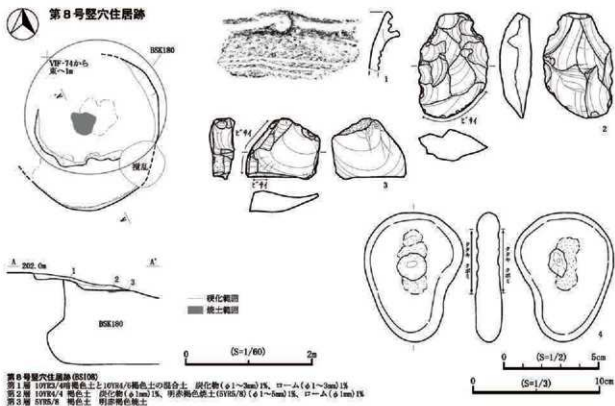


图28 第8・11号竪穴住居跡・出土遺物

〔出土遺物〕土器、石器が出土した。図29-2はⅡ群F類の個体土器である。平口縁の深鉢形土器で、口唇部は肥厚し、凹線文が施される。石器は石核、二次加工剥片、剥片等の剥片石器類が494g出土したが、図示しなかった。礫石器類は、磨り石が1点出土した(図29-3)。

〔小結〕本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉の榎林式期と考えられる。なお、第23号土器埋設遺構に使用されている土器は、縄文時代中期後葉の粗製土器であり、住居検出面での新旧関係を捉えることができなかったことから、本遺構に伴う可能性もある。(小山)

第15号竪穴住居跡(BSI15:図29)

〔位置・確認〕調査区北西側の台地縁辺部、VS・R-60・61グリッドに位置する。第Ⅲ層で確認した。

〔重複〕第1323号ピットと重複しているが、新旧関係は不明である。

〔平面形・規模〕平面形は不整形である。規模は長軸2.8m、短軸2.2m、床面積3.9㎡で、比較的小型の竪穴規模である。検出面から最深部までの深さは24cmである。

〔堆積土〕4層に分層した。第1～3層が暗褐色土を主体とする住居内堆積土、第4層が貼床層である。

〔壁・床面〕壁は第Ⅲ層をほぼ垂直に掘り込み、第Ⅲ層下位に掘床底面を形成している。床は第Ⅲ層中の黄褐色シルトと暗褐色土の混土による貼床が部分的に貼られ、中央部分では弱い硬化面が確認された。

〔柱穴・施設・炉〕柱穴・炉等は検出されなかった。

〔出土遺物〕土器はⅡ群F・I類等が出土した。図29-5は南西側床面から個体で出土したⅡ群F類土器である。圧壊しきれておらず、内部に暗褐色土の堆積が認められた。3単位の波状口縁の深鉢形土器で、口唇部が肥厚して渦巻文が施される。胴部には単節原体の斜位回転施文がみられる。石器は出土しなかった。

〔小結〕本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉の榎林式期と考えられる。(秦)

第16号竪穴住居跡(BSI16:図30・31)

〔位置・確認〕調査区北側のVIL・M-73・74グリッドに位置している。第Ⅲ層上面で確認した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕本遺構周辺は西へ向かって緩傾斜しており、西壁を確認できなかったが、平面形はほぼ円形か楕円形と推測される。規模は長軸が5.2m、短軸が残存部で5.0m、深さが東壁で71cmである。

〔堆積土〕6層に分層した。第6層は、第Ⅲ層由来の黄褐色土を主体とする貼床である。

〔壁・床面〕壁面は緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面はほぼ平坦で、第Ⅳ層の砂礫層を掘り込んだ後、貼床がなされている。貼床上面は硬化している。

〔柱穴・施設〕柱穴は8基検出した。柱穴の規模は、Pit01が径約80cm、Pit02～08が径30cm前後である。深さは31～74cmである。Pit02・03・04・06は、2基の炉を中心としてほぼ同距離に位置し、平面形状の配列を示す。また、Pit01・07は住居の主軸線上に位置する。

〔炉〕住居中央部付近から炉を2基検出した。炉1は地床炉である。焼土範囲は36×31cmの不整形で、焼土の厚さは4cmである。炉2は、径約20cm、深さ15cmの掘方から、同一個体の土器破片が弧状に検出されており、土器埋設炉と推測される。土器は胴部及び底部破片が少量で、残存率及び接合率ともに良好でない(図30-3)。掘方北側の床面が、15×11cmの範囲で被熱している。

〔出土遺物〕土器、石器、石製品が出土した。土器はⅡ群A類が主体であるが、第1層中にはⅡ群D類土

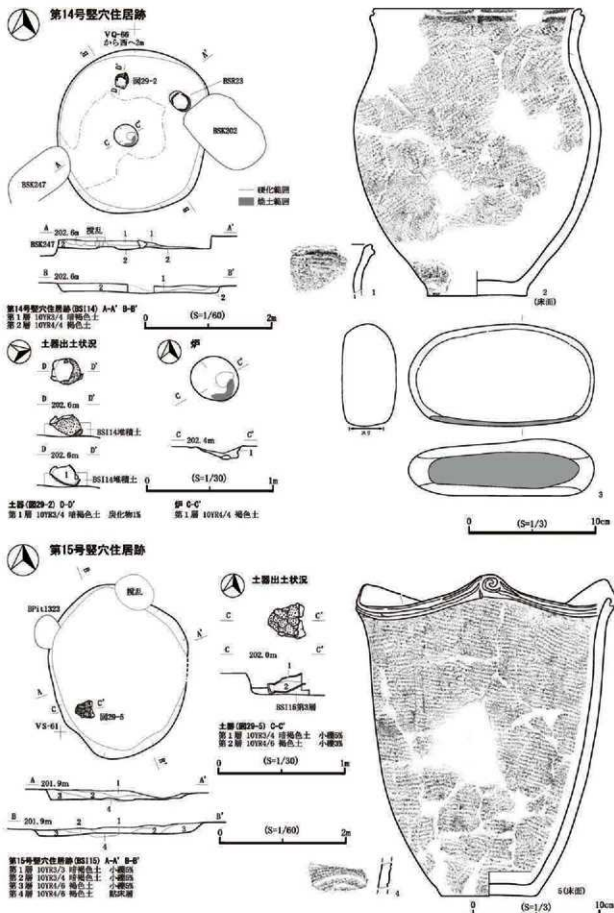


図29 第14・15号竪穴住居跡・出土遺物

器の破片(図31-2)も少量含まれる。東壁際の第2層中からはⅡ群A類の個体土器が出土した(図30-1・2)。1は台形状の口縁部突起をもつ深鉢形土器で、突起部に穿孔がみられる。口縁部には鋸歯状と弧状の陸帯、陸帯間には刺突、胴部には羽状縄文が施される。2は、1と基本的な文様構成は同様で平口縁である。図30-3は炉2から出土した底部破片で、胎土・色調が図30-1・2によく似ており、ほぼ同時期のものの可能性がある。石器は剥片石器類約2kg、礫石器類1.7kgが出土した。剥片石器は両面調整石器(図31-3~6)、石筥(図31-7)、石匙(図31-8)、石核、微細剥離痕のある剥片、二次加工剥片、剥片等が出土している。図31-7は刃部縁辺に光沢がみられる。礫石器は凹み石(図31-9)、敲き・磨り石(図31-10)が出土した。石製品は石棒(図31-11)が1点出土した。端部に敲打痕がある。石棒としたが欠損品であり、欠損後に敲き石に転用された可能性もある。

[小結] 本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代中期中葉の円筒上層e式期と考えられる。本遺構の最終的な埋没時期は、堆積土上層の出土遺物から円筒上層e式期以降と推測される。(最上)

第17号竪穴住居跡(BSI17:図32)

[位置・確認] 調査区北西側のVP-63・64グリッドに位置している。第Ⅲ層上面にて暗褐色土の不整形円形プランとして確認した。

[重複] 第4号掘立柱建物跡の柱1(第1563号ビット)、第1860号ビットと重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整形円形で、規模は長軸3.0m、短軸2.6m、床面積5.1㎡である。検出面から最深部までの深さは34cmである。

[堆積土] 暗褐色土を主体として7層に分層した。第2層は廃棄された焼土層である。

[壁・床面] 壁は開くように立ち上がっている。床面は第Ⅲ層下面となっているが、一部第Ⅳ層の砂礫層が露出している箇所もある。床面の北半部には硬化範囲が検出された。

[柱穴・施設] 柱穴等の施設は検出されなかった。

[炉] 床面のほぼ中央に露出している地山礫の一部及びその周辺が被熱しており(53×62cm)、炉と判断した。しかし、被熱の度合いは弱く、床面が薄く赤変する程度である。最も厚く被熱しているところで約4cmである。

[出土遺物] 土器は、Ⅵ群土器が少量出土した(図32-1・2)。石器は剥片石器類526g、礫石器類1.6kg出土した。剥片石器類は二次加工剥片、微細剥離痕のある剥片、剥片が出土したが、図示しなかった。礫石器類は凹み石1点(図32-3)と磨り石1点(図32-4)が出土した。

[小結] 縄文時代晩期後葉の第4号掘立柱建物跡と重複し、これよりも古いことから、これ以前に構築されたものと考えられる。また、本遺構からも縄文時代晩期後葉の遺物が出土しているが、出土土器が少量かつ小破片であるため、本遺構の詳細な時期は不明である。(小山)

第18号竪穴住居跡(BSI18:図33・34)

[位置・確認] 調査区北側のVIN-0-76グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

[重複] 第204号土坑(BⅡ群土坑)と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は隅丸方形ないし不整形円形である。規模は長軸4.5m、短軸4.1m、床面積14.4㎡である。検出面からの深さは27cmである。

第16号竪穴住居跡

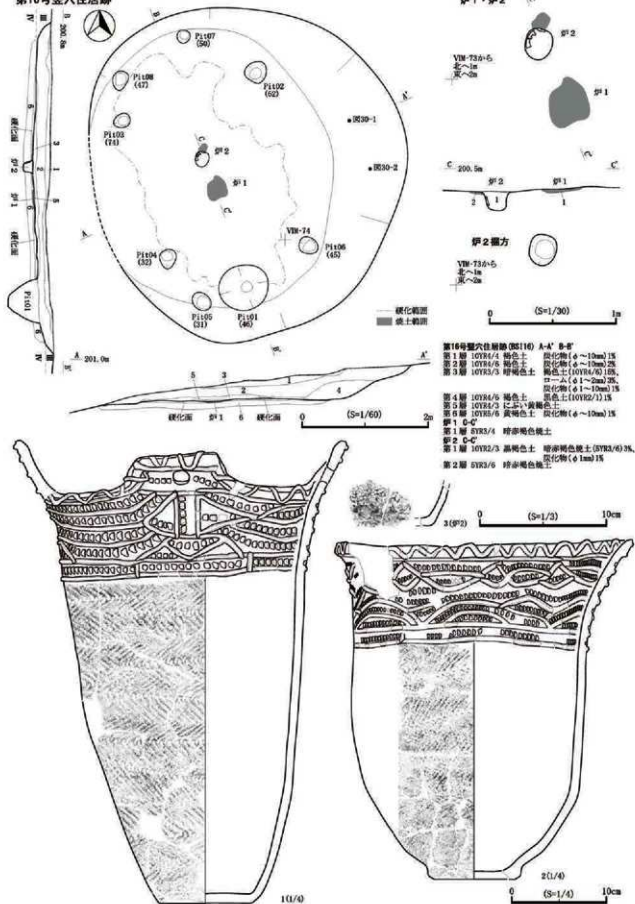


図30 第16号竪穴住居跡・出土遺物

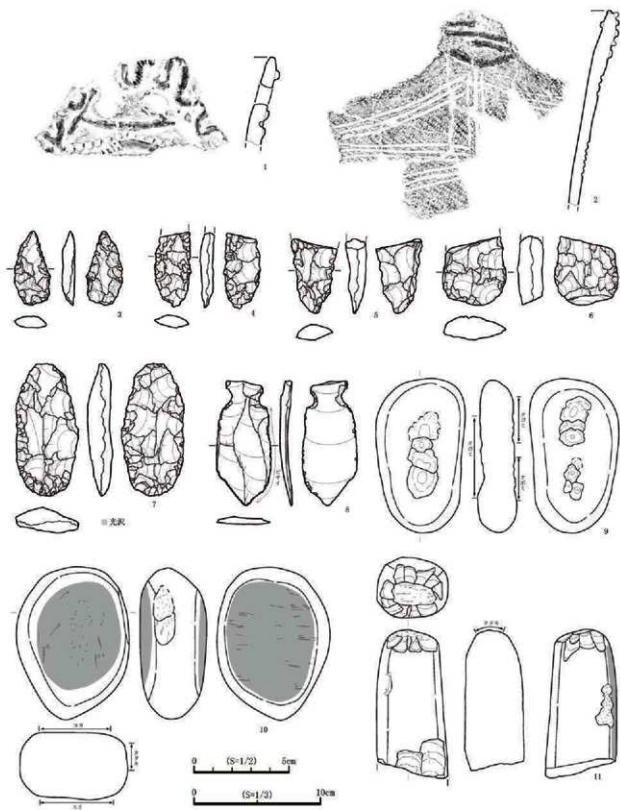


图31 第16号竖穴住居跡出土遺物

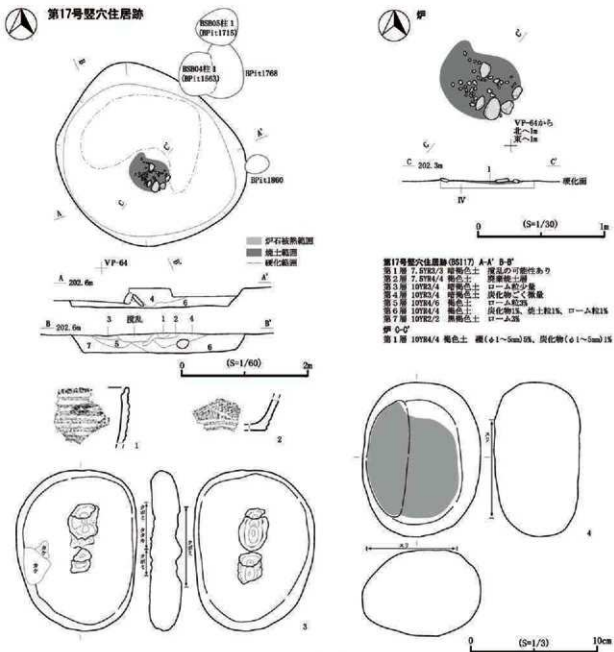


図32 第17号竪穴住居跡・出土遺物

〔堆積土〕22層に分層した。第1～7・9～12層が床面上位の堆積土、第8層がPit04の柱痕、第13～15層が炉1の堆積土、第16～17層が炉2の堆積土、第18～22層が貼床及び掘方堆積土である。第1層・第2層上面付近からは、石棒等の遺物とともに自然礫が多量に出土している。

〔壁・床面〕壁面は垂直に近い形で立ち上がる。床面はほぼ平坦で、炉の東側から北側にかけて162×106cmの硬化範囲を検出した。貼床は、主に炉の北側で検出され、土層断面の第20～22層が相当する。

〔柱穴・施設〕柱穴は13基検出した。柱穴の規模は、径約30～60cm、深さ20cm前後のものが主体である。Pit12・13は比較的小型で径約15cm、深さ約20cmである。Pit01・02・05は深さ30cm以上で、他のPitと比較してやや深い。Pit01・02・04・05は、2基の炉を中心としてほぼ同距離に位置し、平面形状の配列を示す。また、Pit03・06は住居の主軸線上に位置する。

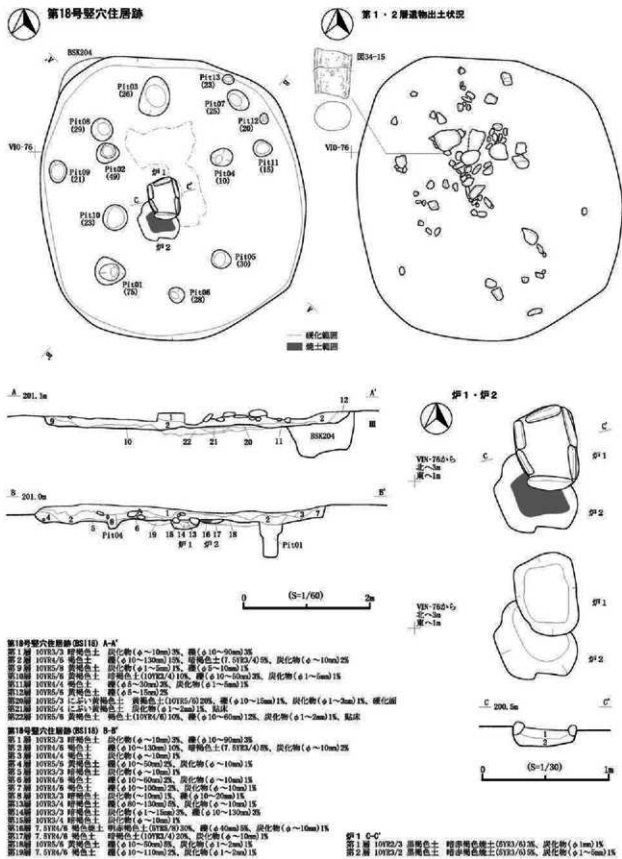


図33 第18号竪穴住居跡

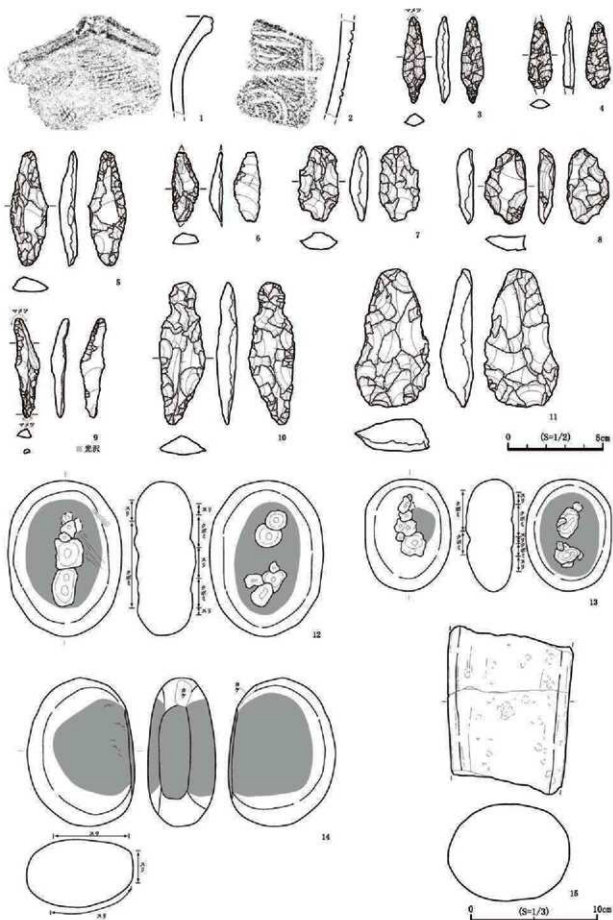


图34 第18号竖穴住居跡出土遺物

[炉] 住居中央部付近から炉を2基検出した。炉1・炉2は重複し、炉1が新しい。炉1は石囲炉である。長軸65cm、短軸48cmで平面が長方形を呈する。明瞭な被熱痕跡は認められなかったが、炉内の堆積土中に焼土粒を少量含む。炉2は地床炉である。焼土範囲は約50cmの方形状で、焼土の厚さは6cmである。長軸70cm、短軸58cm、深さ6cmの掘方を伴う。

[出土遺物] 土器、石器、石製品が出土した。土器はⅡ群E・F類の深鉢形土器が出土した(図34-1・2)。石器は剥片石器類2.1kg、礫石器類1.7kgが出土した。剥片石器は石鏃(図34-3・4)、石槍(図34-5)、両面調整石器(図34-6～8)、石錐(図34-9)、石匙(図34-10)、石篋(図34-11)、石核、微細剥離痕のある剥片、二次加工剥片、剥片が出土している。礫石器は凹み石、敲き・磨り石(図34-12・13)、磨り石(図34-14)が出土した。図34-15は凝灰岩製の石棒である。敲打後の研磨調整がみられ、表面が被熱している。

[小結] 本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉の榎林式期と考えられる。

第19号竪穴住居跡(BSI19:図35)

[位置・確認] 北側斜面の台地縁辺部、VIA-71・72グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で焼土範囲及び硬化範囲を確認した。

[重複] 第64号土坑(BⅡ群土坑)と重複し、本遺構が新しい。本遺構は、硬化面の残存範囲からの推定となるが、第64号土坑のほぼ真上に構築されているものと思われる。

[平面形・規模] 本遺構は床面での検出のため、平面形・規模については不明である。

[堆積土] 第1層は炭化物を含む暗褐色土で、上面が硬化している。第2～4層は炉内の堆積土である。

[壁・床面] 本遺構は床面での検出のため、壁面の状況は不明である。炉の周辺には、260×232cmの硬化範囲を確認した。

[柱穴・施設] 柱穴・施設等は検出されなかった。

[炉] 残存する硬化範囲の中央部付近から、焼土と垂角礫が検出されており、石囲炉の可能性はある。焼土範囲は、東西方向で80cmの残存が認められ、焼土の厚さは20cmである。掘方の規模は、東西方向で121cm、深さ40cmである。掘方内の第4層からは約20～30cm大の円礫が複数個出土した。

[出土遺物] 土器はⅡ群D・I類が出土した。図35-1はⅡ群D類の深鉢形土器で、胴部には弧状の沈線文が施される。地文縄文には、複節部体による横位回転施文がみられる。石器は剥片石器類112g、礫石器類1.1kg出土した。剥片石器は微細剥離痕のある剥片、剥片等出土したが図示しなかった。礫石器は敲き石1点、磨り石1点(図35-2)が出土した。

[小結] 本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代中期中葉の円筒上層e式期と考えられる。

第20号竪穴住居跡(BSI20:図35)

[位置・確認] 調査区北側のVIQ-R-73グリッドに位置する。第Ⅳ層上面で検出した。

[重複] 第206号土坑(BⅡ群土坑)と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 長軸3.1m、短軸2.9mのほぼ円形を呈する。床面積は6.4㎡である。検出面からの深さは30cmである。

[堆積土] 7層に分層した。自然堆積の様相を示す。第1層は廃棄焼土層、第7層は貼床である。

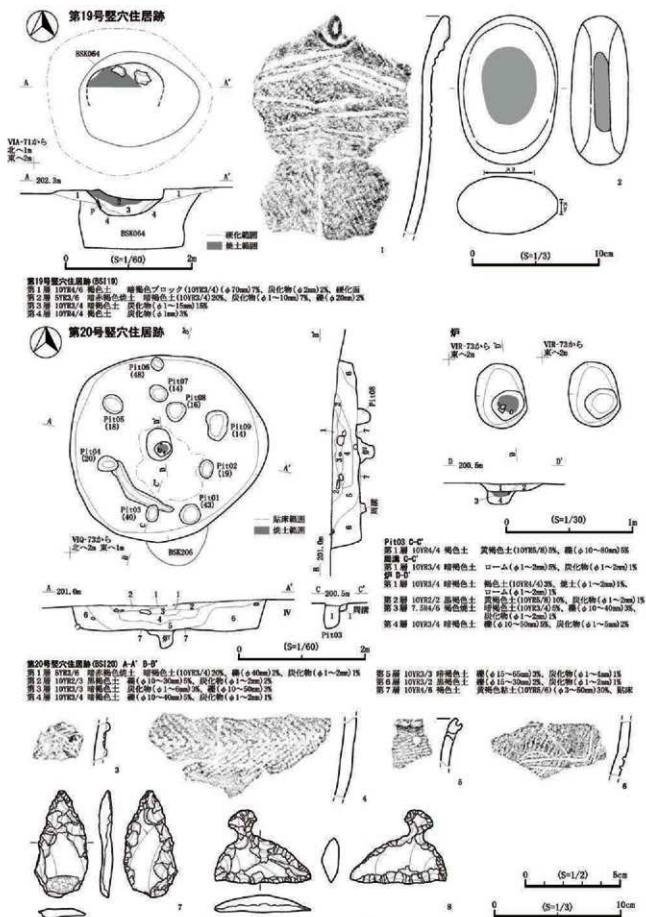


図35 第19・20号竖穴住居跡・出土遺物

〔壁・床面〕壁面はほぼ垂直に近い形で立ち上がる。床面はほぼ平坦である。住居北側からは、123×110cmの範囲で貼床が検出された。

〔柱穴・施設〕柱穴は9基検出した。柱穴の平面規模は、径30cm前後である。柱穴の深さは、Pit01・03・06が40～48cm、その他が14～20cmである。住居南西側からは、深さ約10cmの弧状の周溝を検出した。Pit03・04と重複し、周溝が古い。周溝は壁際に位置せず、南西壁から約50cm内側で確認された。

〔炉〕住居中央部付近から炉を1基検出した。径約20cm、深さ15cmの掘方から、同一個体の土器破片（図35-3・4）が弧状に検出されており、土器埋設炉と推測される。土器は胴部破片が少量で、残存率及び接合率ともに良好でない。掘方の断面形は漏斗状で、床面から約5cm下位の中段部分が火床面となる。焼土は、土器破片の内側で16×12cmの範囲に認められる。焼土の厚さは4cmである。

〔出土遺物〕土器、石器が出土した。図35-3・4は、炉から出土したⅡ群A類土器の同一個体である。第2層中にはⅡ群F類土器の破片（図35-5・6）も含まれる。石器は石槍（図35-7）、石匙（図35-8）、スクレイパー、石核、微細剥離痕のある剥片、二次加工剥片、剥片等1.2kg出土した。

〔小結〕本遺構の時期は、炉出土遺物から縄文時代中期中葉の円筒上層c式期と考えられる。本遺構の最終的な埋没時期は、堆積土上層の出土遺物から縄文時代中期後葉頃と推測される。（最上）

第21号竪穴住居跡（BSI21：図36・37）

〔位置・確認〕VR・S-72・73グリッドに位置し、第Ⅲ層上面で黒褐色の落ち込みを検出した。

〔重複〕第215・241号土坑（BⅠ群土坑）と重複し、本遺構が古い。

〔平面形・規模〕直径約3.5mのほぼ円形を呈する。検出面からの深さは25cmである。

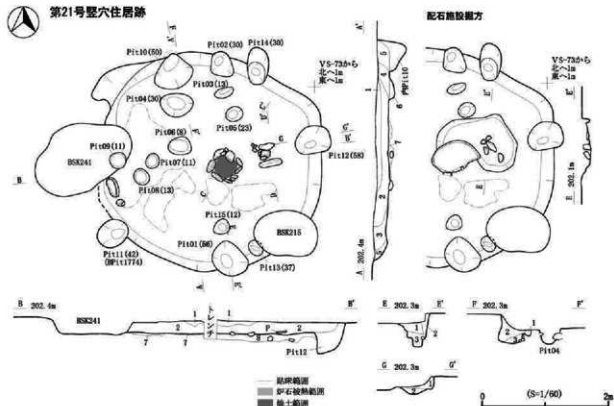
〔堆積土〕検出状況は中央部が黒褐色土で、縁辺部が暗褐色土である。礫の混入が少なく構成土質が比較的均一である。

〔壁・床面〕壁はほぼ垂直に立ち上がる。住居跡北西側で、壁が舌状に張り出す箇所は緩傾斜となる。床はほとんどが第Ⅲ層面であるが、炉や配石施設の周囲は、構築に際して掘られた掘方の上面に貼床を施している。また、第Ⅲ層が硬化した箇所が炉の南側や西側に確認された。

〔柱穴・施設〕柱穴は床面と壁際から15基検出した。平面規模と深さから、主柱穴の可能性があるものは4基である（Pit01・10・11・12）。規模が径10cm以下で、深さが10cm前後の小規模な柱穴は、住居西側に偏在して検出された。

配石施設は住居東側、炉とPit12のほぼ中間に位置する。長さ25cmの直角礫と36cmの円礫で構成される。表面の加工や被熱痕は観察されない。配石の構築は、掘方を掘削後、礫側面を下に二列平行に配置した後、暗褐色土を充填させ固定している。灰や硬化面、焼土は観察できなかった。掘方の平面形は不整形円形を呈し、長軸170cm、短軸120cm、深さ15cmを測る。石囲炉との新旧関係や掘方底面の状況から、構築時期は石囲炉より古いと判断される。2礫の間からは、図37-3の土器が出土している。配石施設周辺の床面に硬化は認められなかった。

〔石皿・石棒〕第Ⅲ層上面を検出時に本遺構のプラン内から、石皿と石棒が隣接して並んでおり、その一部が検出面から突き出た状況で確認した（写真16）。断ち割って確認したところ、いずれも直立した状態で埋まっていた。石皿・石棒周囲の堆積土は、住居内堆積土の第2層相当の暗褐色土が広がり、これらを埋める為の明瞭な掘方を確認できなかったことから、ピット等の遺構に埋めたものではなく、住居廃絶時に



第21号竪穴住居跡(BS121) A-A' B-B'

第1層 10V22/2 埴輪色土 炭化物(φ1~10cm)2%
 第2層 10V23/2 埴輪色土 礫(φ10~40cm)3%, 炭化物(φ1~20cm)2%
 第3層 10V24/4 赤土・黄褐色土 埴輪色土(10V23/3)7%, 礫(φ20~50cm)1%, 炭化物1%
 第4層 10V24/4 埴輪色土 赤土・黄褐色土(10V23/3)3%, 礫(φ10~20cm)1%
 第5層 10V24/4 埴輪色土 埴輪色土(10V24/4)1%, 埴輪色土(10V23/4)1%
 第6層 10V24/4 埴輪色土 埴輪色土(10V24/4)3%
 第7層 10V24/4 埴輪色土 埴輪色土(10V24/4)8%, 炭化物(φ2~10cm)1%, 粘土
 第8層 10V24/3 赤土・黄褐色土 礫(φ10~12cm)5%, 炭化物小塊

P110 E-E'

第1層 10V22/4 埴輪色土 礫(φ10~20cm)2%, 炭化物(φ1~20cm)2%
 第2層 10V23/2 埴輪色土 礫(φ10~20cm)3%, 炭化物(φ~10cm)1%
 第3層 10V23/4 埴輪色土 礫(φ10~40cm)8%, 炭化物(φ~10cm)1%

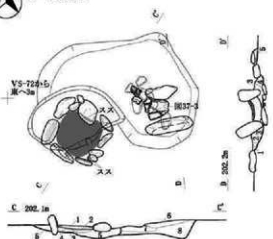
P110 F-F'

第1層 10V23/3 埴輪色土 礫(φ2~10cm)8%, 炭化物(φ1~2cm)1%
 第2層 10V23/4 埴輪色土 礫(φ2~45cm)7%, 炭化物(φ1~2cm)1%
 第3層 10V24/4 埴輪色土 礫(φ2~50cm)10%, 礫-A(φ1~10cm)2%
 炭化物(φ1~5cm)1%

P112 G-G'

第1層 10V23/3 埴輪色土 礫(φ2~5cm)2%, 炭化物(φ1~5cm)2%
 第2層 10V24/4 埴輪色土 礫(φ2~25cm)3%, 炭化物(φ1~2cm)1%
 礫-A(φ1~2cm)1%

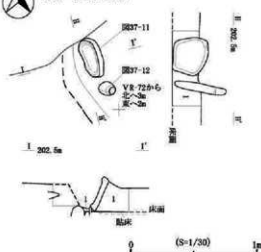
伊・配石施設



伊 C-C'

第1層 10V23/4 埴輪色土
 第2層 10V24/4 埴輪色土 礫(φ10~20cm)2%, 炭化物(φ10cm以下)1%, 粘土1%, 土上被褥
 第3層 10V24/4 埴輪色土 炭化物(φ10cm以下)1%, 礫(φ10cm)1%, 土上被褥
 第4層 10V24/4 埴輪色土 土上被褥
 第5層 10V23/3 埴輪色土 礫(φ10~20cm)3%
 第6層 10V24/4 埴輪色土 礫(φ10cm)1%, 粘土
 第7層 10V23/2 埴輪色土 礫(φ10~12cm)1%, 炭化物小塊, 配石施設の概方
 第8層 10V23/4 埴輪色土 配石施設の概方

石神・石田出土状況



配石施設 D-D'

第1層 10V23/4 埴輪色土
 第2層 10V23/4 埴輪色土 礫(φ5~30cm)10%
 第3層 10V23/4 埴輪色土
 第4層 10V24/4 埴輪色土 礫(φ5cm)1%
 第5層 10V24/4 埴輪色土 礫(φ10~50cm)30%
石田・石神 I-I'
 第1層 10V23/4 埴輪色土 炭化物(φ1~2cm)3%, 礫(φ2~8cm)2%

図36 第21号竪穴住居跡

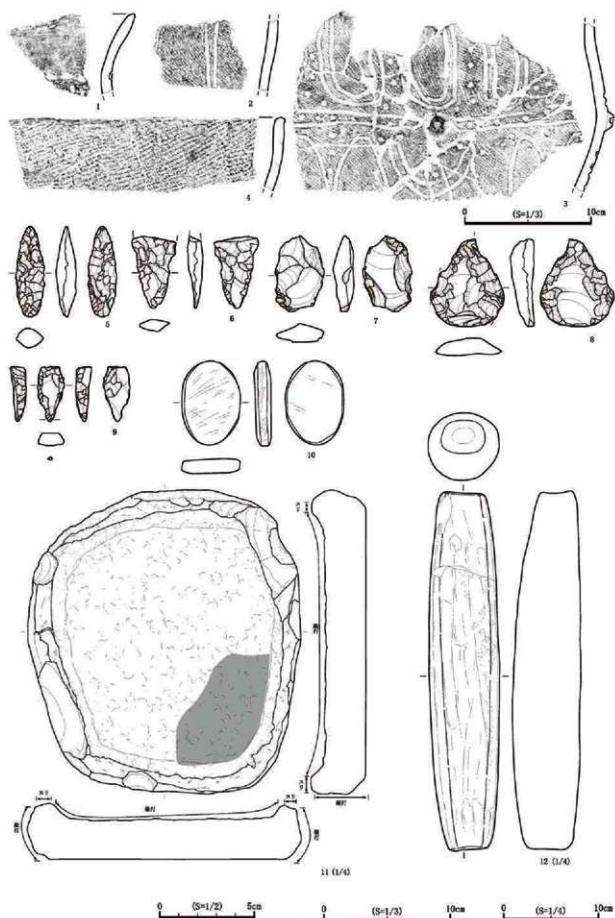


図37 第21号竪穴住居跡出土遺物

埋まったものと判断した。また、石皿と石棒の下面は本住居跡の床面にほぼ接しており、住居との関連性がうかがえる。しかし、床面及び土層断面から、これらを直立させるために掘りくぼめた明瞭な痕跡は確認できなかったため、どのような状態で直立していたのかは不明である。直立させるための掘方を持たない状態で、石皿が直立して埋まるのか疑問の残るところであり、調査時には認識できなかった掘方が存在した可能性も捨てきれないところである。ただし、配石施設、石囲炉、石棒・台石については直線的に配置されることが注意される。

〔炉〕本住居跡の中心から50cm程度東に寄った位置に石囲炉を検出した。炉のさらに30cm東側には配石施設が隣接している。配石施設との位置関係から、当初複式炉の一部と想定し周辺を精査した。しかし、配石施設からは焼土や灰が検出されず、施設を構成する礫の表面に被熱痕跡も観察できなかったことから、複式炉とせず、石囲炉とした。炉を構成する礫は10点で、扁平礫の側面を下にして立たせ、北東-南西方向を長軸とした方形に配置している。比較的大型の礫は北側、小型のものは南側に配置しており、炉石の高低差がみられる。炉石には被熱赤変がみられ、炉内には焼土が検出された。掘方上面には黄褐色土を貼り付けている。

〔出土遺物〕土器はⅡ群日類・Ⅰ類が出土した。図37-3はⅡ群日類である。胴部の最大径部分には貼付文の他、2条の沈線と円形突起による横位区画がみられる。横位区画文の上下には、逆U字状懸垂文ないしは楕円形状・蛇行状の沈線文が施されるものと思われるが、残存部分からは詳細な文様構成を把握し難い。石器は剥片石器類が274g出土したが、礫石器は石皿(図37-11)が出土したのみである。剥片石器は石磯(図37-5)、両面調整石器(図37-6~8)、石錐(図37-9)、微細剥離痕のある剥片、剥片が出土している。図37-11の石皿は敲打整形されており、機能面の一部磨り痕がみられる。図37-10は扁平な楕円形の石製品である。頁岩を素材とし、全面がよく研磨されている。図37-12は、上端部が皿状に浅く凹む砂岩製の無頭石棒である。ほぼ全面に研磨の痕跡が認められ、一部に敲打痕が残る。側面の一部には炭化物が付着している。

〔小結〕本遺構の時期は、縄文時代中期後葉の最花式期と考えられる。

(工藤)

第23号竪穴住居跡 (BS123:図38)

〔位置・確認〕調査区中央西寄りのVI-67-68グリッドに位置する。第Ⅲ層中で確認した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕壁の残存が少なく不明瞭だが、平面形は不整な楕円形と推測される。規模は残存する最長部で2.9m、検出面からの深さは最深部で17cmである。

〔堆積土〕2層に分層した。第1層は暗褐色土ブロックを混入し、第2層は第Ⅲ層中に見られる黄褐色シルトを混入し、床面上に部分的に堆積する。

〔壁・床面〕壁は高低差5cm以内で緩やかに傾斜するが、本来の壁ではなく床面の落ち込みのみが残存した結果である可能性もある。床は、第Ⅲ層の褐色シルト層及びⅣ層の礫層中にやや起伏のある床面を形成する。床面は全体に汚れが認められたが、硬化面・貼床は検出されなかった。

〔柱穴・施設〕北東-南西軸に並んで2基検出された。Pit01・02は規模が近似しており、互いに本遺構の主柱を構成するものと考えられる。Pit01の底面からは柱アタリと考えられる変色範囲が認められた。

〔炉〕本遺構の残存範囲からは検出されなかった。

[出土遺物] 土器、石器が少量出土した。図38-1はⅡ群H類土器の破片である。石器は図示しなかったが二次加工剥片、剥片が17g出土した。

[小結] 本遺構は壁の多くを失った竪穴住居跡と考えられ、出土遺物から縄文時代中期後葉以降のものと考えられる。

第24号竪穴住居跡 (BSI24: 図38)

[位置・確認] 調査区西側のVM-64・65グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。硬化範囲を伴う掘り込み部分をBSI24として調査したが、整理作業時、周辺に位置する焼土遺構及びピットを含めて本住居跡とした。

[重複] 硬化範囲を伴う掘り込み部分と、その内外に分布するピットとの新旧関係は不明である。ピット等が確実に住居跡に帰属するものかは不明である。

[平面形・規模] 硬化範囲を伴う掘り込み部分は、平面形が不整な楕円形を呈し、規模は長軸2.5m、短軸1.6mである。

[堆積土] 第1層が竪穴の床面直上堆積土、第2層が砂礫を多く含む壁際の三角堆積土である。

[壁・床面] 壁面は、第Ⅲ層の黄褐色シルト層とその間層の砂礫層を緩く外傾させて掘り込んでいる。床面は第Ⅲ層のシルト層中にほぼ平坦に形成されるが、全体的に弱い硬化が認められた。

[柱穴・施設] 柱穴は5基検出された。掘り込み部分の壁際で2基、壁外で第1903・1942・1965号ピットの3基を検出した。第1965号ピットからは柱痕が、第1942号ピットの底面からは柱アタリが検出されている。

[炉] 第1号焼土遺構は本遺構の北西側に位置する竪穴炉である。

[出土遺物] 掲載しなかったが、堆積土中から土器の小破片が少量出土している。

[小結] 本遺構は、テラス構造を持つ住居の外壁が削平され、テラス内部が残存したものである可能性がある。帰属時期は遺物が少ないため、時期決定の根拠に乏しく不明である。

第25号竪穴住居跡 (BSI25: 図38)

[位置・確認・重複] 調査区西側のVF-6-58-59グリッドに位置する。第Ⅰ層直下の第Ⅲ層で確認した。現代の水田耕作・畑作によって、壁と堆積土の大半が削平されている。遺構の重複は認められない。

[平面形・規模] 壁が失われており、平面形は不明である。硬化面・床面の残存範囲は、最長4.5mである。

[堆積土] ほぼ失われているが、残存部から比較的均質な暗褐色の堆積土であったと考えられる。

[壁・床面] 壁の残存は確認されなかった。貼床は炉1・2の周囲、硬化面は第Ⅲ層中に偏在して堆積する黄褐色混雑シルト層中でのみ確認され、互いに連続する平坦な床面を形成している。

[柱穴・施設] 検出されなかった。

[炉] 床面範囲の南側に2基の石囲炉を検出した。西側に位置する炉1は土器片数石囲炉である。長軸52cm、短軸43cmの略方形で、長さ12~30cmの扁平礫側縁を上にして個別に埋め込み、炉石としている。内部には外面を上に向けた深鉢形土器の胴部破片が二層構造で敷き詰められる。明瞭な焼土の形成・混入は認められず、一部炉石の内側に黒ずみが認められるのみである。炉1の北東からは炉2が検出された。耕作畝と草木掘乱によって北側の炉石が失われているが、掘方は長軸53cm、短軸41cmの楕円形で、残存する礫と

抜き取り痕から掘方と同形の炉石配置であったと推測される。焼土の形成・堆積土内の混入等は確認されなかった。炉1と炉2の新旧関係は不明である。

〔出土遺物〕図38-2・3は炉1の土器片数部から出土した同一個体のⅡ群B類土器である。口縁部は無文で、胴部に逆U字状懸垂文と刺突文が施される。石器は微細剥離痕のある剥片、剥片が23g出土した。

〔小結〕本遺構は壁を全て失った竪穴住居跡の炉と床が残存したものであり、炉出土土器から縄文時代中期後葉の最花式期に帰属するものと考えられる。(案)

第28号竪穴住居跡 (BSI28a・28b: 図39~42)

〔位置・確認〕調査区北西側の台地縁辺にあたるV1・J-53・54グリッドに位置する。切り株の抜根作業中に現代の造成客土直下で確認した。精査の過程においてBSI28aとBSI28bに分離された。BSI28bはさらに新旧に分かれる。

〔重複〕BSI28aとBSI28bは互いに重複関係を持ち、BSI28aが新しい。

〔出土遺物〕BSI28a・BSI28bの分離以降に取り上げた遺物は、各々の遺構名を付したが、分離以前の遺物はBSI28として取り上げている。そのため、本項目ではBSI28a・BSI28bのいずれに帰属するものか不明な分離以前の遺物について記載することとする。

土器はV・VI群が出土した。図42-2はV群A類の浅鉢形土器で、沈線間に刺突が施される。図42-5は、口縁部が受け皿状の壺形土器で、頸部に隆帯と突起が施され、外面に赤色顔料が塗布される。

石器は剥片石器755g、礫石器600gが出土した。剥片石器は石槍(図42-6・7)、石核、微細剥離痕のある剥片、二次加工剥片、剥片が出土し、礫石器は回石、敲き・磨り石が出土している。

石製品は円盤状石製品1点が出土した(図42-8)。

BSI28a

〔平面形・規模〕北半の壁を失っているため不明であるが、残存部分から隅丸方形か卵形に類する平面形と推測される。確認範囲での規模は長軸3.8m、短軸2.8mである。

〔堆積土〕黒褐色土主体の堆積層で、3層に分層した。堆積土上位は造成時に失われたと推測される。

〔壁・床面〕壁は南西側で第IV層を垂直に掘り込み、壁周溝外壁に連続する。床面は、南西側で第IV層中に、北東側でBSI28b堆積土上に平坦に構築される。BSI28b上では第III層土を混入する最大厚2cmの薄い貼床が認められた。

〔柱穴・施設〕本遺構に伴う柱穴は検出されなかった。壁周溝は確認された壁の全てに伴っており、全周していたものと推測される。幅6~18cm、深さ5~18cmである。北東部の床面からは石組施設が確認された。長さ30~43cmの板状礫の側縁を上方に向けて、74×52cmの八の字に配置されたもので、貼床を掘り込んで構築される。石組内部の貼床が残存し、焼土の形成も認められないことから石組施設としたが、石囲炉等、炉の関連施設であったかもしれない。本施設に使用されている礫は自然礫だけでなく、台石等も含まれている(図40-10・11)。

〔炉〕1基検出した。炉1は石囲土器埋設炉で、南西側の床面上、BSI28b壁周溝上に位置する。掘方は、BSI28b堆積土を掘り込み、開口部が72×50cmの楕円形、底面が径17cmの円形で、深さ18cmで漏斗状の断面形状を呈する。掘方中央には土器の胴部が埋設され、径約50cmの円形に炉石を配置している。炉石には

長さ6~13cmの26個の楕円形円礫が用いられ、各礫の側縁を上面やや中央寄りに傾けた放射状配置が特徴的である。焼土は土器の内外、北東側では炉石の外側にわたって形成される。埋設土器内部の焼土面は外側の焼土面より約2cm低く、発色が弱い。被熱痕跡は炉石の内側にも認められ、特に北東側の炉石は痕跡が明瞭である。

〔出土遺物〕土器はVI・VII群が出土した。図40-1は炉体土器で、口縁部と底部を欠損するVII群の粗製深鉢形土器で、単節原体の横位回転施文である。土器外面に付着した炭化物の放射性炭素年代測定の結果、通常と異なる処理濃度のため参考値ではあるが、 $2,810 \pm 20 \text{yrBP}$ の測定値が得られた(第4章第1節参照)。図40-2は横位平行沈線が施される。図40-5・6は同一個体の粗製深鉢形土器で、接合率が良好でないが、床面直上から個体で出土した土器である。石器は剥片石器類395g、礫石器類40kgが出土した。礫石器の出土量が突出しているのは台石が多く出土しているためである。剥片石器は石核、微細剥離面のある剥片、剥片が出土し、礫石器は台石(図40-8・10・11・図41-1・2)、凹み石(図40-9)、敲き・磨り石(図40-12)が出土した。図40-8は南東側床面で出土した台石で両面に赤色顔料が付着している。この赤色顔料については分析を行っており、ベンガラの結果が得られている(第4章第2節参照)。

BSI28b(新・旧)

〔平面形・規模〕北西壁が失われているが、残存部分からやや不整な円形と推測される。規模は長軸3.6m、短軸3.4m、床面積 8.0 m^2 である。

〔堆積土〕6層に分層した。BSI28a 貼床直下に残存し、上位は黒褐色土、下位は黒色土が堆積する。

〔壁・床面〕壁は北東側で第II a-1~III層、それ以外では第IV層を垂直に掘り込み、壁周溝外壁に連続する。床面は第III~IV層中に平坦に構築され、北西側では暗褐色ないし黒色土の貼床が認められた。

〔柱穴・施設〕柱穴は、BSI28b(新)の壁周溝内を中心に24基、貼床直下のBSI28b(旧)壁周溝内から3基検出された。(新)では径22~45cm、深さが南西部で16~26cm、東部で15~35cm、北西部で26~52cm、(旧)では径35~51cm、深さ17~25cmである。(新)では壁際に連続して配置されるが、北側・南側・西側で90~120cmの間隔が空けられる。壁周溝は幅20~34cm、深さ11~26cmで、(新)北東側と(旧)では深く幅広となる。(新)の壁周溝・壁柱穴は堆積土内に礫の混入が多く、東側壁柱穴・南側壁周溝では特に混入密度が高い。

〔炉〕BSI28b(新)の床面上で2基、BSI28b(新)貼床直下でBSI28b(旧)に属する1基を検出した。炉1・炉2は、BSI28b(新)壁穴中央部やや東寄りに、南北に並んで位置する。北側の炉1は、検出面・断面の観察から筒状の焼土形成が認められたことから、土器が抜き取られた石囲土器埋設炉と考えられる。掘方は $45 \times 34 \text{ cm}$ 、深さ11cmの鍋底形で第IV層中に構築される。炉石は長さ23cmまでの扁平礫が用いられ、 $67 \times 38 \text{ cm}$ の卵形様に掘方縁辺に配置される。堆積土内の焼土層は垂直に分層され、境界面では鉄分沈着による焼土の凝固が認められた。炉石の被熱はほぼ全てに認められ、焼土に面した部分で特に顕著である。炉2は炉1南側に隣接する石囲土器埋設炉である。掘方は $53 \times 41 \text{ cm}$ 、深さ10cmの鍋底形で第IV層中に構築される。中央には土器が二重構造に、縁辺南側には長さ10cm前後の楕円礫を弧状配置した炉石が埋め込まれる。焼土は土器の内外に、ほぼ高低差なく形成される。炉3は炉2の北西に位置し、BSI28b(新)の貼床直下で検出された。第IV層中に深さ12cm、 $62 \times 53 \text{ cm}$ の楕円形で掘方が構築され、暗褐色土の堆積土面上から底面に至る焼土が形成されている。北東の掘方内には楕円礫が立っており、炉石の大半を抜き取られた石囲炉で

あった可能性が高い。

〔出土遺物〕 出土土器は、本遺構が第Ⅱa-1層を掘り込んで構築されているためか、時期幅がみられる。炉2の炉体としてⅥ群の粗製土器（図41-3～5）、床直からⅣ群B類の復元個体（図41-6・7）、炉3の掘方の可能性があるPit02及び壁周溝を中心に縄文時代後期後葉から晩期前葉の破片資料（図41-8～11）、堆積土中からは縄文時代晩期中葉から晩期後葉の破片資料が出土した。図41-3は無文の深鉢形土器で、底部が上げ底状である。図41-4・5は口唇部が平坦に調整され、明瞭な稜をもつ。図41-6・7は同一個体で、口縁部に突起及び崩れた羊歯状文が施され、底部が上げ底状である。図41-12はⅤ群の鉢形土器、図41-13はⅥ群の浅鉢形土器である。剥片石器類はスクレイパー（図41-17）、石核、微細剥離痕のある剥片、二次加工剥片、剥片等902gが出土した。礫石器類は炉3に使用された台石（図42-1）が出土した。

〔小結〕 本遺構はBS128a・BS128b(新)・BS128b(旧)の3棟の竪穴住居跡が重複したものである。それぞれの帰属時期は、出土遺物からBS128aが概ね縄文時代晩期後半、BS128bが概ね縄文時代晩期前半の可能性が考えられる。

第32号竪穴住居跡（BS132：図42）

〔位置・確認・重複〕 調査区北西の斜面際、VM-54グリッドに位置する。木田造成時の排土直下、第Ⅳ層中で確認した。斜面方向の北西側は失われている。遺構の重複は認められない。

〔平面形・規模〕 平面形は、残存部分から北東-南西方向に軸を持つ楕円形と推測される。規模は残存する最長部で2.0m、検出面からの深さは最深部で28cmである。

〔堆積土〕 貼床を除いては暗褐色土の単一層として認識した。

〔壁・床面〕 壁は第Ⅳ層砂礫層を斜めに掘り込み、同層中に起伏のある掘方底面を形成する。南側では黒褐色土の貼床が残存し、上面に弱い硬化が認められた。

〔柱穴・施設・灰〕 本遺構の残存範囲からは検出されなかった。

〔出土遺物〕 土器は、主にⅥ群・Ⅶ群が出土した。図42-9は堆積土中から個体で出土した壺形土器である。胴部は大きく膨らみ、胴部中心に最大径をもつ。口頸部は無文で、胴部には単節原体の横位回転施文がみられる。石器は掲載しなかったが二次加工剥片、剥片が56g出土した。

〔小結〕 本遺構は小型の竪穴住居跡と考えられ、出土遺物から縄文時代晩期後葉と考えられる。（秦）

第33号竪穴住居跡（BS133：図43・44）

〔位置・確認〕 調査区北西側のV0・P-66・67グリッドに位置する。第Ⅲ層検出時に小ピットが弧状に巡っている状況を確認した。しかし、壁の立ち上がり等を確認できなかったことと、ピットが完全に巡っていないこと、その他にも複数の土坑等が検出されたことから、個別の遺構番号を付し調査を行い、整理時に各遺構の検討を加えて住居跡とした。第116・144・159号土坑は平面形及び堆積土の状況等から本住居跡に関連する遺構と判断し、本遺構に含めた。特に第144号土坑は柱痕が検出されている。

〔重複〕 本住居跡よりも古い遺構としては第114号土坑（BⅡ群土坑）、第207号土坑（BⅠ群土坑）があり、新しい遺構としては第117・247号土坑（BⅠ群土坑）がある。

〔平面形・規模〕 小ピットは東から南にかけて「J」字状に連続して検出されていることから、南北に長軸方

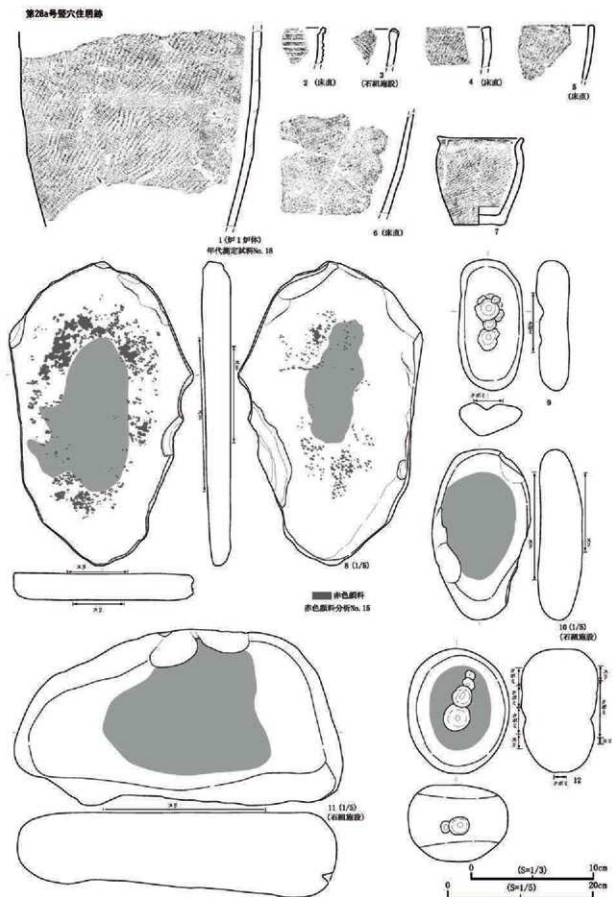
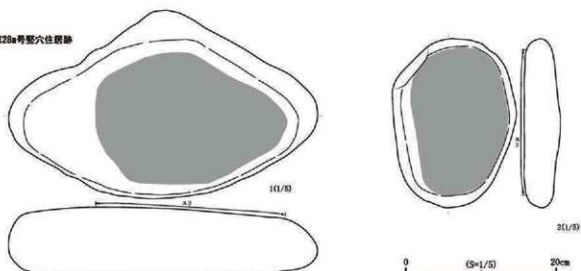


図40 第28a・28b号竖穴住居跡出土遺物(1)

第28a号竪穴住居跡



第28b号竪穴住居跡

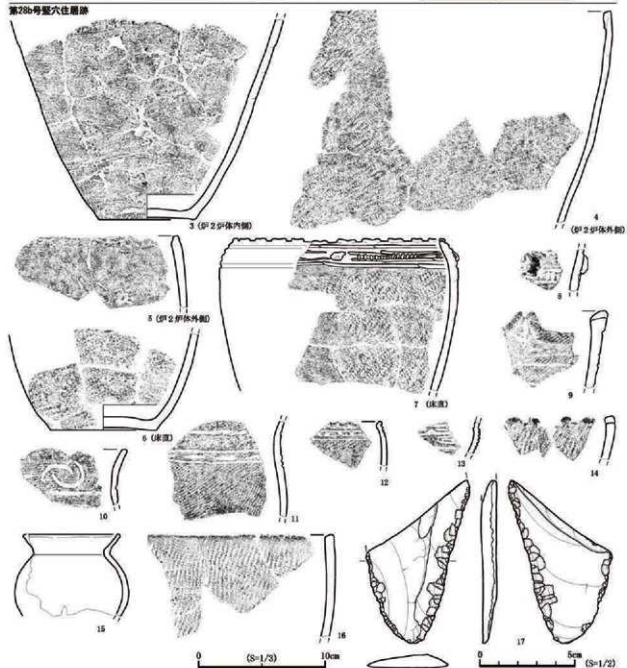
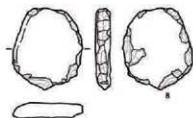
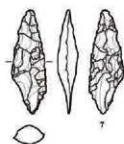
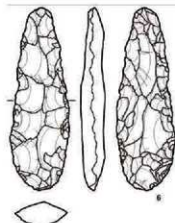
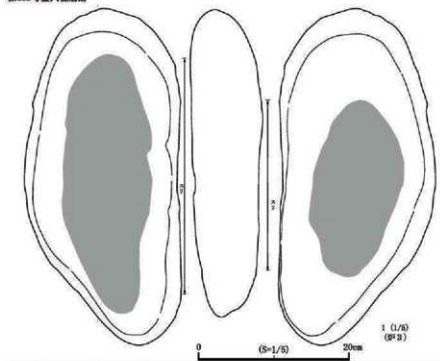


圖41 第28a・28b号竪穴住居跡出土遺物(2)

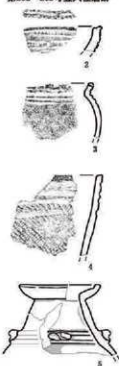
第28b号竪穴住居跡



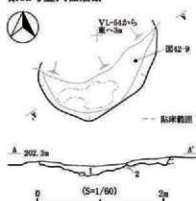
0 (S=1/2) 5cm

0 (S=1/3) 10cm

第28a・28b号竪穴住居跡



第32号竪穴住居跡



第32号竪穴住居跡 (05132)

第1層 10YR3/3 暗褐色土 炭(φ2~40mm)10%, 炭化物(φ1~9mm)2%

第2層 10YR2/3 黒褐色土 炭(φ2~20mm)7%, 炭化物(φ1~5mm)0%, 灰土



0 (S=1/3) 10cm

図42 第28a・28b・32号竪穴住居跡・出土遺物

向をとる楕円形であったと考えられるが、北側においてピットを検出できなかったため長軸規模は不明である。しかし、現存している東西方向の短軸は6.7m前後あることから大型の住居跡であったと考えられる。

〔堆積土・壁・床面〕床面近くでの検出であるため、堆積土・壁の状況等は不明である。また、床面と考えられる検出面からも特に硬化した範囲等は検出されなかった。

〔柱穴・施設〕47基のピットと3基の土坑を本遺構に含めたが、柱痕が確認できたのは第144号土坑と第1545号ピットだけで、これらを用いた支柱穴案を図示した(図43)。

〔炉〕床面の中心よりも若干西にずれた位置から地床炉を検出した。炉は38cm×53cmの規模で不整形に被熱している。その度合いは比較的強く、約6cmの厚さで均一に被熱している。

〔出土遺物〕図44-1・2はVI群の深鉢形土器で横位平行沈線が施される。図44-3はVI群の台付浅鉢で、内面に円形の沈線が施される。石器は石鏃、微細剥離痕のある剥片、剥片、蔽き石等733.9gが出土した。図44-4は石鏃Ⅱb類で、基部にアスファルトが付着している。図44-5は剥片にアスファルトが付着したもので、掻き取り具として使用された可能性がある。

〔小結〕縄文時代晩期後葉の土器が出土しているが、出土遺物が少量かつ小破片である。本遺構の時期は縄文時代晩期と考えられるが、詳細な時期は不明である。(小山)

第34号竪穴住居跡(BSI34:図44・45)

〔位置・確認〕調査区北側の台地縁辺部、VIN~P-72~74グリッドに位置し、第Ⅱ・Ⅲ層で確認した。複数の焼土・柱穴・溝跡等で構成されるが、これら全てが本遺構に帰属するものかは不明である。整理作業時、焼土・柱穴・溝跡等が集中する範囲を竪穴住居跡と認定した。図中には発掘調査時の遺構名を示した。

〔重複〕本遺構を構成するものとした中での重複関係が認められる。第1752号ピットは第194号土坑よりも新しい。溝跡底面からピットを複数基検出したが、溝跡とピットの構築に時期差があるかは不明である。

〔平面形・規模〕本遺構の西側は斜面となるため、全体的な平面形や規模は把握し難いが、東西・南北ともに約10mの範囲で焼土・柱穴・溝跡等がまとまって分布する。

〔堆積土〕柱穴・溝跡内の堆積土は、暗褐色土ないし褐色土を主体とする。

〔壁・床面〕壁・貼床等は検出されなかった。

〔柱穴・施設〕柱穴の可能性が考えられるものは、土坑として調査したものも含めて19基検出した。第1548・1582・1757号ピットの3基と第1638・1700・1758号ピットの3基は、東西軸で直線上に並び、平面長方形の6本の支柱穴配列が想定されるが、深さ及び底面標高値にばらつきがみられる。柱間距離は、東西方向の第1548・1757号ピット間が6.1m、南北方向の第1548・1700号ピット間が2.4mである。柱穴の規模は、径約30~60cm、深さ約30~60cmのものが主体である。第194号土坑は径約140cm、深さ34cmで、他と比較してやや大型である。第1548号ピットの底面からは径11cmの柱アタリ、第1700号ピットの土層断面では柱痕を確認した。第1583号ピットの底面付近からは、棒状の自然礫が横位の状態で出土している。溝跡は3条検出した。本遺構東側の第2号溝跡は緩い弧状、本遺構南側の第3・4号溝跡は直線的な平面形状である。溝跡の規模は、第2号溝跡が幅69cm、深さ44cm、第3号溝跡が幅117cm、深さ80cm、第4号溝跡が幅83cm、深さ63cmである。

〔炉〕地床炉を6基検出した。焼土範囲は、50~80cm前後のものが主体であるが、第6号焼土遺構が30×20cm、第10号焼土遺構が190×85cmである。焼土の厚さは6~8cmのものが多く、第8・10号焼土遺構には掘

方を伴う。第10号焼土遺構は、焼土及び掘方の規模が他と比較して特に大きく、廃棄焼土の可能性もある。

〔出土遺物〕溝跡等から土器、石器が少量出土した。図45-1・2はⅡ群A類土器、図45-3・4はⅡ群F類土器である。石器は剥片が83.9g出土した。

〔小結〕縄文時代中期中葉から中期後葉にかけての土器が少量出土しているが、本遺構の帰属時期を明確に示すものではなく、詳細な時期は不明である。

第35号竪穴住居跡 (BSI35 : 図45)

〔位置・確認〕調査区北側のVIN・0-75グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で、炉と推測される土器埋設遺構及びその周辺に暗褐色の円形プランを確認した。本遺構は、第195号土坑、第24号土器埋設遺構として調査したが、整理時に各遺構の検討を加えて住居跡とした。図中には発掘調査時の遺構名を示した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕本遺構は床面での検出であるが、床面下部の掘方は長軸2.6m、短軸2.1mの不整楕円形である。掘方の深さは24cmである。

〔堆積土〕3層に分層した。第1・2層は土器埋設遺構内の堆積土である。暗褐色土を主体とし、炭化物を微量含むが、焼土等は検出されなかった。第3層は、床面下部の掘方堆積土である。

〔壁・床面〕本遺構は床面での検出のため、壁面の状況は不明である。硬化面等は検出されなかった。

〔柱穴・施設〕本遺構の南側から、柱穴を1基検出した。柱穴の規模は径28cm、深さ18cmである。

〔炉〕住居中央部付近と推測される位置から、土器埋設遺構を1基検出した。土器埋設遺構からは、焼土等が検出されていないが、掘方内における位置関係から土器埋設炉と推測される。径37cm、深さ16cmの掘方に、口縁部と底部を欠損する土器(図45-5)が正位に埋設されている。

〔出土遺物〕図45-5はⅡ群I類土器で、接合率は良好でなく、復元個体にならなかった。図45-6は、床面下部の掘方から出土したⅡ群F類土器である。石器は出土しなかった。

〔小結〕本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉頃と考えられる。

第36号竪穴住居跡 (BSI36 : 図45)

〔位置・確認〕調査区北側のVIQ-74グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で、焼土範囲及びその周辺に褐色の円形プランを確認した。本遺構は、第189号土坑、第13号焼土遺構、第1654号ピットとして調査したが、整理時に各遺構の検討を加えて住居跡とした。図中には発掘調査時の遺構名を示した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕床面での検出であるが、床面下部の掘方は、径2.0mのほぼ円形で、深さ14cmである。

〔堆積土〕第1層が焼土、第2層が炉掘方の堆積土、第3・4層が床面下部の掘方堆積土である。

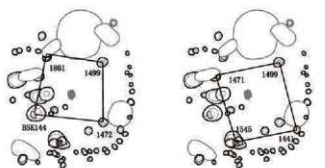
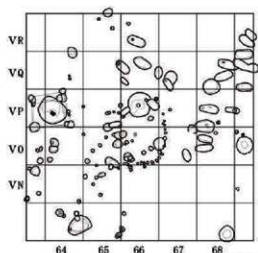
〔壁・床面〕本遺構は床面での検出のため、壁面の状況は不明である。土層断面では、第3層の一部がやや硬化している状況を確認した。

〔柱穴・施設〕本遺構の西側から、柱穴を1基検出した。柱穴の規模は径34cm、深さ28cmである。

〔炉〕住居中央部付近と推測される位置から、地床炉を1基検出した。焼土範囲は長軸26cm、短軸20cmの不整円形で、焼土の厚さは5cmである。

〔小結〕本遺構からは遺物が出土しておらず、詳細な時期は不明である。

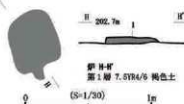
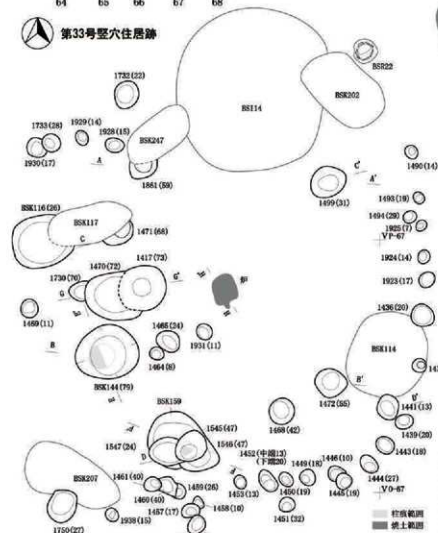
(最上)



主柱穴案 1/200



第33号竪穴住居跡



主柱穴

第1層 7.5YR4/6 褐色土

(S=1/30)

0 1m

202.7m

1470 1417

1 1 2 3

202.6m

1470 1417

1 1 2 3

202.6m

1470 1417

1 1 2 3

202.6m

1470 1417

1 1 2 3

202.6m

1470 1417

1 1 2 3

202.6m

1470 1417

1 1 2 3

202.6m

1470 1417

1 1 2 3

202.6m

1470 1417

1 1 2 3

202.6m

1470 1417

1 1 2 3

202.6m

1470 1417

1 1 2 3

202.6m

1470 1417

1 1 2 3

202.6m

1470 1417

1 1 2 3

202.6m

1470 1417

1 1 2 3

202.6m

1470 1417

1 1 2 3

202.6m

1470 1417

1 1 2 3

202.6m

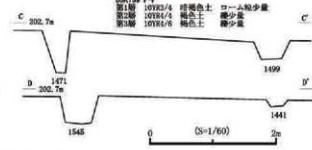
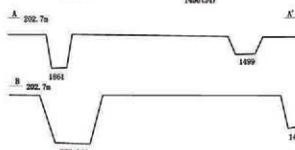


図43 第33号竪穴住居跡

第33号竪穴住居跡



第34号竪穴住居跡

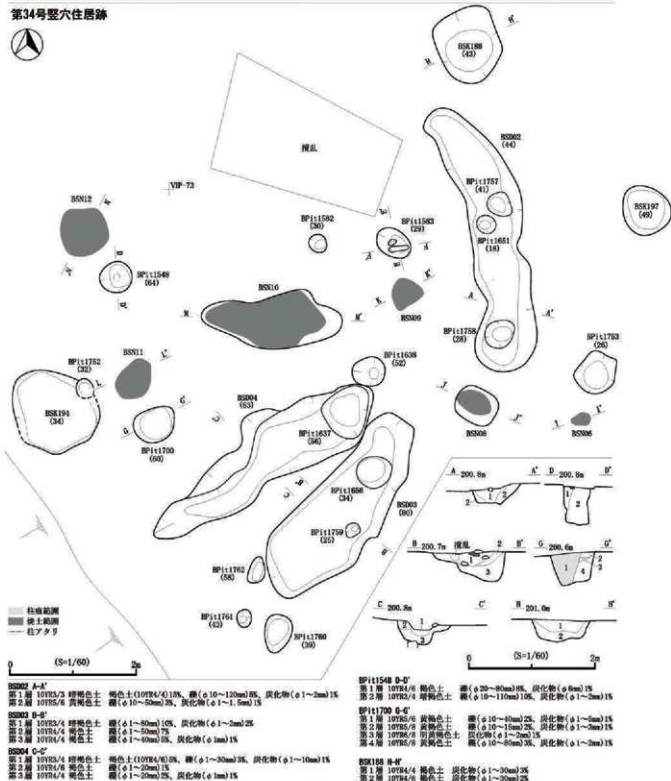


図44 第33・34号竪穴住居跡・出土遺物

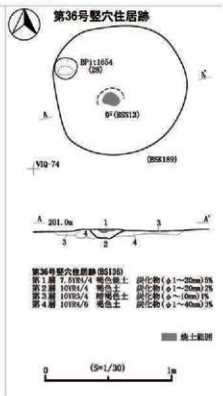
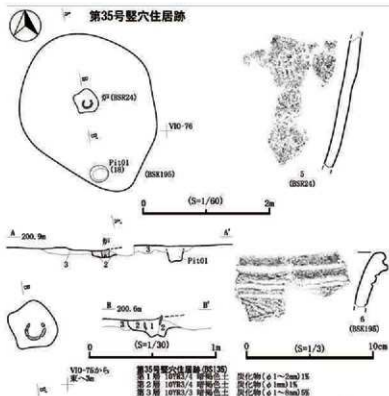
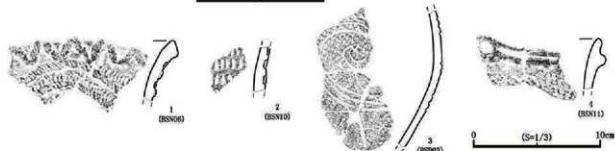
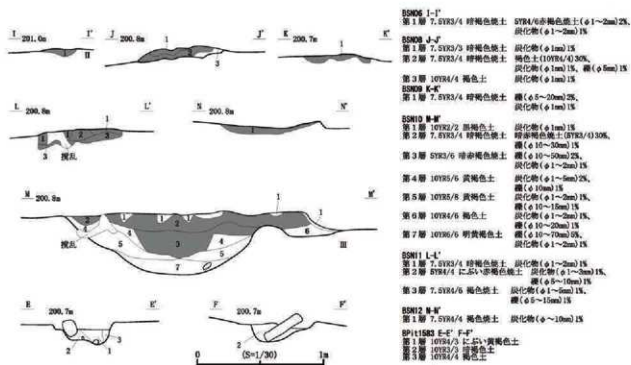


図45 第34・35・36号竪穴住居跡・出土遺物

第2節 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は11棟検出した。掘立柱建物跡を構成する柱穴には、遺構番号とは別に柱番号を付した。平面図には柱痕及び柱アタリ等を基準に柱穴を線で結び、その長さを柱間距離として計測して図中の表に示した。表中の柱痕径は、柱痕の網掛けがあるもの他に、柱アタリの規模及び柱裏部分に堆積したと思われる粘土範囲の規模も含めて計測した。また、面積は線で囲まれた範囲内の値である。

第1号掘立柱建物跡 (BSB01: 図46・52)

[位置・確認] 調査区東端のVU・V-109・110グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

[重複] 本遺構を構成する柱穴と直接の重複関係は認められないが、本遺構と第36号土坑(BⅡ群土坑)とが重複する位置にある。第36号土坑は本遺構の柱3(BPit1204)に近接し、建物跡の中央部分からやや南西寄りの箇所位置するが、出土遺物から本遺構とほぼ同時期のものと考えられ、本遺構に伴う付属施設の可能性もある。

[平面形・規模] 6本柱の建物跡で、平面形は棟持柱が大きく張り出す亀甲形である。主軸方向はW-4°-Nでほぼ東西である。柱間距離は、柱5-6間が4.5m、柱1-2間が3.0m、その他2.7mである。

[柱穴・堆積土] 柱穴掘方は柱1~4が長軸31~47cm、柱5・6が長軸22~28cmで、棟持柱と考えられる後者がやや小規模である。検出面からの深さは22~38cmで、底面標高値での高低差は9cmの範囲に収まる。柱痕は全ての柱穴に認められた。柱痕の規模は径約15~20cmである。柱5・6の柱痕は土層断面でのみ確認できたが、各々6~9°内側に向かって傾斜する特徴がある。柱痕堆積土は暗褐色土、掘方堆積土は褐色土が主体である。

[出土遺物] Ⅲ群C1類の深鉢形土器等が出土した(図52-1~3)。1は柱3の掘方出土である。

[小結] 本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代後期後葉と考えられる。

第2号掘立柱建物跡 (BSB02: 図46)

[位置・確認・重複] VW・X-80グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。重複は認められない。

[平面形・規模] 6本柱の建物跡で、平面形は棟持柱がわずかに張り出す亀甲形である。主軸方向はW-59°-Nである。柱間距離は、南北で柱1-4間が3.2m、柱2-3間が3.1m、5-6間が3.7m、東西で柱1-2間と柱3-4間が共に2.7mである。

[柱穴・堆積土] 柱穴の平面規模は、柱3・5が径30cm前後、柱1・4が径50cm前後、柱2・6が径80cm前後である。検出面からの深さは柱1~4が43~50cm、柱5・6が30cm前後で、棟持柱と考えられる後者がやや浅い。柱痕は、柱3・6の土層断面でのみ確認できた。柱痕の規模は柱3が径33cm、柱6が径50cmである。柱痕堆積土は暗褐色土、掘方堆積土は褐色土が主体である。柱1の底面付近からは24×17cmの扁平な自然礫が検出された。

[小結] 遺物が出土しておらず、本遺構の詳細な時期は不明である。

第3号掘立柱建物跡 (BSB02: 図47)

[位置・確認] VU・V-76・77グリッドに位置する。第Ⅳ層上面で確認した。

[重複] 第4号竪穴住居跡と重複し、新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 4本柱の建物跡で、平面形は方形である。主軸方向はN-6°-Eでほぼ南北である。

柱間距離は、南北で柱1-2間が3.0m、柱3-4間が3.2m、東西で柱1-4間と柱2-3間が共に3.6mであり、東西方向がやや長い。

〔柱穴〕柱穴の平面規模は約50～60cm、検出面からの深さは31～47cmで、ほぼ同規模の柱穴で構成される建物跡である。土層図は作成していないが、堆積土は暗褐色土を主体とする単層である。

〔小結〕遺物が出土しておらず、本遺構の詳細な時期は不明である。 (最上)

第4号掘立柱建物跡 (BSB04: 図47・52)

〔位置・確認〕調査区北西側のVP-63・64グリッドに位置する。第1層直下の第III層上面で確認した。

〔重複〕第17号竪穴住居跡、第1768号ピットより新しく、第5号掘立柱建物跡の柱2、第1910号ピットより古い。また、第5号掘立柱建物跡は本遺構と柱3 (BPit1735) を共有する。

〔平面形・規模〕4本柱の建物跡で、平面形は不等辺四角形である。主軸方向はW-7°-Sでほぼ東西である。柱間距離は東西で柱1-2間が2.8m、柱2-3間が3.4m、南北で柱1-2間が2.8m、柱3-4間が2.9mである。

〔柱穴・堆積土〕柱穴掘方は柱1・2が長軸64～73cmで規模が似通う。柱3と柱4はそれぞれ長軸109cm、48cmと不揃いなものとなる。検出面からの深さでも柱3以外は38～56cmの範囲内であるが、柱3は89cmと異質である。底面標高値は柱3が201.32m、他が201.78～201.90cmである。柱痕は柱2～4で認められた。確認面での柱痕規模は径20～47cmである。柱4の底面からは長軸20cmの楕円形の凹み(柱アタリ)が検出されている。柱痕堆積土は暗褐色土、掘方堆積土は褐色土が主体であるが、柱3では褐色土主体で、堆積土上部に長軸47cmの黄褐色ローム(粘土)堆積層が認められた。

〔出土遺物〕VI群土器が少量出土した(図52-4・5)。4は柱1から出土した浅鉢形土器片である。

〔小結〕本遺構はBSB05古段階に相当し、出土遺物から縄文時代晩期後葉～末葉の時期と考えられる。

第5号掘立柱建物跡 (BSB05: 図48・52)

〔位置・確認〕調査区北西のVP-63・64グリッドに位置する。第1層直下の第III層上面で確認した。

〔重複〕第4号掘立柱建物跡の柱2、第1768・1910号ピットより新しい。また、第4号掘立柱建物跡は本遺構と柱3 (BPit1735) を共有する。

〔平面形・規模〕4本柱の建物跡で、平面形は略方形である。主軸方向はW-7°-Sでほぼ東西である。柱間距離は南北で柱1-2間が3.6m、柱3-4間が3.4m、東西で柱1-4間が3.5m、柱2-3間が4.0mである。

〔柱穴・堆積土〕柱穴掘方は柱1・2・4が長軸63～80cmで規模が似通う。柱3を除き、検出面からの深さは53～76cm、底面標高値は201.64～201.72cmの範囲内に収まる。柱痕は柱1・2で認められた。確認面での柱痕規模はそれぞれ径31cm・40cmである。柱痕堆積土は柱1・4が暗褐色土主体で、柱1は柱痕上部に黄褐色ローム優位の堆積が、柱4からは長さ25cm以上の礫の混入が認められた。

〔出土遺物〕土器は、柱1の堆積土を中心にVI群・VII群土器が出土した(図52-6～11)。6～9はVI群土器で、横位の平行沈線文を基調とする。石製品は、柱1の堆積土上位から頁岩製の岩版1点が出土した(図52-12)。平面形は楕円形で、全面に研磨調整が認められる。正面には、正中線と横位多条の線刻が施され、重ね書きの痕跡が顕著である。裏面には、左右対称の線刻モチーフが2重に施されるが、中央寄りの線刻の方が幅狭で浅く、下書きの可能性が考えられる。側面には線刻が一巡する。

[小結] 本遺構は柱3の共有関係、他遺構との重複関係より第4号掘立柱建物跡拡張後の新段階を構成する建物跡と考えられる。本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代晩期後葉～末葉と考えられる。

第6号掘立柱建物跡 (BSB06 : 図48・52)

[位置・確認] 調査区北西のVM・N-62・63グリッドに位置する。第Ⅱ・Ⅲ層中で確認した。

[重複] 第1708・1912号ピットより新しい。

[平面形・規模] 4本柱の建物跡で、平面形はやや不整な長方形である。主軸方向はN-2°-Eでほぼ南北である。柱間距離は南北で柱1-2間が3.9m、柱3-4間が4.0m、東西で柱1-4間が3.4m、柱2-3間が3.0mである。

[柱穴・堆積土] 柱穴掘方は柱2～4が53～57cmと規模が似通う中、柱1のみ長軸80cmを超える。検出面からの深さは30～62cm、底面標高値は201.12～201.86mである。柱痕は柱1・3で認められた。確認面での柱痕規模は径30～50cmである。掘方堆積土は暗褐色土が主体であるが、柱3・4では柱痕上面を覆う黄褐色粘質土の堆積が認められた。柱4の底面中央には変色範囲が認められ、柱アタリ痕跡と考えられる。また、柱1の掘方埋め土、柱3の柱痕縁辺部では長さ約25cmの扁平礫が直立して検出された。

[出土遺物] 柱1・3の堆積土からVI群土器が少量出土した(図52-13・14)。13は胴部に矢羽根状の沈線文が施される。

[小結] 本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代晩期後葉～末葉と考えられる。

第7号掘立柱建物跡 (BSB07 : 図49)

[位置・確認] 調査区北西のVM・N-61グリッドに位置する。第Ⅲ層中で確認した。

[重複] 第11号掘立柱建物跡の柱2、第1509・1729号ピットより古い。

[平面形・規模] 4本柱の建物跡で、平面形は略方形である。主軸方向はN-10°-E。柱間距離は南北で柱1-2間が3.2m、柱3-4間が3.3m、東西で柱1-4間が2.9m、柱2-3間が2.9mである。

[柱穴・堆積土] 柱穴掘方は柱1・2がそれぞれ長軸54・56cm、柱3・4が77・79cmと、列の東西で平面規模が異なる。検出面からの深さでも東列は約20cm深いが、底面標高での高低差は8cm以内に収まる。柱痕は柱1のみ確認された。確認面での柱痕規模は径24cmである。

[小結] 遺物が出土しておらず、本遺構の詳細な時期は不明である。

第8号掘立柱建物跡 (BSB08 : 図49・52)

[位置・確認] 調査区北西のVM・N-59・60グリッドに位置する。第Ⅲ～Ⅳ層上面で確認した。

[重複] 第1791号ピットより新しく、第1522号ピットより古い。また、第11号掘立柱建物跡は本遺構と柱3 (BPit1543) を共有する。

[平面形・規模] 4本柱の建物跡で、平面形は台形様の不等辺四角形である。主軸方向はN-30°-W、柱間距離は東西で柱1-4間が3.4m、柱2-3間が3.3m、南北で柱1-2間が3.3m、柱3-4間が3.7mである。

[柱穴・堆積土] 柱穴掘方は、柱1・4が長軸95～99cmとほぼ同様の平面規模であるのに対し、柱2は67cm、柱3は121cmと幅がある。底面標高値では柱1・2・3・4の順で低くなり、砂礫層中に構

築された柱3・4と1・2では33～61cmもの高低差が生じている。柱痕は柱2・4で認められた。平面規模は径24～26cmで、柱2の柱痕直上では礫の集中が、柱4では黄褐色ローム（粘土）のレンズ状堆積と直立する扁平礫が認められた。

〔出土遺物〕VI群土器が少量出土した（図52-15）。

〔小結〕本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代晩期後葉～末葉と考えられる。

第9号掘立柱建物跡（BSB09：図50・52）

〔位置・確認〕調査区北西のVN・0-60・61グリッドに位置する。第IV層上面で確認した。

〔重複〕第1361・1362・1529・1589号ピットより新しく、第1533号ピットより古い。

〔平面形・規模〕4本柱の建物跡で、平面形は長方形である。主軸方向はN-32°-E、柱間距離は主軸方向で柱1-2間が6.1m、柱3-4間が5.8m、短軸方向で柱1-4間が4.4m、柱2-3間が4.2mである。

〔柱穴・堆積土〕柱穴掘方は柱1～3が最大長85～99cmであるのに対し、柱4が56cmと他より平面規模が下回る。柱4の底面は、標高値においても他より13～34cm高い。柱痕は柱2・柱3で認められた。確認面での柱痕規模は径30～35cmである。各柱穴内堆積土は、柱痕で暗褐色土、埋土部で暗褐色～褐色土が主体であるが、柱1の堆積層上位、柱2の柱痕直上では褐色～黄褐色のローム（粘土）の堆積が認められた。長さ20cmを超える礫の混入は柱2・3で顕著であるが、混入位置は柱2が柱痕直上、柱3で柱痕周囲の埋め土内と傾向が分かれる。

〔出土遺物〕柱2の柱痕上からは、図52-16の台石が直立状態で出土した。

〔小結〕時期比定が可能な遺物が出土しておらず、本遺構の詳細な時期は不明である。

第10号掘立柱建物跡（BSB10：図51）

〔位置・確認〕調査区北西のVM・N-61・62グリッドに位置する。第III～IV層上面で確認した。

〔重複〕第1719号ピットより新しく、第1734号ピットより古い。

〔平面形・規模〕4本柱の建物跡で、主軸方向をN-40°-Eにもつ台形様の平面配置をとる。柱間距離は北東辺の柱1-4間が3.0m、南西辺の柱2-3間が3.7m、北西辺の柱3-4間が3.9m、南東辺の柱1-2間が3.8mである。

〔柱穴・堆積土〕各柱穴の掘方は平面長軸54～83cm、底面標高201.92～202.16mの範囲内で収まるが、規模では北西辺の柱3・4が大きく、底面標高では柱1・2が深い。柱痕の検出は柱4のみである。柱1からは、通常柱痕が検出される位置に浅黄褐色ローム粒が多量に混入する。

〔出土遺物〕掲載しなかったが、土器の細片が少量出土している。

〔小結〕時期比定が可能な遺物が出土しておらず、本遺構の詳細な時期は不明である。

第11号掘立柱建物跡（BSB11：図51・52）

〔位置・確認〕調査区北西のVM・N-60・61グリッドに位置する。第IV層上面で確認した。

〔重複〕第7号掘立柱建物跡の柱3、第1791号ピットより新しく、第1522号ピットより古い。また、第8号掘立柱建物跡は、本遺構と柱3（BPit1543）を共有する。

〔平面形・規模〕4本柱の建物跡で、略方形の平面形である。主軸方向はN-6°-Eでほぼ南北である。

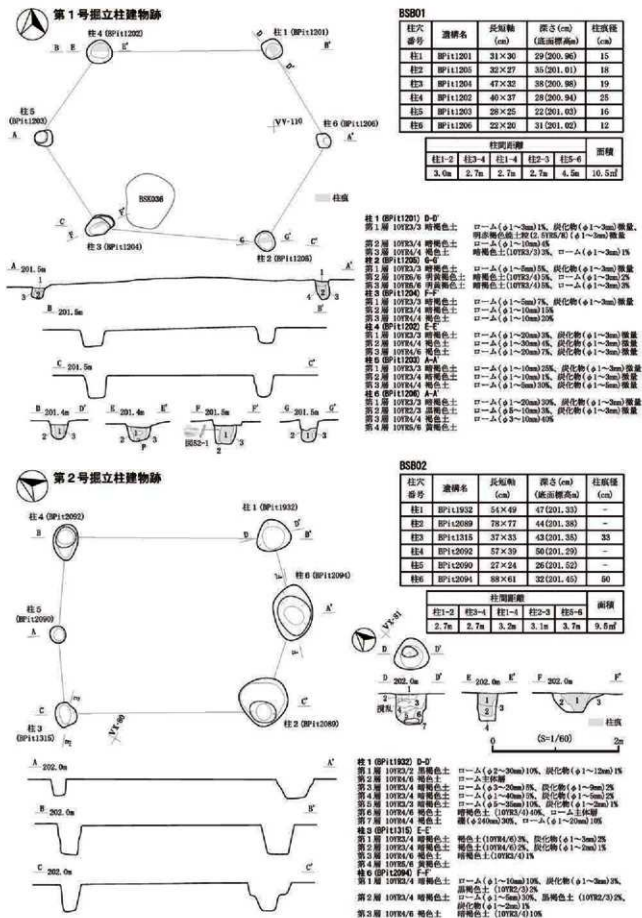
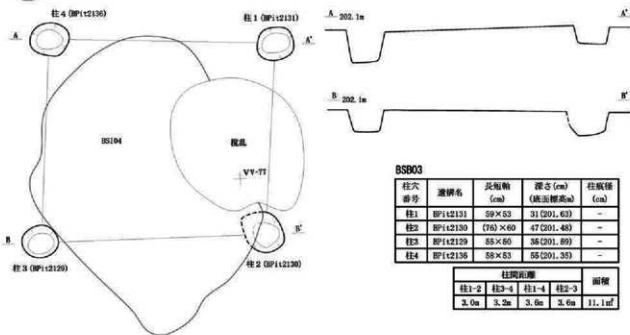


図46 掘立柱建物跡 (1)

第3号掘立柱建物跡



第4号掘立柱建物跡

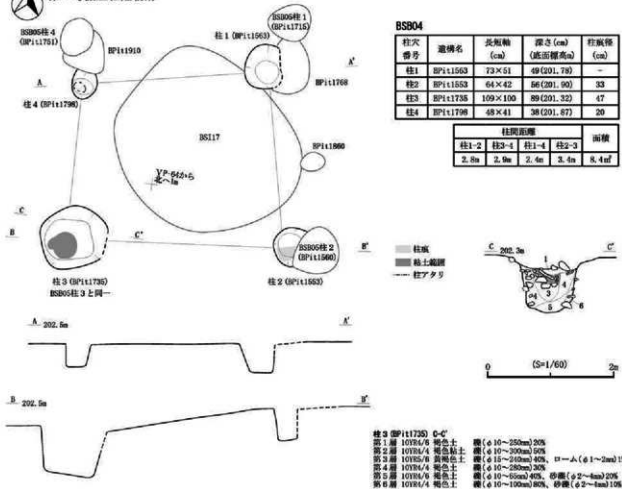


図47 掘立柱建物跡(2)

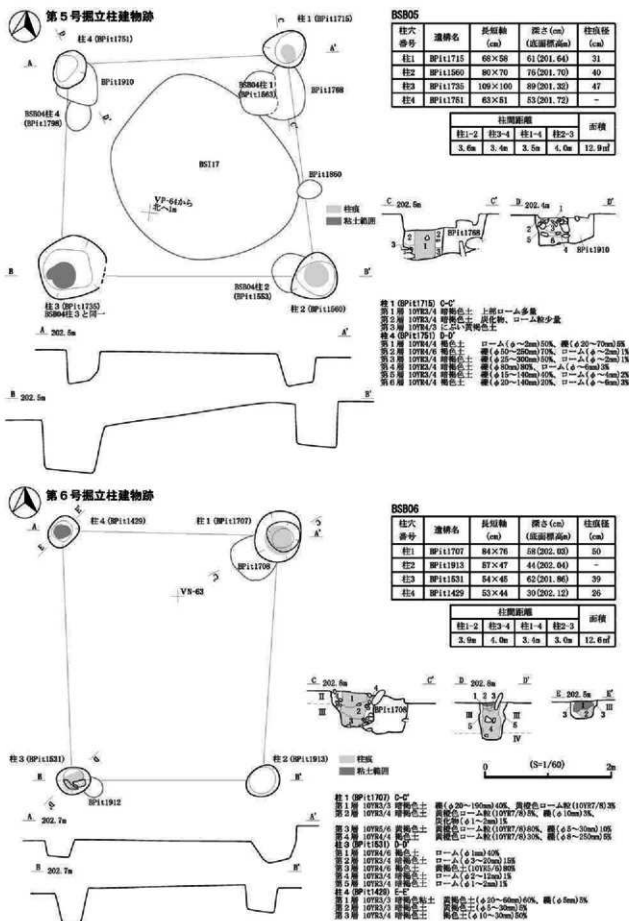
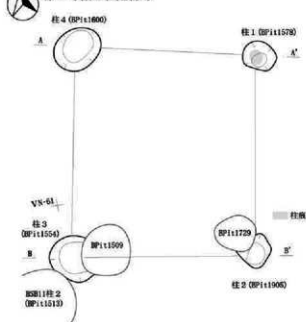


図48 掘立柱建物跡(3)

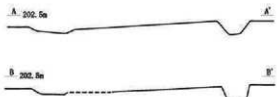
第7号掘立柱建物跡



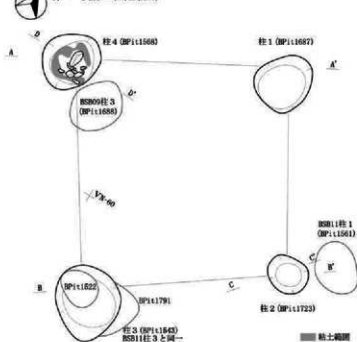
BSB07

柱穴番号	遺構名	長短軸 (cm)	深さ (cm) (底面標高m)	柱径径 (cm)
柱1	DP11578	54×44	27(202.15)	24
柱2	DP11905	58×53	27(202.11)	-
柱3	DP11554	77×68	14(202.19)	-
柱4	DP11600	79×64	16(202.19)	-

柱間距離			面積
柱1-2	柱3-4	柱1-4	
3.2m	3.3m	2.9m	9.4㎡



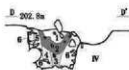
第8号掘立柱建物跡



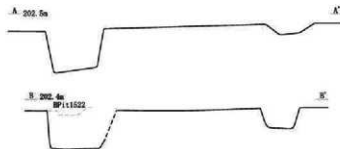
BSB08

柱穴番号	遺構名	長短軸 (cm)	深さ (cm) (底面標高m)	柱径径 (cm)
柱1	DP11687	95×83	20(202.17)	-
柱2	DP11723	67×69	38(201.94)	26
柱3	DP11543	121×104	84(201.61)	-
柱4	DP11688	99×87	87(201.65)	24

柱間距離			面積
柱1-2	柱3-4	柱1-4	
3.3m	3.7m	3.4m	11.5㎡

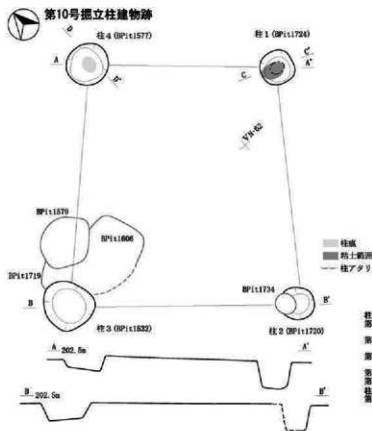


0 (S=1/60) 2m



- 柱2 (DP11723) C-C'
- 第1層 10YR5/4 暗褐色土 礫(φ25~110mm)70%, 砂礫(φ~2m)5%
- 第2層 10YR4/6 褐色土 礫(φ20~100mm)70%, 砂礫(φ~3m)10%
- 第3層 10YR3/3 暗褐色土 砂礫(φ~3m)10%, 礫(φ10~25mm)5%
- 第4層 10YR4/6 褐色土 礫(φ10~120mm)85%, 砂礫(φ~3m)10%
- 柱4 (DP11688) D-D'
- 第1層 10YR4/3 紅褐色土 礫(φ10~40mm)6%, 砂礫(φ~3m)2%
- 第2層 10YR4/3 紅褐色土 炭褐色粘土(10YR2/6)50%, 礫(φ10~60mm)10%, 砂礫(φ~3m)5%
- 第3層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~60mm)15%, 砂礫(φ~3m)10%
- 第4層 10YR4/6 褐色土 礫(φ~70mm)5%, 砂礫(φ~2m)5%
- 第5層 10YR3/6 暗褐色土 礫(φ~60mm)5%, 砂礫(φ~2m)5%
- 第6層 10YR4/6 褐色土 礫(φ10~250mm)5%, 砂礫(φ~2m)5%

図49 掘立柱建物跡(4)

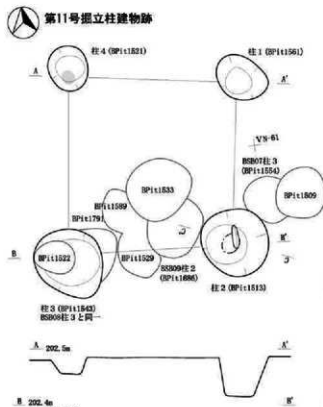


BSB10

柱穴番号	遺構名	長短軸 (cm)	深さ (cm) (底面標高)	柱底径 (cm)
柱1	RP11724	67×56	43(201.92)	37
柱2	RP11720	54×52	40(201.94)	-
柱3	RP11832	83×76	30(202.10)	-
柱4	RP11577	69×66	27(202.16)	27

柱間距離				面積
柱1-2	柱3-4	柱1-4	柱2-3	
3.9m	3.9m	3.0m	3.7m	12.0㎡

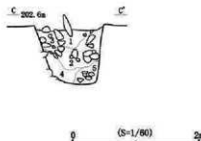
- 柱1 (RP11724) C-C'
第1層 10YR4/4 褐色粘土 浅黄褐色 γ - Δ (10YR3/4) (ϕ 1~30m) 15%, 礫 (ϕ 10~20mm) 5%, 炭化物 (ϕ 1~2m) 1%
第2層 10YR4/4 褐色土 浅黄褐色 γ - Δ (10YR3/4) 30%
第3層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物 (ϕ 1~2m) 15%, 炭化物 (ϕ 1~2m) 1%
第4層 10YR4/4 褐色土 浅黄褐色 γ - Δ (10YR3/4) (ϕ 1~2m) 1%
第5層 10YR3/2 暗褐色土 浅黄褐色 γ - Δ (10YR3/4) (ϕ 1~35m) 5%
柱4 (RP11577) D-D'
第1層 10YR3/4 暗褐色土 黄 (ϕ 7~130m) 40%, 炭化物 (ϕ 1~2m) 1%



BSB11

柱穴番号	遺構名	長短軸 (cm)	深さ (cm) (底面標高)	柱底径 (cm)
柱1	RP11561	86×67	70(201.72)	-
柱2	RP11513	143×122	110(201.26)	33
柱3	RP11543	121×104	64(201.61)	-
柱4	RP11521	72×62	28(202.90)	23

柱間距離				面積
柱1-2	柱3-4	柱1-4	柱2-3	
2.6m	2.6m	2.7m	2.6m	7.1㎡



- 柱2 (RP11513) C-C'
第1層 10YR4/6 褐色土 黄褐色土(10YR5/6) (ϕ 120m) 30%, 礫 (ϕ 10~370m) 30%, γ - Δ (ϕ 1~5m) 1%
第2層 10YR3/3 暗褐色土 黄 (ϕ 15~30m) 60%, 炭化物 (ϕ 5~20m) 1%, γ - Δ (ϕ 1~5m) 1%
第3層 10YR3/2 暗褐色土 黄 (ϕ 25~200m) 5%, 砂礫 (ϕ 1~5m) 2%
第4層 10YR3/2 暗褐色土 黄 (ϕ 10~100m) 5%, 砂礫 (ϕ 1~3m) 2%
第5層 10YR3/2 暗褐色土 γ - Δ (ϕ 1~10m) 1%
第6層 10YR3/2 暗褐色土 黄 (ϕ 30~100m) 65%, γ - Δ (ϕ 2~10m) 2%

図51 掘立柱建物跡(6)

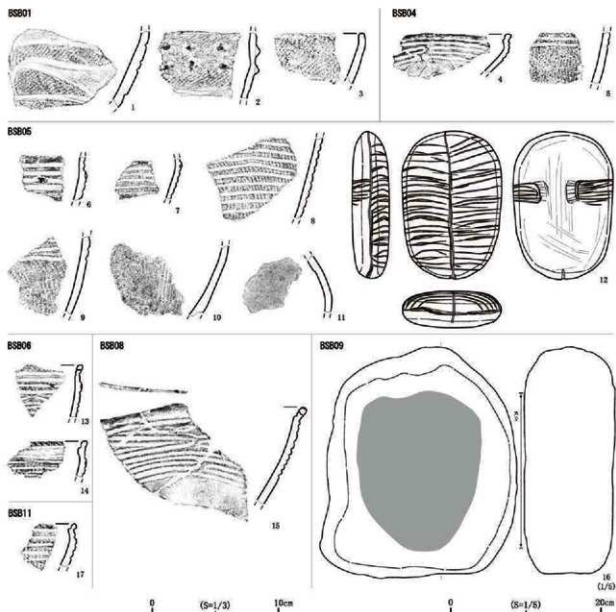


図52 掘立柱建物跡出土遺物

柱間距離は南北で柱1-2間が2.6m、柱3-4間が2.8m、東西で柱1-4間が2.7m、柱2-3間が2.6mである。

〔柱穴・堆積土〕柱穴断面は、平面規模では柱1が最大長86cm、柱2が143cm、柱3が121cm、柱4が72cmで、南辺を構成する柱2・3の規模が比較的大きい。底面標高値は柱1が201.72m、柱2が201.25m、柱3が201.61m、柱4が202.09mである。確認面で柱痕が認められたのは柱4のみである。柱痕規模は径23cmである。柱2の底面からは、長軸33cmの楕円形の凹み（柱アタリ）が検出されている。直上に柱痕堆積層が形成されず、埋め土の崩落・再堆積と見られる土層構造をなしており、柱の抜き取りがあったと考えられる。柱2の柱アタリ直上に当たる検出面からは、長さ36cmの扁平環が直立状態で出土している。

〔出土遺物〕VI群土器が少量出土した（図52-17）。

〔小結〕本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代晩期後葉～末葉と考えられる。

（秦）

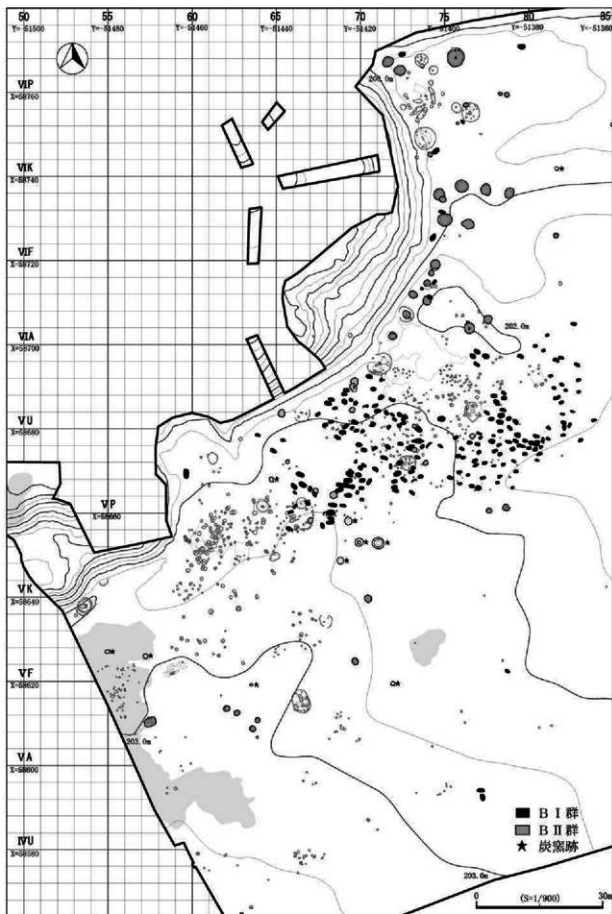


图53 土坑全体图(1)

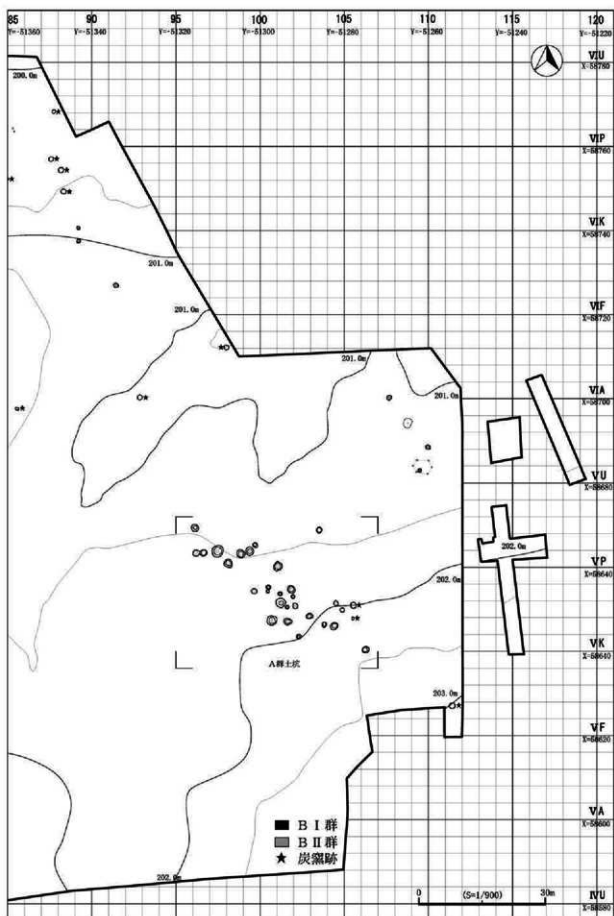


图54 土坑全体图(2)

第3節 土坑

土坑は296基検出した。第2章第2節の分類基準に沿って3つに群別した(A群・BⅠ群・BⅡ群土坑)。各群土坑の分布状況を図53・54に示す。また、遺構計測値、重複遺構の新旧関係、その他属性等については、群毎に土坑一覧表に示した。以下、各群土坑の諸特徴・傾向等について記述する。

1 A群土坑(図55~67)

[分布・確認・重複] 調査区東側のVK~R-96~106グリッド(東西約45m、南北約30m)の範囲内に、28基がまとまって検出された(図9・54)。上記範囲内に存在する第5・6号土坑は炭窯跡で、本章第7節において扱う。本群土坑の分布としては、南東端の第19号土坑と北西端の第31号土坑を結ぶ軸線上(N-55°-W)からさほど距離を置かず、互いに近接しながらまとまる特徴がある。近接するもの同士での土坑間の距離は、概ね0.5~5mに収まる。北側の第7号土坑については、最も近い第8号土坑との距離が約10mで、第19・31号土坑を結ぶ軸線上からもやや離れる。検出面は、多くが第1層直下の第Ⅲ層であり、土坑の上部が水田耕作に伴う削平を受ける。ただし、第Ⅱ層中で検出された土坑も存在することから、本群土坑の掘り込み面は第Ⅱ層中と考えられる。重複はほとんど認められない。唯一、重複関係が確認されたのは、第28・29号土坑であるが、土坑の上部においてわずかに重複し合うのみである。検出時、第29号土坑が第28号土坑よりも新しい状況を確認した。

[形状・規模] 平面形は円形を基調とする。断面形は、壁面が底面から急角度で直線的に立ち上がり、開口部付近で緩やかに立ち上がる漏斗状のものが大半を占め、本群土坑28基中21基(第2・4・8~10・13~16・20~31号土坑)である。第8号土坑では、北側と南側の壁面の傾斜変換点付近に、径約50~70cm、深さ15cm前後の半円形状の浅い掘り込みが認められる。

平面規模は大小がみられ、開口部径約130~140cmを境に概ね二分される。大きいものでは開口部径約150~300cm、小さいものでは開口部径約70~130cmである。底面径は約40~80cmのものが主体を占めるが、第7・19号土坑は径100cm前後である。検出面からの深さは25~113cmで、最大約90cmの比高差がある。また、底面標高値の差についても、最大で約120cmの隔りがある。開口部での平面規模と深さとの関係は、開口部径200cm以上が深さ100cm以上、開口部径100cm未満が深さ40cm未満である。このような平面規模及び深さの差異は、起伏の少ない地点に大小の土坑が近接して分布する状況から、単に土坑上部の削平に起因するものではないと考えられ、構築当初から土坑規模の違いが意図されていた可能性がある。平面規模が小さく比較的浅いものは、本群土坑分布域の南東側に多い傾向がある(第9・10・13・16・18・21・24・32号土坑)。

[堆積土] 堆積土は、暗褐色ないし黒褐色シルトを主体とする。堆積土中には、炭化物やロームブロック等の混入物が基本的に少ない。また、微細遺物の有無にも留意して精査したが、微細遺物は検出されなかった。

特徴的な堆積状況としては、堆積土の上位に、下位と比較して明るい色調の褐色ないし暗褐色シルトが堆積するものがある(巻頭図版5)。この特徴的な堆積状況をa類堆積、その他の堆積状況を便宜的にb類堆積とする。a類堆積は、12基(第14~16・20・22・23・26~31号土坑)で確認され、この

内、堆積土上位の土層が明瞭に固くしまるものが6基ある(第20・22・23・27・30・31号土坑)。明るい色調の堆積土については、土坑検出面において平面プランの中央部にみられ、土層断面では比較的厚い堆積を示す。明るい色調の堆積土が、第1・2層に相当する第23・31号土坑は厚さ60～70cm、第1層に相当する他10基は厚さ27～78cmである。b類堆積には、比較的深い掘り込みでありながらも単層のもの(第2号土坑)、比較的平坦堆積に近いもの(第8号土坑)等がある。

〔露出土状況〕本群土坑からは、底面付近を中心に、長さ約10～40cmの自然礫や台石等の礫石器が出土する特徴がある。本群土坑が分布する一帯は、第Ⅲ層が厚く堆積し、第Ⅳ層(砂礫層)の分布がほとんど確認されないことから、礫は人為的に持ち込まれたものと考えられる。礫は扁平な歪角礫が主体で、凝灰岩・安山岩・花崗岩等がみられる。底面付近で出土した礫石器については、第14号土坑の凹み石(図64-13)、第15・30号土坑の台石(図65-5・図67-12)等がある。

礫の出土位置は、底面付近が最も多く、底面に接する例(第9・14・17・32号土坑)と、底面から5～10cmほど上位で出土する例(第8・12・15・22・23・25・26・30号土坑)がある。第15・26号土坑では、検出面付近と底面付近に分かれて礫が出土している。また、第9号土坑は、底面から遺構検出面にかけて、多量の礫が密に集積されている点で、他と比較して異質である。底面付近の礫は、数個程度の場合が多いが、1個のみの例(第8号土坑)もみられる。底面付近の礫の出土状況としては、扁平礫の平坦面が上向き状態で出土することが多いが、一部の扁平礫が壁面に立て掛かるように出土する例(第9・14号土坑)もある。検出面付近の礫の出土状況としては、壁面付近に位置する礫の平坦な面が、土坑中央に向かって傾斜して落ち込むような状況が確認された(第18・26号土坑)。

〔遺物出土状況〕遺物の多くは、堆積土中位から上位にかけて出土する傾向がある。このことは、礫が底面付近を中心に出土する状況と対照的である。

堆積土中位から上位の出土遺物は、土器を主体として、凹み石を中心とした礫石器等がみられる。また、石製品では、円盤状石製品が少量出土している。堆積状況がa類堆積の場合、堆積土上位の褐色ないし暗褐色シルト中からの出土が目立つ。土器については、個体で出土する例も多くみられる(第2・8・15・18・27号土坑)。第15・18・27号土坑からは、深鉢形土器が横倒しの破砕状態で出土している(図56・58)。底面付近からの遺物の出土例は少ないが、第14号土坑の底面付近からは、平坦な面を上に向けた底面中央の礫に近接して、図64-7の小型土器が出土している。

〔遺構間接合〕本群土坑では、土器の遺構間接合事例が多く認められた(図59～61)。遺構間接合事例が認められたのは、本群土坑同士が7例8資料、本群土坑と整穴住居跡が1例1資料、本群土坑とBⅡ群土坑が1例5資料である。

本群土坑同士の接合事例では、第15号土坑との接合関係を示す土坑が第2・8・14号土坑で最も多い。この他、第2号土坑は第27号土坑と、第27号土坑は第25号土坑と、第14号土坑は第30号土坑と、第12号土坑は第17号土坑と、各々接合関係がみられる。大型の土坑同士の接合関係が多いが、第12・17号土坑のように、比較的小型の土坑同士の接合関係もみられる。接合関係を示す土坑間の直線距離は、第2・27号土坑間、第14・15号土坑間が4m前後、第8・15号土坑間、第14・30号土坑

間、第25・27号土坑間が8m前後、第2・15号土坑間が15m、第12・17号土坑間が20mである。

接合資料は、第2・15号土坑間が2資料、他が各1資料である。第2・15号土坑間の接合資料は、VI群2a類の深鉢形土器(図60-1)と小波状口縁で細密条痕がみられる深鉢形土器(図60-2)である。第8・15号土坑間の接合資料はVI群の台付鉢(図60-4)、第12・17号土坑間の接合資料はVI群の深鉢形土器(図60-5)で、いずれも横位平行沈線が施される。第14・15号土坑間の接合資料は、小波状口縁の粗製深鉢形土器(図60-6)である。第14・30号土坑間の接合資料は、無文の壺形土器の胴部片(図60-7)である。第2・27号土坑間の接合資料は、底部が欠損するVI群C2a類の深鉢形土器(図60-8)である。縦方向にほぼ半分に分割されている。口縁部の破断面は一部磨耗している。第25・27号土坑間の接合資料は、底部が欠損するVI群の短頸壺(図60-9)である。大半が第27号土坑から出土したもので、第25号土坑出土の小破片は器面の磨耗が顕著である。胴部上位にボジの流水状工字文が施され、一部に横位の連続刺突文がみられる。

本群土坑と竪穴住居跡の接合事例では、第15号土坑と第2号竪穴住居跡の接合関係が認められた。第2号竪穴住居跡は地床炉を伴う小型の竪穴住居跡で、第15号土坑から直線距離で52m北東に位置する。第15号土坑は、本群土坑分布域の中央部付近に位置し、前述のように接合関係が多くみられる土坑である。接合資料は、VI群C2a類の深鉢形土器(図60-3)で、横位平行沈線が施される。

本群土坑とBⅡ群土坑の接合事例では、本群の第26号土坑とBⅡ群3類の第37号土坑の接合関係が認められた。第37号土坑はフラスコ状土坑で、第26号土坑から直線距離で51m北東に位置する。第26号土坑は、本群土坑分布域の北西側に位置する。接合資料は5資料で最も多く、横位平行沈線間に斜行沈線と縦位の短沈線が施される壺形土器(図61-1)、無文の壺形土器(図61-2)、縦位の条痕がみられる深鉢形土器(図61-3～5)がある。

〔出土遺物〕本群土坑の出土土器は、VI群・VII群に限定される。器種は深鉢形・鉢形・台付鉢・浅鉢形・壺形・小型土器がみられる。器種毎の器形・文様等の諸属性に共通点も多く、概ね縄文時代晩期後葉の大洞A式に位置づけられる。VI群の深鉢形土器は、C2a類を主体とする(図60-8・図62-1・図63-5・図64-14・図66-4・5・図67-7)。口縁部の残存が比較的良好な図60-8・図67-7は、平口縁である。図64-14は、横位平行沈線間に縦位の短沈線が施される。図64-1は、C3類の深鉢形ないし鉢形土器である。図64-2は、2b類の台付鉢である。浅鉢形土器は、B2類がみられる(図64-8・図66-6)。図63-10・図64-9・17・18は壺形土器である。図64-18には波状工字文風の沈線文がみられる。浅鉢形土器と壺形土器の多くは、赤色顔料が塗布されている。図64-7は小型土器で、口縁部突起をもち、横位平行沈線が施される。VII群の深鉢形土器は、口縁部が内湾気味に立ち上がり、底部がわずかな上げ底状ないしは平底となる器形がみられる。A類はほとんどが小波状口縁である。口縁部上端から縦位の条痕が施されるものが多いが、口縁部に横位のナデ(図62-5・図63-8・9・図64-11)や指頭圧痕(図62-6)等の調整をもつものもある。B類の深鉢形土器は小波状口縁と平口縁がみられる。図66-10・15は、口縁部にナデ調整がみられる。地文縄文は縦走縄文が主体を占める。図66-8は台付の小型土器である。

石器は、第2号土坑の第1層下部から石匙2点(図62-8・9)が出土した。8はつまみ部にアスファルトが付着しており、その中には繊維状の痕跡が残存している。また、裏面側縁には光沢が確認

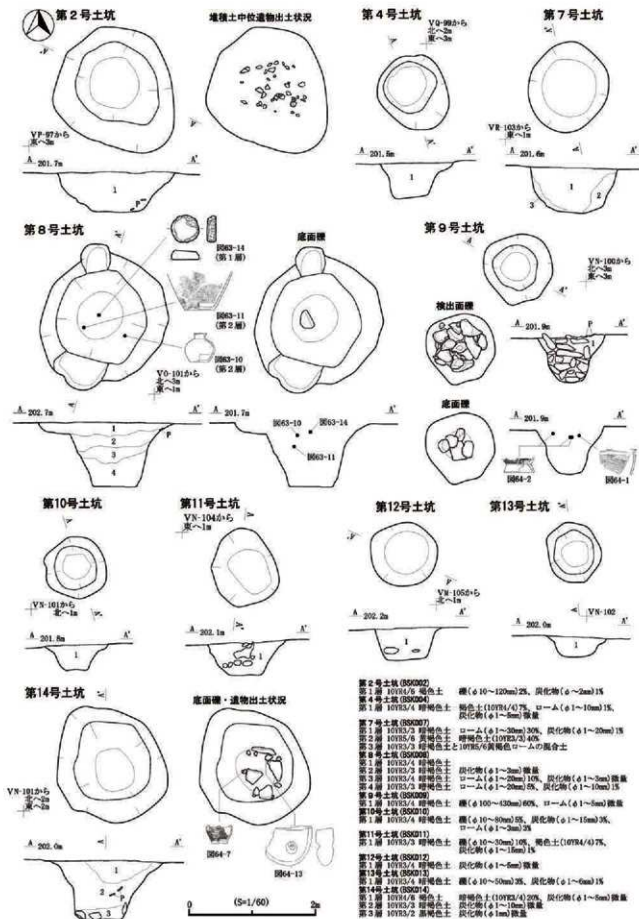


図55 A群土坑(1)

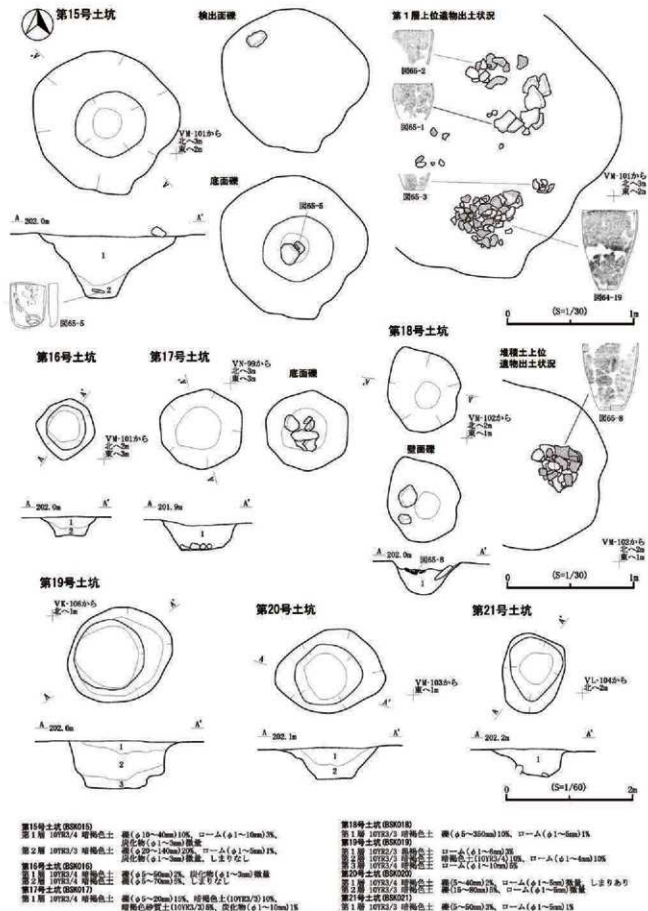


図56 A群土坑(2)

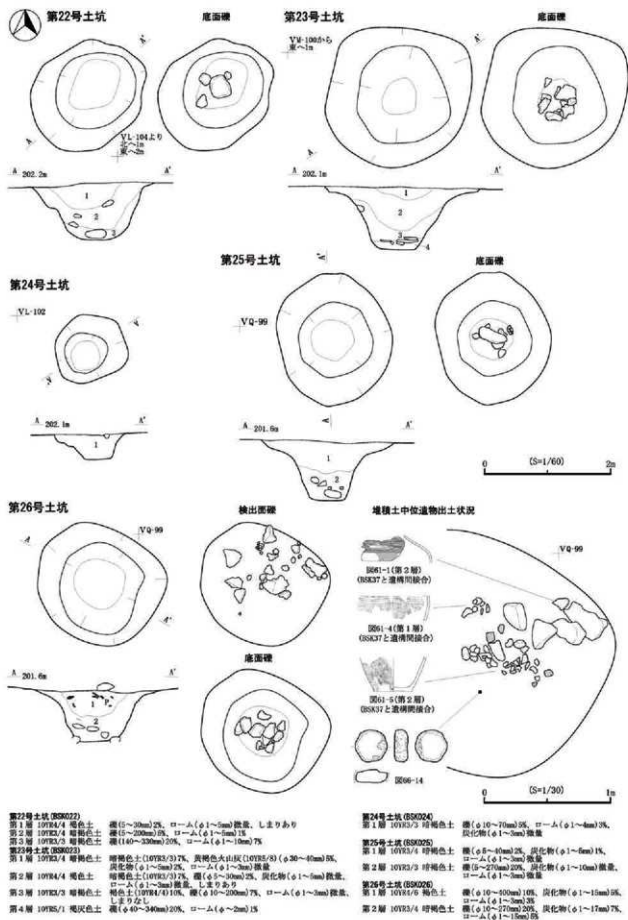


図57 A群土坑(3)

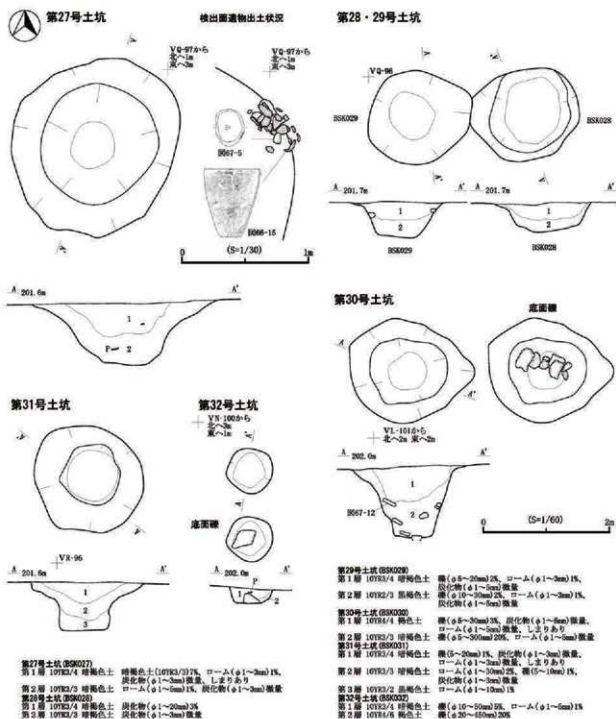


図58 A群土坑(4)

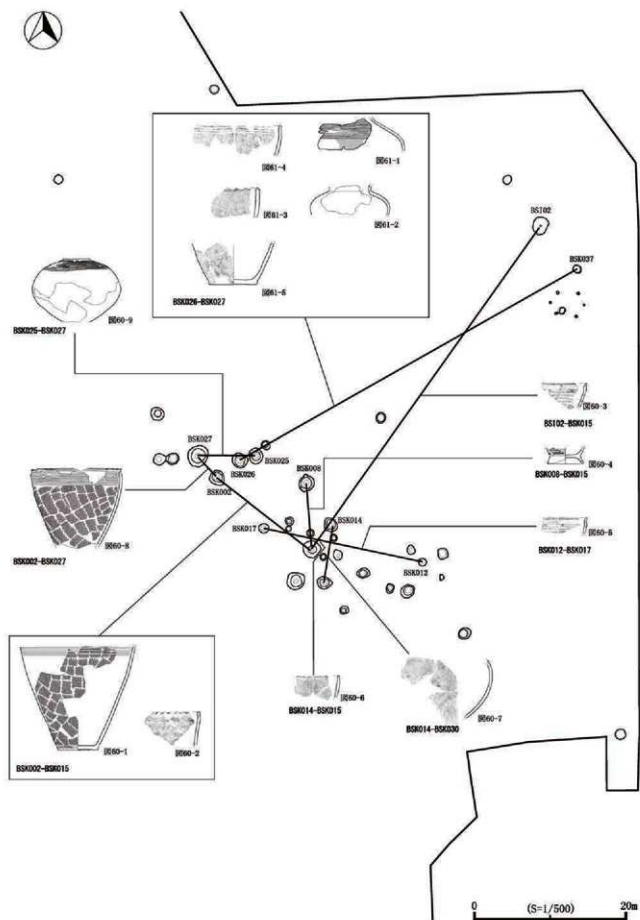


図59 遺構間接合図

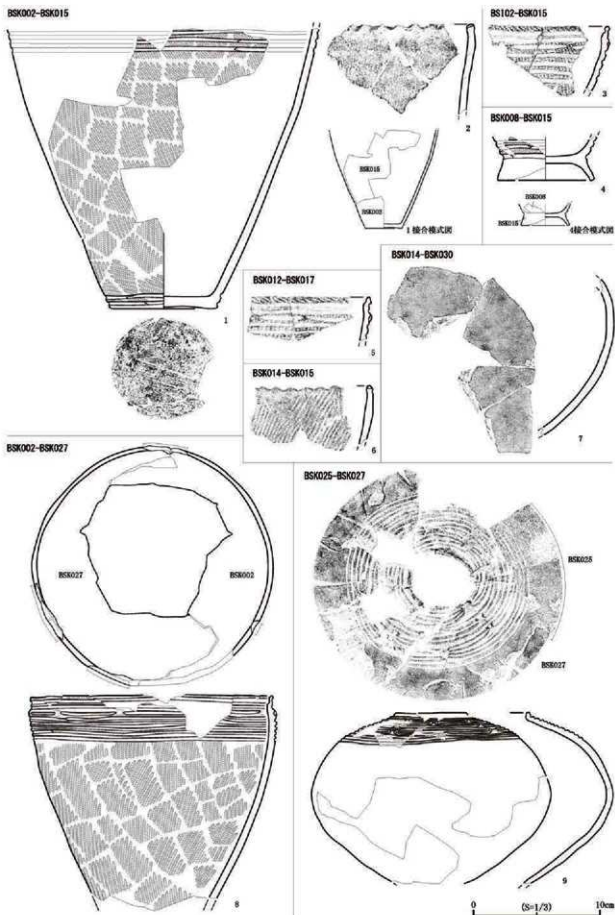


図60 遺構間接合遺物(1)

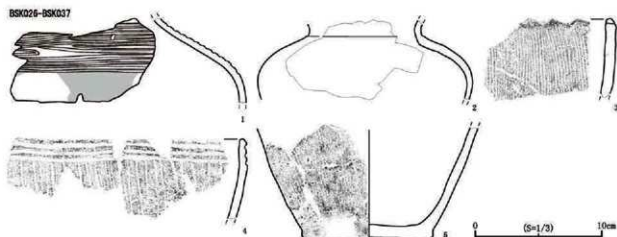


図61 遺構間接合遺物(2)

された。礫石器は堆積土中から凹み石6点、敲き石1点、敲き・磨り石1点が出土しており、凹み石の占める比率が高くなっている。この内、3点を図化した(図63-1～3)。第8号土坑からは微細剥離痕のある剥片1点(図63-12)と凹み石1点(図63-13)が出土した。第9号土坑からは凹み石1点が出土した(図64-3)。第14号土坑からは石匙1点(図64-12)と、凹み石2点が出土したが、凹み石は1点を図示した(図64-13)。第15号土坑からは台石が3点出しており、この内、赤色顔料と思われる赤色物質が付着した2点を図示した(図65-4・5)。第23号土坑からは赤色物質の付着した台石1点が出土した(図65-17)。第26号土坑からは凹み石1点(図66-11)、敲き・磨り石2点(図66-12・13)が出土した。敲き・磨り石の12・13は器面に凹み痕があり、出土してものには全て凹み痕があるといえる。第27号土坑からはスクレイパー1点(図67-2)、微細剥離痕のある剥片1点(図67-3)、敲き・磨り石2点(図67-4・5)、台石1点が出土した。第30号土坑からは微細剥離痕のある剥片1点(図67-10)、凹み石1点(図67-11)、台石1点(図67-12)が出土している。本群土坑出土の礫石器については、ほとんどが凹み石ないしは凹み痕のある敲き・磨り石と台石である。第2号土坑は礫石器8点が出土しているが、7点に凹み痕がみられる。また、第15号土坑からは台石のみが出土しており、本群土坑出土の礫石器は、特定の器種に偏る傾向がある。

石製品は、円盤状石製品が5点出た。径4～6cm、厚さ1～2cmのものがみられる。周縁には敲打痕がみられるもの(図63-15・図66-14)、剥離のみのもの(図63-4・14・図65-18)がある。図63-14は、縁辺に全周する磨耗痕跡が顕著にみられる。

[小結] 本群土坑28基は、調査区東側において極めてまとまった分布を示し、重複がほとんどみられない。土坑形態、堆積土、礫の出土状況等については、土坑規模の差異にかかわらず各土坑の近似性が認められ、遺構間接合事例も多く認められた。また、放射性炭素年代測定では、第18号土坑出土土器(図65-8)内の堆積土中から出土した炭化材で、 $2,535 \pm 20\text{yrBP}$ 、第2・8号土坑出土土器(図62-1・5・図63-7)の付着炭化物で、 $2,430 \pm 30\text{yrBP}$ ～ $2,530 \pm 20\text{yrBP}$ の測定値が得られた(第4章第1節参照)。本群土坑の時期は、放射性炭素年代測定及び出土遺物から縄文時代晩期後葉の大洞A式期に帰属するものと考えられる。(最上)

88K002

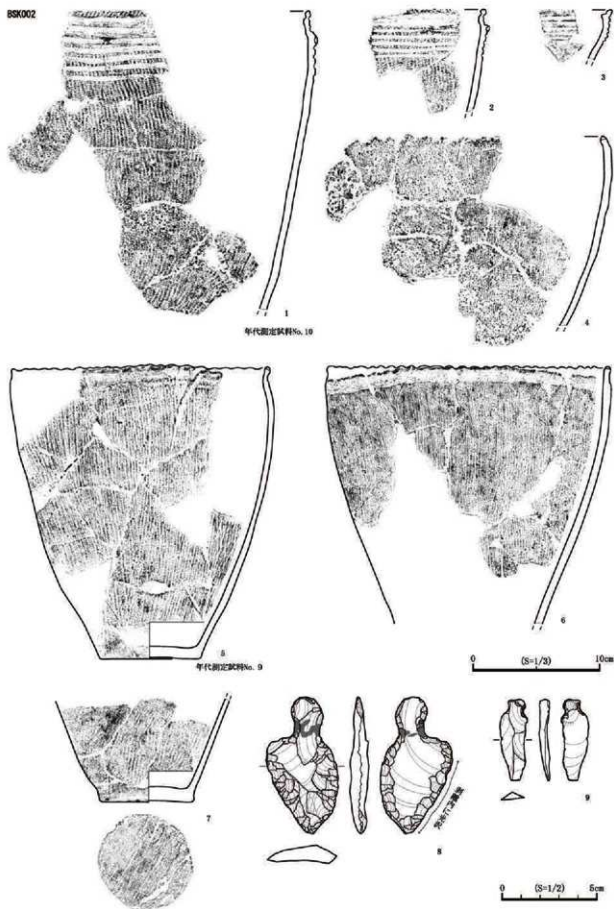


図62 A群土坑出土遺物(1)

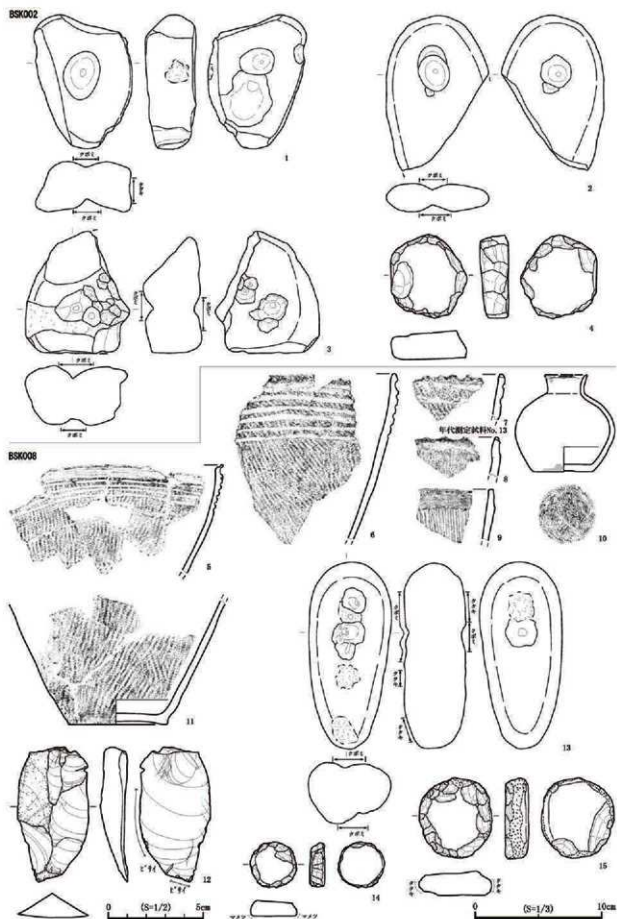


図63 A群土坑出土遺物(2)

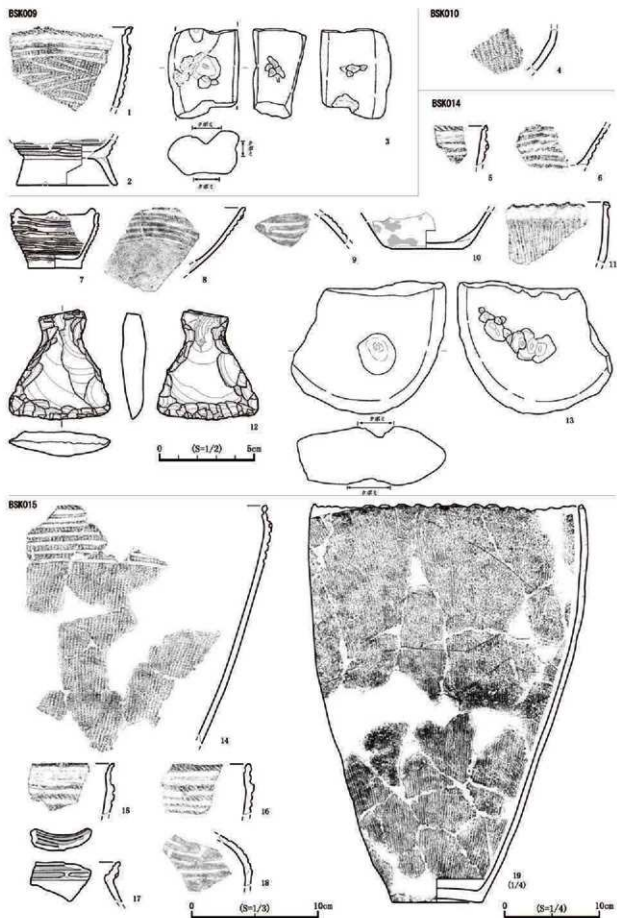


图64 A群土坑出土遺物(3)

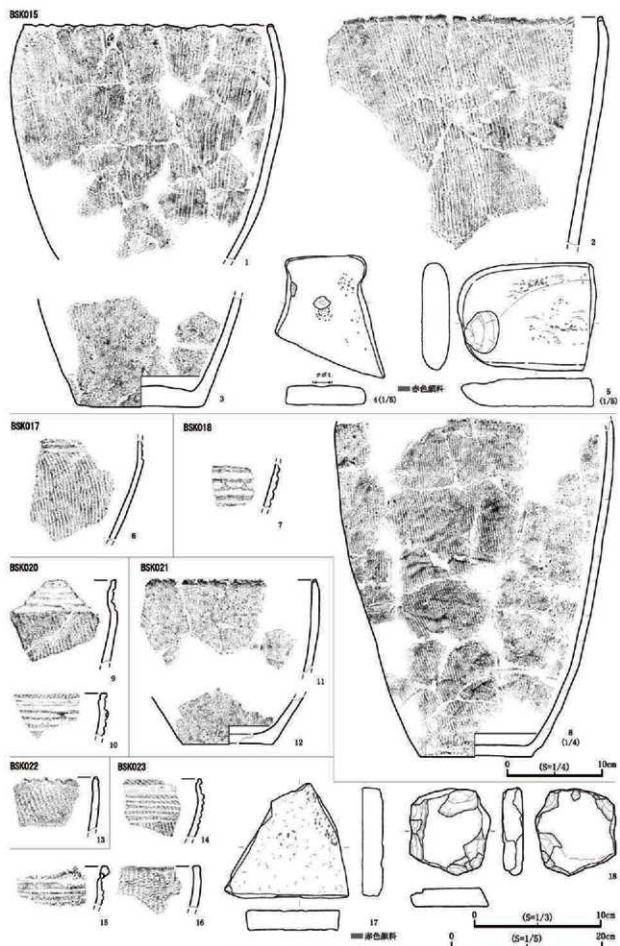


图65 A群土坑出土遺物(4)

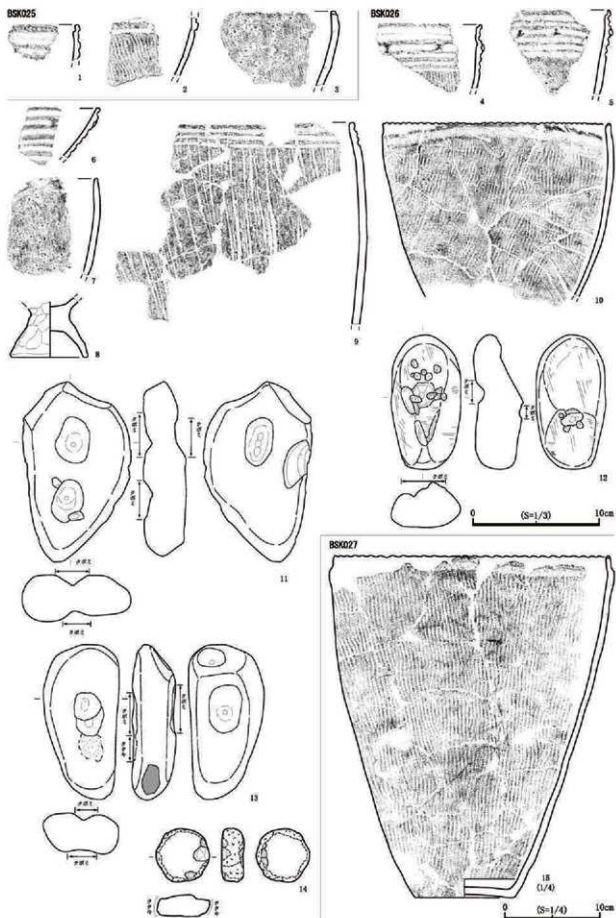


図66 A群土坑出土遺物(5)

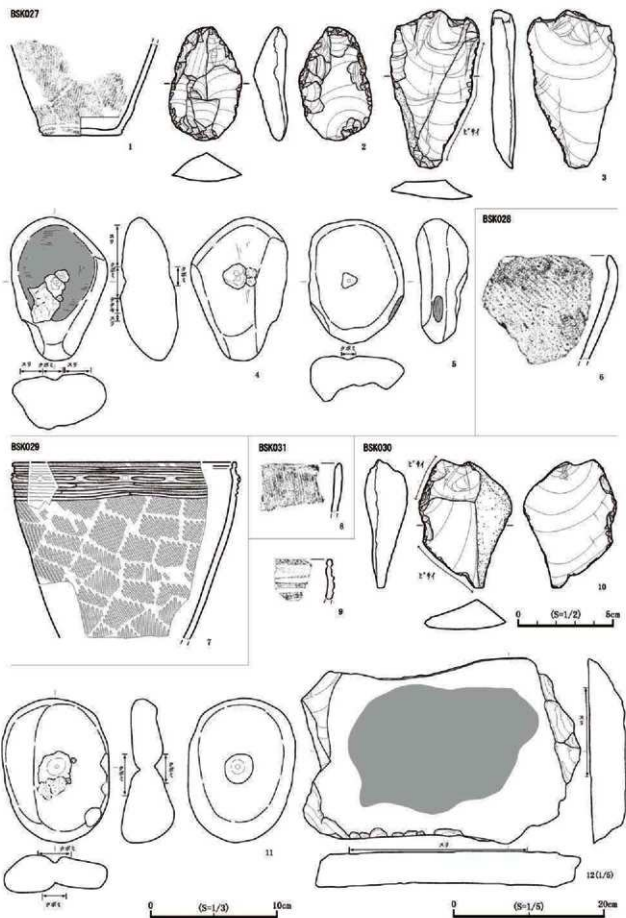


图67 A群土坑出土遺物(6)

2 B I 群土坑 (図68~97)

開口部における長軸・短軸比が1:0.83未満の土坑を本群とした。総数211基が該当し、検出土坑全体の約7割を占めている。本群中には赤色顔料が検出された土坑や、ヒスイ製や緑色凝灰岩製の玉類が出土した土坑など、土坑墓と考えられる遺構が含まれている。しかし、これらの土坑は本群土坑の中で1割に満たない検出数であり、大多数の土坑からは墓としての用途を裏付けるようなものは発見されていない。以下に土坑墓の持っている個別の属性に注目しながら各項目について記載していく。

なお、個別の遺構規模については一覧表にまとめた。計測位置については下図の基準に、表中の記載については以下の基準に従った。重複や攪乱等により遺構の一部が壊されている場合については現存値を() 表記した。長軸方向の表記に関しては、東西方向を向いているのが大多数を占めていることから、東西軸を0°とし、西を起点に北へ振れているものを+表記、南へ振れているものを-表記とした。

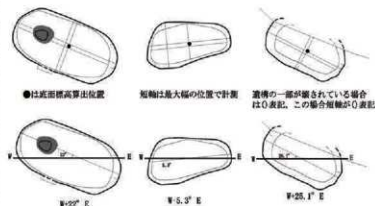


図68 計測基準

[分布・検出状況] 大多数は調査区北西側の台地縁辺部に分布している(図53・54)。特に、V0~VI F-64~84グリッド(68×80m)の範囲では200基前後の本群土坑が分布している(以後集中分布域と記す)。集中分布域ではグリッドの74ラインを境にして東側と西側にまとまりがあり、それぞれに本群土坑が構築されない空白部が認められる(図93)。本群土坑は、東側ではVU~X-78~81グリッド内に、西側ではVQ~T-65~70グリッド内にある空白部を囲うように分布している。また、集中分布域中央のVV~VIB-71~76グリッドにも空白部が認められるが、この付近は大規模な攪乱を受けており、土坑分布の様相は不明な点が多い。検出面の多くは、第II層中もしくは第III層上面であり、土坑の上部は水田耕作などの攪乱による削平を受けている。特に、ヒスイ製玉類が出土した第84号土坑は土坑底面が検出面であり、わずかに残った堆積土中から玉類が出土した状況である。

[重複] 本群土坑は堅穴住居跡、B II 群土坑、ピットと重複する事例があり、新旧関係から縄文時代中期よりも新しいと言える。個別の重複関係は一覧表に記載してあるため、本項目では本群土坑同士の重複事例について記載する。

表4 B I 群土坑重複関係

	遺構名	新旧関係	検出位置	長軸方向	その他
1	第101・355号土坑	第101号土坑が新	VR-60	南北	VI群土器(BSK101)
2	第89・96号土坑	不明	VQ-69	北西	ヒスイ製勾玉(BSK089)
3	第96・170号土坑	不明	VQ-68	北西	赤色顔料(BSK170)
4	第171・172号土坑	第171号土坑が新	VR-69	北西	
5	第243a・243b号土坑	第243a号土坑が新	VT-73	北西・南西	
6	第243b・383号土坑	第243b号土坑が新	VT-73	-	
7	第294・344号土坑	第294号土坑が新	VS-72-73	北西・南西	
8	第358・362号土坑	第358号土坑が新	VT-79	南西	
9	第368・363号土坑	第368号土坑が新	VT-80	北西・南西	
10	第369・406号土坑	第369号土坑が新	VV-81	南西	

1 第101号土坑は第355号土坑とほぼ同じ位置で重なるように重複しており(図71)、長軸方向は両遺

構とも北方向を向いている。また、これらの土坑は、本群土坑集中分布域から離れたVR-60 グリッドに位置している（図 93）。この部分は遺構が希薄なため、ほかに遺構を構築できるスペースがあったにも関わらず同じ場所を選択しており、場の選地理由に意味があったものと考えられる。第 101 号土坑からはVI群・VII群土器が出土しており、晩期後葉の遺構と考えられる。

2～4 第 89・96・170 号土坑、第 171・172 号土坑の検出位置は集中分布域の西側にあたるVR・Q-69 グリッドである。集中分布域の西側で唯一重複がみられるエリアである。第 89 号土坑からはヒスイ製の勾玉、第 170 号土坑からは赤色顔料が検出されている。また、重複エリア周辺からは赤色顔料が検出される土坑が多いなど本群の中でも特徴的な遺構が分布している。

5、7、9 長軸方向が異なったものが重複する事例である。いずれも南西方向に長軸方向を持つ土坑の方が新しい。

【平面形・規模】土坑の分類基準とした長・短軸の比率は数値が小さければ幅狭な平面形に、数値が高ければ円形に近い平面形となり、本群の平面形は分類基準上、楕円形や長方形を基本としたものとなっている。平面形は a 楕円形、b 楕円形基調で片方だけが窄まるもの、c 長方形、d 長方形基調で片方が窄まるものなどに分けることが可能であるが、前述したように、検出時に土坑の上部は削平を受けており、構築時の状況を示しているとは限らないことから、平面形による分類は行わなかった。

（長・短軸比）長軸 1 に対する短軸の最小値は第 403 号土坑の 0.36 で、0.3 台にあるのは本土坑だけである。第 403 号土坑は平面形の特異さからリン・カルシウム分析を行っており、リンの含有量が極めて高いという結果が得られている。0.45～0.69 まで各単位において 20 基を越す数が含まれおり、本群における一般的な値となっている。0.8 を超える土坑は第 81・333・405 号土坑である。

（規模）開口部における長軸規模は最小で 72 cm、最大で 216 cm と幅があり、90 cm 以上 150 cm 未満の範囲に多い。また、集中分布域の西側と東側でみると、東側は 110 cm 台、西側は 130 cm 台にまとまりのピークがあり、西側の群に規模の大きい土坑が分布していることが分かる（図 69）。底面における長軸規模は最小で 49 cm、最大で 191 cm であり、90～120 cm 台が多くみられる。底面面積は最小で 0.2 m²、最大で 1.7 m² あり、0.2 m² から 0.79 m² の間に多くみられる。中でも 0.4 m² 台のものが最も多い。

（長軸方向）多くが W-45° E～W+50° E の間に収まっているが、第 101・355・111・348・360・365 号土坑は、80 度を超えており、軸方向が北に向く異質な一群となっている。集中分布域の東西には、それぞれ本群土坑が構築されていない空白部があるが、空白部の中心方向と長軸方向に関連性は見いだせなかった。軸方向の決定は空白部とは別なものに規制されていたものと考えられる。

（深さ）検出面から底面までの深さは、浅いもので 2 cm、最も深いものでも 66 cm であるが、削平の影響により、30 cm 以下のものが大半を占めており平均でも 28.5 cm と浅いものが多い。

【堆積土】本群土坑は第 III 層、第 IV 層を掘り込んで構築されており、堆積土中には第 III 層由来のロームや、第 IV 層由来の礫が含まれているものがある。堆積土にローム主体層ないしはロームと黒色土の混合土層が堆積している例は約半数近い土坑で確認された。これらの層には挿印中で網掛けしている。特に第 239・335 号土坑などは堆積土下位にローム層、中位に礫層、上位にローム層が広く厚く堆積しており、土坑を埋め戻す最終段階でロームが使用されたと考えられる。

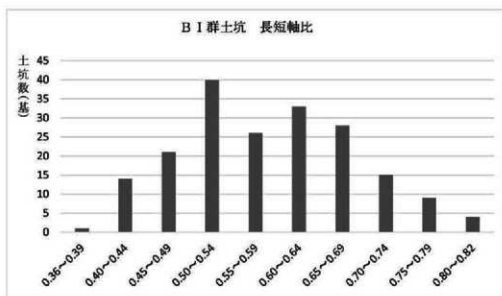
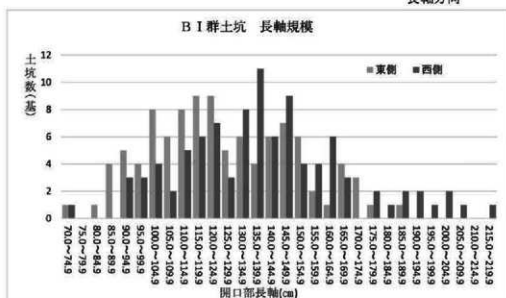
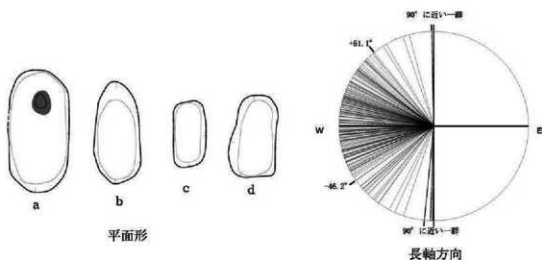


図69 平面形・規模

【礫の出土状況】特徴的な礫の出土状況を示すものについて図 89 にまとめ、以下の 4 類に分類した。なお、第 111・266・280・339 号土坑については、挿図中に礫出土状況図を掲載したが、本分類に当てはまらないため集成しなかった。

1 類：壁際に並ぶ類 11 基

a. 8 基（第 108・109・110・211・213・221・249・307 号土坑）

本類は比較的大きめの角礫や歪角礫が壁際に並ぶ類で、底面直上から堆積土の中位にかけて出土している。また、断面形状が袋状になっている場合が多く、礫を詰め込みやすいように整形した可能性もある。本類の分布状況にはまとまりがみられ、集中分布域西側のみ分布する（図 93）。また、第 108・109・211・221 号土坑からは赤色顔料が検出されている。

b. 一方の壁際に寄る類 3 基（第 223・294・229 号土坑）

いずれも底面直上から出土している。第 223・294 号土坑は集中分布域西側、第 229 号土坑は東側から検出されている。第 223 号土坑からは赤色顔料を検出した。

2 類：長軸上の一端に寄る類 5 基（第 222・239・276・313・345 号土坑）

第 222 号土坑は赤色顔料の上位に礫が集中しており、その他の土坑は堆積土の中位～上位にかけて出土する。第 222 号土坑集中分布域西側からの検出である。第 239・276・313・345 は集中分布域東側からの検出である。

3 類：堆積土中央ないしは全域に廃棄される類 14 基（集中分布域西側検出：第 210・215・233・235・241・243b・273・296 号土坑、集中分布域東側検出 230・240・316・317・335・342 号土坑）

第 233・317・342 号土坑は底面から上位にかけて礫が詰まっている状況であるが、その他の土坑に関しては、堆積土の中位～上位にかけて出土する。使用されている礫は主に第 IV 層由来の礫であり、礫石器などはほとんど含まれない。

4 類：壁際から板状礫が出土した類 1 基（第 101 号土坑）

第 101 号土坑では西壁から一枚の板状礫が出土した。検出時にその一部が露出していたことから、石棺墓の可能性を想定し調査を行ったが、他には出土しなかった。しかし、板状礫は壁に貼り付けられており、側板を意識して設置された可能性が高いと考えられる。なお、この板状礫は台石としても使用されていたものである。

今回抽出した土坑数は 31 基であり、集中分布域から検出した土坑の 1 割強の出土率である。1 類は底面直上から堆積土中位にかけて出土しており、2・3 類は一部を除き堆積土の中位から上位にかけて出土する。1 b・2・3 類は東西どちらにも分布しているが、1 a 類は西側のみ分布する特徴的なものである。4 類は集中分布域から若干離れた場所に位置している。1～3 類の出土した礫には礫石器がほとんど含まれておらず、第 IV 層由来と考えられる自然礫が用いられている。4 類は台石として使用された板状礫が利用されている。

（小結）1 a 類は西側のみ分布しており、かつ、赤色顔料と共伴する事例が多い。また、断面形状が袋状になるなど、構築方法とも関わっている。2・3 類の礫は主に堆積土中位～上位にかけて出土しており、遺構の埋め方と関連している。特に第 335 号土坑などはローム層の第 III 層中で構築されているにも関わらず礫が出土しており、別な場所から礫が持ち込まれたといえる。埋め戻す際に礫を付加する意義があったものと推測できる。

〔壁・底面〕壁は、前述したように露出土状況1a類の土坑は袋状になるが、そのほかは概ね垂直ないしは開くように立ち上がっている。底面は水平と思われるものが大多数を占めているが、中には傾いているものもある。これらの土坑36基について図90に集成し、分類した。

1類：底面が全体的に傾くもの 21基（第370号土坑ほか）

2類：底面の一部が傾くもの 13基（第108号土坑ほか）

3類：底面が極端に傾くもの 2基（第78・301号土坑）

（赤色顔料との関係）第108・303号土坑では底面が高くなった位置から赤色顔料を検出している。

（底面が高くなる方向）東側が高くなるものや、西側が高くなるものもあり、まともは見られない。当初はいずれかの方向にまとまることを期待したが、そのような傾向は無く、東西に見られる土坑群の中でも揃うことはなかった。

〔赤色顔料〕総数14基の土坑から検出した。第84・92号土坑以外は赤色顔料の分析を行っており、全てベンガラであるとの結果が得られている（第4章第2節参照）。第223・228・312号土坑から検出した赤色顔料は色調・彩度が非常に弱いものであったが、分析の結果、ベンガラとの結果が得られた。

（検出位置）第84・92号土坑は集中分布域の北側、第228号土坑は東側から検出されているが、それ以外の11基は全て西側から検出されている。

（検出層位）14基中12基については底面直上から検出した。第211・228号土坑の2基については堆積土中から検出しているが、以下の状況から土坑底面から検出したものとして捉えた。第211号土坑は底面から10cmほど上の第7層上面から壁際に並ぶ礫（1a類）と共に検出した。第7層は平坦に堆積していることと礫の出土状況から底面整地層と捉え、本層上面が土坑底面であったと判断した。第228号土坑も底面ではなく第3層上面から検出されたが、第3層上面は緩やかに傾いており、底面が傾く高い方から顔料が検出されており、前述した第108・303号土坑と状況が似ている。このことから、本層を整地層、その上面を土坑底面と判断した。

（厚さ）概ね5cm未満の厚さが一般的であるが、中には15cm程度の厚さがあるものもある。第108・109・222号土坑は、顔料の残存状況が良好で、第108号土坑は14cm、第222号土坑は9cmの厚さで残存している。第109号土坑は底面から15cmほど上から一度検出されるものの、土層観察上は一端途切れる。しかし、掘り下げの過程で、ほぼ同位置で再度検出されていることから、本来は一体のものと考え、15cmほどの厚さがあったものと考えられる。

（土層）第108・222号土坑ではそれぞれ、顔料の混在しない層があり、この層を覆うように顔料が堆積している状況を検出した。頭骨部分であった可能性も考え、リン・カルシウム分析を行っている。

〔遺物出土状況〕本群土坑は堆積土中にほとんど遺物を含まないという特徴がある。土器は完形個体など一切出土せずに小破片が若干出土する程度である。また、石器にしても同様で、石鏃のほかは剥片類が少数含まれる程度である。このことから、石鏃に関しては意図的に埋めていた可能性も考えられる。以下に特徴的な遺物の出土状況を示したものについて記載する。

（玉類出土状況）玉類が出土した土坑は4基である。第84号土坑は調査区北側に位置し、付近のBⅠ群土坑として第165・392号土坑がある。第1層直下で土坑底面を検出した。土坑の上部を含めて大部

分が攪乱により失われており、ヒスイ製の玉類が土坑底面から9点、攪乱内から19点の計28点が出土した(図96-16~43)。第84号土坑からは弱い発色の赤色顔料が検出されており、玉類は顔料中及び顔料上面にかけて出土している(図70)。第89号土坑は調査区北西側の地点、集中分布域の中では西側に位置する。底面からヒスイ製の勾玉1点が出土した(図71・図97-1)。

第370・373号土坑は調査区中央北寄りの地点、集中分布域の中では東端付近に位置する。両土坑間の距離は約30cmで極めて近接し、ともに西北西-東南東の軸方向で並列するように分布する。

第370号土坑では、堆積土中から緑色凝灰岩製の玉類が156点出土した(図97-2~123)。本土坑の堆積土は2層に分層され、その堆積土の違いにより、玉類の出土状況が明瞭に異なる。玉類の出土状況は、黒褐色土を主体とする第1層からは、東側の堆積土上位を中心に散在的に出土したのに対し、暗褐色土を主体とする第2層からは、西寄りに偏在して底面付近にまとまりをもち、一部連続の状態で出土した(図87・巻頭図版3)。連続部分は、底面から1~2cm上位で十数個が連続し、両端が西方にわずかに曲がり、緩い弧状をなす。第373号土坑からは、西寄りに偏在して緑色凝灰岩製の玉類が4点出土した(図97-124~127)。底面から約10cm上位の第5層上面を中心に出土している(図87)。

(石織出土状況) 第101・207・216・238・260号土坑から出土した。第101号土坑は後述するが、本群土坑の中でも遺物の出土量が多い異質なものであり、出土した石織は破損もしておらずアスファルトも付着していない。その他雑多な遺物と混在して出土した可能性もある。第260号土坑からは5点、第207・216・238号土坑は1点ずつ出土した。これらの土坑から出土した石織はアスファルトが付着していたり、破損したりするものばかりで、使用された痕跡のあるものが出土している。

(第101号土坑) 他の土坑と比べて遺物の出土量が極めて多い。土器約1kg、剥片石器類1.3kgが出土しており、その他にも、台石類や円盤状石製品なども出土している。

[出土遺物]

(土器) 本群土坑の出土土器は、ほとんどが破片資料で、出土量も極めて少ない。本群土坑の出土土器については、小破片でも極力図化した。Ⅱ群・Ⅲ群土器もわずかに散見されるが、主に縄文時代晩期中葉から晩期後葉のⅤ群・Ⅵ群等が出土している。特に、縄文時代晩期中葉Ⅴ群土器の土坑内出土例は、本群土坑のみに限定される点で留意される。

図95-30はⅡ群F類、図95-33はⅢ群B類である。図95-21はⅢ群C2類で、口縁部突起がみられ、沈線・刻目が施される。

図94-5・図95-2・26・図96-8はⅤ群である。図94-5・図95-2は、雲形文が施される浅鉢形土器である。図94-5は口縁部突起があり、突起間に刺突が施される。図95-26は台部下端が肥厚する台付鉢である。図96-8はB類の鉢形土器である。口唇部に刻目が施され、胴部に突起がみられる。

図94-7~15・図95-16はⅥ群である。Ⅵ群土器のほとんどは、第101・355号土坑から出土している。A2類・C2類の深鉢形ないし鉢形土器(図94-7~11)、7類の浅鉢形土器(図94-12~14)等がみられる。

Ⅶ群土器は、B類の深鉢形土器や壺形土器が主体を占め、A類の深鉢形土器も散見される。B類の深鉢形土器の口唇部は、肥厚せずに平坦に調整されるもの(図95-32)もみられる。32は土器付着炭化物の年代測定を行っており、 $2,950 \pm 30 \text{yrBP}$ との結果が得られている(第4章第1節参照)。

(石器) 図94-1は敲き・磨り石で、正面には磨り痕、凹み痕、敲打痕が見られる。図94-21は石鏃、22は石匙である。22はつまみ部を作出しただけの簡単な作りで、側縁には微細剥離痕が認められる。図94-26・27は台石で、27は側板として使用されていたものである。図95-6は凹み石、図95-7は磨り石、図95-9は石鏃Ⅰ類である。図95-11は石鏃Ⅰd類、図95-13は石鏃Ⅰa類で、いずれも基部にアスファルトが付着している。図95-19は石鏃Ⅱb類で両端が破損している。図95-20は凹み石、図95-22は敲き石、図95-31はスクレイパーである。図96-1～5はいずれも石鏃Ⅱb類で、破損品である。

(石製品) 図94-6は、第91号土坑から出土した有孔石製品である。凝灰岩製で、正面・裏面ともに研磨調整が顕著である。穿孔は両面穿孔である。

図96-16～43は、第84号土坑及び同土坑の攪乱部分から出土したヒスイ製の玉類で、片面穿孔を特徴とする。16・18は側面に刻目がみられる。17は角柱状の玉で、一部に刻目状の凹みがみられる。18は楕円柱状の玉である。20～43は、径1cm前後の円形に近い形状の玉である。図97-1は、第89号土坑から出土したヒスイ製の勾玉である。穿孔は片面穿孔である。図97-2～123は、第370号土坑から出土した緑色凝灰岩製の玉類である。166点出土し、この内、比較的残存状況の良い122点を図示した。穿孔は全て両面穿孔である。小口面は平坦に研磨調整されるものが目立ち、片面が内減りするもの(19・24・76・110)等もみられる。径6mm、厚さ3mmほどの、径に対して厚さがないものが大半を占めるが、径に対して厚さがあるもの(20・21・53・55)もわずかにみられる。図97-124～127は、第373号土坑から出土した緑色凝灰岩製の玉類である。径8mm、厚さ5mmほどである。小口面は平坦に研磨調整され、全て両面穿孔である。

図94-23～25は、第101号土坑から出土した円盤状石製品である。径4cm前後、厚さ1～2cmである。25は周縁に敲打痕がみられる。掲載しなかったが、第276号土坑からも1点の円盤状石製品が出土している。

[リン・カルシウム分析] 平成27年度の調査では、本群土坑は土坑墓の可能性が高いと想定し、9割近くの遺構からリン・カルシウム分析用の試料を採取した。分析試料の選定は、これまで述べてきた諸属性毎に土坑を類別し、その中で代表的な18基について分析を行うこととした。分析にあたっては、底面直上から採取した試料について先行分析を行い、高い値が得られた土坑については、採取地点毎の含有量を比較するために試料を追加して分析を行った。分析結果については第4章第3節に記載してあるため、本項目では概要を記す。なお、分析報告中では、カルシウムは元々土壌に含まれている要素であることから、リンの値を中心に検討されており、本項目でもこれに準じた記載をする。

(赤色顔料検出土坑)

第108・113号土坑について分析を行った。いずれも、堆積土上位の試料からはリンは検出されなかったが、顔料中、底面直上、底面下の地山から採取した試料においてリンの含有量が高い結果が得られた。堆積土上位にリンが含まれていないことから、上位層からのコンタミネーションとは考えられず、骨や歯に由来する可能性が指摘されている。第108号土坑のNO.17～19は顔料中から採取した試料である。頭骨の存在が予想された層から採取したNO.18で高い値が検出されることを期待したが、結果として、3点共に高い値がでたものの(リン:1.29～3.50)、NO.18が突出することはなかった。

また、第113号土坑のNO.14-3も顔料中から採取したもので、リンの値が15.28と極めて高い値を示している。

(玉類出土土坑)

第89・373号土坑について分析を行った。第89号土坑の底面直上試料14-1ではリンの値が1.09と1%を超える含有量が示された。第373号土坑は緑色凝灰岩製の玉が出土した土坑で13点の試料について分析を行った。その結果、堆積土上位～中位の試料(NO.37～39、NO.69～71)は含有量が少ないのに対して、第6層中のNO.75で38.35とリンの含有量が極めて高い値が、底面下のNO.76～78からは約2～4%の高い値が検出された。堆積土上位の結果からコンタミネーションとは考えられず、骨や歯に由来する可能性が指摘されている。

(長軸方向が北を向く土坑)

第101・111・348号土坑について分析を行った。結果、高い値が検出されたのは第101号土坑(1～3%)だけであった。第111号土坑は1.22%の値が得られたが、マッピング図で1%を超える箇所が1カ所のみであるため含有量は低いと判断され、第348号土坑は1%を超える箇所すら検出されなかった。第101号土坑は長軸方向、側板の存在、遺物の出土状況などで他の土坑とは異なるものであるが、分析結果は骨や歯に由来する値が得られた。

(礫出土土坑)

礫出土状況1a類からは赤色顔料も検出した第108号土坑、1b類からは第294号土坑、3類から第243b・296・342号土坑について分析を行った。結果、いずれの土坑からも高い値が得られている。特に第296号土坑では底面直上から採取したNO.25で13.80%と極めて高い値が検出されている。これらの結果は骨や歯に由来する可能性が指摘されている。

(底面の傾き)

底面の傾きと頭位方向の関係についてリン・カルシウム分析の結果から推定できることを期待して、第182・268・301号土坑について分析を行った。結果、第182・268号土坑では高い値が得られ、骨や歯に由来する可能性が指摘されたが、底面の傾きとリン含有量には相関関係は見られず、頭位方向との関係については期待した結果を得られなかった。一方、極端に底面が傾いている第301号土坑の底面直上から採取した試料については、リンはあまり含まれていなかった。

(小型の土坑)

集中分布域東側に多く分布している長軸115cm未満の小型土坑4基について分析を行った(第320・331・337・403号土坑)。結果、全ての土坑から高い値が得られ、人骨や歯に由来する可能性が指摘されている。特に第403号土坑は短軸が40cmしかなく、長・短軸の比も1:0.36と本群土坑の中で最も小さい値を示すものである。リン・カルシウムの値は堆積土上位が低く、底面ないしは底面直下の値が高くなるものが一般的であるが、第403号土坑は底面から採取した試料の他に、堆積土上位から採取したNO.81で25.76%と極めて高い結果が得られており特異な状況を示す。他の堆積土上位採取試料ではリンが含まれていないことから、NO.81付近で攪乱の存在を想定したが、検出面では確認できなかった。極めて高い数値であり、頭骨付近があった可能性もある。

(長短軸比)高い値が得られた土坑の長短軸比は1:0.36～0.72までの土坑が含まれている。

【土坑墓の認定】B I 群土坑から検出された以下の属性を認定基準として、土坑墓を 48 基抽出した。

○属性 赤色顔料の検出、玉類の出土、礫出土土坑 1 類（顔料共伴事例）、礫出土土坑 2～4 類、リン・カルシウム分析結果

A 評価

- 1 : 1 基 赤色顔料が検出され、玉類が出土した第 84 号土坑
- 2 : 13 基 赤色顔料を検出した第 84・92・108・109・113・170・177・211・222・223・228・303・312 号土坑
- 3 : 3 基 玉類の出土した第 89・370・373 号土坑
- 4 : 6 基 礫出土状況 1 類の第 110・213・229・249・294・307 号土坑 ※顔料検出土坑を除く
- 1～3 の計 17 基については、リン・カルシウム分析の結果や他遺跡の事例などから土坑墓の可能性が高いといえるものである。4 は赤色顔料との関連が強く見られることと、リン・カルシウム分析結果から判断した。

B 評価

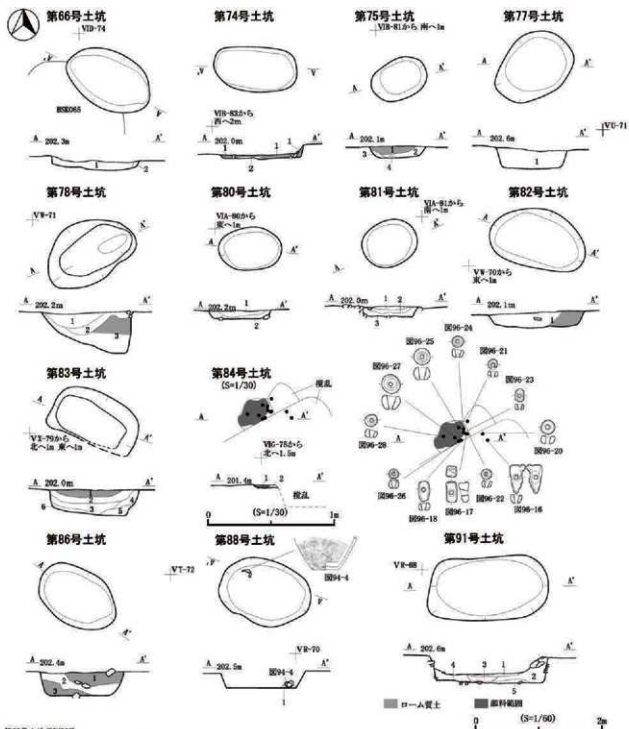
- 5 : 19 基 礫出土状況 2～4 類の第 101・210・215・230・233・235・239・240・241・243b・273・276・296・313・316・317・335・342・345 号土坑
- 6 : 6 基 リン・カルシウム分析結果から第 182・268・320・331・337・403 号土坑
- 5・6 は赤色顔料や玉類と絡まない属性であるが、5 の礫出土状況 2～4 類に含まれている土坑についてリン・カルシウム分析を行った結果、いずれも高い値が得られたことから認定基準含めた。

以上の結果、土坑墓とした 48 基は集中分布域内で偏りをみせず分布している（図 93）。このことから、土坑墓と認定できなかったその他 163 基の土坑についても、集中分布域から検出されたものや、長短軸比 1 : 0.36～0.72（リン・カルシウム分析の結果から）に含まれている土坑については土坑墓の可能性も考えられる。

（頭位方向）土坑墓として認定した中には底面の傾きと併せて頭位方向を推定できるものがある。第 108・303 号土坑は赤色顔料が検出された底面が高くなっており、第 108 号土坑は北西方向、第 303 号土坑は南西方向である。第 370 号土坑は緑色凝灰岩製の玉が 156 点出土した土坑である。玉は底面が高くなっている西側において連続状になって出土しており、この位置が頭位であると推測できる。

【小結】前述したように B I 群土坑は、分布域、形態などから土坑墓の可能性が考えられる。本群土坑は台地縁辺部の平坦面に分布し、特に V0～VI F-64～84 グリッド（68×80m）の範囲では 200 基前後の本群土坑が集中して分布している。この範囲内で東西 2 群に分けることができ、それぞれに本群土坑が作られない空白部が存在している。しかし、検出面上位が削平されているため、空白部に何があったのか詳細は不明である。なお、この地点からの特異な遺物出土状況は確認されなかった。また、本群土坑集中分布域は土器埋設遺構の分布域と近接しており、両遺構に関連性があったことが考えられる。本群土坑同士の重複事例は非常に少なく 10 例しかない。このことから、遺構の存在を認識している集団が継続して構築していたと考えられる。構築時期に関しては土坑墓と認定した第 109 号土坑から晩期中葉の土器、第 101 号土坑から晩期後葉の土器が出土していることから、その期間は晩期中葉から後葉までと考えられる。

（小山）



第66号土坑 (SK066)

第1層 10YR4/6 褐色土 竪(φ1~2)mm 25
第2層 10YR5/9 黄褐色土 竪(φ1~2)mm 25

第74号土坑 (SK074)

第1層 10YR4/6 褐色土 竪(φ1~3)mm 15, $\square \sim \Delta$ 主体層
第2層 10YR5/9 黄褐色土 炭化物(1~2mm) 15, 竪(φ1~2)mm 15

第75号土坑 (SK075)

第1層 10YR5/9 黄褐色土 $\square \sim \Delta$ 主体層
第2層 10YR5/4 に赤い黄褐色土 炭化物(1~2mm) 15
第3層 10YR1/6 褐色土 竪(φ1~3)mm 15
第4層 10YR3/4 暗褐色土 竪(φ1~1)mm 15

第77号土坑 (SK077)

第1層 10YR3/4 暗褐色土 $\square \sim \Delta$ 25, 炭化物15

第78号土坑 (SK078)

第1層 10YR4/6 褐色土 炭化物15
第2層 10YR3/4 暗褐色土 竪(φ1~3)mm 15
第3層 10YR4/6 褐色土 $\square \sim \Delta$ 主体層

第80号土坑 (SK080)

第1層 10YR4/6 褐色土 炭化物(1~2mm) 15, 竪(φ1~1)mm 15
第2層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物粒15, $\square \sim \Delta$ 105

第81号土坑 (SK081)

第1層 10YR4/6 褐色土 竪(φ1~1)mm 15
第2層 10YR3/4 暗褐色土 $\square \sim \Delta$ 主体層

第82号土坑 (SK082)

第1層 10YR3/4 暗褐色土 $\square \sim \Delta$ 主体層

第83号土坑 (SK083)

第1層 10YR5/9 黄褐色土 $\square \sim \Delta$ 主体層
第2層 10YR4/6 褐色土 炭化物粒15, $\square \sim \Delta$ 15
第3層 10YR3/4 暗褐色土 $\square \sim \Delta$ 15
第4層 10YR5/4 に赤い黄褐色土 炭化物(1~4mm) 15
第5層 10YR5/9 黄褐色土 竪(φ1~3)mm 15
第6層 10YR4/6 褐色土 竪(φ1~3)mm 15

第84号土坑 (SK084)

第1層 10YR5/9 黄褐色土 赤色顔料層
第2層 10YR5/9 黄褐色土 炭化物(1~3mm) 15

第86号土坑 (SK086)

第1層 10YR4/6 褐色土 $\square \sim \Delta$ 主体層
第2層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物15
第3層 10YR5/9 黄褐色土 $\square \sim \Delta$ 主体層

第88号土坑 (SK088)

第1層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ1~2mm) 15, 炭層

第89号土坑 (SK089)

第1層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物 $\square \sim \Delta$ 竪(φ1~1)mm 15, 竪(φ30~80mm) 15

第91号土坑 (SK091)

第2層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物粒15, 竪(φ2~5)mm 15
第3層 10YR3/4 に赤い黄褐色土 $\square \sim \Delta$ 炭層
第4層 10YR4/6 褐色土 竪(φ3~5)mm 15
第5層 10YR4/6 褐色土 竪(φ1~1)mm 15
第6層 10YR4/6 褐色土 竪(φ3~1)mm 15

図70 B I 群土坑 (1)

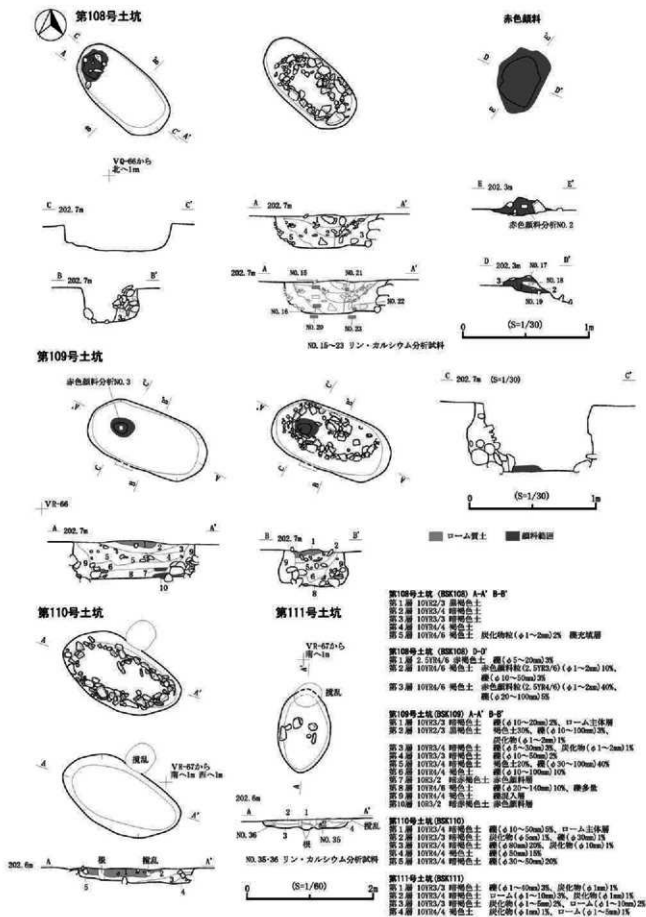


図72 B I 群土坑 (3)

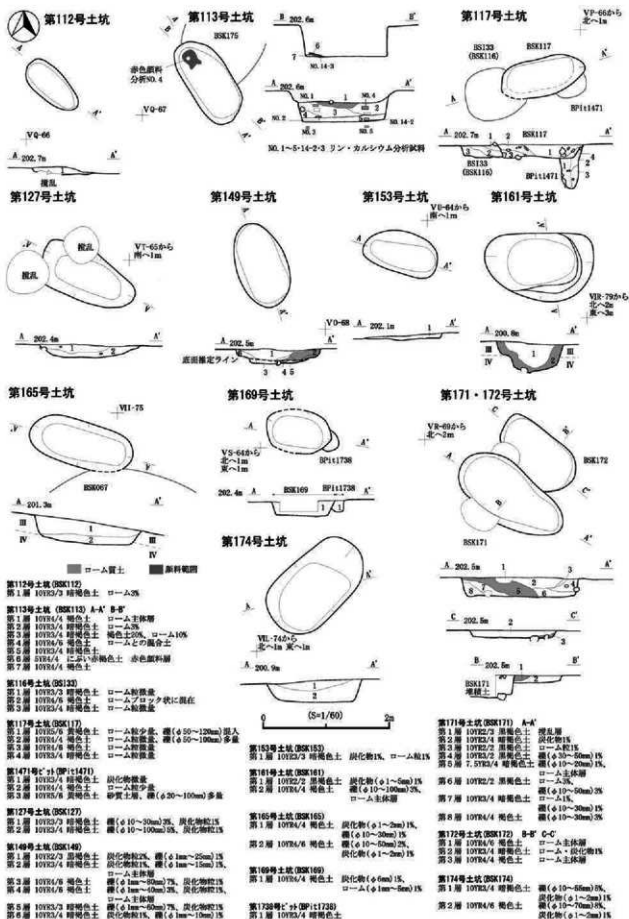


図73 B I 群土坑 (4)

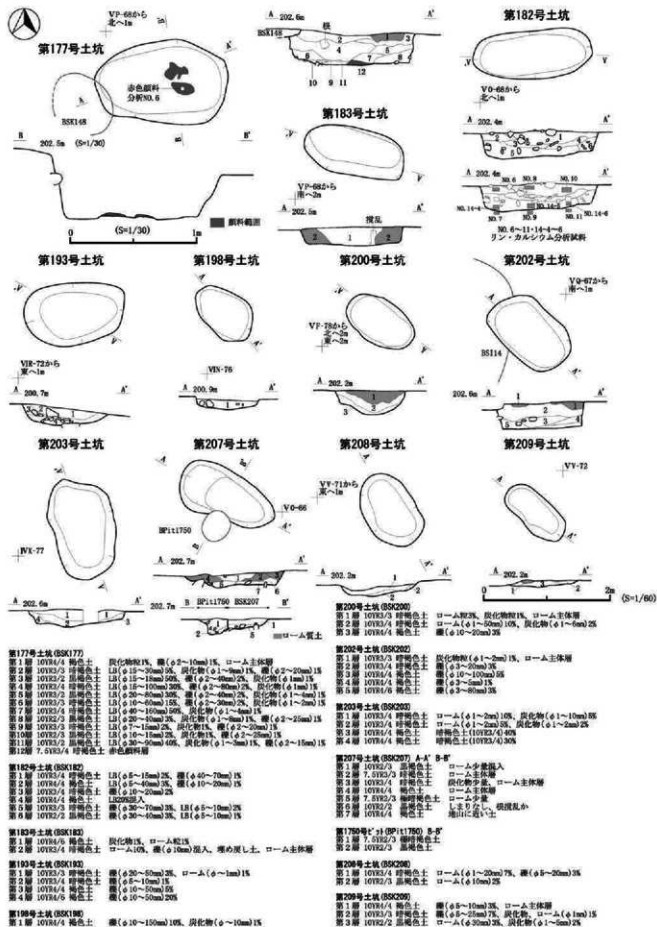


図74 B I 群土坑 (5)

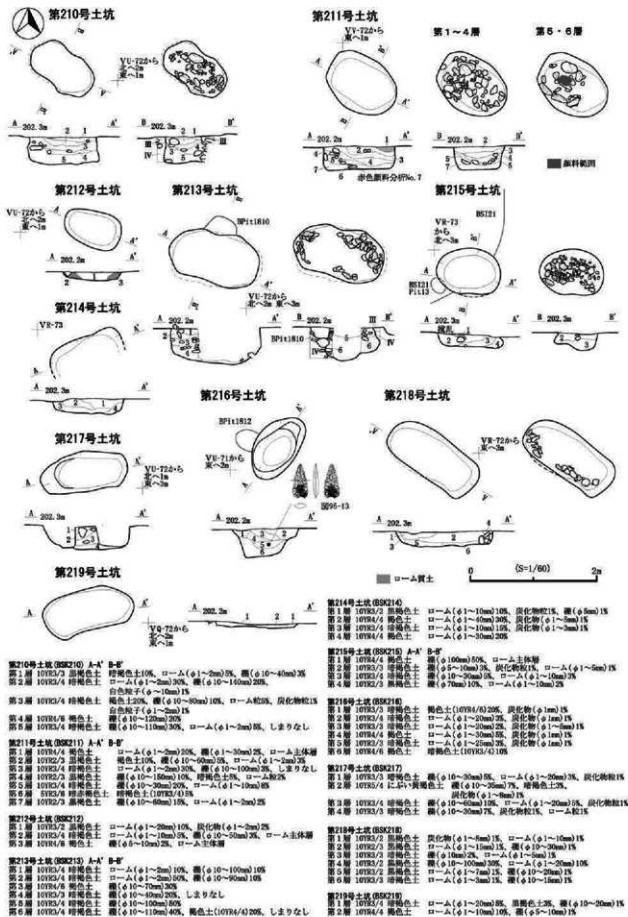
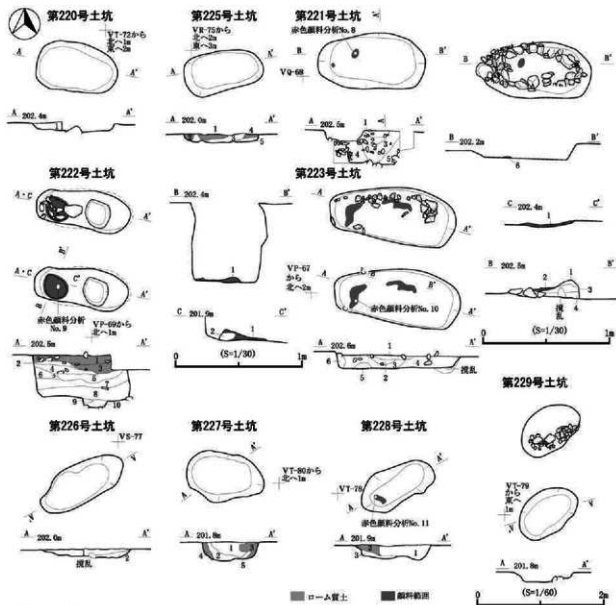


图75 B I群土坑(6)



第220号土坑 (9K220)

第1層 10YR4/6 褐色土、暗褐色土(10YR3/4)2%、ローム(φ30~50mm)2%、炭化物(φ1mm)1%

第221号土坑 (9K221) A-A'

第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ50~70mm)2%
第2層 10YR2/3 暗褐色土 礫(φ75~150mm)層の左側に集中
第3層 10YR2/3 暗褐色土 礫(φ50~70mm)2%
第4層 10YR3/4 暗褐色土 小礫(φ40~50mm)
第5層 10YR3/4 暗褐色土

第221号土坑 (9K221) B-B'

第1層 7.5YR2/4 暗褐色土 赤色磁器片

第222号土坑 (9K222) A-A'

第1層 10YR4/4 褐色土 礫(φ10~100mm)20%、暗褐色土(10YR3/4)10%、ローム主体層
第2層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~50mm)10%
第3層 10YR3/4 暗褐色土 暗褐色土(10YR4/4)20%、礫(φ10~60mm)3%、炭化物(φ1~2mm)2%
ローム主体層
第4層 10YR2/3 暗褐色土 礫(φ5~100mm)2%、炭化物(φ1~2mm)1%
第5層 10YR2/3 暗褐色土 暗褐色土(10YR4/4)20%、礫(φ5~20mm)2%、炭化物(φ1~2mm)1%
第6層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~100mm)10%
第7層 10YR2/3 暗褐色土 礫(φ10~50mm)2%
第8層 10YR2/3 暗褐色土 礫(φ10~100mm)10%
第9層 7.5YR2/3 暗褐色土 礫(φ100~200mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1%
第10層 10YR4/6 褐色土 粘土層

第222号土坑 (9K222) B-B' C-C'

第1層 7.5YR2/4 暗褐色土 赤色磁器片
第2層 10YR2/3 暗褐色土

第223号土坑 (9K223) A-A'

第1層 10YR2/3 暗褐色土 炭化物(φ1~2mm)2%、礫(φ10~50mm)2%
第2層 10YR3/4 暗褐色土 暗褐色土(10YR4/4)20%、炭化物(φ1~2mm)2%、礫(φ5~20mm)1%
第3層 10YR4/4 褐色土 礫(φ10~50mm)2%、暗褐色土(10YR3/3)2%、炭化物(φ1~2mm)1%
第4層 10YR2/3 暗褐色土 礫(φ20~100mm)2%
第5層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ5~10mm)5%
第6層 10YR4/3 土壌暗褐色土 礫(φ20~50mm)2%、炭化物(φ1~2mm)1%

第223号土坑 (9K223) 断面1 B-B'

第1層 10YR2/3 暗褐色土 暗褐色土(10YR4/4)20%、炭化物(φ1~2mm)1%
第2層 7.5YR4/4 褐色土 礫(φ5~20mm)2%、赤色磁器片
第3層 10YR4/4 褐色土 暗褐色土(10YR3/3)5%
第4層 10YR3/4 暗褐色土 高純色土(10YR2/3)10%、礫(φ60~100mm)20%

第223号土坑 (9K223) 断面2 C-C'

第1層 7.5YR2/3 暗褐色土 赤色磁器片

第224号土坑 (9K224)

第1層 10YR5/3 土壌暗褐色土 暗褐色土(10YR4/4)20%、ローム主体層
第2層 10YR4/4 褐色土 炭化物(φ1~2mm)2%、赤色磁器片
第3層 10YR4/4 暗褐色土 土壌暗褐色土
第4層 10YR3/3 暗褐色土 暗褐色土(10YR4/4)20%、ローム主体層
第5層 10YR2/3 暗褐色土 暗褐色土(10YR3/3)2%

第228号土坑 (9K228)

第1層 10YR5/3 土壌暗褐色土 暗褐色土(10YR3/3)2%
第2層 10YR4/4 褐色土 暗褐色土(10YR3/3)2%

第227号土坑 (9K227)

第1層 10YR2/3 暗褐色土 暗褐色土(10YR5/6)7%、炭化物1%
第2層 10YR3/4 暗褐色土 暗褐色土(10YR4/6)10%、炭化物1%、ローム主体層
第3層 10YR2/4 暗褐色土 暗褐色土(10YR4/6)7%、ローム主体層
第4層 10YR2/3 暗褐色土 暗褐色土(10YR3/4)10%

第229号土坑 (9K229)

第1層 10YR5/3 暗褐色土 暗褐色土(10YR5/6)7%、炭化物1%
第2層 10YR4/6 褐色土 暗褐色土(10YR4/6)10%、炭化物1%、ローム主体層
第3層 10YR2/4 暗褐色土 暗褐色土(10YR4/6)7%

図76 B I 群土坑 (7)

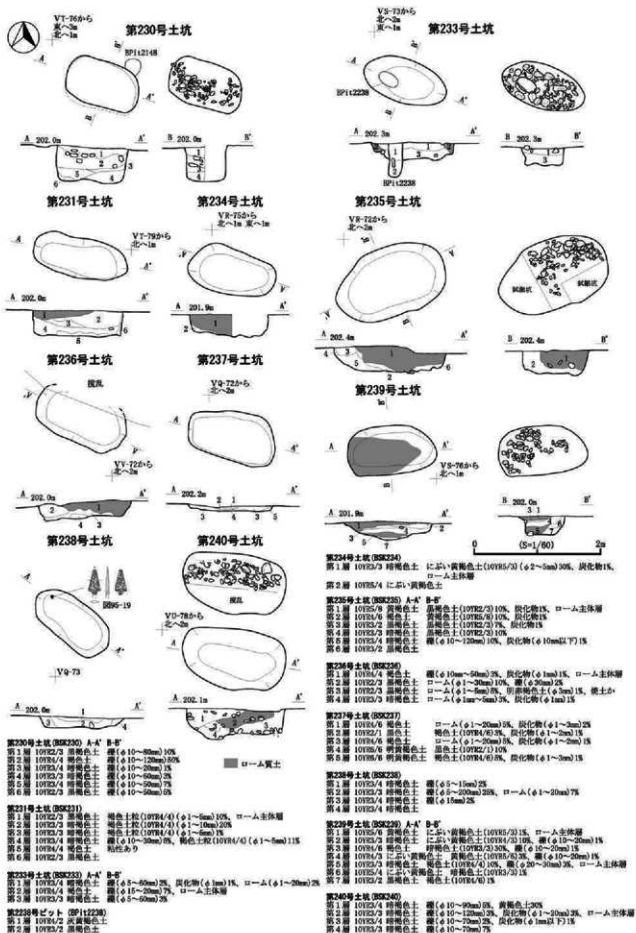


図77 B I 群土坑 (8)

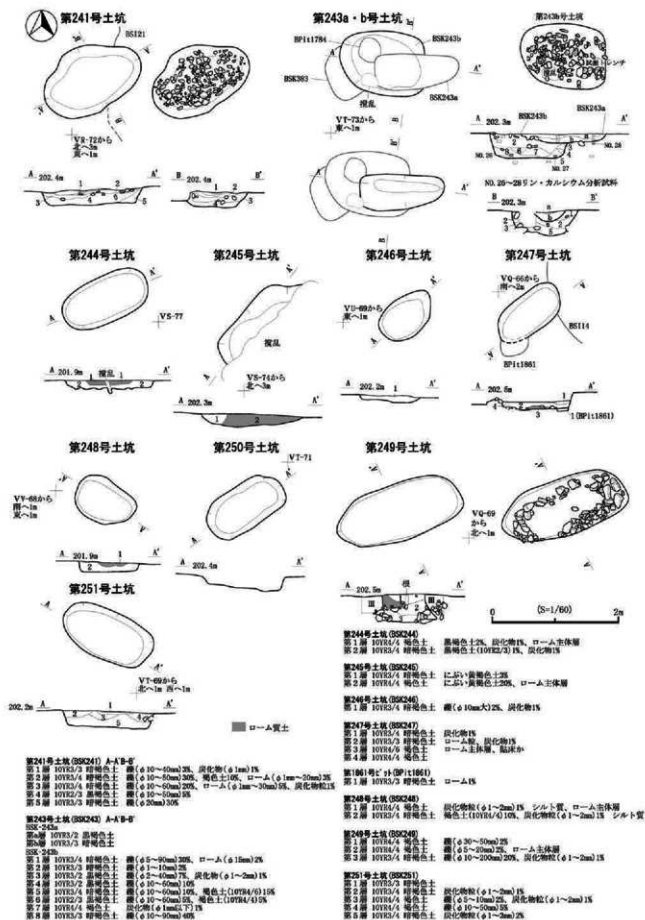


図78 B I 群土坑 (9)

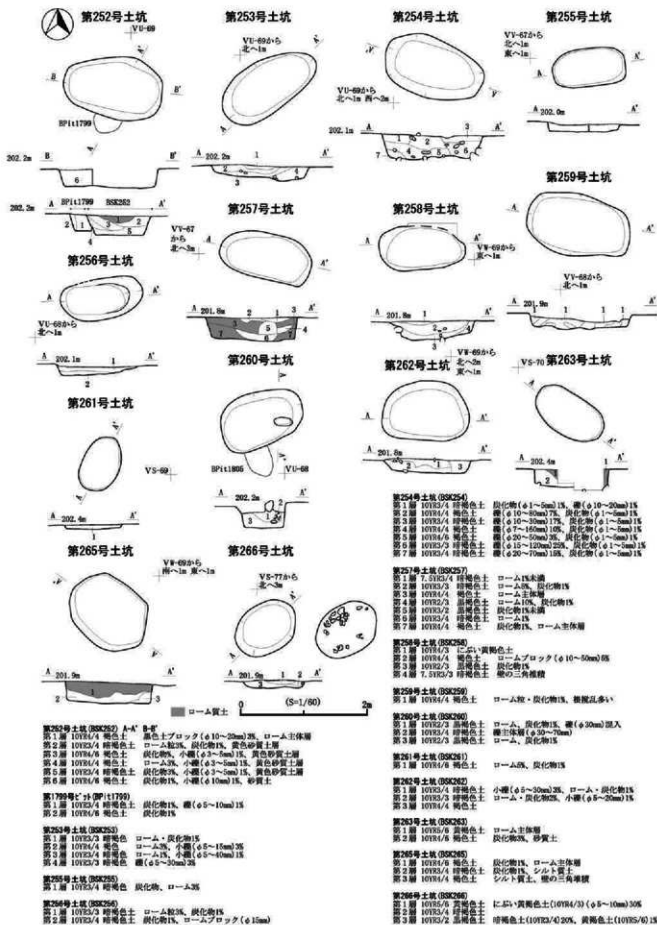
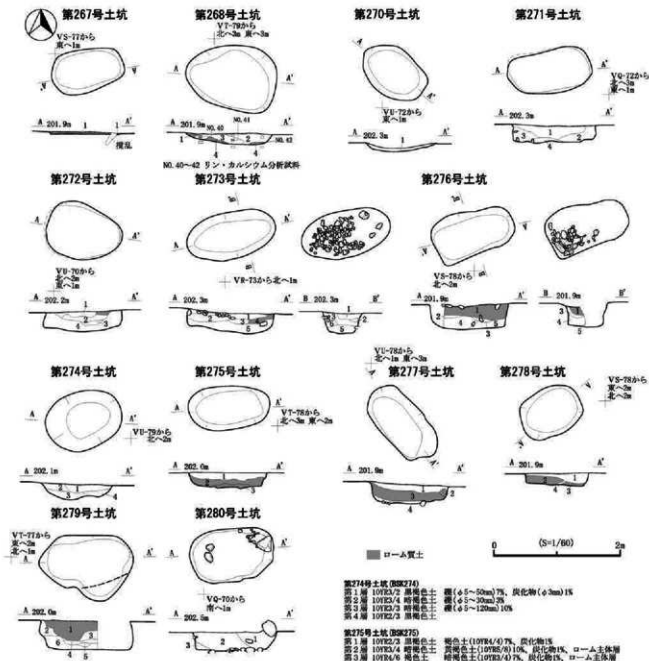


図79 BⅡ群土坑(10)



第267号土坑 (BK267)

第1層 10YR5/6 黄褐色土 褐色土(10YR4/4)2%、ローム主体層

第268号土坑 (BK268)

第1層 10YR5/4 上に黄褐色土 暗褐色土(10YR3/3)1%、ローム主体層
第2層 10YR3/2 暗褐色土 上に黄褐色土(10YR4/2)1%、黄褐色土(10YR5/6)1%
第3層 10YR3/1 上に黄褐色土 暗褐色土(10YR3/3)10%
第4層 10YR5/6 黄褐色土 ローム主体層

第270号土坑 (BK270)

第1層 10YR4/6 褐色土 黒褐色土(10YR3/2)10%

第271号土坑 (BK271)

第1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム(ϕ 1~40mm)20%、礫(ϕ 5~30mm)2%、炭化物粒1%
第2層 10YR3/2 暗褐色土 ローム(ϕ 1~10mm)2%、炭化物粒1%、礫(ϕ 5~10mm)1%
第3層 10YR3/3 暗褐色土 褐色土(ϕ 1~3mm)1%
第4層 10YR3/1 褐色土 礫(ϕ 5~10mm)10%、ローム(ϕ 1~15mm)5%

第272号土坑 (BK272)

第1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム(ϕ 1~30mm)20%、炭化物(ϕ 1~2mm)1%
第2層 10YR4/4 褐色土 礫(ϕ 20~25mm)2%、炭化物粒1%、ローム主体層
第3層 10YR2/4 暗褐色土 褐色土(ϕ 10YR2/2)10%
第4層 10YR4/4 褐色土 ローム(ϕ 1~60mm)20%、炭化物(ϕ 1~7mm)2%

第273号土坑 (BK273) A-A' B-B'

第1層 10YR3/4 暗褐色土 礫(ϕ 10~60mm)20%、ローム粒10%、黒褐色土2%
第2層 10YR3/4 暗褐色土 ローム(ϕ 1~2mm)50%
第3層 10YR4/4 褐色土 暗褐色土20%、ローム(ϕ 1~2mm)2%、礫(ϕ 10~40mm)5%
第4層 10YR4/6 褐色土 礫(ϕ 10~10mm)20%、炭化物(ϕ 1~2mm)1%、ローム主体層
第5層 10YR4/4 暗褐色土 礫(ϕ 10~10mm)20%、ローム(ϕ 1~2mm)20%、褐色土10%
第6層 10YR4/4 褐色土 礫(ϕ 80mm)7%、ローム(ϕ 1~2mm)5%

第274号土坑 (BK274)

第1層 10YR2/2 暗褐色土 礫(ϕ 5~50mm)7%、炭化物1%
第2層 10YR2/4 暗褐色土 礫(ϕ 5~30mm)2%
第3層 10YR2/2 暗褐色土 礫(ϕ 5~120mm)10%

第275号土坑 (BK275)

第1層 10YR2/2 暗褐色土 褐色土(10YR4/0)7%、炭化物1%
第2層 10YR2/4 暗褐色土 黄褐色土(10YR5/6)10%、炭化物1%、ローム主体層
第3層 10YR4/6 褐色土 暗褐色土(10YR3/0)7%、炭化物2%、ローム主体層

第276号土坑 (BK276) A-A' B-B'

第1層 10YR4/6 褐色土 暗褐色土(10YR3/3)3%、ローム主体層
第2層 10YR2/2 暗褐色土
第3層 10YR2/4 暗褐色土
第4層 10YR2/2 暗褐色土
第5層 10YR2/2 暗褐色土 暗褐色土(10YR3/3)2%
第6層 10YR2/2 暗褐色土 上に黄褐色土(10YR4/2)2%

第277号土坑 (BK277)

第1層 10YR2/2 暗褐色土 上に黄褐色土(10YR5/2)(ϕ 2~5mm)20%、炭化物1%
第2層 10YR2/4 暗褐色土 炭化物(ϕ 5mm)1%、礫(ϕ 5mm)3%、ローム主体層
第3層 10YR4/3 上に黄褐色土 ローム主体層
第4層 10YR5/4 上に黄褐色土 黄褐色土(10YR5/6)10%、ローム主体層

第278号土坑 (BK278)

第1層 10YR2/2 暗褐色土 黄褐色土10%、炭化物粒1%、礫(ϕ 10mm)1%
第2層 10YR2/4 暗褐色土 黄褐色土(10YR5/6)10%、ローム主体層
第3層 10YR4/3 上に黄褐色土 ローム主体層
第4層 10YR2/2 暗褐色土 黄褐色土(10YR5/6)(ϕ 3~10mm)7%

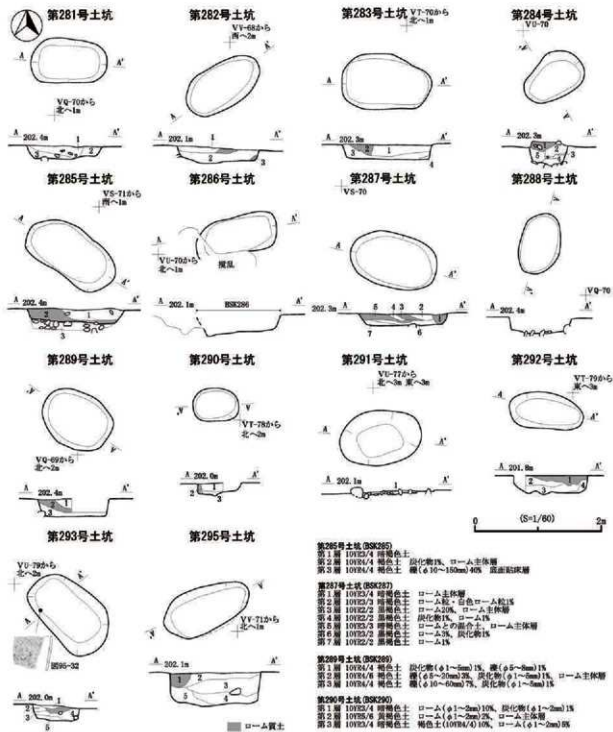
第279号土坑 (BK279)

第1層 10YR4/4 褐色土 暗褐色土(10YR3/4)20%、炭化物1%、ローム主体層
第2層 10YR2/4 暗褐色土 褐色土(10YR4/0)10%
第3層 10YR2/2 暗褐色土 暗褐色土(10YR3/3)10%
第4層 10YR2/4 暗褐色土 暗褐色土(10YR3/3)10%
第5層 10YR2/4 暗褐色土 暗褐色土(10YR3/3)10%
第6層 10YR4/4 褐色土 黄褐色土(10YR5/6)(ϕ 3~5cm)10%、黒褐色土1%

第280号土坑 (BK280)

第1層 10YR2/2 暗褐色土 礫(ϕ 15~30mm)8%、炭化物、ローム1%
第2層 10YR2/4 暗褐色土 礫(ϕ 10~30mm)1%
第3層 10YR2/2 暗褐色土 砂質土

図80 B I 群土坑 (11)



- 第285号土坑 (SK285)**
 第1層 10Y2/4 暗褐色土
 第2層 10Y3/4 褐色土 炭化物1%, □-△主跡層
 第3層 10Y3/4 褐色土 礫(φ10~150mm)40% 底面黏土層
- 第287号土坑 (SK287)**
 第1層 10Y2/4 暗褐色土 □-△主跡層
 第2層 10Y2/2 暗褐色土 □-△底、灰色□-△底跡
 第3層 10Y2/2 暗褐色土 □-△20%, □-△主跡層
 第4層 10Y2/2 暗褐色土 炭化物1%, □-△1%
 第5層 10Y2/2 暗褐色土 □-△との混合土、□-△主跡層
 第6層 10Y2/2 暗褐色土 □-△3%, 炭化物1%
 第7層 10Y2/2 暗褐色土 □-△1%
- 第289号土坑 (SK289)**
 第1層 10Y3/4 暗褐色土 礫(φ5~20mm)1%, 礫(φ5~8mm)1%
 第2層 10Y3/6 褐色土 礫(φ10~20mm)2%, □-△主跡層
 第3層 10Y3/4 褐色土 礫(φ10~60mm)7%, 炭化物(φ1~5mm)1%
- 第290号土坑 (SK290)**
 第1層 10Y2/4 暗褐色土 □-△(φ1~2mm)10%, 炭化物(φ1~2mm)1%
 第2層 10Y3/6 褐色土 □-△(φ1~2mm)2%, □-△主跡層
 第3層 10Y3/4 暗褐色土 褐色土(10Y3/4)10%, □-△(φ1~2mm)5%
- 第291号土坑 (SK291)**
 第1層 10Y3/4 褐色土 礫(φ2~40mm)10%, 砂礫20%
- 第292号土坑 (SK292)**
 第1層 10Y3/4 褐色土 炭化物1%, □-△主跡層
 第2層 10Y2/1 暗褐色土 炭化物1%
 第3層 10Y2/2 暗褐色土 炭化物1%
- 第281号土坑 (SK281)**
 第1層 10Y3/2 暗褐色土 小礫(φ20~30mm)2%
 第2層 10Y2/2 暗褐色土 小礫(φ30~60mm)2%
 第3層 10Y2/4 暗褐色土 炭化物1%
- 第282号土坑 (SK282)**
 第1層 10Y3/4 暗褐色土 礫(φ10~15mm)2%, 炭化物(φ1~5mm)1%, □-△主跡層
 第2層 10Y3/4 暗褐色土 礫(φ10~40mm)5%, 炭化物(φ1~5mm)1%
 第3層 10Y3/6 褐色土 □-△主跡層
- 第283号土坑 (SK283)**
 第1層 10Y2/2 暗褐色土 炭化物1%
 第2層 10Y2/4 暗褐色土 □-△主跡層
 第3層 10Y2/3 暗褐色土 炭化物7%
 第4層 10Y2/6 褐色土
- 第284号土坑 (SK284)**
 第1層 10Y3/6 褐色土 礫(φ40~70mm)5%, □-△主跡層
 第2層 10Y2/3 暗褐色土 □-△主跡層
 第3層 10Y2/4 暗褐色土 礫(φ20~30mm)2%, 砂質土
 第4層 10Y2/4 暗褐色土 礫(φ20~30mm)2%
 第5層 7.5YR/4 褐色土 礫(φ20~50mm)5%
- 第286号土坑 (SK286)**
 第1層 10Y2/4 暗褐色土 炭化物1%
 第2層 10Y2/2 暗褐色土 □-△主跡層
 第3層 10Y2/2 暗褐色土 □-△主跡層
 第4層 10Y2/2 暗褐色土 □-△主跡層
- 第287号土坑 (SK287)**
 第1層 10Y2/4 暗褐色土 □-△主跡層
 第2層 10Y2/2 暗褐色土 □-△主跡層
 第3層 10Y2/2 暗褐色土 □-△主跡層
 第4層 10Y2/2 暗褐色土 □-△主跡層
- 第288号土坑 (SK288)**
 第1層 10Y2/4 暗褐色土 □-△主跡層
 第2層 10Y2/2 暗褐色土 □-△主跡層
 第3層 10Y2/2 暗褐色土 □-△主跡層
- 第289号土坑 (SK289)**
 第1層 10Y2/4 暗褐色土 □-△主跡層
 第2層 10Y2/2 暗褐色土 □-△主跡層
 第3層 10Y2/2 暗褐色土 □-△主跡層
- 第290号土坑 (SK290)**
 第1層 10Y2/4 暗褐色土 □-△主跡層
 第2層 10Y2/2 暗褐色土 □-△主跡層
 第3層 10Y2/2 暗褐色土 □-△主跡層
- 第291号土坑 (SK291)**
 第1層 10Y2/4 暗褐色土 □-△主跡層
 第2層 10Y2/2 暗褐色土 □-△主跡層
 第3層 10Y2/2 暗褐色土 □-△主跡層
- 第292号土坑 (SK292)**
 第1層 10Y2/4 暗褐色土 □-△主跡層
 第2層 10Y2/2 暗褐色土 □-△主跡層
 第3層 10Y2/2 暗褐色土 □-△主跡層

図81 B I 群土坑 (12)

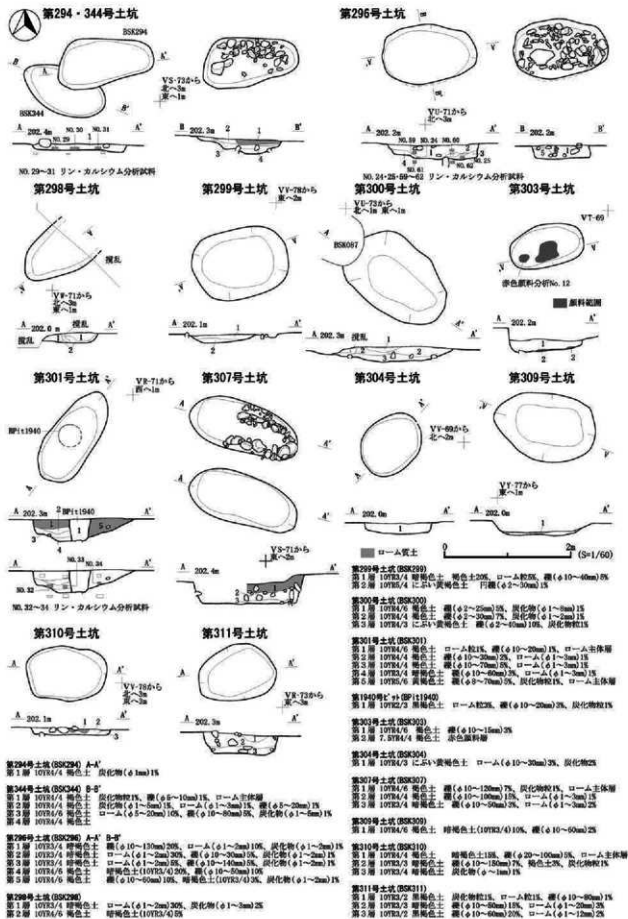


図2 B I 群土坑 (13)

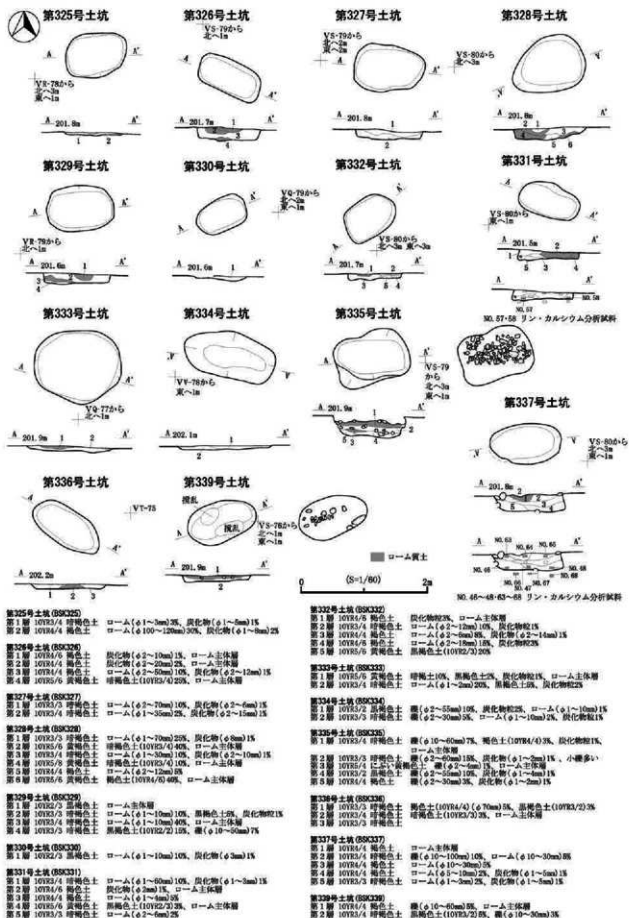


図84 B I 群土坑 (15)

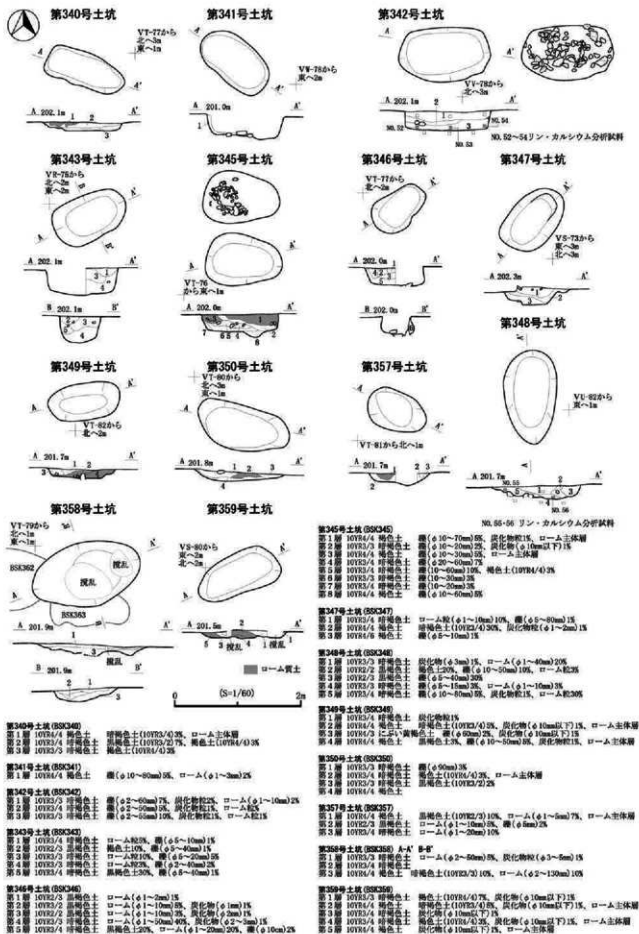
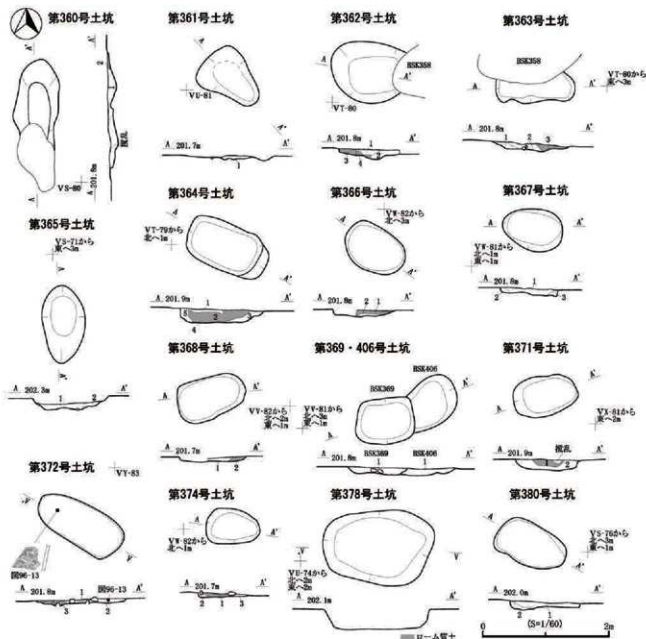


図85 B I 群土坑 (16)

**第360号土坑 (BK360)**

第1層 10YR3/4 暗褐色土

第2層 10YR3/4 暗褐色土

ロ-△(φ1~20cm)25%, 炭化物(φ3mm)1%

ロ-△(φ1~60cm)5%, ロ-△主体層

第361号土坑 (BK361)

第1層 10YR4/4 褐色土 炭褐色土(10YR2/3)2%, 炭化物粒1%, ロ-△粒1%

第362号土坑 (BK362)

第1層 10YR2/3 暗褐色土

第2層 10YR2/3 暗褐色土

第3層 10YR4/4 褐色土

第4層 10YR3/4 暗褐色土

ロ-△(φ1~30cm)10%, 礫(φ5~50mm)2%

ロ-△(φ1~30cm)2%, 礫(φ20cm)2%

ロ-△(φ1~30cm)30%, ロ-△主体層

ロ-△(φ1~60cm)45%, ロ-△主体層

第363号土坑 (BK363)

第1層 10YR3/6 褐色土

第2層 10YR4/4 褐色土

第3層 10YR4/4 褐色土

暗褐色土20%, 炭褐色土1%, 礫(φ10~40mm)2%

礫(φ10~40mm)45%, 炭褐色土5%

礫(φ15~35mm)45%, ロ-△主体層

第364号土坑 (BK364)

第1層 10YR2/3 暗褐色土

第2層 10YR4/4 褐色土

第3層 10YR2/3 暗褐色土

第4層 10YR3/4 褐色土

ロ-△(φ1~60cm)20%, 炭化物粒1%

暗褐色土(10YR2/3)1%, ロ-△主体層

暗褐色土(10YR2/4)20%, ロ-△(φ1~10cm)2%

褐色土(10YR4/6)20%, 暗褐色土(10YR2/4)30%, 炭化物粒1%, ロ-△粒1%

第365号土坑 (BK365)

第1層 10YR4/4 褐色土

第2層 10YR3/6 褐色土

炭化物(φ5~5mm)1%, ロ-△(φ1~12cm)1%

暗褐色土(10YR2/4)10%, 炭化物(φ2~6mm)1%, ロ-△粒1%

第366号土坑 (BK366)

第1層 10YR2/3 暗褐色土

第2層 10YR4/4 褐色土

暗褐色土(10YR2/2)7%, ロ-△主体層

暗褐色土(10YR2/3)7%

第367号土坑 (BK367)

第1層 10YR2/3 暗褐色土

第2層 10YR4/4 褐色土

第3層 10YR2/3 暗褐色土

ロ-△(φ1~20cm)10%, 炭化物(φ2~6mm)2%

礫(φ20cm)5%

ロ-△(φ1~20cm)15%

第368号土坑 (BK368)

第1層 10YR2/3 暗褐色土

第2層 10YR4/4 褐色土

ロ-△(φ1~30cm)30%, 炭化物(φ1~3mm)1%

炭化物粒1%, ロ-△主体層

第369号土坑 (BK369)

第1層 10YR4/4 褐色土

礫(φ5~10cm)10%, 炭褐色土7%, 炭化物粒1%

第406号土坑 (BK406)

第1層 10YR2/3 暗褐色土

礫(φ5~70mm)20%, ロ-△(φ1~10cm)2%, 炭化物粒1%

第371号土坑 (BK371)

第1層 10YR2/4 暗褐色土

第2層 10YR2/4 暗褐色土

第3層 10YR2/4 暗褐色土

炭化物(φ1~3mm)2%, ロ-△主体層

暗褐色土10%, ロ-△(φ1~30cm)5%, 炭化物粒1%

第372号土坑 (BK372)

第1層 10YR4/4 褐色土

第2層 10YR3/4 暗褐色土

第3層 10YR4/4 褐色土

礫(φ10mm)1%

暗褐色土7%, 礫(φ10~50mm)2%, 炭化物粒2%

礫(φ10~30mm)20%, ロ-△主体層

第374号土坑 (BK374)

第1層 10YR4/4 褐色土

第2層 10YR4/4 褐色土

第3層 10YR4/4 褐色土

礫(φ10~110mm)2%, ロ-△主体層

暗褐色土(10YR2/4)10%

第380号土坑 (BK380)

第1層 10YR2/3 暗褐色土

第2層 10YR1/6 褐色土

暗褐色土(10YR4/6)30%, 暗褐色土5%, 炭化物粒2%

暗褐色土(10YR2/4)10%, 炭化物粒1%

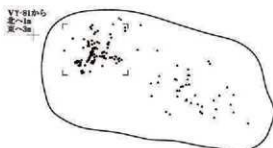
图86 B I 群土坑 (17)



第370号土坑

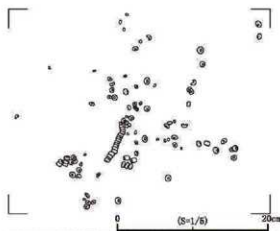
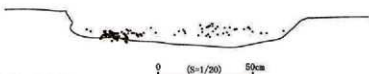


第370号土坑 (曲線370)
 第1層 107E2/3 黒褐色土 ローム(φ2~20mm)8%, 炭化物(φ1~3mm)1%
 第2層 107E2/4 暗褐色土 炭化物(φ1mm)1%, ローム主体層
 (S=1/60) 2m

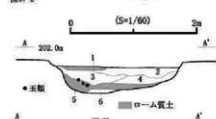
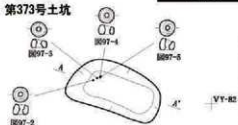


A 202.0m

▲ 第1層出土瓦類
 ● 第2層出土瓦類



第373号土坑



NO. 27~29-69~78
 リン・カルシウム分析資料 NO. 11

第373号土坑 (曲線373)
 第1層 107E1/0 暗褐色土 ローム主体層
 第2層 107E2/4 暗褐色土 黒褐色土(107E2/3)10%, ローム(φ1~10mm)10%
 第3層 107E2/4 暗褐色土 ローム(φ1~10mm)20%, 黒褐色土3%, シミヤクシ
 第4層 107E2/3 暗褐色土 暗褐色土30%, ローム(φ1~10mm)2%, シミヤクシ
 第5層 107E2/4 暗褐色土 ローム(φ1~10mm)40%, 黒褐色土3%, ローム主体層
 第6層 107E2/1 暗褐色土 ローム(φ1~10mm)8%



図87 B I 群土坑 (18)

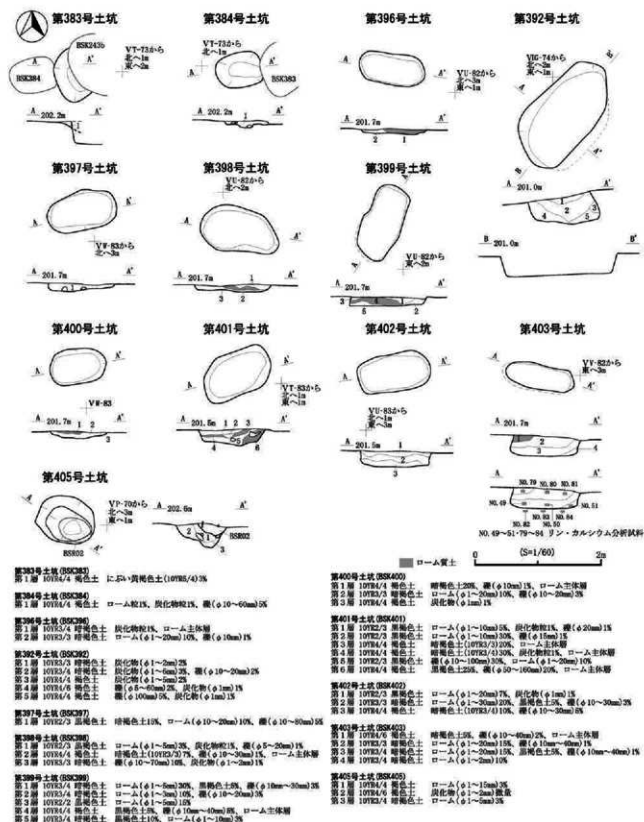


図88 B I 群土坑 (19)



1a類 両方の壁際に並ぶ類

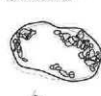
第108号土坑



第109号土坑



第213号土坑



第249号土坑



第110号土坑



第221号土坑



第307号土坑



第211号土坑



第5・6層



1b類 一方の壁際に寄る類

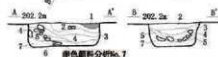
第223号土坑



第294号土坑



第229号土坑



2類 長軸上の一端に寄る類

第222号土坑



第239号土坑



第276号土坑



第313号土坑



第345号土坑



3類 堆積土中央ないしは全域に廃棄される類

第233号土坑



第317号土坑



第342号土坑



第210号土坑



第316号土坑



第240号土坑



第215号土坑



第243b号土坑



第335号土坑

4類 壁際から板状硬が
出土した類

第101号土坑



第296号土坑



第273号土坑



第241号土坑



第235号土坑



第230号土坑

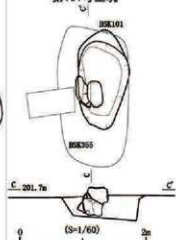
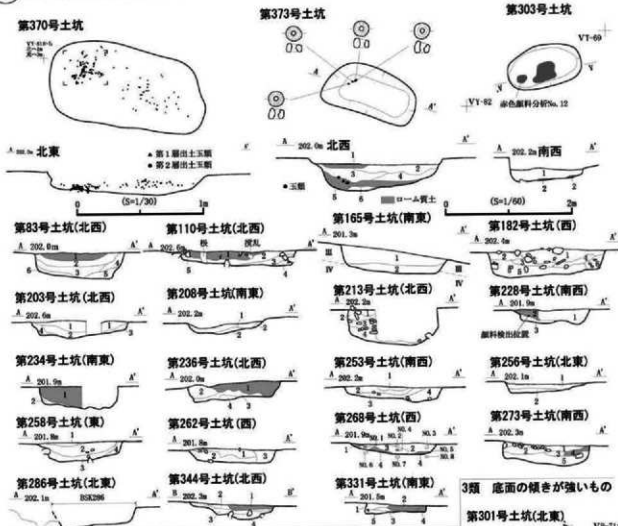


図89 礎出土土坑

■ 資料写真

1類 底面が全体的に傾くもの



2類 底面の一部が傾くもの



3類 底面の傾きが強いもの

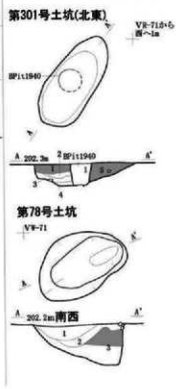


図90 底面の傾き

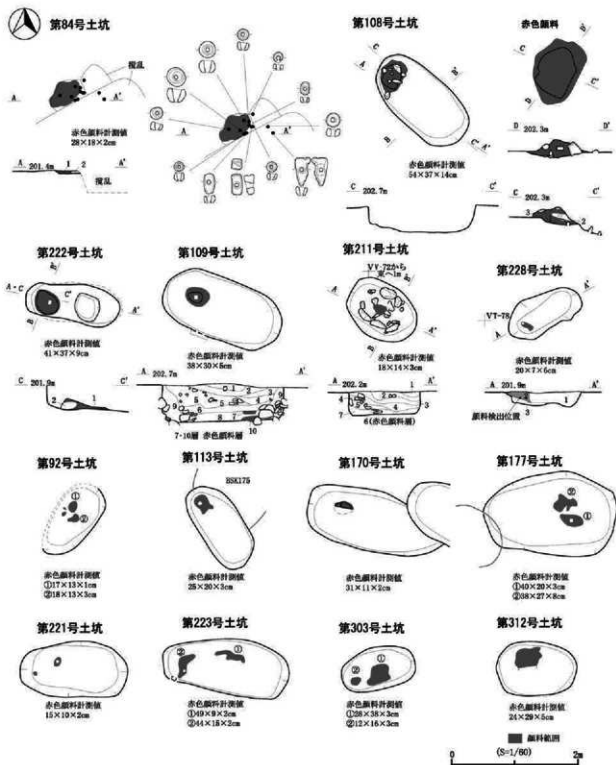


図91 赤色顔料検出土坑

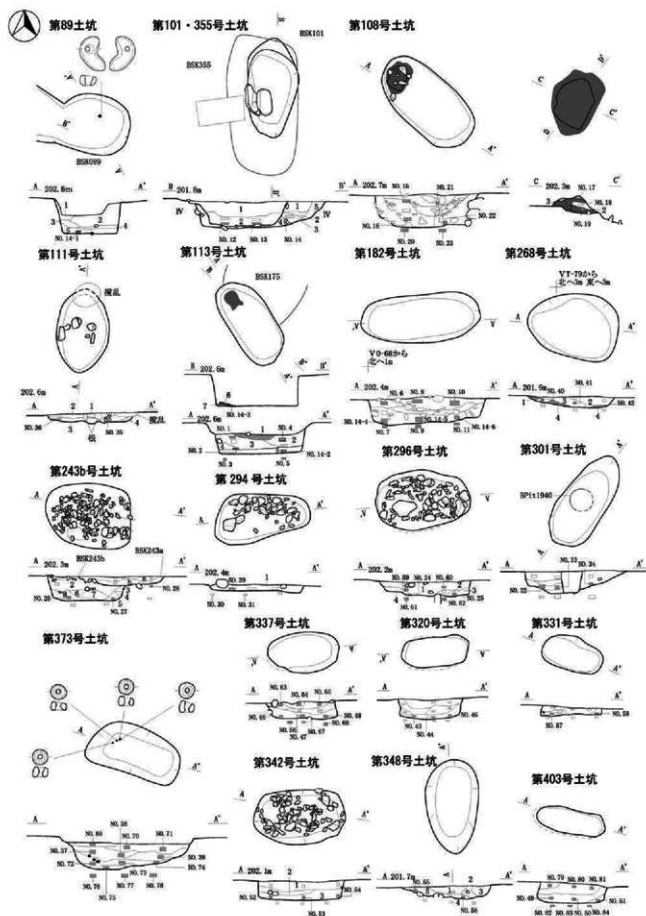


図92 リン・カルシウム分析土坑

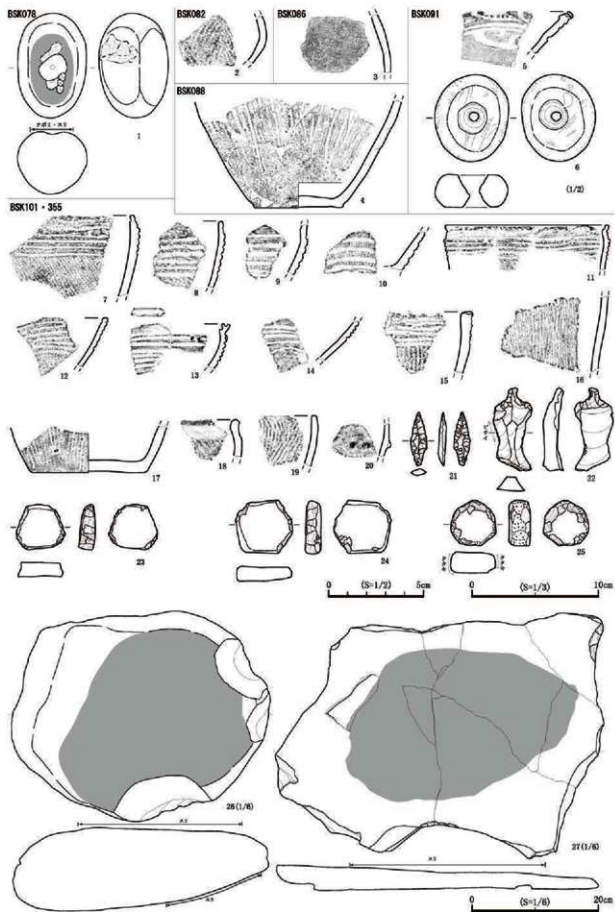


図94 B I 群土坑出土遺物 (1)

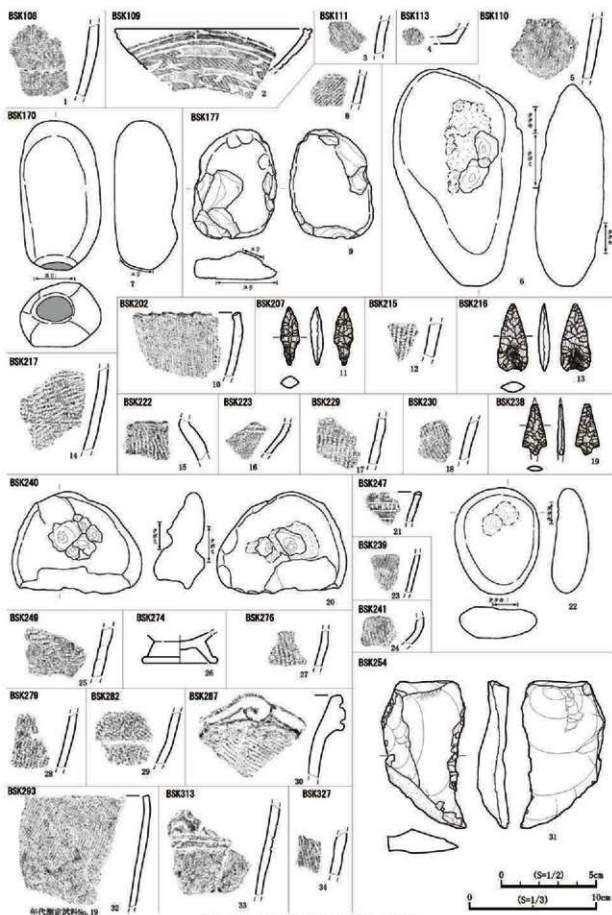


图95 B I 群土坑出土遺物(2)

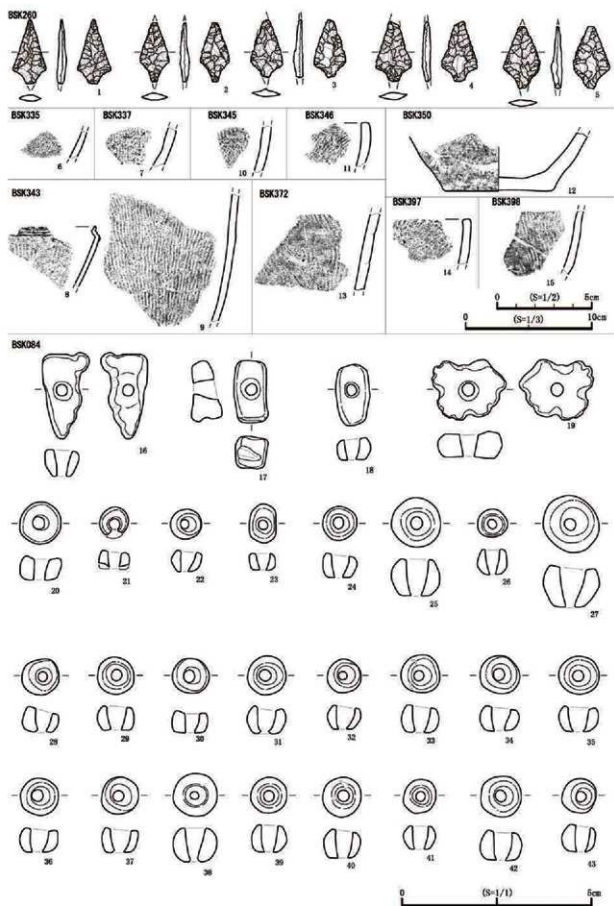


图96 B I 群土坑出土遺物 (3)

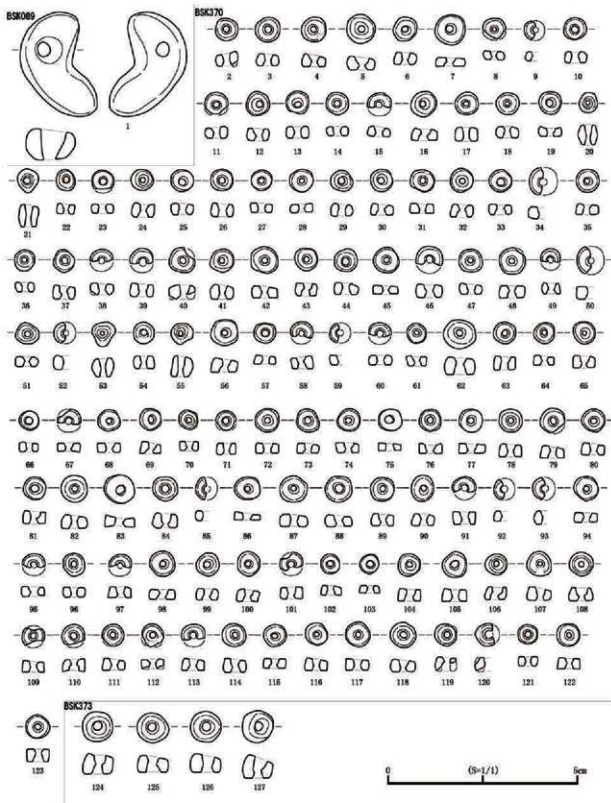


图97 B I 群土坑出土遺物(4)

3 BⅡ群土坑 (図98～110)

A群土坑以外の分布域から検出した長・短軸比1:0.83以上の円形を基調とした土坑57基を本群とした。縄文時代中期～平安時代のものが含まれていることから、本項では先に時期の判断できるものについて述べ、属性記載の項で、時期の判断できなかったものに関して補足説明していくこととする。

[時期]出土遺物や重複関係から以下の遺構について時期を判断することができた。個別の遺物や出土状況に関しては後述する。

○縄文時代中期 13基

出土遺物から第47・54・58・64・68・164・192・201号土坑が該当する。土器は中期中葉～後葉のものが出土している。また、竪穴住居跡との重複関係から第180・204・206・407・408号土坑についても中葉～後葉以前と考えられる。

○縄文時代後期 1基

出土遺物から第36号土坑が該当する。後期後葉の土器が出土している。

○縄文時代後期末葉～晩期 6基

出土遺物から第35・37・73・148・394・395号土坑が該当する。第35・394号土坑からは後期末葉～晩期、第73・394号土坑からは晩期前葉、第37号土坑からは晩期後葉の土器が出土している。第148号土坑は土坑墓である第177号土坑と重複しこれよりも新しい事から、晩期の遺構と考えられる。

○平安時代 1基

第352号土坑は縄文時代の遺物も出土しているが、堆積土中に白頭山火山灰が層を形成するほど厚く堆積していることから、平安時代の遺構と考えられる。

[各時期の遺構分布]本群土坑は調査区内において点在するものも多いが、グリッドVIAライン以北の調査区北西斜面際に多く分布し、その他にはVK～VIA-65～80グリッド内(15基)、調査区東端(3基)、調査区西端(4基)で若干のまとまりをみせる。時期の判断できた遺構の分布としては、縄文時代中期の遺構は中期中葉～榎林式期の11基が北西斜面際にまとまりをみせ、最花式期の2基が調査区西側に点在している(第47・54号土坑)。一方、縄文時代後期、後期末葉～晩期の遺構は点在している。調査区東端でみられた分布上のまとまりの中には、それぞれ違う時期のものが含まれており、同時期に形成された土坑ではないと考えられる。なお、調査区西端から検出された4基は縄文時代晩期前葉、後期末～晩期の粗製土器が出土しており、近い時期に形成された可能性もある。

[平面規模・断面形]ここでは、BⅡ群とした土坑全てを以下のように平面規模・断面形から細分した。

1類:断面形が箱形で、平面規模が2mを超えるもの 13基

(第58・60・65・67・68・69・90・164・192・201・264・338・408号土坑)

2類:断面形が箱形で、平面規模が2m未満のもの 9基

(第54・64・167・181・184・390・393・395・407号土坑)

3類:断面形がフラスコ状になるもの、もしくは一部の壁面がオーバーハングするもの 16基

(第34・35・36・37・38・40・41・47・57・85・94・95・114・175・180・394号土坑)

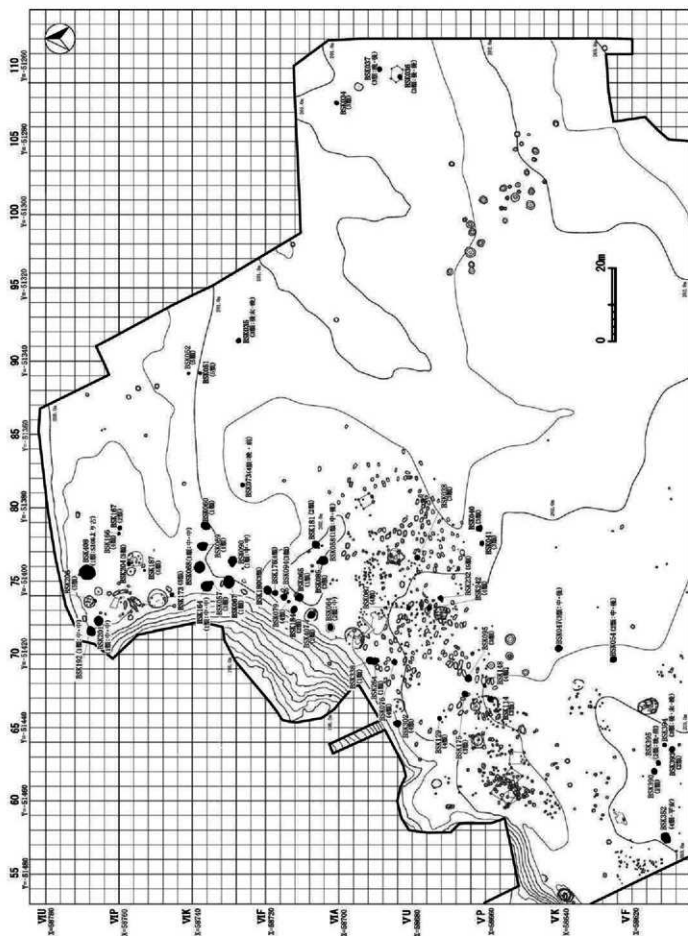


图98 B II 群土坑分布图

4類：断面形が浅い皿状になるもの 11基

(第73・76・79・87・129・148・166・176・242・302・352号土坑)

5類：ピット状のもの 8基

(第49・51・52・173・187・204・206・232号土坑)

ゴシック表記してあるものが、時期の判断できた遺構で、時期毎の形態分布状況を表5にまとめた。平面規模が大きく断面形が箱形になる1類は時期を判断できた中では縄文時代中期にしかみられない形態といえる。2類は縄文時代中期と後期に、3類は全時期、4類は縄文時代後期末葉～晩期にみられる。

表5 BⅡ群土坑時期別形態分布状況(数字は遺構数)

	縄文時代中期	縄文時代後期	縄文時代後期末～晩期
1類	58・68・164・192・201・408		
2類	54・64・407		395
3類	47、180	36	35・37・394
4類			73・148
5類	204・206		

表6 BⅡ群土坑形態別分布状況

	VIA ライン以北の調査区北西斜面際	VK～VIA-65～80グリッド内	調査区東端	調査区西端	その他
1類	11基(中期5基)	2基			
2類	5基(中期2基)			3基 (後末～晩期1基)	1基(中期1基)
3類	4基(中期1基)	6基	3基(後期1基) (晩期1基)	1基 (後末～晩期1基)	2基(中期1基) (後末～晩期1基)
4類	3基	6基 (後末～晩期1基)			1基 (後末～晩期1基)
5類	4基	1基			3基

【時期・分布・形態のまとめ】1類は北西斜面際に分布しているものが多い。その他、第264・338号土坑の2基も斜面際から検出されており、土坑形態と立地に強い規範性がみられる。また、北西斜面際からは縄文時代中期中葉～榎林式期と判断できた遺構しか検出されていないことから、時期を判断できなかった他の1類土坑も同時期に構築された可能性が高いといえる。2類は調査区西端から検出された3基の遺構が目される。ここでは付近の3類土坑1基を含む4基が近接して検出されており、出土遺物から縄文時代晩期前葉頃の遺構と考えられる。3類は各時期、各場所において検出されているが、北西斜面際から検出された4基は中期の可能性が考えられる。4類・5類については特に傾向を見いだせなかったが、晩期の土坑が含まれている。

【重複状況】竅穴住居跡やBⅠ群土坑、本群同士が重複する例があり、重複状況から時期の判断できるものについて表7にまとめた。

竪穴住居とは6基重複しており、いずれも本群土坑の方が古い。第408・64・407・180号土坑は竪穴住居跡の真下から検出されているものが多く、このことから、竪穴住居跡は、土坑が埋まりきらないで凹地になっている状況を利用して構築された可能性がある。

表7 BⅡ群土坑重複関係

分類	本群土坑	重複遺構	新旧	重複からの時期
1類	BSK408	BS106	BS106より古	中期後葉以前
2類	BSK064	BS119	BS119より古	中期中葉以前
2類	BSK407	BS107	BS107より古	中期後葉以前
3類	BSK180	BS108	BS108より古	中期後葉以前
5類	BSK204	BS118	BS118より古	中期後葉以前
5類	BSK206	BS120	BS120より古	中期中葉以前
4類	BSK148	BSK177	BSK177より新	晩期中葉以降

[堆積土]第1類土坑の堆積土上位はレンズ状堆積が多く、第58・69号土坑は堆積土第1層にロームが、第68・201号土坑は多量の大型礫が、第67号土坑は第1・2層にローム、第4層中に礫が堆積している。また、調査区西端で検出された土坑4基は、堆積土の状況が似ており、いずれも暗褐色を主体としたシルト質の土が堆積している。

[遺物出土状況とリン・カルシウム分析] 3類の第35・394号土坑において、注目される遺物の出土状況があった。第35号土坑は堆積土中位で、プラスチック状になった壁寄りの地点から、粗製の深鉢形土器が底部を欠いた状態で逆位の状態で出土した。底部は土器を取り上げ後に、内面を上にした状態で出土した。外面が上を向いた状況であれば、埋没時に内部に落ち込んだことも考えられるが、内面を上にしてあること、底部と胴部の割れ口が直線的であり、意図的に割られた印象を受けることから、意図して底部を打ち欠いた土器を埋めた可能性も考えられる。なお、図示していないが、堆積土上位に30～50cmほどの礫が出土している。また、第394号土坑は堆積土中位から、深鉢形土器が潰れた状態で、かつ30×30cmほどの扁平な礫と共に出土した。出土状況から意図的に埋めたものと考えられる。この状況から墓に転用された可能性を考え、第394号土坑ではリン・カルシウム分析を行った。結果、土器の出土した周辺から採取したNO.88～90、NO.92の試料で1%を超えるリンの含有量が確認された。土器の下位から採取したNO.92はリンだけでなくカルシウムも特に高い値を示しており、この結果は骨や歯に由来する可能性が指摘されている。堆積土上位・下位から採取した試料では1%未満の値しか得られていないことから、コンタミネーションとは考えられず、土器周辺の中間層で骨や歯に由来する値が得られているのは非常に注目される。

[出土遺物]

(土器) 本群土坑の出土土器は、縄文時代中期から晩期前葉のⅡ群・Ⅲ群・Ⅳ群土器の出土が目立つ。図108-4はⅡ群A類、図108-2はⅡ群B類、図108-6・7・11・13～16はⅡ群D類である。図108-16は、穿孔がみられる口縁部突起である。図107-6はⅡ群F類、図106-9～11・図107-1・9・10はⅡ群H類である。図107-1は、胴部上半に横位展開の波状文、胴部下半に円形文と円形文下部から垂下する逆U字状懸垂文が施文される。波状文と円形文には円形刺突が伴う。図106-14・15・図108-19は、Ⅱ群I類の小型土器である。

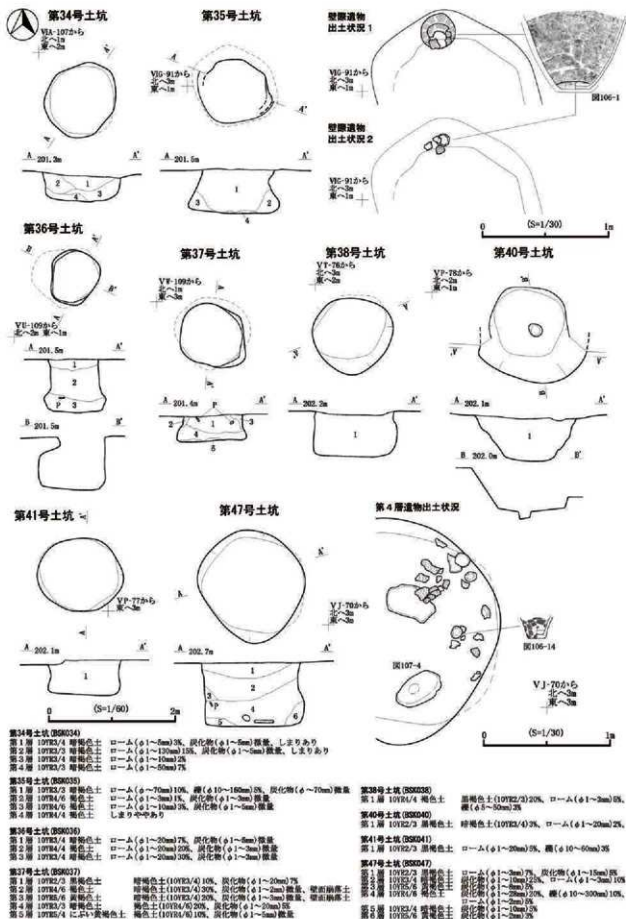


図99 B II 群土坑 (1)

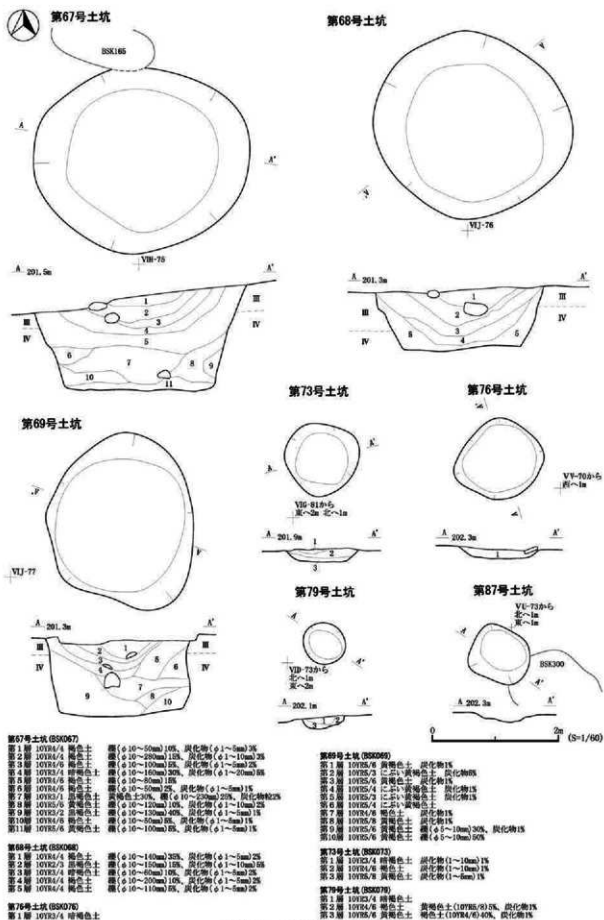


图101 B II群土坑(3)

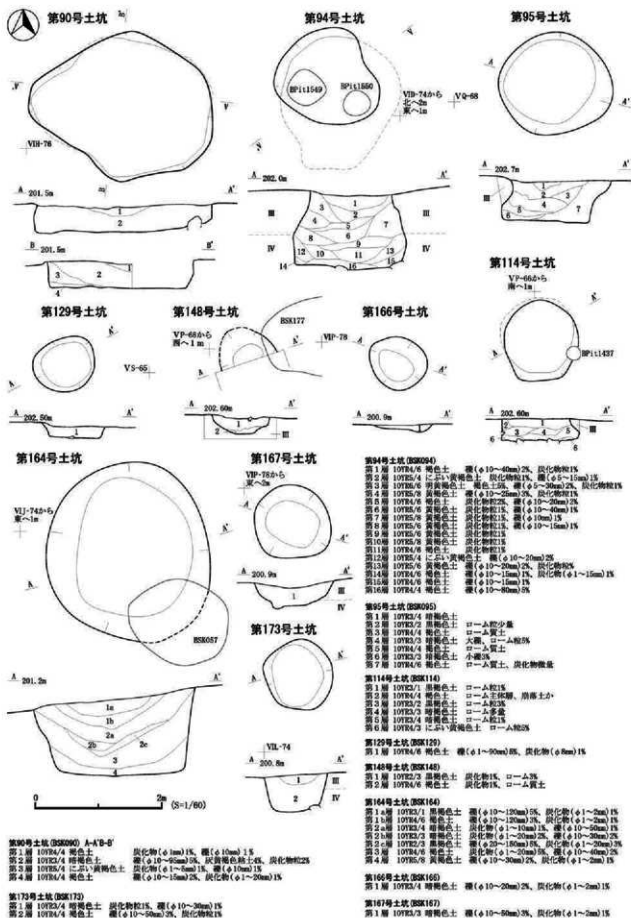
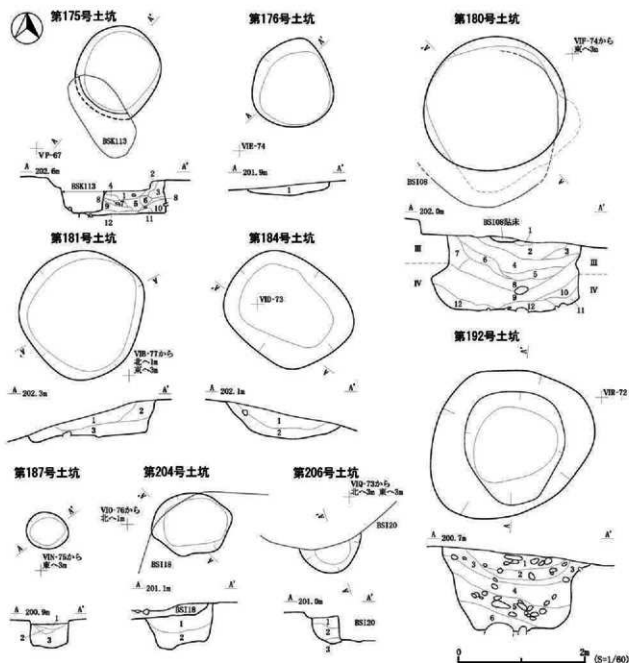


図102 B II群土坑(4)



第175号土坑 (BSK113)

- 第1層 197K2/3 暗褐色土
 第2層 197R4/4 灰褐色土
 第3層 197R4/4 暗褐色土
 第4層 197K2/3 暗褐色土
 第5層 197K2/3 暗褐色土
 第6層 197K2/3 暗褐色土
 第7層 197K2/3 暗褐色土
 第8層 197K2/3 暗褐色土
 第9層 197K2/3 暗褐色土
 第10層 197R4/4 暗褐色土
 第11層 197K2/2 灰褐色土
 第12層 197K2/3 暗褐色土

第176号土坑 (BSK116)

- 第1層 197R5/6 灰褐色土 炭化物(φ1~2cm)15

第180号土坑 (BSK180)

- 第1層 197K2/3 暗褐色土
 第2層 197K2/4 暗褐色土
 第3層 197K2/4 暗褐色土
 第4層 197R4/4 暗褐色土
 第5層 197R5/6 灰褐色土
 第6層 197R5/6 灰褐色土
 第7層 197R5/6 灰褐色土
 第8層 197R5/6 灰褐色土
 第9層 197R5/6 灰褐色土
 第10層 197R4/4 暗褐色土
 第11層 197R5/6 灰褐色土
 第12層 197R5/6 灰褐色土

第181号土坑 (BSK181)

- 第1層 197R4/4 暗褐色土
 第2層 197R5/6 灰褐色土
 第3層 197R4/4 暗褐色土

第184号土坑 (BSK184)

- 第1層 197R4/4 暗褐色土
 第2層 197R5/6 灰褐色土
 第3層 197R4/4 暗褐色土

第187号土坑 (BSK187)

- 第1層 197R4/4 暗褐色土
 第2層 197R5/6 灰褐色土
 第3層 197R4/4 暗褐色土

第192号土坑 (BSK192)

- 第1層 197R4/4 暗褐色土
 第2層 197R5/6 灰褐色土
 第3層 197R4/4 暗褐色土

第204号土坑 (BSK204)

- 第1層 197R5/6 灰褐色土
 第2層 197R4/4 暗褐色土
 第3層 197R5/6 灰褐色土

第206号土坑 (BSK206)

- 第1層 197R4/4 暗褐色土
 第2層 197R5/6 灰褐色土
 第3層 197R4/4 暗褐色土

□→△(φ2~7cm)25, 炭(φ2~6cm)25, 炭化物粒15
 □→△(φ1~7cm)15, 炭(φ2~6cm)15, □→△主体層
 炭化物粒15, 炭(φ2~20cm)15, □→△主体層
 □→△(φ15~30cm)25, 炭化物粒25, 炭(φ2~5cm)15
 □→△(φ10~20cm)25, 炭化物粒25, 炭(φ2~5cm)15
 □→△(φ10~17cm)25, 炭化物粒25, 炭(φ2~10cm)15
 炭(φ2~20cm)25, 炭化物(φ1~20cm)15, □→△主体層
 炭化物(φ1~13cm)25, 炭(φ10~12cm)25, 炭(φ2~5cm)15
 炭(φ2~6cm)25, 炭化物粒15, □→△主体層
 □→△(φ20~30cm)25, 炭化物粒15, □→△主体層
 □→△(φ10~70cm)15, 炭化物粒15, 炭(φ2~15cm)15
 □→△(φ10~90cm)15, 炭化物粒25, 炭(φ2~25cm)15

炭褐色土, 炭化物(φ~10cm)25, 炭(φ10~20cm)25
 炭(φ10~20cm)15, 炭化物(φ~10cm)25
 暗褐色土, 炭(φ10~90cm)25, 炭化物粒15
 炭(φ10~20cm)15
 暗褐色土, 炭(φ10~20cm)25, 炭化物(φ~10cm)15
 炭(φ10~100cm)15, 炭化物(φ~10cm)15
 炭(φ10~100cm)205, 炭化物(φ~10cm)15
 炭(φ10~300cm)405
 炭(φ10~240cm)105
 暗褐色土, 炭(φ1~15cm)25
 炭(φ10~130cm)205, 炭化物(φ~10cm)15
 炭(φ10~100cm)105, 炭化物(φ~10cm)15
 炭(φ10~150cm)25, 炭化物(φ1~5cm)15
 暗褐色土, (OIR5)φ105, 炭化物(φ1~10cm)25
 炭(φ10~40cm)25, 炭(φ10~40cm)25
 炭(φ10~100cm)25, 炭化物(φ1~15cm)25
 暗褐色土, (OIR5)φ105, 炭化物(φ1~10cm)25
 炭(φ10~180cm)25, 炭化物(φ1~15cm)25
 炭(φ10~150cm)65, 炭化物(φ1~25cm)25
 炭(φ10cm)15
 炭(φ10~60cm)25, 炭化物(φ1~2cm)15
 炭(φ10~100cm)105, 炭化物(φ1~2cm)15
 炭(φ10~100cm)25, 炭化物(φ1~10cm)25

第181号土坑 (BSK181)

- 第1層 197R4/4 暗褐色土, 炭化物(φ~10cm)25, 炭(φ10~20cm)25
 第2層 197R5/6 灰褐色土
 第3層 197R4/4 暗褐色土
 炭(φ10~10cm)25, 炭化物(φ~10cm)25

第184号土坑 (BSK184)

- 第1層 197R4/4 暗褐色土
 第2層 暗褐色土, 炭(φ10~90cm)25, 炭化物粒15
 第3層 197R5/6 灰褐色土
 炭(φ10~20cm)15

第187号土坑 (BSK187)

- 第1層 197R4/4 暗褐色土
 第2層 暗褐色土, 炭(φ10~20cm)25, 炭化物(φ1~20cm)25
 第3層 197R4/4 暗褐色土
 炭(φ10~50cm)25, 炭化物(φ~10cm)15

第192号土坑 (BSK192)

- 第1層 197R4/4 暗褐色土
 第2層 暗褐色土, 炭(φ10~20cm)205, 炭化物(φ~10cm)15
 第3層 197R4/4 暗褐色土, 炭(φ10~130cm)205, 炭化物(φ~10cm)15
 第4層 197R4/4 暗褐色土, 炭(φ10~100cm)105, 炭化物(φ~10cm)15
 第5層 197R4/4 暗褐色土, 炭(φ10~100cm)205
 第6層 197R4/4 暗褐色土, 炭(φ10~300cm)405
 第7層 197R4/4 暗褐色土, 炭(φ10~240cm)105

第204号土坑 (BSK204)

- 第1層 197R5/6 灰褐色土
 第2層 暗褐色土, 炭(φ10~60cm)25, 炭化物(φ1~2cm)15
 第3層 197R4/4 暗褐色土, 炭(φ10~100cm)105, 炭化物(φ1~2cm)15

第206号土坑 (BSK206)

- 第1層 197R4/4 暗褐色土
 第2層 暗褐色土, 炭(φ1~3cm)15
 第3層 197R4/4 暗褐色土, 炭(φ1~2cm)15
 第4層 197R4/4 暗褐色土, 炭(φ1~2cm)15

图103 B II群土坑 (5)

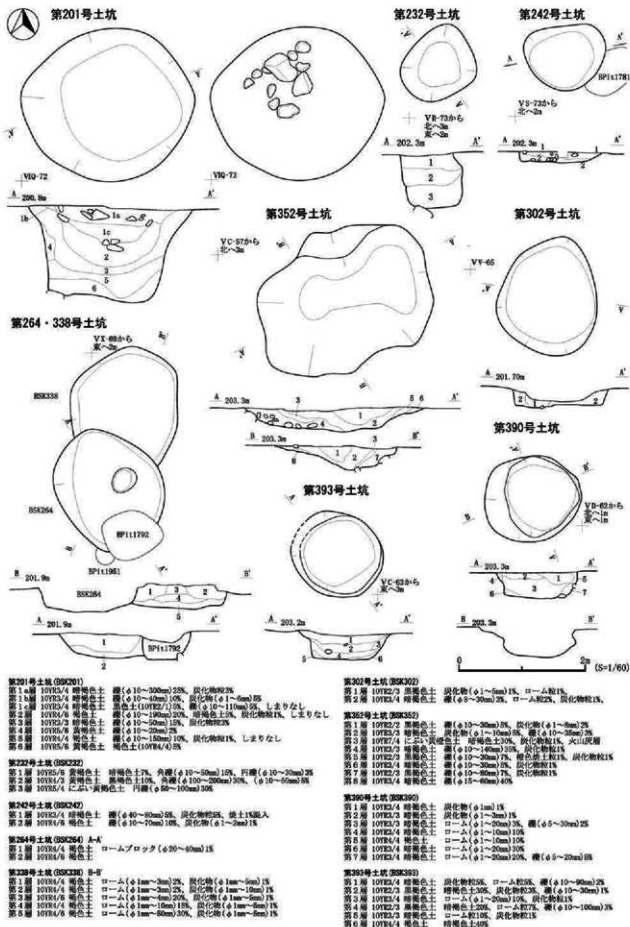


図104 B II群土坑(6)

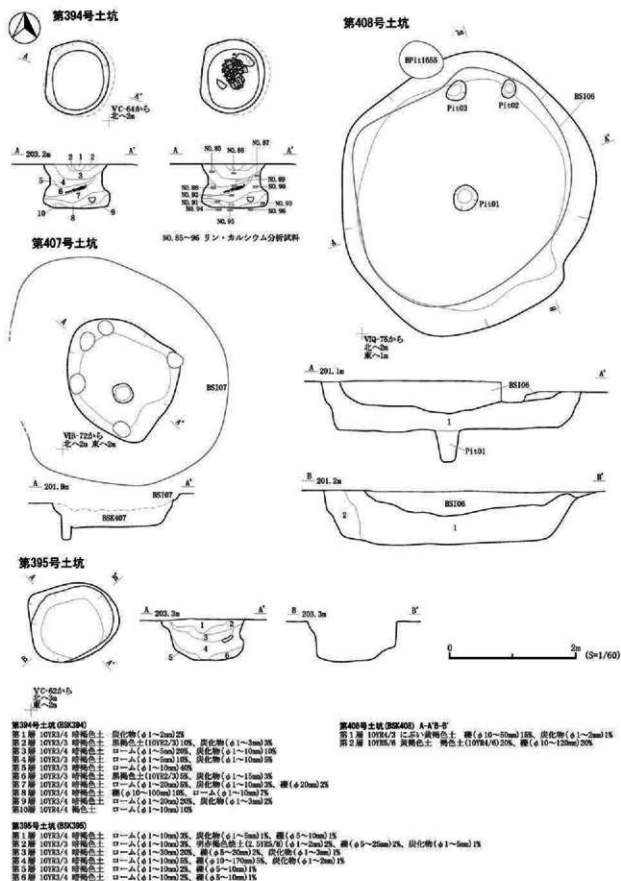


図105 B II 群土坑 (7)

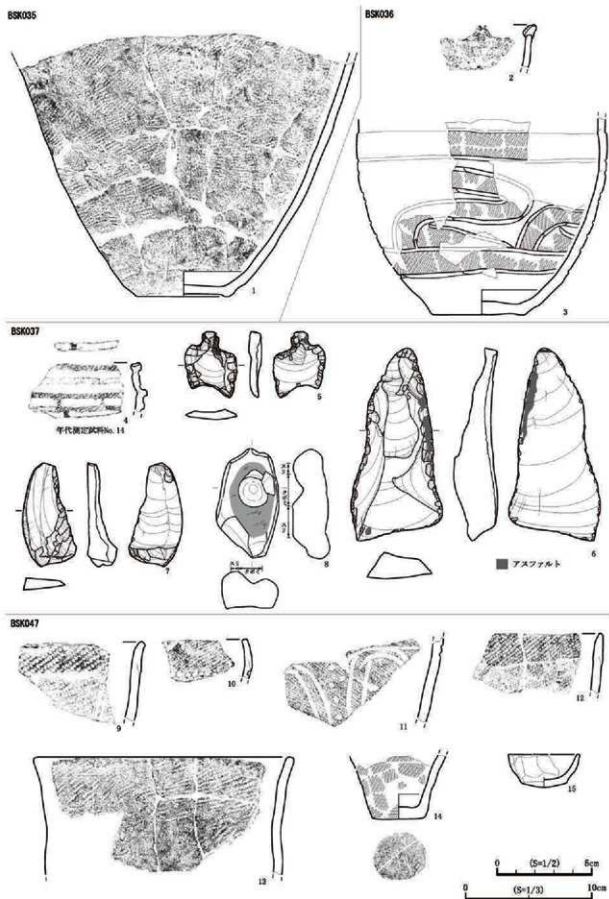


図106 BⅡ群土坑出土遺物(1)

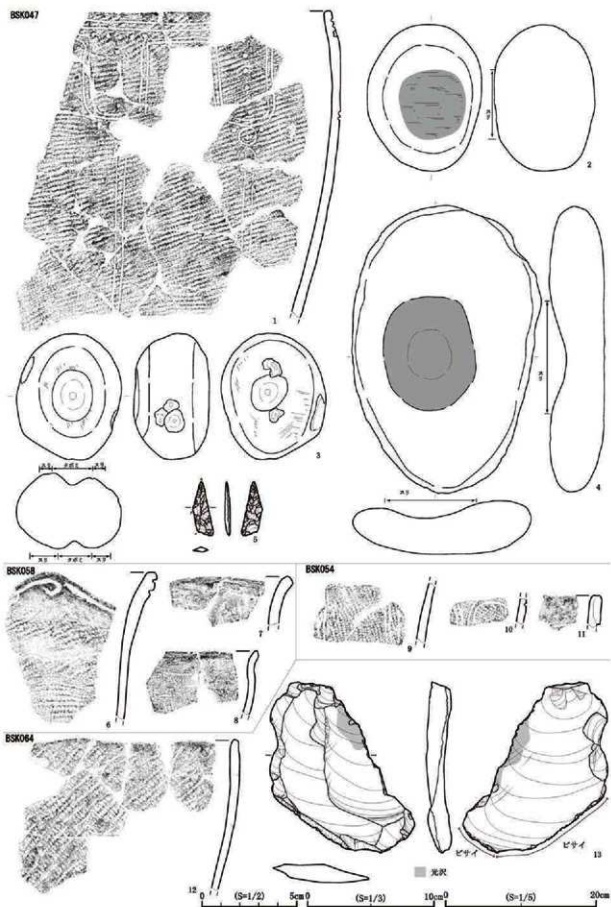


図107 B II 群土坑出土遺物 (2)

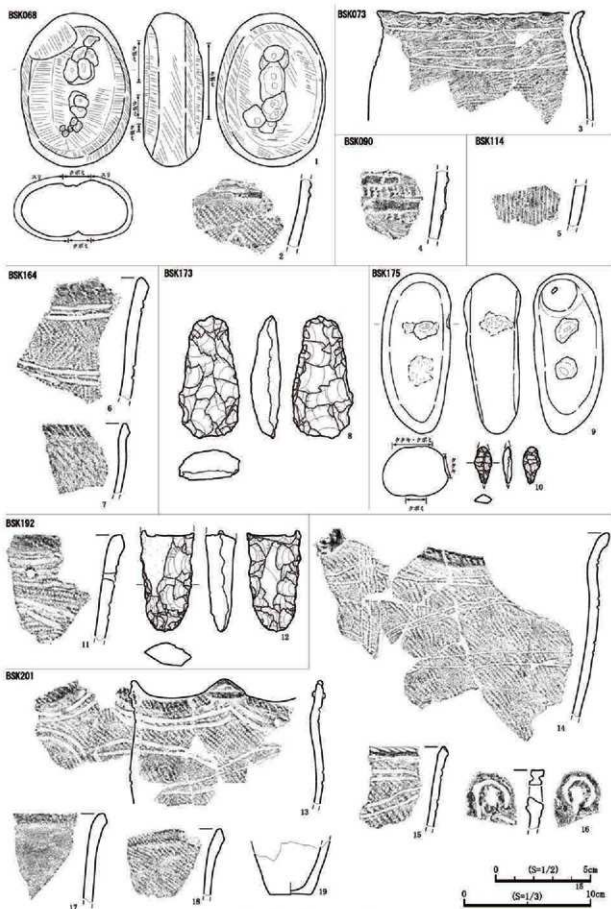


图108 B II群土坑出土遺物(3)

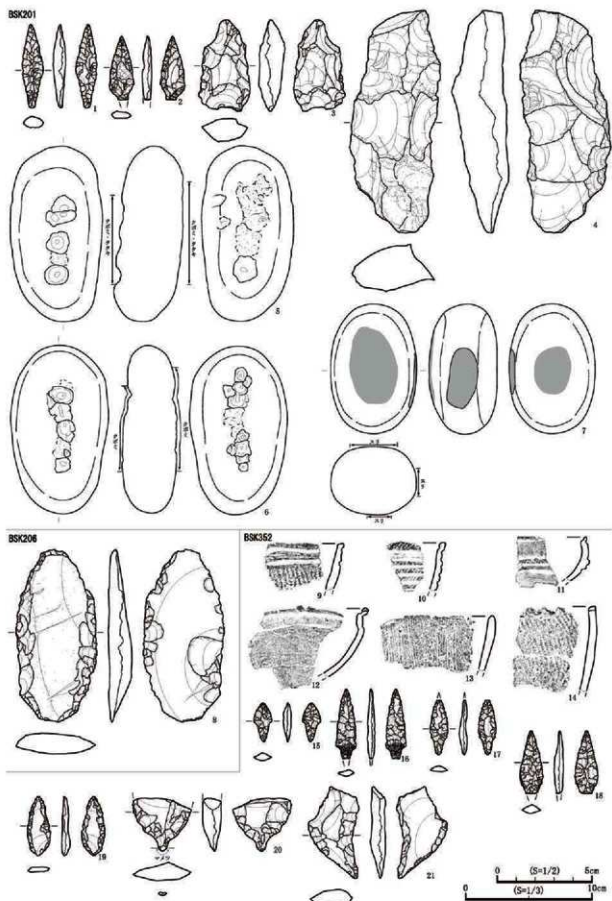


図109 B II 群土坑出土遺物 (4)

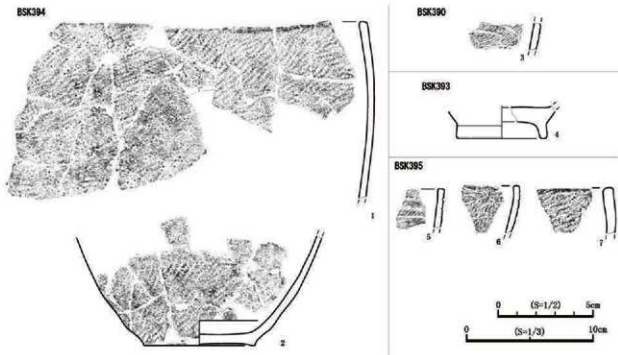


図110 BⅡ群土坑出土遺物(5)

図106-2・3はⅢ群CⅠ類である。3の胴部には幅広の帯縄文が施文されている。

図108-3はⅣ群A類である。小波状口縁の深鉢形土器で、口縁部に弧状沈線、頸部に崩れた入組帯縄文がみられる。図110-6も同様と思われるが、小破片のため判然としない。

図106-4・図109-9～12はⅥ群である。図106-4は、口唇部に沈線と粘土粒貼付がみられる。幅広の深い沈線による断続的な横位沈線が施され、沈線際は隆帯状に隆起している。また、4は土器付着炭化物の年代測定を行っており、 $2,470 \pm 20\text{yrBP}$ との結果が得られている(第4章第1節参照)。

Ⅶ群土器は、B類の深鉢形土器が主体である。図106-1の底部は台状の上げ底である。図110-1・2は同一個体で、口縁部が内湾気味に立ち上がり、口唇部がわずかに肥厚している。

(石器)特徴的な石器に関して記述する。図106-5は石匙でつまみ部に、6はスクレイパーで側縁縁辺に、いずれもアスファルトが付着している。図107-13は微細剥離痕のある剥片で、微細剥離痕がある縁辺とは別の縁辺に光沢が見られる。図108-1は敲き・磨り石で、全面に擦痕がみられ、器面には凹み痕が複数個ある。

[小結] 平面規模が2mを超え、断面形が箱形になる1類土坑は、縄文時代中期の遺構と考えられ、斜面際に構築される特徴がある。また、平面規模が2m未満で、断面形が箱形になる2類も斜面際に構築されているものは縄文時代中期である可能性が高い。これらの縄文時代中期土坑は堅穴住居跡と位置を同じくして重複している事例が多い。3類としたいわゆるフラスコ状土坑は縄文時代中期～晩期まで見られる形態であるが、第394号土坑は堆積土中位から深鉢型土器が潰れた状態で出土しており、リン・カルシウム分析の結果、遺物周辺でのみ高い値が検出され、墓に転用された遺構と考えられる。

(小山)

第4節 土器埋設遺構

土器埋設遺構は26基検出した。この内、縄文時代晩期のもと考えられる22基については、楕円形土坑（BⅠ群土坑）群の付近にまとまりをもって分布しながら、第2号土器埋設遺構を除き、これら土坑群との重複関係が認められない。よって、縄文時代晩期の土器埋設遺構は、楕円形土坑群と比較的近い時期に構築された可能性がある。第24号土器埋設遺構は第35号土器居住跡の跡とし（本章第1節参照）、第26号土器埋設遺構は第16号土器遺構として振り替えた（本章第5節参照）。第1・9・28～36号土器埋設遺構は欠番である。

第2号土器埋設遺構（BSR02：図111・113）

〔位置・確認〕VP-70グリッドに位置する。第IV層上面で確認した。

〔重複〕第405号土坑（BⅠ群土坑）と重複し、本遺構が新しい。

〔埋設状況・掘方〕土器は逆位埋設で、口縁部のみが残存する。掘方は長軸54cm、短軸35cmの楕円形で、深さが18cmである。

〔堆積土〕2層に分層した。第2層は掘方堆積土で、円礫が多く混入する。

〔出土遺物〕Ⅶ群B類の粗製深鉢形土器が出土した（図113-1）。口縁部が内湾気味に立ち上がる器形である。口縁部は小波状口縁で、胴部に縦走縄文が施文される。

〔小結〕本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代晩期と考えられる。

第3号土器埋設遺構（BSR03：図111・113）

〔位置・確認・重複〕V0-69グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。重複遺構はない。

〔埋設状況・掘方〕土器は正位埋設で、胴部から底部にかけて残存する。掘方は径約30cmの不整形円で、深さが13cmである。

〔堆積土〕2層に分層した。第1層は土器内堆積土、第2層は掘方堆積土である。

〔出土遺物〕Ⅶ群B類の粗製深鉢形土器が出土した（図113-2）。胴部は工具ナゲの後、一部に斜縄文が施文される。底部は上げ底状である。

〔小結〕本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代晩期と考えられる。

第4号土器埋設遺構（BSR04：図111・113）

〔位置・確認・重複〕VP-68グリッドに位置する。第Ⅱ層中で確認した。重複遺構はない。

〔埋設状況・掘方〕土器は正位埋設で、口縁部から底部にかけて残存する略完形の個体である。掘方は径約40cmの円形で、深さが28cmである。

〔堆積土〕3層に分層した。土器内堆積土の内、土器の底部付近からは赤色顔料を検出した。赤色顔料は第2層中にみられ、下面に向かうほど漸的に色調の鮮やかさが増す状況を確認した。

〔出土遺物〕Ⅶ群B類の粗製深鉢形土器が出土した（図113-3）。底部から胴部上半にかけて直線的に開き、口縁部がわずかに内湾して立ち上がる器形である。口縁部は8割ほど残存し、口縁部突起が2箇所施される。胴部は斜縄文が一部に施文された後、工具による横位方向のナゲ調整がなされる。底部には加摩痕と思われる凹痕が複数みられ、当該範囲は摩耗している。本遺跡では底部穿孔の事例

(第12号土器埋設遺構)や底部欠損の事例(第5号土器埋設遺構)が認められることから、底部穿孔ないしは底部欠損が意図された痕跡の可能性もある。

[小結] 土器外面に付着した炭化物の放射性炭素年代測定の結果、 $2,680 \pm 20$ yrBPの測定値が得られた(第4章第1節参照)。また、土器内から採取した赤色顔料の自然科学分析では、非パイプ状ベンガラの結果が得られた(第4章第2節参照)。本遺構の時期は、出土遺物及び放射性炭素年代測定の結果から縄文時代晩期と考えられる。

第5号土器埋設遺構 (BSR05 ; 図111・113)

[位置・確認・重複] V0-69グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。重複遺構はない。

[埋設状況・掘方] 土器は正位埋設で、胴部のみが残存する。掘方は径約40cmの円形で、深さが19cmである。口縁部については胴割中に欠損した可能性もあるが、底部については埋設当時、既に欠損していたものと思われる。

[堆積土] 3層に分層した。第1・2層は土器内堆積土、第3層は掘方堆積土である。

[出土遺物] VII群B類の粗製深鉢形土器が出土した(図113-4)。胴部に斜縄文・横走縄文が施文される。

[小結] 本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代晩期と考えられる。

第6号土器埋設遺構 (BSR06 ; 図111・113)

[位置・確認・重複] VT-78グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。重複遺構はない。

[埋設状況・掘方] 土器は正位埋設で、胴部下半から底部にかけて残存する。掘方は土層断面で南西壁の立ち上がりの一部を確認した。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は土器内堆積土、第2層は掘方堆積土である。

[出土遺物] VII群B類の粗製深鉢形土器が出土した(図113-5)。接合率が良好でなく、同一個体の底部小片も出土しているが、最も復元できた資料を図示した。胴部に縦走縄文が施文される。

[小結] 本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代晩期と考えられる。

第7号土器埋設遺構 (BSR07 ; 図111・113)

[位置・確認・重複] VU-79グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。重複遺構はない。

[埋設状況・掘方] 土器は正位埋設で、底部付近のみが残存する。明瞭な掘方は確認できなかったが、土器とほぼ同じ大きさで掘り込まれたものと推測される。

[堆積土] 土器内堆積土は、暗褐色土を主体とする単層である。

[出土遺物] VII群B類の粗製深鉢形土器が出土した(図113-6)。胴部に縦走縄文が施文される。底部は上げ底状である。

[小結] 本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代晩期と考えられる。

第8号土器埋設遺構 (BSR08 ; 図111・114)

[位置・確認・重複] V0-71グリッドに位置する。第Ⅱ層中で確認した。重複遺構はない。

〔埋設状況・掘方〕土器は正位埋設で、胴部上半から底部にかけて残存する。明瞭な掘方は確認できなかったが、土器とほぼ同じ大きさで掘り込まれたものと推測される。

〔堆積土〕土器内堆積土は、暗褐色土を主体とする単層である。

〔出土遺物〕Ⅶ群B類の粗製深鉢形土器が出土した(図114-1)。胴部上半に最大径がみられ、口縁部付近で内湾して立ち上がる器形と推測される。胴部に斜縄文が施文される。底部は平底である。

〔小結〕本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代晩期と考えられる。

第10号土器埋設遺構 (BSR10 : 図111・114)

〔位置・確認・重複〕V0・P-71 グリッドに位置する。第Ⅱ層中で確認した。重複遺構はない。

〔埋設状況・掘方〕土器は正位埋設で、口縁部から底部にかけて残存する略完形の個体である。掘方は土層断面のみで確認でき、開口部径52cm、深さ35cmである。

〔堆積土〕2層に分層した。第1層は土器内堆積土、第2層は掘方堆積土である。

〔出土遺物〕Ⅶ群B類の粗製深鉢形土器が出土した(図114-2)。底部から胴部上半にかけて曲線的に膨らみ、口縁部が内湾して立ち上がる器形である。口縁部に斜縄文、胴部に縦走縄文が施文される。底部は上げ底状である。

〔小結〕本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代晩期と考えられる。

第11号土器埋設遺構 (BSR11 : 図111・114)

〔位置・確認・重複〕V0-70 グリッドに位置する。第Ⅱ層中で確認した。重複遺構はない。

〔埋設状況・掘方〕土器は正位埋設で、底部から胴部にかけて残存する。掘方は土層断面のみで確認でき、開口部径24cm、深さ18cmである。

〔堆積土〕2層に分層した。第1層は土器内堆積土、第2層は掘方堆積土である。

〔出土遺物〕Ⅶ群B類の粗製深鉢形土器が出土した。図114-3・4は同一個体であるが、接合率が良好でなく、最も復元できた資料を図示した。胴部に斜縄文・横走縄文が施文される。底部は平底である。

〔小結〕本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代晩期と考えられる。

第12号土器埋設遺構 (BSR12 : 図111・114)

〔位置・確認・重複〕VN-69 グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。重複遺構はない。

〔埋設状況・掘方〕土器は正位埋設で、胴部上半から底部にかけて残存する。掘方は土層断面で西壁の立ち上がりの一部を確認した。

〔堆積土〕土器内堆積土は、暗褐色土を主体とする単層である。

〔出土遺物〕Ⅶ群B類の粗製深鉢形土器が出土した(図114-5)。底部から胴部上半にかけて曲線的に膨らむ器形である。胴部に斜縄文・横走縄文が施文される。底部は上げ底状である。底部中央部付近には、外面側からの加撃による4.6×4.0cmの穿孔がみられる。

〔小結〕土器外面に付着した炭化物の放射性炭素年代測定の結果、2,700±30yrBPの測定値が得られた(第4章第1節参照)。本遺構の時期は、出土遺物及び放射性炭素年代測定の結果から縄文時代晩期

と考えられる。

第13号土器埋設遺構 (BSR13: 図111・114)

〔位置・確認・重複〕VR-76 グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。重複遺構はない。

〔埋設状況・掘方〕土器は正位埋設で、胴部下半から底部にかけて残存する。明瞭な掘方は確認できなかったが、土器とほぼ同じ大きさで掘り込まれたものと推測される。

〔堆積土〕土器内堆積土は、褐色土を主体とする単層である。

〔出土遺物〕Ⅶ群B類の粗製深鉢形土器が出土した(図114-7)。胴部に縦走縄文が施文される。底部は上げ底状である。

〔小結〕本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代晩期と考えられる。

第14号土器埋設遺構 (BSR14: 図111・114)

〔位置・確認・重複〕VQ-77 グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。重複遺構はない。

〔埋設状況・掘方〕土器は正位埋設で、底部付近のみが残存する。明瞭な掘方は確認できなかったが、土器とほぼ同じ大きさで掘り込まれたものと推測される。

〔堆積土〕土器内堆積土は、暗褐色土を主体とする単層である。

〔出土遺物〕Ⅶ群B類の粗製深鉢形土器が出土した。土器は小破片で器面の摩耗も著しいためにほとんど接合しなかった。図114-8は平底状の底部資料である。残存部位での縄文施文は認められず、図示しなかった同一個体の小破片も同様である。

〔小結〕本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代晩期と考えられる。

第15号土器埋設遺構 (BSR15: 図111・114)

〔位置・確認・重複〕VR・S-77 グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。重複遺構はない。

〔埋設状況・掘方〕土器は正位埋設で、胴部下半から底部にかけて残存する。掘方は径約30cmの円形で、深さが14cmである。

〔堆積土〕2層に分層した。第1層は土器内堆積土、第2層は掘方堆積土である。

〔出土遺物〕Ⅶ群B類の粗製深鉢形土器が出土した(図114-8)。底部から胴部にかけて直線的に大きく開く器形である。胴部に縦走縄文が施文される。底部は上げ底状である。

〔小結〕本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代晩期と考えられる。

第16号土器埋設遺構 (BSR16: 図111・114)

〔位置・確認・重複〕VQ-74 グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。重複遺構はない。

〔埋設状況・掘方〕土器は正位埋設で、胴部下半から底部にかけて残存する。明瞭な掘方は確認できなかったが、土器とほぼ同じ大きさで掘り込まれたものと推測される。

〔堆積土〕土器内堆積土は、暗褐色土を主体とする単層である。

〔出土遺物〕Ⅶ群B類の粗製深鉢形土器が出土した(図114-9)。胴部に縦走縄文が施文される。底部は上げ底状である。

〔小結〕本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代晩期と考えられる。

第17号土器埋設遺構 (BSR17: 図111・115)

〔位置・確認・重複〕VS-77グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。重複遺構はない。

〔埋設状況・掘方〕土器は正位埋設で、胴部上半から底部にかけて残存する。掘方は土層断面で北壁の立ち上がりの一部を確認した。

〔堆積土〕2層に分層した。第1層は土器内堆積土、第2層は掘方堆積土である。

〔出土遺物〕Ⅶ群B類の粗製深鉢形土器が出土した(図115-1)。底部から胴部上半にかけて曲線的に膨らむ器形である。胴部には縦走縄文、底部付近には斜縄文が施文される。底部は上げ底状である。

〔小結〕土器外面に付着した炭化物の放射性炭素年代測定の結果、 $2,690 \pm 30 \text{yrBP}$ の測定値が得られた(第4章第1節参照)。本遺構の時期は、出土遺物及び放射性炭素年代測定の結果から縄文時代晩期と考えられる。

第18号土器埋設遺構 (BSR18: 図111・115)

〔位置・確認・重複〕VS-78グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。重複遺構はない。

〔埋設状況・掘方〕土器は正位埋設で、胴部下半から底部にかけて残存する。明瞭な掘方は確認できなかったが、土器とほぼ同じ大きさで掘り込まれたものと推測される。

〔堆積土〕土器内堆積土は、暗褐色土を主体とする単層である。

〔出土遺物〕Ⅶ群B類の粗製深鉢形土器が出土した(図115-2)。胴部に縦走縄文が施文される。

〔小結〕本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代晩期と考えられる。

第19号土器埋設遺構 (BSR19: 図112・115)

〔位置・確認・重複〕VS-81・82グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。重複遺構はない。

〔埋設状況・掘方〕土器は正位埋設で、胴部下半から底部にかけて残存する。掘方は径約30cmの円形で、深さが18cmである。

〔堆積土〕黒褐色土を主体とする単層である。

〔出土遺物〕Ⅶ群B類の粗製深鉢形土器が出土した(図115-3)。胴部に縦走縄文が施文される。底部は上げ底状である。

〔小結〕本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代晩期と考えられる。

第20号土器埋設遺構 (BSR20: 図112・115)

〔位置・確認・重複〕VX-80グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。本遺構の東側約2mの地点に第21号土器埋設遺構が位置し、周囲には他の土器埋設遺構が存在しないことから、2基並列するような配置を示す。重複遺構はない。

〔埋設状況・掘方〕土器は正位埋設で、口縁部から底部にかけて残存する略完形の個体である。掘方は径40cmの円形で、深さが27cmである。

〔堆積土〕2層に分層した。第1層は土器内堆積土、第2層は掘方堆積土である。

〔出土遺物〕Ⅶ群B類の粗製深鉢形土器が出土した(図115-4)。底部から胴部上半にかけて曲線的に膨らみ、口縁部が内湾して立ち上がる器形である。口唇部は平坦にナデ調整されている。胴部には縦走縄文が施文される。

〔小結〕本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代晩期と考えられる。

第21号土器埋設遺構 (BSR21: 図112・115)

〔位置・確認・重複〕VX-80グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。重複遺構はない。

〔埋設状況・掘方〕土器は正位埋設で、胴部上半から底部にかけて残存する。掘方は径30cmの円形で、深さが12cmである。

〔堆積土〕4層に分層した。第1～3層は土器内堆積土、第4層は掘方堆積土である。

〔出土遺物〕Ⅶ群B類の粗製深鉢形土器が出土した(図115-5)。底部から胴部上半にかけて直線的に開く器形である。胴部には無節原体による縦走縄文・斜縄文が施文される。底部付近の胴部下半には横位のナデ調整の痕跡が明瞭にみられる。

〔小結〕本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代晩期と考えられる。 (最上)

第22号土器埋設遺構 (BSR22: 図112・115)

〔位置・確認・重複〕VP-66グリッドに位置している。第Ⅲ層上面で確認した。重複遺構はない。

〔埋設状況・掘方〕土器は正位埋設で、胴部上半から底部にかけて残存している。掘方は径38cmの円形で、深さは14cmである。

〔堆積土〕3層に分層した。第1～2層は土器内堆積土、第3層は掘方堆積土である。第2層中には赤色顔料が約5cmの厚さで堆積している。本遺構からはリン・カルシウム分析用の試料と赤色顔料分析用の試料を採取している。

〔出土遺物〕Ⅶ群B類の粗製深鉢形土器が出土した(図115-6)。底部から胴部上半にかけて曲線的に膨らむ器形である。胴部には縦走縄文が施文される。底部は上げ底状である。

〔小結〕土器内から採取した赤色顔料の自然科学分析では、非パイプ状ベンガラの結果が得られた(第4章第2節参照)。また、NO.1、NO.3、NO.6の試料についてリン・カルシウム分析を行ったが、いずれの試料もリンの検出は1%未満であった(第4章第3節参照)。本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代晩期と考えられる。

第23号土器埋設遺構 (BSR23: 図112・115)

〔位置・確認・重複〕VP-66グリッドに位置している。第14号堅穴住居跡の床面で確認した。住居跡の検出面では本遺構を確認できず、住居跡との新旧関係は不明である。住居跡に伴う可能性もある。

〔埋設状況・掘方〕土器は正位埋設で、上半部のみ使用している。掘方は25×36cmの楕円形で、深さは6cmである。

〔堆積土〕2層に分層した。第1層が土器内堆積土、第2層は掘方堆積土である。

〔出土遺物〕Ⅱ群I類の深鉢形土器が出土した(図115-7)。口縁部が外反し、口唇部が肥厚する。胴部には単節原体の横位回転縄文がみられる。

〔小結〕本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉頃と考えられる。

第25号土器埋設遺構（BSR25：図112・115）

〔位置・確認・重複〕VV-66グリッドに位置している。第11号竪穴住居跡の床面推定範囲内に位置しているが、本遺構が検出された位置では、住居跡の床面が削平されており、新旧関係等は不明である。第Ⅲ層上面で確認した。

〔埋設状況・掘方〕正位埋設で、胴部の上半から下半部を使用しているが、底部は出土しなかった。掘方は約21cmの円形で、深さは13cmである。

〔堆積土〕2層に分層した。第1層が土器内堆積土、第2層は掘方堆積土である。

〔出土遺物〕Ⅱ群Ⅰ類の深鉢形土器が出土した(図115-8)。胴部がわずかに膨らむ器形で、単節原体の縦回転軸文がみられる。

〔小結〕本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉頃と考えられる。本遺構は石囲炉のある中期後半の第11号竪穴住居跡の床面推定範囲内に位置している。他に中期後葉の第14号竪穴住居跡の床面からも、遺構に伴う可能性のある土器埋設遺構（BSR23）が検出されていることから、本遺構も竪穴住居跡に関連する遺構である可能性もある。

第27号土器埋設遺構（BSR27：図112・115）

〔位置・確認・重複〕IVY・VA-57グリッドに位置している。第Ⅱa層精査時に胴部上半が倒立した状態で検出した。重複遺構はない。

〔埋設状況・掘方〕掘方は遺構周囲が掘り下がっていたため確認できなかった。

〔出土遺物〕Ⅶ群B類の粗製深鉢形土器が出土した(図115-9)。底部から胴部上半にかけて曲線的に膨らみ、口縁部が内湾して立ち上がる器形である。胴部には縦走縄文が施文される。

〔小結〕本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代晩期と考えられる。 (小山)

第37号土器埋設遺構（BSR37：図112・116）

〔位置・確認・重複〕調査区北側斜面のVIA-67グリッドに位置する。第Ⅳ層上面で確認した。重複遺構はない。

〔埋設状況・掘方〕土器は正位埋設で、口縁部から胴部にかけて残存する。平面形は不整楕円形で、掘方の規模は長軸約50cm、短軸約30cm、深さが30cmである。

〔堆積土〕6層に分層した。第1～4層は土器内堆積土、第5・6層は掘方堆積土である。

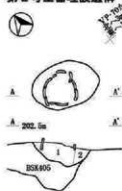
〔出土遺物〕土器は、Ⅱ群F類の深鉢形土器が出土した。接合率が良好ではないが、図116-1～3は同一個体である。口縁部は波状口縁で、肥厚する口唇部に凹線文が施される。胴部は沈線文が施される。石器は、磨り石(図116-4)が1点出土した。

〔小結〕本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉の複式期と考えられる。

第38号土器埋設遺構（BSR38：図112・116）

〔位置・確認・重複〕VB-61グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。重複遺構はない。

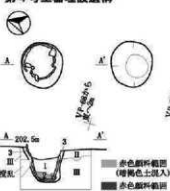
第2号土器埋設遺構



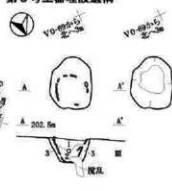
第3号土器埋設遺構



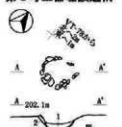
第4号土器埋設遺構



第5号土器埋設遺構



第6号土器埋設遺構



第7号土器埋設遺構



第8号土器埋設遺構



第10号土器埋設遺構



第11号土器埋設遺構



第12号土器埋設遺構



第13号土器埋設遺構



第15号・第17号土器埋設遺構



第14号土器埋設遺構



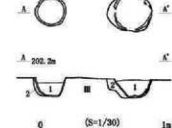
第16号土器埋設遺構



第18号土器埋設遺構



第10号土器埋設遺構 (BSR10)



第2号土器埋設遺構 (BSR02)
第1層 10YR2/4 暗褐色土
第2層 10YR2/2 暗褐色土
第3号土器埋設遺構 (BSR03)
第1層 10YR2/3 暗褐色土
第2層 10YR2/4 暗褐色土
第4号土器埋設遺構 (BSR04)
第1層 10YR2/3 暗褐色土
第2層 2.5YR2/6 暗褐色土
第3層 10YR2/4 暗褐色土
第5号土器埋設遺構 (BSR05)
第1層 10YR2/3 暗褐色土
第2層 10YR2/3 暗褐色土
第3層 10YR2/4 暗褐色土
第4号土器埋設遺構 (BSR06)
第1層 10YR2/3 暗褐色土
第2層 10YR2/4 暗褐色土
第3号土器埋設遺構 (BSR07)
第1層 10YR2/4 暗褐色土
第2号土器埋設遺構 (BSR08)
第1層 10YR2/4 暗褐色土

炭化物(φ1~2cm)2%, □-△(φ1~5cm)1%
障(φ10~20cm)10%, □-△(φ1~2cm)微量
□-△(φ1~2cm)1%
□-△(φ1~10cm)10%
□-△(φ1~5cm)10%, 炭化物(φ1~5cm)2%
暗褐色土(10YR2/2)10%, 炭化物(φ1~2cm)2%, □-△(φ1~2cm)2%, 炭化物(φ1~2cm)微量, 赤色顔料層
□-△(φ1~5cm)2%, 炭化物(φ1~2cm)2%
□-△(φ1~2cm)2%, 炭化物(φ1~2cm)微量
□-△(φ1~2cm)10%, 炭化物(φ1~2cm)微量
□-△(φ1~5cm)10%, 炭化物(φ1~2cm)微量
□-△(φ1~2cm)1%, 炭化物(φ1cm)1%
□-△(φ1cm)微量
□-△(φ1~2cm)2%, 炭化物(φ1~4cm)2%

第10号土器埋設遺構 (BSR10)
第1層 10YR2/4 暗褐色土 □-△(φ1~10cm)2%
第2層 10YR2/4 暗褐色土 □-△(φ1~3cm)2%
第11号土器埋設遺構 (BSR11)
第1層 10YR2/3 暗褐色土 炭化物(φ3cm)微量
第2層 10YR2/4 暗褐色土
第12号土器埋設遺構 (BSR12)
第1層 10YR2/4 暗褐色土 褐色土(10YR4/6)30%
第13号土器埋設遺構 (BSR13)
第1層 10YR2/4 暗褐色土 炭化物(φ1cm)微量, □-△(φ1~2cm)微量
第14号土器埋設遺構 (BSR14)
第1層 10YR2/4 暗褐色土 □-△(φ3cm)2%
第15号土器埋設遺構 (BSR15)
第1層 10YR2/4 暗褐色土 □-△(φ1~2cm)微量
第2層 10YR2/3 暗褐色土 □-△(φ1~2cm)微量
第16号土器埋設遺構 (BSR16)
第1層 10YR2/4 暗褐色土 障(φ8~10cm)1%, □-△(φ1~2cm)微量
第2層 10YR2/2 暗褐色土 □-△(φ1~3cm)微量
第10号土器埋設遺構 (BSR10)
第1層 10YR2/4 暗褐色土 □-△(φ1~3cm)微量

図111 土器埋設遺構(1)

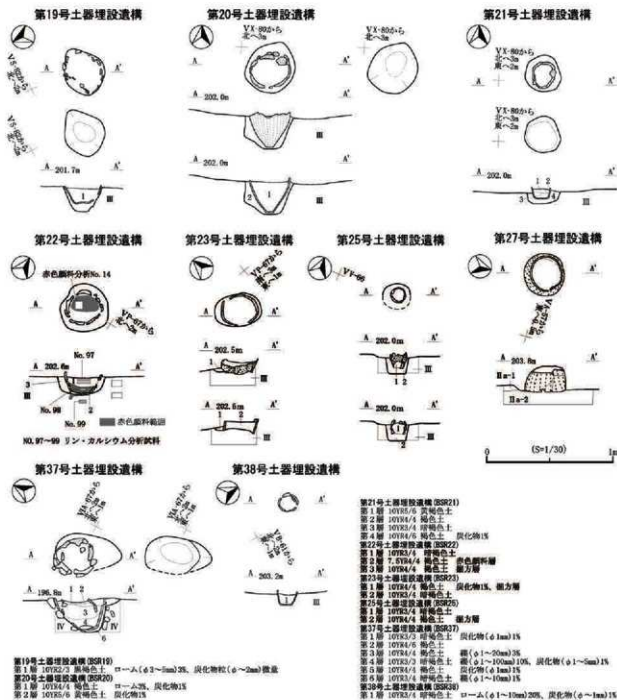


図112 土器埋設遺構(2)

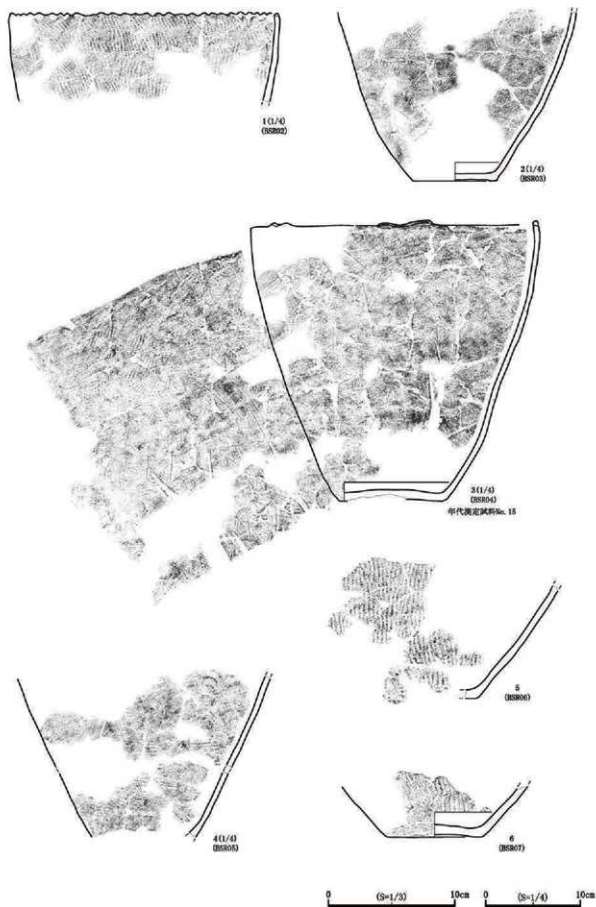


図113 土器埋設遺構出土遺物(1)

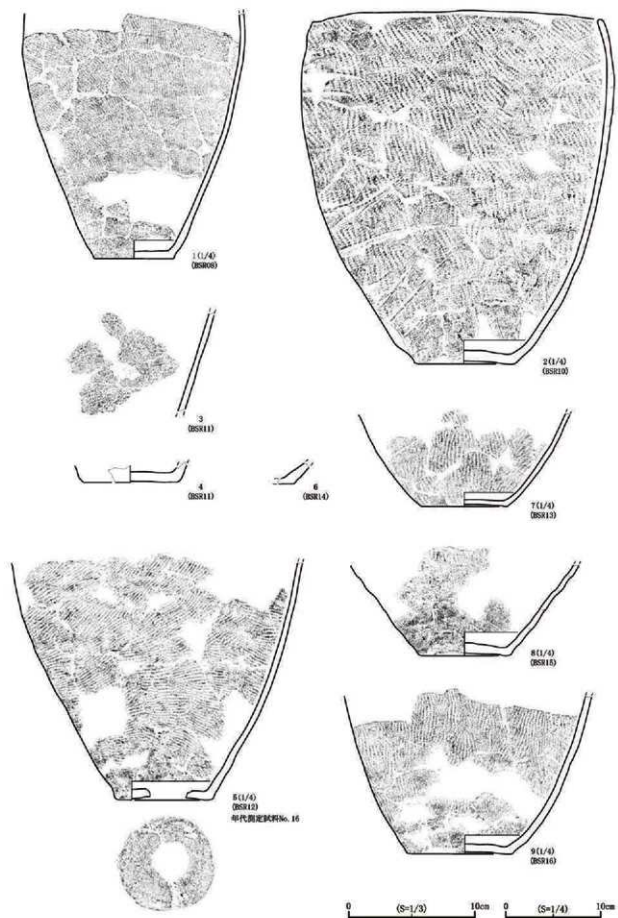


図114 土器埋設遺構出土遺物 (2)

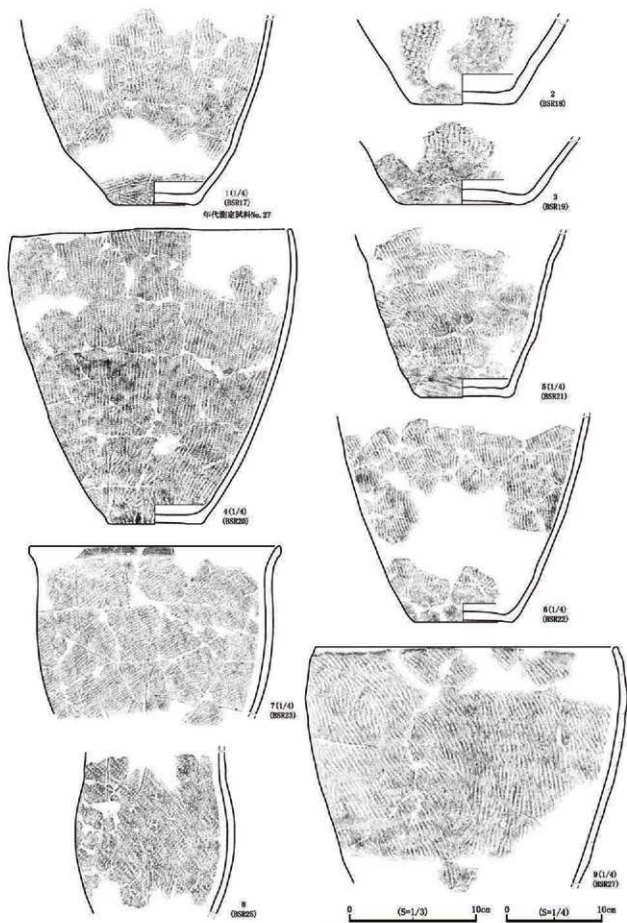


图115 土器埋設遺構出土遺物(3)

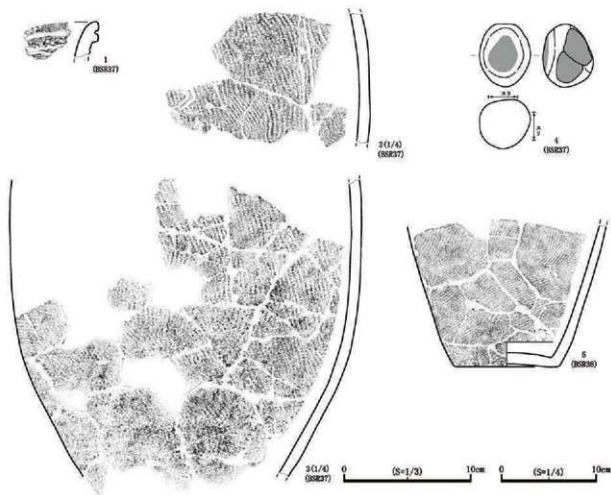


図116 土器埋設遺構出土遺物（4）

〔埋設状況・掘方〕土器は正位埋設で、胴部から底部にかけて残存する。掘方は確認されなかった。

〔堆積土〕土器内堆積土は、暗褐色土を主体とする単層である。

〔出土遺物〕Ⅶ群B類の粗製深鉢形土器が出土した(図116-5)。胴部は地文縄文が施され、底部は上げ底状である。

〔小結〕本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代晩期と考えられる。

第39号土器埋設遺構 (BSR39：写真74)

〔位置・確認〕VW-68 グリッド付近に位置する。トレンチ調査時に確認したが、重機による第Ⅰ層の掘削時に誤って消失してしまったため、写真記録のみに留まる。本遺構の掘り込み面は、写真74から第Ⅱ層中である。

〔埋設状況・掘方〕土器は正位埋設で、口縁部を欠損するものと思われる。掘方は認められるが、明確な形状・規模は不明である。

〔堆積土〕土器内堆積土は黒褐色土の単層、掘方堆積土は暗褐色土を主体として複数層に分層される。

〔出土遺物〕調査時の所見から、縄文時代中期の深鉢形土器と考えられる。

〔小結〕本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代中期頃と考えられる。

(最上)

第5節 焼土遺構

焼土遺構は3基検出した。第2・4・15号焼土遺構は欠番、第1・5・6・8～14号焼土遺構は竪穴住居跡の炉跡である（本章第1節参照）。

第3号焼土遺構（BSN03：図117）

〔位置・確認・重複〕VK-63グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。重複遺構はない。

〔平面形・規模〕方形の土器片敷石囲炉である。炉石は南側と東側の2石が残存する。規模は炉石の抜き取り痕跡から長軸約90cm、短軸約70cmと推測される。焼土は検出されなかったが、最花式の深鉢形土器が敷設された状態で出土した。土器は破片の状態で出土したが、概ね器表面を上に向け、口縁部を北西方向に向けた形で敷設されており、破片同士において胴部文様の連続性が認められる。

〔堆積土〕3層に分層した。第1層は土器上部の堆積層、第2層は土器下部の堆積層で、いずれも被熱痕跡等が認められなかった。第3層は炉石の抜き取り痕である。

〔出土遺物〕Ⅱ群H類の深鉢形土器が出土した（図117-1・2）。1は口縁部が内湾して立ち上がり、胴部には円形刺突文と逆U字状の懸垂文が施文されている。2は1と同一個体の底部資料である。

〔小結〕本遺構は出土遺物から縄文時代中期後葉の最花式期の土器片敷石囲炉である。

第7号焼土遺構（BSN07：図117）

〔位置・確認・重複〕調査区北側のVM-77グリッドに位置し、第Ⅲ層上面で確認した。重複遺構はないが、本遺構の周辺には、縄文時代中期の竪穴住居跡や土坑が比較的多く分布する。

〔平面形・規模〕平面形は不整楕円形で、長軸80cm、短軸51cmの範囲で弱く被熱している。

〔堆積土〕2層に分層した。暗褐色土を主体とし、焼成の厚さは9cmである。

〔小結〕遺物が出土しておらず、本遺構の詳細な時期は不明である。 （最上）

第16号焼土遺構（BSN16：図117）

〔位置・確認・重複〕VS-69グリッドに位置し、第Ⅲ層上面で土器埋設炉として確認した。調査の結果、本遺構周辺から床面やビットなどが検出されなかったため、土器埋設遺構の番号を付して調査を行った。重複遺構はない。

〔埋設状況・掘方・被熱状況〕40×46×21cmの掘方に、口縁及び底部を打ちかいた胴部部分が正位に埋設され（図117-3）、さらに土器内側の底面には別な個体（図117-4）の破片が敷き詰められている。その後、土器の縁が土中から5cm程度出る程度に埋め戻され、その上面が被熱している。被熱範囲は土器の内側だけにみられ、土器の外側からは検出されなかった。

〔堆積土〕第1層は掘方堆積土、第2～5層は土器内堆積層である。第2層は被熱層である。

〔出土遺物〕2個体の深鉢形土器が出土した。図117-3はⅡ群F類で、胴部に弧状文と懸垂文の組み合わせ文様が施される。地文は縄文原体の縦位回転施文である。図117-4はⅡ群I類で、縦位回転の地文縄文が施される。

〔小結〕本遺構の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉の板林式期と考えられる。 （小山）

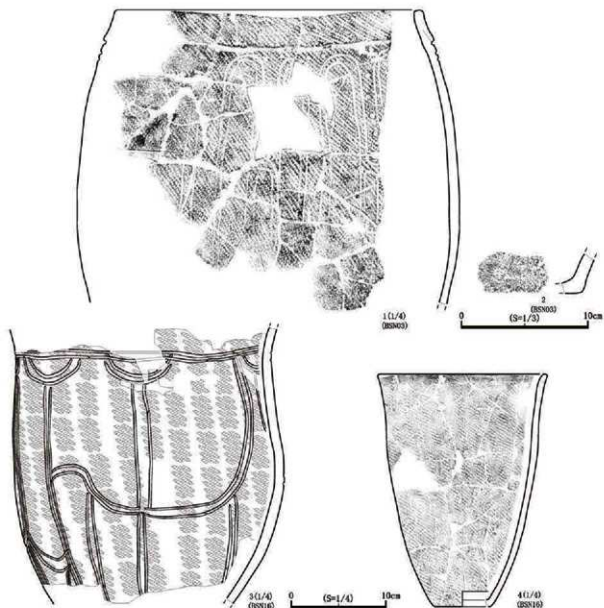
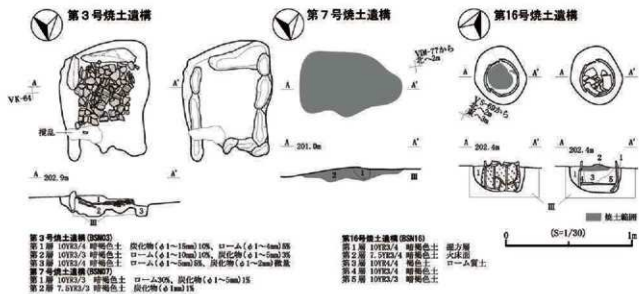


图117 焼土遺構・出土遺物

第6節 ビット

ビットは調査を通じて計578基検出した。この他、46基については方形・亀甲形平面の配置構成をとり、11棟の掘立柱建物跡を構成するものと考えられる(本章第2節参照)。また径20cm前後のビットは、第33号竪穴住居跡のように住居壁柱穴と判明したものがある(本章第1節参照)。その他、帰属先・配置構成が不明な大多数のビットについては、集中区毎の平面図を図6～12・119～123に示した。ビット個別の平面図・断面図については、柱痕が明瞭なもの、形状・地積土が特徴なもの等を選別し、図124～127に示した。

帰属先・配置構成が不明なビットの諸特徴については、特に、掘立柱建物跡を構成するビットとの共通性・類似点をもつものが少なくない。そのため、本節では、掘立柱建物跡等を含めたビット全体の特徴・傾向について記述する。

〔分布〕B区西半のIVR～VII-54～78の範囲内に、大部分のビットが分布する。中でも土坑集中域と重複するVS～VIA-68～79、第IV層露出範囲が多くみられる掘立柱建物跡検出域を中心とするVK～VQ-59～66での分布密度は高く、重複も多くみられる。

〔規模・形状〕開口部長軸は20～143cmで平均長軸52.2cmである。開口部・底面形状ともに平面形は円形・不整形楕円形で、方形と見なせる例は確認されなかった。検出面からの深さは、ほぼ4～110cmの平均35cmに収まるが、調査区北側の斜面中から検出されたBPit2225のみ、179cmと突出した計測値を示す。

底面標高値は197.968～210.924mで平均202.010mである。壁は第Ⅲ～Ⅳ層を垂直にほぼ掘り込んで構築され、多くの場合第Ⅳ層の礫層中に底面を形成する。



図118 ビット配置割付図

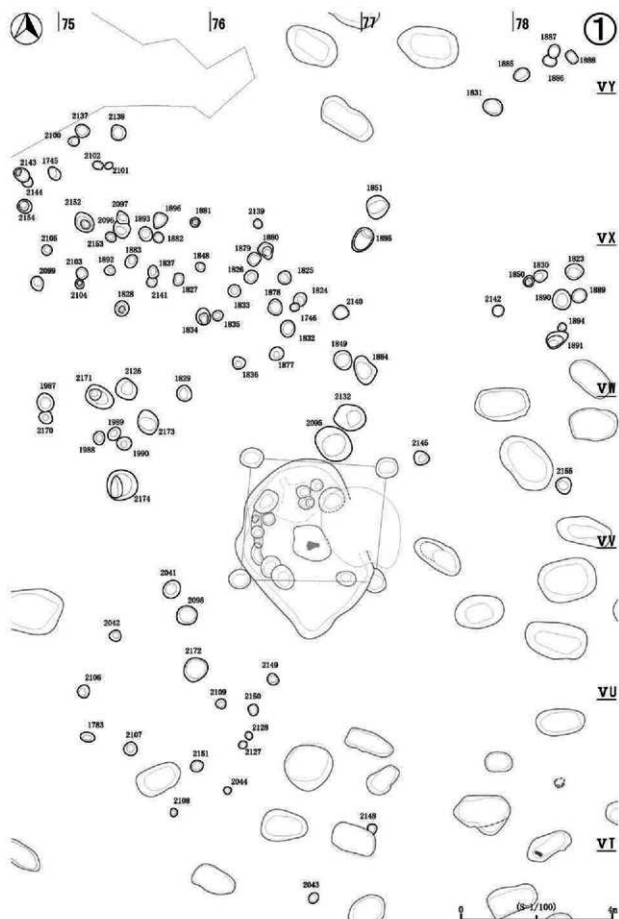


図119 ピット配置図(1)

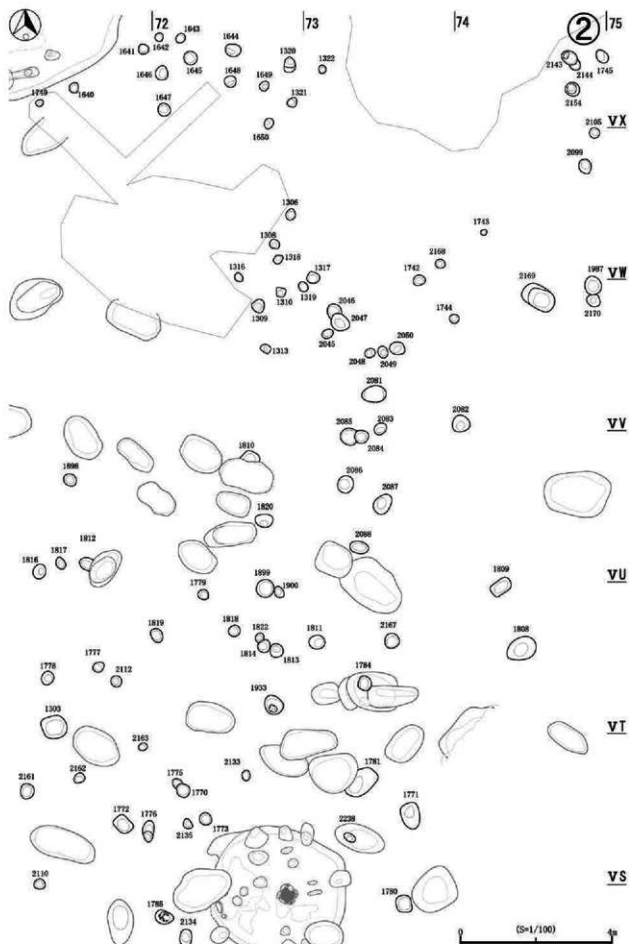


図120 ピット配置図(2)

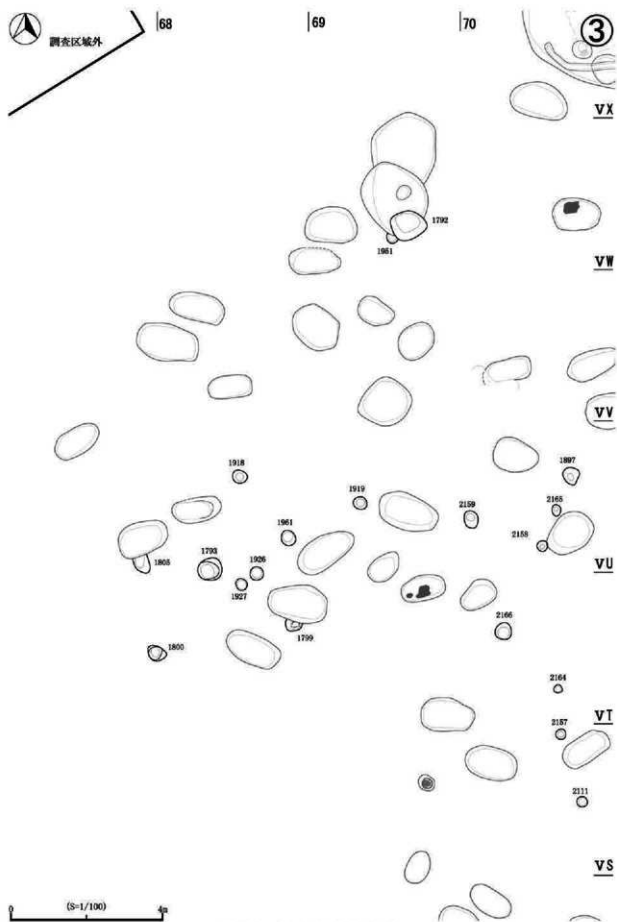


図121 ピット配置図(3)

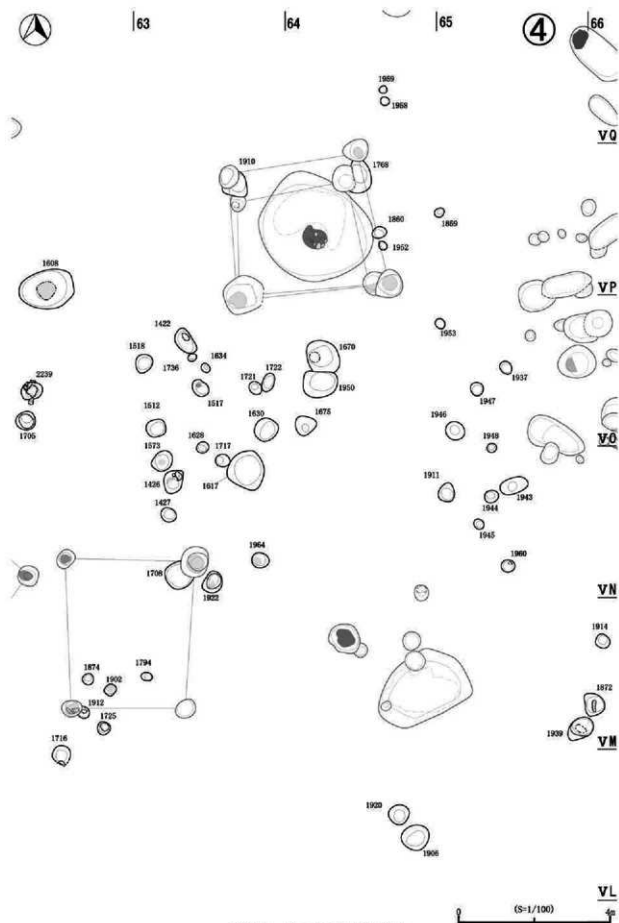


図122 ピット配置図(4)



59

60

61

62

⑤

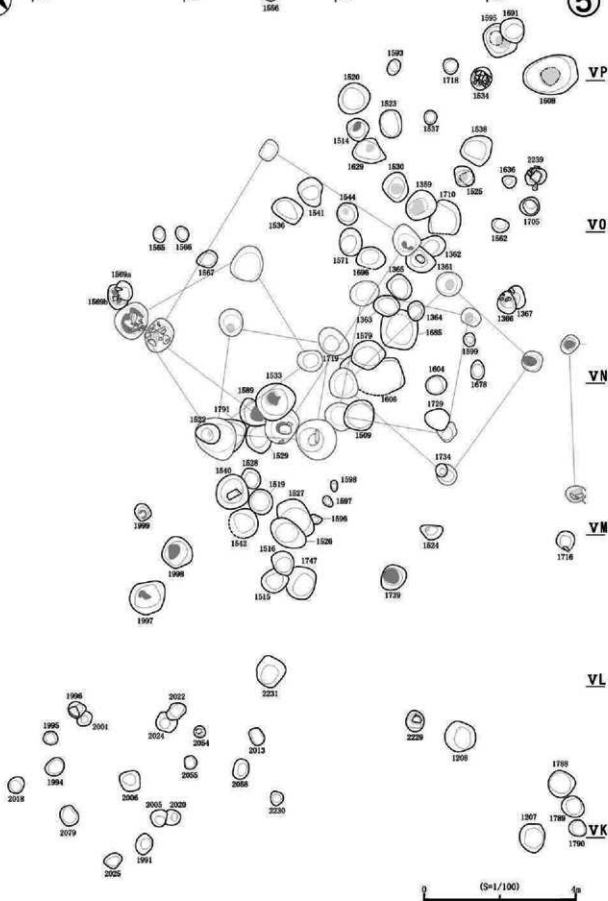


図123 ピット配置図 (5)

〔柱痕〕 堆積土中に柱痕が確認されたピットは、掘立柱建物跡を構成するものでは第 1201～1206・1315・1521・1531・1543・1553・1577・1578・1686～1688・1707・1735・1798・2094・2129～2131・2136 号ピットの 24 基で、その他ピットでは第 1302・1328・1359・1366・1367・1426・1524～1526・1533・1534・1544・1552・1562・1595・1608・1691・1716・1725・1786・1788・1875・1902・1906・1922・1964・1974・1998・2003・2013・2016～2018・2053・2055・2056・2095・2229 号ピットの 38 基である。

柱の存在を示す柱穴底面の凹みや変色（以下「アタリ」）が確認されたのは、掘立柱建物跡を構成するものでは第 1429・1513・1521・1724・1798・1905・1912・1942 号ピットの 8 基で、その他ピットでは第 1309・1525・1595・1608・1670・1799・1838・1858・1869・1908・1912・1939・1955・1960・2025・2053・2054・2056 号ピットの 18 基である。内、第 1608 号ピットの底面ではアタリの凹み中央にマンガン沈着が認められた。

柱と関連が窺われるものとして、底面に平置きされた板状礫が出土する例がある。第 1720・1932 号ピットで、ともに掘立柱建物跡の構成ピットである。同じく柱の存在を示唆するものとしては、根固めと捉え得る堆積構造を持つ例が検出されている。掘立柱建物跡では第 1686・1688 号ピットの 2 基、その他ピットでは第 1426・1512・1708・1716・1839・1843・1868・1922・2001・2013・2016・2025・2037・2079・2095 号ピットの 15 基である。これらは、柱痕と埋め土の境界の一方に 20cm 超の板状礫が突き立つパターン、それより小さい礫が柱痕周囲を取り囲むパターンの 2 種が見られた。

〔特徴的な堆積〕 調査区西側の分布するピットの柱痕には黒色ないし暗褐色土、埋め土には暗褐色土ないし褐色土、東側の土坑群と分布が重なるピットでは暗褐色ないし褐色土主体の堆積土となる傾向があるが、これら堆積土とは異なる、発色の明るい粘土が堆積する例がある。掘立柱建物跡の第 1360・1429・1568・1686・1688・1715・1724・1735・1751 号ピット（計 9 基）、その他ピットの第 1359・1514・1517・1533・1562・1569b・1589・1608・1708・1725・1739・1768・1867・1997～1999・2003・2016・2231 号ピット（計 19 基）では、粒状・マール状の混土となって、多くの場合柱痕内もしくは柱痕相当部の上位に堆積する。

また、掘立柱建物跡の第 1513・1568・1686・1723・1735・1798・1932 号ピット（計 7 基）、その他ピットの第 1367・1526・1534・1569b・1584・1608・1708・1725・1785・1832・1867・1872・1873・1875・1933・1960・1984・1998・2017・2018・2020・2053・2056・2058・2112・2224・2229・2239 号ピット（計 28 基）では、大小の自然礫・台石等の礫石器が柱痕を塞ぐかのように（以下「礫詰め」）出土している。柱穴の規模にもよるが、扁平礫・円礫を組み合わせて柱痕上部に密に詰め込む第 1534・2229・2239 号ピット等のパターン、台石等の扁平礫が直立する第 1513・1568・1608・1872・1875 号ピット等のパターンに大きく分けられる。第 1873 号ピットは上部に台石が平置きされた唯一の例である。また、少ないながらも粘土堆積と礫詰め（第 1608・1568・1998 号ピット）、粘土とアタリ（第 1724 号ピット）、根固めと礫詰め（第 1686・1708 号ピット）、根固めと粘土柱痕（第 2016 号ピット）の組み合わせで遺構内共存する場合が見受けられる。

分布上の特徴としては、礫詰め・粘土柱痕をもつピットは調査区北西側に限定され、土坑域とはほぼ排他関係にあることが挙げられる。

〔柱の抜き取り〕 掘方の二次的破壊を伴うような典型的な抜き取り痕は認められなかったが、抜き取りが想定される土層構造をもつピットは確認されている。第 2078 号ピットは下部に柱痕・埋め土の構造を残し、第 3・4 層下面で掘方内掘削によると考えられる不整合面が生じ、その上位に埋め土・第 II 層類似土が流入する。同様に、掘方内内部で埋め土の掘削・破壊→柱抜き取り→暗褐色土・埋め土等の再堆積と解釈できる堆積例には第 1359・1955・2017 号ピット等が挙げられる。柱痕の部分的残存、または底面にアタリが伴ってお

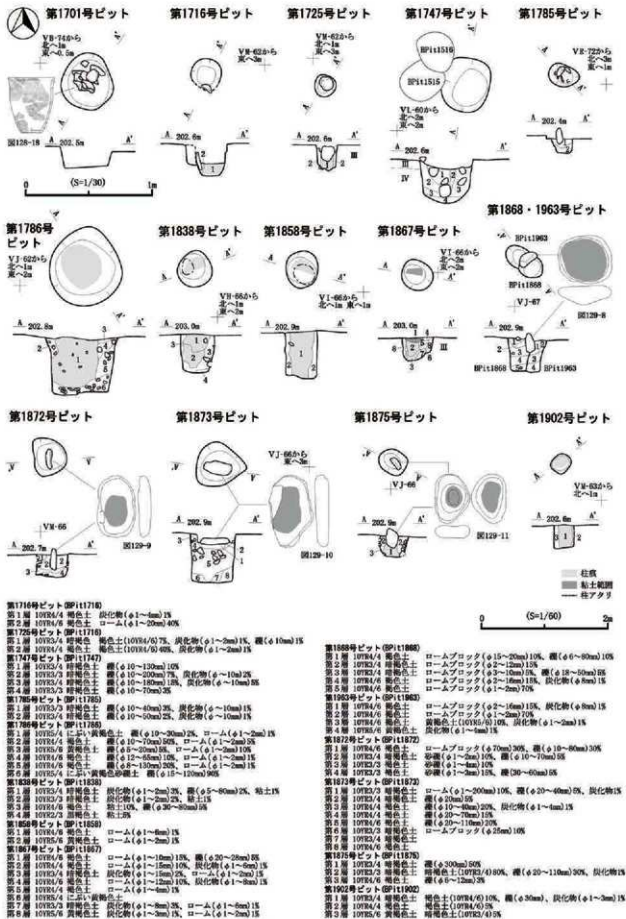


図125 ピット(2)

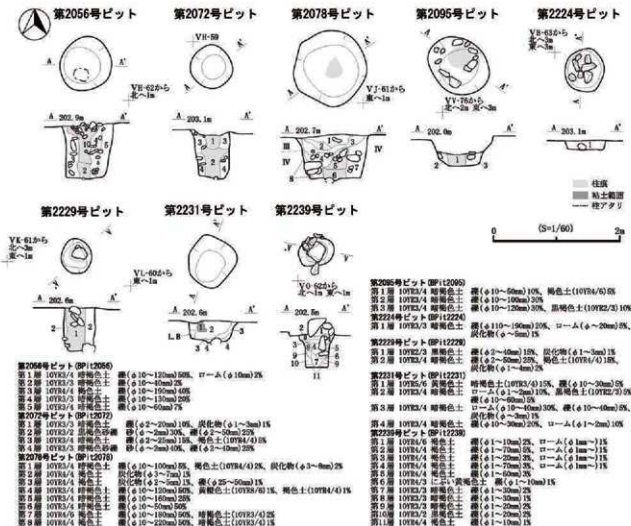


図127 ピット(4)

り、いずれも柱を有する段階が想定される。

一方、第1955・2017・2078号ピットでは上述した住痕内の礫詰め、第1359号ピットでは粘土堆積も併せて確認されている。礫詰め・粘土堆積は、柱の残留から土壌化に至る形成過程の中では発生し難い現象と思われ、本遺跡内での抜き取りに伴う特徴的な堆積土改変と考えられる。

【配置構成】本章第2節で掘立柱建物跡として記載された方形・亀甲形配置、本章第1節で堅穴住居跡として記載された円形配置の壁柱穴を除くと、定型的な配置構成は認められない。

第1207・1208・1786号ピットの3基、第1956・2004・2056号ピットの3基は、それぞれ同等の規模かつ等間隔で直線的配列を示しているが、他に対応するピットは検出されなかった。また、縄文時代晩期の集落でみられる大型の環状柱穴列が含まれている可能性も検討したが、本調査区内では確認されなかった。

【出土遺物】土器は、縄文時代中期後葉から晩期後葉のものが出土した。第1701号ピット出土土器を除き、多くが破片資料である。図128-13・図129-3~5はII群F類で、口唇部が肥厚し、渦巻文等が施文される。図128-18は、口縁部が緩やかに外反する器形で、口縁部に無文帯、胴部に地文縄文が施されるII群I類の深鉢形土器である。図129-6はV群の鉢形土器、図129-7は刻目を特徴とするIII群C2類である。図128-2・9・14・図130-1・6はVI群の深鉢形ないし鉢形土器、図128-3・4・15はVI群の浅鉢形土器である。

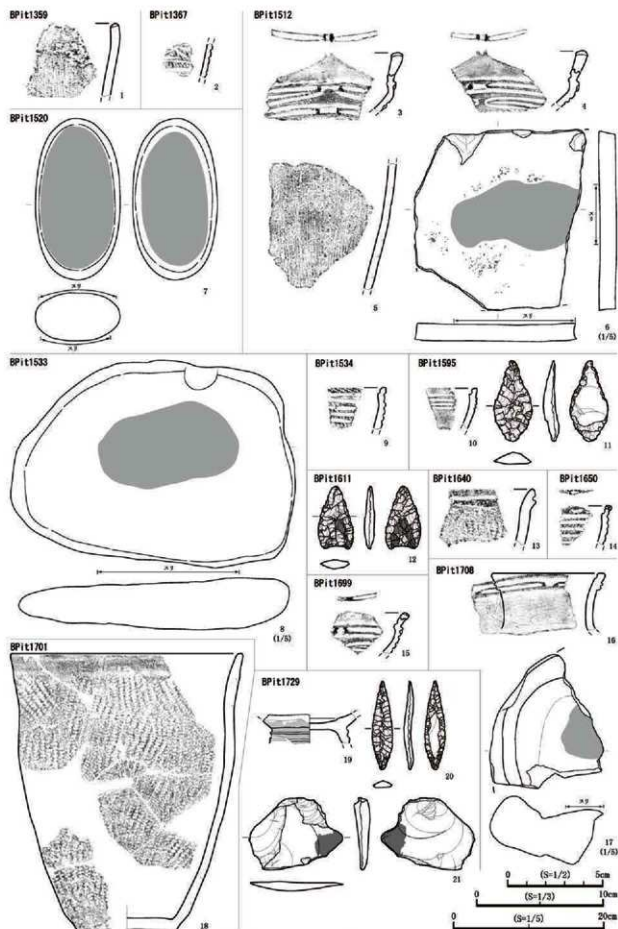


図128 ビット出土遺物(1)

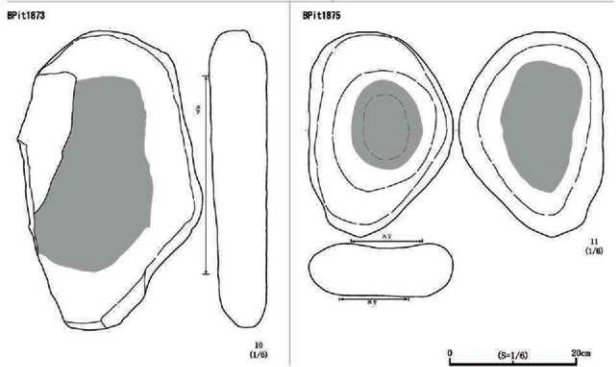
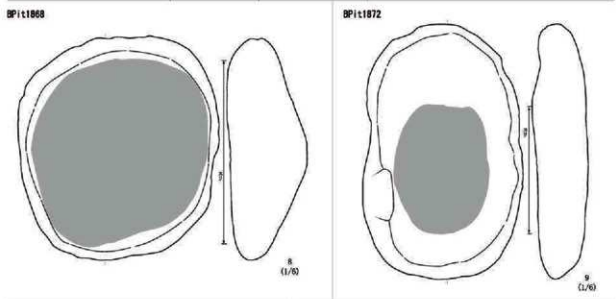
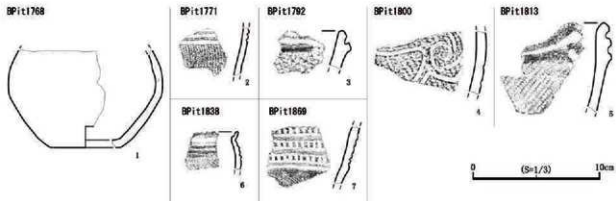


図129 ビット出土遺物(2)

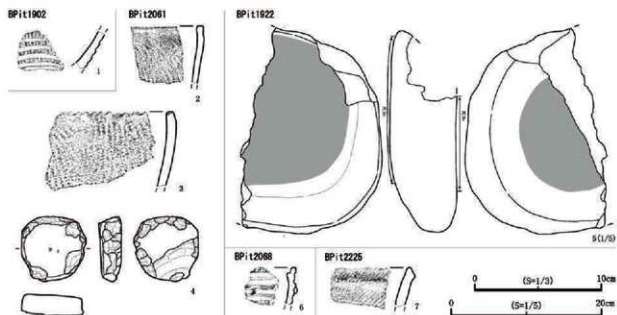


図130 ビット出土遺物(3)

その他のVI群土器としては、図 128-16 の壺形土器、図 128-19 の内面に稜をもつ台付浅鉢があり、共に赤色顔料が塗布される。

石器は剥片石器類、礫石器類が出土しているが台石の出土が多い。これは[特徴的な堆積]の項で記載されているように、礫詰めに台石が使用されていることに起因する。以下に器種毎に記載していく。剥片石器類は石鏃(図 128-11・12・20)、剥片(図 128-21)を図示した。図 128-21 はアスファルトが器体の端部両面に付着したもので、掻き取り具として使用されたものと考えられる。礫石器類は磨り石(図 128-7)、台石・石皿(図 128-6・8・17・図 129-8~11・図 130-5)を図示した。図 128-6 は赤色顔料が付着した台石である。

石製品は、第 2061 号ビットから円盤状石製品が 2 点出土し、1 点を図示した(図 130-4)。縁辺の一部に両極剝離痕がみられ、片面の中央部付近に黒色物質が付着している。図示しなかったが、第 2239 号ビットからも円盤状石製品が 1 点出土している。

[時期等] 出土遺物では縄文時代中期後葉から土器破片が見られるが、黒色ないし暗褐色土の第 II 層に類似する堆積土をもつものでは縄文時代晩期中葉~末葉にほぼ限定される。掘立柱建物跡を構成するビットとの重複関係は新旧双方が認められるが、上述の時期幅と矛盾しない。

東側に隣接する土坑域には、暗褐色ないし褐色土が堆積するビットが大勢を占め、重複関係の上では縄文時代中期から後期のビットと見なされる。

(秦)

第7節 炭窯跡

炭窯跡は21基検出した。本遺跡が所在する川原平集落や近隣の砂子瀬・居森平集落では、かつて西目屋村田代や弘前方面の生活燃料需要に対応し、炭が特産品の一つとなっていた。文献には、当時窯数75基、年産106300貫(約400トン)生産していたとの記述がある(十和田岩木川総合開発協議会1959)。

[分布・確認] 調査区全域に散在傾向であるが、3つの集中検出がみられる(VL-0-68~70、VIK-0-81~88、VM-105グリッド)。第1層直下で検出されるものが多い。重複は認められなかった。

[形状・規模] 平面形は円形を基調とする。遺構検出面からの深さは、3~67cmを測る。楕円形のもの、遺構検出面からの深さが11cm未満であり、削平を受ける前は円形だったと推測される。長軸は77~286cmを測り、100cm未満が6基、150cm未満が11基、200cm未満が2基、280cm未満が2基である。平面形の径が大きいものはVL-0-68~70グリッドに4基検出され、深さ42~67cmを測る。これら以外は、比較的径が小さく浅い傾向がある。水田造成に伴う削平が、遺存状態に大きく影響している状況が看取される。

比較的良好に遺存する第42・43・45・46号土坑が有する共通の属性として、底面中央部付近はほぼ平坦である点、明確な壁を持たず緩やかに上部に向かい、立ち上がる形態である点が挙げられる。第42号土坑の南側、第46号土坑の北東側、第43号土坑の北側では、壁の一部が緩く傾斜する。

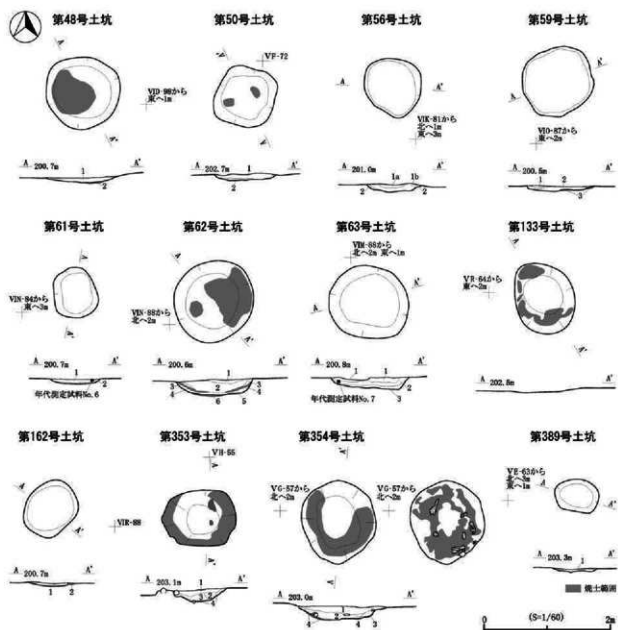
壁や底面は、被熱により赤変し、焼土化しているが、被熱の弱い箇所が北壁に観察されるものが4基(第1・5・43・45号土坑)、同様、西壁や北西壁3基(第39・62号土坑)、南壁と西壁(第6号土坑)、南東壁(第48号土坑)、東壁(第133号土坑)、北東壁(第354号土坑)各1基である。第43号土坑は、壁の一部が緩く傾斜する箇所と被熱の弱い位置が同一なことから、被熱が弱い箇所や緩く傾斜する箇所は焚口の可能性を指摘したい。

遺構上端直下に一方または三方向にテラス状の段を形成するものがある(第42・46号土坑)。堆積土は水田耕作土が混入して判然としないが、付属施設の一部と考えられる。

[堆積土] 底面付近には純粋な炭化物層が観察される。第1・33・354号土坑では、直径2~6cm、長さ10~24cm程の炭化材が出土し、多くは原材の幹を鈍削した状況が観察され、太さ2~3cmの枝状のものも観察された(第33号土坑)。上層は、炭化物塊を多量に含む黒褐色土が堆積する。黒褐色土には、亜角礫や円礫が層をなすものもあるが(第43号土坑)、礫が窯の壁の構築材とされる状況は認められない。被熱した土層が底面付近に2面確認される例(第42・62号土坑)、底面付近に直径10~20cm程度の扁平または一辺が平らな礫1点が出土する例(第1・42・43号土坑)があり、注目される。

[出土遺物] 縄文土器、礫石器、石核、剥片等が出土しているが、出土状況や遺物から、埋没時に混入したものと考えられる。

[時期] 各遺構の諸属性は全般的に共通するものが多く、構築・廃絶時期はほぼ同時期と考えられる。堆積土が第II層より新しい様相を呈する点と、遺構外から17世紀以降の陶磁器が出土していることから、17世紀以降の時期に帰属する可能性がある。なお、放射性炭素年代測定では、第61号土坑の試料で15世紀末から17世紀中頃、第1号土坑の試料で17世紀中頃から昭和以降の暦年代が得られている(第4章第1節参照)。(工藤)



第48号土坑 (30K24)

第1層 10YR2/4 暗褐色土 炭化物(φ1~10mm)10%、褐色粘土(7.5YR4/6)5%、
 第2層 7.5YR4/6 褐色粘土 土-A(φ1~20mm)3%

第50号土坑 (30K25)

第1層 10YR2/4 暗褐色土 炭化物(φ1~25mm)5%、粘土(φ1~2mm)2%、
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 炭化物(φ2~30mm)2%、
 土-A(φ2~30mm)2%、
 褐色粘土(10YR2/3)20%、土-A(φ1~10mm)5%

第61号土坑 (30K26)

第1層 10YR4/6 褐色土 炭化物(φ3~40mm)5%、礫(φ10~30mm)1%
 第2層 10YR2/2 暗褐色土 炭化物(φ1~60mm)25%、礫(φ10~30mm)1%
 第3層 10YR4/4 褐色土 炭化物(φ1~10mm)2%、礫(φ10~20mm)1%

第62号土坑 (30K27)

第1層 10YR4/6 褐色土 炭化物(φ3~40mm)5%、礫(φ10~30mm)1%
 第2層 10YR2/1 黒色土 炭化物(φ3~30mm)20%
 第3層 7.5YR4/8 暗褐色粘土 炭化物(φ3~4mm)20%

第63号土坑 (30K28)

第1層 10YR4/4 褐色土 炭化物(φ3~20mm)22%、礫(φ10~30mm)1%
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ1~10mm)1%

第133号土坑 (30K29)

第1層 10YR2/4 暗褐色土 炭化物(φ1~20mm)1%、礫(φ10~30mm)1%
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ1~10mm)20%、礫(φ10~30mm)1%
 第3層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ1~10mm)5%、礫(φ10mm)1%
 第4層 7.5YR4/4 褐色土 炭化物(φ1~20mm)10%、礫(φ10mm)1%
 第5層 10YR2/3 暗褐色土 炭化物(φ1~20mm)10%、礫(φ10mm)1%
 第6層 7.5YR2/9 明褐色粘土

第56号土坑 (30K21)

第1層 10YR2/2 暗褐色土 炭化物(φ1~50mm)20%、礫(φ10~100mm)5%
 第2層 10YR2/1 黒色土と炭化物(φ1~50mm)の混合土 礫(φ10~30mm)10%
 第3層 10YR3/4 暗褐色土 礫(φ10~100mm)40%、炭化物(φ10mm)1%

第162号土坑 (30K12)

第1層 10YR2/2 暗褐色土 炭化物(φ2~25mm)5%、礫(φ4~20mm)2%
 第2層 10YR2/2 暗褐色土 炭化物(φ2~30mm)10%、礫(φ10YR4/6)5%
 第3層 10YR1/7 黒色土 炭化物(10YR1/7)10%、礫(φ30mm)10%
 第4層 5YR2/4 暗褐色土

第353号土坑 (30K33)

第1層 10YR2/2 暗褐色土 炭化物(φ2~25mm)5%、礫(φ4~20mm)2%
 第2層 10YR2/2 暗褐色土 炭化物(φ2~30mm)10%、礫(φ10YR4/6)5%
 第3層 10YR1/7 黒色土 炭化物(10YR1/7)10%、礫(φ30mm)10%
 第4層 5YR2/4 暗褐色土

第354号土坑 (30K34)

第1層 10YR2/3 暗褐色土 暗褐色土(10YR2/3)5%、黄褐色土(10YR5/6)5%、
 炭化物(φ1~20mm)2%、礫(φ10~50mm)2%
 第2層 10YR2/2 暗褐色土 暗褐色土(10YR2/2)10%、炭化物(φ1~15mm)2%
 第3層 10YR2/4 暗褐色土 炭化物(φ10YR2/4)20%、炭化物(φ1~1mm)1%
 第4層 10YR2/3 暗褐色土 炭化物(φ1~15mm)30%、7.5YR3/暗褐色土20%、
 礫(φ10~50mm)10%

第389号土坑 (30K38)

第1層 10YR2/1 黒色土 炭化物(φ1~10mm)30%、暗褐色土(10YR2/3)10%、
 礫土(φ5~30mm)2%、土-A(φ1~5mm)2%

图132 炭痕跡(2)

第8節 遺構外出土遺物

遺構外からは土器、石器、土製品、石製品、土師器等が出土した。本遺跡B区では、発掘調査の過程で遺物を多く包含する基本層序第Ⅱa層が確認された(図3)。第Ⅱa層が確認された地点は、調査区内において極めて限定的である。ただし、第Ⅱa層上部は現代の水田耕作等によって広範囲に削平されていることから、本来の第Ⅱa層の範囲は把握し難い。当該層出土の遺物については、川原平(1)遺跡と接する調査区西端をA地点、調査区中央西寄り をB地点として報告する(図4)。

なお、本遺跡B区の遺構外出土遺物の内、石製品3点が川原平(1)遺跡から出土したものと接合している(図133)。川原平(1)遺跡における出土位置は、いずれも調査区西側で、2点が大沢川に面した斜面部に形成された西捨場、1点が西捨場寄りの台地縁辺部である。

- ・接合資料1(岩版 図148-7) 本遺跡B区西端のA地点第Ⅱa-1層と、西捨場との接合資料で、両地点の直線距離は107mである。
- ・接合資料2(石棒 図188-1) 本遺跡B区北西端と、西捨場寄りの台地縁辺部の接合資料で、両地点の直線距離は77mである。
- ・接合資料3(石棒 図188-2) 本遺跡B区東側と、西捨場との接合資料で、両地点の直線距離は316mである。本遺跡における出土地点は、縄文時代晩期後葉のA群土坑の分布域に相当する。

接合資料2・3については、本遺跡では第Ⅰ層中から出土しており、原位置からどれほどの移動があったか疑問が残る。接合資料1・3については、現在整理中である西捨場出土遺物の層位毎の特徴を検討することで、より明確な時期の位置づけも可能となることが予想される。

これらの遠距離接合例は、本遺跡B区と川原平(1)遺跡が一つの遺跡であることを如実に物語るものと考えられる。

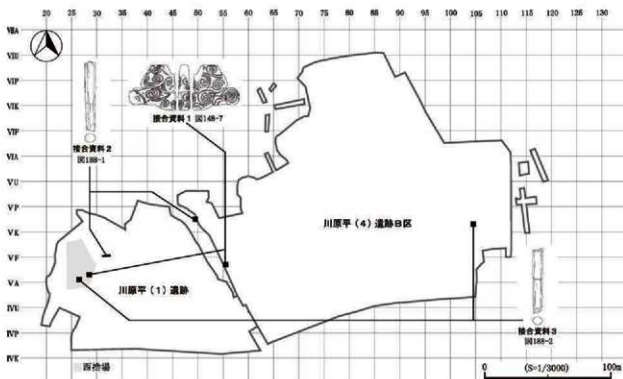


図133 遠距離接合資料出土地点

〔VI群土器の細分について〕

本遺跡B区において、出土土器の主体を占める縄文時代晩期後葉から末葉のVI群土器については、器形・文様から以下のように細分した。

・器形

深鉢形・鉢形・台付鉢

- A類：直線的な胴部から、くびれをもたずに緩やかに立ち上がるもの。
 B類：直線的な胴部から、口縁部で緩やかに屈曲し、直立気味に立ち上がるもの。
 C類：直線的な胴部から、口頭部がわずかにくびれ、口縁部上端が短く外反するもの。
 D類：曲線的な胴部から強く屈曲し、口縁部が外反するもの。

浅鉢形・台付浅鉢

- A類：屈曲をもたずに、直線的に立ち上がるもの。
 B類：屈曲をもたずに、口縁部が曲線的に緩やかに立ち上がるもの。
 C類：口縁部が内湾気味に立ち上がり、口縁部上端が短く外反するもの。

壺形 出土点数が少ないため、分類は行っていない。

・文様

- 1類：口縁部に数条の横位沈線が施されるもの。磨消縄文による胴部文様をもつものを含む。
 2類：横位平行の多条沈線が施されるもの。縦位の短沈線をもつものを含む。深鉢形・鉢形・台付鉢の場合、主に口頭部を中心に文様展開するものをa類、胴部下半まで文様展開するものをb類とした。
 3類：矢羽根状沈線及びこれに類する斜行沈線が施されるもの。
 4類：斜行沈線と一部曲線的な文様が施されるもの。
 5類：凸字状の文様が施されるもの。
 6類：流水状の文様が施されるもの。
 7類：三角形を基調とした変形工字文が施されるもの。

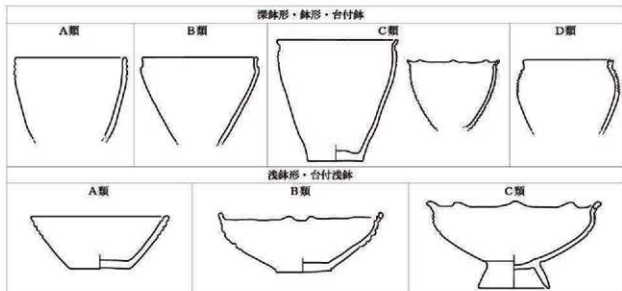


図134 VI群土器の器形

1 A地点第IIa層出土遺物

[位置・確認]

A地点は、調査区西端の標高 202.7~203.5mの地点に位置する(図4)。周辺の地形は、ほぼ平坦であるが、北東方向に向かってわずかに緩傾斜している。第I層の直下で、遺物を多く含む黒褐色土の範囲を検出した。この黒褐色土については、基本層序の第IIa層と呼称して調査を行った。第IIa層の範囲は、IVV~VI-53~58グリッドで検出された。VAグリッド付近を境に以北では北側に向かって、以南では東側に向かって広がりをみせ、南北方向で約50m、東西方向で約30mを測る。VC~F-54~56グリッド付近では、小規模のピットがやや密集するが、これらピットの構築と、第IIa層の堆積の前後関係は明確にできなかった。

[堆積土・遺物出土状況]

第IIa層は、黒褐色土を主体とする(図3)。調査の過程で、礫の混入が少ない上位堆積層と、礫の混入が比較的多い下位層に分層され、上位層を第IIa-1層、下位層を第IIa-2層とした。また、第IIa-1層と第IIa-2層は、地点毎における土色・混入物等の差異に基づき、さらに細分したが、草木攪乱等により断続的な箇所も多く認められたことから、その明確な違いは判然としなかった。そのため、出土遺物の取り上げについては、層位解釈を第IIa層・第IIa-1層・第IIa-2層までとし、さらなる細分層位での取り上げは行っていない。

第IIa層は、概ね20cmほどの厚さで、ほぼ水平に近い形で堆積しており、最大厚は26cmである。上部は現代の水田耕作等により削平されている。第IIa層直下の第II層は、暗褐色土を主体とし、基本的に調査区内の各所で確認された第II層との違いは認められない。第II層も第IIa層と同様、遺物包含層であるが、第II層中の遺物量は少ない。

出土遺物としては、土器の場合、縄文時代後期後葉から晩期中葉の土器が特に多い。出土状況は、完形というより個体土器が破砕した状態で出土するものが多く認められた。石製品では、石棒類の出土がやや目立つ。

土器

A地点第IIa層からは縄文時代後期後葉から晩期の土器が出土している。第IIa層は細分層位で取り上げたものもあるが、上位層と下位層で土器型式の新旧が混在し、層位毎の時代的傾向を捉えることはできなかった。

Ⅲ群土器(図135-1~9)

本群土器の内、縄文時代後期後葉から末葉のC類土器が出土した。本遺跡B区出土のⅢ群C類土器は、その大多数がA地点からの出土である。

図135-1~6はC類で、縄文時代後期後葉に位置づけられる。貼瘤・刻目を特徴とするC2類が目立つ。深鉢形土器は、口頭部がくびれ、口唇部が肥厚するものが多い(1~3・6)。3は、斜方向に小さく突き出す口縁部突起を有し、突起頂部には縦横に交差する刻目が施される。6は、入組帯縄文が縦に圧着し、横方向に流れる。底部付近が欠損するが、台付と思われる。4は人面付土器の口縁部破片で、口縁部に沿って刻目が施される。5は、頸部に大ぶりの貼瘤がめぐる壺形土器で、外面に漆

状物質が付着している。

図 135-7～9 は C 3 類の深鉢形土器である。十腰内 VI 群前後に位置づけられる。C 2 類と比較して頸部の屈曲が弱い。口縁部は大きく開くものが目立つ。口唇部はほとんど肥厚せず、貼瘤は施されない。9 は、口縁部突起や口頸部文様帯に三叉状のモチーフがみられる。口頸部文様は横位沈線により三段に区画され、短い弧線の入組文を中心に、三叉状の無文部が外側へ伸びる。

IV 群土器 (図 135-10・図 136-1～3)

縄文時代晩期初頭から前葉に位置づけられる一群である。図 135-10 は、頸部に段をもつ注口土器である。口縁部・底部・注口部が欠損しており、全体形状を把握し難いが、最大径部がやや上位にあり、扁平化・定型化をなす過渡期にあるものと考えられ、縄文時代晩期初頭頃のものと思われる。図 136-1～3 は B 類である。2・3 は、口頸部が内湾しながら端部で短く直立気味に立ち上がる器形で、2 の胴部には突起がみられる。

V 群土器 (図 136-4～13・図 137-1～7)

縄文時代晩期中葉に位置づけられる一群で、A 地点での主体をなす。図 136-6 は、屈曲をもたずに緩やかに立ち上がる器形で、平行沈線間に刺突が施される。図 136-4・5・7・11 は、2～3 条の横位沈線が施される。図 136-7 は、片口をもつ鉢形土器である。図 136-8～10・12 は B 類の鉢形土器で、口唇部に刻目、内傾する口頸部に横位沈線が施される。図 136-13 は、下端が張り出す台部で、沈線文が施される。図 137-1～5 は A 類の浅鉢形土器である。雲形文が施されるもの (1～3)、口縁部に 2 条の横位沈線が施されるもの (4・5) がある。図 137-6・7 は壺形土器である。浅鉢形土器及び壺形土器には、赤色顔料が塗布されるものが目立つ。図 136-8 は、土器付着炭化物の年代測定の結果、2,600±20yrBP の測定値が得られた (第 4 章第 1 節参照)。

VI 群土器 (図 137-8～16)

縄文時代晩期後葉から末葉に位置づけられる一群である。深鉢形土器は、横位の平行沈線 (8・9)、矢羽根状沈線 (10) が施される。浅鉢形土器は、幅広の横位沈線が施されるもの (11)、幅狭の横位沈線が施されるもの (12)、変形十字文が施されるもの (13・15・16) がある。15 は、幅の広い筒状の台部をもつ台付浅鉢である。口縁部突起の頂部に刻目がみられ、口唇部に沿って沈線が施される。三角形の単位文は 3 単位みられる。内面には円形の沈線文が施される。図 137-14 は、口頸部に横位沈線が施される壺形土器である。

VII 群土器 (図 137-17～21・図 138)

条痕のみを A 類、地文縄文のみ、無文のものを B 類とした。概ね縄文時代晩期に位置づけられる一群であるが、A 地点では、III 群 C 類土器の出土も目立つことから、B 類土器の一部に縄文時代後期後葉まで遡るものを含む可能性がある。

A 類は、縦位の条痕をもつ深鉢形土器 (図 137-17) が出土しているが、B 地点及びその他遺構外の出土量と比較し、極めて少ない。B 類の深鉢形土器は、口縁部が短く外反する小波状口縁のもの (図 137-18)、口縁部が短く外反する平口縁のもの (図 138-5)、口縁部が内湾気味に立ち上がる平口縁のもの (図 137-20・21・図 138-1～4) がある。図 138-3 は、平口縁に口縁部突起がみられる。図 138-5 は口縁部内面に沈線がめぐり、図 138-6 は無文の鉢形土器、図 138-7～9 は台付の小型土器である。

(最上)

石器

A地点第II a層からは後期後葉から晩期の土器が出土しており、当該期の包含層として捉えることができ、剥片石器約52kgと、礫石器約64kgが出土した。しかし、前述したように第II a層の上部は水田耕作等による削平を受けている。その影響により、剥片石器類では石筥が欠落するほか、石槍・石錐の出土も非常に少ない。また、礫石器類では磨製石斧が欠落するほか、台石・石皿類の出土が非常に少ないなど、器種組成には粗密が認められる。以下に、器種毎の特徴について記載していく。

石鏝 (図139-1~33)

46点出土し、33点を図示した。1~14はI d類とした無茎尖基礎である。1~11は幅狭なタイプで、13・14は幅が広がるタイプである。幅狭タイプの幅と長さの比率は0.17~0.38まで分布し、中でも特に細長い印象を受ける1~3・7・9~11はいずれも0.3未満となる。アスファルトは3・5・8・13に付着している。中でも3は器体下半の全域にアスファルトが付着しており、着柄時の状況を推測することができる。11は尖端が摩滅しており、錐に転用されたと考えられる。15~31はII類とした有茎鏝で17~19は茎部が長くなるタイプである。16・17・21・23・25・26・28・31にアスファルトが付着している。中でも茎部が長くなる17は、茎部全域にアスファルトが付着している。32・33は尖端部さえ加工すれば製品になる段階まで来ているものと判断し、両面調整ではなく石鏝の未製品とした。

両面調整石器 (図139-34~36)

6点出土し3点を図示した。34は小型の石槍である可能性もある。

石匙 (図139-37~図140-8)

22点出土し、15点を図示した。図139-37~42は縦型としたI類、図139-43・140-1~4は斜型としたII類、5~8は横型としたIII類で、8はつまみが2個作出される特異なタイプである。I類はつまみを作り出し、側縁にあまり加工が施されない簡単な作りのものが多い。一方、II類及びIII類はつまみの他に、周縁に加工が施されており、I類よりも丁寧な作りとなっている。つまみが2個作出されている8は側縁縁辺の両面に光沢が付着している。

石錐 (図140-9)

3点出土し、1点を図示した。9は欠損品であるが、残存している形状からつまみ部よりも錐部が長くなるI類と判断した。

トランシェ=礫石器 (図140-10)

1点の出土である。この石器は縄文時代早期~前期前葉に特徴的な石器であることから、本層に混在したものと考えられる。刃部縁辺及び稜には光沢が付着している。

打製石斧 (図140-11)

1点の出土である。珪質頁岩を素材として楕円形に整形されており、端部の稜はツブれている。

石槌 (図141-1) 26点出土し1点を図示した。

その他

他にスクレイパー、微細刺鯨歯のある剥片、二次加工剥片、剥片などが出土しているが図示はしなかった。しかし、本地点から出土した黒曜石製の剥片14点について産地同定分析を行っており、13点が青森県深浦の出来島産、1点が秋田県男鹿半島産であるとの結果が得られた(第4章第4節参照)。

敲き石 (図 141-2～9)

凝灰岩、安山岩、砂岩、シルト岩などが素材とされているが、この中でも凝灰岩の選択率が最も多く 8 割近くを占めている。なお、珪質頁岩を素材とするもので、石器制作時にハンマーとして使用されたと考えられる石器についても本器種に含めた。51 点出土し、8 点を図示した。図 141-6 は台石類の破損品を転用したものである。図 141-8・9 は珪質頁岩製のハンマーである。

凹み石 (図 142・143)

凝灰岩、安山岩、砂岩などが素材とされているが、敲き石同様に凝灰岩が 8 割近く選択されている。観察表中で凹み痕としたものは径が 1 cm 以上のもので、1 cm 未満のものは小凹み痕と表記してある。55 点出土し、21 点を図示した。図 142-1～3 は器面に凹み痕が一個形成されているもので、いずれも凹み内面は摩滅している。また 1 は側面も使用しており、小凹み痕が複数個形成されている。図 142-4～図 143-10 は複数個の凹み痕と小凹み痕が形成されているものである。また、敲打痕が混在しているものも多い。使用面数は正面・裏面の 2 面のものが多いが、図 143-9・10 は側面も使用している。この 2 点は 5 cm 以上の厚みがあることから、使用に適した広さを有している素材であれば、面数にこだわらず使用したものと考えられる。

敲き・磨り石 (図 144・145)

敲打痕・凹み痕・磨り痕が混在しているものを本器種とした。62 点出土し、19 点を図示した。凝灰岩の選択率は 6 割程度になり、変わって安山岩の選択率が若干増えている。また、器面の他に側面を使用しているものも増える。図 144-5・7・9・図 145-1～9 は側面を使用しているものである。特に 145-7 の磨り面には、稜が形成されており、多面状の磨り面が形成されている。

磨り石 (図 146-1～11)

28 点出土し、11 点を図示した。凝灰岩、安山岩、花崗閃緑岩、デイサイトなどが選択されている。凝灰岩の選択率は 4 割弱に下がり、安山岩以下の石材が 1 割から 2 割程度選択されている。図 146-1～6 は器面、7～9 は側面、10・11 は器面と側面を使用しているものである。

石錘 (図 146-12～14・図 147-1～7)

凹み痕や、磨り痕のあるものでも、軸線上に抉りが施されているものに関しては、石錘に転用されたものとして本器種に含めた。凝灰岩、砂岩、安山岩が選択されており、凝灰岩が 6 割近くを占めている。19 点出土し、10 点を図化した。図 146-12～14・図 147-1 は I 類とした通常石錘である。短軸線上だけに抉りが施されているのは図 146-13 だけで、その他は長軸線上にも抉りが施されている。図 147-2～7 は転用品と捉えたもので、図 147-2～4 は凹み石から、図 147-5～7 は敲き・磨り石からの転用品である。抉りは I 類同様に短軸線上だけでなく、長軸線上にも施されているものもある。

台石 2 点出土したが図示しなかった。

砥石 (図 147-8)

1 点の出土である。流紋岩を素材とし、中砥もしくは仕上げ砥として利用されたものと考えられる。機能面には刃研ぎの際にできる稜があることから、縄文時代のものではないと考えられる。本包含層周辺には B-Tm と思われる火山灰の堆積する第 352 号土坑が検出されていることから、同時代の攪乱土に含まれていたものと考えられる。

(小山)

土製品**土偶** (図 148-1)

1点出土した。顔面部分の破片資料である。隆帯と幅広の沈線により眼の表現がなされる。外面には赤色顔料が塗布されている。

土器片加工円盤 (図 148-2～6)

5点出土した。土器片の周縁加工により径3～4cmの不整円形状を呈する。器面の文様は、地文縄文(2・3)及び無文(4～6)がある。

石製品**岩版** (図 148-7)

1点出土した。出土層位は第Ⅱa-1層である。川原平(1)遺跡の西捨場から出土したものと遺距離接合している(図 133)。凝灰岩を素材とする。断面台形状の線刻により渦巻文が全面に配され、赤色顔料が塗布されている。

線刻礫 (図 148-8)

1点出土した。凝灰岩を素材とする。幅狭で浅い線刻により、円形状の文様が局所的に施される。敲打後の研磨調整がみられる。

石冠 (図 148-9)

1点出土した。スコリアを素材とする。下面はほぼ平坦で、上端部は幅狭に面取りされている。縦断面は、概ね三角形形状を呈するが、下半がやや膨らみをもつ。

石棒類 (図 148-10～14)

7点出土し、5点図示した。全て破損品である。粘板岩、緑色岩、青色片岩等を素材とする。10～13は石棒で、研磨調整の痕跡が顕著である。14は、片側側縁に内反りの稜をもつ石刀で、よく研磨されている。上端部には敲打痕が残る。

玉類 (図 148-15)

1点出土した。緑色凝灰岩を素材とする。表面に小さな凹凸をもつ。半月状を呈し、元来の自然の凹部に穿孔がみられ、穿孔部分の縁辺は、角が丸く調整されている。

円盤状石製品 (図 148-16～18、図 149-1～9)

69点出土し、12点図示した。素材としては凝灰岩、安山岩を主体とし、頁岩、閃緑岩、砂岩等がみられる。径は5～7cmが主体を占める。他に、小さくて径2cm前後、大きくて径9cm前後のものが少数ある。厚さは2cm前後が多い。周縁に剥離後の敲打痕をもつもの(図 148-16～18、図 149-1～3)と、剥離のみのもの(図 149-4～9)があり、数量的にはほぼ半数ずつみられる。図 148-16、図 149-9は片面の中央部付近に黒色物質が付着している。図 149-2は、両面の中央部付近に、一部剥離以前の敲打痕がみられ、敲き石が転用された可能性がある。図 149-4は唯一、珪質頁岩を素材とするもので、原礫面を残さない点でも他と異なる。図 149-8は、縁辺の一部が著しく磨耗している。

(最上)

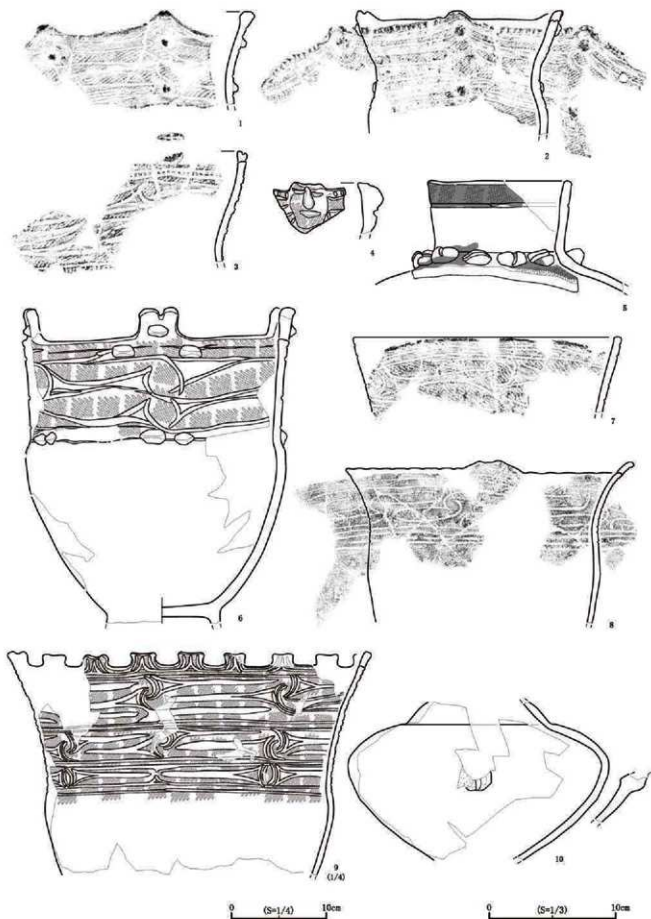


图135 A地点第Ⅱa層出土土器(1)

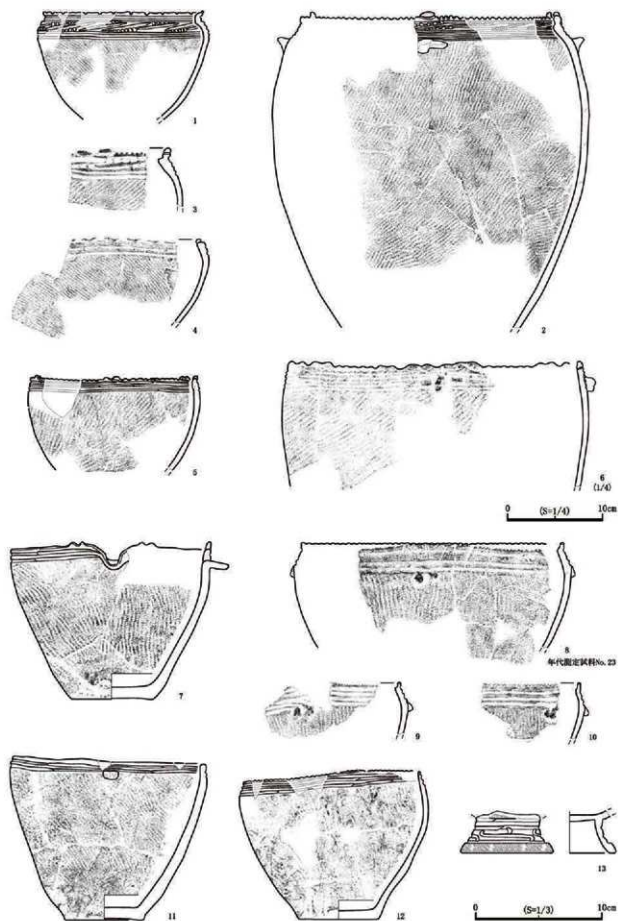


图136 A地点第II a層出土土器(2)

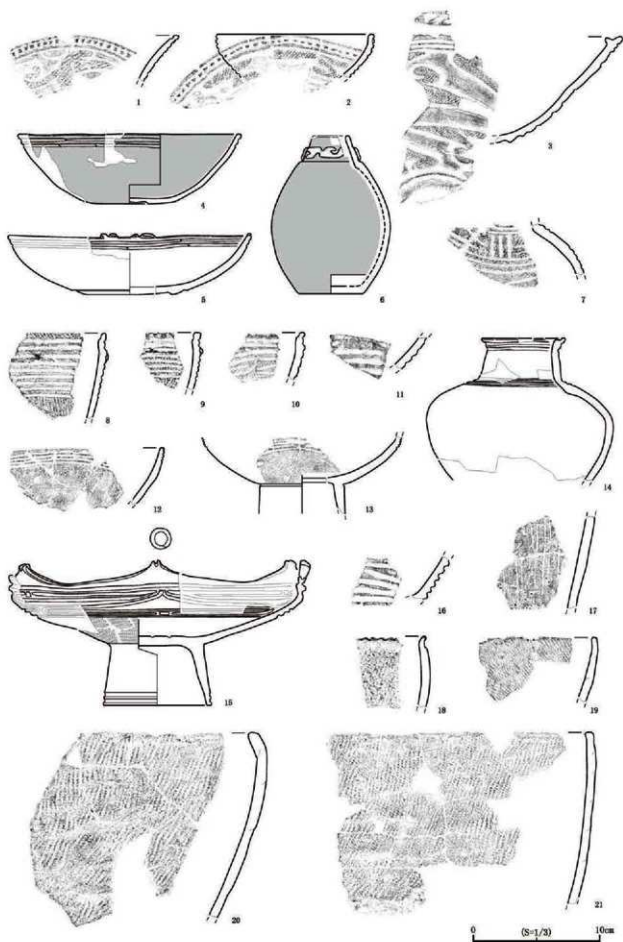


图137 A地点第Ⅱa層出土土器(3)

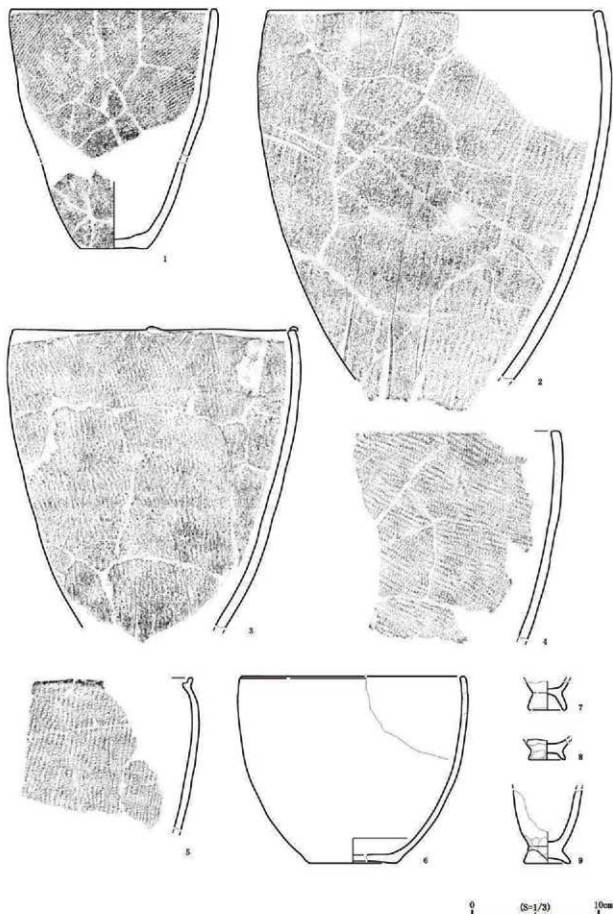


図138 A地点第Ⅱa層出土土器(4)

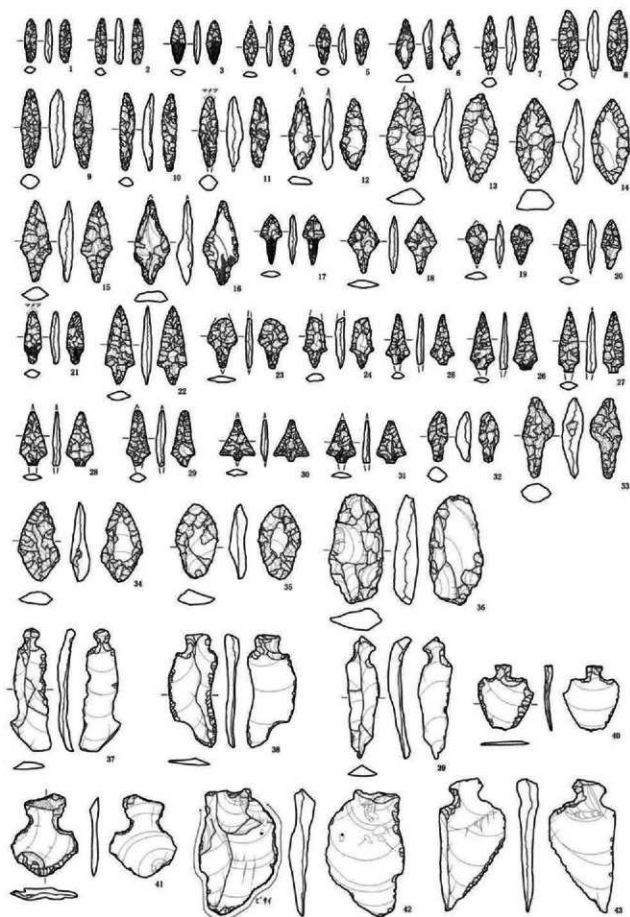


图139 A地点第II a层出土石器(1)

0 1.25 5cm

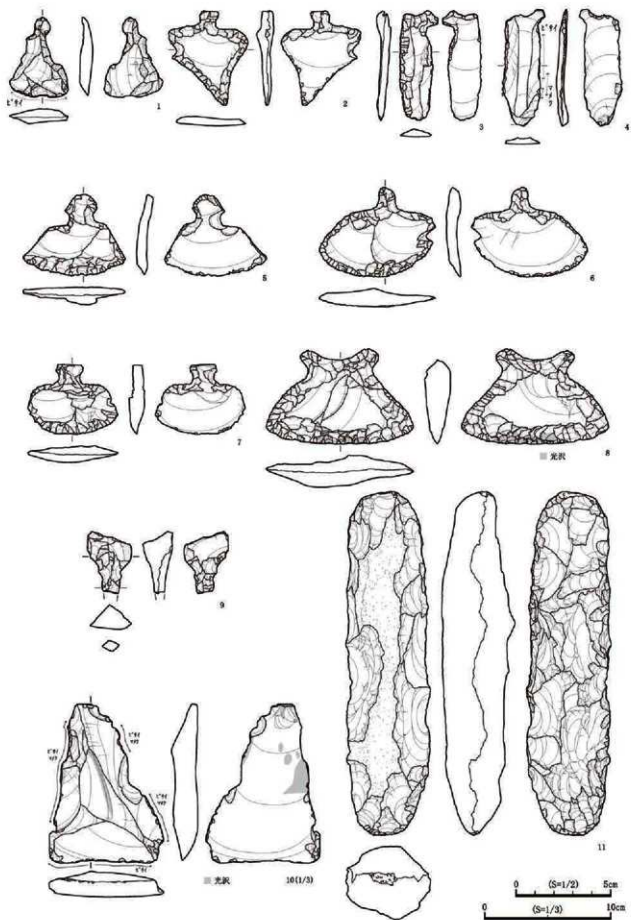


图140 A地点第Ⅱa層出土石器(2)

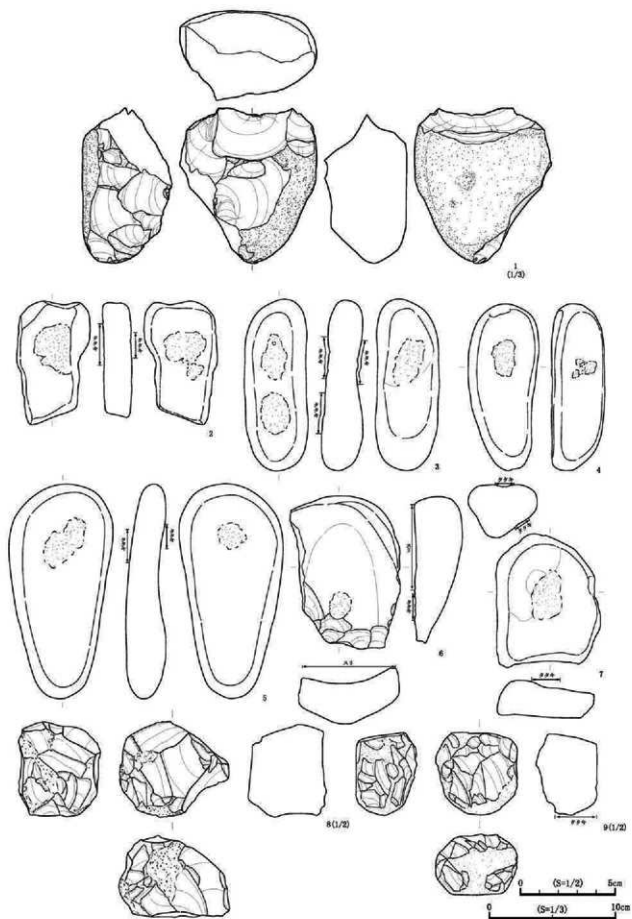


图141 A地点第II a層出土石器(3)

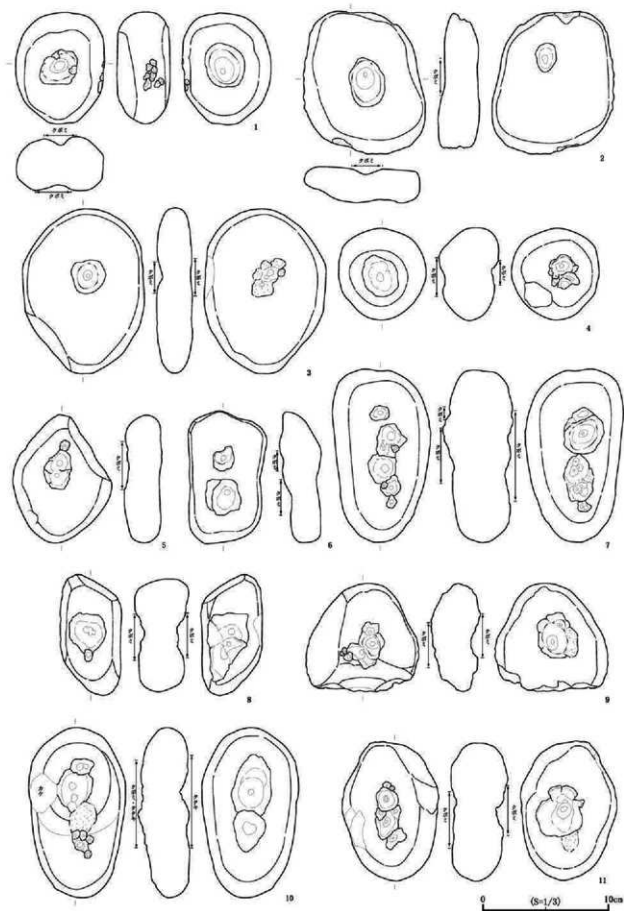


图142 A地点第II a層出土石器(4)

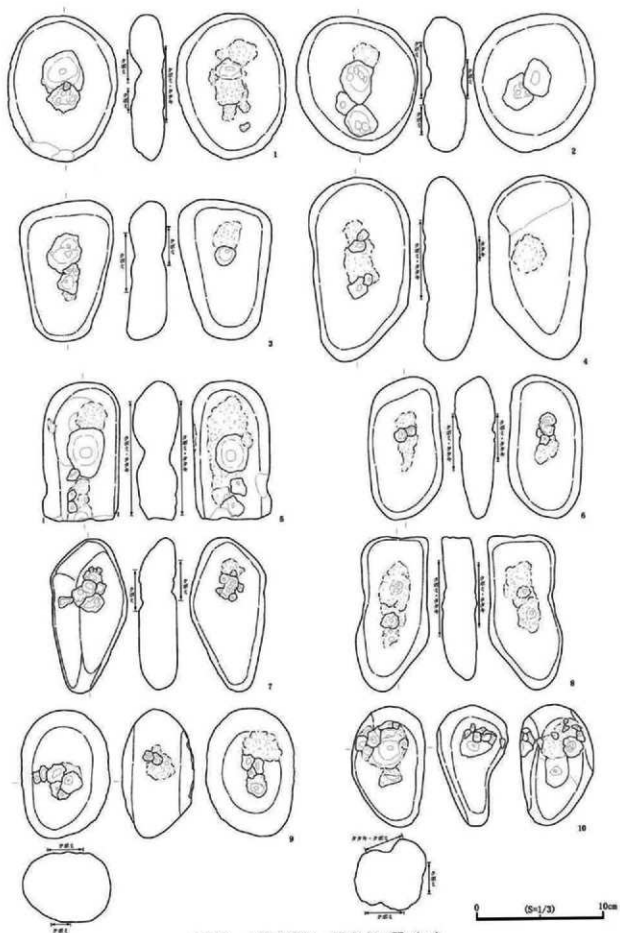


图143 A地点第Ⅱa层出土石器(5)

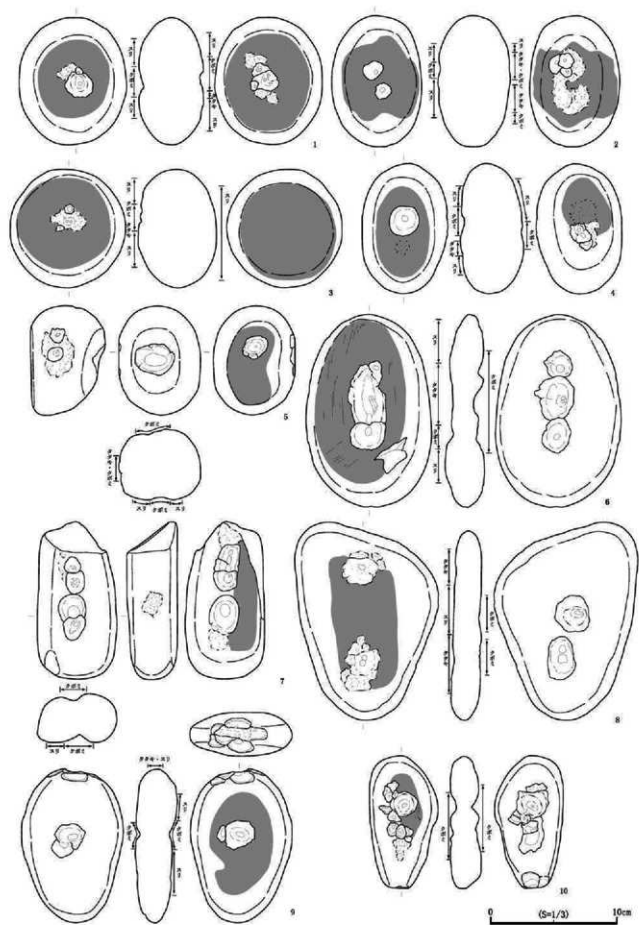


图144 A地点第Ⅱa層出土石器(6)

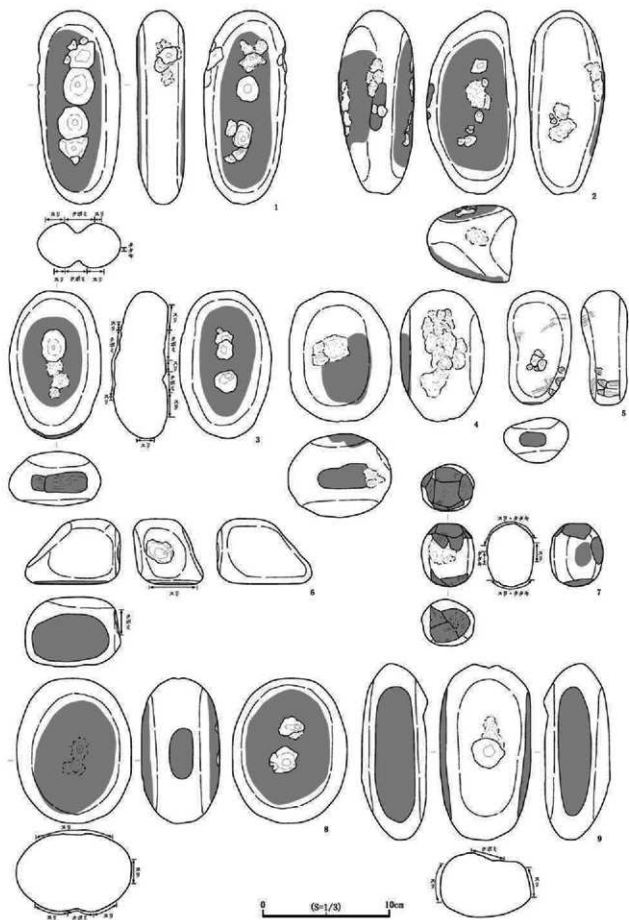


图145 A地点第Ⅱa層出土石器(7)

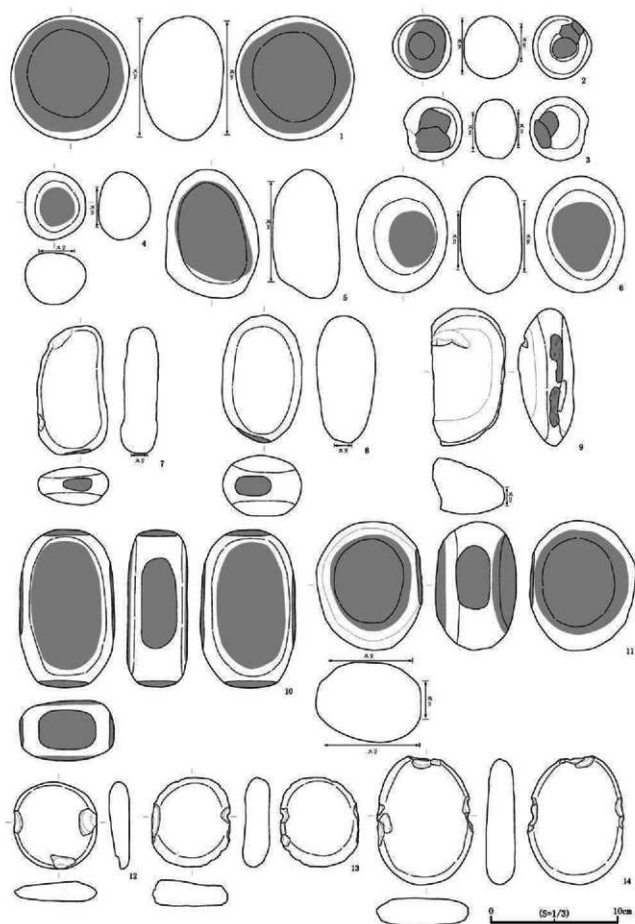


图146 A地点第Ⅱa層出土石器(8)

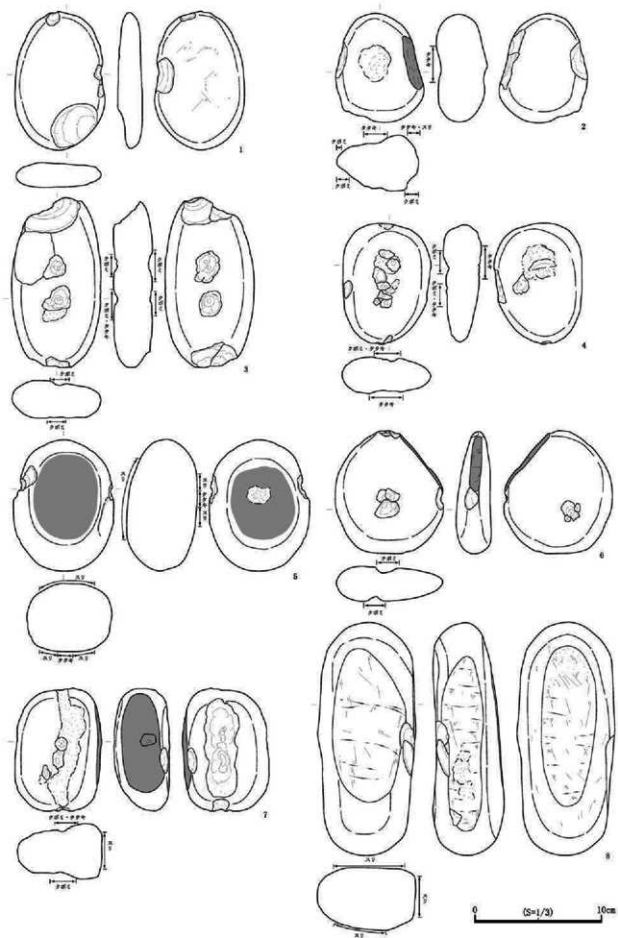


图147 A地点第Ⅱa層出土石器(9)

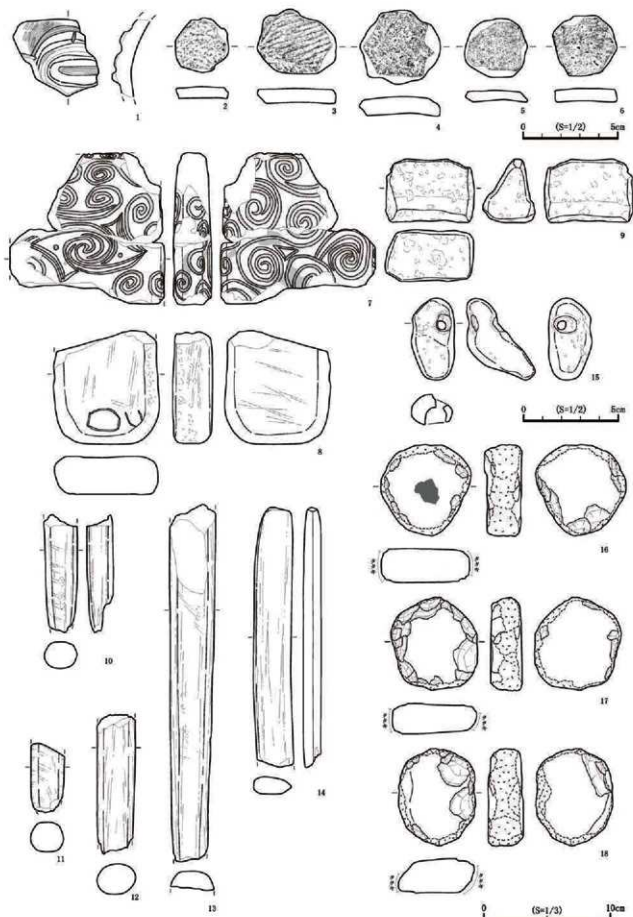


図148 A地点第Ⅱa層出土土製品・石製品

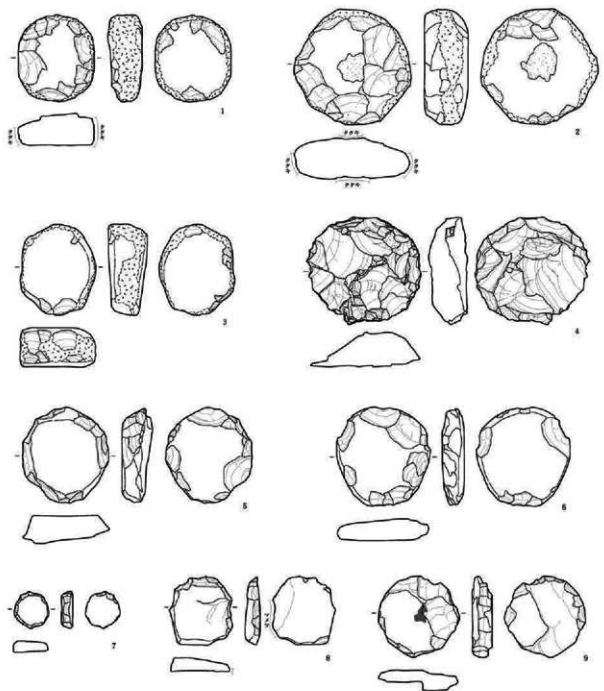


图149 A地点第II a層出土石製品

2 B地点第IIa層出土遺物

[位置・確認]

B地点は、調査区中央付近の標高 202.5～202.6mの地点に位置する(図4)。周辺の地形は、ほぼ平坦であるが、北東方向に向かってわずかに緩傾斜している。水田耕作土の直下で、遺物を比較的多く含む黒褐色土の範囲を検出した。黒褐色土の範囲は、VG・H-73・74 グリッドを中心に広がり、南北方向で8.9m、東西方向で8.8mの不整形範囲である。

調査開始当初、遺構の堆積土である可能性も考慮していたが、土層断面観察等により遺物包含層と判断され、黒褐色土については、基本層序の第IIa層とした。

周辺からは、第IIa層下部の第II層中で検出した第1312号ピットを除き、遺構は検出されなかった。

[堆積土・遺物出土状況]

B地点第IIa層は、黒褐色土を主体とする単一層である。約2cm以下の炭化物が比較的多く含まれる(図3)。礫の混入は極めて少ない。第IIa層の最大厚は22cmで、南側がやや厚く残存する。

第IIa層直下の第II層は、暗褐色土を主体とし、基本的に調査区内の各所で確認された第II層との違いは認められない。第II層も第IIa層と同様、遺物包含層であるが、第II層中の遺物量は非常に少ないといえる。

第III層は、B地点基本層序の土層断面南側で、緩やかに落ち込む状況が確認された(図3)。第II層及び第IIa層は、この緩やかに落ち込む自然の凹地形に沿って堆積したもので、その後水田耕作により上部が削平されたものと考えられる。調査区内の第I層中の遺物量が目立つのは、第IIa層を主体とする遺物包含層が、比較的広範囲にわたり存在していた可能性を示唆するものと考えられる。

遺物の出土状況としては、土器の場合、浅鉢形土器、壺形土器等が完形個体で出土するものが少数認められる他は、基本的に破片資料である。

比較的近接して、ほぼ同一レベルで出土した遺物としては、浅鉢形土器(図151-16・24)と独結石(図155-4)の出土事例、台付鉢(図151-2)と壺形土器(図152-11)と小型土器(図152-26・27)の出土事例が挙げられる。

土器

B地点第IIa層からは、縄文時代晩期後葉から末葉のVI群土器が主体的に出土している。また、VII群土器についても、縄文時代晩期後半頃に位置づけが可能なのが多く出土している。土器型式では、大洞A式から大洞A'式に比定されるものにほぼ限定される。

VI群土器(図150・図151・図152-1～11)

深鉢形・鉢形・台付鉢(図150・図151-1～15)

深鉢形土器はC2a類、鉢形土器・台付鉢はC2b類・C3類を主体とする。B地点第IIa層の出土土器の中で4割弱を占め、中でも深鉢形土器のC2a類は半数近くみられる。

図150-1～7・9～13はC2a類で、平口縁を基本とする。山形の口縁部突起をもつものが少量あり、頂部には沈線による刻目をもつもの(6)がみられる。C2類(図150-8)の中には、口縁部突起の頂部が緩く弧状に凹んで二股状になるものもみられる。文様構成は斉一的で、口縁部上端に地文

縄文の横位回転施文、わずかにくびれる頸部に無文帯、断続的な横位沈線による区画、区画下に横位平行沈線となる。口縁部内面には、1条の沈線がめぐるのが大多数を占め、沈線が施されないもの(10)は極めて少ない。断続的な横位沈線による区画部分は、沈線間が粘土粒の貼り付けによってわずかに高まるものが主体である(1・3～5・7・11～13)。粘土粒は、貼り付け後に沈線により圧着されるものがほとんどである。区画下の横位平行沈線は、2～4条を基本とし、中には縦位の短沈線が施されるもの(1・6)もある。無文帯以下の地文縄文は、横位回転施文(3・4・10)が少数で、斜位回転施文により縦走するものが主体を占める。1の底部付近には2条の横位沈線が施されており、図150-18の胴部下半から底部にかけての資料もこれに類する。

図150-14～17はC2b類、図151-5～7・9～11はC3類である。C2a類と同様、山形の口縁部突起を有する。ただし、C2a類と比較した場合、口縁部突起が施される率が高く、加えて突起の単位数も多いものと思われる。口縁部突起の頂部には、刺突をもつもの(図151-11)や頂部が緩く弧状に凹んで二股状になるもの(図150-15・図151-6・9・10)がある。口縁部は、C2a類とほぼ同様の文様構成だが、断続的な横位沈線による区画文を欠くもの(図150-14)もみられる。

C3類の矢羽根状及びこれに類する斜行沈線の多くは、上半にみられるものがほとんどで、下半は横位平行の多条沈線で構成されており、断片的な情報ではC2b類との区別が困難なものも多い。また、図151-1～4のような、胴部下半が横位平行沈線で台部が無文の台付鉢の出土が目立つが、胴部上半から口縁部にかけての資料が接合して復元個体となるものはなかった。胴部下半まで横位平行沈線が連続する点では、C2b類やC3類と判別できる資料と同様であるため、C2b類・C3類の大半は台付鉢と推測され、南部町剣吉荒町遺跡等に類例がみられる(青森県立郷土館1988、名川町教委1984)。深鉢形・鉢形土器には、上記の他にA1類(図151-12・13)、D7類(図151-14・15)があるが、極めて少ない。D7類は、変形工字文が施されるもので、口唇部に沈線がめぐり、15は、厚みのない小さな粘土粒の貼り付けがみられる。

浅鉢形土器(図151-16～25・図152-1～7)

浅鉢形土器はC7類を主体とし、B1類・B2類・C2類・C3類が出土した。B地点第IIa層の出土土器の中で占める割合は1割強で、この内、C7類は過半数を占める。B2類・C2類は赤色顔料が塗布されているものがほとんどである。

図151-16・17はB1類で、口縁部に弧状の袈りをもつ。いずれの資料も口縁部に3条の横位沈線が施される。口縁部上端に斜縄文、胴部に縦走縄文がみられる。

図151-18～20はB2類である。18は、横位沈線の施文後、一部上方から施文具を押し当てる手法がみられ、その後縄文が施文されている。19は、斜方向に大きく突き出す口縁部突起を有する。残存部位からの推測となるが、むつ市不備無遺跡1群土器第2段階に相当する三日月形の口縁部突起の可能性がある。図151-21・22はC2類、図151-23はC3類である。23は、斜行沈線が施されるもので、口唇部に沈線が施される。

図151-24・25・図152-1～5はC7類である。山形の口縁部突起をもつもの(図151-24・図152-1～4)と、弧状の袈りを伴う低い口縁部突起をもつもの(図151-25・図152-5)がある。口唇部には、沈線を施すものがほとんどである。厚みのない小さな粘土粒が貼り付けられるものが多い。胴部は、縄文施文のもの(図151-25・図152-5・7)と無文のもの(図151-24・図152-1・2)がある。

図 151-24 は、三角形状を基調としながらも、流水状に横位展開する文様が施文される。台付浅鉢の内面には円形の沈線文が施される(図 152-6)。C 7 類は、赤色顔料が塗布されるものも散見されるが、B 2 類・C 2 類ほど多くない。また、炭化物の付着が認められる資料は極めて少ない。図 152-5 は内外面に炭化物が付着しており、放射性炭素年代測定の結果、通常と異なる処理濃度のため参考値ではあるが、 $2,470 \pm 20\text{yrBP}$ の測定値が得られた(第 4 章第 1 節参照)。

壺形土器(図 152-8~11)

8 は、沈線文と縄文施文による入組文がみられる。9 は、口縁部内面に沈線が施され、赤色顔料が塗布されている。10 は、広口の短頸壺で、球胴の器形である。口頸部には穿孔がみられ、胴部上半にはボジの流水状工字文が施文される。11 は、変形工字文が施文され、文様帯幅が狭い。

Ⅶ群土器(図 152-12~27)

器種は深鉢形土器を主体とし、壺形土器、小型土器が少量出土した。

17・18 は A 類で、小波状口縁をもつ深鉢形土器である。12~16 は B 類の壺形土器で、完形個体としては球胴状の広口壺(13)がある。19~24 は B 類の深鉢形土器で、縦走縄文が多い。25~27 は小型土器である。

(最上)

石器

B 地点第 II a 層からは縄文時代晩期後葉の土器が出土しており、出土石器も当該期に帰属するものと考えられる。しかし、B 地点第 II a 層は上位が削平され、凹地に溜まっていた範囲のみを検出しただけである。その為、剥片石器類では石槍・石筥等の器種が欠落し、礫石器類に至っては 4 点しか出土していないなど、出土石器の器種組成には粗密があり、包含層本来の組成を示すものではない。以下に器種毎に記載していく。

石鏃(図 153-1~14)

37 点出土し、14 点を図化した。1・2 は無茎凹基鏃で、2 は黒曜石製である。3・9 は無茎尖基鏃で、3 は器体下半に、9 は基部周辺にアスファルトが付着している。4~8・10~14 は有茎鏃で、5・6・8・10・11 にはアスファルトが付着している。有茎鏃のアスファルト付着位置としては基部でとどまるのが一般的であるが、10 は器体中位の鏃身にアスファルトが付着している異質なものがある。また、13・14 は先端部が摩滅しており、鎌へ転用されたものと考えられる。13 は先端部が摩滅している。有茎鏃の形態では 4・7・8・11 など細長い印象を受けるものがある。これらの幅と長さの比は 0.3 未満となっており、このような比率を持つ有茎鏃は A 地点では出土していない。このことから、細長くなる形状の有茎鏃は晩期後葉の特徴といえる可能性もある。

両面調整石器(図 153-15・16)

3 点出土し、2 点を図化した。15 は基部側に主要剝離面のバルブが除去されずに残存していること、側縁が湾曲していることなどから、制作途中のものと捉え本器種に含めた。

石匙(図 153-17~22)

13 点出土し、6 点を図示した。17~19 を箆型、20~22 は斜型である。17・19・21 のつまみ部にはアスファルトが付着している。中でも、19・21 のアスファルト内には繊維状の痕跡が確認できる。ま

た、21・22は側縁縁辺に光沢が確認できる。

石錐 (図 153-23～26)

12点出土し、6点を図示した。23・24はつまみ部と比して錐部が長くなるⅠ類、25・26は錐部と比してつまみ部が長くなるⅡ類、27・28は棒状になるⅢ類である。23・24はつまみ部の器面にアスファルトが付着している。

スクレイパー (図 154-1～3)

側縁の1/2以上に連続する剥離が施されているものを本器種とした。16点出土し、3点を図示した。

微細剥離痕のある剥片 (図 154-4～9)

側縁の1/2以上に連続する微細剥離痕のあるものを本器種とした。150点出土し、6点を図示した。

打製石斧 (図 154-10・11)

2点出土し、2点共図示した。10は打製石斧とは言いにくい器形をしているが、側縁に潰れた痕跡があること、着柄可能な形状をしていることから本器種に含めた。11は楕型をしており、端部に潰れた痕跡がある。また器体下部の一部にはアスファルトが付着している。

その他

図示しなかったが、その他には石核、両極剥片、二次加工剥片、剥片などが出土している。

礫石器 (図 155-1～3)

4点出土し、3点を図示した。1は花崗閃緑岩を素材とした磨り石で器面の他に両側面も使用している。2は凝灰岩を素材とした敲き・磨り石で、器体には凹み痕、端部には磨り痕がある。3は安山岩を素材とした凹み石である。

(小山)

石製品

鎗鉤石 (図 155-4)

1点出土した。中央に鐮状の隆起部がめぐり、端部はやや丸みを帯びるが斧状である。緑色凝灰岩を素材とする。ほぼ全面が研磨調整され、一部に断面三角形の深い擦痕が観察される。鐮状の隆起部には敲打痕が残る。

円盤状石製品 (図 155-5・6)

5点出土し、2点図示した。径5cm前後、厚さ約1～2cmのものが出土している。素材としては安山岩、砂岩、凝灰岩がある。5は、全周縁に剥離加工が施されている。6は、元々ほぼ円形の扁平礫を素材としており、剥離と敲打による加工がわずかに施されるのみである。

(最上)

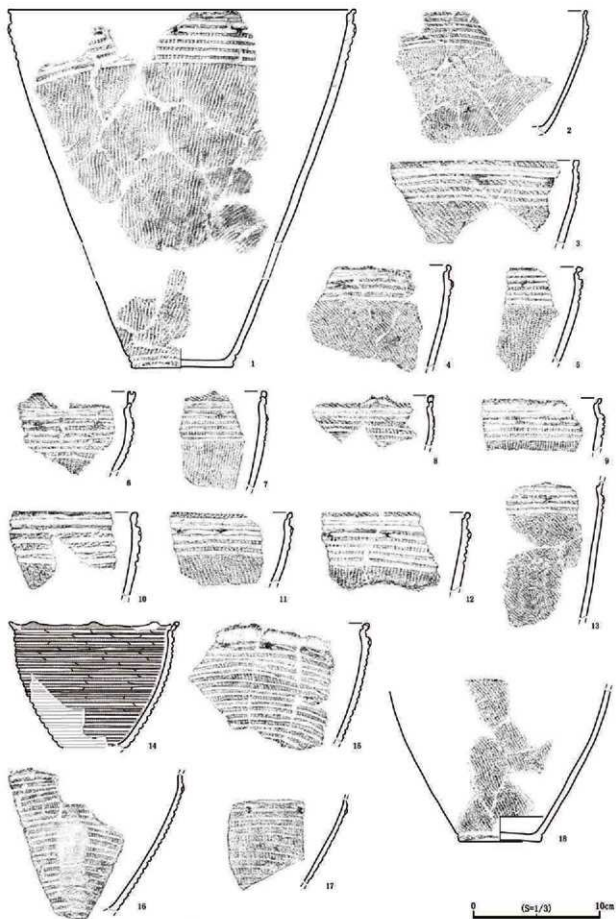


图150 B地点第II a层出土土器(1)

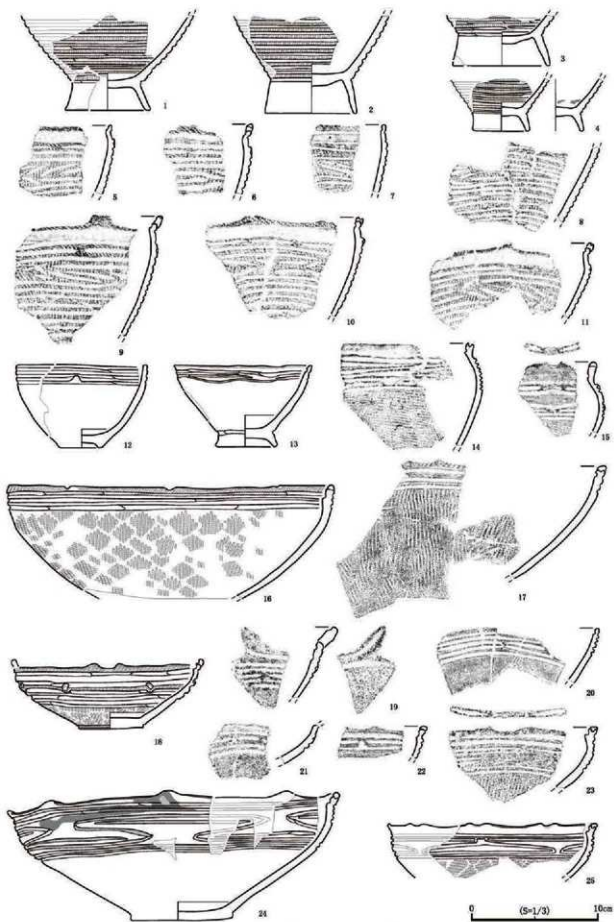


图151 B地点第Ⅱa層出土土器(2)

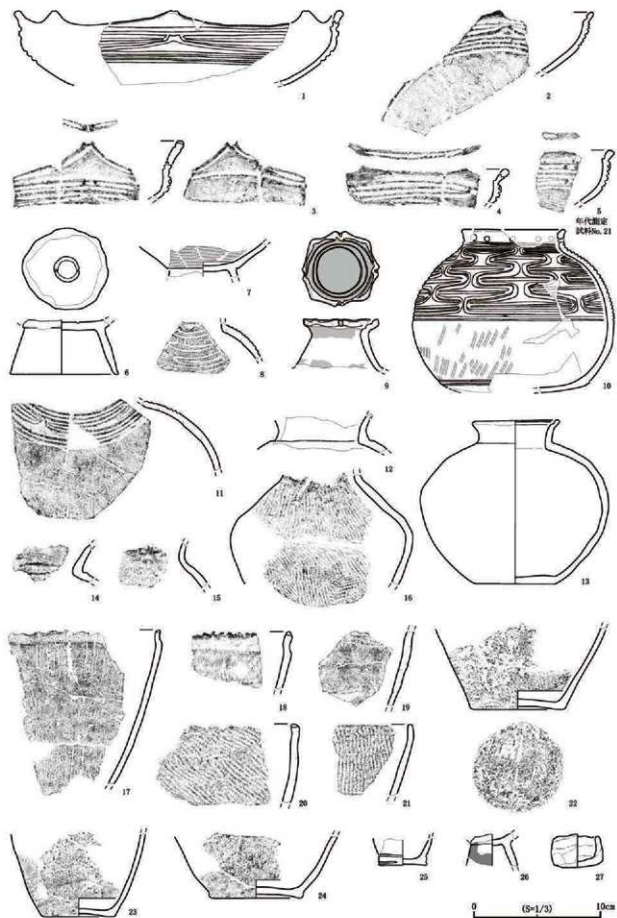


图152 B地点第Ⅱa層出土土器(3)

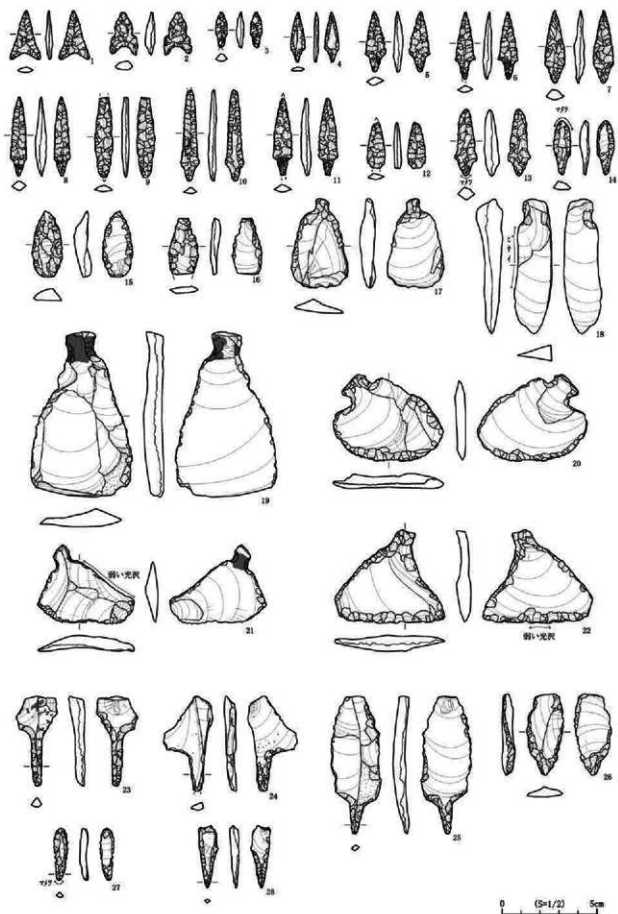


圖153 B地点第II a層出土石器(1)

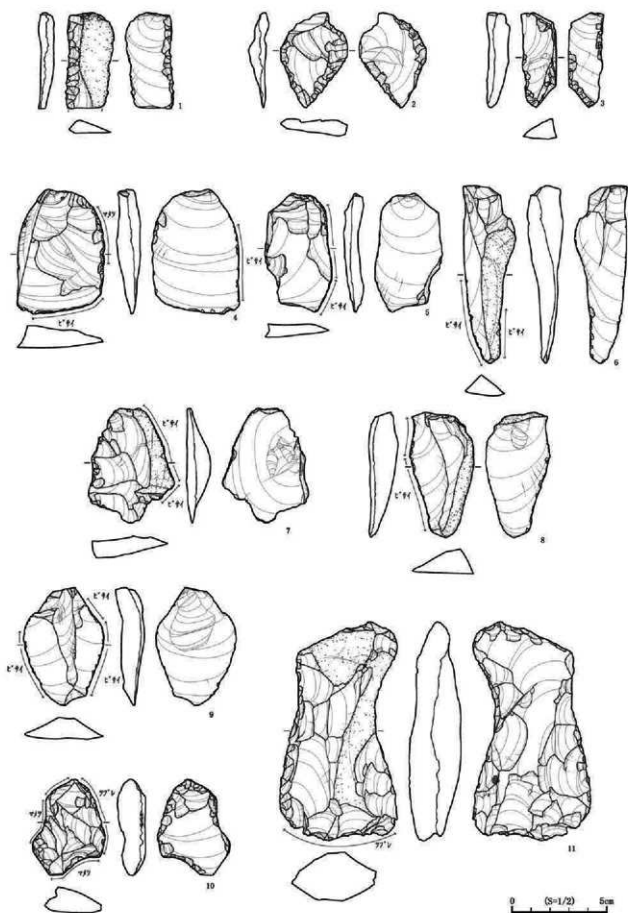


图154 B地点第II a層出土土器(2)

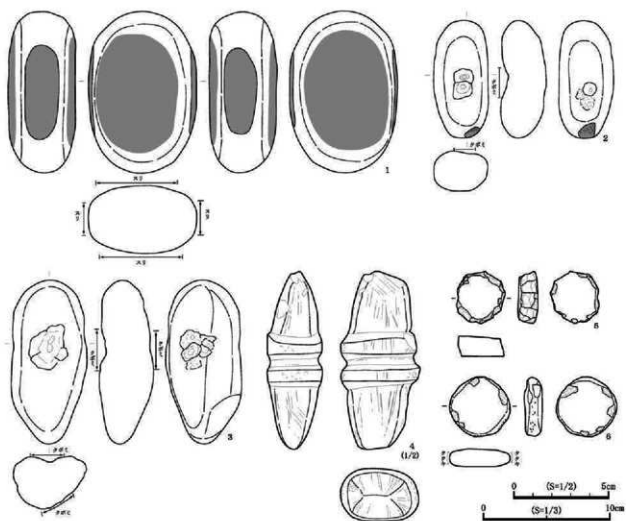


图155 B地点第Ⅱa層出土石器・石製品

3 その他遺構外出土遺物

出土遺物は、基本的に第Ⅰ層中からのものが主体を占める。遺物包含層である第Ⅱ層中からの出土量は相対的に少ないといえる。掲載遺物については、主に第Ⅱ層出土遺物を中心に選別したが、第Ⅰ層の出土遺物でも、各遺物の分類に応じて補完的に抽出した。

土器

本遺跡B区からは、縄文時代前期から晩期にかけての土器が出土した。縄文時代晩期の土器が主体を占め、縄文時代中期の土器も比較的多い。土器の接合状況については、同一グリッド内における第Ⅰ・Ⅱ層の接合関係が多く認められる一方で、異なるグリッド間での接合関係は比較的小なかった。

I群土器 (図156-1)

縄文時代前期後葉の円筒下層d1式に比定される破片資料である。調査区北側から1点出土した。口縁部形状は、先端部がわずかに外傾してやや尖る。口縁部文様帯は幅狭く、無節Lによる横位方向の側面圧痕が施される。胴部には単軸絡条体の縦位回転施文がみられる。内面は丁寧にミガキ調整され、胎土に繊維を含む。

II群土器 (図156-2～16・図157)

縄文時代中期中葉から中期後葉にかけての土器が出土し、A～I類に6類別した。縄文時代中期後葉のF類土器が主体である。調査区北側からの出土が目立つ。

図156-2・3はA類で、隆帯と刺突による文様施文がなされ、円筒上層c式に比定される一群である。口縁部文様帯は、上端に鋸歯状の隆帯、下部に横位・弧状の隆帯、隆帯間に刺突文の充填がみられる。刺突形状は角状(2)や弧状(3)がある。胎土に海綿状骨針を含むものが多い。

図156-4はB類で、地文縄文施文後に弧状の隆帯施文がなされ、円筒上層d式に比定される一群である。波状口縁に沿って鋸歯状の隆帯貼付、波頂部下に貼付がみられる。特筆されるのは、弧状隆帯の上端部に沿って一部沈線が認められる点である。沈線は、隆帯の剥落部分の観察からも隆帯の貼付前のものであることが明瞭で、文様要素の一つとみるよりは、下書きの意図が強いものと考えられる。概ねの属性要素から円筒上層d式の範疇で捉えられるが、一般の解釈として円筒上層d式の隆帯描画から円筒上層e式の沈線描画へと変化するとされる点で、当資料の沈線は留意すべき属性である。

図156-5はC類で、大木8a式に比定される土器である。調査区北側斜面から1点出土した。口縁部が内湾するキャリパー形の器形である。口縁部文様帯には突起がみられ、地文縄文の縦位回転施文後、幅狭の隆線文が施文される。頭部には隆線による波線文が施される。

図156-6～10はD類で、口縁部突起を中心に隆帯文、胴部に弧状を基調とする沈線文が施文される一群である。円筒上層e式に比定される。肥厚する口唇部には、斜行する側面圧痕や刻目等の文様が施文されるのが通例である(6・7・10)が、胴部の地文縄文が口唇部まで及ぶもの(8)や無文となるもの(9)もある。地文縄文は、横位回転施文が多い。

図156-11～15はE類で、D類と比較して口縁部のほぼ全体に隆帯がめぐるもの、また、隆沈線の場合、F類と比較して波頂部下の渦巻文の隆帯による描出が顕著なもの等を一括した。概ね覆椀1式(小保内2008)に相当する。口縁部に沿って隆帯がめぐる場合、隆帯が1条のもの(12)と2条のもの(11)とがあり、隆帯に沿って沈線を伴わないのが特徴である。11の口唇部には、D類に特徴的な斜位の刻

目が施される。波状口縁の資料(13~15)では、波頂部下に溝巻状の隆沈線がみられるが、いずれも陸帯貼り付け後の調整が弱いため、陸帯表現が目立つ。地文縄文は、横位回転施文が多いが、12は口縁部に横位、胴部に縦位回転施文がみられる。

図156-16・図157-1~12はF類で、肥厚する口唇部に凹線が施文され、椀林式に比定される一群である。多くが波状口縁で、波頂部下に溝巻文が施される。胴部は溝巻文を主体とし、弧状の沈線が施されるものも散見される。図156-16は、足の意匠突起を有し、口唇部に凹線文がみられる。突起部には、側面と上方からの穿孔が施される。図157-2の地文には、縄文ではなく縦位・横位方向の条痕が施される。地文縄文は、縦位回転施文がやや多く、横位回転施文もみられる。

図157-13はG類で、大木8b式に比定される。胴部が大きく膨らむ器形である。

図157-14~16はH類で、懸垂文を特徴とする最花式に比定される一群である。懸垂文には、逆U字状のもの(14・15)と端部に溝巻文をもつY字状のもの(16)とがある。

図157-17~19はI類で、概ね縄文時代中期後葉に位置づけられる粗製の一群である。本遺跡B区では、後期初頭から前葉にかけての土器も少量ながら出土しており、縄文時代後期前葉まで下る可能性があるものも含む。17には網目状懸垂文、19には単軸絡条体の縦位施文がみられる。

Ⅲ群土器(図158-1~10・13・14)

縄文時代後期の土器で、縄文時代後期中葉を除く各時期のものが出土したが、出土点数は少ない。

1はA類で、縄文時代後期初頭の牛ヶ沢(3)式に比定される。調査区北側から1点出土した。口縁部が大きく開きながら内湾気味に立ち上がる。口縁部は、陸帯により文様帯区画がなされ、波頂部下に橋状把手がみられる。陸帯と橋状把手には、円形刺突が施される。2・3はB類で、縄文時代後期前葉の十腰内1式に比定される。3は、入組波状文が施文される壺形土器である。4~10はC類である。縄文時代後期後葉の土器で、貼瘤と刻目を特徴とするC2類が多い。9は、人面付土器の口縁部破片である。13・14は、器形の特徴から縄文時代後期末葉から晩期初頭頃と思われる注口土器である。

Ⅳ群土器(図158-11・12・15~17)

縄文時代晩期初頭から前葉の土器である。調査区西端から少量出土した。11・12はA類で、大洞B1式に比定され、魚眼状三叉文の施文がみられる鉢形土器が出土している。15~17はB類で、大洞BC式に比定される。16は、内外面に赤色顔料が付着する注口土器である。

V群土器(図158-18~27・図159-1~25)

縄文時代晩期中葉の土器である。調査区西側を中心に出土した。器種は、鉢形土器(図158-18~27・図159-1~15)、浅鉢形土器・台付浅鉢(図159-16~25)等がみられる。

鉢形土器では、曲線的な胴部から口頭部が短く外反する器形と、直線的な胴部から口頭部で内傾気味に屈曲する器形がある。図158-18~23は、平行沈線間に上下交互の刺突列が施される。口縁部突起をもつものが多い。図158-24~27は、口縁部直下の平行沈線間ないし横位沈線内に刺突が施される。図159-1~7は刺突を伴わないもので、胴部突起が発達するものが含まれる。B類は、口唇部に刻目が施され、胴部突起に横位沈線の端部が掛かるもの(9・14)が含まれる。浅鉢形土器は、屈曲をもたずに緩やかに立ち上がる器形である。図159-17~20は半肉彫状の雲形文、図159-21は口縁部に横位沈線が施される。図159-22~24はB類である。図159-12は、土器付着炭化物の年代測定の結果、 $2,690 \pm 30 \text{yrBP}$ の測定値が得られた(第4章第1節参照)。

VI群土器 (図 159-26~32・図 160~163)

縄文時代晩期後葉から末葉の土器である。調査区北側を除くほぼ全域から出土している。

深鉢形・鉢形・台付鉢 (図 159-26~32・図 160・図 162-1~11)

深鉢形・鉢形・台付鉢はC 2a類・C 2b類・C 3類を主体とする。図 159-26~32はA 1類である。平口縁 (26・27・31) と小波状口縁 (29・30・32) がみられる。口縁部には、2~4条の横位沈線が施されのみであるが、地文には縄文 (26~30) と縦位の条痕 (31・32) がみられる。これらは、器形・文様その他属性要素が基本的に少なく、明確な時期比定が困難であり、縄文時代晩期中葉のものを含む可能性がある。28は、口唇部に細かな刻目をもつもので、口縁部の横位沈線部分に地文縄文が施されず、無文となる点で他と異なり、V群B類の可能性もある。図 160-1・2は、胴部突起をもつA 1類の鉢形土器である。1は口唇部に刻目が施され、胴部に磨消縄文による入組文が施される。

図 160-3~13はB 1類である。平口縁を主体とし、大型の突起をもつもの (6) や口唇部に刻目をもつもの (13) 等がある。口頸部は、無文地に横位沈線が施される。胴部は、地文縄文のみのものが多いが、入組工字文風ないし平行線的な工字文と思われる文様が施されるもの (7・11~13) もある。胴部には、2個一対を基本単位とする大ぶりの突起が施されるもの (3~10・12) が多く、眼鏡状付帯文 (11・13) もみられる。口縁部の内面には、沈線が施されるものが少量みられる。4は、土器付着炭化物の年代測定の結果、 $2,480 \pm 20$ yrBP の測定値が得られた (第4章第1節参照)。

図 160-14~18はB 2類、図 160-19~22はA 2類である。口縁部の内面には、沈線が施されないものが主体を占め、内面沈線の代わりに口唇部に沈線が施されるもの (18・21) がみられる。口縁部上端に地文縄文、頸部に無文帯を形成する点で、C 2類・C 3類と共通する。断続的な横位沈線による区画についても、C 2類・C 3類と共通する要素ではあるが、沈線間の粘土粒は厚みを有し、突出が目立つ傾向がある。胴部には、横位平行沈線と縦位の短沈線の組み合わせが比較的多用される (14・16・18)。また、B 2類・A 2類は、胎土に径3~5mm 前後の粗砂粒が多く混入する特徴がある。16は、土器付着炭化物の年代測定の結果、 $2,460 \pm 20$ yrBP の測定値が得られた (第4章第1節参照)。

図 160-23~32・図 161・図 162-1~11はC類で、VI群土器において最も出土量が多い。文様としては、2a類・2b類・3類・4類等がある。C類は平口縁を基本とするが、山形の口縁部突起をもつものが一定量ある。頂部に刻目が施されるものが多く、刺突をもつもの (図 161-15・26) も少数ある。文様構成は、B地点第IIa層出土土器と同様に齊一的で、口縁部上端に地文縄文、わずかにくびれる頸部に無文帯、断続的な横位沈線による区画、区画下に横位平行沈線や矢羽根状沈線文が施される。口縁部内面には、1条の沈線が施されるものがほとんどで、A 2類・B 2類と異なる。断続的な横位沈線の沈線間に付される粘土粒は、A 2類・B 2類と比較して厚みをもたず、わずかに高まるものが主体である。また、沈線間に粘土粒の貼り付けがなされないものもある (図 160-29・図 161-1・15~17・18・22・26・図 162-11)。口縁部上端の地文縄文は、横位回転施文を特徴とするのに対し、主に無文帯以下の地文縄文は横位回転施文が少数で、斜位回転施文により縦走するものが主体を占める。

図 160-23・27~32・図 161-1~4はC 2a類で、区画下の横位平行沈線は、2~4条を基本とする。図 161-10・11はC 2b類で、図 161-12・13のように底部付近まで横位平行沈線が連続するものと思われる。横位平行沈線を基調とする2a類・2b類の文様の中には、図 160-23・図 161-4・10・11等のように縦位の短沈線が施されるものもある。図 161-4は、土器付着炭化物の年代測定の結果、 $2,550$

±20yrBPの測定値が得られた(第4章第1節参照)。図161-14~27、図162-1~7・11は3類である。矢羽根状沈線文は上半部にみられ、下半部は横位平行の多条沈線で構成されるものがほとんどであるが、図161-26は下半部にもみられる。図162-11は、典型的な矢羽根条沈線ではなく、斜行沈線の方から一部三角形状にも見受けられるものである。図162-8~10はC4類である。斜行沈線等に一部曲線的な文様要素が加わることで、波状工字文風の文様となる。

浅鉢形土器(図162-12~30・図163-1~21)

浅鉢形土器はC7類を主体とし、B2類・C4類等が出土した。赤色顔料が塗布されているものが多く、特にB2類に顕著である。図162-12はA1類で、全面に赤色顔料が塗布されている。図162-13~26・図163-1・6~8はB類で、口縁部に大型の突起をもつもの(図162-16・20)、丸みを帯びた突起をもつもの(図162-22・23)等がある。図162-13はB1類で、横位沈線間に2個一対の粘土粒の貼り付けがみられる。図162-16~19は、胴部に磨消縄文がみられ、16・19のように工字文が施されるものがある。図162-20~25はB2類、図162-26はB3類で、幅広の沈線による文様施文がみられる。図162-27は胴部に流水状の工字文がみられる。図162-28~30は台付浅鉢で、台部に横位平行沈線、内面に円形の稜や沈線文が施される。図163-1はB4類で、変形四角文が施される。図163-6~8はB7類で、6・7は三角形の主文様と凸字状の副次的な文様が施される。

図163-2~5・9~19はC類で、口縁部突起をもつものが多い。頂部に短い刻目を施す山形のもの(5・10)や、弧状の挟りを伴う低い口縁部突起をもつもの(2・9・12・14・15)等がある。口唇部と口縁部内面には、各1条の沈線がめぐるものほとんどである。2はC4類で、変形四角文が施される。流水状の展開文様を充填するように、横位沈線と長方形の影去による凸字状の副次文がみられる。三角形を基調とする変形工字文が施されるC7類には、三角形頂部やその下部に、小さな粘土粒が貼り付けられるものがある(5・9・10・13・15)。胴部は、横定気味の縄文施文のものが多いが、無文のもの(17)もある。図163-19~21は同一個体で、他と異なり幅広の深い沈線の特徴とするものである。砂沢式の可能性も考えられるが、粘土粒の突出がさほど顕著ではなく、大河A'式の範疇から大きく逸脱するものではないものと思われる。

壺形土器(図163-22~29)

22は広口の壺形土器で、外面に漆状物質が付着している。24~28は、球胴状の壺形土器で、流水状工字文と連続刺突文が施文される。胎土には金雲母が含まれるものがある。26は、胴部が大きく張り出す壺形土器である。29は、口縁部に弧状の挟りを伴う低い突起をもち、口唇部と口縁部内面には沈線がめぐる。胴部上半には変形工字文が施文され、文様帯幅が狭い。

Ⅵ群土器(図164)

条痕のみをA類、地文縄文のみ、無文のものをB類とした。概ね縄文時代晩期に位置づけられる一群であるが、縄文時代後期後葉のものを含む可能性がある。図164-1~7はA類で、深鉢形土器に限定される。小波状口縁のものが主体である。6・7は平口縁で、口縁部が大きく内湾し、条痕は幅が広く浅い特徴をもつ。B類の深鉢形土器は、口縁部が短く外反するもの(図164-8・16)、口縁部が内湾気味に立ち上がるもの(図164-10)等がある。平口縁を主体とするが、小波状口縁(図164-9・16)もみられる。地文縄文は縦走縄文が多い。鉢形土器(図164-11・12)は、口唇部が平坦に調整されるものが多い。図164-17・18は小型土器である。(最上)

石器

遺構外からは剥片石器約 636 ke、礫石器約 202 ke が出土した。遺構外からは主に縄文時代中期～晩期までの土器が出土しており、当該期に帰属するものと考えられる。以下に器種毎の特徴について記載していく。

石鏃 (図 165-1～図 166-37)

I a 類 (無茎凹基鏃) は図 165-1～14。アスファルトは 1・4・6・9・11～13 に付着している。中でも 1・6・11 は器体両面の中央に付着しており、挟み込むように着柄したものと考えられる。

I b 類 (無茎平基鏃) は図 165-15～19。アスファルトは 15・19 に付着している。I c 類 (無茎尖基鏃) は図 165-20。I d 類 (無茎尖基鏃) は図 165-21～50。アスファルトは 21～28・31～33・43・48・50 に付着している。先端部が摩滅しているもの (37・50) は石鏃に転用されたものと考えられる。

II a 類 (有茎鏃で鏃身よりも基部が長いもの) は 166-1・2。いずれもアスファルトが付着している。A 地点からも出土していることから、縄文時代後期後葉から晩期に帰属する可能性がある。II b 類 (有茎鏃で基部よりも鏃身が長いもの) は図 165-51～56、図 166-3～34。本類は欠損しているものが多く、中でも図 165-51・52 は先端欠損部に彫形状剥離が認められる。図 166-3 は黒曜石製である。アスファルトは図 165-51・52・54～56、図 166-7・8・10～16・19～22・26～30・32～34 に付着している。B 地点 II a 層で出土した幅/長さの比が 0.3 以下になる鏃身の有茎鏃は図 165-54～56、図 166-21・29～34 で、これらの有茎鏃は形状から縄文時代晩期後葉に帰属する可能性もある。この中の図 162-34 は欠損した先端部が摩滅しており、石鏃に転用されたものと考えられる。

図 165-35 は欠損の度合いが大きく細分できなかったものである。図 166-36・37 は先端さ加工すれば製品となり得るものであり、製品一步前の段階にあると捉え未製品とした。

石槍 (図 166-38～40)

38・39 のように、両面の器面全体に剥離調整されている石槍は非常に少なく、本遺跡の中でもこの 2 点のみの出土である。なお、小型の石槍は分類基準上、両面調整石器に混在している可能性もあるが、それを踏まえても少ない出土量である。削平や攪乱の影響を強く受けている可能性もある。

両面調整石器 (図 166-41～43・図 167-1～16)

図 166-41～43・図 167-1～13 は、小型石槍ないしは石槍・石鏃の素材と考えられる I 類で、図 167-14～16 は石篋・打製石斧等の素材になり得る II 類とした。図 166-42～図 167-1 は小型石槍として捉えることもできる。

石篋 (図 167-17～168-13)

素材の端部から調整を施して刃部を形成しているものを石篋とした。形状としては楕円を基調としたもの (図 167-17・18・図 168 は 10 以外) と三角を基調としたもの (図 167-19～21・図 168-10) がある。楕円を基調としたもの中には器面中央に光沢が付着するもの (図 167-17)、器面上半の一部にアスファルトが付着しているもの (図 168-1・2)、器体上半の側縁が摩滅するもの (図 168-12) があり、これらの痕跡はいずれも着柄に関連するものと考えられる。一方、三角を基調としたものの中にも装着痕と考えられる痕跡を示すものもある。図 167-21 はアスファルトによる変色範囲が器面上半に広がっており、装着痕と考えられる。一方、図 168-10 の刃部縁には光沢が確認でき、付着部位から使用に伴う光沢と考えられる。

石匙 (図 168-14~16・図 169~図 172-6)

I 類 (縦型) : 図 168-14~図 170-1。

図 168-14 は主要剥離面の側縁に打面調整用の連続した剥離が施されている松原型石匙とも言われているもので、早期中葉から前期前葉までの間に特徴的に見られる石器である。その他の I 類はつまみを作出しただけで、素材の側縁をそのまま使用しているものが多く、粗雑な作りであるとの印象を受ける。特に、図 169-5・9 はつまみと言うよりも側縁の一部に抉りを施しただけのものであるが、この部位にアスファルトが付着していることから、製品として機能していたものと考えられる。これらの存在から、側縁の一部に側面から剥離調整が施され、抉り状の湾曲が認められるものに関しては積極的に石匙と認定した。また、光沢が付着しているものも多いため、特に剥離調整を施さなくても石器として機能したものと見える。アスファルトは図 168-15、図 169-1~5・7・9~12 に付着している。つまみ部に付着するのが一般的で、図 169-2・4・5・7・9・12 はアスファルトの内部に繊維状の痕跡も確認できる。なお、図 169-12 だけはつまみ部でなく側縁に付着しており、掻き取り具として使用された可能性もある。光沢は図 169-1・2・4・7・10・13・15 で側縁縁辺に確認された。図 169-7 は欠損部縁辺にも光沢が付着しており、欠損後も使用されたものと考えられる。

II 類 (斜型) 図 170-2~6。

I 類と比して周縁に調整が施されているものが増えるが、図 170-3 は抉りが施されただけのものである。つまみ部にアスファルトが付着し、その内部には繊維状の痕跡が確認できる。他には図 170-4・5 に付着している。図 170-4 は側縁に刃部が作出されており、その縁辺は摩滅している。

III 類 (横型) : は図 170-7~図 172-4。

I 類・II 類に比して周縁に調整剥離が施されているものが多く、つまみ部にも調整が行われているものが多い。特に図 171-2~5 などは直線的に伸びるつまみが作り出されている。アスファルトは図 170-9・10・13・図 171-2・4・5・7~10・図 172-2・3 に付着している。図 172-3 だけはつまみ部ではなく、器面に付着しており、掻き取り具として使用された可能性もある。光沢は図 170-10・12・図 171-9 の刃部縁辺に付着している。

その他 : 図 172-5・6 はつまみないしは抉りが施されているものの、側縁に微細剥離等の使用痕跡が確認できないことから未製品とした。図 172-6 は黒曜石製である。

石錐 (図 172-7~図 173-14)

錐部の長さがつまみ部と同じかそれよりも長いものを I 類とした (図 172-7~図 173-3)。つまみ部にアスファルト (図 172-16) や光沢が付着しているものがある (図 172-15)。錐部の長さがつまみ部よりも短いものを II 類とした (図 173-4~13)。図 173-7・10・13 はつまみ部にアスファルトが付着している。I 類の例と照らし合わせると石錐も何かに装着されていたか紐状のものが巻かれていた可能性もある。棒状のものを III 類とした (図 173-14・15)。また、図 173-16~18 は破損品で細分できなかったものである。

異形石器 (図 173-19・20) いずれも基部は 5 又状に分岐している。

スクレイパー (図 173-21~図 175-2)

図 174-1・2 は押し剥離により半円状に整形されており、1 に関しては弧頂部に抉りが施されている。アスファルトは図 174-2・3・5・7・8 に付着している。2・5・8 は器体内面にまでアスフ

アルトが及んでおり、掻き取り具として使用された可能性もある。3・7に関しては縁辺にしか付着しておらず装着によるものなのか・使用によるものなのかは判断できない。光沢は図174-5の側縁縁辺に、14の器体内面に付着している。

微細剥離痕のある剥片（図175-3～図176-8）

図175-4・7・13には器体上部にアスファルトが付着しており、かつ、7・13は側縁に微細剥離と共に光沢も見られる。これらのことから、石匙1類と同様の機能ないしは使用法をされた可能性もある。光沢は他にも図175-5・8・10・図176-4・5・8に付着している。

二次加工剥片（図176-9～11）

約65kg出土しており、後述する石核・剥片類に次いで多い出土量である。

石核（図176-12～図178-1）

剥片と合わせると約500kgの出土であり、本遺跡の中で最も多く出土しているものである。原礫を採取できる場所が近くにあったと推測できる。そのため、打割の仕方も雑で数枚程度の剥片を採取しただけで終わっているものが多い。図178-1は船底状ないしは三角柱状をしている。石核に分類したが、石器を作る際の素材であった可能性もある。

両極技法の用いられた石器

石核の中でも両極技法により剥片が採取されているものを両極石核（図178-2・3）とした。また、剥片に両極打撃痕のあるものを挟み撃ち痕のある剥片（図178-4・5）、両極技法により打割された剥片を両極剥片（図178-6・7）、同じ両極技法が用いられているものでも長方形・方形を呈し、上下に階段状剥離があるものについては、楔形石器（図178-8～10）とした。

打製石斧（図178-11～図179-4）

図178-14は小型であるが、側縁及び刃部に潰れが見られることから本器種に含めた。

トランシェ様石器（図179-5～7）

縄文時代早期中葉～前期前葉に特徴的な石器で、本遺跡E区で主体的に出土している石器である（青森県教委2014 第534集）。

磨製石斧（図179-8・9）

破損品を含めて10点しか出土しておらず、非常に少ない出土量である。擦切痕のあるものは出土しておらず、図示した2点のように敲打・磨り調整により整形されている。

敲き石（図180-1・2）

図180-1は珪質頁岩製のハンマー、2は素材の端部を使用しているものである。

凹み石（図180-3～8）

径が1cm以上のものを凹み痕、1cm未満のものを小凹み痕とした。これらは、混在しているものが多く、特に図180-7は凹み痕の周辺に小凹み痕が密集している。

敲き・磨り石（図180-9～図182-1）

図180-9・181-1・3～5は器面に凹み痕と磨り痕が併存するものである。中でも、図180-3は礫面の凹凸に赤色物質が付着しているが、その程度は弱い。図181-2・6～9は、器面に凹み痕、側面に磨り痕が見られるものである。図182-1は器面正面に階段状に面取りされた磨り痕と敲打痕が混在し、裏面には擦痕が全面に見られる特異なもので、縄文時代以外の可能性もある。

磨り石 (図 182-2～183-5)

図 182-2 は素材の端部を、図 182-3～6・図 183-2 は器面及び側縁が使用されているものである。図 183-3 は全面が使用されており、磨り面が多面体をなしている。図 183-1・4・5 は側縁のみが、使用されているものであるが、4・5 は側縁に剥離加工が施された後に磨られている。

北海道式石冠 (図 183-6・図 184-1)

器面に帯状の敲打整形痕が認められ、側縁が磨られているものを本器種とした。

礫器 (図 184-2)

周縁に剥離調整が施され、端部の稜に潰れた痕跡があるものを本器種とした。

加工礫 (図 184-3～5)

剥離加工等の加工が施されているにも関わらず、使用痕跡がないものを本器種とした。図 184-3・4 は周縁に剥離加工が、5 は器面全面に敲打痕が認められる。5 は石棒の未製品と捉えられる。

石錘 (図 184-6～185-6)

図 184-6～図 185-1 はⅠ類とした通常石錘である。いずれも短軸上の側縁に抉りが施されている。図 185-2～6 は他器種からの転用品である。図 185-2 は凹み石、3～5 は敲き・磨り石、6 は磨り石からの転用品である。2 は両面から凹みが施されることにより貫通孔がある。

台石・石皿類 (図 185-7～図 186-7)

図 185-7 は石皿、図 185-8～図 186-7 は台石である。図 186-2 は凝灰岩を素材としているもので、側面を擦って整形しているものである。図 186-4～7 は赤色顔料が付着している。中でも6 は破損しているが、破断面にも赤色顔料が付着していることから、破損後も使用したものと考えられる。

砥石 (図 186-8～10)

いずれも頁岩を素材としている。9・10 は方形ないしは長方形に整形されており、縄文時代以外のものである可能性が高い。(小山)

土製品**土偶** (図 187-1・2)

2点出土した。1は、B地点付近から出土した中空土偶で、頭部と脚部を欠損し、背面側は剥落が著しい。突起により胸と臍、沈線により正中線と肋骨状の表現がなされる。腰部は横位方向に平行沈線がめぐる。外面には赤色顔料が塗布されている。2は、中実土偶で芯棒痕がみられる。正面には刺突文が施される。

土器片加工円盤 (図 187-3～6)

4点出土した。全てⅦ群土器の破片を加工したものと考えられ、器面の文様は地文縄文である。

環状土製品・有孔土製品 (図 187-7・8)

環状土製品は1点出土した(7)。径約2cmの円環状を呈する。有孔土製品は1点出土した(8)。断面形は半円状で、平坦な面の中央部に径4mmの非貫通孔がみられる。全面に赤色顔料が塗布される。

蓋形土製品 (図 187-9)

1点出土した。横位と縦位の区画隆帯を有し、区画内は幅広の沈線により流水工字文が施文される。

不明土製品 (図 187-10)

1 点出土した。欠損品のため全体像は不明だが、円盤状の土台に三つ股状の隆帯が施される。

石製品**線刻礫 (図 187-11~13)**

3 点出土した。いずれも調査区北西側から出土した。全て凝灰岩を素材とする。11 は、欠損品のため全体形状は不明だが、弧状の部分が残存する。線刻は、概ね形状に沿った形で、正面と弧の外縁部分に施される。12 は、三角形の扁平礫を素材とし、一端部に敲打痕がみられる。線刻は両面に施されるが、三角形の頂部寄りに集中し、中央部付近にはほとんど認められない。ただし、線刻は非常に浅く、ほぼ全面にみられる研磨調整の痕跡との区別が困難である。13 は、球状の礫を素材とし、縦・横位を基調とする線刻や、一部に弧状ないし円形状の線刻が施される。

独鈷石 (図 187-14・15)

2 点出土した。いずれも調査区北西側の沢において、同一グリッド、同一層位から出土した。14 は、錐状の隆起部がめぐり、先端部はやや丸みを帯びて先細りとなる。全面に敲打痕がみられ、一部に研磨調整と思われる擦痕が認められる。砂岩を素材とする。15 は、剥離後の敲打によって抉り部が作出されたもので、未成品の可能性が考えられる。凝灰岩を素材とする。14・15 は、いずれも抉り部付近で欠損しているが、15 は欠損後の剥離が一部に認められる。

石棒類 (図 188-1~6)

9 点出土し、6 点図示した。素材は粘板岩を主体とし、片岩、緑色岩がある。全て欠損品であるが、内 2 点 (1・2) は川原平(1)遺跡から出土したものと遠距離接合している (図 133)。ほとんどが調査区西側から出土している。2・3 は、刻線が施されることで頭部が作出され、柏子所型石棒 (後藤 1986) に相当するものと思われる。4・6 は片側側縁に稜をもつ。5 は、上端部付近で片側側縁が一部平坦となる他は、両側側縁に稜をもつ。いずれもほぼ全面の研磨が顕著であるが、上端部や側面等に敲打痕が残るものがある (2・3・5・6)。

円盤状石製品 (図 188-7~14)

182 点出土し、8 点図示した。素材としては凝灰岩、安山岩が半数以上を占め、他に砂岩、頁岩、花崗閃緑岩、閃緑岩等がある。径は 5~8 cm が主体である。他に、小さくて径 3 cm 前後、大きくて径 10 cm 前後のものが少数ある。厚さは 2~3 cm が多い。周縁に剥離及び敲打痕をもつもの (7~10) と、剥離のみのもの (11~14) があり、数量的には後者がやや多い。本遺跡における円盤状石製品の全体的な傾向として、剥離のみのものの中には、敲打痕をもつものと比較して、厚さ 2 cm 未満の薄手のものが一定量含まれる。敲打痕は、剥離後のものが多数を占めるが、剥離以前のもの (8) もわずかに認められる。黒色物質は、片面の中央部付近に付着するもの (7~9) が多いが、10 は縁辺に付着する。剥離のみのものは、断面形が長方形ないし台形状で、周縁の剥離に両極剥離が散見される (10~12)。

環状石製品 (図 188-17・18)

2 点出土した。17 は、第 5 号壑穴住居跡付近の北側斜面で出土し、同住居跡出土の環状土製品 (図 24-6) と形状・大きさ等が類似する。側面は幅狭に面取りされる。穿孔は両面穿孔である。18 は側面に刻目が施され、穿孔は両面穿孔である。

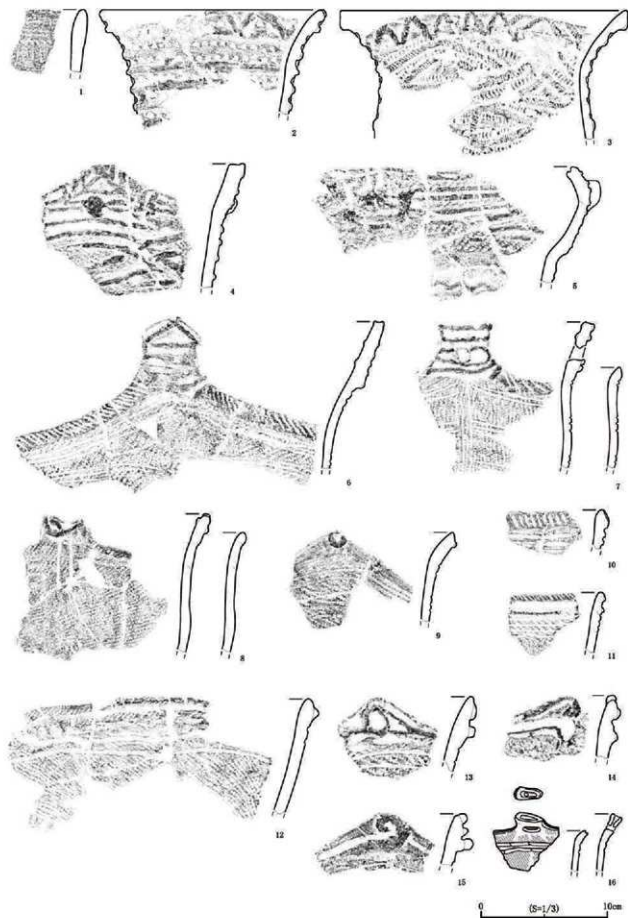


图156 遺構外出土土器(1)

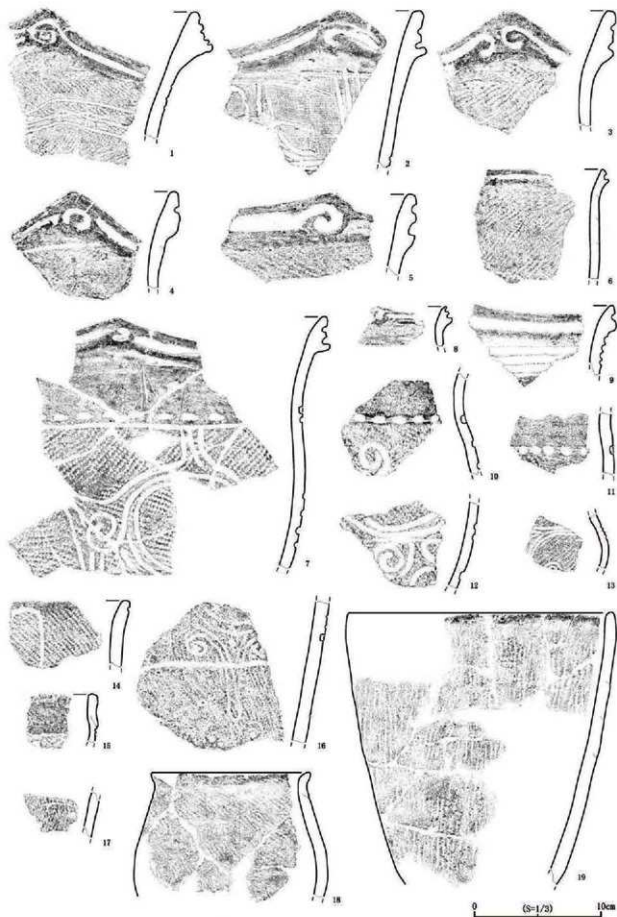


図157 遺構外出土土器(2)

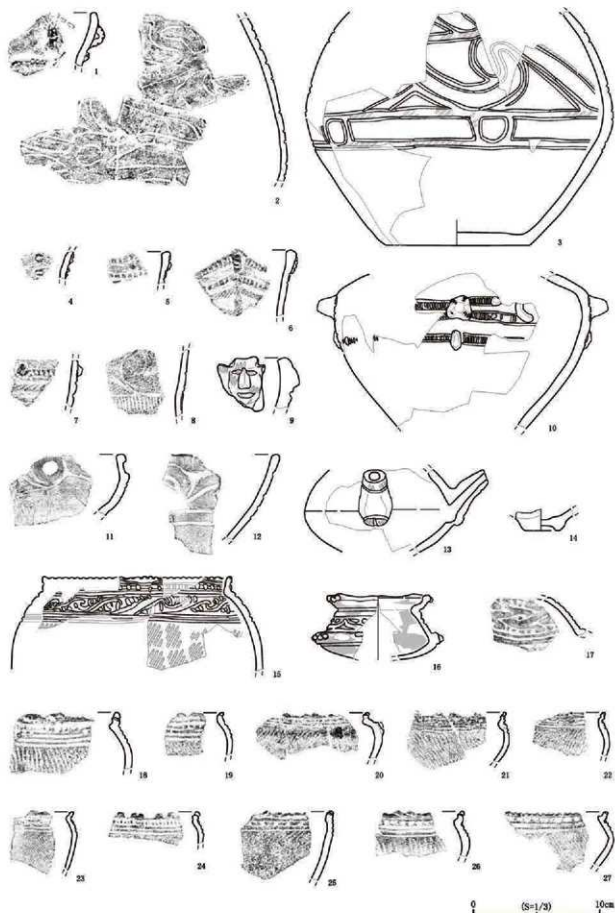


图158 遺構外出土土器(3)

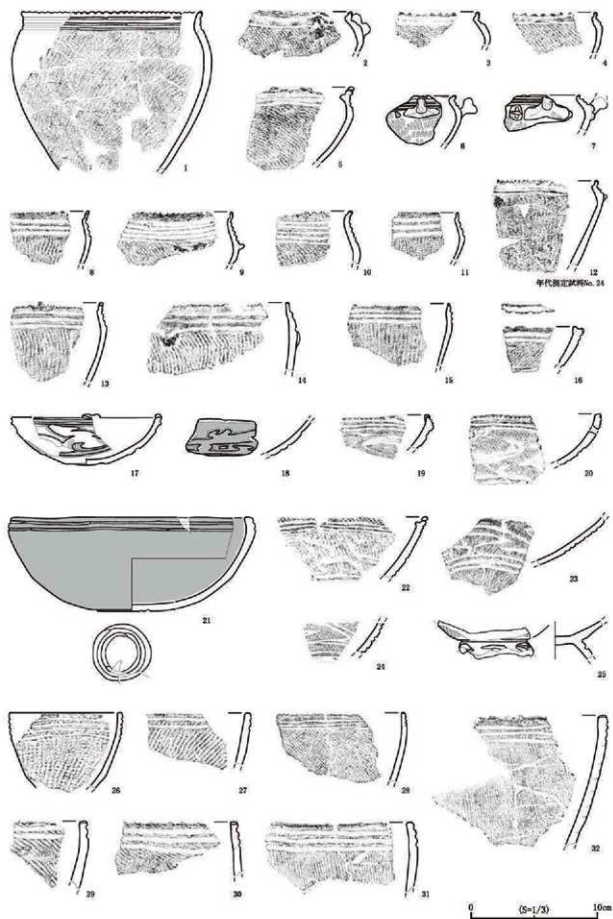


图159 遺構外出土土器(4)

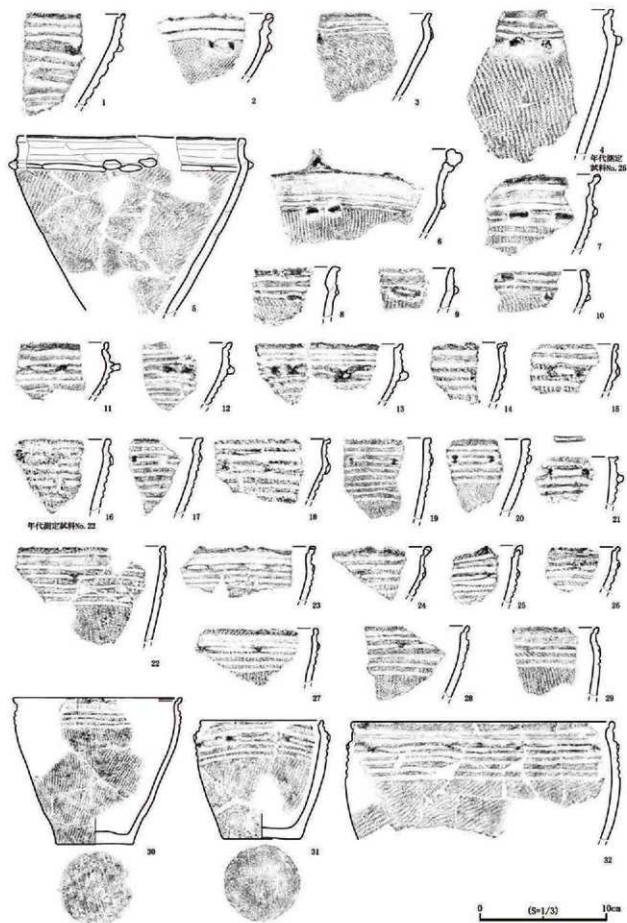


図160 遺構外出土土器(5)

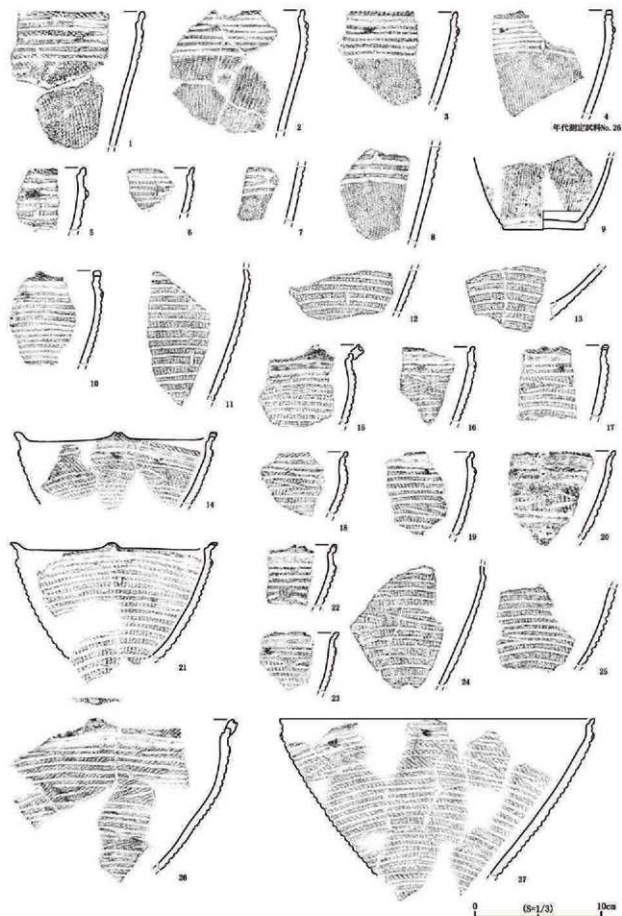


図161 遺構外出土土器（6）

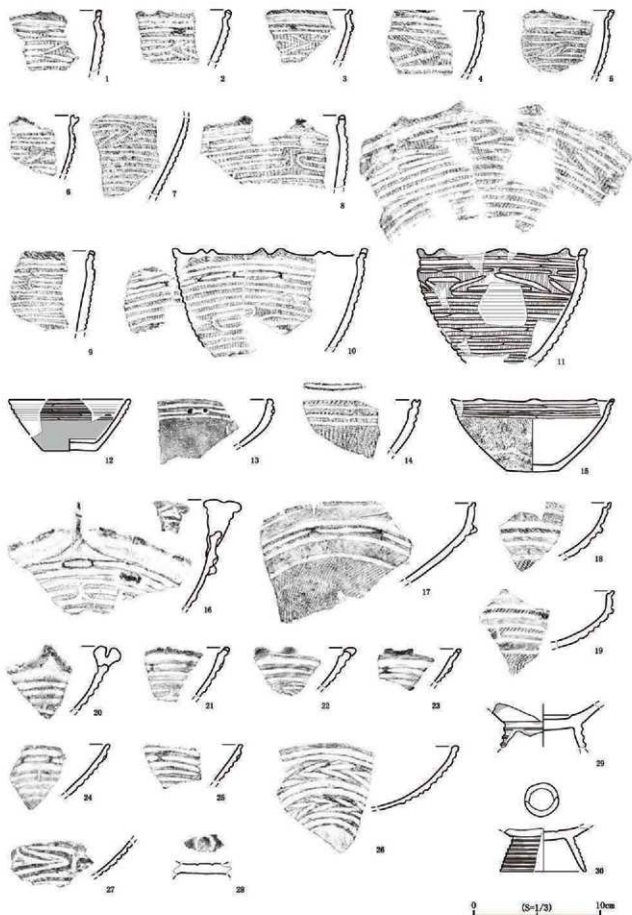


图162 遺構外出土土器(7)



図163 遺構外出土土器(8)

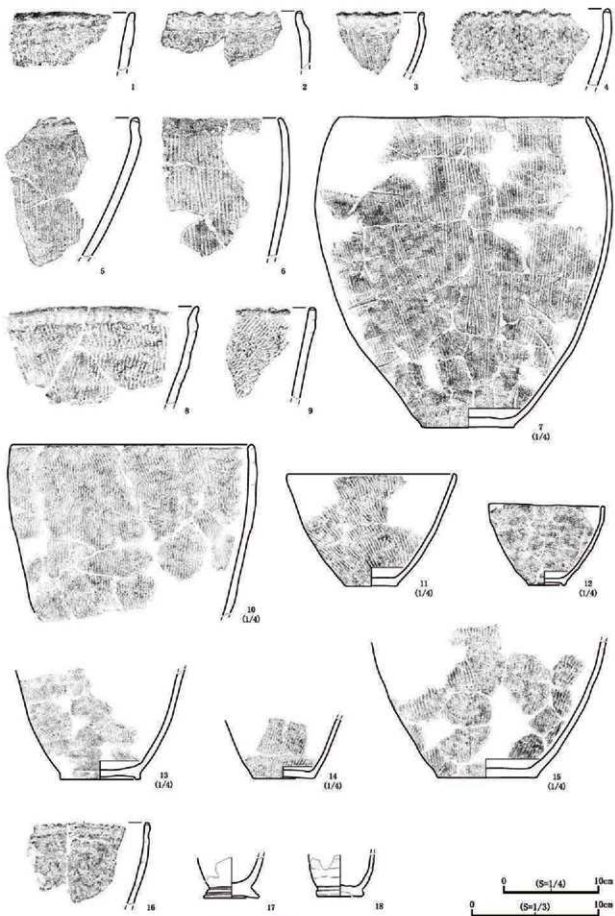


图164 遺構外出土土器(9)

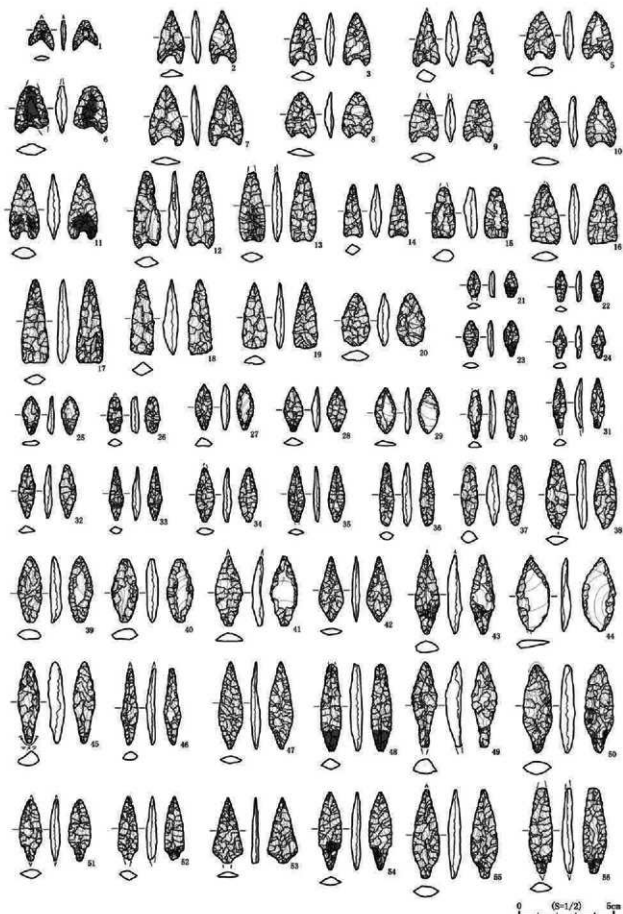


図165 遠構外出土石器(1)

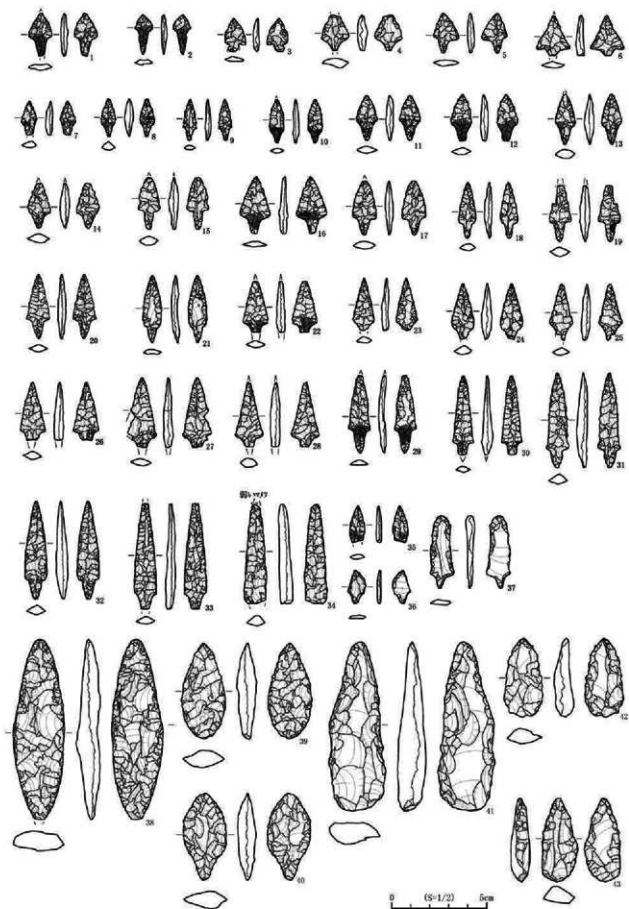


图166 遺構外出土石器(2)

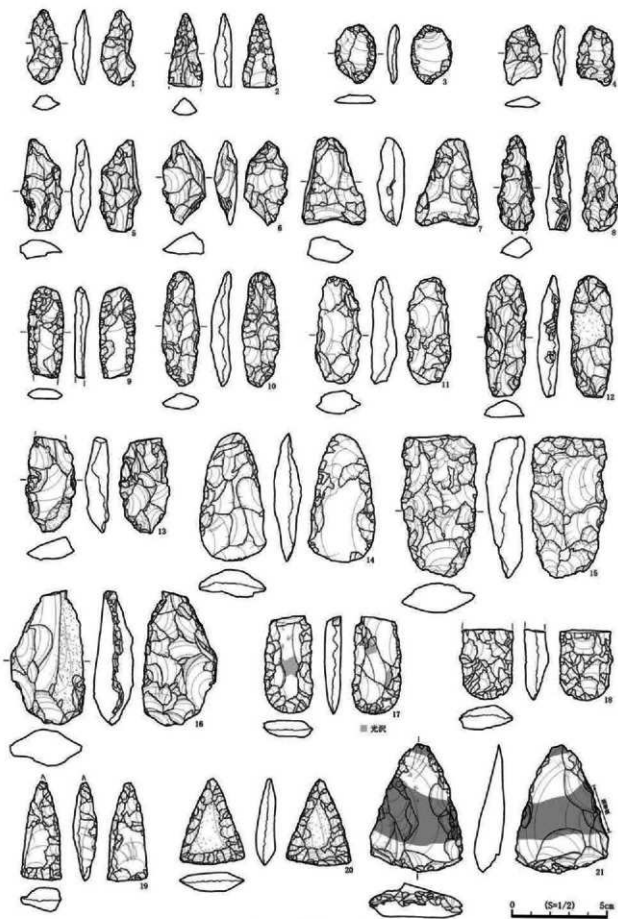


圖167 遺構外出土石器(3)

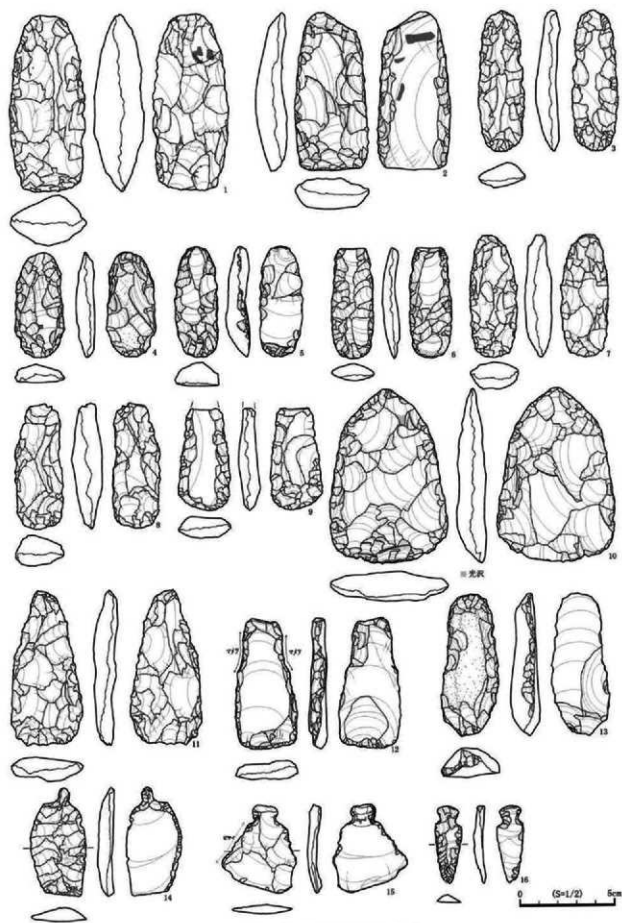


图168 遺構外出土石器(4)

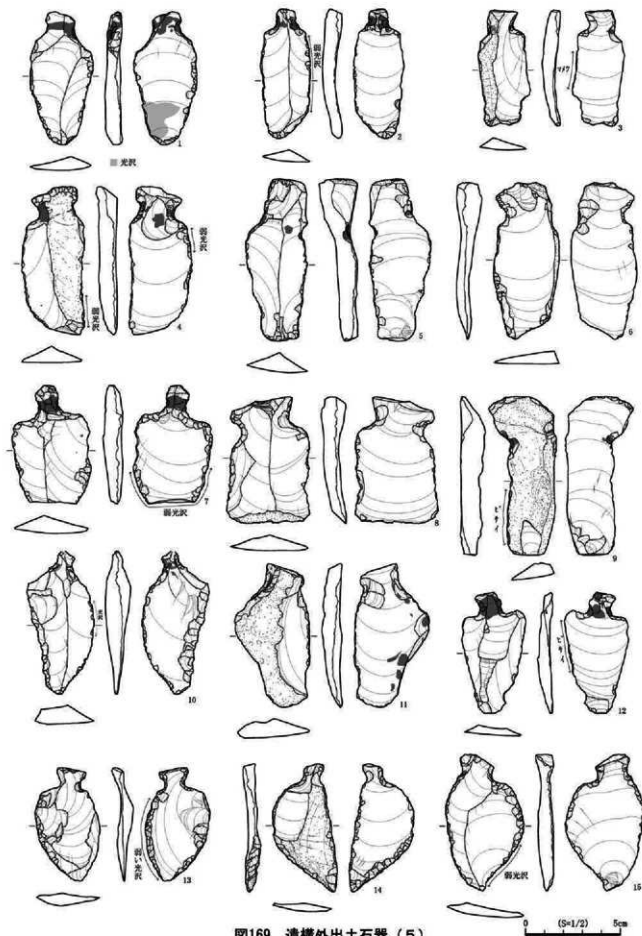


図169 遺構外出土石器 (5)

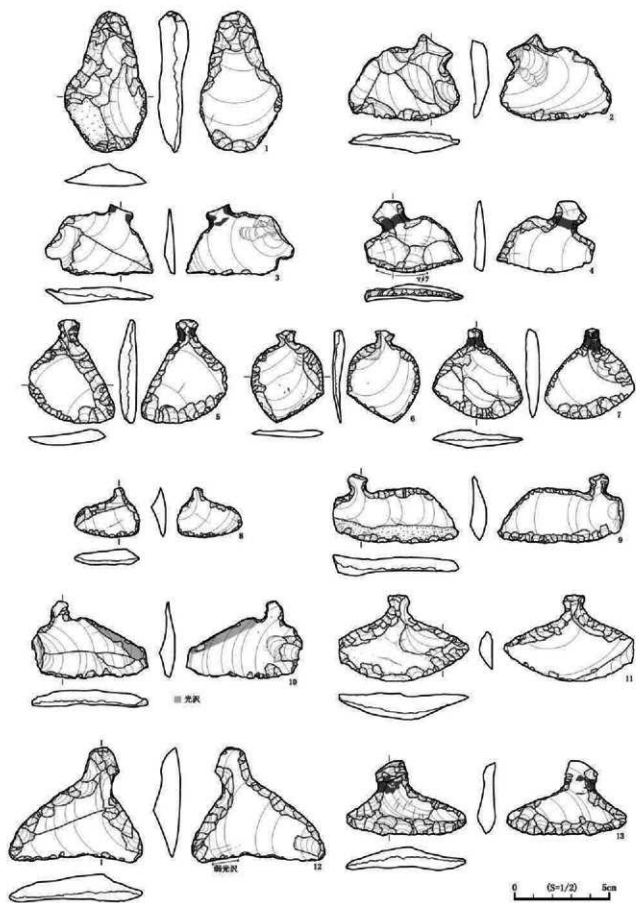


図170 遺構外出土石器(6)

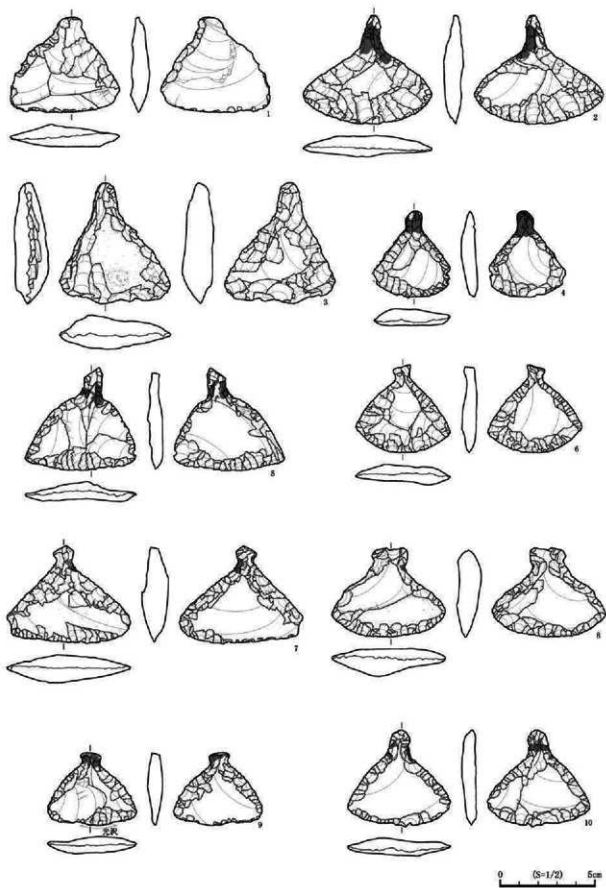


图171 遺構外出土石器（7）

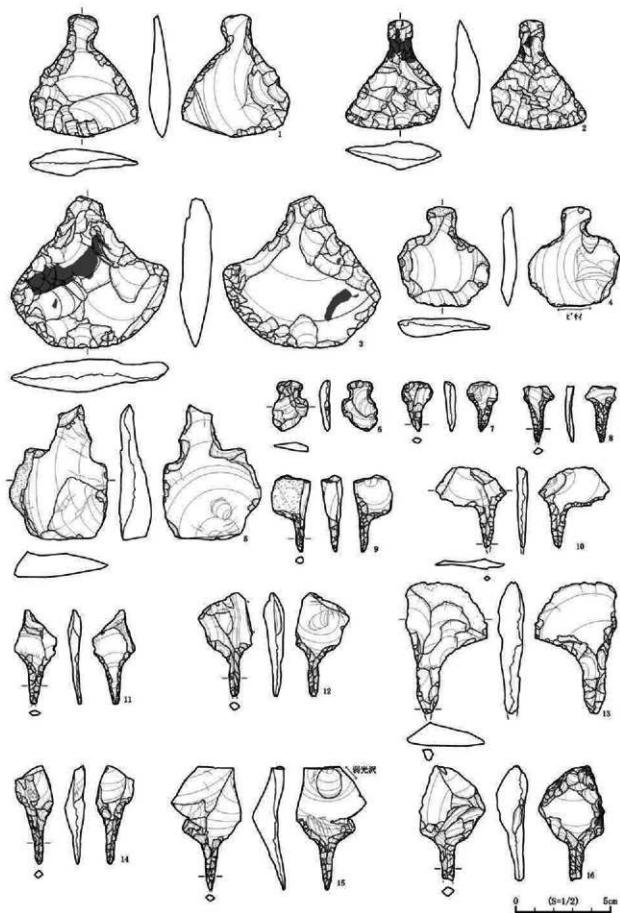


图172 遺構外出土石器(8)

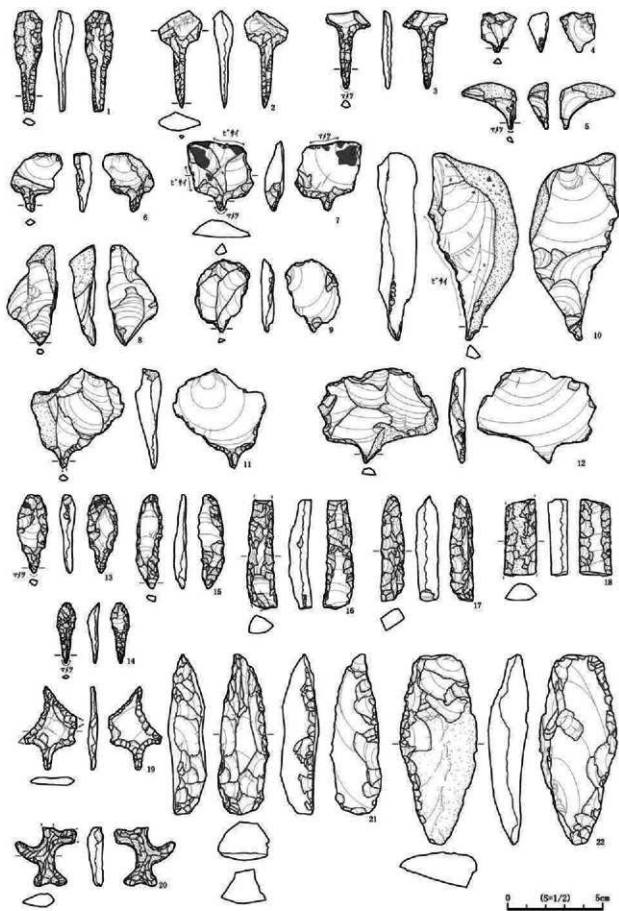


図173 遺構外出土石器 (9)

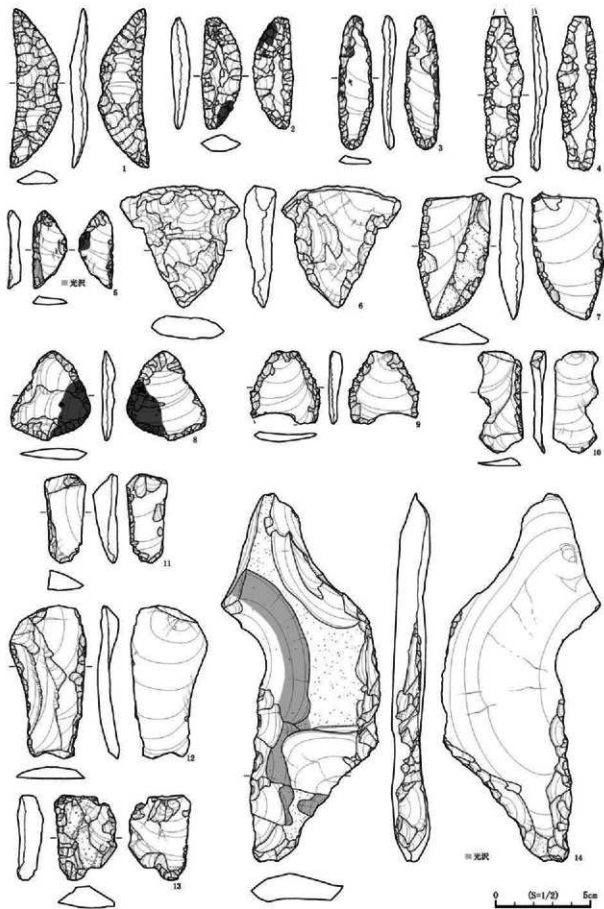


图174 遺構外出土石器 (10)

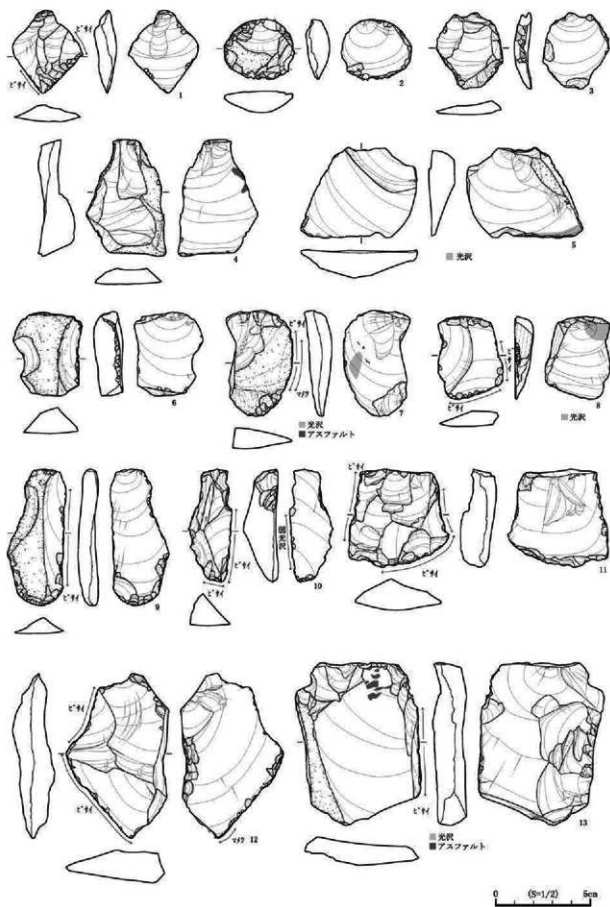


図175 遺構外出土石器 (11)

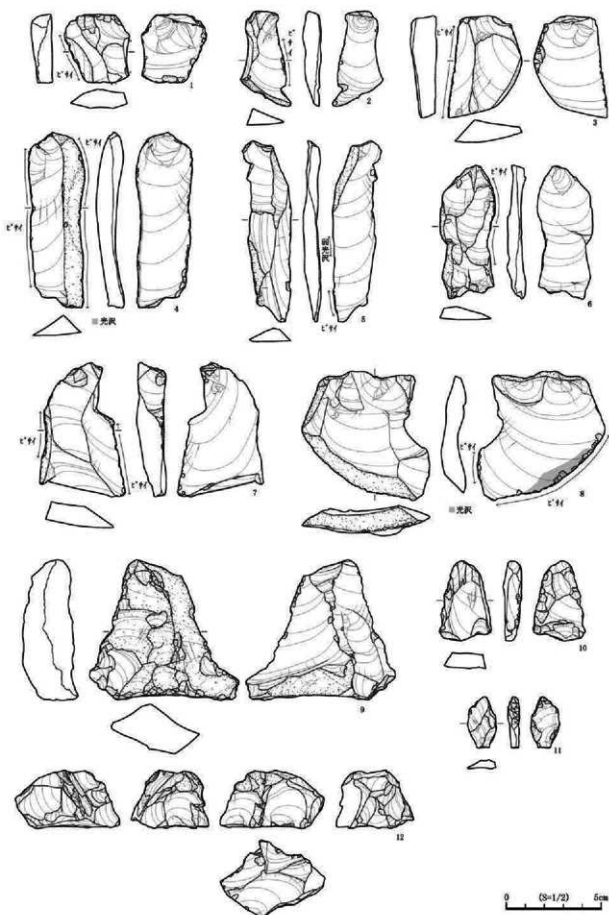


図176 遺構外出土石器 (12)

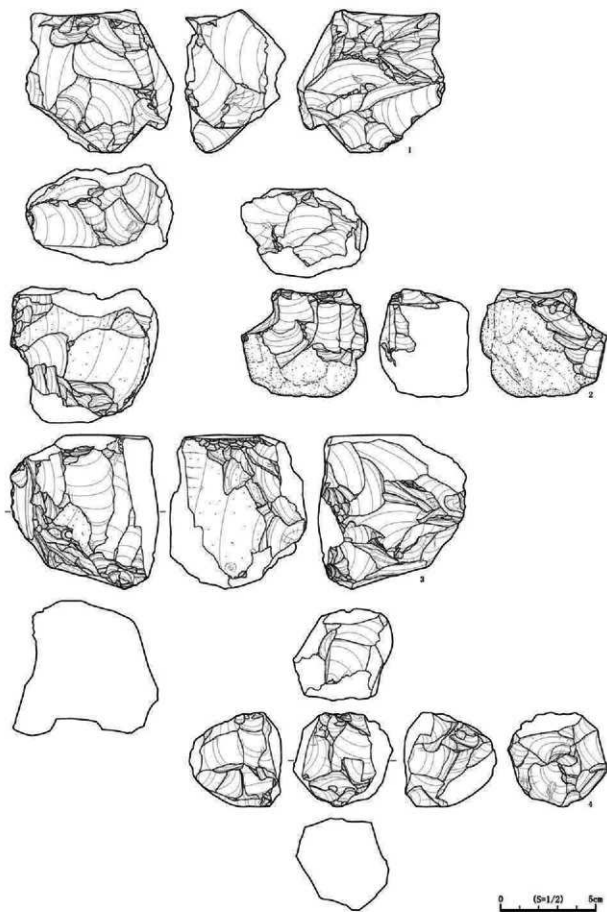


图177 遺構外出土石器 (13)

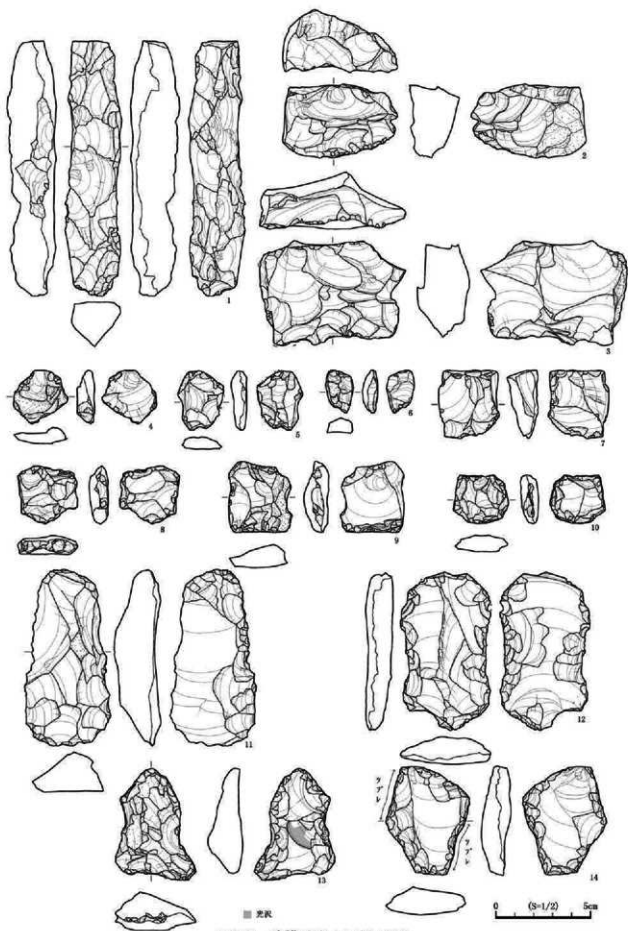


図178 遺構外出土石器 (14)

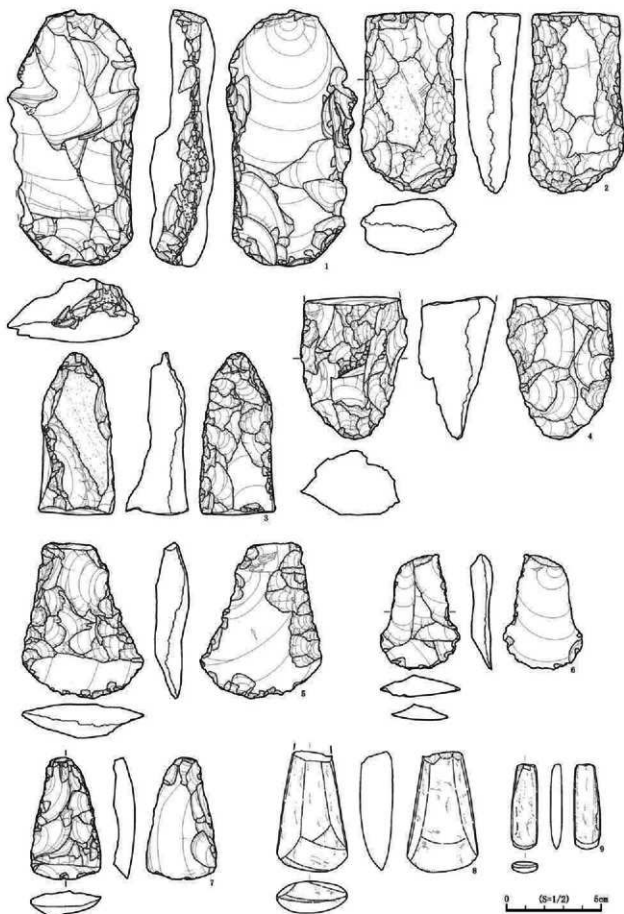


図179 遺構外出土石器 (15)

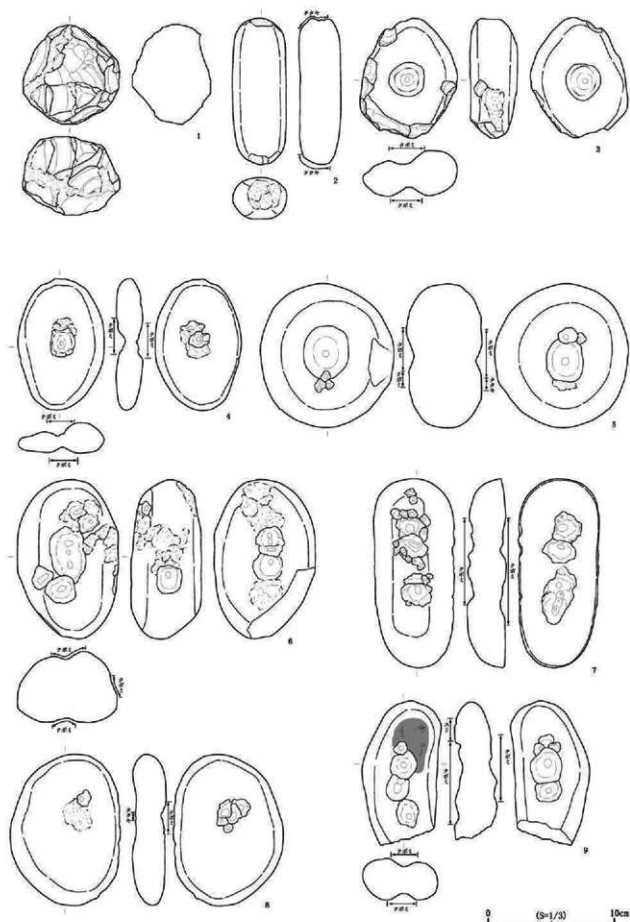


图180 遺構外出土石器 (16)

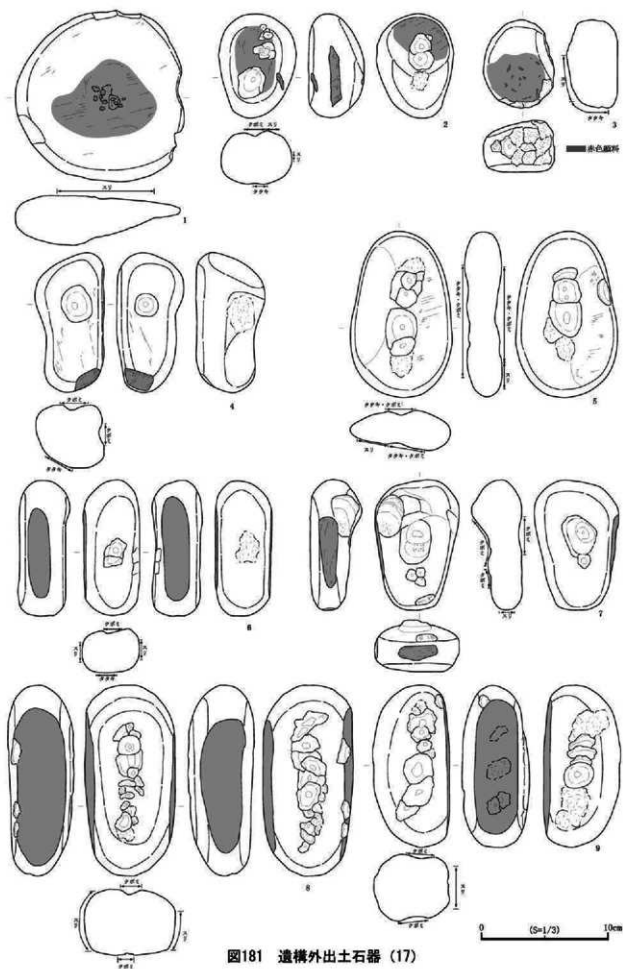


図181 遺構外出土石器 (17)

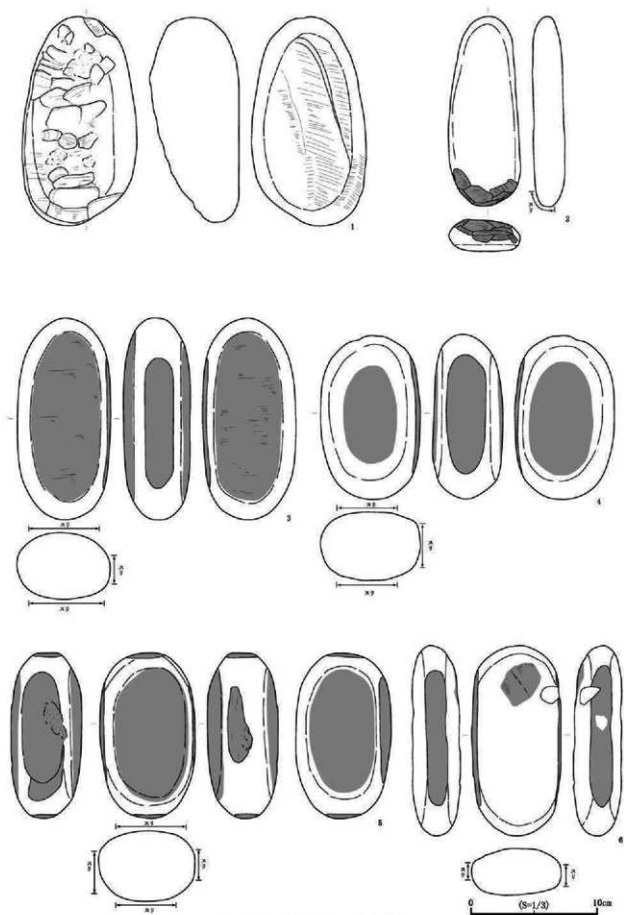


图182 遺構外出土石器 (18)

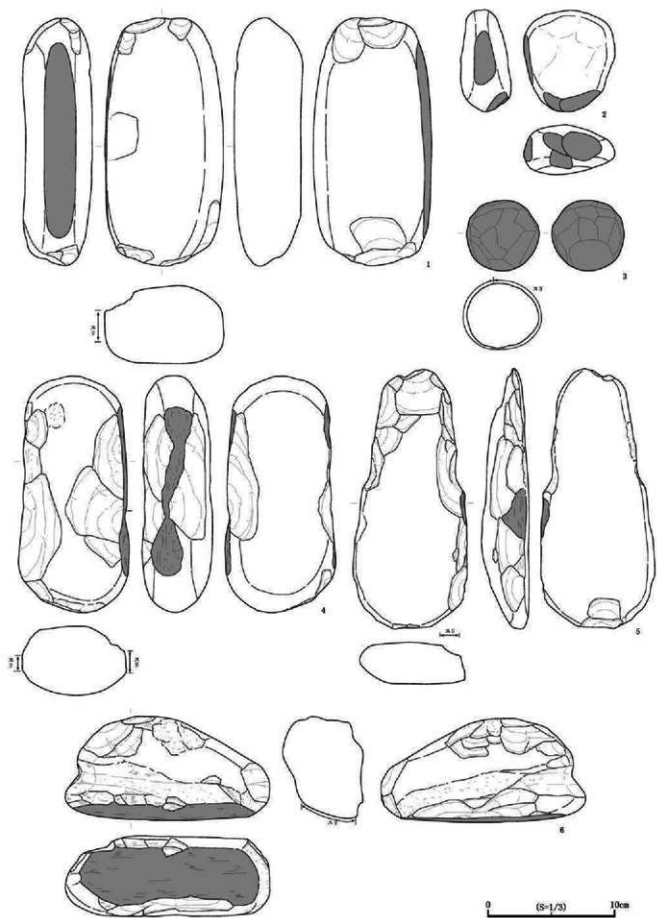


図183 遺構外出土石器 (19)

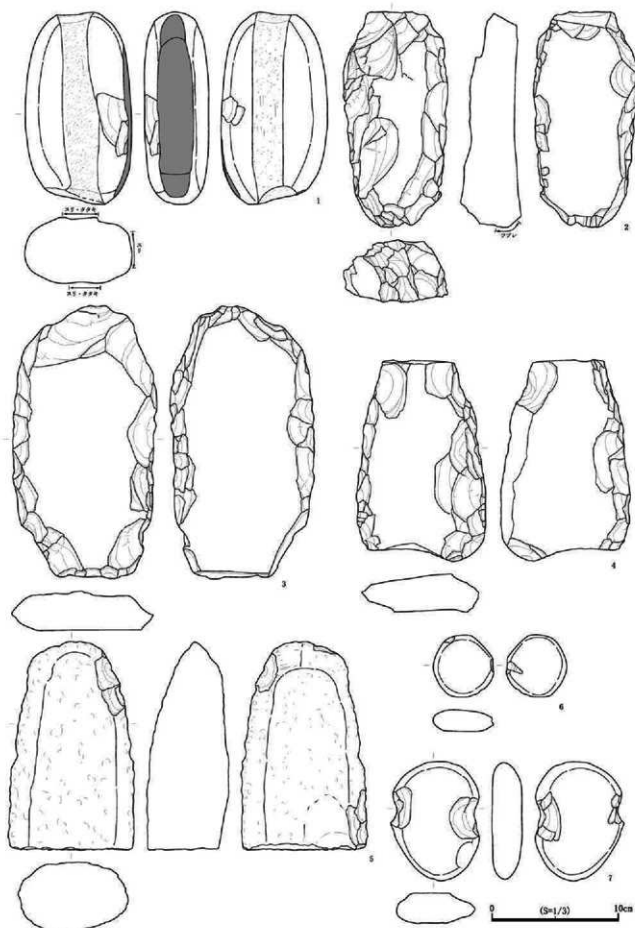


図184 遺構外出土石器 (20)

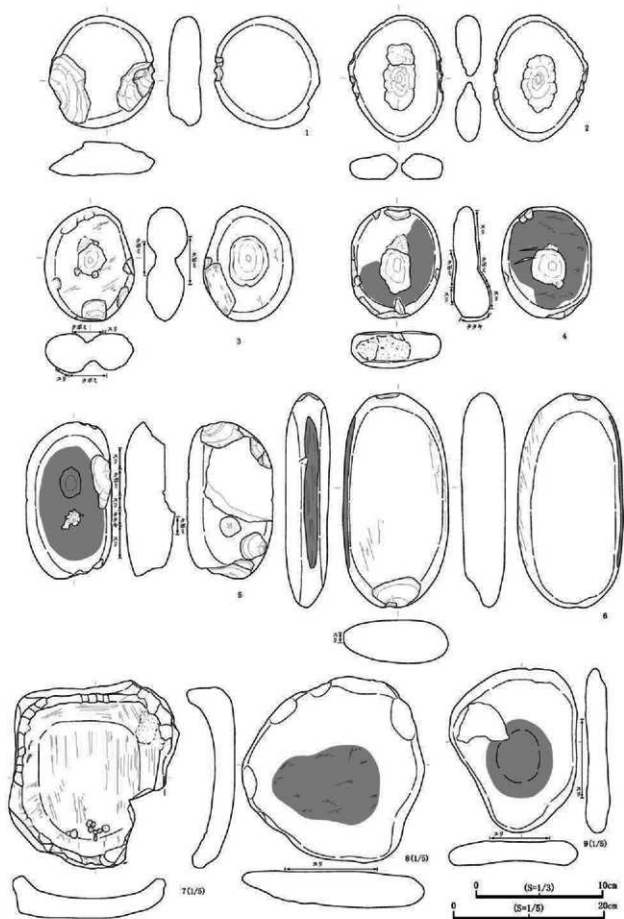


图185 遺構外出土石器 (21)

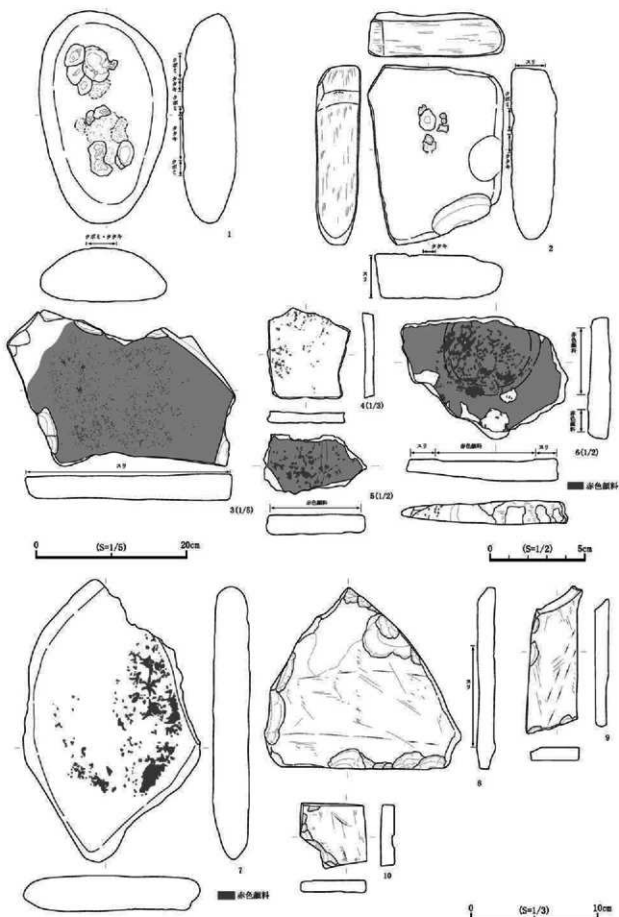


图186 遺構外出土石器 (22)

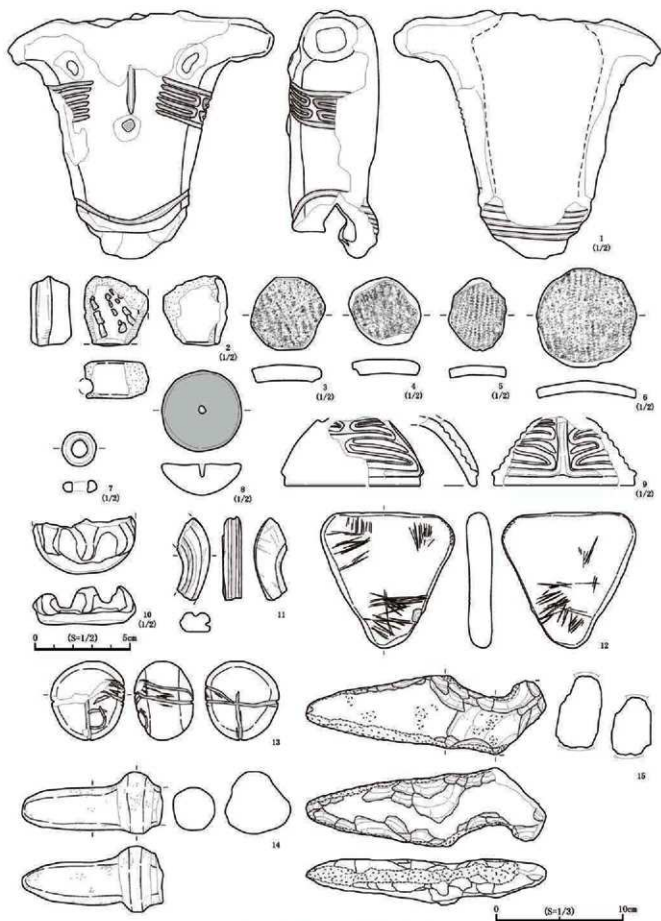


图187 遺構外出土土製品・石製品

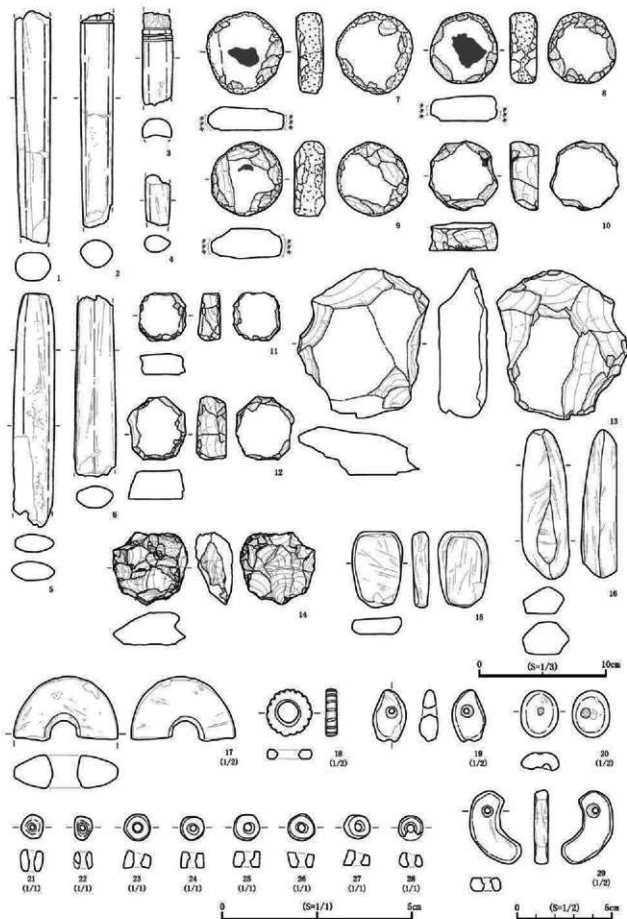


图188 遺構外出土石製品

玉類 (図 188-19~29)

11 点出土した。素材は 29 が頁岩、他は緑色凝灰岩である。穿孔は、全て両面穿孔である。19 は、断面が三角形状に近い玉で、丁寧な研磨調整がみられる。20 は、両面に非貫通孔がみられ、玉末製品と考えられる。穿孔の痕跡は、原碟の凹部に認められ、A 地点出土の図 148-15 に類似した特徴をもつ。29 は勾玉で、全面に研磨調整がなされ、面取りが顕著である。21~28 は、楕円形土坑 (B I 群土坑) の集中分布域、VX-74 グリッドの風倒木痕から出土した。径 6~7 mm で、側面の研磨調整が比較的目的立ち、径に対して厚さがあるもの (21・22) と小口面が平坦に研磨調整され、径に対して厚さがないもの (23~28) がある。

不明石製品 (図 188-12・13)

2 点出土した。12 は凝灰岩製の棒状の石製品である。全面が研磨され、断面形は六角形状を呈する。13 は扁平な隅丸長方形形状の石製品である。石材は頁岩である。全面に丁寧な研磨調整がみられる。

土師器

土師器は 2 点出土し、1 点図示した。図 189-1 は、口縁部に鋸歯状の沈線をもつ甕で、第 II 層中から出土した。口縁部は 4 分の 1 ほどが残存し、口径は推定で 17 cm である。胴部の最大径が上位に位置し、口縁部が大きく反外する器形である。胴部・頸部の境や口縁端部は、やや稜が立つ。鋸歯状の沈線は、横位沈線を伴い数段構成となる。器面の剥落や磨耗のため部分的に観察が困難な箇所もあるが、横位沈線は、胴部と頸部の境界で 1 条、頸部の中間に 1 条が観察される。鋸歯状の沈線は、2 条単位を基本として横位沈線施文後に描出される。外面調整は、口縁部がヨコナデである他は、縦位方向のヘラナデがみられる。内面調整は、ヘラナデ後にミガキ調整がなされるが、輪積み痕を残す。図示しなかった 1 点は、細片ではあるが、坯の底部と思われ、回転糸切り痕が観察される。

(最上)

陶磁器等

陶磁器や江戸・明治時代の土器は本遺跡の全域の表土や攪乱から出土した。攪乱を受けない土層からの出土は確認できなかった。陶磁器等の破片数は 272 点で、図示していないが、写真図版で掲載したものが 1 点ある。中世の遺物は確認できなかった。

出土した磁器の種類は染付、青磁である。生産地は肥前、瀬戸美濃、中国であり、器種は碗類、皿

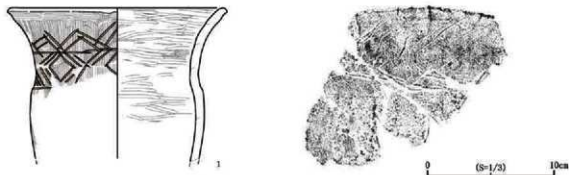


図 189 遺構外出土土師器

類、瓶類、鉢類(香炉含む)、蓋類がある。中国産と推測される皿は、青花(染付)底部高台内の破片1点である。見込みには筆描と濃みによる絵付、高台裏には筆書きによるややにじんだ圏線が観察される。高台部は欠失し、底面は回転ヘラケズリ調整後に透明釉を施している。胎土は光沢があり緻密である。器壁の厚さは4mmを測る。江戸時代のもは、青磁と染付がある。青磁は胎土から、肥前のものである。染付では二重網目文、コンニャク印判、省略された雨降り文、繫文、外面青磁、広東釉、瑠璃釉を施す仏飯器等がある。明治時代のもは、染付の筆描と印判手があり、印判手が多い。二次被熱したものは4点である。

陶胎染付の皿が1点出土している。胎土と文様から、悪戸焼の野原窯で生産されたものとみられる(関根達人ほか2005 図版25-43)。口縁部から腰部にかけては欠損しており、見込みには染付格子文と不明記号文が施されている。高台豊付は露胎する。高台内は施釉されるが、釉切れが小穴として観察され、高台脇にも7mm四方の露胎部が観察できる。断面の胎土は黄灰色(Blue 2.5Y 6/1)で、粒子はほぼ均一で細かいが、0.5mm程度の比較的大きな粒が散在する(写真105)。粒の色調は黄灰色を基本として黒褐色も散見される。野原窯は幕末から明治の初期までの操業である(青森県2003、関根達人ほか2005)。

陶器は肥前、瀬戸美濃、京焼のほか、備前と思われるものがある。江戸時代のもは、肥前や瀬戸美濃で、器種は皿類、鉢類(播鉢)、碗類、壺・甕類があり、碗類には肥前京焼風のものがある。このほか、悪戸焼の可能性のあるものが12点みられる。種類は鉢類(播鉢含む)、壺・甕類、皿類である。

江戸または明治時代の土器では、七輪または風炉がある。二次被熱や炭化物痕は観察できなかった。年代別傾向については、磁器の年代から、1650年-1690年のものが5点、1690年-1780年が89点、1780年-1860年が14点であり、17世紀末から18世紀の遺物が多い傾向がある(大橋康二1989)。

本遺跡における中世以降の遺構は、17世紀以降に構築・操業した可能性のある炭窯跡21基がある。本遺跡の南側には、寛文年間(17世紀)から昭和時代まで断続的に操業した尾太鉱山があり、弘前藩が開発・経営した時期の最盛期は明和年間(18世紀後半)である(十和田岩木川総合開発協議会1959)。炭窯跡から出土した炭化物の放射性炭素年代測定の測定結果は、中世から昭和以降の暦年代が得られており、炭窯跡の検出や、18世紀の陶磁器が多く認められる様相は、鉱山の操業状況と関連する可能性がある。

悪戸焼野原窯産とみられる製品の出土は、捜土土層から出土した破片資料であるが、悪戸焼製品の特に陶胎染付の流通を具体的に示すもので、注目されるものである。

金属製品

金属製品は、銭貨14点と煙管の雁首部分が1点出土し、図示はしていない。銭貨の種類は寛永通寶8点、不明銭2点、近代銭貨4点である。寛永通寶は3種、初陣年代寛永一三年(1636)1点、延宝元年(1673)5点、明和五年(1768)1点である。直径は20mmから27mmを測り、22mmから24mmのものが多い。不明銭2点は錆により固着した状態であり、剥離後の破片1点に「寶」の銭文が判読できた。煙管は、火皿部分を欠失した雁首である。首部は緩やかな弧を描く形態で、火皿の下からラウ接続部まで1枚の銅板を巻き、接合部を下にして製作したもので、長さ13.5cm、最大径9mmを測り比較的長いものである。年代は不明である。(工藤)

第4章 自然科学分析

第1節 放射性炭素年代測定

平成26年度委託分

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤茂・安昭炫・廣田正史・山形秀樹・小林紘一
Zaur Lomtadize・Ineza Jorjoliani・小林克也

1 はじめに

青森県中津軽郡に位置する川原平(4)遺跡から出土した試料について、加速器質量分析法(AMS)による放射性炭素年代測定を行った。

2 試料と方法

試料は、堅穴住居跡であるBSI02の試料No. 1 (PLD-27306)とBSI03の試料No. 2 (PLD-27307)、土坑であるBSK018の試料No. 3 (PLD-27308)、BSK001の試料No. 4 (PLD-27309)、BSK039の試料No. 5 (PLD-27310)、BSK061の試料No. 6 (PLD-27311)、BSK063の試料No. 7 (PLD-27312)の、計7点の炭化材である。試料No. 1、2、6、7については最終形成年輪が残っていたが、試料No. 3、4、5については最終形成年輪が残っていなかった。

考古学的手法による推定時期は、試料No. 2が縄文時代中期後葉、試料No. 1と3が縄文時代晩期と考えられ、試料No. 4～7については不明である。測定試料の情報、調製データは表1のとおりである。

試料は調製後、加速器質量分析計(パレオ・ラボ、コンパクトAMS: NEC製 1.5SDH)を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

表1 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	考古学的手法による推定時期	前処理データ	前処理
PLD-27306	遺跡:BSI02 層位:1層 試料No. 1 遺物No. C-2	種類:炭化材 試料の性状:最終形成年輪 採取部位:外側3年輪分 状態:dry	縄文時代晩期	前処理前重量:180.53mg 燃焼量:46.98mg 精製炭素量:4.42mg 炭素回収率:6.98%	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2%, 未酸化ナトリウム:1.0%,塩酸:1.2%)
PLD-27307	遺跡:BSI03 層位:1層 試料No. 2 遺物No. C-4	種類:炭化材 試料の性状:最終形成年輪 採取部位:外側3年輪分 状態:dry	縄文時代中期後葉	前処理前重量:198.41mg 燃焼量:46.11mg 精製炭素量:3.75mg 炭素回収率:6.97%	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2%, 未酸化ナトリウム:1.0%,塩酸:1.2%)
PLD-27308	遺跡:BSK018 位置:1-1 土器内 試料No. 3 遺物No. C-1	種類:炭化材 試料の性状:部位不明 採取部位:外側3年輪分 状態:dry	縄文時代晩期	前処理前重量:28.45mg 燃焼量:6.58mg 精製炭素量:3.94mg 炭素回収率:1.00%	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2%, 未酸化ナトリウム:1.0%,塩酸:1.2%)
PLD-27309	遺跡:BSK001 層位:1層 試料No. 4 遺物No. C-1	種類:炭化材 試料の性状:部位不明 採取部位:外側3年輪分 状態:dry	不明	前処理前重量:141.772mg 燃焼量:46.81mg 精製炭素量:4.13mg 炭素回収率:1.00%	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2%, 未酸化ナトリウム:1.0%,塩酸:1.2%)
PLD-27310	遺跡:BSK039 層位:1層 試料No. 5 遺物No. C-1	種類:炭化材 試料の性状:部位不明 状態:dry	不明	前処理前重量:181.123mg 燃焼量:1.97mg 精製炭素量:1.03mg 炭素回収率:1.02%	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2%, 未酸化ナトリウム:1.0%,塩酸:1.2%)
PLD-27311	遺跡:BSK061 層位:2層 試料No. 6 遺物No. C-1	種類:炭化材 試料の性状:最終形成年輪 採取部位:外側3年輪分 状態:dry	不明	前処理前重量:119.00mg 燃焼量:46.38mg 精製炭素量:3.94mg 炭素回収率:1.02%	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2%, 未酸化ナトリウム:1.0%,塩酸:1.2%)
PLD-27312	遺跡:BSK063 層位:2層 試料No. 7 遺物No. C-1	種類:炭化材 試料の性状:最終形成年輪 採取部位:外側3年輪分 状態:dry	不明	前処理前重量:138.20mg 燃焼量:46.13mg 精製炭素量:4.13mg 炭素回収率:6.98%	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2%, 未酸化ナトリウム:1.0%,塩酸:1.2%)

3 結果

表2に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代を、図1に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定 of 統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2% であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 \pm 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal 4.1 (較正曲線データ: IntCal13) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

4 考察

以下、 2σ 暦年代範囲 (確率 95.4%) に着目して結果を整理する。縄文土器編年と ^{14}C 年代・較正年代との対応関係については、小保内 (2008)、小林 (2008)、藤沼・関根 (2008)、工藤 (2012) を参照した。

BSI03 の試料 No. 2 (PLD-27307) は 2573~2475 cal BC (95.4%) で、紀元前 2580~2470 年頃の暦年代

表2 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	測定回数	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
					1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-27306 BSI02 試料No.1	9	-25.67 \pm 0.25	3105 \pm 20	3105 \pm 20	1416BC (37.0%) 1385BC 1340BC (31.2%) 1311BC	1430BC (51.4%) 1371BC 1359BC (44.0%) 1301BC
PLD-27307 BSI03 試料No.2	9	-29.60 \pm 0.22	4008 \pm 21	4010 \pm 20	2568BC (55.9%) 2519BC 2499BC (12.2%) 2488BC	2578BC (95.4%) 2476BC
PLD-27308 BSI018 試料No.3	9	-25.48 \pm 0.21	2537 \pm 20	2535 \pm 20	792BC (52.9%) 755BC 686BC (8.0%) 671BC 606BC (7.3%) 596BC	796BC (54.4%) 747BC 686BC (11.5%) 666BC 643BC (29.5%) 554BC
PLD-27309 BSI001 試料No.4	9	-25.84 \pm 0.22	196 \pm 17	195 \pm 15	1664AD (15.2%) 1678AD 1765AD (31.9%) 1799AD 1940AD (21.0%) ...	1657AD (21.0%) 1694AD 1736AD (49.0%) 1805AD 1938AD (24.2%) ...
PLD-27310 BSI039 試料No.5	9	-25.85 \pm 0.22	637 \pm 18	635 \pm 20	1297AD (22.9%) 1310AD 1366AD (45.4%) 1387AD	1290AD (37.8%) 1320AD 1350AD (57.6%) 1292AD
PLD-27311 BSI061 試料No.6	9	-23.99 \pm 0.23	312 \pm 17	310 \pm 15	1522AD (54.2%) 1574AD 1627AD (13.7%) 1642AD	1499AD (0.9%) 1503AD 1513AD (73.1%) 1600AD 1616AD (21.4%) 1645AD
PLD-27312 BSI063 試料No.7	9	-25.15 \pm 0.24	124 \pm 17	125 \pm 15	1685AD (10.2%) 1700AD 1720AD (7.2%) 1732AD 1808AD (6.7%) 1818AD 1833AD (3.5%) 1880AD 1916AD (0.7%) 1928AD	1682AD (28.0%) 1737AD 1895AD (53.7%) 1892AD 1908AD (13.8%) 1936AD

を示した。これは、縄文時代中期後葉に相当する。試料 No. 2 には最終形成年輪が残っており、測定結果は木の枯死もしくは伐採年代に相当する。

BSI02の試料 No. 1 (PLD-27306) は 1430-1371 cal BC(51.4%)および 1359-1301 cal BC(44.0%)で、紀元前 1430~1300 年頃の暦年代を示した。これは縄文時代後期後葉に相当する。試料 No. 1 には最終形成年輪が残っており、測定結果は枯死もしくは伐採年代に相当する。

BSK018の試料 No. 3 (PLD-27308) は 796-747 cal BC(54.4%)、686-666 cal BC(11.5%)、643-554 cal BC(29.5%)で、紀元前 800~550 年頃の暦年代を示した。これは、縄文時代晩期後葉に相当する。試料 No. 3 には最終形成年輪が残っていない。木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる(古木効果)。試料 No. 3 の測定結果は古木効果の影響を受けている可能性があり、その場合、実際に枯死もしくは伐採された年代は、測定結果よりも新しい年代であると考えられる。

BSK039の試料 No. 5 (PLD-27310) は 1290-1320 cal AD(37.8%)および 1350-1392 cal AD(57.6%)で、13 世紀末~14 世紀末の暦年代を示した。これは、鎌倉時代~室町時代に相当する。試料 No. 5 には最終形成年輪が残っておらず、測定結果は古木効果の影響を受けている可能性がある。

BSK061の試料 No. 6 (PLD-27311) は 1499-1503 cal AD(0.9%)、1513-1600 cal AD(73.1%)、1616-1645 cal AD(21.4%)となり、15 世紀末~17 世紀中頃の暦年代を示した。これは、戦国時代~江戸時代前期に相当する。試料 No. 6 には最終形成年輪が残っており、測定結果は木の枯死もしくは伐採年代を示している。

BSK063の試料 No. 7 は 1682-1737 cal AD(28.0%)、1805-1892 cal AD(53.7%)、1908-1936 cal AD(13.8%)で、17 世紀中頃~20 世紀前半の暦年代を示した。これは、江戸時代前期~昭和時代に相当する。試料 No. 7 には最終形成年輪が残っており、測定結果は木の枯死もしくは伐採年代を示している。

BSK001の試料 No. 4 (PLD-27309) は 1657-1684 cal AD(21.6%)、1736-1805 cal AD(49.6%)、1935 cal AD 以降(24.3%)で、江戸時代前期または中期~後期、あるいは昭和時代以降の暦年代を示した。試料 No. 4 には最終形成年輪が残っていないため、測定結果は古木効果の影響を受けている可能性がある。

参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
- 藤沼邦彦・西根達人(2008) 亀ヶ岡式土器(亀ヶ岡式系土器群)。小林達雄編『総覧縄文土器』: 682-693。アム・プロローション。
- 小林圭一(2008) 鹿付土器。小林達雄編『総覧縄文土器』: 568-577。アム・プロローション。
- 工藤雄一郎(2012) 旧石器・縄文時代の環境文化史—高精度放射性炭素年代測定と考古学—。373p。神泉社。
- 中村俊夫(2000) 放射性炭素年代測定法の基礎。日本先史時代の¹⁴C年代編集委員会編『日本先史時代の¹⁴C年代』: 3-20。日本第四紀学会。
- 小保内裕之(2008) 陸奥大木系土器(複林式・最花式・大木10式並行土器)。: 368-375。アム・プロローション。
- Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hafliadason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 55(4), 1869-1887.

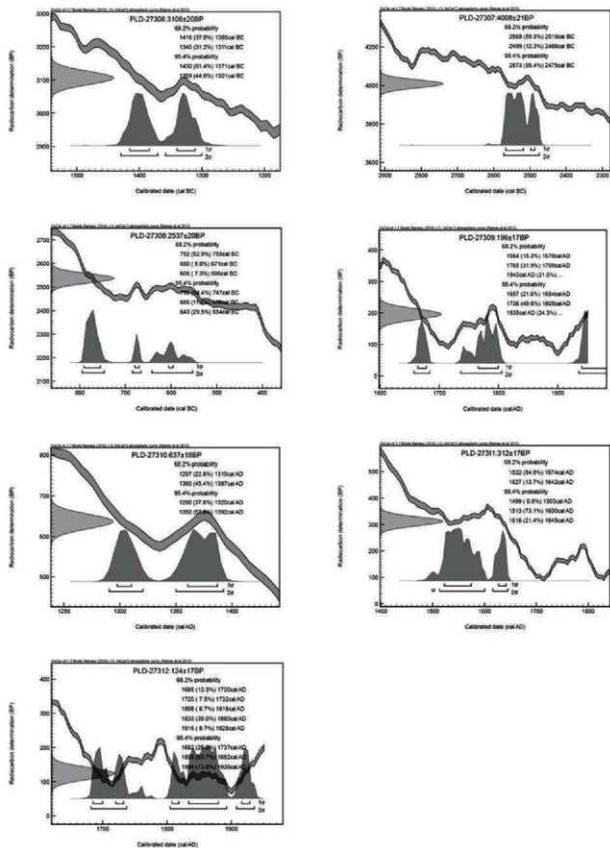
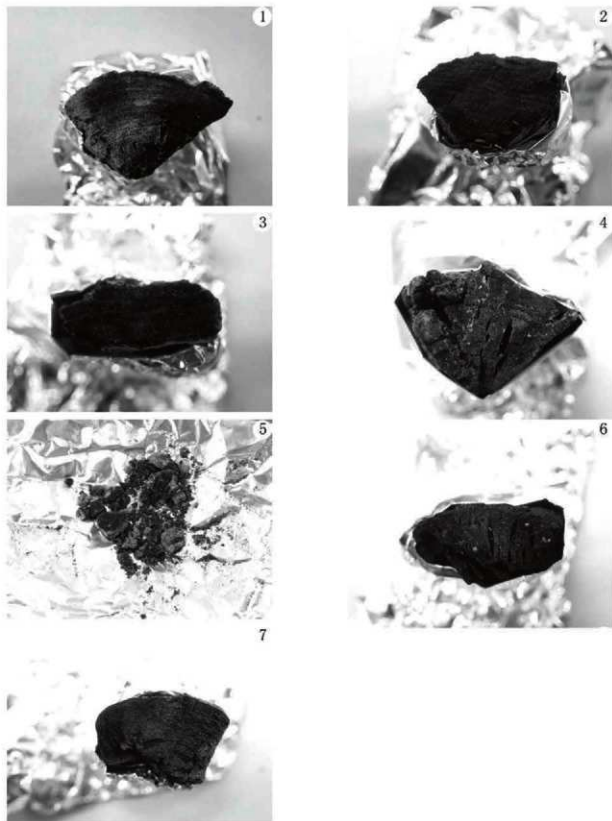


図1 暦年較正結果



図版1 川原平(4)遺跡の年代測定試料

1. 試料 No. 1 (PLD-27306)、2. 試料 No. 2 (PLD-27307)、3. 試料 No. 3 (PLD-27308)、4. 試料 No. 4 (PLD-27309)、5. 試料 No. 5 (PLD-27310)、6. 試料 No. 6 (PLD-27311)、7. 試料 No. 7 (PLD-27312)

平成 27 年度委託分

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

川原平(4)遺跡は、青森県中津軽郡西目屋村大字川原平字福岡(北緯 $40^{\circ} 31' 41''$ 、東経 $140^{\circ} 13' 41''$)に所在する。測定対象試料は、竪穴住居跡、土坑、遺物包含層等から出土した土器に付着した炭化物 15 点である(表 1)。試料はすべて土器の外表面から採取された。土器の時期はいずれも縄文時代晩期と考えられ、大洞 BC 式から大洞 A 式とされるもの(およびその可能性が指摘されるもの)が含まれる。個別には、大洞 BC 式以降(遺構の重複関係より)が No. 18、晩期中葉(大洞 C2 式か)が No. 23、24、晩期中葉～後葉(大洞 C2～A 式か)が No. 25、晩期後葉(大洞 A 式か)が No. 9、10、13、14、22、26、晩期後葉(大洞 A 式か)が No. 21、晩期が No. 15、16、19、27 とされている。

2 測定の意義

集落変遷(居住域と土坑群(墓域)か)との時間的關係における実年代を明らかにする。また、試料が採取された土器の年代を確かめる。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除き、必要量の試料を採取、乾燥させ、秤量する(付表「処理前試料量」)。
- (2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させ、秤量する(付表「処理後試料量」)。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/l (1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 1 および付表に記載する。
- (3) 必要量を採取、秤量(付表「燃焼量」)した試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO_2)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製、定量する。この二酸化炭素中の炭素相当量を算出する(付表「精製炭素量」)。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした ^{14}C -AMS 専用装置(NEC 社製)を使用し、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$)の測定を行う。測定では、米国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOxII)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。測定回数と ^{14}C カウント数を付表に示す。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (表1)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。 $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比は付表に記載する。
- (2) ^{14}C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0 yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCal v4.2 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

6 測定結果

試料の測定結果を表1、2及び付表に示す。

試料15点の ^{14}C 年代は、2950 \pm 30yrBP (No. 19) から2430 \pm 30yrBP (No. 10) の間に収まる。暦年較正年代 (1σ) は、最も古いNo. 19が1210~1123cal BCの範囲、最も新しいNo. 10が539~413cal BCの範囲で示され、全体として縄文時代晩期初頭から末葉頃に相当する (小林編 2008)。試料が採取された個々の土器について考えられている時期と年代値もおおむね一致する。それらの中で、No. 21は土器が示す時期より若干古い値となったが、 2σ 暦年代範囲では確率が低いながらも一致する部分がある。試料の炭素含有率はすべて40%を超えるおおむね適正な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。ただし、No. 18、21については、アルカリ処理を1Mより低い濃度に留めたため、他の試料に比べて汚染の除去が十分でない可能性もある (表1下の注参照)。

参考文献

- Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360
 小林達雄編 2008 総覧縄文土器。総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション
 Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887
 Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

表1 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-150862	No.24	遺構外VJ-53 1層	土器附着炭化物	AAA	-31.27 ± 0.24	2,690 ± 30	71.54 ± 0.23
IAAA-150863	No.9	BSK002 1層下部	土器附着炭化物	AAA	-28.13 ± 0.24	2,530 ± 20	72.97 ± 0.23
IAAA-150864	No.10	BSK002 1層下部	土器附着炭化物	AAA	-26.70 ± 0.22	2,430 ± 30	73.93 ± 0.24
IAAA-150865	No.13	BSK008 2層	土器附着炭化物	AAA	-24.40 ± 0.25	2,480 ± 30	73.41 ± 0.24
IAAA-150866	No.14	BSK037 堆積土	土器附着炭化物	AAA	-26.88 ± 0.24	2,470 ± 20	73.53 ± 0.23
IAAA-150867	No.15	BSR04	土器附着炭化物	AAA	-26.31 ± 0.27	2,680 ± 20	71.64 ± 0.21
IAAA-150868	No.16	BSR12	土器附着炭化物	AAA	-29.20 ± 0.24	2,700 ± 30	71.48 ± 0.22
IAAA-150869	No.27	BSR17	土器附着炭化物	AAA	-26.67 ± 0.27	2,690 ± 30	71.52 ± 0.23
IAAA-150870	No.18	BSI28a 9 ¹	土器附着炭化物	AaaA*	-28.38 ± 0.21	2,810 ± 20	70.47 ± 0.22
IAAA-150871	No.19	BSK293 堆積土	土器附着炭化物	AAA	-29.35 ± 0.21	2,950 ± 30	69.26 ± 0.23
IAAA-150872	No.21	遺構外VH-74 IIa層	土器附着炭化物	AaaA*	-23.76 ± 0.20	2,470 ± 20	73.54 ± 0.20
IAAA-150873	No.22	遺構外VK-54 1層	土器附着炭化物	AAA	-26.01 ± 0.21	2,460 ± 20	73.67 ± 0.22
IAAA-150874	No.23	遺構外VA-57 IIa層	土器附着炭化物	AAA	-28.18 ± 0.22	2,600 ± 20	72.34 ± 0.22
IAAA-150875	No.25	遺構外VC-55 II層	土器附着炭化物	AAA	-27.92 ± 0.26	2,480 ± 20	73.41 ± 0.21
IAAA-150876	No.26	遺構外VK-54 1層	土器附着炭化物	AAA	-24.53 ± 0.25	2,550 ± 20	72.79 ± 0.20

[#7504]

* 本分析業務において、AAA処理におけるアルカリ処理は1Mの濃度が標準とされ、実施に当たっては濃度を0.001Mから徐々に上げて1Mまで行うこととなった。しかし、これらの試料については少量であったため、処理過程での試料の損失により分析を実施できなくなる可能性を考慮し、1Mより低い濃度での処理に留めた。このため、他の試料に比べて汚染の除去が十分でない可能性もある。

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代) (1)

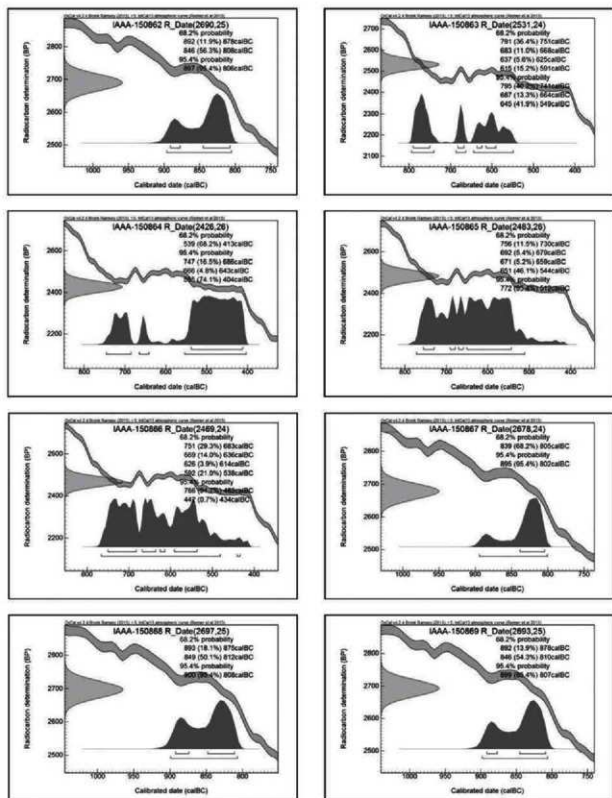
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-150862	2,790 ± 30	70.62 ± 0.22	2,690 ± 25	892calBC - 878calBC (11.9%) 846calBC - 808calBC (56.3%)	897calBC - 806calBC (95.4%)

[参考値]

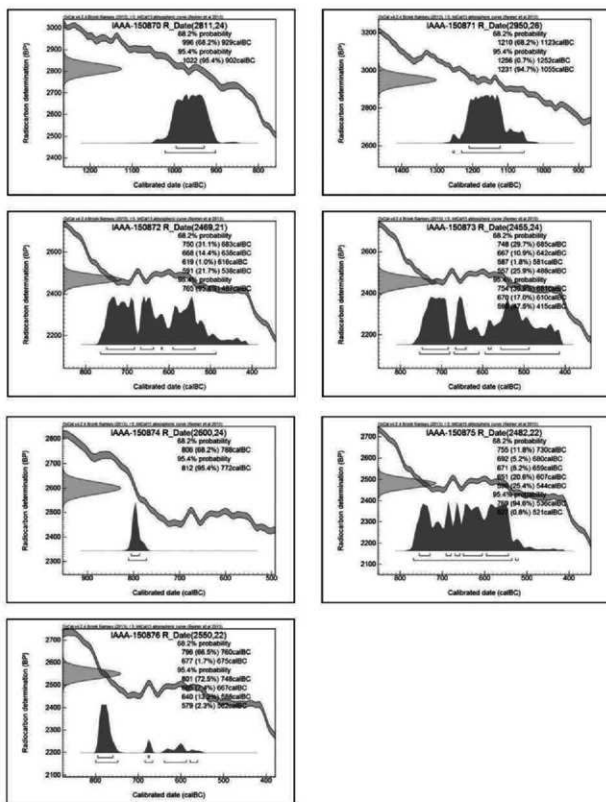
表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代) (2)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-150863	2,580 \pm 20	72.50 \pm 0.22	2,531 \pm 24	791calBC - 751calBC (36.4%) 683calBC - 668calBC (11.0%) 637calBC - 625calBC (5.6%) 615calBC - 591calBC (15.2%)	795calBC - 741calBC (40.2%) 687calBC - 664calBC (13.3%) 645calBC - 549calBC (41.9%)
IAAA-150864	2,450 \pm 30	73.67 \pm 0.24	2,426 \pm 26	539calBC - 413calBC (68.2%)	747calBC - 686calBC (16.5%) 666calBC - 643calBC (4.8%) 555calBC - 404calBC (74.1%)
IAAA-150865	2,470 \pm 30	73.50 \pm 0.24	2,483 \pm 26	756calBC - 730calBC (11.5%) 692calBC - 679calBC (5.4%) 671calBC - 659calBC (5.2%) 651calBC - 544calBC (46.1%)	772calBC - 512calBC (95.4%)
IAAA-150866	2,500 \pm 20	73.25 \pm 0.22	2,469 \pm 24	751calBC - 683calBC (29.3%) 669calBC - 636calBC (14.0%) 626calBC - 614calBC (3.9%) 592calBC - 538calBC (21.0%)	766calBC - 482calBC (94.7%) 442calBC - 434calBC (0.7%)
IAAA-150867	2,700 \pm 20	71.45 \pm 0.21	2,678 \pm 24	839calBC - 805calBC (68.2%)	895calBC - 802calBC (95.4%)
IAAA-150868	2,770 \pm 20	70.86 \pm 0.22	2,697 \pm 25	893calBC - 875calBC (18.1%) 849calBC - 812calBC (50.1%)	900calBC - 808calBC (95.4%)
IAAA-150869	2,720 \pm 30	71.27 \pm 0.22	2,693 \pm 25	892calBC - 878calBC (13.9%) 846calBC - 810calBC (54.3%)	899calBC - 807calBC (95.4%)
IAAA-150870	2,870 \pm 20	69.98 \pm 0.22	2,811 \pm 24	996calBC - 929calBC (68.2%)	1022calBC - 902calBC (95.4%)
IAAA-150871	3,020 \pm 30	68.64 \pm 0.22	2,950 \pm 26	1210calBC - 1123calBC (68.2%)	1256calBC - 1252calBC (0.7%) 1231calBC - 1055calBC (94.7%)
IAAA-150872	2,450 \pm 20	73.72 \pm 0.19	2,469 \pm 21	750calBC - 683calBC (31.1%) 668calBC - 638calBC (14.4%) 619calBC - 616calBC (1.0%) 591calBC - 538calBC (21.7%)	765calBC - 487calBC (95.4%)
IAAA-150873	2,470 \pm 20	73.51 \pm 0.22	2,455 \pm 24	748calBC - 685calBC (29.7%) 667calBC - 642calBC (10.9%) 587calBC - 581calBC (1.8%) 557calBC - 488calBC (25.9%)	754calBC - 681calBC (30.9%) 670calBC - 610calBC (17.0%) 595calBC - 415calBC (47.5%)
IAAA-150874	2,650 \pm 20	71.87 \pm 0.22	2,600 \pm 24	806calBC - 788calBC (68.2%)	812calBC - 772calBC (95.4%)
IAAA-150875	2,530 \pm 20	72.97 \pm 0.20	2,482 \pm 22	755calBC - 730calBC (11.8%) 692calBC - 680calBC (5.2%) 671calBC - 659calBC (5.2%) 651calBC - 607calBC (20.6%) 596calBC - 544calBC (25.4%)	769calBC - 536calBC (94.6%) 527calBC - 521calBC (0.8%)
IAAA-150876	2,540 \pm 20	72.86 \pm 0.20	2,550 \pm 22	796calBC - 760calBC (66.5%) 677calBC - 675calBC (1.7%)	801calBC - 748calBC (72.5%) 685calBC - 667calBC (7.4%) 640calBC - 588calBC (13.2%) 579calBC - 562calBC (2.3%)

[参考値]



【参考】暦年較正年代グラフ



[参考] 暦年較正年代グラフ

第2節 赤色顔料分析

(株)パレオ・ラボ
竹原弘展

1 はじめに

中津軽郡西目屋村大字川原平字福岡地内に所在する川原平(4)遺跡B区は、主に縄文時代中期から晩期にかけての集落跡である。遺跡より出土した赤色顔料について蛍光X線分析を行い、顔料の種類を検討した。

2 試料と方法

分析対象は、赤色顔料15点である。分析No. 2～13はBⅠ群土坑内、分析No. 1・14は土器埋設遺構内より出土した赤色顔料を含む土壌、分析No. 15は竪穴住居跡の床面より出土した石皿の機能面に付着していた赤色顔料である(表1)。分析No. 1～15の遺構の時期は、縄文時代晩期と考えられている。実体顕微鏡下で、セロハンテープに赤色部分を極少量採取して分析試料とした。石皿(分析No. 15)について、図版1-1に採取位置を示す。

分析装置はエネルギー分散型蛍光X線分析装置である(株)堀場製作所製分析顕微鏡XGT-5000TypeⅡを使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV・1mAのロジウムターゲット、X線ビーム径が100 μ mまたは10 μ m、検出器は高純度Si検出器(Xerophy)である。検出可能元素はナトリウム～ウランであるが、ナトリウム、マグネシウムといった軽元素は蛍光X線分析装置の性質上、検出感が悪い。

本分析での測定条件は、50kV、0.50～1.00mA(自動設定による)、ビーム径100 μ m、測定時間500sに設定した。定量分析は、標準試料を用いないファンダメンタル・パラメータ法(FP法)による半定量分析を装置付属ソフトで行った。さらに、蛍光X線分析用に採取した試料を観察試料として、生物顕微鏡で赤色顔料の粒子形状を確認した。

表1 分析対象一覧

分析No.	遺構名	種別	サンプル名	時期	備考
1	BSR04	土器埋設遺構	顔料サンプル	縄文時代晩期	
2	BSK108	土坑	顔料サンプル2		
3	BSK109	土坑	赤色顔料1		
4	BSK113	土坑	サンプル1		
5	BSK170	土坑	サンプル2		
6	BSK177	土坑	赤色顔料1		顔料出土位置が唯一東側
7	BSK211	土坑	土壌サンプル(赤色顔料分析)		顔料出土位置が堆積土中位
8	BSK221	土坑	赤色顔料サンプル1		
9	BSK222	土坑	サンプル1		
10	BSK223	土坑	顔料サンプル2		顔料が西壁・北壁寄りから出土 顔料の彩度は他遺構よりも薄い
11	BSK228	土坑	ベンガラ1		色調弱い
12	BSK303	土坑	サンプル2		
13	BSK312	土坑	赤色顔料サンプル		色調弱い
14	BSR22	土器埋設遺構	顔料サンプル		
15	BS128a	住居跡出土石皿	—		石皿付着顔料

3 結果

分析により得られたスペクトルおよびFP法による半定量分析結果を図1、2に示す。

すべての試料からケイ素(Si)とアルミニウム(Al)、鉄(Fe)が主に検出され、他にリン(P)と硫黄(S)、カリウム(K)、カルシウム(Ca)、チタン(Ti)、マンガン(Mn)が検出された。また、生物顕微鏡観察により得られた画像を図版1、2に示す。いずれの試料においても、赤色パイプ状の粒子は観察されなかった。

4 考察

赤色顔料の代表的なものとしては、朱(水銀朱)とベンガラが挙げられる。水銀朱は硫化水銀(HgS)で、鉱物としては辰砂と呼ばれ、産出地はある程度限定される。ベンガラは狭義には三酸化二鉄(Fe_2O_3)、鉱物名は赤鉄鉱を指すが、広義には鉄(III)の発色に伴う赤色顔料全般を指し(成瀬, 2004)、広範な地域で採取可能である。また、ベンガラは直径約 $1\mu m$ のパイプ状の粒子形状からなるものも多く報告されている。このパイプ状の粒子形状は鉄バクテリア起源であると判明しており(岡田, 1997)、含水水酸化鉄を焼いて得た赤鉄鉱がこのような形状を示す(成瀬, 1998)。鉄バクテリア起源のパイプ状粒子は、湿地などで採集できる。

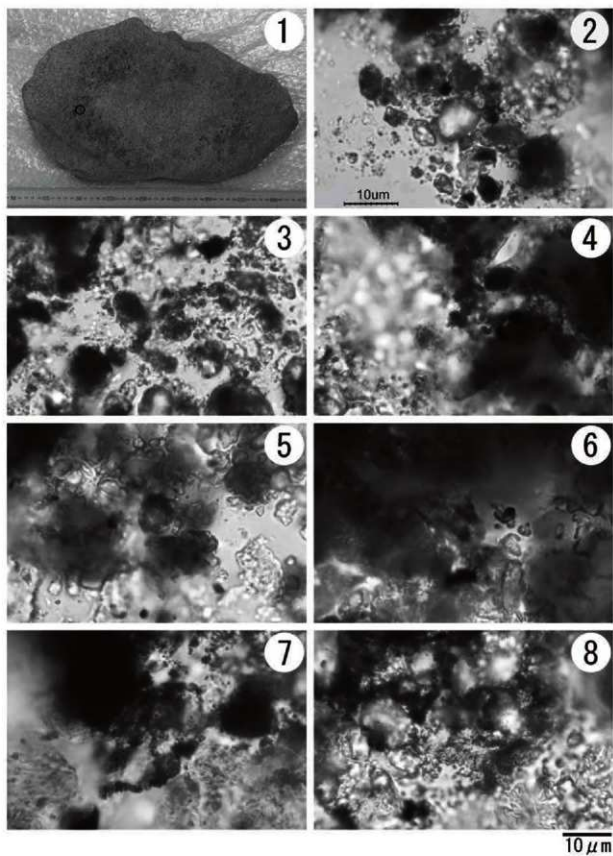
今回分析した試料は、いずれもケイ素など土中成分に由来すると考えられる元素は検出されたものの、水銀は検出されなかった。鉄が検出されており、赤い発色は鉄によるものと推定できる。すなわち、顔料としてはベンガラにあたる。

5 おわりに

土坑と土器埋設遺構から出土した赤色顔料、石皿の機能面に付着していた赤色顔料の計15点について分析した結果、いずれも鉄が多く検出され、鉄(III)による発色と推定された。顔料としてはベンガラにあたる。

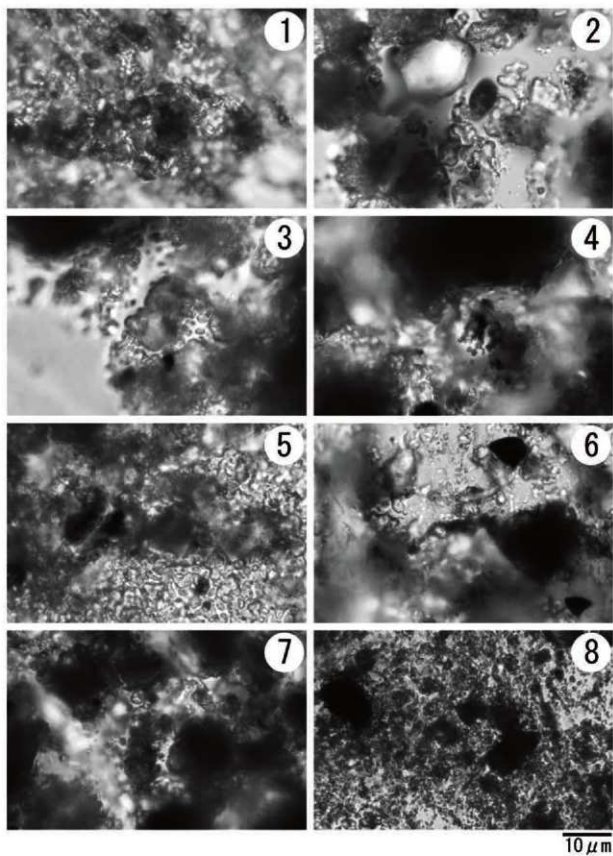
引用文献

- 成瀬正和(1998) 縄文時代の赤色顔料Ⅰ—赤彩土器—。考古学ジャーナル, 438, 10-14, ニューサイエンス社。
 成瀬正和(2004) 正倉院宝物に用いられた無機顔料。正倉院紀要, 26, 13-61, 宮内庁正倉院事務所。
 岡田文男(1997) パイプ状ベンガラ粒子の復元。日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集, 38-39。



図版1 石皿の試料採取位置および赤色顔料生物顕微鏡写真

1. 分析No. 15試料採取位置 2. 分析No. 1 3. 分析No. 2 4. 分析No. 3 5. 分析No. 4 6. 分析No. 5 7. 分析No. 6
8. 分析No. 7



图版2 赤色颜料生物顕微鏡写真

1. 分析No. 8 2. 分析No. 9 3. 分析No. 10 4. 分析No. 11 5. 分析No. 12 6. 分析No. 13 7. 分析No. 14 8. 分析No. 15

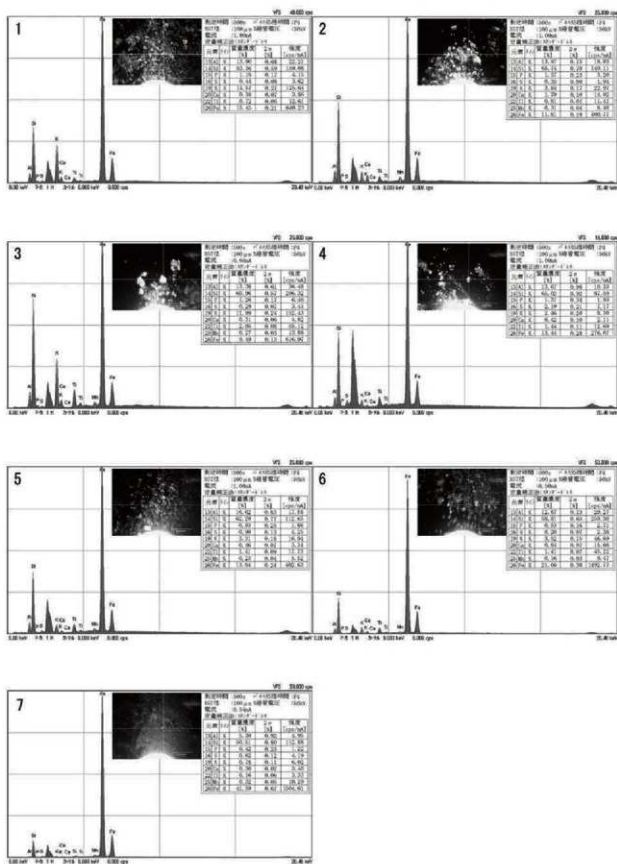


図2 赤色顔料の蛍光X線分析結果(2)

1. 分析No. 9 2. 分析No. 10 3. 分析No. 11 4. 分析No. 12 5. 分析No. 13 6. 分析No. 14 7. 分析No. 15

第3節 リン・カルシウム分析

(株)パレオ・ラボ
竹原弘展

1 はじめに

中津経都西目屋村大字川原平字福岡地内に所在する川原平(4)遺跡の縄文時代晩期の土坑と土器埋設遺構より採取した土壌について、蛍光X線分析によるリン・カルシウム分析を行い、骨が存在した可能性を検討した。

2 試料と方法

分析対象となる試料は、表1に示す20遺構(土坑19基、土器埋設遺構1基)から採取した土壌計105点である。平成27年度の夏に測定した58点をNo.1~58、平成27年度の冬に測定した41点をNo.59~99、平成26年度に測定した6点をNo.14-1~14-6とした。なお、表は遺構番号順に並べ替えてある。

分析は、藤根ほか(2008)の方法に従って行った。この方法は、元素マッピング分析によりリン、カルシウムを多く含む箇所を面的に検出し直接測定できるという利点がある。測定試料は、乾燥後、極軽く粉砕して塩化ビニル製リングに充填し、油圧プレス機で20t・1分以上プレスしたものを作製、使用した。

分析装置は、エネルギー分散型蛍光X線分析装置である(株)堀場製作所製分析顕微鏡XGT-5000Type IIを使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV、1.00mAのロジウム(Rh)ターゲット、X線ビーム径が100 μ mまたは10 μ m、検出器は高純度Si検出器(Xerophy)で、検出可能元素はナトリウム(Na)~ウラン(U)である。また、試料ステージを走査させながら測定することにより元素の二次元的な分布画像を得る、元素マッピング分析も可能である。

本分析では、まず元素マッピング分析を行い、元素の分布図を得た上で、リン(P)のマッピング図において輝度の高い箇所を選び、ポイント分析を行った。測定条件は、元素マッピング分析では50kV、1.00mA、ビーム径100 μ m、測定時間6000s、パルス処理時間P3に、ポイント分析では50kV、0.10~0.50mA(自動設定)、ビーム径100 μ m、測定時間500s、パルス処理時間P4に設定して行った。定量計算は、装置付属ソフトによる、標準試料を用いないファンダメンタル・パラメータ法で行っており、半定量値である。

3 結果および考察

試料のリンおよびカルシウムの各マッピング図にポイント分析を行った各5箇所の位置を示した図を図版1~21に、ポイント分析結果より酸化物の形で表した各元素の半定量値を表2~10に示す。なお、元素マッピング図は、元素ごとに輝度を相対的に比較できるように、各試料のブライトネスとコントラストを調整した。

骨や歯は、ハイドロキシアパタイト $\text{Ca}_5(\text{PO}_4)_3\text{OH}$ が主成分であり、すなわち蛍光X線分析ではリン(P)とカルシウム(Ca)が共に高く検出される。ただし、土壌中のリンとカルシウムは鉱物由来の可能性も考慮する必要があり、特にカルシウムは一般的にもともと土砂中に多く含まれている元素で、注意

を要する。さらに、貝殻はもちろん、炭化材なども蛍光X線分析では高いカルシウム含有量を示す。

このように、カルシウムのみを検出では骨由来であるか骨以外のもの由来であるかを判断し難いため、分析ではリンを中心に検討した。また、埋没した時には骨が存在していたが、埋没中に分解拡散が進行し、現状ではほとんどリンが検出されない場合や、骨からピビアナイト $\text{Fe}_3(\text{PO}_4)_2 \cdot 8\text{H}_2\text{O}$ が析出しているケースのように骨由来のリンが多く検出される箇所でもカルシウムが少ないという場合もある。

以下、遺構ごとに結果をまとめる。

[第89号土坑] (No. 14-1)

分析の結果、リン (P_2O_5) が 0.48~1.09%、カルシウム (CaO) が 0.46~0.53%の値を示した。底面直上の試料であるが、リン含有量が1%を超えるのは5箇所のうち1箇所のみであった。

[第101号土坑] (No. 12~14)

分析の結果、リン (P_2O_5) が 0.60~2.89%、カルシウム (CaO) が 0.12~2.86%の値を示した。いずれも底面直上の試料で、リンが約1~3%とやや多く検出された。これらは骨や歯に由来する可能性がある。

[第108号土坑] (No. 15~23)

分析の結果、リン (P_2O_5) が 0.00~6.08%、カルシウム (CaO) が 0.22~9.03%の値を示した。堆積土上位の試料 (No. 15, 21) と底面直上の No. 16 はリン含有量が少ないのに対し、それ以外の底面直上 (No. 22)、顔料中 (No. 17~19)、底面下の地山 (No. 20, 23) からは、1%を超えるリン含有量が認められた。特に底面下の地山からは、リン、カルシウムが共に多い箇所が検出されている。これらは骨や歯に由来する可能性がある。

[第111号土坑] (No. 35, 36)

分析の結果、リン (P_2O_5) が 0.20~1.22%、カルシウム (CaO) が 0.35~0.99%の値を示した。いずれも底面直上の試料で、リン含有量が1%を超えるのはNo. 35における1箇所のみであった。

[第113号土坑] (No. 1~5, 14-2, 14-3)

分析の結果、リン (P_2O_5) が 0.00~15.28%、カルシウム (CaO) が 0.17~14.80%の値を示した。土坑底面に近い赤色顔料の混ざる層 (No. 14-3) からは、リンとカルシウムが共に明らかに多い箇所が検出された。また、底面下の地山の試料 (No. 3, No. 5) からもリンが約1~2%とやや多く検出された。これらは骨や歯に由来する可能性がある。

[第182号土坑] (No. 6~11, 14-4~14-6)

分析の結果、リン (P_2O_5) が 0.00~2.06%、カルシウム (CaO) が 0.07~3.03%の値を示した。堆積土上位の試料 (No. 6, 8, 10)、底面直上の試料 (No. 14-4~14-6)、底面下の地山の試料 (No. 7, 9, 11) と、下層の試料ほどリンの含有量が多い傾向がみられ、これらが骨や歯に由来する可能性がある。

[第243b号土坑] (No. 26~28)

分析の結果、リン (P_2O_5) が 0.37~2.23%、カルシウム (CaO) が 0.41~1.18%の値を示した。底面直上の試料 (No. 26 と No. 27) からは1%を超えるリン含有量が認められた。特にNo. 27は、マッピング図におけるリンの輝度がやや高く、全体的にリン含有量が多いと考えられる。これらは骨や

菌に由来する可能性がある。

[第268号土坑] (No. 40~42)

分析の結果、リン (P_2O_5) が 0.18~1.40%、カルシウム (CaO) が 0.19~0.71%の値を示した。

いずれも底面直上の試料で、No. 41 と No. 42 からは1%を超えるリン含有量が認められた。これらは骨や菌に由来する可能性がある。

[第294号土坑] (No. 29~31)

分析の結果、リン (P_2O_5) が 0.00~1.76%、カルシウム (CaO) が 0.28~1.36%の値を示した。

いずれも底面直上の試料で、No. 30 と No. 31 からは1%を超えるリン含有量が認められた。これらは骨や菌に由来する可能性がある。

[第296号土坑] (No. 24、25、59~62)

分析の結果、リン (P_2O_5) が 0.52~13.80%、カルシウム (CaO) が 0.18~3.28%の値を示した。

第1層のNo. 60以外は、1%を超えるリン含有量が認められた。特に、底面下の地山 (No. 61、62) は、マッピング図におけるリンの輝度が明らかに高く、全体的にリン含有量が多いと考えられる。これらは骨や菌に由来する可能性がある。

[第301号土坑] (No. 32~34)

分析の結果、リン (P_2O_5) が 0.21~1.12%、カルシウム (CaO) が 0.33~1.26%の値を示した。

いずれも底面直上の試料で、リン含有量が1%を超えるのはNo. 32における1箇所のみであった。

[第320号土坑] (No. 43~45)

分析の結果、リン (P_2O_5) が 0.75~2.07%、カルシウム (CaO) が 0.26~2.07%の値を示した。

いずれも底面直上の試料で、No. 44における1箇所を除くすべての箇所でも1%を超えるリン含有量が認められた。これらは骨や菌に由来する可能性がある。

[第331号土坑] (No. 57、58)

分析の結果、リン (P_2O_5) が 0.00~1.54%、カルシウム (CaO) が 0.20~1.52%の値を示した。

両者とも底面直上の試料であるが、No. 57では5箇所すべてで1%を超えるリン含有量が認められた。リンのマッピング図においても、No. 57はNo. 58よりも全体的に輝度がやや高く、これらは骨や菌に由来する可能性がある。

[第337号土坑] (No. 46~48、63~68)

分析の結果、リン (P_2O_5) が 0.04~11.07%、カルシウム (CaO) が 0.10~7.99%の値を示した。

第1層や第2層の試料 (No. 63~65) はリン含有量がそれほど多くないのに対し、底面直上の試料 (No. 46~48) や底面下の地山の試料 (No. 66~68) からはリン含有量が1%を超える箇所が複数認められ、特に底面下の地山のNo. 68からはリンとカルシウムが共に含有量が明らかに多い箇所が認められた。これらは骨や菌に由来する可能性がある。

[第342号土坑] (No. 52~54)

分析の結果、リン (P_2O_5) が 0.24~1.98%、カルシウム (CaO) が 0.20~0.41%の値を示した。

いずれも底面直上の試料で、No. 54では5箇所すべてで1%を超えるリン含有量が認められた。これらは骨や菌に由来する可能性がある。

〔第348号土坑〕(No.55、56)

分析の結果、リン (P_2O_5) が 0.37~0.87%、カルシウム (CaO) が 0.41~1.07%の値を示した。

両者とも底面直上の試料で、リン含有量はいずれの箇所も1%未満であった。

〔第373号土坑〕(No.37~39、69~78)

分析の結果、リン (P_2O_5) が 0.01~38.35%、カルシウム (CaO) が 0.14~6.43%の値を示した。

第1層、第2層、堆積土中位の試料 (No.37~39、No.69~71) はリン含有量が少ないのに対し、第5層以下の試料 (No.72~78) からはリン含有量が1%を超える箇所が認められ、特に底面下の地山 (No.76~78) からは約2~4%と多めのリン含有量が認められた。また、第6層の試料 (No.75) からは、約40%とリン含有量が極めて多い箇所が検出された。これらは骨や歯に由来する可能性がある。

〔第394号土坑〕(No.85~96)

分析の結果、リン (P_2O_5) が 0.07~3.97%、カルシウム (CaO) が 0.10~7.80%の値を示した。

堆積土の試料 (No.85~93) からは、リン含有量が1%を超える箇所が複数認められた。特に第7層中位のNo.92からは、リンとカルシウムの含有量が共に多い箇所が複数検出された。これらは骨や歯に由来する可能性がある。

〔第403号土坑〕(No.49~51、79~84)

分析の結果、リン (P_2O_5) が 0.21~25.76%、カルシウム (CaO) が 0.12~10.39%の値を示した。

第2層のNo.81や底面直上のNo.51からは、リンとカルシウムの含有量が共に明らかに多い箇所が検出された。他にも、底面直上のNo.49や底面下の地山のNo.82~84においてもリン含有量が多く、これらは骨や歯に由来する可能性がある。

〔第22号土器埋設遺構〕(No.97~99)

分析の結果、リン (P_2O_5) が 0.09~0.85%、カルシウム (CaO) が 0.20~0.75%の値を示した。

リン含有量は、いずれの箇所も1%未満であった。

今回、底面下の地山のリン含有量が多い遺構がみられた。リン含有量が多かったこれらの地山の試料は粗砂を含む土壌であり、骨や歯だった成分が分解されて下に浸透した可能性が考えられる。

4 おわりに

川原平(4)遺跡の縄文時代晩期の土坑と土器埋設遺構より採取した土壌について、蛍光X線分析によるリン・カルシウム分析を行った結果、第101号、第108号、第113号、第182号、第243号、第268号、第294号、第296号、第320号、第331号、第337号、第342号、第373号、第394号、第403号土坑から、リンの含有量が多い箇所が複数検出され、骨や歯の存在を示唆する結果を得た。遺構の性格については、他の自然科学分析の結果および遺物の出土状況や類例など考古学的所見も併せた総合的な判断が望まれる。

引用文献

藤根 久・佐々木由香・中村賢太郎 (2008) 蛍光X線装置を用いた元素マッピングによるリン・カルシウム分析。日本文化財科学会第25回大会研究発表要旨集, 108-109。

表1 分析対象一覧

No.	遺構名	試料名	採取層位	備考	No.	遺構名	試料名	採取層位	備考
14-1	第89号土坑	リン・カル分析-3	底面直上	ヒスイ製 勾玉出土	46	第337号土坑	リン・カル分析-6	底面直上	
12	第101号土坑	リン・カル分析-2	底面直上	晩期後葉	47		リン・カル分析-7	底面直上	
13		リン・カル分析-4	底面直上		48		リン・カル分析-8	底面直上	
14		リン・カル分析-6	底面直上		63		リン・カル分析-1	2層	
15		リン・カル分析-1	堆積土上位		64		リン・カル分析-2	1層	
16	第108号土坑	リン・カル分析-3	底面直上	顔料出土	65		リン・カル分析-3	2層	
17		リン・カル分析-10	顔料上位		66		リン・カル分析-9	底面下地山	
18		リン・カル分析-11	顔料中位		67		リン・カル分析-10	底面下地山	
19		リン・カル分析-12	顔料下位		68		リン・カル分析-11	底面下地山	
20		リン・カル分析-13	底面下地山		52		リン・カル分析-4	底面直上	
21		リン・カル分析-4	堆積土上位		53	リン・カル分析-5	底面直上		
22		リン・カル分析-6	底面直上		54	リン・カル分析-6	底面直上		
23		リン・カル分析-14	底面下地山		55	リン・カル分析-1	底面直上		
35		第111号土坑	リン・カル分析-2		底面直上	66	第342号土坑	リン・カル分析-3	底面直上
36		リン・カル分析-4	底面直上		37	第348号土坑	リン・カル分析-4	堆積土中位	
1	リン・カル分析-1	堆積土上位	38	リン・カル分析-5	堆積土中位				
2	リン・カル分析-3	底面直上	39	リン・カル分析-6	堆積土中位				
3	リン・カル分析-8	底面下地山	69	リン・カル分析-1	1層				
4	第113号土坑	リン・カル分析-4	堆積土上位	70	リン・カル分析-2		2層		
5		リン・カル分析-9	底面下地山	71	リン・カル分析-3		2層		
14-2		リン・カル分析-6	底面直上	72	リン・カル分析-7		5層		
14-3		リン・カル分析-7	赤色顔料中	73	リン・カル分析-8		5層		
6	リン・カル分析-1	堆積土上位	74	リン・カル分析-9	5層				
7	リン・カル分析-10	底面下地山	75	リン・カル分析-10	6層				
8	リン・カル分析-4	堆積土上位	76	リン・カル分析-11	底面下地山				
9	リン・カル分析-11	底面下地山	77	リン・カル分析-12	底面下地山				
10	第182号土坑	リン・カル分析-7	堆積土上位	78	リン・カル分析-13	底面下地山			
11		リン・カル分析-12	底面下地山	85	リン・カル分析-1	4層			
14-4		リン・カル分析-3	底面直上	86	リン・カル分析-2	3層			
14-5		リン・カル分析-6	底面直上	87	リン・カル分析-3	7層上位			
27		リン・カル分析-9	底面直上	88	リン・カル分析-4	6層上位			
14-6		リン・カル分析-9	底面直上	89	リン・カル分析-5	6層上位			
26	第243b号土坑	リン・カル分析-7	底面直上	90	第394号土坑	リン・カル分析-6	7層中位	フラスコ 状土器 銅体土器 出土	
27		リン・カル分析-8	底面直上	91		リン・カル分析-7	8層		
28		リン・カル分析-9	底面下地山	92		リン・カル分析-8	7層中位		
40	第268号土坑	リン・カル分析-1	底面直上	93		リン・カル分析-9	9層		
41		リン・カル分析-4	底面直上	94		リン・カル分析-11	底面下地山		
42		リン・カル分析-5	底面直上	95		リン・カル分析-12	底面下地山		
29	第294号土坑	リン・カル分析-1	底面直上	96		リン・カル分析-13	底面下地山		
30		リン・カル分析-2	底面直上	49		リン・カル分析-4	底面直上		
31		リン・カル分析-3	底面直上	50		リン・カル分析-5	底面直上		
24	第296号土坑	リン・カル分析-2	底面直上	51		リン・カル分析-6	底面直上		
25		リン・カル分析-5	底面直上	79	リン・カル分析-1	1層			
59		リン・カル分析-1	1層	80	リン・カル分析-2	2層			
60		リン・カル分析-3	1層	81	リン・カル分析-3	2層			
61		リン・カル分析-6	底面下地山	82	リン・カル分析-7	底面下地山			
62		リン・カル分析-7	底面下地山	83	リン・カル分析-8	底面下地山			
32		第301号土坑	リン・カル分析-2	底面直上	84	リン・カル分析-9	底面下地山		
33			リン・カル分析-4	底面直上	97	第22号土器	リン・カル分析-1	1層	
34	リン・カル分析-6		底面直上	98	土器 権政遺構	リン・カル分析-3	顔料中		
43	第320号土坑	リン・カル分析-7	底面直上	99		リン・カル分析-6	底面下地山		
44		リン・カル分析-8	底面直上						
45		リン・カル分析-9	底面直上						
57	第331号土坑	リン・カル分析-4	底面直上						
58		リン・カル分析-6	底面直上						

表2 半定量分析結果 (mass%) (1)

No.	遺構 #	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	SO ₃	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO ₂	Fe ₂ O ₃	Rb ₂ O	SrO	Y ₂ O ₃	ZrO ₂		
14-1	第89号土坑	a	0.83	18.08	69.87	1.09	0.24	1.64	0.46	0.82	0.15	6.76	0.00	0.01	0.01	0.03	
		b	3.32	22.06	63.69	0.97	0.35	3.30	0.49	0.96	0.15	4.61	0.01	0.02	0.02	0.05	
		c	1.56	15.10	69.17	0.64	0.20	2.10	0.50	0.71	0.27	9.70	0.00	0.01	0.01	0.00	0.01
		d	1.71	21.12	61.19	0.48	0.20	2.46	0.53	1.07	0.31	10.85	0.01	0.01	0.01	0.01	0.04
		e	2.19	19.66	63.87	0.51	0.31	2.32	0.50	1.33	0.15	9.11	0.01	0.01	0.01	0.00	0.02
12	第101号土坑	a	0.81	16.70	64.75	0.60	0.32	2.45	0.18	1.05	0.22	12.86	0.02	0.01	0.01	0.02	
		b	0.78	18.63	65.11	0.78	0.38	1.92	0.14	1.22	0.18	10.79	0.01	0.02	0.01	0.03	
		c	0.77	18.85	62.03	0.91	0.45	2.38	0.16	1.23	0.19	12.94	0.03	0.01	0.01	0.03	
		d	0.76	18.24	62.68	0.99	0.45	2.29	0.19	2.29	0.33	11.69	0.02	0.01	0.01	0.04	
		e	1.98	17.83	64.33	1.00	0.36	6.09	0.12	0.57	0.08	7.55	0.05	0.02	0.01	0.01	0.02
13	第101号土坑	a	2.08	19.27	59.65	1.05	0.40	2.03	0.20	1.49	0.20	13.54	0.02	0.04	0.01	0.04	
		b	1.50	18.27	61.79	1.08	0.36	3.19	0.22	1.15	0.16	12.19	0.03	0.01	0.01	0.04	
		c	0.84	15.74	68.29	1.18	0.35	1.58	0.18	1.03	0.28	10.49	0.02	0.01	0.01	0.03	
		d	0.94	18.99	64.98	0.89	0.45	1.90	2.86	1.43	0.10	7.34	0.01	0.07	0.01	0.03	
		e	0.81	17.23	67.54	0.84	0.34	2.88	0.49	0.90	0.21	8.69	0.02	0.01	0.01	0.03	
14	第101号土坑	a	0.79	16.89	63.55	1.85	0.48	2.26	2.78	1.31	0.18	9.83	0.03	0.02	0.01	0.02	
		b	1.19	21.36	57.96	2.89	0.57	2.21	0.33	0.98	0.46	11.99	0.02	0.02	0.01	0.02	
		c	1.28	17.83	68.95	1.46	0.34	2.54	0.95	0.88	0.12	5.56	0.01	0.02	0.01	0.03	
		d	0.95	18.83	68.51	2.03	0.30	2.10	0.18	1.85	0.13	5.07	0.01	0.01	0.01	0.02	
		e	0.66	15.46	69.97	0.71	0.44	2.13	0.27	1.06	0.16	9.05	0.01	0.01	0.01	0.03	
15	第101号土坑	a	3.29	18.73	63.06	0.61	0.36	2.18	0.54	1.16	0.20	9.79	0.01	0.01	0.01	0.00	0.06
		b	1.98	21.99	60.25	0.19	0.17	4.33	0.44	1.35	0.18	9.06	0.02	0.01	0.01	0.03	
		c	0.79	18.35	66.20	0.59	0.22	1.83	0.73	1.27	0.23	9.73	0.01	0.01	0.01	0.03	
		d	2.45	17.83	64.42	0.43	0.21	2.27	0.45	1.16	0.19	10.52	0.01	0.02	0.00	0.03	
		e	0.76	19.76	66.00	0.59	0.40	2.73	0.39	0.84	0.14	8.33	0.02	0.01	0.01	0.00	0.03
16	第101号土坑	a	3.02	17.55	65.79	0.44	0.28	1.87	0.29	1.31	0.19	9.20	0.01	0.01	0.01	0.00	0.03
		b	0.79	20.06	61.94	0.28	0.29	1.94	0.47	1.53	0.31	12.31	0.02	0.01	0.01	0.00	0.05
		c	2.15	18.28	60.18	0.42	0.26	2.35	0.32	0.81	0.23	14.95	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02
		d	0.92	15.72	75.36	0.00	0.24	1.15	0.41	1.37	0.05	4.74	0.00	0.01	0.01	0.00	0.03
		e	3.15	18.28	62.60	0.07	0.30	2.02	0.30	1.03	0.19	12.00	0.02	0.01	0.01	0.01	0.03
17	第101号土坑	a	2.57	18.14	61.58	1.29	0.21	1.50	0.34	0.85	0.18	13.28	0.01	0.02	0.01	0.02	
		b	1.47	20.06	63.03	0.57	0.31	1.97	0.31	1.53	0.14	10.55	0.01	0.01	0.01	0.04	
		c	0.78	17.68	63.56	0.85	0.30	1.73	0.28	0.92	0.11	13.72	0.01	0.01	0.01	0.03	
		d	3.25	20.03	62.68	0.97	0.40	1.79	0.53	0.66	0.15	9.48	0.01	0.01	0.01	0.03	
		e	0.72	19.22	57.40	1.29	0.32	1.89	0.34	1.00	0.16	17.58	0.02	0.02	0.01	0.04	
18	第108号土坑	a	1.96	20.16	61.48	1.74	0.23	2.17	0.71	0.90	0.21	10.38	0.01	0.02	0.00	0.02	
		b	0.77	19.55	64.68	1.74	0.20	2.48	0.28	1.15	0.27	8.83	0.02	0.01	0.01	0.03	
		c	2.77	21.48	59.56	0.86	0.27	2.32	0.35	1.08	0.32	10.92	0.01	0.02	0.00	0.03	
		d	1.84	19.11	61.71	1.95	0.30	1.75	0.33	1.05	0.24	11.67	0.02	0.01	0.00	0.02	
		e	3.39	20.30	61.93	1.44	0.23	2.02	0.40	0.99	0.37	8.87	0.01	0.01	0.01	0.03	
19	第108号土坑	a	1.61	20.70	64.72	3.50	0.27	2.05	0.41	0.81	0.04	5.85	0.01	0.01	0.00	0.02	
		b	2.13	21.99	64.49	2.54	0.34	2.08	0.28	1.04	0.07	4.97	0.00	0.02	0.01	0.04	
		c	1.27	17.97	66.19	1.59	0.13	1.86	0.23	1.08	0.33	9.31	0.01	0.01	0.00	0.02	
		d	1.81	20.19	61.24	1.95	0.17	1.95	0.37	0.93	0.78	10.53	0.01	0.03	0.01	0.03	
		e	0.71	22.49	61.96	2.80	0.33	1.69	0.43	0.72	0.09	8.71	0.02	0.00	0.00	0.06	
20	第108号土坑	a	5.81	21.68	48.89	2.37	0.31	1.07	9.03	1.08	0.28	9.43	0.00	0.01	0.01	0.02	
		b	7.59	18.80	34.22	5.76	0.17	0.43	3.52	0.47	1.24	27.73	0.01	0.02	0.01	0.02	
		c	2.87	21.19	62.97	1.62	0.30	1.63	0.37	0.88	0.19	8.10	0.02	0.02	0.01	0.03	
		d	2.27	24.72	51.90	3.59	0.29	1.37	0.43	1.01	0.32	14.11	0.01	0.01	0.01	0.04	
		e	3.41	25.66	54.75	2.31	0.40	1.33	0.60	0.70	0.38	10.39	0.00	0.05	0.00	0.02	
21	第108号土坑	a	2.06	20.47	62.81	0.40	0.36	2.31	0.48	0.91	0.24	9.90	0.02	0.01	0.01	0.00	0.03
		b	0.67	24.08	59.66	0.56	0.47	2.15	0.42	1.03	0.25	10.63	0.01	0.01	0.01	0.05	
		c	1.74	19.80	63.82	0.35	0.25	2.32	0.28	0.63	0.17	10.60	0.01	0.01	0.00	0.02	
		d	2.93	20.64	62.25	0.59	0.32	2.08	0.33	1.20	0.25	9.35	0.01	0.01	0.01	0.04	
		e	1.31	21.73	61.03	0.84	0.24	2.29	0.60	1.05	0.27	10.42	0.02	0.01	0.01	0.01	0.17
22	第108号土坑	a	2.55	16.93	65.44	1.72	0.18	1.28	0.30	0.52	0.21	10.81	0.01	0.01	0.01	0.00	0.04
		b	1.29	20.24	61.83	1.79	0.39	2.10	0.34	1.04	0.26	10.65	0.02	0.01	0.00	0.03	
		c	0.71	21.15	61.00	1.33	0.25	2.03	0.37	1.30	0.23	11.57	0.01	0.01	0.01	0.03	
		d	2.52	17.35	70.29	1.37	0.27	2.43	0.22	1.05	0.09	4.34	0.02	0.01	0.01	0.03	
		e	3.71	17.98	58.14	1.18	0.32	1.88	0.27	0.91	0.21	15.34	0.02	0.01	0.01	0.00	0.03

表3 半定量分析結果 (mass%) (2)

No.	遺構	層位	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	SO ₃	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO ₂	Fe ₂ O ₃	Rb ₂ O	SrO	Y ₂ O ₃	ZrO ₂	
23	第108号土坑	a	1.79	25.98	56.35	3.88	0.33	2.85	0.22	0.98	0.14	7.42	0.01	0.02	0.01	0.03	
		b	0.65	21.07	53.10	6.08	0.25	2.46	4.24	1.36	0.21	10.51	0.01	0.01	0.02	0.04	
		c	0.58	23.31	49.59	2.92	0.35	1.42	0.41	1.37	0.20	19.82	0.00	0.01	0.01	0.00	0.02
		d	1.45	24.05	60.72	3.37	0.28	1.91	0.36	0.96	0.33	6.51	0.01	0.02	0.01	0.01	0.03
		e	1.53	24.56	49.16	3.23	0.37	1.33	0.44	1.54	0.27	17.51	0.01	0.01	0.01	0.00	0.03
35	第111号土坑	a	0.57	18.94	62.49	0.77	0.28	2.91	0.39	2.15	0.23	11.14	0.01	0.07	0.01	0.04	
		b	0.74	22.08	58.71	1.22	0.32	2.38	0.64	1.56	0.22	12.06	0.01	0.03	0.01	0.03	
		c	0.71	21.19	61.69	0.69	0.20	1.95	0.35	1.37	0.20	11.58	0.01	0.01	0.01	0.01	0.04
		d	0.00	18.43	62.24	0.99	0.24	2.16	0.47	2.71	0.34	12.33	0.02	0.01	0.01	0.01	0.04
		e	0.46	20.57	60.65	0.74	0.28	2.17	0.99	2.10	0.23	11.73	0.02	0.02	0.01	0.01	0.04
36	第111号土坑	a	0.73	19.66	60.34	0.87	0.25	2.06	0.44	1.63	0.34	13.60	0.02	0.01	0.00	0.04	
		b	0.95	17.29	65.12	0.43	0.34	1.98	0.37	1.11	0.21	12.13	0.01	0.01	0.01	0.01	0.03
		c	0.60	16.86	66.48	0.57	0.20	2.45	0.72	0.95	0.27	10.80	0.01	0.03	0.01	0.01	0.04
		d	0.77	19.84	64.63	0.64	0.26	1.88	0.47	1.25	0.17	10.02	0.01	0.01	0.01	0.00	0.04
		e	0.85	19.58	63.42	0.20	0.20	1.97	0.56	1.34	0.27	11.52	0.01	0.02	0.02	0.02	0.03
1	第113号土坑	a	0.74	18.12	63.73	0.41	0.15	1.70	0.34	0.83	0.38	13.56	0.01	0.01	0.01	0.03	
		b	0.00	19.87	65.50	0.67	0.22	1.88	0.45	0.90	0.30	10.15	0.01	0.01	0.01	0.01	0.03
		c	0.00	19.82	62.52	0.67	0.18	2.16	0.49	1.35	0.29	12.75	0.01	0.01	0.01	0.01	0.03
		d	0.44	18.79	61.51	0.71	0.26	2.07	0.37	0.90	0.39	14.51	0.01	0.00	0.01	0.01	0.03
		e	0.73	18.93	58.19	0.72	0.36	3.04	0.36	0.85	0.33	16.43	0.01	0.01	0.01	0.01	0.04
2	第113号土坑	a	1.11	19.65	64.22	0.14	0.12	2.38	0.25	1.21	0.22	10.64	0.01	0.01	0.01	0.01	0.03
		b	0.77	20.50	67.81	0.25	0.21	2.21	0.39	1.63	0.12	6.07	0.01	0.01	0.01	0.00	0.02
		c	0.66	18.68	66.51	0.32	0.22	1.99	0.43	0.67	0.25	10.22	0.01	0.01	0.01	0.00	0.03
		d	0.71	20.27	57.42	0.27	0.18	2.05	0.64	2.65	0.44	15.28	0.02	0.01	0.01	0.01	0.03
		e	0.74	20.27	61.83	0.40	0.16	1.81	0.31	2.25	0.17	12.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.03
3	第113号土坑	a	0.63	26.02	58.33	1.36	0.30	2.47	0.18	1.25	0.30	9.10	0.00	0.04	0.01	0.03	
		b	0.79	25.84	60.52	1.03	0.18	2.27	0.40	1.24	0.12	7.56	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02
		c	1.27	21.49	66.20	1.26	0.24	1.63	0.54	0.90	0.18	6.21	0.00	0.04	0.00	0.03	0.03
		d	1.07	25.90	63.27	1.53	0.20	2.71	0.27	0.79	0.06	4.12	0.01	0.03	0.01	0.01	0.02
		e	0.01	28.29	60.17	0.89	0.30	1.99	1.53	1.34	0.05	5.33	0.02	0.04	0.01	0.01	0.05
4	第113号土坑	a	0.75	20.01	63.94	0.27	0.21	2.62	0.40	0.86	0.23	10.64	0.01	0.02	0.00	0.05	
		b	0.33	19.94	63.44	0.64	0.27	2.41	0.35	1.19	0.25	11.13	0.01	0.01	0.00	0.03	
		c	0.78	19.51	68.15	0.22	0.22	2.74	0.42	1.11	0.15	6.64	0.01	0.01	0.01	0.01	0.03
		d	0.66	18.60	53.45	0.43	0.26	1.78	0.37	3.13	0.77	20.49	0.01	0.01	0.01	0.01	0.03
		e	3.01	18.21	70.93	0.22	0.21	2.89	0.33	1.10	0.05	3.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.03
5	第113号土坑	a	0.67	24.01	59.43	1.77	0.36	2.00	0.21	1.29	0.26	9.95	0.00	0.01	0.01	0.03	
		b	1.40	22.93	58.19	1.13	0.33	2.24	0.22	1.00	0.16	12.34	0.01	0.02	0.01	0.01	0.03
		c	0.71	22.94	62.38	0.65	0.50	2.84	0.17	0.80	0.20	8.73	0.01	0.02	0.02	0.01	0.03
		d	0.98	23.50	59.62	1.19	0.31	2.24	0.61	1.10	0.17	10.24	0.01	0.01	0.01	0.01	0.03
		e	1.74	24.90	55.89	2.11	0.32	2.16	0.29	1.04	0.16	11.33	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02
14-2	第113号土坑	a	2.09	18.47	65.06	0.22	0.30	2.25	0.29	1.36	0.28	9.61	0.01	0.01	0.01	0.03	
		b	1.37	20.50	59.42	0.30	0.26	1.40	0.42	1.35	0.11	14.80	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02
		c	0.80	17.64	63.77	0.64	0.35	1.78	0.22	1.58	0.16	12.98	0.01	0.02	0.02	0.01	0.04
		d	0.80	21.61	60.38	0.00	0.34	1.83	0.31	1.00	0.19	13.48	0.02	0.01	0.01	0.01	0.03
		e	2.52	18.44	61.49	0.17	0.29	2.37	0.21	0.69	0.21	13.57	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02
14-3	第113号土坑	a	1.26	11.82	46.72	15.28	0.55	0.95	14.80	0.55	0.18	7.82	0.01	0.02	0.01	0.03	
		b	3.55	17.24	64.75	1.93	0.17	1.62	0.19	0.86	0.14	9.50	0.01	0.01	0.01	0.00	0.02
		c	2.82	20.37	61.79	2.11	0.27	3.25	0.25	0.81	0.08	8.18	0.01	0.02	0.01	0.01	0.03
		d	2.13	19.99	60.50	2.40	0.25	1.95	0.33	1.74	0.10	10.55	0.01	0.02	0.02	0.00	0.04
		e	0.80	18.17	63.24	2.58	0.16	1.84	0.25	1.16	0.11	11.61	0.01	0.02	0.02	0.01	0.03
6	第182号土坑	a	1.43	18.91	64.99	0.25	0.20	2.54	0.29	0.82	0.28	10.22	0.01	0.04	0.00	0.03	
		b	0.77	20.21	64.30	0.20	0.21	2.43	0.35	1.19	0.40	9.87	0.01	0.01	0.01	0.01	0.04
		c	0.73	20.07	61.06	0.16	0.14	2.39	0.21	0.94	0.40	13.86	0.01	0.01	0.00	0.00	0.02
		d	0.78	19.38	63.11	0.42	0.19	2.04	0.27	0.76	0.49	12.48	0.01	0.01	0.01	0.01	0.04
		e	0.39	20.08	63.46	0.46	0.18	2.07	0.28	1.02	0.40	11.59	0.01	0.01	0.01	0.01	0.03
7	第182号土坑	a	0.65	25.78	60.64	1.95	0.39	2.35	1.51	1.85	0.04	4.71	0.00	0.04	0.06	0.06	0.06
		b	1.04	22.21	54.15	0.91	0.24	1.67	1.60	0.91	0.72	16.43	0.02	0.04	0.01	0.01	0.04
		c	1.80	17.18	70.60	0.56	0.15	2.79	0.37	2.12	0.17	4.36	0.00	0.05	0.00	0.03	0.03
		d	0.94	15.16	72.74	0.16	0.09	7.90	0.07	0.51	0.03	2.32	0.02	0.01	0.01	0.01	0.03
		e	0.71	22.59	66.21	1.55	0.30	1.93	0.51	0.91	0.06	5.13	0.01	0.07	0.00	0.00	0.02

表4 半定量分析結果 (mass%) (3)

No.	透視	分析	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	SO ₃	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	Rb ₂ O	SrO	Y ₂ O ₃	ZrO ₂
8		a	0.00	22.05	63.15	0.22	0.27	2.69	0.48	0.89	0.23	9.97	0.02	0.01	0.01	0.02
		b	0.76	20.07	63.46	0.01	0.29	2.03	0.37	1.53	0.25	11.18	0.01	0.01	0.01	0.03
		c	2.12	20.57	53.63	0.30	0.32	1.81	0.38	8.27	0.29	12.23	0.02	0.01	0.01	0.04
		d	0.82	18.01	69.26	0.09	0.19	1.72	3.03	0.62	0.20	6.00	0.01	0.04	0.01	0.02
		e	0.75	21.59	64.27	0.16	0.35	2.06	0.79	1.02	0.22	8.70	0.01	0.02	0.01	0.05
9		a	1.00	23.50	60.68	2.04	0.25	2.63	0.70	0.75	0.08	8.30	0.01	0.01	0.01	0.04
		b	6.17	23.54	49.18	1.24	0.26	1.35	0.48	0.72	0.43	16.50	0.00	0.02	0.01	0.10
		c	1.38	23.27	58.99	1.71	0.24	2.02	0.20	0.71	0.16	11.27	0.01	0.01	0.00	0.02
		d	2.21	18.85	64.01	1.35	0.20	8.65	0.09	0.52	0.39	3.65	0.02	0.03	0.01	0.02
		e	1.52	20.48	63.16	2.06	0.30	3.24	0.26	1.62	0.05	7.23	0.00	0.00	0.01	0.06
10		a	1.43	19.75	62.74	0.00	0.18	2.76	0.28	1.04	0.27	11.48	0.01	0.01	0.00	0.04
		b	1.30	20.73	59.57	0.24	0.29	2.45	0.46	1.30	0.30	13.29	0.02	0.02	0.01	0.04
		c	0.73	20.20	62.57	0.26	0.33	2.05	0.53	1.65	0.30	11.27	0.01	0.02	0.01	0.07
		d	0.77	18.64	64.21	0.46	0.26	1.97	0.44	1.44	0.31	11.43	0.01	0.02	0.01	0.03
		e	2.88	19.38	63.35	0.28	0.18	2.61	0.29	1.80	0.20	8.97	0.01	0.01	0.00	0.03
11	第182号土坑	a	0.90	20.51	66.15	1.44	0.37	3.21	0.43	0.90	0.11	5.93	0.01	0.01	0.01	0.02
		b	3.34	21.91	59.36	0.59	0.16	1.91	0.40	0.63	0.34	11.29	0.00	0.03	0.00	0.04
		c	0.83	19.34	72.19	0.56	0.13	2.44	0.15	0.59	0.12	3.58	0.01	0.01	0.01	0.05
		d	2.66	25.18	56.45	0.65	0.35	1.09	0.22	1.07	0.30	12.00	0.00	0.01	0.00	0.02
		e	2.28	19.41	68.27	0.63	0.23	2.69	0.11	0.41	0.15	5.80	0.01	0.00	0.01	0.02
14-4		a	2.09	26.05	62.26	0.99	0.30	3.78	0.28	0.73	0.05	3.41	0.02	0.02	0.01	0.04
		b	2.38	20.82	61.02	0.77	0.03	2.57	2.71	0.79	0.22	8.66	0.00	0.01	0.00	0.03
		c	3.89	19.24	65.26	0.65	0.23	2.31	0.31	2.41	0.13	4.62	0.01	0.02	0.01	0.03
		d	1.21	20.91	60.76	0.78	0.38	1.93	0.58	1.21	0.29	11.88	0.02	0.01	0.01	0.03
		e	4.46	18.05	60.44	0.34	0.24	1.48	0.21	0.65	0.16	13.91	0.01	0.01	0.00	0.03
14-5		a	0.80	18.86	66.77	0.12	0.36	2.11	0.39	0.83	0.19	9.50	0.01	0.02	0.01	0.03
		b	0.81	19.27	65.72	0.20	0.30	2.53	0.37	0.81	0.17	9.73	0.02	0.01	0.00	0.03
		c	1.09	20.64	65.92	0.89	0.32	1.83	0.39	0.97	0.16	7.73	0.01	0.01	0.01	0.02
		d	3.56	19.85	61.60	0.69	0.32	2.04	0.37	1.14	0.22	10.15	0.01	0.01	0.01	0.03
		e	1.97	18.72	65.44	0.42	0.24	2.89	0.39	0.81	0.76	8.29	0.01	0.01	0.01	0.03
14-6		a	0.74	21.43	61.99	1.64	0.40	2.06	0.51	0.99	0.36	9.80	0.01	0.03	0.01	0.04
		b	0.77	19.33	63.84	0.70	0.36	1.71	0.46	1.74	0.29	10.75	0.01	0.01	0.01	0.02
		c	2.39	17.93	61.80	0.98	0.25	1.66	0.34	3.90	0.22	10.47	0.02	0.01	0.01	0.02
		d	3.18	21.37	58.65	0.85	0.40	2.41	0.50	0.90	0.24	11.43	0.02	0.02	0.01	0.04
		e	1.23	25.01	60.81	1.00	0.49	2.39	0.48	1.14	0.24	7.14	0.02	0.01	0.01	0.02
26		a	0.00	24.87	52.05	0.76	0.33	2.58	1.17	1.25	0.65	16.21	0.03	0.04	0.02	0.07
		b	0.00	23.75	57.47	1.23	0.23	2.01	0.94	1.46	0.36	12.44	0.02	0.02	0.01	0.06
		c	0.00	23.42	55.10	0.69	0.22	2.70	1.18	1.95	0.40	14.20	0.02	0.07	0.01	0.04
		d	0.00	23.74	56.14	0.44	0.30	2.44	0.84	1.03	0.40	14.59	0.02	0.01	0.01	0.04
		e	0.00	23.01	56.31	0.63	0.22	2.32	0.64	1.45	0.37	14.95	0.02	0.02	0.01	0.05
27	第243号土坑	a	0.00	21.25	65.06	1.88	0.21	2.66	0.78	1.00	0.20	6.88	0.01	0.02	0.01	0.04
		b	0.00	20.00	50.54	1.67	0.16	2.22	0.41	1.62	0.25	23.02	0.02	0.02	0.01	0.06
		c	0.00	23.54	54.21	1.60	0.23	2.30	0.87	1.26	0.55	15.34	0.02	0.02	0.02	0.04
		d	0.00	21.59	59.88	1.45	0.32	3.06	0.84	2.26	0.31	10.21	0.01	0.02	0.02	0.04
		e	0.00	21.56	56.56	2.23	0.16	3.00	0.76	1.26	0.37	14.00	0.02	0.02	0.01	0.05
28		a	0.00	24.65	58.24	0.48	0.13	2.37	0.67	0.97	0.26	12.13	0.03	0.01	0.01	0.05
		b	0.00	22.94	60.90	0.37	0.13	2.18	0.48	0.90	0.35	11.67	0.01	0.02	0.01	0.04
		c	0.00	24.72	53.47	0.51	0.07	2.99	0.89	1.20	0.26	15.80	0.01	0.02	0.01	0.05
		d	0.00	24.28	59.31	0.54	0.20	2.66	0.49	1.35	0.19	10.89	0.01	0.02	0.01	0.04
		e	0.00	24.21	62.48	0.61	0.30	2.63	0.72	1.03	0.16	7.76	0.01	0.02	0.01	0.05
40	第268号土坑	a	0.64	20.54	61.35	0.56	0.28	2.34	0.37	1.29	0.24	12.32	0.02	0.01	0.01	0.04
		b	0.15	21.99	60.06	0.64	0.28	2.63	0.31	1.65	0.37	11.83	0.02	0.02	0.01	0.03
		c	2.95	20.26	60.61	0.18	0.20	2.15	0.65	1.74	0.16	11.04	0.01	0.01	0.00	0.03
		d	2.33	18.59	68.21	0.39	0.20	1.93	0.25	0.79	0.18	7.09	0.01	0.01	0.01	0.02
		e	1.59	19.23	66.86	0.50	0.28	2.18	0.30	1.05	0.18	7.77	0.02	0.01	0.01	0.03
41		a	1.77	17.91	69.85	0.94	0.23	1.75	0.25	0.75	0.16	6.35	0.01	0.01	0.00	0.02
		b	0.78	20.13	64.65	1.40	0.15	2.18	0.29	1.77	0.16	8.40	0.03	0.01	0.01	0.04
		c	0.58	22.51	71.99	0.29	0.03	1.84	0.19	0.18	0.04	2.28	0.01	0.02	0.00	0.02
		d	0.30	21.50	60.85	0.36	0.29	1.85	0.36	1.05	0.40	12.96	0.01	0.01	0.01	0.05
		e	0.81	19.04	66.39	0.92	0.18	1.87	0.33	1.46	0.17	8.75	0.01	0.02	0.01	0.04

表5 半定量分析結果 (mass%) (4)

No.	選標 #	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	SO ₃	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	Rb ₂ O	SrO	Y ₂ O ₃	ZrO ₂	
42	第268号土坑	a	0.84	19.16	67.96	0.59	0.25	1.77	0.44	0.66	0.18	8.10	0.00	0.02	0.01	0.04
		b	0.00	24.29	60.98	1.26	0.19	2.07	0.56	1.32	0.18	9.07	0.01	0.02	0.01	0.05
		c	1.02	23.17	60.41	1.24	0.18	1.79	0.71	0.83	0.23	10.35	0.01	0.02	0.01	0.04
		d	0.00	19.30	68.35	1.16	0.16	2.85	0.39	0.69	0.21	6.80	0.01	0.03	0.01	0.04
		e	0.10	21.77	70.98	0.77	0.25	1.90	0.23	1.17	0.10	2.88	0.00	0.02	0.01	0.05
29		a	0.08	21.52	60.89	0.57	0.14	3.14	0.55	1.13	0.30	11.59	0.02	0.02	0.01	0.04
		b	0.00	24.09	60.03	0.81	0.28	2.71	1.05	0.90	0.23	9.81	0.02	0.02	0.01	0.04
		c	0.00	24.62	57.03	0.29	0.21	2.62	0.64	1.23	0.34	12.92	0.02	0.03	0.01	0.05
		d	0.00	22.23	61.75	0.83	0.15	3.09	0.59	1.41	0.23	9.63	0.02	0.02	0.01	0.03
		e	0.00	24.68	56.85	0.32	0.24	2.56	0.57	1.15	0.34	14.20	0.02	0.02	0.01	0.04
30	第294号土坑	a	0.06	23.10	65.90	0.74	0.19	3.74	0.28	0.99	0.10	4.82	0.01	0.01	0.01	0.04
		b	0.00	29.14	54.02	0.82	0.16	2.64	0.39	1.52	0.31	10.93	0.01	0.01	0.01	0.03
		c	0.00	26.02	57.49	0.99	0.17	4.15	0.76	1.16	0.23	8.97	0.02	0.01	0.01	0.03
		d	0.00	22.25	68.29	1.44	0.46	1.75	0.33	0.91	0.17	4.38	0.00	0.01	0.01	0.01
		e	0.00	24.08	57.11	0.89	0.14	3.19	0.48	1.31	0.32	12.38	0.02	0.02	0.01	0.06
31		a	0.00	31.56	51.96	1.76	0.31	2.39	1.36	0.95	0.26	9.34	0.00	0.07	0.02	0.02
		b	0.00	26.17	65.12	0.95	0.21	2.51	0.42	0.43	0.08	4.04	0.00	0.02	0.01	0.05
		c	0.00	15.08	79.09	0.00	0.28	1.17	0.92	0.48	0.05	2.91	0.00	0.00	0.00	0.01
		d	0.01	21.60	58.62	0.37	0.27	3.53	0.82	1.24	0.34	13.13	0.01	0.01	0.01	0.04
		e	0.00	34.33	45.12	1.17	0.39	1.98	0.41	1.30	0.54	14.68	0.01	0.02	0.01	0.05
24		a	0.00	31.12	34.27	13.80	0.06	1.55	2.32	1.73	0.34	14.66	0.02	0.05	0.02	0.05
		b	0.00	31.15	42.68	2.22	0.10	2.74	0.57	1.23	0.39	18.90	0.02	0.02	0.02	0.06
		c	0.00	40.46	28.79	2.27	0.05	2.42	0.77	4.54	0.46	20.03	0.03	0.03	0.03	0.11
		d	0.00	30.43	44.86	1.60	0.04	2.63	0.87	1.33	0.37	17.81	0.03	0.03	0.04	0.11
		e	0.00	29.63	43.62	4.27	0.28	2.75	0.69	1.58	0.33	16.70	0.03	0.03	0.02	0.07
25		a	0.00	27.05	50.97	1.51	0.24	2.46	0.96	1.50	0.27	14.95	0.01	0.02	0.01	0.05
		b	0.00	28.54	49.52	1.65	0.22	2.05	0.69	1.50	0.32	15.39	0.02	0.02	0.02	0.06
		c	0.00	22.29	50.46	1.14	0.32	2.18	3.28	6.41	0.29	13.51	0.02	0.04	0.02	0.04
		d	0.00	26.78	51.86	1.78	0.21	2.36	0.60	1.32	0.26	14.71	0.02	0.01	0.01	0.05
		e	0.00	27.35	51.47	1.22	0.26	2.19	0.49	1.42	0.45	15.07	0.01	0.02	0.01	0.05
59	第296号土坑	a	1.55	24.18	63.21	2.15	0.26	4.41	0.44	0.61	0.12	3.01	0.02	0.02	0.00	0.01
		b	1.17	23.64	63.15	1.99	0.33	1.44	0.33	0.89	0.17	6.86	0.01	0.01	0.00	0.01
		c	0.75	22.67	63.07	1.11	0.27	2.14	0.39	0.90	0.24	8.43	0.01	0.01	0.00	0.02
		d	0.51	18.19	70.34	0.60	0.22	2.11	0.36	0.62	0.14	6.87	0.01	0.00	0.00	0.01
		e	1.12	22.38	63.71	1.63	0.21	7.54	0.34	0.46	0.11	2.43	0.03	0.02	0.00	0.01
60		a	0.81	18.06	63.24	0.52	0.14	1.21	0.25	0.71	0.20	14.85	0.00	0.00	0.00	0.02
		b	0.82	20.56	66.61	0.57	0.22	1.62	0.40	0.71	0.14	8.31	0.01	0.01	0.00	0.02
		c	2.76	21.59	64.19	0.68	0.23	1.89	0.45	0.80	0.22	7.14	0.01	0.01	0.00	0.02
		d	0.82	21.67	66.99	0.58	0.22	2.08	0.48	0.93	0.16	6.02	0.00	0.03	0.00	0.02
		e	2.30	22.43	62.94	0.54	0.31	1.60	0.40	0.80	0.26	8.39	0.01	0.01	0.01	0.01
61		a	0.29	19.46	66.34	2.74	0.26	2.68	0.56	1.44	0.11	6.05	0.01	0.02	0.00	0.03
		b	1.07	32.44	43.30	7.14	0.53	1.08	2.51	1.19	0.30	10.39	0.01	0.02	0.01	0.01
		c	2.76	29.65	49.06	5.25	0.27	1.20	0.41	0.97	0.17	10.17	0.00	0.05	0.00	0.02
		d	3.96	25.48	50.97	3.98	0.35	1.09	0.77	1.58	0.32	11.48	0.00	0.02	0.00	0.01
		e	3.70	26.99	50.67	3.07	0.22	2.45	0.18	1.53	0.09	11.08	0.00	0.00	0.00	0.02
62		a	0.60	28.19	53.18	3.82	0.49	1.72	0.84	1.33	0.16	9.61	0.01	0.02	0.00	0.02
		b	0.64	27.54	57.22	3.82	0.45	1.91	1.58	1.79	0.06	4.86	0.00	0.11	0.00	0.01
		c	0.70	30.69	56.30	4.30	0.45	1.62	0.42	0.87	0.08	4.53	0.00	0.03	0.00	0.01
		d	3.56	28.27	52.24	3.84	0.36	1.24	2.36	0.90	0.08	7.10	0.01	0.01	0.00	0.02
		e	2.21	20.22	64.44	2.25	0.23	1.15	0.59	0.82	0.11	7.95	0.01	0.00	0.00	0.02
32	第301号土坑	a	1.08	25.10	57.08	0.68	0.21	3.14	0.47	0.84	0.58	10.75	0.02	0.01	0.01	0.03
		b	0.79	19.94	64.05	0.70	0.21	2.13	0.33	1.16	0.32	10.32	0.01	0.01	0.01	0.03
		c	1.16	21.96	61.70	0.49	0.22	2.21	0.66	1.09	0.21	10.21	0.01	0.04	0.01	0.03
		d	0.00	23.93	60.42	0.64	0.30	5.22	0.57	0.89	0.17	7.76	0.04	0.03	0.01	0.04
		e	0.19	23.05	47.67	1.12	0.23	2.07	0.41	6.38	0.57	18.25	0.01	0.01	0.00	0.04
33		a	0.48	23.83	53.52	0.56	0.25	2.62	0.82	1.59	0.31	15.94	0.02	0.02	0.01	0.04
		b	0.00	22.47	57.90	0.28	0.33	2.94	0.69	1.56	0.30	13.43	0.01	0.02	0.01	0.05
		c	0.00	20.06	63.23	0.66	0.17	3.10	0.53	1.14	0.18	10.85	0.01	0.02	0.01	0.04
		d	0.21	20.74	56.20	0.56	0.13	1.91	0.39	1.37	0.30	18.10	0.02	0.02	0.01	0.03
		e	0.00	21.64	58.07	0.62	0.28	2.23	0.60	1.65	0.65	14.22	0.01	0.01	0.01	0.02

表6 半定量分析結果 (mass%) (5)

No.	遺構	層位	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	SO ₃	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	Rb ₂ O	SrO	Y ₂ O ₃	ZrO ₂
34	第301号土坑	a	0.75	18.05	67.60	0.26	0.08	3.05	0.40	0.79	0.19	8.75	0.03	0.01	0.01	0.03
		b	1.49	18.39	57.42	0.39	0.34	2.15	1.26	1.35	0.28	16.81	0.01	0.03	0.02	0.06
		c	0.80	18.97	62.82	0.35	0.19	2.48	0.57	1.97	0.17	12.37	0.02	0.03	0.01	0.05
		d	1.75	20.92	58.04	0.21	0.23	2.35	0.56	1.21	0.26	14.39	0.02	0.01	0.01	0.05
		e	0.00	21.40	58.80	0.47	0.26	2.44	0.63	1.45	0.58	13.93	0.00	0.02	0.01	0.02
43	第320号土坑	a	0.45	21.45	61.34	1.41	0.27	2.24	0.37	1.29	0.30	10.81	0.02	0.01	0.01	0.04
		b	0.94	20.38	61.65	1.25	0.22	1.93	0.29	0.66	0.23	12.37	0.01	0.02	0.01	0.03
		c	0.82	19.34	67.33	1.72	0.32	2.07	0.54	1.58	0.09	6.13	0.01	0.01	0.01	0.04
		d	3.81	19.60	62.66	1.04	0.30	1.82	0.38	2.16	0.17	7.97	0.02	0.01	0.01	0.05
		e	0.74	20.15	60.72	1.11	0.16	3.72	0.33	1.99	0.31	10.69	0.02	0.01	0.01	0.03
44	第320号土坑	a	0.73	20.88	62.96	1.58	0.25	2.15	0.44	1.14	0.26	9.54	0.01	0.01	0.01	0.03
		b	1.48	19.08	61.26	1.12	0.25	2.00	0.34	0.81	0.29	13.30	0.01	0.03	0.01	0.02
		c	1.72	19.50	64.38	1.19	0.29	2.33	0.44	1.31	0.27	8.53	0.00	0.01	0.01	0.04
		d	0.29	19.76	74.03	0.75	0.25	1.56	0.33	0.31	0.09	2.59	0.01	0.01	0.01	0.02
		e	0.80	18.20	67.06	1.09	0.23	1.74	0.26	1.40	0.24	8.91	0.01	0.01	0.01	0.02
45	第320号土坑	a	0.00	18.91	63.80	1.38	0.31	1.71	2.07	1.29	0.27	10.15	0.03	0.02	0.01	0.03
		b	0.00	20.31	67.69	1.05	0.23	2.25	0.35	3.01	0.15	4.87	0.01	0.03	0.01	0.03
		c	2.77	21.68	58.63	1.73	0.31	2.72	0.39	1.06	0.29	10.36	0.01	0.01	0.01	0.03
		d	0.65	24.03	54.37	2.07	0.21	1.64	0.43	1.98	0.21	14.32	0.01	0.01	0.01	0.04
		e	0.37	18.37	65.49	1.17	0.24	1.96	0.41	1.22	0.25	10.45	0.02	0.01	0.00	0.03
57	第331号土坑	a	0.53	17.03	66.71	1.25	0.24	1.66	0.60	1.53	0.26	10.11	0.02	0.01	0.01	0.04
		b	0.35	21.72	58.81	1.32	0.46	2.47	0.96	1.17	0.30	12.34	0.02	0.01	0.01	0.08
		c	0.74	20.78	60.30	1.28	0.33	2.22	0.26	1.11	0.26	12.65	0.02	0.01	0.00	0.03
		d	0.08	20.84	60.66	1.42	0.27	2.84	0.31	0.99	0.25	12.24	0.02	0.02	0.01	0.06
		e	0.78	20.12	62.64	1.54	0.32	3.16	0.33	1.31	0.19	9.50	0.02	0.01	0.01	0.05
58	第331号土坑	a	2.70	17.72	67.39	0.00	0.14	2.14	0.28	0.88	0.17	8.52	0.02	0.01	0.01	0.03
		b	2.71	17.77	68.16	0.38	0.16	2.42	0.27	0.81	0.12	7.16	0.01	0.01	0.00	0.03
		c	2.26	16.30	67.26	0.21	0.18	3.23	0.20	1.60	0.11	8.59	0.01	0.01	0.01	0.02
		d	0.81	18.56	66.86	0.55	0.30	1.98	1.52	0.84	0.30	8.22	0.01	0.01	0.00	0.03
		e	1.81	18.50	66.34	0.40	0.16	2.07	0.49	1.06	0.23	8.87	0.01	0.01	0.01	0.03
46	第337号土坑	a	1.86	21.11	57.48	1.60	0.29	2.20	0.75	0.98	0.35	13.29	0.02	0.02	0.01	0.03
		b	0.02	20.04	70.59	1.65	0.21	3.85	0.33	0.60	0.12	2.48	0.02	0.03	0.01	0.04
		c	0.00	23.76	59.22	1.09	0.17	1.36	5.72	0.73	0.16	7.69	0.01	0.03	0.01	0.04
		d	0.03	22.91	60.31	1.70	0.33	2.32	0.29	1.04	0.30	10.69	0.02	0.01	0.01	0.04
		e	0.75	20.16	66.52	2.00	0.27	2.05	0.27	1.02	0.21	6.70	0.01	0.01	0.01	0.04
47	第337号土坑	a	0.06	21.16	55.08	0.51	0.23	2.30	0.25	3.53	0.31	16.45	0.02	0.03	0.02	0.05
		b	1.32	21.01	58.77	0.77	0.25	2.91	0.27	1.28	0.20	13.13	0.02	0.01	0.01	0.04
		c	0.00	23.71	56.30	1.44	0.29	2.04	0.69	1.21	0.28	13.97	0.01	0.01	0.01	0.05
		d	2.10	19.55	62.15	0.60	0.25	2.68	0.33	1.20	0.26	10.80	0.01	0.01	0.01	0.04
		e	1.86	21.47	60.22	1.10	0.32	2.70	0.28	1.10	0.42	10.47	0.01	0.01	0.01	0.03
48	第337号土坑	a	0.24	25.85	60.73	1.96	0.25	4.42	0.23	0.50	0.18	5.60	0.02	0.01	0.01	0.02
		b	2.64	20.31	58.58	1.98	0.19	3.63	1.08	1.59	0.27	9.66	0.03	0.01	0.01	0.03
		c	0.83	21.36	46.93	1.29	0.28	1.26	0.18	0.45	0.25	27.12	0.02	0.02	0.00	0.02
		d	0.28	22.66	63.02	1.53	0.29	2.49	0.36	0.97	0.22	8.12	0.01	0.01	0.01	0.03
		e	0.75	19.56	67.60	2.20	0.32	2.82	0.53	1.06	0.16	4.92	0.01	0.02	0.01	0.03
63	第337号土坑	a	0.87	17.60	71.37	0.04	0.22	2.33	0.16	0.73	0.18	6.46	0.01	0.01	0.00	0.02
		b	2.49	20.56	64.94	0.56	0.21	2.02	0.74	0.81	0.15	7.48	0.01	0.01	0.00	0.01
		c	1.88	21.80	63.10	1.01	0.36	2.22	0.33	0.76	0.24	8.26	0.01	0.01	0.00	0.02
		d	0.77	21.79	63.47	0.94	0.46	1.79	0.45	1.56	0.26	8.46	0.01	0.03	0.00	0.02
		e	0.80	21.79	67.43	0.71	0.29	1.54	0.22	1.08	0.12	5.97	0.01	0.01	0.01	0.02
64	第337号土坑	a	0.79	20.36	64.75	0.65	0.22	1.86	0.31	1.35	0.30	9.36	0.01	0.01	0.00	0.02
		b	0.94	21.26	69.13	0.75	0.21	1.72	0.23	0.78	0.12	4.82	0.01	0.00	0.00	0.02
		c	0.79	21.24	66.75	0.57	0.27	2.22	0.27	0.78	0.22	6.84	0.01	0.02	0.01	0.02
		d	2.03	20.49	66.84	1.02	0.20	2.13	0.26	0.67	0.12	6.21	0.01	0.01	0.00	0.01
		e	2.99	22.40	64.21	0.76	0.29	2.75	0.29	1.00	0.36	4.90	0.02	0.00	0.00	0.02
65	第337号土坑	a	1.64	22.91	62.40	0.65	0.36	2.12	0.31	0.92	0.26	8.38	0.01	0.01	0.00	0.02
		b	3.42	21.18	61.46	0.85	0.25	1.59	0.21	1.33	0.22	9.44	0.01	0.01	0.01	0.03
		c	0.28	16.77	75.48	0.63	0.31	1.21	0.23	0.91	0.14	3.99	0.01	0.01	0.00	0.01
		d	1.81	25.45	59.88	0.84	0.37	1.94	0.40	0.84	0.21	8.21	0.01	0.01	0.00	0.02
		e	1.94	21.43	65.90	0.78	0.29	2.27	0.18	0.61	0.16	6.39	0.01	0.01	0.00	0.02

表7 半定量分析結果 (mass%) (6)

No.	道標	層	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	SO ₃	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	Rb ₂ O	SrO	Y ₂ O ₃	ZrO ₂	
66			a	2.69	18.32	70.33	0.89	0.19	1.97	0.25	0.63	0.07	4.62	0.01	0.01	0.00	0.02
			b	1.10	19.00	69.90	1.23	0.12	2.12	0.16	0.57	0.14	5.63	0.01	0.01	0.00	0.02
			c	3.23	22.11	62.28	1.44	0.20	1.05	0.49	0.54	0.06	8.57	0.01	0.01	0.00	0.02
			d	1.96	20.89	65.73	1.38	0.16	1.61	0.24	0.90	0.21	6.86	0.01	0.01	0.00	0.03
			e	2.95	16.53	69.57	1.01	0.14	0.76	0.10	0.32	0.11	8.44	0.01	0.04	0.00	0.02
67	第337号土坑	a	2.54	21.14	65.09	1.31	0.31	1.77	0.24	0.53	0.11	6.93	0.00	0.01	0.00	0.02	
		b	2.75	19.98	64.97	0.34	0.21	2.87	0.50	1.22	0.14	7.00	0.00	0.02	0.00	0.01	
		c	0.77	22.29	67.10	1.46	0.25	2.05	0.15	1.55	0.08	4.27	0.01	0.01	0.00	0.02	
		d	1.52	23.56	68.80	0.45	0.23	1.53	0.34	0.73	0.09	2.71	0.00	0.02	0.00	0.01	
		e	1.72	21.79	68.59	1.19	0.23	2.44	0.12	1.14	0.07	2.70	0.01	0.00	0.00	0.00	
68		a	0.76	17.97	63.77	6.21	0.27	3.15	2.70	0.31	0.13	4.70	0.01	0.01	0.01	0.01	
		b	0.08	14.75	54.96	11.07	0.07	2.89	7.09	1.50	0.25	7.30	0.01	0.01	0.01	0.01	
		c	0.56	21.97	60.11	2.33	0.25	4.80	0.29	2.12	0.07	7.46	0.02	0.00	0.00	0.01	
		d	0.77	21.71	46.80	9.97	0.15	3.84	7.99	3.02	0.13	5.57	0.02	0.01	0.01	0.02	
		e	1.81	13.27	78.68	1.86	0.24	0.27	0.68	1.98	0.02	1.18	0.00	0.00	0.00	0.01	
52		a	0.79	19.25	64.54	0.97	0.27	2.03	0.31	1.14	0.29	10.33	0.01	0.01	0.01	0.04	
		b	0.73	22.15	62.31	0.58	0.26	2.27	0.28	1.47	0.25	9.64	0.01	0.01	0.01	0.03	
		c	2.28	20.86	62.31	0.86	0.17	2.32	0.25	0.98	0.54	9.37	0.01	0.01	0.01	0.03	
		d	0.77	19.08	62.93	0.72	0.24	1.77	0.26	1.48	0.23	12.44	0.02	0.02	0.01	0.04	
		e	0.70	18.76	56.18	0.36	0.16	1.46	0.22	3.23	0.25	18.61	0.01	0.01	0.01	0.03	
53	第342号土坑	a	0.19	21.06	61.55	0.55	0.13	2.10	0.24	1.39	0.28	12.44	0.01	0.01	0.01	0.03	
		b	0.92	22.34	61.84	0.24	0.20	2.23	0.30	1.10	0.23	10.52	0.02	0.01	0.01	0.04	
		c	0.76	20.67	62.30	0.68	0.21	3.47	0.29	1.05	0.28	10.22	0.02	0.01	0.01	0.03	
		d	0.76	20.28	63.60	0.96	0.30	2.03	0.29	2.23	0.22	9.26	0.01	0.01	0.01	0.04	
		e	0.66	20.44	62.43	0.41	0.19	3.37	0.20	2.28	0.30	9.64	0.00	0.01	0.01	0.05	
54		a	0.73	22.11	59.54	1.98	0.37	2.20	0.35	1.15	0.31	11.12	0.02	0.07	0.01	0.05	
		b	0.00	21.12	64.37	1.61	0.24	5.04	0.41	0.98	0.13	6.02	0.04	0.02	0.00	0.02	
		c	0.00	25.25	59.10	1.82	0.33	3.59	0.35	1.45	0.21	8.85	0.02	0.01	0.00	0.03	
		d	0.00	21.05	59.25	1.56	0.25	2.70	0.27	1.62	0.35	12.90	0.00	0.01	0.01	0.03	
		e	0.00	22.29	57.65	1.50	0.30	2.03	0.37	2.49	0.35	12.93	0.01	0.05	0.00	0.02	
55	第348号土坑	a	0.00	20.74	60.74	0.87	0.22	2.75	0.51	1.03	0.42	12.62	0.02	0.02	0.01	0.05	
		b	0.01	19.65	61.36	0.61	0.37	2.13	0.86	1.60	0.33	12.99	0.02	0.02	0.01	0.04	
		c	0.00	21.06	57.70	0.78	0.33	2.21	0.52	1.38	0.54	15.43	0.01	0.01	0.01	0.03	
		d	1.01	19.49	62.84	0.72	0.30	2.46	0.41	1.56	0.36	10.76	0.03	0.01	0.00	0.03	
		e	0.00	18.12	63.81	0.44	0.25	1.81	0.46	3.98	0.20	10.84	0.01	0.03	0.00	0.05	
56		a	0.81	21.98	58.85	0.72	0.29	2.62	0.53	1.20	0.34	12.58	0.02	0.01	0.01	0.05	
		b	0.33	19.67	66.59	0.37	0.28	2.35	1.07	1.07	0.28	7.90	0.03	0.01	0.01	0.04	
		c	0.00	22.26	60.75	0.77	0.28	2.33	0.41	1.02	0.22	11.86	0.02	0.02	0.01	0.04	
		d	0.53	21.54	59.31	0.53	0.27	3.64	0.57	1.09	0.74	11.68	0.02	0.02	0.02	0.05	
		e	0.00	20.17	61.17	0.75	0.29	2.74	0.57	1.14	0.44	12.61	0.02	0.05	0.01	0.04	
37		a	0.73	20.60	61.71	0.63	0.31	2.13	0.38	1.11	0.30	12.01	0.03	0.02	0.01	0.03	
		b	0.74	21.93	58.80	0.37	0.24	2.48	0.28	1.46	0.30	13.29	0.02	0.01	0.01	0.05	
		c	0.09	20.65	62.56	0.03	0.31	2.19	0.44	1.78	0.43	11.42	0.02	0.01	0.01	0.04	
		d	0.00	20.92	63.15	0.17	0.21	2.29	0.44	1.07	0.32	11.36	0.02	0.02	0.01	0.03	
		e	0.00	21.33	60.34	0.60	0.28	2.56	0.69	1.52	0.43	12.15	0.02	0.02	0.01	0.05	
38	第373号土坑	a	0.00	19.70	65.66	0.53	0.26	1.89	0.99	1.06	0.29	9.53	0.02	0.02	0.01	0.04	
		b	0.00	20.70	63.18	0.26	0.23	2.60	0.26	1.33	0.21	11.14	0.02	0.01	0.01	0.04	
		c	0.00	21.72	59.67	0.51	0.29	2.22	0.64	1.14	0.37	13.32	0.02	0.02	0.01	0.06	
		d	0.00	21.44	61.15	0.46	0.29	2.10	0.42	1.31	0.31	12.43	0.02	0.02	0.01	0.04	
		e	0.00	21.54	61.99	0.19	0.27	2.31	0.33	1.72	0.32	11.23	0.02	0.02	0.01	0.05	
39		a	0.09	22.42	60.76	0.05	0.17	2.18	0.49	1.25	0.33	12.15	0.02	0.02	0.01	0.05	
		b	0.08	20.72	61.08	0.51	0.26	2.91	0.46	1.24	0.31	12.33	0.03	0.02	0.01	0.04	
		c	1.53	21.85	59.16	0.47	0.22	2.15	0.36	0.84	0.37	12.98	0.01	0.01	0.01	0.04	
		d	0.63	18.38	64.31	0.42	0.19	2.18	1.19	1.27	0.30	11.04	0.02	0.02	0.01	0.04	
		e	1.09	21.10	60.53	0.06	0.35	2.64	0.51	1.23	0.55	11.81	0.03	0.02	0.01	0.06	
69		a	2.94	21.69	62.59	0.32	0.22	1.92	0.23	1.29	0.22	8.54	0.01	0.01	0.00	0.02	
		b	1.18	21.31	65.97	0.37	0.19	1.95	0.29	0.83	0.18	7.71	0.01	0.01	0.00	0.02	
		c	3.68	19.83	66.26	0.40	0.29	1.79	0.30	0.69	0.17	6.54	0.01	0.01	0.01	0.02	
		d	0.78	21.34	65.82	0.01	0.22	1.95	0.33	0.94	0.23	8.37	0.01	0.01	0.00	0.02	
		e	1.26	21.26	65.87	0.41	0.25	2.02	0.32	0.67	0.21	7.67	0.01	0.01	0.00	0.03	

表8 半定量分析結果 (mass%) (7)

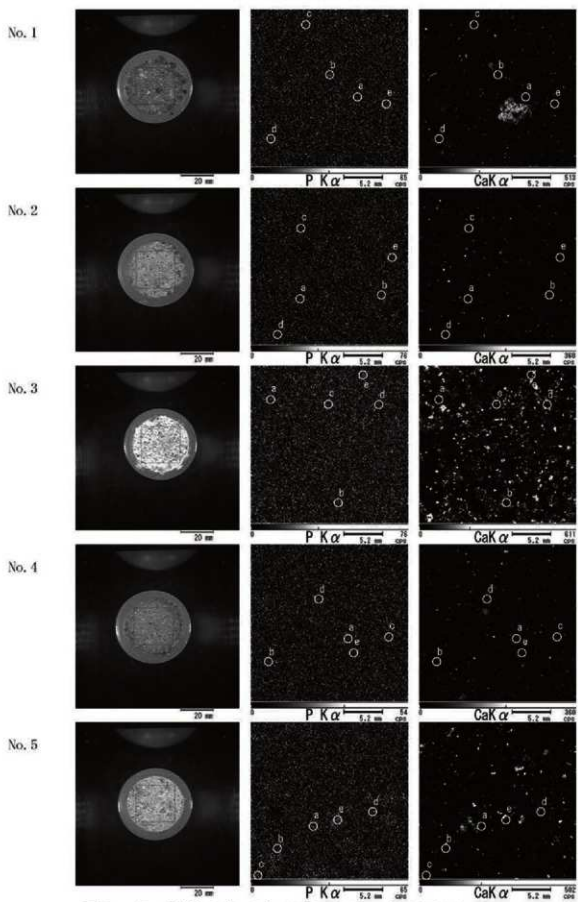
No.	産地	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	SO ₃	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	Rb ₂ O	SrO	Y ₂ O ₃	ZrO ₂
70	a	1.74	20.04	66.82	0.27	0.24	1.83	0.28	0.64	0.20	7.91	0.01	0.01	0.00	0.02
	b	1.61	19.09	68.38	0.38	0.23	2.09	0.42	1.01	0.17	6.57	0.01	0.02	0.00	0.02
	c	1.50	20.44	70.85	0.42	0.14	2.40	0.21	0.67	0.12	3.22	0.02	0.01	0.00	0.02
	d	1.76	17.06	69.45	0.28	0.15	1.71	0.43	1.65	0.16	7.31	0.01	0.01	0.00	0.02
	e	1.29	20.01	66.37	0.39	0.27	2.07	0.35	0.93	0.24	8.05	0.01	0.01	0.00	0.02
71	a	2.34	19.51	66.76	0.31	0.26	1.71	0.37	0.84	0.17	7.67	0.01	0.01	0.00	0.02
	b	1.22	18.81	69.29	0.34	0.16	1.79	0.33	0.93	0.17	6.91	0.01	0.01	0.00	0.03
	c	2.26	19.43	66.09	0.25	0.22	1.56	0.41	1.10	0.20	8.44	0.01	0.01	0.00	0.02
	d	0.82	19.90	66.78	0.47	0.23	1.82	0.59	0.88	0.11	8.36	0.01	0.01	0.00	0.02
	e	1.01	21.72	65.86	0.36	0.21	1.44	0.30	1.69	0.13	7.24	0.01	0.01	0.00	0.01
72	a	3.09	19.92	65.82	1.25	0.27	2.21	0.26	0.79	0.12	6.24	0.01	0.01	0.00	0.01
	b	2.87	20.52	64.59	1.16	0.17	1.76	1.19	0.99	0.10	6.62	0.01	0.01	0.00	0.02
	c	0.80	19.67	67.84	1.02	0.28	2.19	0.29	0.70	0.05	7.15	0.01	0.00	0.00	0.01
	d	2.04	20.35	66.28	1.12	0.13	1.62	0.92	0.68	0.15	6.68	0.01	0.01	0.00	0.02
	e	2.02	21.23	65.08	1.28	0.21	1.47	0.34	1.01	0.13	7.18	0.01	0.01	0.00	0.02
73	a	2.48	20.80	64.68	1.02	0.20	1.91	0.78	0.72	0.15	7.23	0.01	0.01	0.00	0.01
	b	1.38	20.63	66.72	0.53	0.19	1.61	0.23	1.22	0.16	7.30	0.01	0.01	0.00	0.01
	c	2.66	21.18	64.03	0.16	0.32	1.81	0.54	0.84	0.14	8.27	0.01	0.01	0.00	0.02
	d	1.60	19.28	69.47	0.24	0.20	2.45	0.20	0.55	0.14	5.83	0.01	0.01	0.00	0.02
	e	2.08	20.62	64.42	0.71	0.19	1.88	0.34	0.91	0.88	7.94	0.01	0.01	0.00	0.02
74	a	1.06	17.83	73.48	0.18	0.18	1.56	0.24	0.82	0.11	4.90	0.01	0.00	0.00	0.01
	b	2.46	21.05	66.00	1.06	0.15	1.19	1.85	1.12	0.25	4.48	0.01	0.02	0.01	0.36
	c	1.93	25.29	61.20	0.50	0.20	2.00	0.28	1.08	0.19	7.31	0.01	0.01	0.00	0.02
	d	3.09	18.46	68.80	0.21	0.25	1.34	0.28	0.93	0.13	6.49	0.01	0.01	0.00	0.01
	e	1.32	18.05	71.18	0.34	0.15	1.76	0.31	0.66	0.13	6.08	0.01	0.01	0.00	0.01
75	a	0.91	12.82	8.08	38.35	0.35	0.48	0.98	0.58	0.23	37.13	0.02	0.01	0.01	0.04
	b	2.62	21.11	68.86	1.30	0.29	1.28	0.21	0.57	0.06	3.67	0.00	0.00	0.00	0.02
	c	1.95	21.10	64.73	1.32	0.28	1.47	0.31	0.77	0.16	7.87	0.01	0.01	0.00	0.02
	d	1.21	21.43	65.96	1.23	0.18	2.06	0.41	0.72	0.14	6.64	0.01	0.01	0.00	0.02
	e	1.66	21.79	65.83	1.34	0.13	2.32	0.21	1.14	0.11	5.41	0.02	0.00	0.01	0.03
76	a	0.56	31.12	52.31	2.70	0.18	1.90	1.31	1.24	0.14	8.49	0.01	0.01	0.00	0.03
	b	0.88	31.25	55.60	3.02	0.30	1.23	4.26	0.47	0.09	2.80	0.00	0.08	0.00	0.01
	c	2.63	28.17	54.05	3.18	0.29	3.26	0.18	0.45	0.18	7.55	0.00	0.04	0.00	0.01
	d	1.25	26.92	60.49	2.73	0.19	3.66	0.56	0.75	0.07	3.34	0.00	0.02	0.00	0.02
	e	0.56	28.21	57.95	3.09	0.43	1.47	0.35	0.57	0.16	7.16	0.00	0.01	0.01	0.03
77	a	0.74	22.28	65.00	2.49	0.19	1.25	0.16	1.89	0.13	6.05	0.00	0.01	0.00	0.02
	b	5.06	23.46	52.16	1.70	0.17	0.96	6.43	1.00	0.22	8.83	0.00	0.00	0.00	0.01
	c	1.92	24.62	63.47	2.82	0.22	1.94	0.69	0.91	0.13	3.23	0.01	0.03	0.00	0.02
	d	1.77	26.48	57.80	2.20	0.20	1.27	0.33	1.61	0.14	8.17	0.00	0.03	0.00	0.01
	e	3.22	24.16	58.45	1.68	0.13	1.16	0.35	2.73	0.15	7.93	0.01	0.01	0.00	0.02
78	a	1.94	28.65	53.89	3.39	0.21	1.76	0.29	1.49	0.07	8.27	0.01	0.01	0.00	0.01
	b	2.31	29.01	60.97	2.74	0.25	2.02	0.14	0.50	0.11	1.93	0.00	0.01	0.00	0.01
	c	2.37	26.11	58.76	2.03	0.15	1.81	0.46	0.76	1.21	6.30	0.00	0.02	0.00	0.01
	d	3.11	33.99	49.71	4.09	0.35	1.94	0.23	1.09	0.29	5.16	0.00	0.01	0.00	0.02
	e	0.67	21.90	56.22	2.56	0.62	1.83	0.23	1.11	0.08	14.72	0.01	0.02	0.01	0.02
85	a	0.84	18.72	65.39	0.85	0.23	2.58	0.40	0.91	0.34	9.71	0.02	0.01	0.00	0.02
	b	2.17	19.70	64.93	0.77	0.26	2.14	0.42	0.96	0.40	8.20	0.02	0.01	0.01	0.02
	c	0.80	20.37	64.20	0.99	0.21	2.42	0.41	1.02	0.43	9.10	0.02	0.01	0.00	0.02
	d	2.32	19.15	64.18	1.14	0.34	2.13	0.57	0.94	0.38	8.81	0.02	0.01	0.00	0.02
	e	1.70	18.84	65.58	0.85	0.31	2.37	0.54	0.95	0.40	8.40	0.02	0.01	0.01	0.02
86	a	1.39	20.35	63.86	0.88	0.30	2.27	0.47	1.11	0.46	8.87	0.02	0.01	0.00	0.01
	b	1.37	19.46	66.35	0.55	0.22	2.25	0.44	0.83	0.37	8.10	0.02	0.01	0.00	0.02
	c	0.67	18.66	66.31	0.94	0.29	2.19	0.47	1.60	0.29	8.51	0.02	0.01	0.01	0.02
	d	0.81	20.54	66.59	0.98	0.33	1.96	1.55	0.70	0.23	6.27	0.01	0.01	0.01	0.02
	e	0.81	19.42	65.21	0.79	0.31	2.17	0.47	1.38	0.28	9.12	0.02	0.01	0.00	0.03
87	a	0.80	19.40	66.21	0.79	0.20	2.19	0.45	1.08	0.60	8.24	0.02	0.01	0.01	0.02
	b	1.87	18.27	67.27	1.11	0.30	1.92	0.58	0.92	0.32	7.39	0.01	0.01	0.00	0.02
	c	0.49	19.67	65.38	0.90	0.20	2.82	0.51	1.12	0.40	8.46	0.01	0.01	0.00	0.02
	d	1.48	19.44	65.19	1.02	0.26	2.39	0.70	0.80	0.37	8.30	0.01	0.01	0.00	0.02
	e	2.22	19.85	63.45	1.44	0.31	2.03	0.66	0.83	0.30	8.87	0.01	0.01	0.00	0.02

表9 半定量分析結果 (mass%) (8)

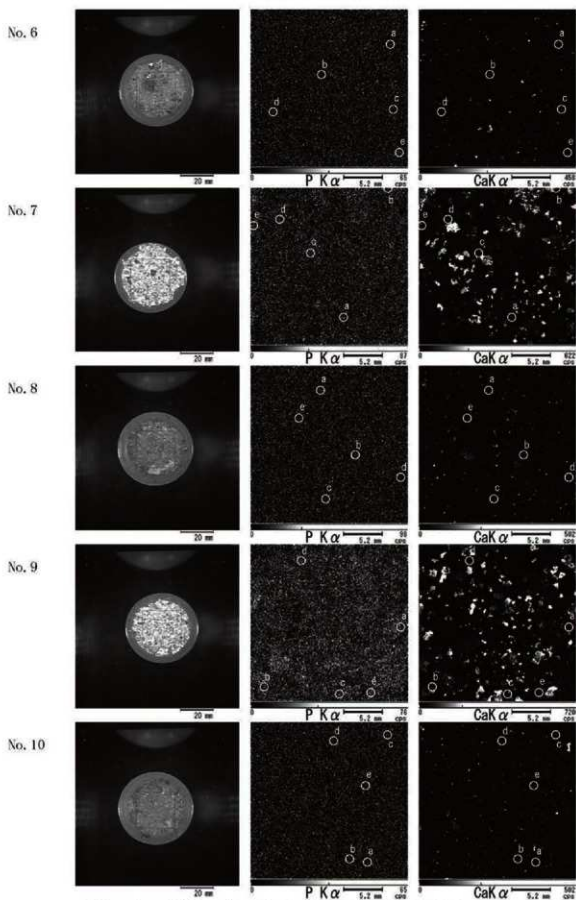
No.	道標	#(寸)	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	SO ₃	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO ₂	Fe ₂ O ₃	Rb ₂ O	SrO	Y ₂ O ₃	ZrO ₂
88		a	0.75	22.52	64.15	1.03	0.34	1.59	3.24	0.51	0.16	5.65	0.01	0.01	0.01	0.02
		b	0.79	21.23	64.88	1.12	0.32	2.83	0.41	0.70	0.31	7.35	0.02	0.01	0.00	0.02
		c	0.00	26.12	54.96	1.91	0.62	2.20	1.58	0.99	0.43	11.13	0.02	0.01	0.01	0.02
		d	0.87	21.70	64.32	0.27	0.28	2.36	0.38	0.97	0.35	8.44	0.01	0.01	0.01	0.02
		e	0.82	19.91	66.63	0.92	0.28	2.32	0.40	0.97	0.35	7.35	0.01	0.01	0.00	0.02
89		a	0.84	18.84	67.36	1.17	0.30	2.53	0.47	0.77	2.74	0.01	0.01	0.00	0.02	
		b	1.35	18.91	65.66	1.13	0.35	2.27	0.42	0.86	0.38	8.62	0.02	0.01	0.00	0.02
		c	2.15	19.27	65.45	0.84	0.33	2.32	0.43	0.87	0.37	7.88	0.02	0.01	0.00	0.05
		d	0.21	30.58	44.63	2.57	0.82	1.06	4.87	0.80	0.77	13.60	0.02	0.02	0.01	0.04
		e	2.60	19.56	64.24	0.88	0.28	2.36	0.46	1.01	0.38	8.19	0.01	0.01	0.00	0.02
90		a	1.01	13.63	79.38	0.15	0.27	1.14	0.19	0.38	0.08	3.74	0.01	0.00	0.00	0.01
		b	0.85	19.50	65.32	1.04	0.27	2.36	0.60	1.08	0.43	8.50	0.01	0.01	0.00	0.02
		c	1.74	21.00	66.79	0.58	0.21	2.45	0.37	0.95	0.23	5.64	0.01	0.01	0.00	0.02
		d	1.90	18.81	67.09	0.94	0.28	1.86	0.40	1.08	0.26	7.36	0.01	0.00	0.00	0.01
		e	1.08	20.96	64.78	0.85	0.24	2.24	0.34	1.38	0.37	7.72	0.01	0.01	0.00	0.01
91		a	2.74	18.78	66.85	0.64	0.26	1.85	0.44	0.99	0.13	7.30	0.01	0.01	0.00	0.02
		b	0.85	18.72	66.29	0.95	0.23	2.31	0.28	1.03	0.23	9.07	0.01	0.02	0.00	0.02
		c	1.84	20.19	64.43	0.65	0.22	2.08	0.32	0.74	0.39	9.09	0.01	0.01	0.00	0.02
		d	1.57	21.05	62.82	1.02	0.31	2.40	0.37	0.92	0.19	9.31	0.01	0.01	0.00	0.02
		e	2.32	21.32	63.98	0.99	0.24	2.19	0.25	1.27	0.15	7.23	0.01	0.01	0.00	0.02
第394号土坑		a	0.61	27.45	53.99	2.23	0.34	1.72	3.58	0.66	0.22	9.12	0.03	0.02	0.01	0.03
		b	1.27	20.54	66.81	0.74	0.39	1.92	2.77	0.43	0.13	4.95	0.01	0.01	0.01	0.01
		c	0.10	34.91	40.21	2.78	0.63	1.97	3.96	1.39	0.73	13.20	0.03	0.03	0.01	0.04
		d	0.00	41.29	29.20	3.97	0.98	1.31	7.80	0.87	0.51	13.93	0.04	0.03	0.02	0.05
		e	1.83	19.01	68.67	0.97	0.32	1.75	0.48	0.78	0.24	5.91	0.02	0.01	0.01	0.02
93		a	2.18	20.21	67.12	0.38	0.22	2.42	0.30	0.66	0.09	6.39	0.01	0.01	0.00	0.02
		b	5.51	20.22	65.59	0.33	0.13	1.13	0.23	0.59	0.09	6.17	0.01	0.01	0.00	0.01
		c	1.21	21.02	66.93	0.76	0.24	2.19	0.35	0.70	0.12	6.44	0.01	0.01	0.00	0.02
		d	2.44	20.54	66.12	0.72	0.28	2.35	0.54	0.65	0.08	6.23	0.01	0.01	0.00	0.01
		e	1.47	17.95	70.46	0.74	0.22	4.30	0.23	0.49	0.07	4.04	0.02	0.01	0.00	0.02
94		a	2.04	17.32	73.62	0.48	0.23	1.31	0.20	0.36	0.06	4.35	0.01	0.01	0.00	0.01
		b	2.81	19.86	65.80	0.84	0.27	2.06	0.21	0.55	0.13	7.44	0.01	0.01	0.00	0.02
		c	1.62	19.24	68.87	0.24	0.20	1.90	0.21	0.61	0.15	6.93	0.01	0.01	0.00	0.02
		d	3.09	19.31	66.19	0.41	0.19	1.67	0.31	0.88	0.46	7.47	0.01	0.01	0.00	0.01
		e	2.09	18.34	69.01	0.52	0.24	2.00	0.25	1.21	0.13	6.18	0.01	0.01	0.00	0.02
95		a	3.33	20.68	64.41	0.38	0.20	2.43	0.30	1.07	0.33	6.83	0.01	0.01	0.00	0.02
		b	1.26	20.21	70.35	0.39	0.22	2.36	0.42	0.56	0.20	3.98	0.01	0.01	0.00	0.01
		c	0.88	21.54	75.11	0.07	0.05	0.42	0.19	0.00	0.03	1.66	0.00	0.02	0.00	0.01
		d	1.91	20.28	68.24	0.60	0.21	1.95	0.24	0.46	0.14	5.95	0.01	0.01	0.00	0.01
		e	1.40	15.14	75.94	0.51	0.16	1.16	0.10	0.61	0.07	4.89	0.01	0.00	0.00	0.01
96		a	2.79	19.62	62.93	0.27	0.10	1.82	4.06	0.74	0.19	7.43	0.01	0.01	0.00	0.01
		b	3.02	18.94	69.97	0.29	0.11	2.42	0.20	0.89	0.09	4.05	0.01	0.00	0.00	0.02
		c	2.19	20.98	65.22	0.50	0.21	1.97	0.36	1.96	0.33	6.25	0.01	0.00	0.00	0.01
		d	3.73	21.96	64.02	0.49	0.20	1.87	0.26	0.62	0.51	6.30	0.01	0.01	0.00	0.02
		e	3.21	20.62	65.68	0.34	0.12	1.87	0.29	0.72	0.34	6.78	0.01	0.01	0.00	0.01
49		a	0.00	26.50	49.67	6.57	0.30	3.09	0.94	1.28	0.26	11.28	0.03	0.02	0.02	0.03
		b	0.00	15.69	56.43	0.81	0.20	1.39	0.18	0.69	1.26	23.23	0.01	0.01	0.01	0.09
		c	0.63	24.02	49.21	1.03	0.29	2.44	0.67	6.51	1.95	13.17	0.02	0.02	0.01	0.03
		d	0.00	21.44	62.54	0.82	0.18	2.04	0.31	1.12	0.37	11.12	0.01	0.01	0.00	0.04
		e	0.94	21.66	61.08	1.47	0.30	2.27	0.25	1.08	0.30	10.57	0.01	0.01	0.00	0.06
第403号土坑		a	0.75	19.84	63.83	0.21	0.21	2.09	1.24	1.99	0.19	9.57	0.01	0.01	0.01	0.03
		b	1.79	18.06	68.92	0.61	0.40	2.00	0.19	0.75	0.15	7.08	0.01	0.01	0.01	0.02
		c	3.56	20.80	57.49	0.39	0.33	2.65	0.12	1.17	0.24	13.19	0.01	0.01	0.01	0.04
		d	0.75	20.74	63.53	0.31	0.22	2.73	0.21	1.18	0.26	9.99	0.01	0.01	0.01	0.03
		e	1.22	20.08	60.94	0.74	0.33	2.49	0.24	1.31	0.20	12.39	0.00	0.03	0.01	0.12
51		a	0.00	43.41	19.62	5.72	3.25	0.57	3.06	0.61	9.07	14.43	0.01	0.02	0.04	0.19
		b	1.24	21.52	62.70	1.63	0.26	2.11	0.69	1.33	0.22	8.22	0.00	0.03	0.01	0.04
		c	0.79	20.49	64.56	1.26	0.13	1.42	0.49	1.59	0.11	9.06	0.02	0.03	0.01	0.03
		d	0.23	19.79	66.95	1.16	0.31	2.39	0.32	0.99	0.16	7.62	0.02	0.01	0.01	0.04
		e	0.23	18.91	66.11	1.50	0.25	1.78	0.22	1.44	0.21	9.29	0.01	0.01	0.01	0.04

表10 半定量分析結果 (mass%) (g)

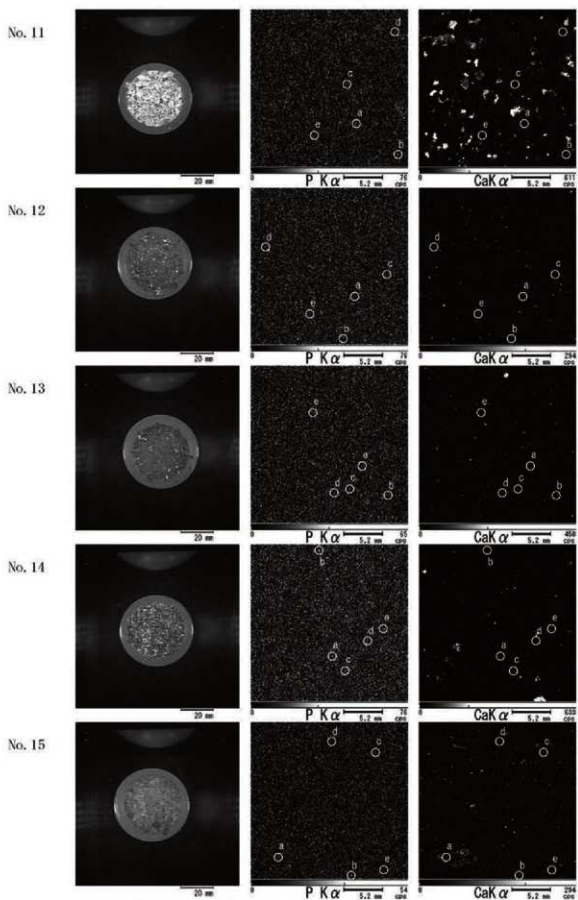
No.	遺構	層位	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	SO ₃	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO ₂	Fe ₂ O ₃	Rb ₂ O	SrO	Y ₂ O ₃	ZrO ₂
79		a	3.80	21.48	56.58	0.48	0.34	1.21	6.89	0.84	0.18	8.17	0.00	0.00	0.00	0.01
		b	2.05	20.11	66.89	0.61	0.25	1.94	0.40	0.69	0.20	6.83	0.01	0.01	0.00	0.02
		c	2.89	22.82	62.62	0.53	0.20	1.93	0.40	1.00	0.16	7.42	0.01	0.00	0.00	0.01
		d	2.80	24.31	60.44	0.70	0.26	2.07	0.20	1.13	0.19	7.86	0.01	0.01	0.00	0.01
		e	2.25	24.82	59.04	0.92	0.21	2.11	0.38	1.70	0.13	8.36	0.01	0.04	0.00	0.01
80		a	1.29	17.20	73.03	0.41	0.14	1.71	0.13	0.79	0.15	5.12	0.01	0.01	0.00	0.02
		b	0.78	20.90	64.95	0.72	0.30	1.84	0.49	0.88	0.49	8.60	0.02	0.01	0.00	0.02
		c	2.67	18.64	70.07	0.50	0.18	3.68	0.17	0.60	0.07	3.38	0.01	0.01	0.00	0.01
		d	1.27	20.63	63.18	0.40	0.18	2.20	0.19	0.52	0.19	11.20	0.01	0.01	0.00	0.01
81	第403号土坑	e	1.69	19.71	68.84	0.70	0.22	1.73	0.24	1.38	0.15	5.31	0.01	0.01	0.00	0.02
		a	1.10	7.70	28.87	25.78	6.53	3.39	10.29	1.60	0.56	14.10	0.03	0.02	0.01	0.05
		b	0.82	20.68	63.97	0.68	0.26	2.18	0.25	0.77	0.25	10.07	0.01	0.01	0.01	0.05
		c	1.59	18.88	68.72	0.39	0.24	2.28	0.25	0.70	0.26	6.86	0.01	0.01	0.00	0.02
		d	3.27	21.02	63.07	0.63	0.30	1.71	0.32	1.19	0.30	8.14	0.01	0.01	0.01	0.02
82		e	2.07	20.00	66.46	0.66	0.28	1.98	0.38	0.99	0.17	6.96	0.01	0.01	0.01	0.02
		a	1.69	24.03	59.12	1.93	0.33	2.39	0.74	0.74	0.07	8.92	0.01	0.01	0.00	0.02
		b	2.22	23.84	58.37	3.04	0.21	1.75	0.95	1.65	0.20	7.71	0.01	0.02	0.01	0.02
		c	0.62	22.34	46.58	1.79	0.37	1.16	0.21	0.91	0.13	25.84	0.01	0.02	0.01	0.01
		d	0.61	21.79	48.74	4.23	3.97	3.19	1.16	1.69	0.14	14.39	0.01	0.03	0.01	0.04
83		e	5.77	21.73	44.35	0.90	0.29	0.45	10.39	0.62	0.12	15.34	0.00	0.01	0.01	0.01
		a	1.39	26.05	59.11	1.35	0.36	1.86	0.35	1.09	0.19	8.20	0.01	0.01	0.00	0.02
		b	0.74	23.51	63.93	1.16	0.34	1.13	0.13	0.53	0.18	8.32	0.00	0.01	0.00	0.01
		c	0.79	18.45	64.80	2.67	0.26	2.32	0.21	1.28	0.08	9.07	0.01	0.02	0.00	0.05
		d	0.89	14.45	78.77	0.65	0.14	2.67	0.12	0.48	0.07	1.74	0.01	0.01	0.00	0.01
84		e	0.17	13.30	80.16	1.04	0.26	0.61	0.15	0.18	0.08	4.01	0.00	0.01	0.00	0.01
		a	4.37	21.51	57.23	1.65	0.29	1.83	1.76	1.39	0.22	9.70	0.01	0.01	0.01	0.02
		b	1.24	20.84	65.85	1.68	0.36	2.01	0.15	0.56	0.08	7.19	0.01	0.01	0.00	0.02
		c	2.08	23.58	54.29	2.25	0.35	1.36	0.14	1.70	0.26	13.98	0.00	0.00	0.00	0.01
		d	1.09	21.49	66.04	2.27	0.36	2.86	0.47	0.80	0.07	4.49	0.01	0.02	0.00	0.01
97	第22号土器埋藏遺構	e	2.23	20.98	67.72	1.33	0.26	1.42	0.15	0.60	0.13	5.26	0.01	0.01	0.00	0.02
		a	1.18	18.25	68.38	0.52	0.26	2.08	0.52	1.12	0.13	7.49	0.01	0.01	0.00	0.03
		b	1.56	21.17	64.34	0.42	0.22	2.34	0.38	0.78	0.19	8.55	0.01	0.01	0.00	0.02
		c	0.00	20.59	64.36	0.56	0.26	1.93	0.75	1.38	0.49	9.64	0.01	0.01	0.00	0.02
		d	0.83	19.05	65.99	0.58	0.15	1.79	0.39	0.82	0.18	10.17	0.01	0.01	0.01	0.02
98		e	0.82	19.15	65.45	0.69	0.28	2.47	0.52	1.34	0.20	9.04	0.01	0.01	0.00	0.02
		a	0.71	17.64	67.31	0.55	0.24	1.91	0.40	0.85	0.16	10.20	0.01	0.01	0.01	0.02
		b	1.76	19.38	64.07	0.58	0.25	2.24	0.38	1.91	0.08	9.31	0.01	0.01	0.00	0.02
		c	0.93	18.05	68.34	0.65	0.25	2.01	0.47	0.77	0.11	8.36	0.01	0.01	0.00	0.03
		d	1.46	20.42	62.91	0.56	0.24	1.97	0.46	1.25	0.11	10.57	0.01	0.01	0.00	0.03
99		e	0.23	19.08	67.04	0.09	0.19	2.33	0.33	1.77	0.14	8.75	0.01	0.01	0.00	0.02
		a	0.78	19.64	68.44	0.60	0.11	1.92	0.30	0.71	0.16	7.31	0.01	0.01	0.00	0.02
		b	2.71	16.15	71.97	0.85	0.12	1.56	0.25	0.65	0.09	5.63	0.00	0.01	0.00	0.02
		c	0.84	20.34	65.69	0.17	0.14	2.71	0.32	1.98	0.16	7.60	0.01	0.01	0.00	0.02
		d	0.84	19.84	68.52	0.57	0.18	2.17	0.29	0.76	0.12	6.67	0.01	0.01	0.00	0.02
	e	2.29	15.84	75.55	0.39	0.12	1.15	0.20	0.35	0.17	3.90	0.01	0.01	0.00	0.01	



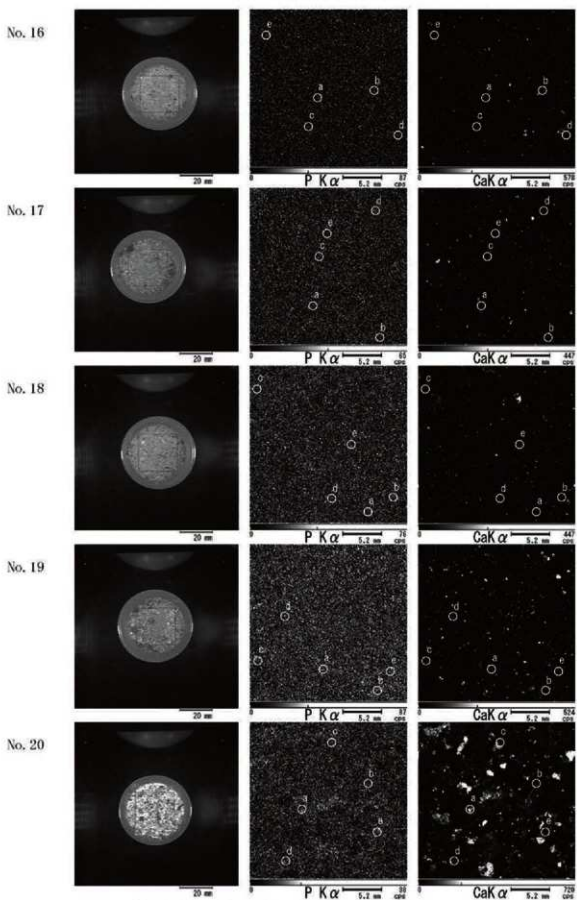
図版1 プレス試料およびリンとカルシウムの元素マッピング図(1)



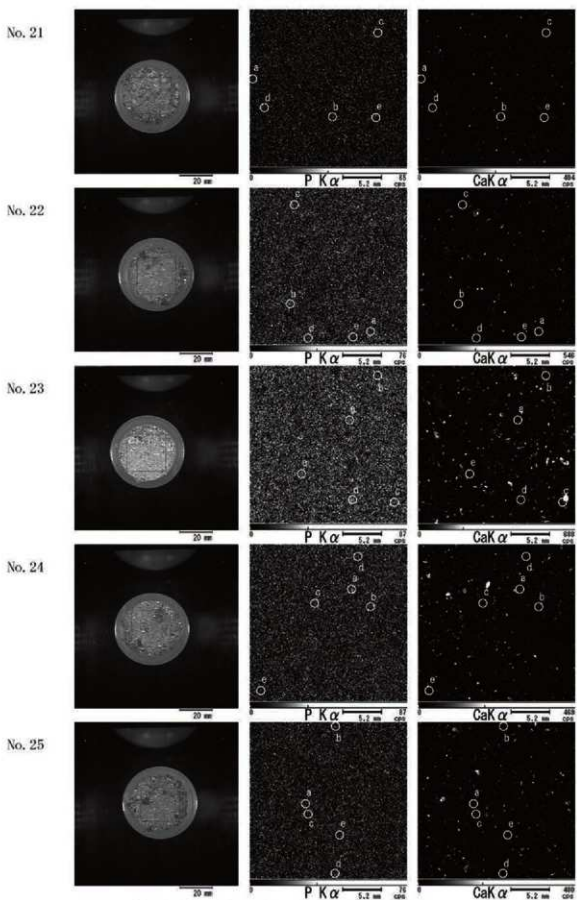
図版2 プレス試料およびリンとカルシウムの元素マッピング図 (2)



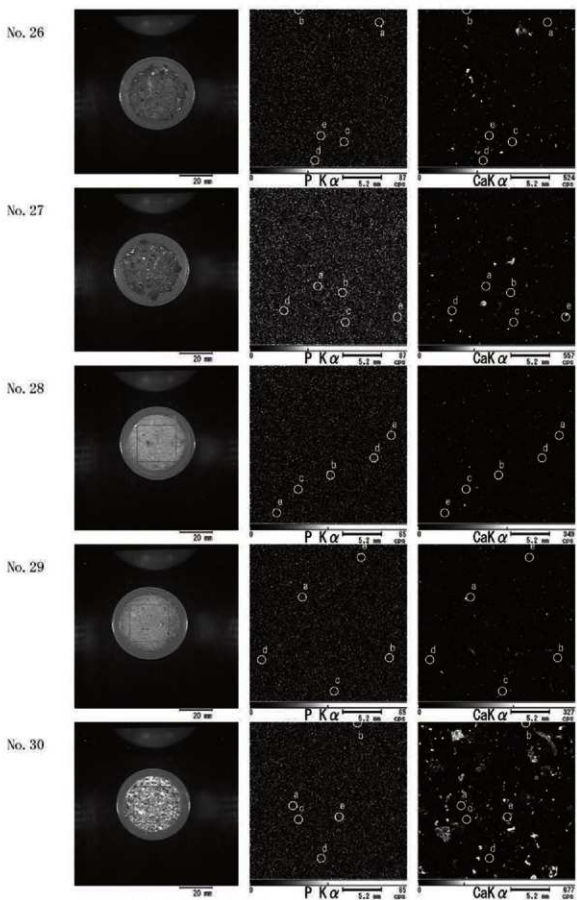
図版3 プレス試料およびリンとカルシウムの元素マッピング図 (3)



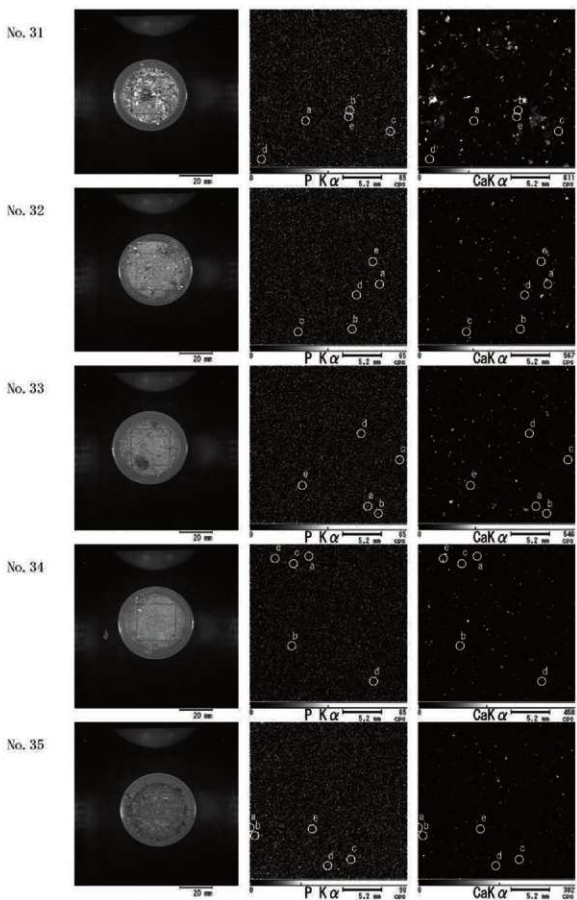
図版4 プレス試料およびリンとカルシウムの元素マッピング図 (4)



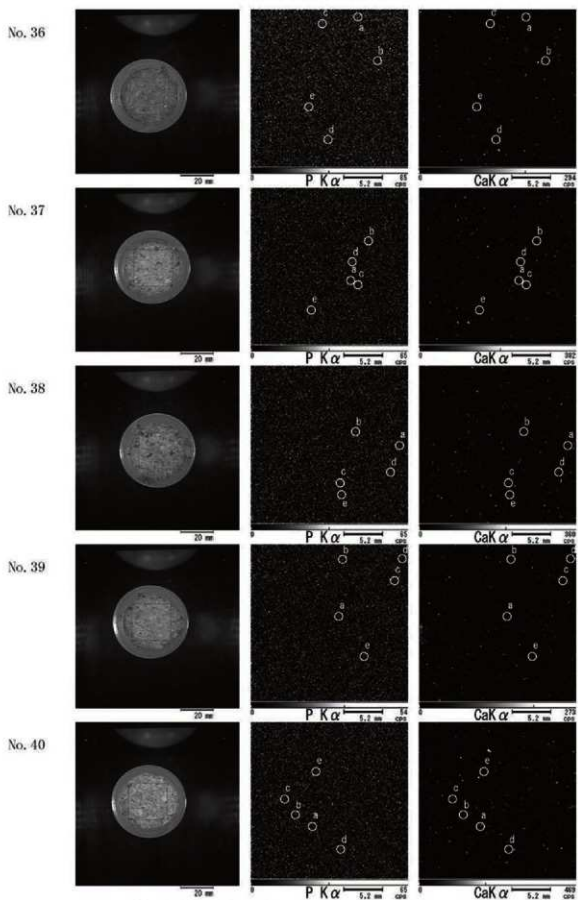
図版5 プレス試料およびリンとカルシウムの元素マッピング図(5)

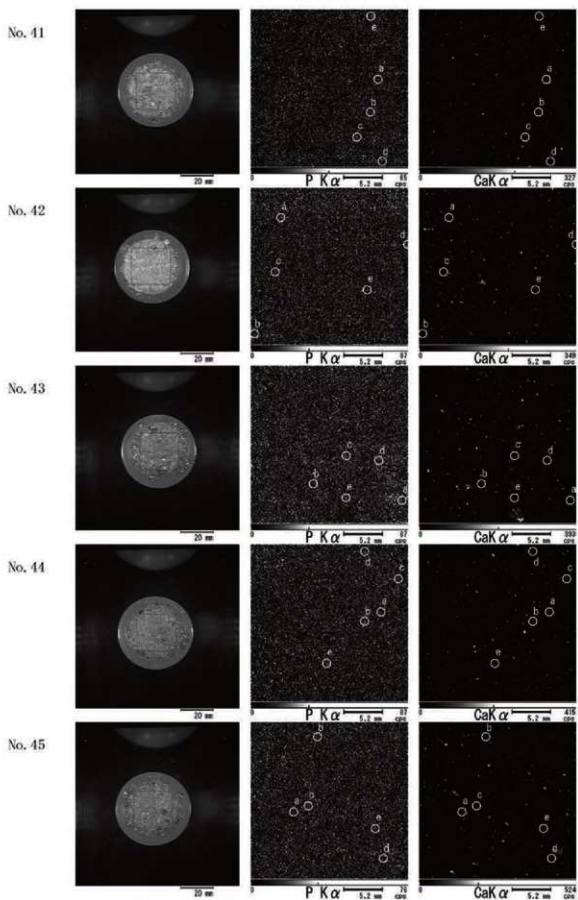


図版6 プレス試料およびリンとカルシウムの元素マッピング図 (6)

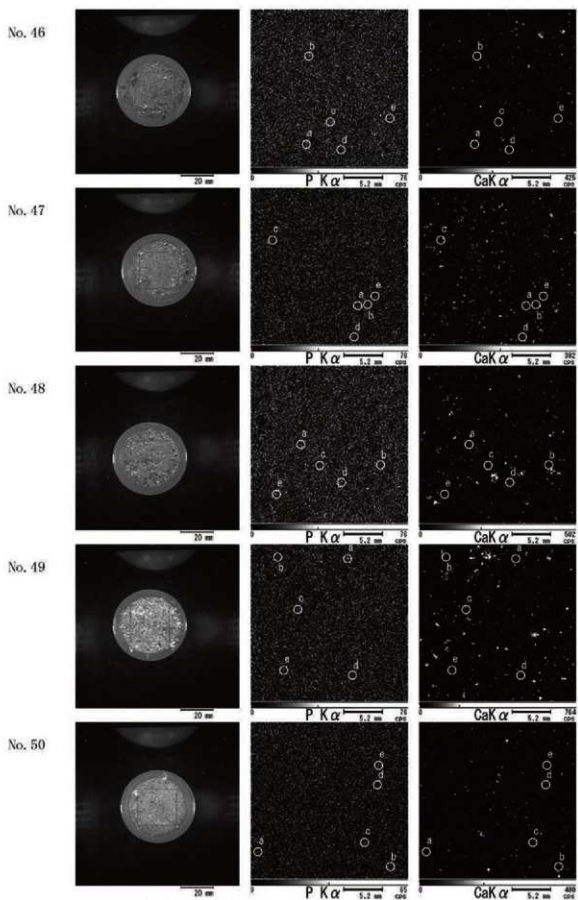


図版7 プレス試料およびリンとカルシウムの元素マッピング図(7)

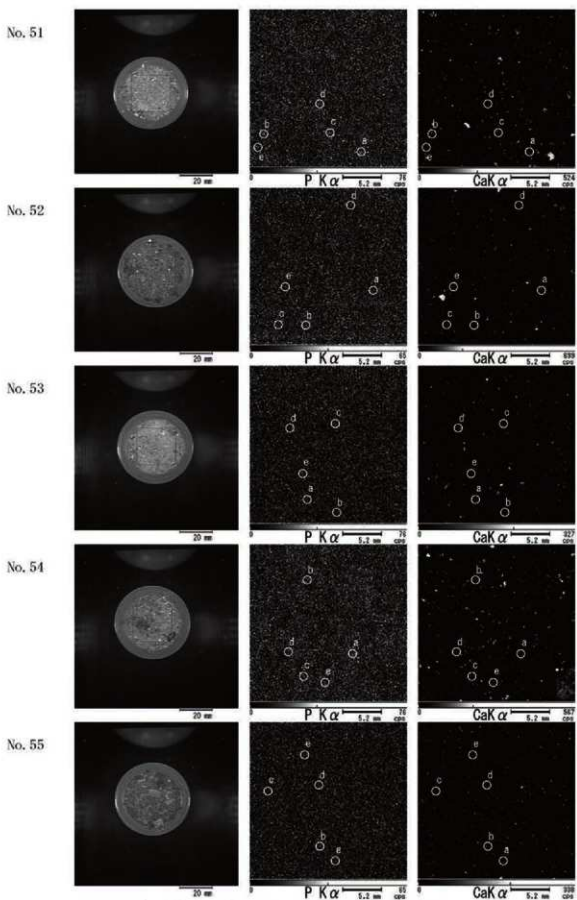




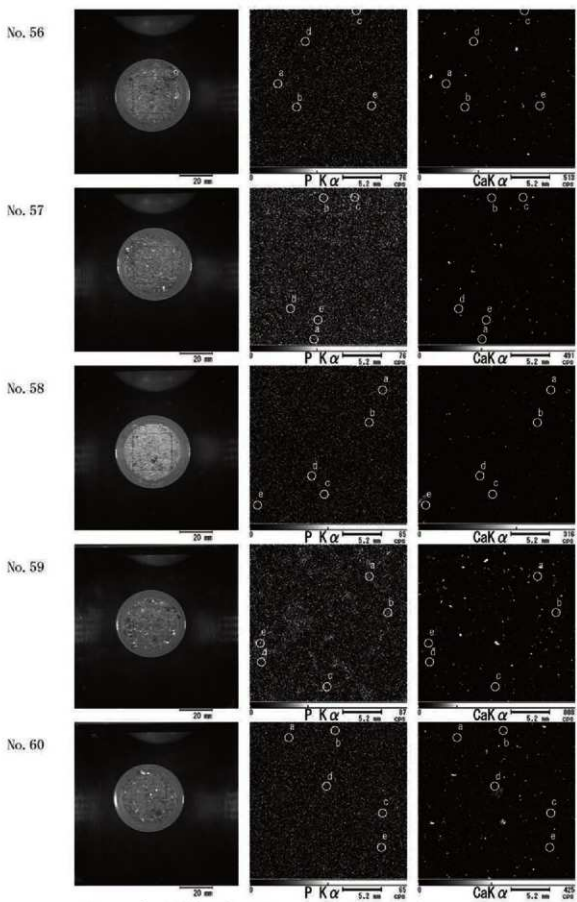
図版9 プレス試料およびリンとカルシウムの元素マッピング図 (9)



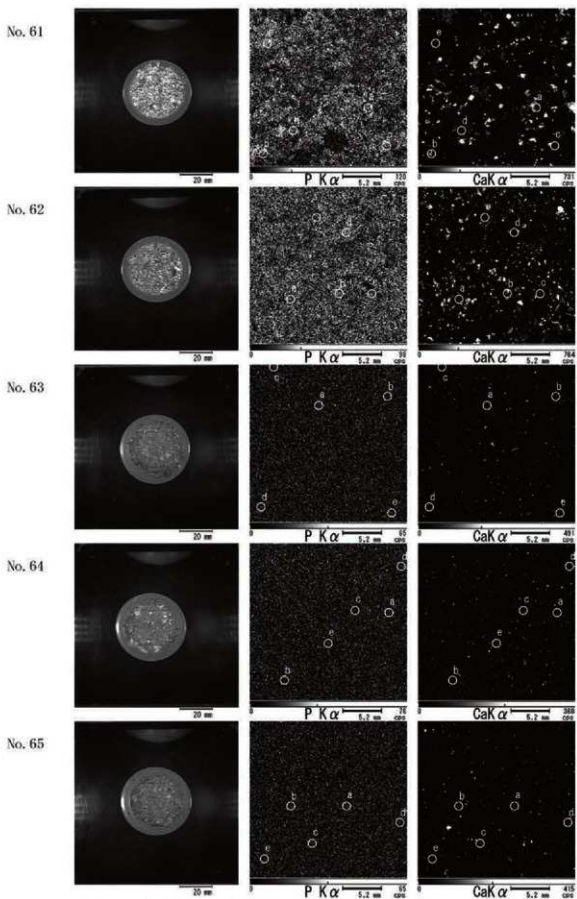
図版 10 プレス試料およびリンとカルシウムの元素マッピング図 (10)



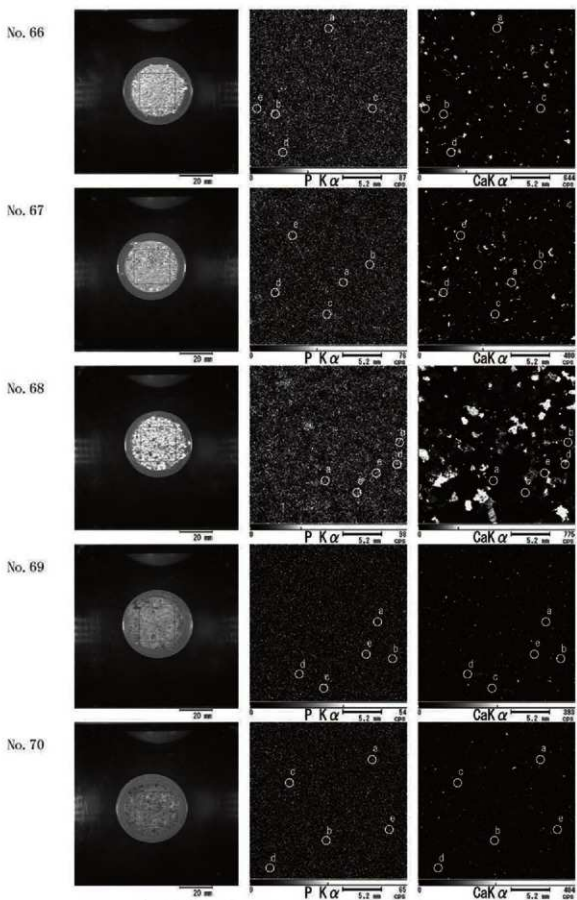
図版 11 プレス試料およびリンとカルシウムの元素マッピング図 (11)



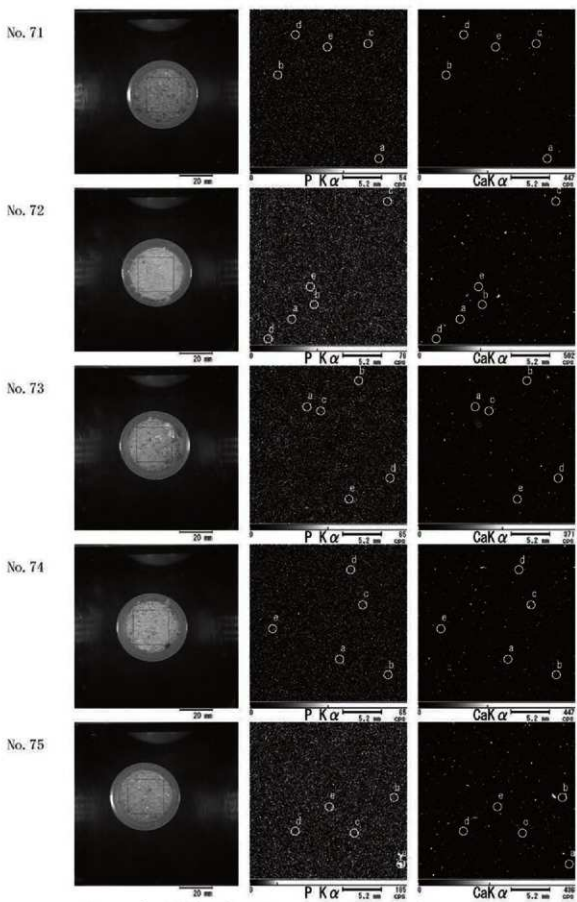
図版 12 プレス試料およびリンとカルシウムの元素マッピング図 (12)



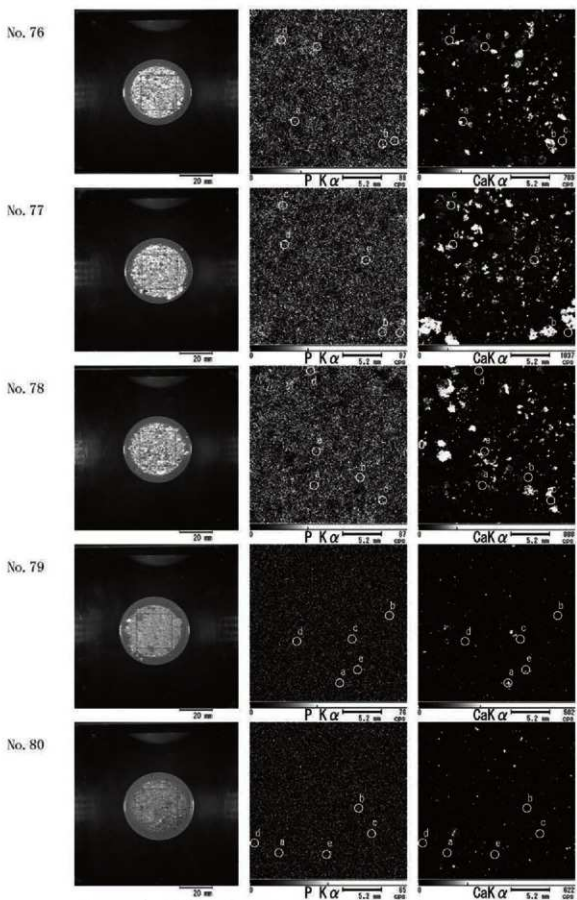
図版 13 プレス試料およびリンとカルシウムの元素マッピング図 (13)



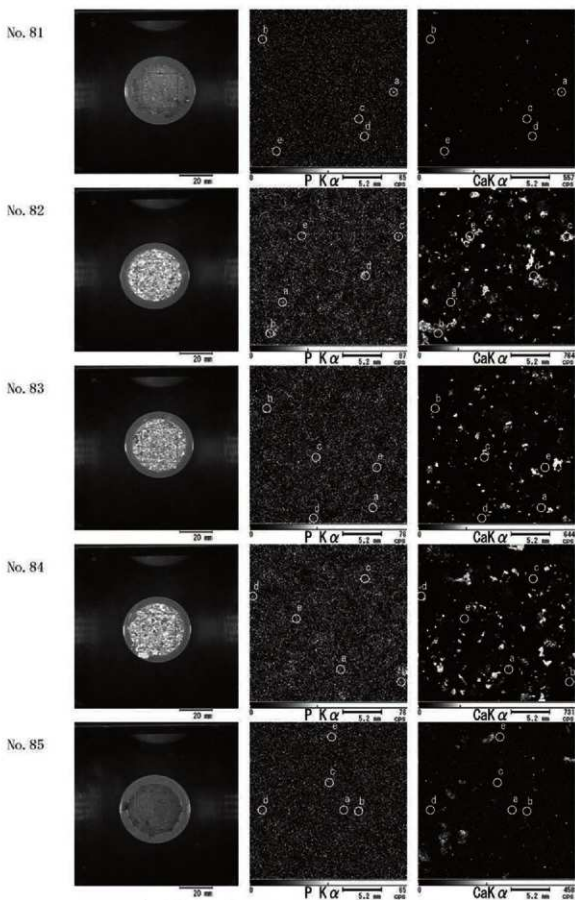
図版 14 プレス試料およびリンとカルシウムの元素マッピング図 (14)



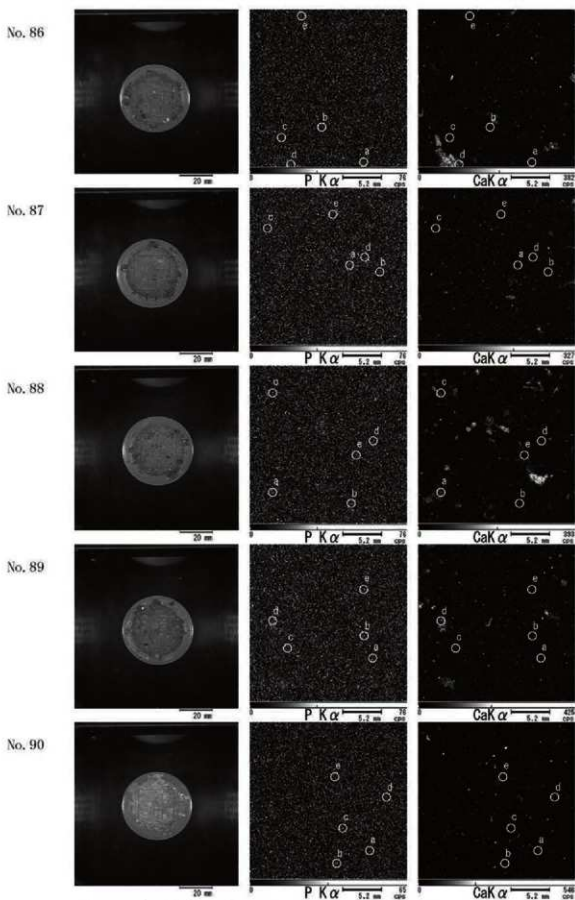
図版 15 プレス試料およびリンとカルシウムの元素マッピング図 (15)



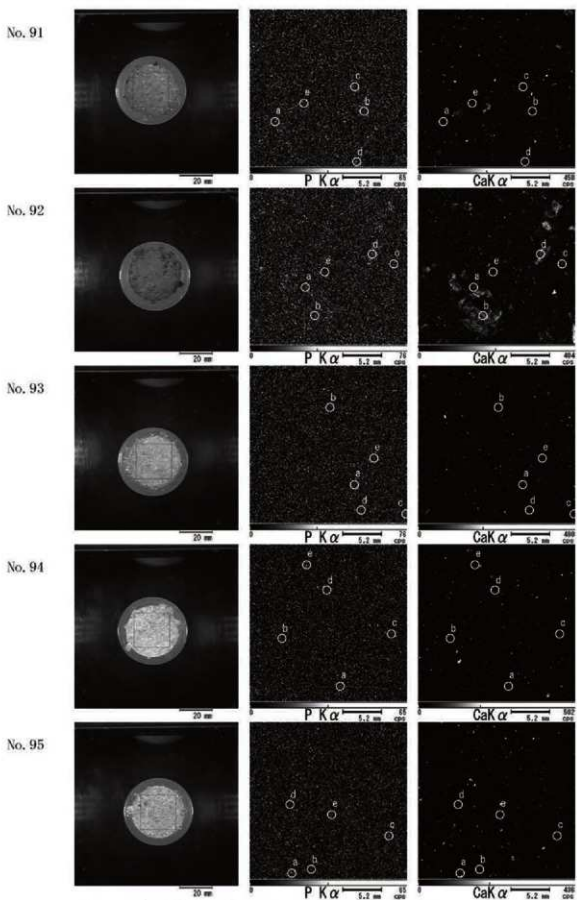
図版 16 プレス試料およびリンとカルシウムの元素マッピング図 (16)



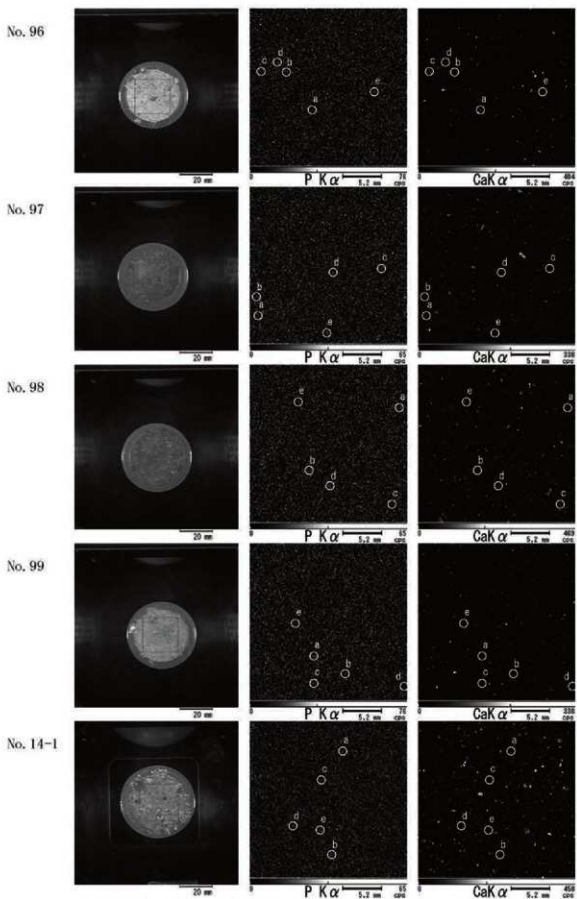
図版 17 プレス試料およびリンとカルシウムの元素マッピング図 (17)



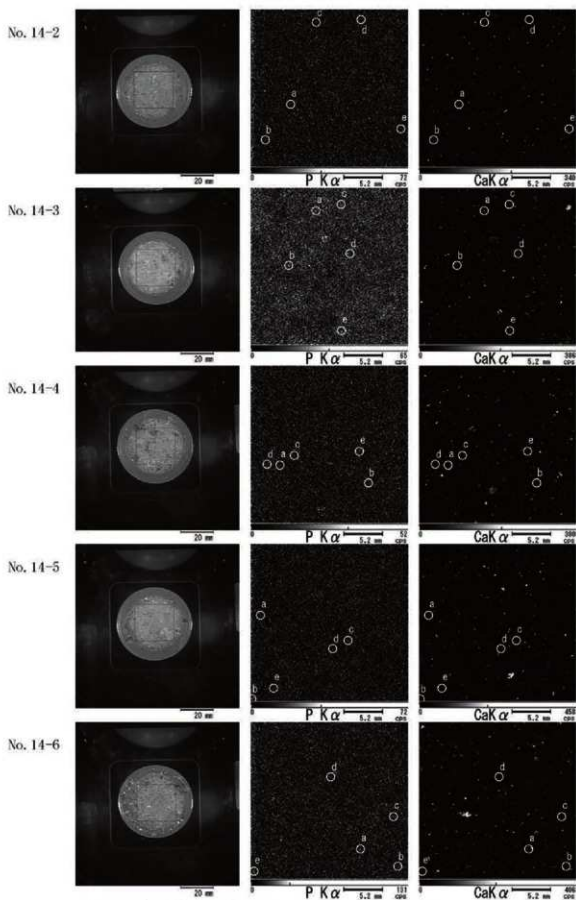
図版 18 プレス試料およびリンとカルシウムの元素マッピング図 (18)



図版 19 プレス試料およびリンとカルシウムの元素マッピング図 (19)



図版 20 プレス試料およびリンとカルシウムの元素マッピング図 (20)



図版 21 プレス試料およびリンとカルシウムの元素マッピング図 (21)

第4節 黒曜石産地同定分析

株式会社アルカ

高野 和弘 矢作 健二 齋藤 紀行 田中 義文

1 はじめに

川原平(4)遺跡B区は岩木川右岸に立地する遺跡で、縄文時代中期から晩期にかけての遺構や遺物が発見されている。本遺跡ではヒスイ製の玉類などが発見されており、当時の交易などを考察する上で、貴重な資料とされている。また、隣接する川原平(1)遺跡でも同様の時期の集落跡が確認されており、一帯には大規模な集落が形成されていたものと考えられている。

2 試料

分析に供された試料は、川原平(4)遺跡より出土した黒曜石製石器20点である。各試料の詳細は試料一覧表(表1)に記したので参照されたい。

3 分析方法

(1) エネルギー分散型蛍光X線分析装置(EDX)による測定

本分析の特徴は、試料の非破壊による測定が可能であり、かつ多元素を同時に分析できることが利点として挙げられる。一方、非破壊分析である以上、測定は試料表面のみが対象となることから、表面が汚れた試料や風化してしまっている試料については試料の洗浄あるいは測定面の選択が必要となる。本分析では試料が貴重な遺物であることから、汚れが少なく、風化が進んでいない面を選択して測定を行っている。ただし、表面の風化、汚れが目立つ場合は、メラミンスポンジを用いて洗浄したあとに分析を実施している。

本分析で使用した装置は、セイコーインスツルメンツ製エネルギー分散型蛍光X線分析装置(SEA2120L)であり、X線管球はロジウム(Rh)、検出器はSi(Li)半導体検出器である。測定条件は、励起

表1 分析試料一覧

試料No.	管理No.	ラベル記載事項	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	
1	3351	14川原平(4)③ VO-64	II層	3.4	1.9	1.2	6.9
2	3356	14川原平(4)③ VV-68	II層	2.7	2.3	0.7	4.8
3	3357	14川原平(4)④ S-X VII-73	II層	3.9	1.8	1.1	7.9
4	3349	14川原平(4)⑤ BPit1969	堆積土	1.5	0.9	0.6	0.7
5	3360	14川原平(4)⑤ VC-56	II a-1層	1.4	1.4	0.6	1.2
6	3361	14川原平(4)⑤ VD-55	II a-1層	3.9	1.8	0.8	4.8
7	3362	14川原平(4)⑤ VD-55	II a-1層	2.0	1.6	0.6	1.3
8	3363	14川原平(4)⑤ VD-55	II a-1層	1.8	1.4	0.4	0.9
9	3364	14川原平(4)⑤ VD-55	II a-1層	1.5	1.0	0.5	0.4
10	3365	14川原平(4)⑤ VD-56	II a-1層	1.6	1.6	0.6	1.4
11	3366	14川原平(4)⑤ VD-56	II層	4.5	2.9	2.2	25.4
12	3367	14川原平(4)⑤ VD-57	II層	2.0	1.8	0.4	1.4
13	3369	14川原平(4)⑤ VE-54	II a-1層	2.5	2.3	1.1	6.3
14	3370	14川原平(4)⑤ VE-55	II a-1層	1.4	0.9	0.3	0.3
15	3371	14川原平(4)⑤ VE-55	II a-1層	2.1	1.7	0.6	1.6
16	3372	14川原平(4)⑤ VE-55	II a-1層	3.6	2.1	0.6	4.2
17	3374	14川原平(4)⑤ VD-56	II a-2層	1.8	1.3	0.4	0.7
18	3375	14川原平(4)⑤北 S-X VE-56	II a-1層	2.0	1.7	0.4	1.2
19	3378	14川原平(4)⑤ VF-55	II a-1層	2.0	1.5	0.5	1.2
20	3379	14川原平(4)⑤ VF-55	II a-1層	2.4	1.1	0.4	0.9

電圧50kV、管電流自動設定 (μA)、測定時間300秒、コロメータ (照射径) $\phi 10.0\text{mm}$ 、フィルターなし、測定室雰囲気は真空である。測定元素は、Al (アルミニウム)、Si (ケイ素)、K (カリウム)、Ca (カルシウム)、Ti (チタン)、Mn (マンガン)、Fe (鉄)、Rb (ルビジウム)、Sr (ストロンチウム)、Y (イットリウム)、Zr (ジルコニウム) の11元素であり、測定試料全てにおいてマイラー膜 (PE, $2.5\mu\text{m}$; ケンプレックス製CatNo107) を介して元素X線強度 (cps) を測定した。

(2) 産地推定方法

産地推定は、望月 (2004) などによる方法に従い、測定結果 (元素X線強度 (cps)) から、5つの判別指標値を求める。5つの判別指標値は、Rb分率 $\{Rb \times 100 / (Rb + Sr + Y + Zr)\}$ 、Sr分率 $\{Sr \times 100 / (Rb + Sr + Y + Zr)\}$ 、Zr分率 $\{Zr \times 100 / (Rb + Sr + Y + Zr)\}$ 、 $Mn \times 100 / Fe$ 、 $\text{Log}(Fe/K)$ である。一方、産地推定に必要な原産地の資料に関しては、望月 (2004) で用いられている原産地試料の分析データを使い、原産地判定用資料を作成する。産地推定に用いた黒曜石原産地を図1に示す。

原産地試料の各分析データを、Rb分率と $Mn \times 100 / Fe$ 、Sr分率 - $\text{Log}(Fe/K)$ についてグラフ化する。グラフの産状ならびに二次元正規分布密度関数の結果から、原産地を元にした判別群を設定する。その名称ならびに判別群と原産地との関係を表2に示す。

各判別群について、二次元正規分布密度関数から計算した、重心より 2σ (95%) の範囲を示す楕円を上記のグラフに書く (原産地試料の各分析データは図が煩雑になるため割愛する)。これに、遺跡出土試料の分析結果を重ね合わせると、各判別群の範囲楕円内に収まるかどうかを視覚的にわかるため、産地推定の指標の一つとなる。

一方、各判別群の5つの判別指標値について、基本統計量 (平均値や分散、共分散など) を求め、各判別群の重心を求める。さらに、各判別群と遺跡出土試料とのマハラノビス平方距離を計算する。マハラノビス平方距離による判別は、先に述べた5つの判別指標値を使う方法 (望月, 2004など) と、基本的にZr分率を除くグラフに使った4つの判別指標値を使うが、群間の判別が難しい場合にZr分率を加える方法 (明治大学古文化財研究所, 2009など) がある。今回は、4成分、5成分双方の結果を掲載するが、判別には前述したグラフとの親和性などから、後者の方法を用いる。測定試料と各判別群全てについて、4成分、5成分のマハラノビス平方距離を求め、測定試料に近いものから3判別群を表に示す。これらについてカイ二乗検定を行い、99.5%の範囲に入った場合を「True」、入らなかった場合を「False」とする。

4 結果および考察

各試料の元素X線強度 (cps) および判別指標値を表3に示す。また、Rb分率と $Mn \times 100 / Fe$ 、Sr分率 - $\text{Log}(Fe/K)$ について、原産地試料の重心から 2σ (95%) の範囲を記したグラフに、各試料の結果を重ね合わせた図を、図2に記す。表4には、測定試料に近いものから3原産地分のマハラノビス平方距離を示し、これらについてカイ二乗検定を行なった結果を示す。この結果、男鹿半島由来が1点で、残り19点が出来島由来と考えられる。

男鹿半島の1点 (試料番号5) と、出来島2点 (試料番号10、16) は、カイ二乗検定でFalseであった。これは、非破壊での蛍光X線分析では、表面部分のみで測定するため風化や付着物、表面の形

状などの影響を受けやすく、値のばらつきが大きくなった結果と想定される。また、これら3試料には、類似する原産地エリアは他にみあたらず、マハラノビス距離では第二候補以下と大きくかけ離れてことから、カイ二乗検定でFalseであったが、原産地はそれぞれ男鹿半島、出来島とみて問題ないと思われる。以上のことから、男鹿半島由来が1点で、残り19点が出来島由来と考えられる。

したがって、今回の試料で見える限り、川原平(4)遺跡から出土した縄文時代とされる黒曜石製石器は、出土層位に拘わらず、ほとんどが比較的至近の出来島で産する黒曜石が使用されていたと考えられる。青森県西部には、他にも小泊や深浦など出来島と同様に海岸礫の中に黒曜石の産する場所があるが、これらの産地の黒曜石が混在しない理由としては、礫の大きさや岩質といった条件のほかにも、川原平(4)遺跡の位置が、出来島海岸の位置する津軽平野とは岩木川を通じてつながっているという地理的な条件も反映されている可能性がある。また、男鹿半島産とされる石器1点が確認されており、石材搬入の経路が一樣ではないことが窺われる。

引用文献

- 明治大学古文化財研究所, 2009, 蛍光X線分析装置による黒曜石製遺物の原産地推定 -基礎データ集 1-, 明治大学古文化財研究所, 294p.
- 望月明彦, 2004, 第5節 和野1遺跡出土黒曜石製石織の石材原産地分析, 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書452集 和野1遺跡発掘調査報告書, 476-480.

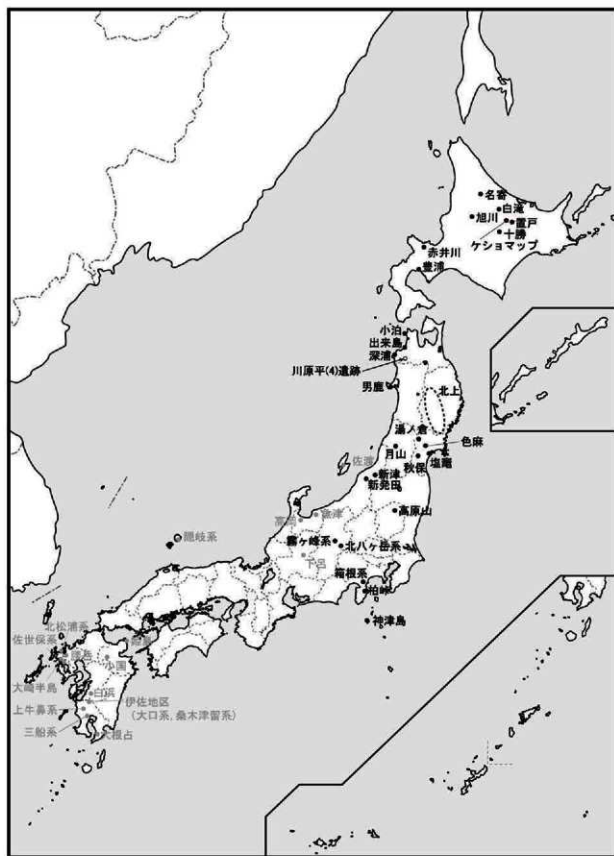


図1 黒曜石産地および川原平(4)遺跡の位置(黒字は本分析で原産地試料を参照した産地)

表2 黒曜石原産地試料一覧

大分類	中分類	判別群	記号	該当する原産地
北海道	白滝	白滝1群	白滝1	明石山頂、八号沢、白滝山頂、明石山頂
北海道	白滝	白滝2群	白滝2	八号沢、ホロカ、黒曜の沢、まんぷん沢、あじさいの滝
北海道	赤井川	赤井川	赤井川	赤井川、土木川、曲川
北海道	豊浦	豊浦	豊浦	豊泉
北海道	釧路	釧路1群、2群	釧路1、釧路2	釧路山系
北海道	十勝	三股	三股	十勝三股、十三の沢、タウシュベツ川、中間峯
北海道	名寄	名寄	名寄	名寄赤川
北海道	旭川	旭川	旭川	高砂台・雨台・専光台
北海道	ケシヨマップ	ケシヨマップ	ケシヨ	ケシヨマップ川
東北	深浦	深浦	深浦	岡崎浜、深浦公園、日和見、六角沢、八音山
東北	岩木山	出来島	出来島	出来島
東北	男鹿	男鹿1群	男鹿1	金ヶ崎、臨本
東北	男鹿	男鹿2群	男鹿2	臨本
東北	月山	月山1群	月山1	西川町志津、朝日町田代沢など
東北	月山	月山2群	月山2	鶴岡市今野川、鶴岡市大橋川
東北	北上	北上1群	北上1	水沢折居、花泉日影田ノ沢、雫石小泉沢
東北	北上	北上2群	北上2	水沢折居、花泉日影田ノ沢、雫石小泉沢
東北	北上	北上3群	北上3	水沢折居
東北	湯ノ倉	湯ノ倉	湯ノ倉	湯ノ倉
東北	秋保	秋保1群	秋保1	秋保土蔵
東北	秋保	秋保2群	秋保2	秋保土蔵
東北	色麻	色麻	色麻	色麻町堤原
東北	塩竈	塩竈湾群	塩竈	塩竈市塩屋湯津
東北	小泊	小泊	小泊	曹田小泊村折居内
関東	天城	拍峰1群、2群	拍峰1、拍峰2	天城拍峰
関東	箱根	箱根	箱根	箱根宿
関東	箱根	銀冷屋	銀冷屋	箱根銀冷屋
関東	箱根	黒岩権	黒岩権	箱根黒岩権
関東	箱根	上多賀	上多賀	箱根上多賀
関東	箱根	芦ノ湯	芦ノ湯	箱根芦ノ湯
関東	神津島	要験島	要験島	要験島、長浜
関東	神津島	砂崎崎	砂崎崎	砂崎崎、長浜
関東	高原山	高原1群	高原1	甘露沢、桜沢
関東	高原山	高原2群	高原2	七島沢
信州	霧ヶ峰	男女倉1群	男女1	ぶどう沢、牧ヶ沢、高松沢、本沢下
信州	霧ヶ峰	男女倉2群	男女2	ぶどう沢、牧ヶ沢
信州	霧ヶ峰	男女倉3群	男女3	ぶどう沢、牧ヶ沢、高松沢、本沢下
信州	霧ヶ峰	黒山系	黒山	黒山峠、黒山
信州	霧ヶ峰	西霧ヶ峰系	黒ヶ塚	黒ヶ塚、黒ヶ台
信州	霧ヶ峰	和田峠1群	和田1	古峠、土屋橋北
信州	霧ヶ峰	和田峠2群	和田2	丁子御領、芙蓉パーライト、鷺ヶ峰
信州	霧ヶ峰	和田峠3群	和田3	小深沢、芙蓉パーライト、新和田トンネル、土屋橋北、土屋橋東、18地点、24地点、26地点、丁子御領、鷺ヶ峰
信州	霧ヶ峰	和田峠4群	和田4	小深沢、芙蓉パーライト、新和田トンネル、土屋橋北、土屋橋西、土屋橋東、18地点、24地点、26地点、丁子御領、鷺ヶ峰
信州	霧ヶ峰	和田峠5群	和田5	24地点、25地点、26地点、小深沢
信州	霧ヶ峰	和田峠6群	和田6	小深沢、芙蓉パーライト、24地点、25地点、26地点、土屋橋西、土屋橋東
信州	霧ヶ峰	和田峠7群	和田7	黒岩権、芙蓉パーライト、古峠、丁子御領、鷺ヶ峰、土屋橋北
信州	霧ヶ峰	和田峠5群	和田6	25地点、26地点、土屋橋東
信州	北八ヶ岳	横谷系双子池	双子池	双子池
信州	北八ヶ岳	横谷系亀甲池	亀甲池	亀甲池、雲杉池
信州	北八ヶ岳	冷山・叢草系	叢草系	冷山、叢草峠、双子池、洪ノ湯、八ヶ岳7、八ヶ岳9、長門美しの森
信州	北八ヶ岳	中ツ原	中ツ原	中ツ原(遠眺試料)
新潟・北陸	新潟	新奥田	新奥田	新奥田坂山
新潟・北陸	新潟	新津	新津	新津倉津

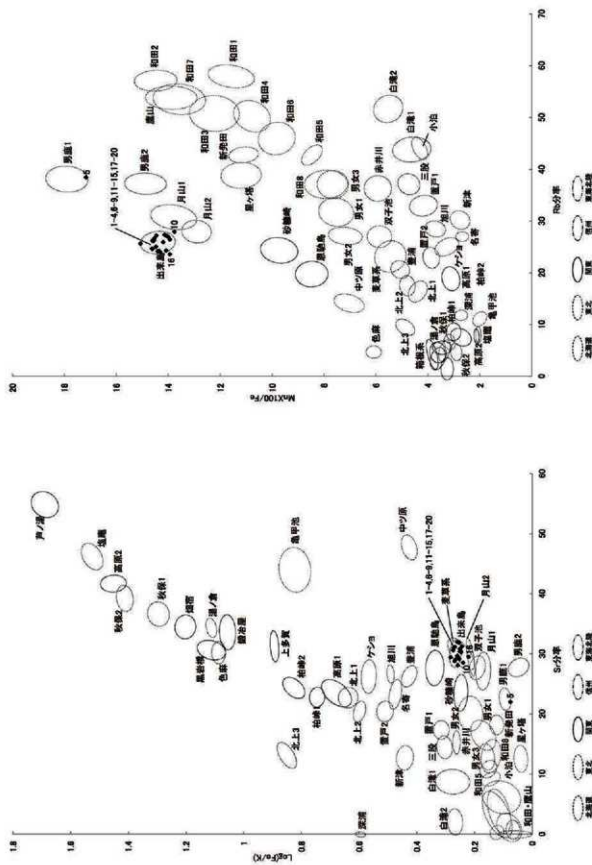


図2 黒曜石産地推定結果

表3 スペクトル強度と判別指標値

試料 No.	強度(cps)												判別指標			
	Al	Si	K	Ca	Ti	Mn	Fe	Rb	Sr	Y	Zr	Fe分率	Sr分率	Zr分率	Me100 /Fe	log D _{Fe} /D _O
1	54.25	427.85	42.32	18.12	2.63	11.08	78.91	7.42	9.13	3.60	8.82	24.13	29.85	28.01	14.41	0.29
2	86.44	480.76	44.04	18.42	3.59	11.15	79.97	8.78	8.15	4.34	8.40	23.99	31.84	29.31	13.94	0.29
3	86.73	447.13	44.16	18.77	3.47	11.94	82.06	8.71	8.87	4.89	8.86	26.82	28.77	28.78	14.54	0.27
4	88.28	465.81	44.56	21.82	3.43	11.95	82.00	8.23	9.13	5.53	8.53	26.19	29.06	27.14	14.56	0.27
5	89.19	465.95	43.18	23.53	3.21	12.31	79.17	18.11	9.22	6.00	10.96	28.45	32.02	28.21	17.17	0.30
6	95.46	455.41	43.29	17.84	3.48	11.15	78.32	7.55	9.27	4.55	8.88	24.63	30.25	30.29	14.61	0.25
7	89.29	481.68	47.28	20.72	3.25	12.17	84.69	7.98	9.94	4.97	9.12	24.58	31.85	29.23	14.27	0.25
8	79.29	587.85	55.84	25.06	4.10	14.87	98.73	10.07	11.29	3.77	9.91	27.21	30.47	28.77	14.46	0.25
9	94.28	431.21	40.36	21.16	3.08	11.10	77.55	8.11	9.93	6.35	9.39	24.01	28.40	27.79	14.32	0.28
10	81.26	470.57	49.34	21.88	3.48	12.18	85.68	9.03	8.93	6.08	8.76	26.96	28.51	28.98	14.19	0.24
11	88.41	448.19	41.81	18.51	3.57	10.72	77.90	8.84	8.49	3.84	8.70	27.94	31.03	28.48	13.76	0.27
12	87.78	487.18	42.87	19.86	3.20	11.96	79.50	7.78	9.46	4.41	8.71	25.82	31.15	28.70	15.07	0.27
13	89.82	461.06	46.23	21.23	3.50	11.53	81.89	7.54	9.68	4.31	9.48	24.31	31.22	30.56	14.08	0.24
14	80.59	491.29	48.05	21.70	3.53	12.32	87.19	9.08	9.84	3.91	9.28	27.34	29.53	29.24	14.14	0.29
15	58.78	478.21	47.26	19.52	3.58	12.23	84.50	7.72	9.99	3.39	8.76	25.96	29.15	28.40	14.48	0.25
16	95.15	446.64	45.17	18.74	2.85	10.97	79.03	7.39	8.85	5.31	8.43	24.89	29.31	28.13	14.83	0.22
17	82.47	510.37	48.15	22.54	3.87	12.78	87.25	8.75	9.38	6.20	9.06	26.20	28.09	27.14	14.62	0.26
18	88.87	473.77	45.77	19.90	3.11	11.42	81.84	8.96	15.24	8.22	8.85	26.82	30.79	28.80	14.00	0.25
19	81.24	492.92	48.53	21.90	3.25	12.18	88.51	8.95	10.51	4.40	8.89	27.16	30.38	28.19	14.08	0.25
20	86.13	456.72	44.61	21.24	3.48	11.54	82.77	8.04	9.27	4.74	8.89	26.43	30.57	27.98	13.94	0.27

表4 黒曜石産地判定結果

試料 No.	4成分												5成分					
	第1候補			第2候補			第3候補			第1候補			第2候補			第3候補		
	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定
1	出来島	8.5	T	月山2	99.8	F	月山1	110.1	F	出来島	9.7	T	月山2	101.3	F	月山1	118.7	F
2	出来島	13.2	T	月山2	84.8	F	月山1	114.8	F	出来島	15.1	F	月山2	85.1	F	月山1	115.7	F
3	出来島	3.0	T	月山1	101.9	F	月山2	270.1	F	出来島	3.1	T	月山1	102.7	F	月山2	283.7	F
4	出来島	2.3	T	月山1	99.7	F	月山2	203.0	F	出来島	6.0	T	月山1	107.1	F	月山2	203.8	F
5	男籠1	14.9	F	男籠2	155.2	F	月山1	191.6	F	男籠1	15.5	F	男籠2	155.3	F	月山1	191.9	F
6	出来島	10.7	T	月山2	72.9	F	月山1	92.4	F	出来島	12.4	T	月山2	85.0	F	月山1	92.4	F
7	出来島	9.6	T	月山2	75.8	F	月山1	105.8	F	出来島	11.4	T	月山2	78.2	F	月山1	106.1	F
8	出来島	10.4	T	月山1	70.1	F	月山2	76.8	F	出来島	12.7	T	月山1	73.4	F	月山2	80.9	F
9	出来島	9.7	T	月山1	149.1	F	月山2	262.9	F	出来島	10.4	T	月山1	160.4	F	月山2	266.4	F
10	出来島	20.4	F	月山2	99.5	F	月山1	60.8	F	出来島	26.4	F	月山2	59.5	F	月山1	65.5	F
11	出来島	10.3	T	月山1	100.1	F	月山2	219.8	F	出来島	17.1	F	月山1	100.5	F	月山2	234.9	F
12	出来島	9.6	T	月山1	130.8	F	月山2	157.5	F	出来島	12.0	T	月山1	131.2	F	月山2	162.9	F
13	出来島	14.1	T	月山2	61.8	F	月山1	85.8	F	出来島	18.6	F	月山2	66.2	F	月山1	86.0	F
14	出来島	6.4	T	月山1	77.1	F	月山2	153.0	F	出来島	18.9	F	月山1	90.8	F	月山2	154.5	F
15	出来島	7.8	T	月山1	90.1	F	月山2	92.7	F	出来島	9.8	T	月山2	93.0	F	月山1	94.6	F
16	出来島	39.2	F	月山1	68.2	F	月山2	108.7	F	出来島	49.2	F	月山1	72.5	F	月山2	108.7	F
17	出来島	8.6	T	月山1	89.5	F	月山2	197.9	F	出来島	17.7	F	月山1	88.3	F	月山2	198.2	F
18	出来島	8.5	T	月山2	57.8	F	月山1	70.5	F	出来島	10.7	T	月山2	57.8	F	月山1	74.7	F
19	出来島	8.5	T	月山1	68.0	F	月山2	74.9	F	出来島	10.9	T	月山1	69.3	F	月山2	91.0	F
20	出来島	3.5	T	月山1	108.2	F	月山2	200.3	F	出来島	3.5	T	月山1	111.2	F	月山2	200.4	F

距離=マハラノビス平方距離 判定は χ^2 二乗検定の結果(T(TRUE), F(FALSE))

第5節 樹種同定分析

(株) バレオ・ラボ
黒沼保子

1 はじめに

青森県中津軽郡に位置する川原平(4)遺跡から出土した炭化材について樹種同定を行った。

2 試料と方法

試料は、堅穴住居跡であるBSI03から出土した炭化材5点である。遺構の時期は、縄文時代中期後葉と推測されている。

樹種同定は、カミソリまたは手で3断面(横断面・接線断面・放射断面)を割り出し、直径1cmの真鍮製試料台に試料を両面テープで固定した。その後、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡(KEYENCE社製 VE-9800)を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

3 結果

樹種同定の結果、広葉樹のクリと、ブナ属、エゴノキ属、トネリコ属シオジ節(以下シオジ節)の4分類群が確認された。試料は破片になっており、元の形状は不明である。C-3では、試料内にシオジ節とエゴノキ属の2分類群が確認された。結果の一覧を表1に示す。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

(1) クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 図版1 1a-1c (C-2)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で主に単列である。

クリは温帯下部から暖帯に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

(2) ブナ属 *Fagus* ブナ科 図版1 2a-2c (C-1)、3a-3c (C-4)

小型で単独の道管が密に分布し、晩材部ではやや径を減ずる散孔材である。道管の穿孔は単一のものと同段階の2種類がある。放射組織はほぼ同性で、単列のもの、2~数列のもの、広放射組織の3種類がある。

ブナ属は温帯に分布する落葉高木で、ブナとイヌブナがある。材は、堅硬および緻密で、靱性があるが保存性は低い。

(3) エゴノキ属 *Styrax* エゴノキ科 図版1 4a-4c (C-3-2)

小型の道管が、放射方向に数個複合して分布する散孔材で、晩材部で道管が小型になり数も減る。軸方向柔組織は短接線状となる。道管の穿孔は10段程度の階段状である。放射組織は1~4列幅で、

表1 樹種同定結果

No.	遺構	樹種	形状
C-1	BSI03	ブナ属	破片
C-2		クリ	破片
C-3-1		トネリコ属シオジ節	破片
C-3-2		エゴノキ属	破片
C-4		ブナ属	破片
C-5		ブナ属	破片

異性である。

エゴノキ属は温帯から熱帯にかけて分布する落葉小高木で、エゴノキやハクウンボク、コハクウンボクの3種がある。材はやや重硬で緻密である。

(4) トネリコ属シオジ節 *Fraxinus* sect. *Fraxinaster* モクセイ科 図版1 5a-5c (C-3-1)

年輪のはじめに大型の道管が数列並ぶ環孔材で、晩材部では厚壁の小道管が単独もしくは放射方向に2～3個複合して散在する。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、1～3列幅である。

シオジ節は温帯に分布する落葉高木で、シオジとヤチダモがある。材はやや重硬で粘りがあり、加工性および保存性は中庸である。

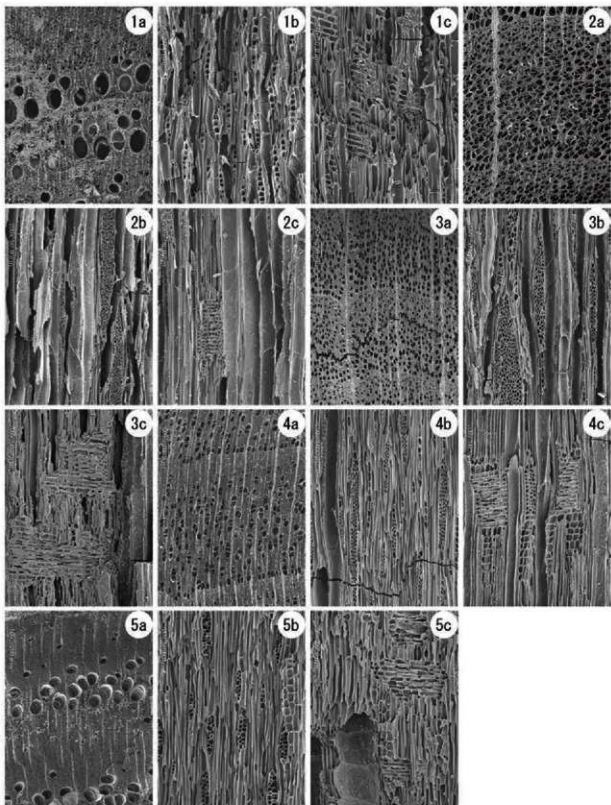
4 考察

竪穴住居跡 BS103 から出土した炭化材のうち、今回分析を行った試料は、ブナ属が3点で多く、クリとエゴノキ属、シオジ節が各1点であった。試料はいずれも取り上げ後の乾燥の際に破片になったが、元は5cm角以上であったと推測される。床面直上から出土しているため、建築材の可能性はある。いずれの樹種も比較的重硬な材質で、建築材としても有用である。

青森県における縄文時代中期の建築材は、クリの利用が圧倒的に多い(伊東・山田編, 2012)。しかし、今回の分析ではクリも確認されているものの、ブナ属の利用がやや多く、周辺遺跡の木材利用とはやや異なる傾向を示した。確認された樹種はいずれも温帯の山地に分布しており、遺跡周辺に生育していたと考えられる。したがって、竪穴住居跡 BS103 ではクリにこだわらず、周辺の樹木のうち重硬な材質の樹種を選択して利用していた可能性がある。

引用文献

伊東隆夫・山田昌久編(2012)木の考古学—出土木製品用材データベース—, 449p, 海青社。



図版1 川原平(4)遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. クリ (C-2)、2a-2c. ブナ属 (C-1)、3a-3c. ブナ属 (C-4)、4a-4c. エゴノキ属 (C-3-2)、
5a-5c. トネリコ属シオジ節 (C-3-1)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面

第5章 総括

川原平(4)遺跡は岩木川右岸の河岸段丘上に位置し、各段丘の平坦面において集落が形成される。B区の立地は、隣接する川原平(1)遺跡と同一の段丘面に相当し、B区北側のA区、A区北東側のE区の順で立地標高が低くなる。B区の検出遺構は、竪穴住居跡27棟、掘立柱建物跡11棟、土坑296基、土器埋設遺構26基、焼土遺構3基、ピット578基等で、主に縄文時代中期から晩期にかけての集落であることがわかった。本遺跡では、地点により主体となる遺構・遺物の時期的様相が異なっており、以下、B区を中心にA区・E区を含めた本遺跡の調査成果をまとめる。

本遺跡では、縄文時代早期から人間活動の痕跡が看取される。E区では、主に縄文時代早期中葉から前期前葉に位置づけられる遺物が出土している。石器ではトランシェ様石器の出土が目立ち、B区においても少量出している。

縄文時代中期中葉から認められ、B区北側に多く分布する。円筒上層c式期は、竪穴住居跡2棟が確認されている。円筒上層e式から複林式期は遺構数が増加し、竪穴住居跡及び大型の土坑が、B区北側の斜面に面した台地縁辺部に構築される。竪穴住居跡では、テラス状の施設をもつものや壁際に段状の施設をもつものがある。B区における当該期の竪穴住居跡は、大型の土坑のほぼ真上に構築される事例が多くみられ、土坑埋没過程の凹地を利用した構築が想定される。縄文時代中期後葉に位置づけられる大型の土坑の中には、断面形がフラスコ状のものや、底面にピットをもつものが含まれる。最花式期は、前時期までと遺構の分布が異なり、B区西側の平坦面を中心に竪穴住居跡や土坑がみられる。炉形態は多様で、第25号竪穴住居跡の炉1や第3号焼土遺構で土器片敷石囲炉、第3号竪穴住居跡で前庭部状の施設を伴う炉等がある。同じく最花式期の第21号竪穴住居跡からは、石囲炉と近接して2石平行の配石施設が検出されており、近隣では西目屋村水上(2)遺跡で大木10式併行期の類例がある(青森県教委2013)。また、第21号竪穴住居跡では、石囲炉・配石施設を結ぶ軸線上の壁際から、石皿と石棒がともに直立状態で出た。県内では縄文時代中期から後期にかけて、今別村山崎(1)遺跡第12号土坑の例(青森県教委1982)、八戸市田面木平(1)遺跡第33号竪穴住居跡の炉跡例(八戸市教委1988)等、石皿と石棒、あるいは石皿と立石のセット関係をもつ事例が散見される。縄文時代中期末葉から後期初頃にかけての遺構・遺物は、A区に集中する。検出遺構は竪穴住居跡17棟、掘立柱建物跡2棟等である。遺物では門前式との関連が指摘される土器も出している。

縄文時代後期前葉以降は、遺構数・遺物量ともに急減するが、縄文時代後期後葉には、B区東端で掘立柱建物跡、E区で竪穴住居跡等が構築される。B区第1号掘立柱建物跡は、平面亀甲形の6本柱建物跡で、近隣の西目屋村砂子瀬遺跡で検出された掘立柱建物跡群と比較すると平面規模が小さい。棟持柱は、各々内側への傾きが認められ、青森市上野尻遺跡に類例がある(青森県教委2003)。縄文時代後期末葉から晩期前葉頃には、B区・E区で土坑等が少数みられる。土坑の中には断面形がフラスコ状のものが含まれ、E区第10号土坑では、堆積土中位の中央と壁際から縄文時代晩期前葉の個体土器が複数出土しており、転用蓋の可能性が指摘されている。B区第394号土坑もフラスコ状土坑で、堆積土中位から粗製の深鉢形土器が横位に潰れた状態で出土し、土器の直下付近でリン・カルシウム含有量が特に多い結果が得られた。

縄文時代晩期中葉には、B区北西側を中心に楕円形土坑群（BⅠ群土坑）と土器埋設遺構群が展開するものと思われる。BⅠ群土坑は、土坑墓とその可能性のあるものを含む200基近くが集中的に分布し、土器埋設遺構の分布と重なることから、両者はほぼ同時期に構築された可能性がある。BⅠ群土坑の長軸方向は南北軸の敷基を除き、北西-南東軸から南西-北東軸が大半である。平面規模は、BⅠ群土坑集中分布域の西側と東側で違いがみられ、西側ほど規模が大きい傾向がある。堆積土については、上位にローム質土が堆積する事例がみられる。また、堆積土中の礫出土状況も各種みられ、中でも比較的大きな礫が壁際に並ぶ事例は、集中分布域の西側に分布し、土坑の断面形が袋状を呈するものとの関係性が強く、加えて赤色顔料が検出されるものが目立つ。礫が壁際に並ぶ事例は、秋田県栗ノ木塚遺跡（増田町教委 1979）に類例がある。ただし、栗ノ木塚遺跡の事例は礫の配置に規則性が強く窺われる点で本遺跡と異なる。玉類の出土土坑はヒスイ製玉類が2基、緑色凝灰岩製玉類が2基である。第370号土坑では、緑色凝灰岩製の玉類156点が出土し、西側の底面付近からは一部連珠の状態で出土した。BⅠ群土坑の出土土器は、縄文時代晩期中葉のV群土器や晩期後葉のVI群土器等がある。破片資料で、出土事例も少数に限られることから一概には断定できないが、BⅠ群土坑は大洞C1式期から一部縄文時代晩期後葉にかけて構築された可能性がある。縄文時代晩期の土器埋設遺構は22基検出され、粗製の深鉢形土器の正位埋設が主体である。土器内の赤色顔料検出例が2例、底部穿孔の事例が1例認められた。土器埋設遺構は土器附着炭化物3試料の年代測定を行い、測定値が $2,680 \pm 20 \text{yrBP} \sim 2,700 \pm 30 \text{yrBP}$ の範囲にまとまる結果が得られた。土坑墓と土器埋設遺構の関係性については、今後より踏み込んだ検討を要する。

縄文時代晩期後葉には、B区東側に円形土坑群（A群土坑）、フラスコ状土坑（BⅡ群土坑3類）、竪穴住居跡、B区北西側に掘立建物跡等が構築される。また、BⅠ群土坑の中には、一部当該期に属するものが含まれるものと思われる。遺物量は極めて増加し、本遺跡B区における主体をなす。出土土器では大洞A式の新相に位置づけられるものが主体的である。A群土坑は大洞A式期のものと考えられ、28基が極めてまとまった分布を示す。土坑規模は大小があるが、土坑形態、堆積状況、礫の出土状況等に各土坑の近似性が認められ、遺構間接合事例も多く認められた。掘立建物跡及び周囲のピット群は、大洞A式から大洞A'式期に帰属するものと考えられる。柱穴の柱痕内や柱痕相当部の上位からは、黄褐色粘土や大型の礫が出土する特徴が認められた。これら縄文時代晩期後葉の遺構は、県内に限らず検出事例が少なく類例に乏しい。特に、A群土坑については堆積状況、遺物や礫の出土状況等から墓の可能性も視野にさらなる検討が必要である。加えて、本遺跡ではフラスコ状土坑、楕円形土坑、円形土坑が検出されており、秋田県戸平川遺跡（秋田県教委 2000）で指摘されるような土坑の形態差等についての検討も今後の課題である。

弥生時代の遺構・遺物は確認されていない。本遺跡において、再び人間活動の痕跡が認められるのは古代で、B区・E区では土師器が少量出土している。また、時間的にはより新しい可能性があるが、炭竈跡と考えられるものが各区で検出されている。

以上のように、本遺跡では縄文時代早期を初現とし、主に縄文時代中期から晩期にかけての集落形成がみられる。特に、縄文時代晩期には墓域が形成されており、本遺跡との遺物接合事例が確認された川原平(1)遺跡の塚もととも集落全体の構造を追究していくことが今後の課題である。

（最上・小山）

引用・参考文献

- 青森県 2003『青森県史資料編考4 中世・近世』
- 青森県 2013『青森県史資料編考2 縄文後期・晩期』
- 青森県教育委員会 1978『熊平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第39集
- 青森県教育委員会 1982『山崎遺跡(1)(2)(3)』青森県埋蔵文化財調査報告書第68集
- 青森県教育委員会 1988『上尾敷(1)遺跡C地区』青森県埋蔵文化財調査報告書第113集
- 青森県教育委員会 1993『朝日山遺跡II』青森県埋蔵文化財調査報告書第152集
- 青森県教育委員会 2003『上野尻遺跡IV』青森県埋蔵文化財調査報告書第353集
- 青森県教育委員会 2006『川原平(1)・(4)遺跡 大川浜(2)遺跡 水上遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第409集
- 青森県教育委員会 2008『水上遺跡II』青森県埋蔵文化財調査報告書第452集
- 青森県教育委員会 2009『砂子瀬遺跡 水上(3)遺跡 水上(4)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第466集
- 青森県教育委員会 2010『山田(2)遺跡II』青森県埋蔵文化財調査報告書第495集
- 青森県教育委員会 2011『山田(2)遺跡III』青森県埋蔵文化財調査報告書第508集
- 青森県教育委員会 2012『砂子瀬遺跡III』青森県埋蔵文化財調査報告書第513集
- 青森県教育委員会 2012『大川浜(2)遺跡III』青森県埋蔵文化財調査報告書第515集
- 青森県教育委員会 2013『川原平(4)遺跡II』青森県埋蔵文化財調査報告書第527集
- 青森県教育委員会 2013『水上(2)遺跡II 水上(3)遺跡II』青森県埋蔵文化財調査報告書第528集
- 青森県教育委員会 2014『川原平(4)遺跡III』青森県埋蔵文化財調査報告書第539集
- 青森県教育委員会 2014『芦沢(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第540集
- 青森県教育委員会 2014『鬼川辺(1)遺跡 鬼川辺(2)遺跡 鬼川辺(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第541集
- 青森県教育委員会 2014『大川浜(4)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第542集
- 青森県教育委員会 2014『砂子瀬遺跡IV』青森県埋蔵文化財調査報告書第543集
- 青森県教育委員会 2014『大川浜(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第544集
- 青森県教育委員会 2014『上新岡館 藁師遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第545集
- 青森県立郡士部 1988『名川町剣古賀町遺跡(第2地区)』青森県立郡士部調査報告書第22集・考古-7
- 秋田県教育委員会 2000『戸平川遺跡』秋田県文化財調査報告書第294集
- 秋田市教育委員会 1992『秋田市上新城中学校遺跡』
- 十和田岩木川総合開発協議会 1959『日星ダム建設記念砂子瀬部落誌』
- 名川町教育委員会 1978『虚空蔵遺跡発掘調査報告書』
- 名川町教育委員会 1984『剣古賀町遺跡発掘調査報告書』
- 八戸市教育委員会 1988『田面水平遺跡(1)』八戸市埋蔵文化財調査報告書第20集
- 弘前大学人文学部日本考古学研究室 2012『下北半島における亀ヶ岡文化の研究 青森県むつ市不備無遺跡発掘調査報告書』
- 増田町教育委員会 1979『梨ノ木塚遺跡発掘調査報告書』
- 三厩村教育委員会 1996『宇秩遺跡発掘調査報告書』
- 安藤広道 2009『東日本先史時代土器編年における標式資料・基準資料の基礎的研究』
- 宇部剛保 2006『古代東北地方北部の沈線文のある土師器』『月刊考古学ジャーナル』No. 462
- 大橋康二 1989『肥前陶器』考古学ライブラリー-55号
- 小保内裕之 2008『陸奥大木系土器(復林式・最花式・大木10式併行土器)』『絶境縄文土器』アム・プロモーション
- 金子昭彦 2005『階層化社会と亀ヶ岡文化の基-東北地方北部における縄文時代晩期の墓』『日本考古学』第19号
- 児玉大成 2005『亀ヶ岡文化を中心としたベンガラ生産の復元』『日本考古学』第20号
- 小林圭一 2010『亀ヶ岡式土器成立期の研究-東北地方における縄文時代晩期の土器型式』早稲田大学先史考古学研究所
- 後藤信祐 1986『縄文後晩期の石剣形石製品の研究(上)』『考古学研究』第33巻第3号
- 品川欣也 2003『器種と文様、そして機能の相関関係にみる大洞A式土器の変遷過程』『歴史学』第119号
- 鈴木克彦 2001『北日本の縄文後期土器編年の研究』雄山閣
- 鈴木正博 1987『続 大洞A2式器』『古代』第84号
- 須藤 隆 1976『亀ヶ岡式土器の終末と東北地方における初期弥生土器の成立』『考古学研究』第23巻第2号
- 関根達人 2005『「十握内Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ群土器」に関する今日の理解』『葛西鶴生遺跡記念論文集 北奥の考古学』
- 関根達人・西沢宏子・田中祥子・成田敦子 2005『津軽悪戸塚の研究』弘前大学人文学部文化財論ゼミナール調査報告IV
- 中村 大 2001『亀ヶ岡文化の墓と墓域』『亀ヶ岡文化-集落とその実体-』日本考古学協会 2001年度盛岡大会実行委員会
- 稲田友之 1984『西目屋村砂子瀬村元出土の遺物』『青森県考古学』第1号
- 山田康弘 2008『人骨出土例にみる縄文の墓前と社会』同成社

土坑一覧表 (A群土坑)

遺構名	図	グリッド	検出面	開口部(cm)		底面(cm)		深さ (cm)	底面 標高(m)	備考
				長軸	短軸	長軸	短軸			
BSK002	図55	V P-97-98	Ⅲ層	209	190	82	81	65	200.93	堆積土中位～上位に個体土器
BSK004	図55	V Q-99	Ⅲ層	122	107	65	58	67	200.77	
BSK007	図55	V R-103	Ⅲ層	145	125	94	90	76	200.62	
BSK008	図55	V P-101	Ⅲ層	232	193	79	70	103	200.51	堆積土中位に個体土器、底面礫
BSK009	図55	V N-100	Ⅲ層	115	111	47	46	76	200.98	検出面～底面礫
BSK010	図55	V N-101	Ⅲ層	102	95	45	39	41	201.29	
BSK011	図55	V M-104	Ⅲ層	125	107	73	55	60	201.36	堆積土上位に礫
BSK012	図55	V M-104	Ⅲ層	108	103	70	66	57	201.20	底面付近に礫
BSK013	図55	V N-101	Ⅲ層	98	83	43	40	34	201.47	
BSK014	図55	V N-101	Ⅲ層	196	174	71	62	94	200.83	a類堆積、底面付近に小型土器、 底面・壁際礫
BSK015	図56	V M-N-101	Ⅲ層	236	224	49	47	105	200.76	堆積土中位～上位に個体土器、 a類堆積、検出面・底面礫
BSK016	図56	V M-101	Ⅲ層	97	94	50	49	36	201.49	a類堆積
BSK017	図56	V N-99	Ⅲ層	134	121	76	68	47	201.21	底面礫
BSK018	図56	V M-102	Ⅱ層	138	117	43	36	53	201.36	検出面に銅体土器(横柄)、壁際礫
BSK019	図56	V K-106	Ⅲ層	171	148	100	98	79	201.60	
BSK020	図56	V M-102	Ⅲ層	174	132	73	69	54	201.42	a類堆積
BSK021	図56	V L-103	Ⅲ層	126	98	55	46	44	201.53	
BSK022	図57	V L-104	Ⅲ層	194	155	95	73	90	201.14	a類堆積、底面礫
BSK023	図57	V L-100	Ⅲ層	248	230	63	54	109	200.89	a類堆積、底面礫
BSK024	図57	V K-102	Ⅲ層	121	105	51	45	43	201.52	
BSK025	図57	V P-99	Ⅲ層	211	185	69	63	96	200.44	底面礫
BSK026	図57	V P-98	Ⅱ層	201	180	81	76	85	200.56	a類堆積、検出面・底面礫
BSK027	図58	V P-97	Ⅱ層	293	265	74	68	103	200.42	a類堆積、堆積土中位～上位に個体土器、 検出面礫
BSK028	図58	V P-96	Ⅲ層	174	142	107	86	48	201.02	a類堆積
BSK029	図58	V P-96	Ⅲ層	174	149	79	67	67	200.95	BSK028より新、a類堆積
BSK030	図58	V L-101	Ⅲ層	202	162	62	56	113	200.69	a類堆積、底面礫
BSK031	図58	V R-96	Ⅲ層	180	171	84	81	77	200.65	a類堆積
BSK032	図58	V N-100	Ⅲ層	74	72	55	51	25	201.54	底面礫

土坑一覧表 (BⅡ群土坑)

遺構名	図	グリッド	検出面	開口部(cm)		底面(cm)		深さ (cm)	底面 標高(m)	備考
				長軸	短軸	長軸	短軸			
BSK034	図99	VIA-107	Ⅲ層	122	106	111	109	46	200.60	
BSK035	図99	VIG-91	Ⅲ層	112	-	143	124	70	200.65	
BSK036	図99	VU-109	Ⅲ層	88	81	104	101	89	200.52	
BSK037	図99	VW-109	Ⅲ層	117	100	120	114	45	200.77	
BSK038	図99	VT-76	Ⅲ層	128	122	126	100	80	201.28	
BSK040	図99	VP-78	Ⅲ層	169	-	115	112	70	201.14	底面でPit検出
BSK041	図99	VP-77	Ⅲ層	137	114	130	106	56	201.37	
BSK047	図99	VJ-70	Ⅱ層	180	170	164	160	102	201.45	
BSK049	図100	IVQ-62-63	Ⅲ層	81	71	64	62	53	203.20	
BSK051	図100	VIJ-89	Ⅲ層	97	86	45	42	51	200.22	
BSK052	図100	VIK-89	Ⅲ層	84	70	36	26	24	200.36	
BSK054	図100	VG-69	Ⅲ層	165	146	137	98	59	201.40	人為堆積
BSK057	図100	VII-74-75	Ⅲ層	149	132	149	128	56	200.56	BSK164より新
BSK058	図100	VIA-B-76	Ⅲ層	254	242	224	216	90	201.10	BSK085より新、底面でPit検出
BSK060	図100	VII-J-78-79	Ⅲ層	232	227	162	147	80	200.30	
BSK064	図100	VIA-71-72	Ⅲ層	181	183	179	169	86	200.82	BS119より旧
BSK065	図100	VIC-73-74	Ⅲ層	212	190	196	163	100	201.00	BSK066より旧
BSK067	図101	VIIH-74-75	Ⅲ層	339	295	234	225	172	199.56	BSK165と新旧不明
BSK068	図101	VIJ-75-76	Ⅲ層	295	290	223	208	111	200.08	

遺構名	図	グリッド	検出面	開口部(cm)		底面(cm)		深さ (cm)	底面 標高(m)	備考
				長軸	短軸	長軸	短軸			
BSK069	図101	VI・J-77	Ⅲ層	259	237	210	200	134	199.80	
BSK073	図101	VI G-81	Ⅲ層	113	110	84	83	21	201.50	
BSK076	図101	V V-69	Ⅲ層	126	120	118	105	33	201.97	
BSK079	図101	VI D-73	Ⅲ層	67	63	54	42	24	201.72	
BSK085	図100	VI B-76	Ⅲ層	73	-	65	-	72	201.25	BSK058より旧
BSK087	図101	V U-73	Ⅲ層	96	82	73	56	19	202.00	BSK300より新
BSK090	図102	VI G-H-76	Ⅲ層	258	228	240	217	52	200.90	
BSK094	図102	VI D-73・74	Ⅲ層	159	145	210	184	125	200.50	
BSK095	図102	V P-Q-65	Ⅲ層	177	166	136	132	72	201.85	
BSK114	図102	V O-65-66	Ⅲ層	127	112	119	117	34	202.20	BSI33(BPit1437)より旧
BSK129	図102	V R-S-64	Ⅲ層	100	84	76	69	24	202.18	
BSK148	図102	V O-P-67	Ⅲ層	91	-	50	-	33	202.17	BSK177より新
BSK164	図102	VI I-J-74	Ⅲ層	277	263	209	181	141	199.64	BSK057より旧
BSK166	図102	VI O-78	Ⅲ層	93	82	59	42	16	200.68	
BSK167	図102	VI O-78	Ⅲ層	126	120	84	66	42	200.32	
BSK173	図102	VI L-74	Ⅲ層	111	105	95	79	61	200.00	
BSK175	図103	V Q-67	Ⅲ層	128	-	125	107	60	201.93	BSK113より旧
BSK176	図103	VI E-74	Ⅲ層	132	131	117	111	26	201.52	
BSK180	図103	VI E-74	Ⅲ層	226	210	211	199	128	200.40	BSI08より旧
BSK181	図103	VI B-77	Ⅲ層	195	194	177	160	60	201.56	
BSK184	図103	VI C-D-72・73	Ⅲ層	194	162	150	101	56	201.36	
BSK187	図103	VI N-75	Ⅲ層	63	59	55	44	48	200.30	
BSK192	図103	VI Q-R-71	Ⅳ層	264	226	127	114	169	198.96	
BSK201	図104	VI Q-72	Ⅳ層	254	242	173	172	168	198.97	
BSK204	図103	VI O-76	Ⅲ層	111	105	101	71	70	200.12	BSI18より旧
BSK206	図103	VI Q-73	Ⅲ層	97	-	57	-	56	200.33	BSI20より旧
BSK232	図104	V R-S-73・74	Ⅲ・Ⅳ層	120	101	72	66	92	201.28	
BSK242	図104	V S-73	Ⅲ層	121	103	93	87	56	201.63	BPit1781より新
BSK264	図104	V W-69	Ⅲ層	185	163	152	142	50	201.36	BSK338・BPit1951より新、 BPit1792より旧、 底面でPit検出
BSK302	図104	V U-V-65	Ⅲ層	183	152	148	140	53	201.21	
BSK338	図104	V W-69	Ⅲ層	190	181	170	168	37	201.31	BSK264より旧
BSK352	図104	V C-57	Ⅳ層	272	229	184	112	38	202.82	B.Tm.と思われる火山灰が堆積
BSK390	図104	V D-61-62	Ⅲ層	154	136	109	105	44	202.71	人為体積
BSK393	図104	V C-63	Ⅲ層	144	131	107	96	46	202.58	同一母岩と思われる石核・剥片が出土
BSK394	図105	V C-63	Ⅲ層	117	99	121	108	70	202.30	
BSK395	図105	V C-D-62	Ⅲ層	141	120	97	95	57	202.52	
BSK407	図105	VI B-C-72	Ⅲ層	180	168	144	133	52	201.26	BSI07より旧、底面でPit検出
BSK408	図105	VI Q-R-75-76	Ⅳ層	416	407	349	343	80	200.17	BSI06・BPit1655より旧、底面でPit検出

土坑一覧表 (B I 群土坑)

遺構名	図	グリッド	開口部 (cm)		底面 (cm)		長短 軸比	深さ (cm)	面積 (㎡)	底面標高 (m)	軸方向	備考(重複, 出土遺物, 分析, その他)
			長軸	短軸	長軸	短軸						
BSK066	図70	VIC-73-74	142	90	133	65	0.63	23	0.669	201.850	W+30.9° E	BSK065より新
BSK074	図70	VIB-82	132	71	123	59	0.54	24	0.637	201.720	W+8.5° E	
BSK075	図70	VIA-80-81	89	64	70	46	0.72	19	0.284	201.800	W-29.3° E	
BSK077	図70	VU-70	129	100	95	80	0.78	42	0.656	202.070	W-44.1° E	
BSK078	図70	VY-71	150	98	中端 122 下端 49	中端 58 下端 19	0.65	55	0.605	201.420	W-27° E	礎石器1点(77号・78号)出土
BSK080	図70	VY・VIA-80	100	67	86	57	0.67	15	0.394	201.840	W-2.7° E	
BSK081	図70	VY-80	88	72	72	61	0.82	18	0.361	201.760	W-25.2° E	
BSK082	図70	VW・X-70	166	94	134	70	0.60	33	0.779	201.820	W+20.3° E	土器VIIb出土
BSK083	図70	VY-79	142	79	113	57	0.56	49	0.560	201.540	W+22.7° E	
BSK084	図70	VIG-74-75	-	-	(32)	(19)	-	2	-	201.010	不明	ヒスイ製玉類底面から9点, 覆土から19点, 計28点出土, 土坑底面での検出
BSK086	図70	VS・T-71	134	88	114	69	0.66	35	0.637	202.080	W+36.6° E	土器VIIb出土
BSK088	図70	VR-69-70	145	102	121	84	0.70	31	0.819	202.100	W+19.6° E	土器VIIa出土
BSK089	図71	VQ-69	(112)	94	(100)	76	-	55	-	201.922	W+3.7° E	BSK096とは不明 ヒスイ製勾玉1点 W・34号分析
BSK091	図70	VQ・R-69	187	99	169	88	0.53	30	1.158	202.041	W-0.3° E	土器VA出土
BSK092	図71	VID-74	131	(67)	107	(57)	-	10	-	201.900	W-50.9° E	赤色顔料検出
BSK096	図71	VQ-68-69	(173)	87	(159)	75	-	57	-	201.856	W+28.4° E	BSK170, 089とは不明
BSK101	図71	VR-59	153	81	102	59	0.53	40	0.510	201.240	W+90° E	BSK355より新 土器VI・VII群出土 剥片石器類1.3kg出土(石核, 石錐, 石匙, 二次加工, 剥片, 散細) 台石2点出土, 円盤状石製品出土 W・34号分析
BSK103	図71	IVX-77-78	170	80	141	58	0.47	35	0.723	202.276	W+8° E	
BSK108	図72	VQ-65-66	175	88	158	78	0.50	43	1.067	202.050	W+47.8° E	土器VIIa, 剥片32.1g出土 W・34号分析, 赤色顔料分析
BSK109	図72	VR-66	193	94	177	89	0.49	51	1.343	201.940	W+22° E	土器VA, 剥片32.7g出土 赤色顔料分析
BSK110	図72	VQ-66	197	104	175	76	0.53	23	1.089	202.312	W+24° E	覆土 土器VIIb, 剥片石器類138g出土 (石核, 二次加工, 剥片, 散細) 礎石器1点出土(77号)

遺構名	図	グリッド	開口部 (cm)		底面 (cm)		長短 軸比	深さ (cm)	面積 (㎡)	底面標高 (m)	軸方向	備考(重複,出土遺物,分析,その他)
			長軸	短軸	長軸	短軸						
BSK111	図72	VQ-66-67	(134)	83	(119)	70	-	18	-	202.343	W-84.3° E	覆瓦 土器VIII, 剥片2g 出土 シ・24725分析
BSK112	図73	VQ-66	102	49	92	37	0.48	18	0.279	202.498	W+43.2° E	
BSK113	図73	VP-Q-67	145	69	129	60	0.48	50	0.634	202.04	W+57.7° E	BSK175より新 土器VIII, 剥片石器類30g(二次加工, 剥片)出土 シ・24725分析, 赤色顔料分析
BSK117	図73	VP-O-65-66	135	60	107	(44)	0.44	24	-	202.216	W-12.2° E	BS133(BSK116), BPit1417より新
BSK127	図73	VS-64-65	160	79	111	48	0.49	19	0.461	202.101	W+27.2° E	覆瓦 剥片石器類8g(西産剥片, 剥片)出土
BSK149	図73	VO-67	137	81	128	61	0.59	24	0.695	202.229	W+71° E	
BSK153	図73	VT-63-64	120	66	106	39	0.55	14	0.357	201.824	W+16.1° E	
BSK161	図73	VTR-79	172	107	106	71	0.62	52	0.632	200.180	W+3.8° E	剥片石器類141g(二次加工, 剥片, 微細)出土
BSK165	図73	VIIH-74-75	166	72	136	48	0.43	46	0.571	200.680	W+17.7° E	BSK067とは不明
BSK169	図73	VT-65	104	68	85	45	0.65	27	0.331	202.046	W+10.4° E	BPit1738より新
BSK170	図71	VQ-68-69	(192)	97	(180)	83	-	37	-	202.200	W+13.6° E	BSK096とは不明 剥片4.7g, 礎石器1点出土(23) 赤色顔料分析
BSK171	図73	VR-69	187	88	170	72	0.47	34	0.995	201.975	W+34.2° E	BSK172より新 剥片9.6g 出土
BSK172	図73	VR-69	139	(72)	127	(71)	-	13	-	202.225	W+43.7° E	BSK171より古
BSK174	図73	VII-74	174	99	116	79	0.57	55	0.797	200.360	W-43.1° E	
BSK177	図74	VO-P-67-68	209	136	191	102	0.65	57	1.667	201.847	W-9° E	BSK148より古 土器VIII, 剥片石器類100g(二次加工, 剥片), 礎石器1点出土(石鏃) 赤色顔料分析
BSK182	図74	VO-67-68	190	77	169	61	0.41	44	0.870	201.762	W-3.2° E	剥片石器類16.5g(二次加工, 剥片)出土 シ・24725分析実施
BSK183	図74	VO-68	163	74	149	50	0.45	24	0.650	201.964	W+16.7° E	剥片7.5g 出土
BSK193	図74	VTR-72	157	97	121	71	0.62	43	0.692	200.190	W-5.6° E	
BSK198	図74	VIN-76	105	71	89	59	0.68	20	0.433	200.600	W+49.6° E	
BSK200	図74	VF-78	115	70	102	56	0.61	45	0.489	201.628	W+36° E	
BSK202	図74	VP-66-67	137	86	124	67	0.63	44	0.726	202.070	W+45.5° E	BS114より新 土器VIII, 剥片7.7g 出土
BSK203	図74	IVH-X-77	157	97	130	72	0.62	29	0.798	202.180	W+75° E	
BSK207	図74	VN-O-65	162	84	中137 98	中58 50	0.52	28	0.674	202.319	W+26.2° E	BS133(BPit1750)より古 剥片石器類48.3g(石鏃, 剥片)出土

遺構名	図	グリッド	開口部(cm)		底面(cm)		長短軸比	深さ(cm)	面積(m ²)	底面標高(m)	軸方向	備考(重複, 出土遺物, 分析, その他)
			長軸	短軸	長軸	短軸						
BSK208	図74	VU-Y-71	124	82	98	51	0.66	22	0.439	201.870	W+60.0° E	剥片1.1g出土
BSK209	図74	VU-71-72	112	51	93	38	0.46	14	0.292	202.000	W+42.9° E	剥片0.3g出土
BSK210	図75	VU-71-72	108	60	106	61	0.56	49	0.562	201.500	W+38.2° E	
BSK211	図75	VU-72	116	87	102	63	0.75	40	0.550	201.580	W+27.6° E	赤色顔料分析
BSK212	図75	VU-72	93	57	76	44	0.62	15	0.287	201.828	W+21.0° E	剥片2.7g出土
BSK213	図75	VU-72	145	75	143	87	0.52	44	1.003	201.550	W+13.3° E	BPit1810より新
BSK214	図75	VQ-73	121	(27)	102	(21)	-	25	-	201.930	W-22.3° E	覆瓦 剥片11.5g出土
BSK215	図75	VR-73	101	70	79	51	0.69	42	0.345	201.840	W+7.3° E	BS121より新 土器ⅤA, 剥片6.4g出土
BSK216	図75	VU-71	111	68	中a 95 中b 80 下 66	中a 52 下 35	0.61	48	中0.375 下0.150	201.740	W-54.4° E	BPit1812より新 剥片石部類3.3g(石織, 剥片)出土
BSK217	図75	VU-72	139	64	101	47	0.46	39	0.392	201.780	W-6.6° E	土器ⅤB, 剥片1g出土
BSK218	図75	VQ-R-72	156	69	138	64	0.44	32	0.730	201.950	W+35.2° E	剥片40.8g出土
BSK219	図75	VQ-71-72	143	65	133	56	0.45	11	0.656	201.930	W-15.2° E	
BSK220	図76	VT-72	129	78	115	62	0.60	14	0.592	202.180	W+15.0° E	
BSK221	図76	VP-Q-71	167	88	135	68	0.53	59	0.830	201.798	W+2.5° E	赤色顔料分析
BSK222	図76	VP-68-69	150	60	146	62	0.40	66	0.766	201.680	W+8.0° E	土器ⅤB, 剥片3.3g出土 赤色顔料分析
BSK223	図76	VP-68	202	88	179	81	0.44	28	1.225	202.292	W+11.8° E	土器ⅤI, 二次加工68.3g出土 赤色顔料分析
BSK225	図76	VR-75-76	124	63	103	50	0.51	16	0.464	201.628	W-14.5° E	赤色顔料分析
BSK226	図76	VR-76-77	146	61	111	51	0.42	15	0.439	201.670	W-29.3° E	
BSK227	図76	VT-79	124	79	95	57	0.64	26	0.453	201.520	W+12.0° E	
BSK228	図76	VS-T-78	124	62	94	40	0.50	27	0.288	201.700	W-28.3° E	赤色顔料分析
BSK229	図76	VS-T-79	103	69	83	43	0.67	16	0.294	201.580	W-31.5° E	土器ⅤB出土
BSK230	図77	VS-T-76-77	119	72	122	76	0.61	64	0.804	201.380	W+18.4° E	BPit2148とは不明 土器ⅤB出土
BSK231	図77	VT-78	153	63	123	41	0.41	43	0.482	201.440	W+14.9° E	
BSK233	図77	VS-73	135	69	78	49	0.51	47	0.298	202.030	W+20.1° E	BPit2238より古
BSK234	図77	VQ-R-75	137	74	121	53	0.54	45	0.564	201.480	W+17.4° E	
BSK235	図77	VR-72-71	180	108	142	80	0.60	42	0.961	201.900	W-22.0° E	剥片30.1g出土
BSK236	図77	VV-71-72	149	(62)	123	(50)	-	34	-	201.630	W+26.1° E	覆瓦 剥片33.8g出土

遺構名	図	グリッド	開口部 (cm)		底面 (cm)		長短 軸比	深さ (cm)	面積 (㎡)	底面標高 (m)	軸方向	備考(重複, 出土物, 分析, その他)
			長軸	短軸	長軸	短軸						
BSK237	図77	VQ-71-72	140	81	127	64	0.58	13	0.723	201.920	W+12.9° E	
BSK238	図77	VQ-72-73	136	66	110	45	0.49	25	0.441	201.720	W+39.7° E	銅片石器類8.5g (石鏃, 剥片) 出土
BSK239	図77	VS-75	141	77	126	52	0.55	36	0.566	201.520	W-3.8° E	土器ⅧB, 剥片10.5g 出土
BSK240	図77	VU-78	165	97	122	45	0.59	52	0.470	201.610	W+10.1° E	礫石器1点出土(78°)
BSK241	図78	VR-S-72	163	104	136	77	0.64	31	0.757	201.960	W-27.1° E	BS121より新 土器ⅧB, 剥片6g 出土
BSK243(a)	図78	VT-73	133	58	104	17	0.43	14	0.649	201.760	W-1.2° E	BSK243(b)・BP1t1784より新 剥片1.4g 出土 シ・347/56分析
BSK243(b)	図78	VT-73	145	105	115	80	0.72	46	1.194	201.760	W+28.4° E	BSK383・BP1t1784より新 BSK243(a)より古 シ・347/56分析
BSK244	図78	VR-S-76	143	72	132	58	0.50	20	0.656	201.660	W-24.3° E	
BSK245	図78	VS-T-73-74	(167)	(38)	(120)	(28)	-	30	-	201.990	W-46.0° E	攪乱
BSK246	図78	VT-U-69	96	62	75	52	0.65	16	0.299	201.934	W-46.2° E	
BSK247	図78	VP-66	117	60	106	45	0.51	26	-	202.205	W-39.4° E	BS133 (BP1t1861), BS114より新 土器ⅧC-2, 剥片26.2g, 礫石器1点出土(99?)
BSK248	図78	VV-69	96	69	85	51	0.71	22	0.372	201.552	W+27.6° E	
BSK249	図78	VQ-68	202	89	190	83	0.44	53	1.315	201.892	W-19.5° E	土器ⅧB出土
BSK250	図78	VS-70	132	68	109	47	0.52	22	0.462	202.055	W-32.7° E	
BSK251	図78	VT-68	148	78	130	63	0.53	24	0.678	201.906	W+28.5° E	剥片9.2g 出土
BSK252	図79	VT-68-69	158	101	144	76	0.64	33	0.973	201.780	W+13.1° E	BP1t1799より新 剥片石器類32g (二次加工, 剥片) 出土
BSK253	図79	VT-U-68-69	166	82	138	66	0.49	25	0.748	201.849	W-32.7° E	
BSK254	図79	VU-69	161	93	129	64	0.58	42	0.693	201.625	W+19.0° E	剥片石器類45.6g (3ヶ所 ¹⁾ , 剥片)
BSK255	図79	VV-68	116	61	109	54	0.53	16	0.508	201.684	W-7.4° E	
BSK256	図79	VU-68	131	65	100	46	0.50	18	0.408 0.367	201.809	W-9.2° E	
BSK257	図79	VV-68	147	73	128	65	0.50	39	0.679	201.320	W+15.6° E	剥片9.2g 出土
BSK258	図79	VV-W-68-69	136	70	115	61	0.51	36	0.587	201.340	W+0.9° E	剥片1.7g 出土
BSK259	図79	VV-67-68	165	100	147	84	0.61	38	1.053	201.486	W+13.3° E	剥片10.8g 出土
BSK260	図79	VU-67-68	134	87	114	69	0.65	37	0.667	201.740	W-19.4° E	BP1t1805とは不明 剥片石器類48.5g (石鏃5点, 剥片) 出土
BSK261	図79	VR-S-69	90	60	85	58	0.67	8	0.392	202.250	W-62.0° E	
BSK262	図79	VW-68-69	137	94	115	73	0.69	28	0.712	201.397	W+4.4° E	剥片6.6g 出土

遺構名	図	グリッド	開口部 (cm)		底面 (cm)		長短 軸比	深さ (cm)	面積 (㎡)	底面標高 (m)	軸方向	備考(重複, 出土遺物, 分析, その他)
			長軸	短軸	長軸	短軸						
BSK263	図79	VR-70	119	66	114	62	0.55	28	0.587	202.049	W+34.5° E	
BSK265	図79	VY-68-69	136	103	126	88	0.76	34	0.907	201.452	W+44.0° E	剥片9.5g 出土
BSK266	図79	VS-76-77	105	79	83	61	0.75	14	0.404	201.720	W-41.6° E	
BSK267	図80	VR-5-77	116	69	103	54	0.59	8	0.472	201.770	W-13.4° E	
BSK268	図80	VT-79	144	104	125	90	0.72	20	0.832	201.600	W+7.8° E	剥片24.4g 出土 F ₁ -202/25分析
BSK270	図80	VU-72	111	75	86	58	0.68	10	0.402	202.050	W+36.8° E	
BSK271	図80	VQ-71-72	133	68	124	64	0.51	34	0.729	201.890	W-9.6° E	
BSK272	図80	VU-70	121	87	120	82	0.72	34	0.802	201.700	W+9.3° E	
BSK273	図80	VR-72-73	144	73	124	48	0.51	50	0.446	201.780	W-14.4° E	
BSK274	図80	VU-78	121	92	72	51	0.76	33	0.293	201.720	W-17.6° E	土器V群出土
BSK275	図80	VT-78	128	69	104	52	0.54	26	0.443	201.620	W-3.6° E	剥片13.1g 出土
BSK276	図80	VS-77-78	130	74	121	55	0.57	40	0.552	201.420	W-19.0° E	土器VB出土
BSK277	図80	VT-U-78-79	136	69	104	47	0.51	36	0.436	201.410	W+51.1° E	
BSK278	図80	VS-78	100	77	85	61	0.77	25	0.418	201.660	W-28.4° E	剥片13.8g 出土
BSK279	図80	VT-77	150	82	123	58	0.55	48	0.839	201.440	W-0.3° E	土器VB, 剥片2.9g 出土
BSK280	図80	VQ-R-69-70	133	85	114	74	0.64	33	0.724	201.992	W-10.0° E	
BSK281	図81	VQ-69-70	120	71	96	53	0.59	24	0.462	201.990	W+3.5° E	
BSK282	図81	VU-67	130	69	117	57	0.53	28	0.525	201.727	W-34.9° E	土器VB出土
BSK283	図81	VS-T-69-70	142	88	130	70	0.62	23	0.807	202.005	W+1.8° E	剥片2.5g 出土
BSK284	図81	VT-70	100	72	80	52	0.72	47	0.335	201.740	W-39.6° E	
BSK285	図81	VR-70-71	153	77	128	67	0.50	26	0.723	202.070	W+35.3° E	
BSK286	図81	VY-70	(112)	59	(100)	52	-	29	-	201.678	W-16.0° E	視乱
BSK287	図81	VS-70	140	85	124	72	0.61	18	0.725	202.054	W+16.8° E	土器II群, 剥片石器類160g (剥片, 微細) 出土
BSK288	図81	VQ-69	99	64	91	55	0.65	33	0.414	202.040	W-71.4° E	
BSK289	図81	VR-69-70	115	90	99	72	0.78	32	0.584	201.960	W+33.2° E	
BSK290	図81	VT-77	72	52	64	43	0.72	20	0.223	201.740	W-2.1° E	
BSK291	図81	VU-77	130	88	69	47	0.68	10	0.286	201.950	W-8.7° E	
BSK292	図81	VS-T-79	119	57	102	39	0.48	28	0.323	201.480	W+10.2° E	
BSK293	図81	VU-79	145	89	114	56	0.61	28	0.603	201.690	W+44.8° E	土器VB出土
BSK294	図82	VS-72-73	149	79	136	61	0.53	18	0.710	202.100	W-5.3° E	BSK344より新 F ₁ -202/25分析

遺構名	図	グリッド	開口部 (cm)		底面 (cm)		長短 軸比	深さ (cm)	面積 (㎡)	底面標高 (m)	軸方向	備考(重複, 出土遺物, 分析, その他)
			長軸	短軸	長軸	短軸						
BSK295	図81	VY-70-71	144	71	118	60	0.49	61	0.606	201.440	W-24.6° E	
BSK296	図82	VU-Y-70-71	148	93	134	87	0.63	32	0.923	201.780	W-7.0° E	シ・ネリツル分析
BSK298	図82	VW-71	(90)	84	(78)	68	-	23	-	201.780	W-41.5° E	覆土 剥片0.3g出土
BSK299	図82	VU-78	150	110	114	80	0.73	16	0.748	201.880	W-16.2° E	
BSK300	図82	VT-U-73	(160)	111	125	58	-	30	0.547	201.930	W+38.1° E	BSK087とは不明
BSK301	図82	VQ-R-70	163	71	126	60	0.44	29	0.697	201.840	W-54.3° E	BP:11940より古 シ・ネリツル分析
BSK303	図82	VY-69	118	67	110	52	0.57	37	0.477	201.750	W-15.0° E	剥片4.2g出土 赤色顔料分析
BSK304	図82	VY-69	108	85	99	75	0.79	22	0.581	201.503	W-43.8° E	
BSK307	図82	VS-71	178	78	150	64	0.44	42	0.855	201.890	W+17.8° E	
BSK309	図82	VY-77	162	109	111	60	0.67	28	0.576	201.640	W+18.5° E	
BSK310	図82	VY-78	127	84	111	76	0.66	14	0.700	201.850	W+2.1° E	
BSK311	図82	VR-73	122	92	100	63	0.75	43	0.535	201.800	W-28.2° E	
BSK312	図83	VW-70	128	85	116	79	0.66	24	0.763	201.690	W+0.5° E	赤色顔料分析
BSK313	図83	VX-76-77	154	77	127	51	0.50	44	0.565	201.480	W+37.2° E	土器Ⅲ出土
BSK314	図83	VY-77-78	165	104	124	67	0.63	46	0.711	201.590	W+50.3° E	剥片2.2g出土
BSK315	図83	VU-Y-77	139	68	中(111) 下75	中(40) 下42	0.49	25	中0.373 下0.255	201.770	W+33.6° E	
BSK316	図83	VY-76	146	95	97	46	0.65	37	0.429	201.480	W+30.7° E	
BSK317	図83	VY-76-77	156	96	108	71	0.62	28	0.677	201.560	W+34.5° E	
BSK318	図83	VQ-75-76	116	62	98	44	0.53	24	0.366	201.610	W+5.8° E	BP:12237より新 剥片36.1g出土
BSK319	図83	VQ-76	114	84	99	73	0.74	8	0.610	201.700	W+25.1° E	
BSK320	図83	VR-77-78	106	47	97	53	0.44	36	0.447	201.340	W-5.0° E	シ・ネリツル分析
BSK321	図83	VR-78	105	66	93	58	0.63	9	0.427	201.540	W-21.8° E	剥片9.5g出土
BSK322	図83	VQ-78	93	57	83	45	0.61	10	0.317	201.580	W+6.2° E	
BSK323	図83	VR-76	92	51	81	45	0.65	7	0.326	201.680	W-15.4° E	
BSK324	図83	VQ-R-77	130	68	119	52	0.52	11	0.565	201.690	W-10.8° E	剥片2.4g出土
BSK325	図84	VR-78	96	70	88	58	0.73	7	0.461	201.580	W-5.4° E	
BSK326	図84	VR-S-79	103	52	94	40	0.50	21	0.343	201.420	W+23.7° E	
BSK327	図84	VS-79	111	74	99	62	0.67	20	0.529	201.660	W+2.2° E	土器Ⅲ出土
BSK328	図84	VS-80	119	87	97	71	0.73	21	0.547	201.450	W-22.7° E	

遺構名	図	グリッド	開口部 (cm)		底面 (cm)		長短 軸比	深さ (cm)	面積 (㎡)	底面標高 (m)	軸方向	備考(重複, 出土遺物, 分析, その他)
			長軸	短軸	長軸	短軸						
BSK329	図84	VR-79	107	72	100	56	0.67	17	0.483	201.310	W-3.9° E	
BSK330	図84	VQ-78-79	82	51	73	42	0.62	6	0.266	201.380	W-24.3° E	
BSK331	図84	VS-80	97	55	94	40	0.57	20	0.323	201.260	W+18.5° E	シ・オタツタ分析
BSK332	図84	VS-80	86	61	78	52	0.71	14	0.354	201.470	W-30.6° E	
BSK333	図84	VQ-76-77	140	115	123	105	0.82	10	1.075	201.700	W+17.9° E	剥片4.6g出土
BSK334	図84	VU-V-78	146	73	101	32	0.50	18	0.268	201.940	W+16.5° E	
BSK335	図84	VS-78-79	119	78	104	52	0.66	38	0.447	201.500	W-2.6° E	土器VIIIB出土
BSK336	図84	VS-T-74	119	56	102	44	0.47	12	0.376	202.010	W+36.2° E	
BSK337	図84	VS-79-80	113	64	103	49	0.57	37	0.426	201.410	W-6.8° E	土器VIIIB, 剥片3.6g出土 シ・オタツタ分析
BSK339	図84	VS-75-76	111	63	100	(37)	0.57	21	-	201.700	W-20.1° E	攪乱
BSK340	図85	VT-76-77	127	54	118	40	0.43	20	0.442	201.880	W+22.8° E	剥片3.7g出土
BSK341	図85	VY-W-78	123	68	111	55	0.55	36	0.528	201.570	W+41.0° E	
BSK342	図85	VY-W-77-78	146	86	121	65	0.59	34	0.682	201.660	W-5.1° E	シ・オタツタ分析
BSK343	図85	VT-75	120	72	83	49	0.60	64	0.352	201.490	W-26.3° E	土器V B, VIIIB出土
BSK344	図82	VS-T-73	138	71	121	54	0.51	29	-	201.940	W+25.1° E	BSK294より古
BSK345	図85	VT-76	121	84	96	52	0.69	37	0.422	201.670	W+8.8° E	土器VIIIB出土
BSK346	図85	VT-77	92	61	71	40	0.67	32	0.260	201.660	W-41.7° E	土器VIIIB出土
BSK347	図85	VS-T-73	114	75	92	42	0.66	33	0.339	201.900	W-49.9° E	剥片14.3g出土
BSK348	図85	VT-U-81-82	150	84	97	49	0.56	5	0.564	201.390	W-88.1° E	シ・オタツタ分析
BSK349	図85	VT-81-82	116	57	76	27	0.49	18	0.287	201.420	W-12.6° E	
BSK350	図85	VT-80	151	72	117	60	0.48	30	0.550	201.432	W+18.8° E	土器VIIIB, 剥片160g出土
BSK355	図71	VR-59	216	113	175	75	0.52	58	1.084	201.180	W+88.8° E	BSK101より古
BSK357	図85	VT-81	97	62	69	43	0.64	17	0.224	201.470	W+27.9° E	
BSK358	図85	VT-80	176	106	-	68	0.60	18	-	201.480	W-18.0° E	BSK362, 363より新
BSK359	図85	VS-80	134	65	105	44	0.49	16	0.423	201.340	W-25.2° E	
BSK360	図86	VS-T-80	(104)	70	(66)	40	-	15	-	201.524	W+92° E	
BSK361	図86	VT-U-81	103	82	(79)	31	0.80	16	-	201.448	W+43.8° E	
BSK362	図86	VT-80	(96)	98	(69)	59	-	20	-	201.520	W-3.0° E	BSK358より古
BSK363	図86	VS-T-80	124	(31)	112	(21)	-	18	-	201.500	W+3.8° E	BSK358より古
BSK364	図86	VT-79	135	74	中110 下103	58	0.55	24	0.546	201.580	W+25.7° E	

遺構名	図	グリッド	開口部 (cm)		底面 (cm)		長短 軸比	深さ (cm)	面積 (㎡)	底面標高 (m)	軸方向	備考(重複,出土遺物,分析,その他)
			長軸	短軸	長軸	短軸						
BSK365	図86	VR-71	123	66	62	40	0.54	24	0.208	202.040	W-89.5° E	
BSK366	図86	VW-81-82	101	71	89	65	0.70	9	0.465	201.540	W+36.4° E	
BSK367	図86	VW-81	97	66	82	48	0.69	17	0.349	201.590	W+14.3° E	
BSK368	図86	VY-81-82	109	66	100	54	0.61	11	0.471	201.540	W-18.3° E	
BSK369	図86	VY-81	92	72	78	53	0.78	14	0.380	201.550	W-8.6° E	BSK406より新
BSK370	図87	VY-81-82	125	64	112	44	0.51	18	0.481	201.660	W+14.3° E	緑色凝灰岩製玉156点出土
BSK371	図86	VX-81	100	63	80	49	0.63	23	0.340	201.620	W-19.9° E	剥片5.2点出土
BSK372	図86	VX-82-83	145	65	141	62	0.45	7	0.749	201.620	W+31.6° E	土器VII出土
BSK373	図87	VX-Y-81	145	76	107	42	0.52	33	0.440	201.540	W+21.6° E	緑色凝灰岩製玉4点出土 シ・Mの分析
BSK374	図86	VW-82	86	56	70	42	0.65	13	0.233	201.530	W+6.0° E	
BSK378	図86	VU-74-75	168	124	129	92	0.74	36	1.007	201.630	W+8.9° E	
BSK380	図86	VS-75-76	114	65	110	61	0.57	16	0.532	201.760	W+27.2° E	
BSK383	図88	VT-73	(41)	(33)	(9)	(9)	-	24	-	201.880	-	BSK243(b)より古,BSK384とは不明
BSK384	図88	VT-73	73	56	52	22	0.77	13	-	202.004	W-18.1° E	BSK383とは不明
BSK392	図88	VG-74	186	95	167	101	0.51	52	1.365	200.400	W-51.7° E	
BSK396	図88	VU-81-82	106	49	98	40	0.46	10	0.347	201.520	W+11.2° E	
BSK397	図88	VW-82-83	111	64	99	50	0.55	13	0.423	201.440	W-15.3° E	土器VII出土
BSK398	図88	VU-81-82	127	75	112	61	0.59	12	0.530	201.480	W+15.1° E	土器VII出土
BSK399	図88	VU-82	120	64	119	57	0.53	18	0.599	201.400	W-65.7° E	
BSK400	図88	VW-82-83	90	57	75	44	0.63	9	0.284	201.440	W-7.5° E	
BSK401	図88	VT-82-83	112	67	97	56	0.60	27	0.433	201.140	W-22.5° E	
BSK402	図88	VU-83	115	59	106	53	0.51	37	0.471	201.160	W-11.6° E	
BSK403	図88	VU-V-82	110	40	109	40	0.36	38	0.380	201.200	W+11.2° E	シ・Mの分析
BSK405	図88	VP-70	92	75	中 71	中 50	0.82	45	中0.282	201.000	W+27.6° E	BSR02より古
BSK406	図86	VY-81	(78)	69	(59)	54	-	12	-	201.510	W-36.0° E	BSK369より古

ピット一覧表

遺構名	グラッド	埋没(㎝) 長方形 幅×深さ	底面 積(㎡)	備考
BP111202	VJ-L-62	70×69	53	202.45
BP111208	V5-61	80×79	62	202.33
BP111302	VD-91	80×76	70	201.69 柱敷
BP111303	V7-71	71×62	42	202.28
BP111304	V6-78	44×36	27	201.30
BP111306	V7-72	31×25 [12]	37	201.82
BP111308	V7-72	20×25	24	201.88
BP111309	V7-72	30×30	49	201.86 777
BP111310	V7-72	29×28 [17]	31	202.00
BP111311	V6-94	37×29	29	201.60
BP111312	V9-73	27×23 [11]	31	202.36
BP111313	V7-72	20×23	16	201.94
BP111314	V7-72	20×31	32	202.04
BP111316	V7-72	20×21	33	201.98
BP111317	V7-73	35×30 [20]	51	202.00
BP111318	V7-72	27×22 [10]	20	201.88
BP111319	V7-72-73	20×22	45	202.02
BP111320	V7-72	41×30	38	201.96
BP111321	V7-72	28×23 [16]	33	210.92
BP111322	V7-73	22×19	25	201.94
BP111323	V5-60	55	8	201.64 851石と新田不明
BP111325	V5-60	45×40 [18×15]	63	201.11 柱敷
BP111330	V9-61	30×75 [41×26]	21	201.72 柱敷+粘土、 BP111710と新田不明
BP111364	V5-61	79	27	202.04 85399Eより新、 BP11362と新田不明
BP111362	V5-61	57	14	202.10 85399Eより新、 BP11361と新田不明
BP111363	V5-61	70×54	21	202.68 BP11080と新田不明
BP111364	V5-61	50×43	21	202.13 BP11080と新田不明
BP111365	V5-61	70×60	13	202.19
BP111366	V5-62	51×40 [20]	60	201.76 柱敷+BP11367より新
BP111367	V5-62	62×37 [18]	42	201.69 柱敷+礎石、BP11366より新
BP111370	V7-66	80×41	43	202.77
BP111372	V7-70	77×66	48	202.70
BP111373	V7-66	40×31	48	202.72
BP111374	V7-66	42×36	43	203.05
BP111375	V7-75	40×24	30	202.54
BP111376	V7-66	43×37	56	202.01
BP111377	V7-61	50×40	21	202.06
BP111378	V7-74	24×20	27	202.37
BP111379	V7-70-71	47×45	25	202.94
BP111380	V7-75	30×34	46	202.33
BP111381	V7-75	29×27	32	202.50
BP111382	V7-74	37×33	22	202.59
BP111383	V7-73	27×25	23	202.66
BP111384	V7-66	21×15	18	203.27
BP111386	V7-66	28×22	21	201.19
BP111387	V7-66	38×33	34	203.12 BP11388と新田不明
BP111388	V7-66	29	23	203.06 BP11387と新田不明
BP111389	V7-66	44×39	21	203.24
BP111390	V7-66	47×35	39	203.02 BP11399と新田不明
BP111394	V7-66	60×48	27	203.14
BP111392	V7-66	70×48	21	203.20
BP111393	V7-66	25×23	20	203.24
BP111394	V7-66	60	44	202.99 BP11395と新田不明
BP111395	V7-66	30×40	35	203.06 BP11394と新田不明
BP111396	V7-66	54×45	21	203.16

遺構名	グラッド	埋没(㎝) 長方形 幅×深さ	底面 積(㎡)	備考
BP111399	V7-66	27	20	203.22 BP11390と新田不明
BP11400	V7-67	41×34	42	203.00
BP11401	V7-67	38	24	203.18 BP11402と新田不明
BP11402	V7-67	29×27	29	203.12 BP11401+1403と新田不明
BP11403	V7-67	36	30	203.61 BP11402と新田不明
BP11404	V7-67	37	33	202.99 BP11405と新田不明
BP11410	V7-65	39×32	20	202.26
BP11414	V7-66	35×31	30	202.18
BP11422	V7-63	73×43	12	202.24
BP11426	V7-63	65×62 [31]	71	201.09 柱敷、礎石
BP11427	V7-63	41×28	34	202.08
BP11504	V7-65	33×30	20	200.15
BP11505	V7-65	33×28	41	200.10
BP11506	V7-67	32×30	30	203.00 BP11404と新田不明
BP11509	V7-61	80×81	20	202.15 85397Eより新
BP11512	V7-63	53×50	64	201.73 礎石
BP11514	V7-61	62×58	44	201.23 粘土、BP11629と新田不明
BP11515	V7-60	73	30	202.16 BP11516+BP11747と新田不明
BP11516	V7-60	67×50	36	202.10 BP11515+BP11747と新田不明
BP11517	V7-63	49×30	36	201.85 粘土
BP11518	V7-63	51×44	14	202.17
BP11519	V7-60	69×60	29	202.21
BP11520	V7-61	88×77	70	201.60
BP11522	V7-60	65×62	32	202.12 85398+117E3より新
BP11523	V7-61	74×28	27	201.98
BP11524	V7-61	60×60 [19×12]	46	201.97 柱敷
BP11525	V7-61	61×63 [12×24]	32	201.92 柱敷+779
BP11526	V7-60	105×90 [33]	89	201.84 柱敷+礎石、1827より新
BP11527	V7-60	110×70	32	201.85 BP11528より新 BP11598と新田不明
BP11528	V7-60	88	36	202.13 BP11540と新田不明
BP11529	V7-60	81×55	47	201.90 85399E+BP11589より新
BP11530	V7-61	80×66	24	202.03
BP11533	V7-60	106×96 [42×36]	67	201.69 柱敷+粘土 85399E+BP11589より新
BP11534	V7-61-62	62×58 [44×36]	23	201.86 柱敷+礎石
BP11536	V7-60	83×62	18	202.16
BP11537	V7-61	38×33	22	202.64
BP11538	V7-61-62	88×71	26	201.92
BP11539	V7-60-61	65×24	29	201.71
BP11540	V7-60	93×86	74	201.67 BP11528と新田不明
BP11541	V7-60	74×64	27	202.61
BP11542	V7-60	80×77	68	201.82
BP11544	V7-61	60×58 [19×16]	35	201.99 柱敷
BP11549	VD-71	61×56	24	201.54
BP11550	VD-71	44×29	22	201.60
BP11551	VD-71	74×64	8	201.96
BP11552	V7-61	39×37 [16]	30	201.68 柱敷
BP11555	V7-60	50×30	45	201.74
BP11556	V7-60	40×36	22	201.96
BP11557	V7-60-61	44×40	25	201.74
BP11558	V7-60	45×44	40	201.63
BP11559	V7-62	90×59	22	201.83
BP11562	V7-62	65×37 [27]	55	201.90 柱敷+粘土
BP11565	V7-60	43×35	19	202.06
BP11566	V7-60-60	42×32	20	202.09
BP11567	V7-60	36×45	19	202.16
BP11569a	V7-59	55×32	44	201.90 BP11569bより新
BP11569b	V7-59	65×48 [18]	48	210.87 粘土、礎石、BP11569aより新

遺構名	グリッド	規模 (cm) 長辺幅 [短辺]	深さ	底面 積高 (㎡)	備考
RP(1371)	V5-D-41	74×59	26	202.69	
RP(1372)	V5-43	50×56	61	201.60	
RP(1373)	V5-61	91×73	44	201.99	RP(1368)より前 RP(1370)と兼ね不明
RP(1381)	V5-G-28	37×29	28	201.74	礎石
RP(1383)	V5-47	30×29	31	202.20	
RP(1384)	V5-47	32×30	36	202.77	
RP(1387)	V5-47	56×46	33	202.78	
RP(1388)	V5-49	36×32	39	202.17	
RP(1389)	V5-60	86×83 [44×29]	53	201.78	粘土、RP(1359)より前 RP(1392)・RP(1393)より前
RP(1390)	V5-61	44×31	14	202.04	
RP(1395)	V5-61-402	95 (40)	86	201.29	柱版、79(70×70)、 RP(1391)より前
RP(1396)	V5-60	33×23	12	202.22	RP(1327)と兼ね不明
RP(1397)	V5-60	35×22	13	202.27	
RP(1398)	V5-60-61	27×16	13	202.24	
RP(1399)	V5-61	35×33	27	201.80	
RP(1404)	V5-S-61	55×50	10	202.36	
RP(1406)	V5-S-61	96	36	201.98	
RP(1408)	V5-P-62	140×105 [55×52]	63	201.60	柱版、79(70×70)、礎石、粘土
RP(1409)	V5-68	58×51	50	201.14	
RP(1410)	V5-C-68	47×46	43	202.26	
RP(1411)	V5-69	42×35	31	202.33	
RP(1412)	V5-69	57×49	44	202.18	
RP(1413)	V5-68	32×28	41	202.22	
RP(1414)	V5-66	40×36	33	203.12	
RP(1415)	V5-74	28×27	42	202.29	
RP(1416)	V5-61	52×45	10	201.71	
RP(1417)	V5-63	103×99	54	201.89	
RP(1418)	V5-61	50×23	19	201.70	
RP(1428)	V5-D-43	33×26	25	202.06	
RP(1429)	V5-61	60×67	24	202.04	RP(1314)と兼ね不明
RP(1430)	V5-63	65×69	20	202.18	
RP(1434)	V5-63	26×21	28	202.09	
RP(1436)	V5-62	37×34	34	202.00	
RP(1439)	V5-71	28×24	21	201.63	
RP(1441)	V5-71	28×26	28	201.59	
RP(1442)	V5-72	23×22	23	201.66	
RP(1443)	V5-72	27×23	21	201.53	
RP(1444)	V5-72	41×34	40	201.46	
RP(1445)	V5-72	37×34	41	201.47	
RP(1446)	V5-72	36×32	25	201.63	
RP(1447)	V5-72	35×33	31	201.57	
RP(1448)	V5-72	32×31	38	201.48	
RP(1449)	V5-72	27×24	12	201.76	
RP(1450)	V5-S-72	29×23	42	201.49	
RP(1452)	V5-72	53×33	54	200.14	
RP(1453)	V5-72	88×55	45	200.20	
RP(1455)	V5-75	71×58	46	200.41	BS408より前
RP(1458)	V5-83	87×67	44	200.21	
RP(1470)	V5-64	100 [25×21]	60	201.74	79(70×70)・RP(1350)と兼ね不明
RP(1475)	V5-64	58×56 [21×18]	-	-	
RP(1478)	V5-61	52×27	25	202.08	
RP(1485)	V5-61	113	27	202.09	RP(1363)・1364と兼ね不明
RP(1489)	V5-82	73×62 [18]	33	201.89	柱版、RP(1395)より前
RP(1496)	V5-61	74×58	55	202.00	
RP(1499)	V5-73	86×72	40	199.69	
RP(1501)	V5-74	46×41	50	202.28	
RP(1502)	V5-75	49×41	46	201.84	
RP(1503)	V5-76	43×35	46	201.86	

遺構名	グリッド	規模 (cm) 長辺幅 [短辺]	深さ	底面 積高 (㎡)	備考
RP(1505)	V5-62	52×50	55	201.82	
RP(1508)	V5-63	79	64	201.92	
RP(1509)	V5-D-41	102	20	202.02	礎石、礎石、粘土 BS404Eより前
RP(1516)	V5-8-62	49×42 [31]	53	201.93	柱版・礎石
RP(1517)	V5-63	28×25	30	202.10	
RP(1518)	V5-61	42×40	27	201.88	
RP(1519)	V5-61	45	26	202.02	BS404E3より前、 RP(1519)と兼ね不明
RP(1521)	V5-63	37×31	18	202.16	
RP(1522)	V5-63	51×33	18	202.17	
RP(1525)	V5-62	36×34 [20]	40	202.07	柱版・粘土・礎石
RP(1529)	V5-61	66×58	108	201.28	BS307E2より前
RP(1531)	V5-65	30×26	18	202.25	
RP(1534)	V5-61	34×31	26	202.02	BS404E2より前
RP(1536)	V5-63	27×23	14	202.23	
RP(1538)	V5-65	34	7	202.63	BS169より前
RP(1539)	V5-61	14×63	38	202.06	粘土
RP(1541)	V5-G-28	18×12	7	201.99	
RP(1542)	V5-F-73	32×27	18	201.80	
RP(1543)	V5-74	17×15	11	201.90	
RP(1544)	V5-73-74	26×23	11	201.83	
RP(1545)	V5-74-75	39×29	19	201.65	
RP(1546)	V5-76	25×22	28	201.42	RP(1324)と兼ね不明
RP(1547)	V5-60	80×64	66	201.74	RP(1515)・1516と兼ね不明
RP(1548)	V5-71	28×23	21	201.41	
RP(1549)	V5-71	21×19	19	201.53	
RP(1554)	V5-69	25×21	24	202.40	RP(1511)より前
RP(1555)	V5-69	25×21	20	202.44	
RP(1556)	V5-69	31×30	22	202.42	
RP(1560)	V5-68	57×41	41	202.22	
RP(1561)	V5-68	29×25	22	202.31	
RP(1565)	V5-68	25×22	26	202.31	
RP(1566)	V5-C-68	33×30	29	202.37	
RP(1567)	V5-68	48×31	42	202.29	
RP(1568)	V5-64	80	34	201.77	粘土、BS404-C5E1より前
RP(1569)	V5-C-68	30×63	43	202.17	
RP(1570)	V5-72	26×34	56	201.71	RP(1375)と兼ね不明
RP(1571)	V5-73	17×46	66	201.26	
RP(1572)	V5-71	55×43	28	201.84	
RP(1573)	V5-72	39×32	61	201.57	
RP(1575)	V5-72	25	35	201.96	RP(1370)と兼ね不明
RP(1576)	V5-71	59×30	63	201.69	
RP(1577)	V5-71	32×26	21	201.84	
RP(1578)	V5-71	37×32	29	201.89	
RP(1579)	V5-72	29×27	32	201.81	
RP(1580)	V5-73	50×45	30	201.78	
RP(1581)	V5-73	95	101	201.17	BS242より前
RP(1583)	V5-75	39×26	40	201.59	
RP(1584)	V5-73	49×26	18	201.33	BS243より前
RP(1585)	V5-72	49×35	37	201.89	礎石
RP(1586)	V5-62	126×116 [70×63]	108	201.87	柱版
RP(1588)	V5-62	73×72 [41]	28	202.23	柱版
RP(1589)	V5-62	63×54	42	202.09	
RP(1590)	V5-62	48×43	19	202.37	
RP(1591)	V5-60	91	28	201.74	BS306-11E3より前 BS264より前 RP(1395)と兼ね不明
RP(1592)	V5-F-68	66×61	19	201.88	
RP(1594)	V5-63	30×22	17	202.32	
RP(1599)	V5-68	54 [18]	36	201.80	79(70×70)・BS322より前

電線名	グラッド	規格 (cm)		備考
		長尺輪 (柱高)	底面 積高 (m)	
SP11806	VT-67-68	82×27	29	201.91
SP11807	VT-6-67	48	33	201.71 電線210と新設不明
SP11808	VT-24	82×60	54	201.54
SP11809	VT-74	80×37	56	201.52
SP11810	VT-22	47	24	201.96 電線213より新
SP11811	VT-23	43×34	43	201.90
SP11812	VT-71	35	48	201.66 電線216と新設不明
SP11813	VT-72	39×36	38	201.85
SP11814	VT-72	35×33	40	201.82 電線11822より新
SP11816	VT-71	40×24	60	201.55
SP11817	VT-71	34×24	51	201.63
SP11818	VT-72	32×29	22	202.01
SP11819	VT-72	30×29	24	201.99
SP11820	VT-72	47×34	24	201.90
SP11822	VT-72	25	39	201.83 電線11814より新
SP11823	VT-78	49×43	18	201.49
SP11824	VT-26	35	26	201.62 電線11827と新設不明
SP11825	VT-26	36×35	18	201.68
SP11826	VT-26	38×35	20	201.69
SP11827	VT-25	34×29	28	201.60
SP11828	VT-25	42×38	20	201.55
SP11829	VT-8-75	42×39	24	201.63
SP11830	VT-78	38×31	30	201.59
SP11831	VT-77	43×43	20	201.74
SP11832	VT-26	45×39	23	201.64 確認
SP11833	VT-26	34×32	20	201.59
SP11834	VT-25	45×37	33	201.54
SP11835	VT-26	29×27	19	201.66
SP11836	VT-26	35×32	30	201.56
SP11837	VT-25	34×29	18	201.61 電線11834と新設不明
SP11838	VT-66	39×35	58	202.26 77F
SP11839	VO-65	33×31	18	202.76 確認
SP11841	VO-64-65	46×41	20	202.61 確認
SP11843	VO-64-65	40×32	20	202.82 確認
SP11844	VO-65	32×29	25	202.49
SP11848	VO-25	28×24	29	201.67
SP11849	VO-26	33×47	22	201.70
SP11850	VO-28	30×27	30	201.60
SP11851	VO-27	63×59	58	201.26
SP11854	VO-65	24×22	21	202.64
SP11855	VO-66	34×28	28	202.61
SP11856	VO-66	39×36	33	202.55
SP11858	VO-65-66	40×34	42	202.67 77F
SP11859	VO-64-65	27×23	18	202.23
SP11860	VO-64	39×31	23	202.13 電線107より新
SP11862	VO-66	39×34	35	202.62 電線11857と新設不明
SP11863	VO-64	27×21	14	202.76
SP11865	VO-66	40×38	28	202.58
SP11867	VO-66	32×28	35	202.49 確認、路上
SP11868	VO-67	42	52	202.20 併設、電線11963より新
SP11869	VO-67	40×36	66	202.14 77F
SP11871	VO-67	49×38	48	202.44 77F
SP11872	VO-65-66	44×38	48	202.12 確認
SP11873	VO-1-J-66	80×76	84	201.88 確認(平置き)
SP11874	VO-62	30	26	202.24
SP11875	VO-65-66	40×39	36	202.33 柱高、確認
SP11876	VO-67	49×40	43	202.61
SP11877	VO-26	40×25	43	201.29
SP11878	VO-26	44×38	22	201.64

電線名	グラッド	規格 (cm)		備考
		長尺輪 (柱高)	底面 積高 (m)	
SP11879	VO-76	26×25	22	201.46
SP11880	VO-76	45×30	44	201.40
SP11881	VO-75	26×25	20	201.28
SP11882	VO-75	29×27	25	201.55
SP11883	VO-75	39×36	49	201.28
SP11884	VO-26-77	77×37	56	201.49
SP11885	VO-78	44×33	25	201.74
SP11886	VO-78	37	13	201.90 電線11887と新設不明
SP11887	VO-78	26×26	20	201.83 電線11886と新設不明
SP11888	VO-78	37×28	27	201.74
SP11889	VO-78	41×37	25	201.61
SP11890	VO-78	53×46	16	201.72
SP11891	VO-78	62×46	66	201.28
SP11892	VO-75	29×26	35	201.52
SP11893	VO-75	39×36	46	201.42
SP11894	VO-78	24×22	23	201.66
SP11895	VO-26-77	79×49	40	201.51
SP11896	VO-75	45×37	35	201.49
SP11897	VO-79	47×43	26	201.92
SP11898	VO-71	37×31	20	201.94
SP11899	VO-72	48×45	27	201.86
SP11900	VO-72	32×24	42	201.79
SP11902	VO-62	27×29	26	202.14 柱高
SP11906	VO-64	35×36	24	202.18 確認
SP11908	VO-67	53×39	62	202.30 77F
SP11910	VO-63	69	80	201.76 電線104より新、電線104より新
SP11911	VO-65	50×43	54	202.16
SP11912	VO-62	51×44	32	202.12 77F、電線106より新
SP11914	VO-66	41×36	20	202.42
SP11917	VO-66	44×38	40	202.47 電線11907と新設不明
SP11918	VO-68	40×34	29	201.67
SP11919	VO-69	37×33	24	201.77
SP11920	VO-64	55×52	56	201.94
SP11921	VO-71	43	28	201.90
SP11922	VO-63	39×30	33	202.15 柱高、確認
SP11926	VO-68	36×36	20	201.82
SP11927	VO-68	32×29	17	201.87
SP11933	VO-72	53×47	37	201.82 確認
SP11936	VO-25	28×25	17	201.66
SP11937	VO-65	37×36	8	202.41
SP11939	VO-65-66	26×54	73	201.87 77F
SP11940	VO-70	35	43	201.79 電線301より新
SP11941	VO-67	29×27	26	202.14
SP11943	VO-65	75×42	30	202.29
SP11944	VO-65	38×33	35	202.17
SP11945	VO-65	29×25	25	202.22
SP11946	VO-65	51×47	36	202.11
SP11947	VO-65	36×32	22	202.24
SP11948	VO-68	28×21	23	202.22
SP11949	VO-69	43×42	41	201.85
SP11950	VO-64	94×76	64	201.65 電線11670と新設不明
SP11941	VO-69	32	29	201.40 電線264と電線11792と新設不明
SP11952	VO-64	25×19	22	202.06
SP11953	VO-64-65	29×25	7	202.34
SP11955	VO-69	91×63	54	202.26 77F
SP11956	VO-69	81×77	19	202.28
SP11957	VO-66	78	18	202.68 電線11862と1917と新設不明
SP11958	VQ-64	25×23	26	202.68
SP11959	VQ-64	21×26	14	202.21

造機名	グリッド	規格 (cm) 長尺軸 [柱径]	長さ	最高 機高 (m)	備考
RP11960	VX-65	31×26 [11×6]	60	201.98	7月, 確認
RP11961	VX-68	42×37	40	201.60	
RP11962	VY-62	30×179	20	201.20	
RP11963	VJ-60-67	29	52	202.19	RP11968より目
RP11964	VX-63	47×40 [17×21]	66	202.04	柱径
RP11966	VY-55	24×24	31	202.49	
RP11967	VY-55	24×20	19	202.62	
RP11969	VY-55	43×39	19	202.66	
RP11970	VY-55	29	36	202.46	
RP11972	VY-55	25×23	13	202.67	
RP11973	VY-54	25×23	23	202.61	
RP11974	VX-60	60×67 [20]	74	202.18	柱径
RP11977	VQ-74	34×26	35	201.88	
RP11978	VQ-74	41×26	18	201.64	
RP11979	VQ-74	41×37	24	201.86	
RP11980	VY-70	42×26	46	201.27	
RP11981	VQ-66	30×26	21	202.01	
RP11982	VQ-69	38×35	63	201.47	
RP11983	VY-71	50×49	18	201.79	
RP11984	VQ-75	22×19	11	201.68	確認
RP11985	VQ-76	44×33	14	201.61	
RP11986	VX-78	33×40	25	201.24	
RP11987	VY-74	50×44	40	201.60	
RP11988	VY-75	36×36	23	201.66	
RP11989	VY-75	39×28	27	201.62	
RP11990	VY-75	40×33	20	201.71	
RP11994	VJ-K-59	50×44 [26]	47	202.04	
RP11994	VX-59	54×44 [26]	36	202.16	
RP11995	VX-59	39×37	31	202.23	
RP11996	VX-59	47×43	39	202.12	RP12001と新旧不明
RP11997	VJ-59	101×90	66	201.76	船土
RP11998	VJ-59-60	81×80 [33×33]	75	201.68	柱径, 船土, 確認
RP11999	VX-59	65×43	30	202.13	船土
RP12001	VX-59	43	30	202.20	船土, 船平機 RP11996と新旧不明
RP12003	VY-59	52×57 [26]	60	202.00	柱径, 船土
RP12004	VX-59	75×63	67	202.13	
RP12005	VX-59	47×44	50	201.96	RP12029より新
RP12006	VX-59	60×56	53	201.96	
RP12013	VX-60	48×36 [17]	33	202.18	柱径, 船固
RP12016	VX-61	56×47 [16]	76	202.18	柱径, 船固, 船土
RP12017	VY-59	47×41 [30×26]	73	202.00	柱径をいし柱径取直, 確認
RP12018	VX-58	47×41 [23]	40	202.16	柱径, 確認
RP12020	VX-59	43	36	202.14	確認, RP12005より新
RP12022	VX-59-60	55×41	26	202.24	RP12024と新旧不明
RP12024	VX-59	57	24	202.21	RP12022と新旧不明
RP12025	VJ-59	49×29	38	202.06	7月, 船固
RP12024	VY-54	22×20	23	202.64	
RP12025	VY-55	28×25	31	202.36	
RP12026	VY-55	28×20	23	202.36	
RP12027	VY-56	32×25	30	202.58	船固
RP12028	VY-55	22×20	26	202.60	
RP12029	VY-55	26×24	31	202.53	
RP12041	VU-75	50×44	44	201.82	
RP12042	VU-75	32×28	30	201.78	
RP12043	VX-76	30×24	22	201.62	
RP12044	VY-76	21×18	24	201.68	

造機名	グリッド	規格 (cm) 長尺軸 [柱径]	長さ	最高 機高 (m)	備考
RP12045	VY-73	31×23	19	201.83	
RP12046	VY-73	41	26	201.73	RP12047と新旧不明
RP12047	VY-73	55×42	64	201.34	RP12046と新旧不明
RP12048	VY-73	28×20	24	201.80	
RP12049	VY-73	32×26	26	201.65	
RP12050	VY-73	42×29	42	201.38	
RP12052	VU-I-61-62	37×33	56	202.20	
RP12053	VG-61	80×74 [30]	66	202.28	柱径, 7月, 確認
RP12054	VX-60	32×28 [16×16]	22	202.25	7月
RP12055	VX-60	37×36 [9]	28	202.28	柱径
RP12056	VU-61	89×81 [25×21]	101	201.83	柱径, 7月, 確認
RP12057	VG-61	43×36 [21×17]	83	202.64	
RP12058	VX-60	54×42	32	202.10	確認, 2基並列の可能性あり
RP12059	VX-59	30×24	32	202.18	
RP12060	VX-59	42×30	31	202.12	
RP12061	VX-58-59	81×74	28	203.43	
RP12062	VX-58	38×35	26	203.46	
RP12063	VX-58	43×29	17	203.37	
RP12064	VY-60	80×71	46	203.15	
RP12065	VY-62	34×31	22	203.32	
RP12066	VX-64	33×31	18	203.40	
RP12068	VU-I-58	55×46	49	202.41	
RP12070	VG-59	49×34	40	202.51	
RP12072	VG-59-59	70×67 [43]	82	202.10	柱(船固)柱
RP12073	VU-60	38×33	26	202.29	
RP12074	VX-60	37×35	29	203.24	
RP12075	VX-60-61	29×27	30	203.35	
RP12076	VY-61-62	38×33	26	203.16	
RP12077	VY-61	35×32	29	203.22	
RP12078	VJ-61	121×117 [31×25]	83	201.84	柱径取直
RP12079	VX-59	54×50	42	202.68	船固
RP12081	VY-73	63×42	25	201.76	
RP12082	VY-74	47×44	25	201.76	
RP12083	VU-V-73	35×29	24	201.83	
RP12084	VU-73	28×23	20	201.90	
RP12085	VU-73	47	18	201.90	RP12084と新旧不明
RP12086	VY-73	46×42	21	201.80	
RP12087	VU-73	37×42	20	201.76	
RP12088	VU-73	51×33	26	201.82	
RP12091	VX-79	41×39	27	201.49	
RP12093	VX-80	30×29	29	201.51	
RP12095	VY-76	103×85 [38×33]	64	201.40	柱径, 船固
RP12096	VX-75	44	26	201.43	RP12097と新旧不明
RP12097	VX-75	43×31	36	201.20	RP12096と新旧不明
RP12098	VY-75	56×47	34	201.63	
RP12099	VY-74	49×31	26	201.52	
RP12100	VX-75	29×24	33	201.46	
RP12101	VX-75	23×16	18	201.47	
RP12102	VX-75	29×20	21	201.50	
RP12103	VX-75	32×32	21	201.57	RP12104と新旧不明
RP12104	VX-75	23	24	201.48	RP12103と新旧不明
RP12105	VX-74	28×28	25	201.48	
RP12106	VU-75	34×30	31	201.84	
RP12107	VY-75	26×25	26	201.68	
RP12108	VY-75	22×19	23	201.80	
RP12109	VY-76	27×23	21	201.86	
RP12110	VX-8-71	30×28	27	201.92	
RP12111	VY-79	29×28	24	201.55	

道路名	グラッド	規格 (cm)	長尺幅 (1区画)	長さ (m)	高層 標高 (m)	備考
RP12112	VY-71	31×24	26	201.84		橋脚
RP12116	WB-77	47×43	24	201.94		
RP12117	WB-77	51×46	65	201.92		
RP12118	WB-77	30	28	201.84		RP12119と新旧不明
RP12119	WB-C-79-77	47×44	32	201.77		RP12119と新旧不明
RP12120	WB-76	67×52	34	201.70		
RP12121	WB-75	62×54	66	201.63		
RP12122	WB-75	32×30	18	201.92		
RP12123	VY-VA-78	31×29	23	201.78		
RP12124	VA-75	31×46	41	201.54		
RP12125	VA-74	38×32	28	201.78		
RP12126	VY-R-75	60×62	44	201.43		
RP12127	VY-76	23×20	16	201.78		
RP12128	VY-76	21×19	10	201.94		
RP12132	VY-76	61×66	70	201.25		
RP12133	VY-72	28×21	15	201.99		
RP12134	VY-72	65×29	31	201.96		
RP12135	VY-72	38×22	14	202.03		
RP12137	VY-25	38×37	28	201.49		
RP12138	VY-25	43×38	25	201.60		
RP12139	VY-26	25×23	26	201.42		
RP12140	VY-76	42×38	20	201.60		
RP12141	VY-75	28	32	201.42		RP12137と新旧不明
RP12142	VY-77	31×30	20	201.60		
RP12143	VY-74	43×32	28	201.54		RP12144より新
RP12144	VY-74	29	17	201.64		RP12143より旧
RP12145	VY-77	41×37	40	201.54		
RP12146	VY-79	33×24	23	201.31		
RP12147	VY-77	28×27	17	201.92		
RP12148	VY-77	30×26	20	201.70		R8230と新旧不明
RP12149	VY-76	32×29	33	201.61		
RP12150	VY-26	31×27	28	202.66		
RP12151	VY-25	35×30	29	201.65		
RP12152	VY-25	59×48	62	201.19		
RP12153	VY-25	30×25	35	201.47		
RP12154	VY-74	38×36	28	201.54		
RP12155	VY-78	43×40	32	201.67		
RP12156	VY-72	31×28	23	201.88		
RP12157	VY-29	28×27	25	201.88		
RP12158	VY-70	29×27	44	201.64		
RP12159	VY-70	47×35	37	201.68		
RP12160	VY-23	28×25	29	201.80		
RP12161	VY-71	41×36	28	201.92		
RP12162	VY-71	30×25	20	201.98		
RP12163	VY-71	31×18	21	201.96		
RP12164	VY-70	23×20	20	201.89		
RP12165	VY-70	31×23	51	201.56		
RP12166	VY-70	45×44	30	201.78		
RP12167	VY-73	40×39	28	201.80		
RP12168	VY-73	27×24	21	201.74		
RP12169	VY-74	91×57	60	201.63		
RP12170	VY-74	37×33	24	201.67		
RP12171	VY-R-78	78×65	60	201.36		
RP12172	VY-75	47×37	38	201.66		
RP12173	VY-75	46×34	60	201.41		
RP12174	VY-75	82×80	62	201.24		
RP12175	VY-55	43×32	51	202.45		
RP12176	VY-55	34×26	52	202.38		
RP12177	VY-55	31×29	28	202.45		
RP12178	VY-55	31×22	21	202.71		
RP12179	VY-55	30×28	31	202.61		
RP12180	VY-55	32×35	26	202.63		
RP12181	VY-56	32×28	28	202.78		

道路名	グラッド	規格 (cm)	長尺幅 (1区画)	長さ (m)	高層 標高 (m)	備考
RP12182	VY-55-56	56×44	32	202.48		
RP12183	VY-55	37×29	44	202.83		
RP12184	VY-55-56	27×24	32	202.54		
RP12185	VY-55	39×25	32	202.60		
RP12186	VY-55	25×24	46	202.44		
RP12187	VY-54-55	29×28	29	202.66		RP12189より新
RP12188	VY-54	26	18	202.78		RP12187より旧
RP12189	VY-55	25×23	32	202.64		
RP12190	VY-55	25×20	42	202.82		
RP12191	VY-55	25×21	28	202.70		
RP12192	VY-55	24×18	24	202.70		
RP12193	VY-55	29×25	46	202.48		
RP12194	VY-55	33×32	34	202.60		
RP12195	VY-55	27×26	46	202.46		
RP12196	VY-55	44×40	31	202.55		
RP12197	VY-55-56	34×32	29	202.49		RP12198より新
RP12198	VY-55-56	25×24	20	202.68		RP12197より旧
RP12199	VY-55	23×21	28	202.62		
RP12200	VY-55	30×25	40	202.55		
RP12201	VY-55	29×28	28	202.69		
RP12202	VY-55	27×20	23	202.73		
RP12203	VY-55	30×26	42	202.50		
RP12204	VY-76	27×25	23	202.56		
RP12205	VY-55	47×40	44	202.46		
RP12206	VY-56	28×27	27	202.51		
RP12207	VY-56	24×22	25	202.62		
RP12208	VY-58	39×30	22	203.64		
RP12209	VY-58	27×25	26	202.90		
RP12210	VY-57	40×36	33	202.71		
RP12211	VY-56	23×18	19	202.54		
RP12212	VY-56	32×28	24	202.49		
RP12213	VY-56	33×28	44	202.32		
RP12214	VY-55	26×20	18	202.62		
RP12215	VY-54	25×21	26	202.46		
RP12216	VY-54	31×27	29	202.47		
RP12217	VY-56	36×31	33	202.45		
RP12218	VY-55	29×64	26	202.49		
RP12219	VY-55	44×34	25	202.82		
RP12220	VY-56	47×43	29	202.64		
RP12221	VY-63	69×62	54	202.71		橋脚
RP12222	VA-69	100×82	179	197.97		
RP12223	VY-59	30×29	26	202.78		
RP12227	VY-61	31×29	24	202.96		
RP12228	VY-57	31×30	28	202.83		
RP12229	VY-61	53×18 [31×28]	72	201.77		住居、橋脚
RP12230	VY-60	39×34	32	201.89		
RP12231	VY-60	45×78	26	202.12		橋上
RP12232	VY-53	29×67	23	203.62		
RP12233	VY-VY-69	35×28	9	203.17		
RP12236	MD-71	54×48	28	201.84		
RP12237	VQ-75	49×47	26	201.22		R8318より旧
RP12238	VY-73	33×30	18	201.60		R8335より新
RP12239	VY-62	58×48	32	201.71		橋脚、R8363から変換
RP12240	VY-62-63	78×68	26	202.76		R8381から変換

土器観察表

図番号	出土位置	層位	器種	部位	分類	文様等の属性	備考
13-1	BS102	床面直上	深鉢形	口縁部	VIb1	沈線(横位),口縁部指環王痕,LR斜回	粗砂粒
13-2	BS102	床面直上	深鉢形	口縁部	VIc2	沈線(横位平行,口縁内面),LR横回	内外面炭化物
13-3	BS102	床面直上	深鉢形	口縁部	VIc2	沈線(横位平行,口縁内面),粘土粘貼付,LR横回	内外面炭化物
13-4	BS102	床面直上	深鉢形	口縁部	VIc2	沈線(横位平行,口縁内面),LR横回	内面炭化物
13-5	BS102	床面直上	台付浅鉢	底部	VI	沈線(円形文)	内面赤色顔料,底径4.2cm
13-6	BS102	1層	浅鉢形	口縁~底部	VIb	LR横回,底部丸底状	P-1,粗砂粒,口径16.8cm,底径7.5cm,器高6.0cm
15-1	BS103	2層	深鉢形	口縁部	IIH	波状口縁(指定4単位),沈線,刺突,LR横回	内外面炭化物,口径11.4cm
16-2	BS103	堆積土	深鉢形	胴部	IIH	刺突,LR斜回	外面炭化物,粗砂粒
15-3	BS103	堆積土	深鉢形	胴部	IIH	沈線(逆U字状懸垂文),円形刺突,LR横回	外面炭化物
16-4	BS103	床面直上	深鉢形	胴部	IIH	沈線(逆U字状懸垂文),円形刺突,LR横回	外面炭化物
15-5	BS103	床面直上	深鉢形	胴~底部	II	LR横~斜回	P-2,底径5.8cm
15-6	BS103	床面直上	深鉢形	口縁~底部	II	LR横回	P-1,口径16.0cm,底径6.1cm,器高19.3cm
15-7	BS103	堆積土	深鉢形	口縁部	II	折り返し状口縁,無文	外面炭化物
15-8	BS103	堆積土	深鉢形	口縁部	II	折り返し状口縁,LR横回	外面炭化物
15-9	BS103	堆積土	深鉢形	口縁部	II	LR横回	外面炭化物
15-10	BS103	床面直上	深鉢形	胴部	II	LR横~斜回	P-3,内面炭化物
17-1	BS104	焼土上面	深鉢形	口縁~胴部	II	口唇部肥厚,LR横~斜回	
17-2	BS104	堆積土	深鉢形	口縁部	II	口唇部肥厚,凹線,円形刺突,車軸状全体溝1線区	
17-3	BS104	堆積土	深鉢形	口縁部	IIH	刺突,LR横回	外面炭化物,海綿状骨針
17-4	BS104	堆積土	深鉢形	胴部	IIH	沈線(逆U字状懸垂文),刺突,0段多条LR	海綿状骨針
17-5	BS104	堆積土	深鉢形	胴部	IIH	沈線(懸垂文)刺突,LR横回	内外面炭化物
17-6	BS104	堆積土	小型	底部	IIH	沈線(懸垂文)	底径3.3cm
17-7	BS104	堆積土	深鉢形	口縁部	II	折り返し状口縁,無文	
19-1	BS105	堆積土	深鉢形	口縁~胴部	II	波状口縁(口縁4単位),口唇部肥厚,凹線(渦巻文),LR横回	外面炭化物,海綿状骨針,口径19.0cm
19-2	BS105	堆積土	深鉢形	口縁~胴部	II	口唇部肥厚,沈線,刺突,LR横回	外面炭化物,口径24.5cm
20-1	BS105	堆積土	深鉢形	口縁~胴部	II	沈線(渦巻文),LR斜回	
20-2	BS105	堆積土	深鉢形	口縁部	II	沈線(渦巻文),LR斜回	
20-3	BS105	堆積土	深鉢形	口縁部	II	沈線,LR横回	外面炭化物
20-4	BS105	堆積土	深鉢形	口縁部	II	是意距突起,凹線,LR横回	
20-5	BS105	堆積土	深鉢形	口縁部	II	波状口縁,口唇部肥厚,凹線(渦巻文),LR横回	外面炭化物
20-6	BS105	堆積土	深鉢形	口縁部	II	波状口縁,口唇部肥厚,凹線(渦巻文),沈線,LR横回	外面炭化物
20-7	BS105	堆積土	深鉢形	胴部	II	沈線(懸垂文),刺突,LR斜回	
20-8	BS105	堆積土	深鉢形	胴部	II	隆起隆帯,刺突,LR横回	
20-9	BS105	堆積土	深鉢形	口縁~底部	II	隆起隆帯,隆起把手欠損,無文,LR横~斜回	外面炭化物,口径14.8cm,底径5.5cm,器高13.7cm
20-10	BS105	堆積土	蓋形	胴部	II	頸部隆帯,機状把手欠損,無文	海綿状骨針
20-11	BS105	堆積土	深鉢形	口縁部	II	口唇部肥厚,条痕(縦位)	外面炭化物
20-12	BS105	堆積土	深鉢形	口縁部	II	波状口縁,口唇部肥厚,LR斜回	外面炭化物,海綿状骨針
20-13	BS105	堆積土	深鉢形	口縁~胴部	II	折り返し状口縁,LR横回	外面炭化物,海綿状骨針,口径14.6cm
20-14	BS105	堆積土	深鉢形	口縁~胴部	II	口唇部肥厚,LR横~斜回	海綿状骨針,口径28.9cm
25-1	BS106	2層	深鉢形	口縁部	II	波状口縁,沈線,LR横回	P-2,外面炭化物
25-2	BS106	2層	深鉢形	口縁部	II	口縁部突起,穿孔,隆帯,沈線,LR横回,LR横回	P-2,外面炭化物
25-3	BS106	2層	深鉢形	口縁部	II	口縁部突起,穿孔,口唇部何目,隆帯,LR横回	P-2,外面炭化物
25-4	BS106	堆積土	深鉢形	口縁部	II	波状口縁,LR横回	補修孔
25-5	BS106	3層	深鉢形	口縁部	II	隆帯,沈線,LR横回	P-1,外面炭化物,海綿状骨針
25-6	BS106	2層	深鉢形	口縁部	II	口唇部沈線,沈線,LR横回	外面炭化物
27-1	BS107F	堆積土	深鉢形	口縁~胴部	II	波状口縁,隆帯,沈線(縦位,横位,弧状),LR横回	内外面炭化物,口径20.6cm
27-2	BS107	堆積土	深鉢形	口縁部	II	波状口縁,口唇部肥厚,隆帯(渦巻文),凹線,LR横回	補修孔

図番号	出土位置	層位	形状	部位	分類	文様等の属性	備考
27-3	BS107	埴埴土	深鉢形	口縁部	II F	口唇部肥厚、凹縁、LR縦回	外面炭化物、海綿状骨針
27-4	BS107	埴埴土	深鉢形	口縁部	II F	波状口縁、口唇部肥厚、凹縁(渦巻文)	内外面炭化物
27-5	BS107	埴埴土	深鉢形	胴～底部	II I	丸横回	底径7.0cm
28-1	BS108	埴埴土	深鉢形	口縁部	II F	波状口縁、口唇部肥厚、凹縁(渦巻文)、沈線、丸横回	外面炭化物
28-5	BS111	床面	深鉢形	胴部	II I	丸横回	
29-1	BS114	床面直上	深鉢形	口縁部	II F	口唇部肥厚、凹縁、LR斜回	P-1
29-2	BS114	床面	深鉢形	口縁～底部	II F	平口縁、口唇部肥厚、凹縁、LR横・斜回	P-1、外面炭化物、口径16.4cm、底径8.0cm、器高22.8cm
29-4	BS115	埴埴土	深鉢形	胴部	II F	沈線、LR横回	内外面炭化物
29-5	BS115	床面	深鉢形	口縁～底部	II F	波状口縁(直線)、口唇部肥厚、凹縁(渦巻文)、LR斜回	P-1、外面炭化物、口径20.2cm、底径7.6cm、器高25.5cm
30-1	BS116	2層	深鉢形	口縁～底部	II A	口縁部突起、穿孔、隆帯、刺突、結束第1種皿・LR	P-1、外面炭化物、海綿状骨針、口径34.9cm、底径9.8cm、器高48.9cm
30-2	BS116	2層	深鉢形	口縁～底部	II A	隆帯、刺突、結束第1種皿・LR	P-2、内外面炭化物、口径31.2cm、底径8.6cm、器高35.9cm
30-3	BS116P2	埴埴土	深鉢形	底部	II I	LR横回	海綿状骨針
31-1	BS116	1層	深鉢形	口縁部	II A	口縁部突起、穿孔、隆帯、刺突、L側圧	内外面炭化物、海綿状骨針
31-2	BS116	1層	深鉢形	口縁部	II D	口縁部突起、隆帯、沈線、丸横回・横回	外面炭化物
32-1	BS117	埴埴土	深鉢形	口縁部	VIC2	沈線(横位平行)、口縁内面、粘土粒貼付、丸横・斜回	内外面炭化物
32-2	BS117	埴埴土	深鉢形	底部	VI	沈線(横位)、LR斜回	
34-1	BS118	埴埴土	深鉢形	口縁部	II E	波状口縁、口唇部肥厚、隆帯、LR横回	P-1
34-2	BS118	1層	深鉢形	胴部	II F	沈線、丸横回	
35-1	BS119P	4層	深鉢形	口縁～胴部	II D	口縁部突起、隆帯、沈線(直線文)、L側圧、LR斜回	P-2、外面炭化物、海綿状骨針
35-3	BS120P	埴埴土	深鉢形	胴部	II A	隆帯、刺突、LR横回、L側圧	図35-4と同一個体、外面炭化物、海綿状骨針
35-4	BS120P	埴埴土	深鉢形	胴部	II A	結束第1種皿・LR	図35-3と同一個体、外面炭化物、海綿状骨針
35-5	BS120	2層	深鉢形	口縁部	II F	口唇部肥厚、凹縁、LR横回	補修孔、外面炭化物、海綿状骨針
35-6	BS120	2層	深鉢形	胴部	II F	沈線、丸横回	外面炭化物
37-1	BS121	埴埴土	深鉢形	口縁部	II H	波状口縁、刺突、沈線、LR縦回	海綿状骨針
37-2	BS121	床面直上	深鉢形	胴部	II H	沈線(縦巻文)、丸横回	内面炭化物
37-3	BS121	床面直上	深鉢形	胴部	II H	沈線、円形刺突、ボタン状貼付、丸横回	P-3、内外面炭化物
37-4	BS121	床面直上	深鉢形	口縁部	II I	LR横回	P-2、外面炭化物、海綿状骨針
38-1	BS123	埴埴土	深鉢形	胴部	II H	沈線(逆字状縦巻文)、LR横回	
38-2	BS123P1	埴埴土	深鉢形	胴部	II H	沈線(逆字状縦巻文)、円形刺突、丸横回	図38-3と同一個体、外面炭化物、海綿状骨針
38-3	BS123P1	埴埴土	深鉢形	口縁部	II H	無文	図38-2と同一個体、海綿状骨針
40-1	BS128a P1	埴埴土	深鉢形	胴部	VIB	LR横回	内外面炭化物、年代測定試料No.18
40-2	BS128a	床面直上	深鉢形	口縁部	VIC2	沈線(横位平行)、口縁内面、丸横回	内面炭化物、海綿状骨針
40-3	BS128a 不能施設	直上	深鉢形	口縁部	VIB	口縁部突起(頂部刻目)、丸横回	内外面炭化物
40-4	BS128a	床面直上	深鉢形	口縁部	VIB	口唇部平坦、LR横回	内外面炭化物
40-5	BS128a	床面直上	深鉢形	口縁部	VIB	口唇部平坦、LR横回	P-1、図40-6と同一個体、内外面炭化物
40-6	BS128a	床面直上	深鉢形	胴部	VIB	LR横回	P-1、図40-5と同一個体、内外面炭化物
40-7	BS128a	2層	深鉢形	口縁～底部	VIB	L横回	P-2、内外面炭化物、口径7.1cm、底径4.2cm、器高7.3cm
41-3	BS128b P2	埴埴土	深鉢形	胴～底部	VIB	無文、底部上付底状	外面炭化物、底径7.7cm
41-4	BS128b P2	埴埴土	深鉢形	口縁～胴部	VIB	口唇部平坦、LR横回	内外面炭化物、海綿状骨針
41-5	BS128b P2	埴埴土	深鉢形	口縁部	VIB	無文	外面炭化物
41-6	BS128b	床面直上	深鉢形	胴～底部	IVB	LR横・斜回、底部上付底状	P-2、図41-7と同一個体、内外面炭化物、底径8.4cm

図番号	出土位置	層位	器種	部位	分類	文様等の属性	備考
41-7	BS1285	埴面或土	深鉢形	口縁～胴部	IVB	口縁部突起, 沈線, 刻目, 胴部突起, LR横回	P-2, 図41-6と同一個体, 内外面炭化物, 口径16.8cm
41-8	BS1286 周溝	埴面土	深鉢形	胴部	III C	沈線, 刻目, 貼環	外面炭化物
41-9	BS1286 周溝	埴面土	深鉢形	口縁部	III C	口縁部突起, 沈線, LR横回	外面炭化物
41-10	BS1286 P1:02	埴面土	深鉢形	口縁部	IV A	小波状口縁, 沈線, LR横・斜回	外面炭化物, 海綿状骨針
41-11	BS1286 P1:02	埴面土	深鉢形	胴部	IV A	沈線, 列点, LR横回	外面炭化物
41-12	BS1286	埴面土	鉢形	口縁部	V	口唇部刻目, 沈線, 刺突, LR横回	外面炭化物
41-13	BS1285	2層	浅鉢形	胴部	VIC7	沈線(変形工字文, 口縁内面), LR横回	
41-14	BS1285	2層	深鉢形	口縁部	III B	口縁部突起, LR横回	海綿状骨針
41-15	BS1286 周溝	埴面土	蓋形	口縁～胴部	III B	無文	口径7.7cm
41-16	BS1286	3層	深鉢形	口縁部	III B	LR斜回	海綿状骨針
42-2	BS128	埴面土	浅鉢形	口縁部	VA	口唇部沈線, 沈線, 刺突	
42-3	BS128	確認面	鉢形	口縁部	V	口縁部突起, 口唇部刻目, 沈線(横位, 口縁内面), LR横回	内外面炭化物
42-4	BS128	確認面	深鉢形	口縁部	VIA1	沈線(横位), LR横回	内面炭化物
42-5	BS128	埴面土	蓋形	口縁部	V	頸部突起, 隆帯, 無文	外面赤色顔料, 口径6.4cm
42-9	BS132	1層	蓋形	口縁～底部	III B	LR横回, 底部上打底状	P-1, 外面炭化物, 口径9.8cm, 底径8.1cm, 器高23.6cm
42-10	BS132	埴面土	鉢形	口縁部	VIB1	口縁部突起欠損, 沈線, LR横回	内外面炭化物
42-11	BS132	埴面土	深鉢形	口縁部	VIC2	沈線(横位平行, 縦位, 口縁内面), LR横回	海綿状骨針
42-12	BS132	埴面土	深鉢形	胴部	VI2	沈線(横位平行, 縦位), LR斜回	
42-13	BS132	埴面土	浅鉢形	口縁部	VIC2	沈線(横位平行, 口縁内面)	外面赤色顔料
42-14	BS132	埴面土	深鉢形	胴部	VIA	条痕(縦位)	
42-15	BS132	埴面土	深鉢形	口縁部	III B	口唇部平直, LR横回	内外面炭化物
44-1	BS133 (BP1:1546)	埴面土	深鉢形	口縁部	VIA2a	口縁部突起(頂部刻目), 沈線(横位平行), LR横・斜回	外面炭化物, 粗砂粒
44-2	BS133 (BSK150)	埴面土	深鉢形	口縁部	VIC2	沈線(横位平行, 口縁内面), LR横回	内外面炭化物
44-3	BS133 (BP1:1545)	埴面土	台付浅鉢	底部	VI	沈線(円形文)	
45-1	BS134 (BSN06)	1層	深鉢形	口縁部	II A	隆帯, 刺突, L刺圧	外面炭化物, 海綿状骨針
45-2	BS134 (BSN10)	粘土	深鉢形	胴部	II A	刺突	海綿状骨針
45-3	BS134 (BSD03)	1層	深鉢形	胴部	II F	沈線(渦巻文), LR横回	外面炭化物
45-4	BS134 (BSN11)	1層	深鉢形	口縁部	II F	波状口縁, 口唇部肥厚, 凹線, LR斜回	外面炭化物, 海綿状骨針
45-5	BS135 (BSK24)	埴面土	深鉢形	胴部	II I	LR横回	内外面炭化物
45-6	BS135 (BSK193)	3層	深鉢形	口縁部	II F	波状口縁, 口唇部肥厚, 凹線, 沈線, LR横回	
52-1	BSB01 (BP1:1204)	2層	深鉢形	胴部	III C	沈線(入組帯状文), LR充填	P-1, 内外面炭化物
52-2	BSB01 (BP1:1201)	埴面土	深鉢形	胴部	III C	沈線(横位), 貼環, O及多条LR充填	外面炭化物
52-3	BSB01 (BP1:1202)	1層	深鉢形	口縁部	III B	LR横回	内外面炭化物, 粗砂粒
52-4	BSB04 (BP1:1563)	埴面土	浅鉢形	口縁部	VIC	沈線(工字文, 口縁内面)	外面炭化物質
52-5	BSB04 (BP1:1798)	埴面土	深鉢形	胴部	VI	沈線(横位), LR斜回	内面炭化物, 粗砂粒
52-6	BSB05 (BP1:1715)	埴面土	深鉢形	胴部	VIC2	沈線(横位平行, 口縁内面), 粘土粒貼付, LR横回	内外面炭化物
52-7	BSB05 (BP1:1560)	埴面土	深鉢形	胴部	VIC2	沈線(横位平行), 粘土粒貼付, LR斜回	内面炭化物

図番号	出土位置	層位	形状	部位	分類	文様等の属性	備考
52-8	BS905 (BP11716)	埴積土	鉢形	胴部	VI2b	沈線(横位平行)、乱斜回	内外面炭化物
52-9	BS905 (BP11718)	埴積土	深鉢形	胴部	VI	沈線(横位)、乱横・斜回	外面炭化物、海綿状骨針
52-10	BS905 (BP11715)	埴積土	深鉢形	胴部	VIA	条痕(縦位)	粗砂粒
52-11	BS905 (BP11715)	埴積土	盃形	胴部	VIB	無文	海綿状骨針
52-13	BS908 (BP11707)	埴積土	深鉢形	口縁部	VI3c	口縁部突起(頂部割目)、沈線(横位、矢羽模 状、口縁内面)、粘土粒貼付、乱横・斜回	内面炭化物
52-14	BS906 (BP11531)	埴積土	深鉢形	口縁部	VI2c	沈線(横位平行、口縁内面)、乱横・斜回	内面炭化物
52-15	BS908 (BP11598)	埴積土	浅鉢形	口縁部	VI7c	口縁部突起(頂部割目)、口唇部沈線、 沈線(変形工文字、口縁内面)	
52-17	BS911 (BP11512)	埴積土	深鉢形	口縁部	VI2c	沈線(横位平行、口縁内面)、乱横・斜回	内外面炭化物
60-1	BS902 BS915	1層下部 1層	深鉢形	胴～底部	VI2a	沈線(横位平行、底部付近に横位2条)、 乱横・斜回、底部黒染痕	内外面炭化物、粗砂粒、底径5.6cm
60-2	BS902 BS915	1層 1層	深鉢形	口縁部	VIA	小波状口縁、細密条痕(縦位)	海綿状骨針
60-3	BS102 BS915	灰面直上 1層	深鉢形	口縁部	VI2a	沈線(横位平行、口縁内面)、粘土粒貼付、 乱横・斜回	粗砂粒
60-4	BS908 BS915	埴積土 1層	台付鉢	底部	VI2b	沈線(横位平行)、乱斜回	底径7.7cm
60-5	BS912 BS917	1層 埴積土	深鉢形	口縁部	VI2a	沈線(横位平行、口縁内面)、粘土粒貼付、 乱横・斜回	内面炭化物
60-6	BS914 BS915	2層 埴積土	深鉢形	口縁部	VIB	小波状口縁、乱横・斜回	内面炭化物、粗砂粒
60-7	BS914 BS930	2・3層 埴積土	盃形	胴部	VIB	無文(丁車女18'8)	
60-8	BS902 BS927	1層下部 2層	深鉢形	口縁～胴部	VI2a	平口縁、沈線(横位平行、口縁内面)、粘土粒貼 付、乱横・斜回、口縁部黒面塗	内外面炭化物、粗砂粒、口径19.6cm
60-9	BS925 BS927	2層 1層	盃形	胴部	VI6	沈線(工文字)、刺突	口径5.7cm
61-1	BS926 BS937	2層 埴積土	盃形	胴部	VI3	沈線(横位、斜位)	P-4(BS926)、外面赤色顔料、 海綿状骨針
61-2	BS926 BS937	1層 埴積土	盃形	胴部	VIB	無文	P-2(BS926)
61-3	BS926 BS937	1層 埴積土	深鉢形	口縁部	VI2a	小波状口縁、条痕(縦位)	P-2、外面炭化物
61-4	BS926 BS937	1層 埴積土	深鉢形	口縁部	VI1a	平口縁、沈線(横位)、条痕(縦位)	P-3(BS926)、外面炭化物
61-5	BS926 BS937	1・2層 埴積土	深鉢形	胴～底部	VIA	条痕(縦位)	P-2、外面炭化物、底径9.8cm
62-1	BS902	1層下部	深鉢形	口縁～胴部	VI2a	沈線(横位平行、口縁内面)、粘土粒貼付、 乱横・斜回	外面炭化物、粗砂粒、 年代測定試料No. 10
62-2	BS902	1層下部	深鉢形	口縁部	VI2a	沈線(横位平行、口縁内面)、粘土粒貼付、 乱横・斜回	外面炭化物
62-3	BS902	1層	浅鉢形	口縁部	VI2c	沈線(横位、口縁内面)、内外面丁車女18'8	
62-4	BS902	1層下部	深鉢形	口縁～胴部	VIA	小波状口縁、条痕(縦位)	内外面炭化物、粗砂粒
62-5	BS902	1層下部	深鉢形	口縁～底部	VIA	小波状口縁、条痕(縦位)、口縁横位1'9	内外面炭化物、粗砂粒、 年代測定試料No. 9、 口径20.7cm、底径8.1cm、器高23.8cm
62-6	BS902	1層下部	深鉢形	口縁～胴部	VIA	小波状口縁、条痕(縦位)、口縁部粗面直度	内外面炭化物、粗砂粒、口径22.7cm
62-7	BS902	1層下部	深鉢形	胴～底部	VIB	乱斜回、底部黒面直	内外面炭化物、底径7.3cm
63-5	BS908	2層	深鉢形	口縁部	VI2a	沈線(横位平行、口縁内面)、乱斜回	
63-6	BS908	埴積土	深鉢形	口縁部	VI2a	沈線(横位平行)、乱横・斜回	外面炭化物、粗砂粒
63-7	BS908	2層	深鉢形	口縁部	VI1a	小波状口縁、沈線(横位)、乱横回	内外面炭化物、粗砂粒、年代測定試料 No. 13
63-8	BS908	2層	深鉢形	口縁部	VIA	条痕(縦位)、口縁横位1'9	外面炭化物、粗砂粒
63-9	BS908	3層	深鉢形	口縁部	VIA	条痕(縦位)、口縁横位1'9	内外面炭化物、海綿状骨針

図番号	出土位置	層位	器種	部位	分類	文様等の属性	備考
63-10	BSK008	2層	壺形	口縁～底部	VI	沈澱(横位), 底部葉狀痕	内外面赤色顔料, 口径3.4cm, 底径4.8cm, 器高7.8cm
63-11	BSK008	2層	深鉢形	胴～底部	VB8	乱線・斜回, 底部葉狀痕	P-2, 内外面炭化物, 粗砂粒, 底径8.0cm
64-1	BSK009	1層	深鉢形	口縁部	VIC3	口縁部突起(頂部周目), 沈澱(横位, 矢羽模状), 粘土粒貼付, 乱線・斜回	P-2, 内外面炭化物
64-2	BSK009	1層	台付鉢	底部	VI2b	沈澱(横位平行), LR横回	P-1-3-4, 外面炭化物, 底径8.0cm
64-4	BSK010	堆積土	壺形	胴部	MB	乱線回	粗砂粒
64-5	BSK014	堆積土	深鉢形	口縁部	VIC2	沈澱(横位平行, 口縁内面), 粘土粒貼付, 乱線・斜回	内面炭化物
64-6	BSK014	堆積土	台付鉢	胴部	VI2b	沈澱(横位平行), 乱線回	海綿状骨針
64-7	BSK014	3層	小型	口縁～底部	VIC2	口縁部突起, 沈澱(横位平行), LR横回	P-1, 口径7.0cm, 底径4.2cm, 器高4.5cm
64-8	BSK014	堆積土	浅鉢形	胴部	VB2	沈澱(工字文), 粘土粒貼付	内外面赤色顔料, 漆
64-9	BSK014	堆積土	壺形	胴部	VI2	沈澱(工字文)	外面赤色顔料, 海綿状骨針
64-10	BSK014	2層	壺形	胴～底部	MB	短文	外面赤色顔料, 海綿状骨針, 底径5.6cm
64-11	BSK014	堆積土	深鉢形	口縁部	MA	小皮状口縁, 条痕(縦位), 口縁横位?*	外面炭化物, 粗砂粒
64-14	BSK015	1層	深鉢形	口縁～胴部	VIC2a	沈澱(横位平行, 縦位, 口縁内面), 粘土粒貼付, 乱線・斜回	
64-15	BSK015	1層	深鉢形	口縁部	VIC2	沈澱(横位平行), 乱線回	内外面炭化物
64-16	BSK015	1層	深鉢形	口縁部	VIC2	沈澱(横位平行, 口縁内面), 乱線回	内外面炭化物
64-17	BSK015	1層	壺形	口縁部	VI	沈澱(横位, 口縁内面), 粘土粒貼付	内外面赤色顔料
64-18	BSK015	1層	壺形	胴部	VI	沈澱	外面赤色顔料
64-19	BSK015	1層	深鉢形	口縁～底部	MA	小皮状口縁, 条痕(縦位), 底部上げ底状・葉狀痕	P-2, 内外面炭化物, 粗砂粒, 口径28.2cm, 底径9.6cm, 器高42.4cm
65-1	BSK015	1層	深鉢形	口縁～胴部	MA	小皮状口縁, 条痕(縦位), 口縁横位?*	P-3, 内外面炭化物, 粗砂粒, 口径19.8cm
65-2	BSK015	1層	深鉢形	口縁～胴部	MA	小皮状口縁, 条痕(縦位), 口縁横位?*	P-3-4, 内外面炭化物, 粗砂粒
65-3	BSK015	1層	深鉢形	胴～底部	MA	条痕(縦位)	P-3, 内面炭化物, 粗砂粒, 底径10.1cm
65-6	BSK017	底面	深鉢形	胴部	VIb1	沈澱(横位平行), 乱線回	内面炭化物, 粗砂粒
65-7	BSK018	1層	深鉢形	胴部	VIC2	沈澱(横位平行)	内外面炭化物, 粗砂粒
65-8	BSK018	1層	深鉢形	胴～底部	MB	乱線回	P-1, 内面炭化物, 粗砂粒, 底径11.9cm
65-9	BSK020	1層	深鉢形	口縁部	VIC1	沈澱(横位), 乱線回	内外面炭化物, 粗砂粒
65-10	BSK020	2層	深鉢形	口縁部	VIC2	沈澱(横位平行, 口縁内面), 粘土粒貼付, LR横・斜回	内外面炭化物
65-11	BSK021	1層	深鉢形	口縁部	MA	小皮状口縁, 条痕(縦位)	内外面炭化物, 粗砂粒
65-12	BSK021	1層	深鉢形	胴～底部	MA	条痕(縦位)	粗砂粒, 底径7.2cm
65-13	BSK022	2層	深鉢形	口縁部	MB	小皮状口縁, 乱線回	粗砂粒
65-14	BSK023	堆積土	深鉢形	口縁部	VIC2a	沈澱(横位平行, 口縁内面), 乱線・斜回	内外面炭化物
65-15	BSK023	2層	深鉢形	口縁部	VIC2	口縁部突起, 沈澱(横位平行), LR横回?	内面炭化物, 粗砂粒
65-16	BSK023	堆積土	深鉢形	口縁部	MB	乱線回	外面炭化物, 粗砂粒
66-1	BSK025	深鉢形	深鉢形	口縁部	VIC2	沈澱(横位平行, 口縁内面), 乱線・斜回	外面炭化物
66-2	BSK025	1層	深鉢形	胴部	VI	沈澱(横位), 乱線・斜回	内外面炭化物, 粗砂粒
66-3	BSK025	深鉢形	深鉢形	口縁部	MA	小皮状口縁, 条痕(縦位)	粗砂粒
66-4	BSK026	2層	深鉢形	口縁部	VIC2a	沈澱(横位平行), 粘土粒貼付, 乱線回	内外面炭化物, 粗砂粒
66-5	BSK026	堆積土	深鉢形	口縁部	VIC2a	沈澱(横位平行, 口縁内面), 粘土粒貼付, 乱線回	内面炭化物, 粗砂粒
66-6	BSK026	1層	浅鉢形	口縁部	VB2	沈澱(工字文), 粘土粒貼付	外面赤色顔料
66-7	BSK026	1層	深鉢形	口縁部	MA	条痕(縦位), 口縁横位?*	P-2, 外面炭化物, 粗砂粒
66-8	BSK026	1層	台付鉢	底部	MB	指頭直痕	外面炭化物, 粗砂粒, 底径6.1cm
66-9	BSK026	確認面	深鉢形	口縁～胴部	MA	平口縁, 沈澱(横位3条), 条痕(縦位)	P-1, 外面炭化物
66-10	BSK026	1層	深鉢形	口縁～胴部	MB	小皮状口縁, 乱線回, 口縁横位?*	内外面炭化物, 海綿状骨針, 口径18.0cm
66-15	BSK027	2層	深鉢形	口縁～底部	MB	小皮状口縁, 乱線回, 口縁横位?*	P-1, 内外面炭化物, 粗砂粒, 口径29.1cm, 底径10.5cm, 器高36.0cm
67-1	BSK027	1・2層	深鉢形	胴～底部	VIa	沈澱(横位), 乱線回	内外面炭化物, 底径6.2cm
67-6	BSK028	2層	深鉢形	口縁部	MB	乱線回	粗砂粒
67-7	BSK029	1層	深鉢形	口縁～胴部	VIC2a	平口縁, 沈澱(横位平行, 口縁内面), 粘土粒貼付, 乱線・斜回	内外面炭化物, 海綿状骨針, 口径17.7cm

図番号	出土位置	層位	器種	部位	分類	文様等の属性	備考
67-8	BS0031	堆積土	深鉢形	口縁部	VIA	条痕(縦位)	内外面炭化物、粗砂粒
67-9	BS0030	1層	深鉢形	口縁部	VIc2	沈線(横位平行、口縁内面)、草土粒粘付、 肌襷・斜割	
94-2	BS0082	堆積土	壺形	胴部	VIB	LR縦・斜割	海綿状骨針
94-3	BS0086	堆積土	壺形	胴部	VIB	無文(丁寧な1'8)	外面着色顔料
94-4	BS0088	堆積土	深鉢形	胴~底部	VIA	条痕(縦位)	P-1、外面炭化物、粗砂粒、底径7.0cm
94-5	BS0091	堆積土	浅鉢形	口縁部	VA	口縁部突起、口唇部沈線、沈線(壺形文)、 刺突、LR充填	海綿状骨針
94-7	BSK101	2層	深鉢形	口縁部	VIa2a	沈線(横位平行)、LR横回	P-1、外面炭化物、粗砂粒
94-8	BSK101	堆積土	深鉢形	口縁部	VIa2a	沈線(横位平行)、LR横回	粗砂粒
94-9	BSK101	1層	深鉢形	胴部	VIc2	沈線(横位平行)、LR斜回	内外面炭化物
94-10	BSK101	2層	台付鉢	胴部	VIb2	沈線(横位平行)、LR横回	外面炭化物、粗砂粒
94-11	BSK255	堆積土	深鉢形	口縁部	VIc2a	沈線(横位平行、口縁内面)、LR横回	内面炭化物、口径12.9cm
94-12	BSK101	2層	浅鉢形	胴部	VIb7	沈線(壺形工字文、口縁内面)	
94-13	BSK101	堆積土	浅鉢形	口縁部	VIc7	口唇部沈線、沈線(壺形工字文、口縁内面)、粘 土粒粘付、LR斜回	P-4
94-14	BSK101	2層	浅鉢形	胴部	VI7	沈線(壺形工字文)、LR斜回	
94-15	BSK101	2層	深鉢形	口縁部	VIa1	小波状口縁、沈線(横位)、LR斜回	P-3、外面炭化物、粗砂粒
94-16	BSK101	2層	深鉢形	胴部	VIA	条痕(縦位)	P-2、粗砂粒
94-17	BSK101	堆積土	深鉢形	胴~底部	VIA	条痕(縦位)	P-5、粗砂粒、底径6.9cm
94-18	BSK101	2層	深鉢形	口縁部	VIB	口縁横位1'、LR横回	内外面炭化物、粗砂粒
94-19	BSK101	2層	深鉢形	口縁部	VIB	0段多条LR斜回	内外面炭化物
94-20	BSK101	2層	深鉢形	口縁部	VIB	胴部突起、LR横回	内外面炭化物
95-1	BSK106	堆積土	深鉢形	胴部	VIA	条痕(縦位)	
95-2	BSK109	堆積土	浅鉢形	口縁~胴部	VA	口唇部沈線、沈線(壺形文)、LR横回	外面着色顔料、海綿状骨針、口径 15.6cm
95-3	BSK111	堆積土	深鉢形	胴部	VIB	LR斜回	外面炭化物
95-4	BSK113	堆積土	深鉢形	底部	VIB	LR斜回	海綿状骨針
95-5	BSK110	堆積土	深鉢形	胴部	VIB	LR斜回	
95-8	BSK177	堆積土	深鉢形	胴部	VIB	LR横回	外面炭化物、海綿状骨針
95-10	BSK202	堆積土	深鉢形	口縁部	VIA	小波状口縁、条痕(縦位)	外面炭化物
95-12	BSK218	堆積土	深鉢形	胴部	VIB	LR斜回	
95-14	BSK217	2層	深鉢形	胴部	VIB	LR横回	外面炭化物、粗砂粒
95-15	BSK222	堆積土	壺形	胴部	VIB	LR斜回	
95-16	BSK223	堆積土	浅鉢形	胴部	VI	沈線、LR斜回	
95-17	BSK229	堆積土	深鉢形	胴部	VIB	LR斜回	外面炭化物
95-18	BSK230	堆積土	深鉢形	胴部	VIB	LR斜回	
95-21	BSK247	堆積土	深鉢形	口縁部	IIIc2	沈線、刻目	外面炭化物
95-23	BSK239	堆積土	深鉢形	胴部	VIB	LR斜回	内外面炭化物
95-24	BSK241	堆積土	壺形	胴部	VIB	LR斜回	
95-25	BSK249	堆積土	深鉢形	胴部	VIB	LR斜回	外面炭化物
95-26	BSK274	堆積土	台付鉢	底部	V	無文	底径5.7cm
95-27	BSK276	堆積土	深鉢形	胴部	VIB	LR斜回	
95-28	BSK279	堆積土	深鉢形	胴部	VIB	LR斜回	外面炭化物、海綿状骨針
95-29	BSK282	堆積土	深鉢形	胴部	VIB	LR斜回	外面炭化物
95-30	BSK287	堆積土	深鉢形	口縁部	II F	波状口縁、口唇部肥厚、凹線(尚書文)、LR縦回	外面炭化物
95-32	BSK290	堆積土	深鉢形	口縁部	VIB	口唇部平根、LR斜回	P-1、内外面炭化物、年代測定試料 No. 19
95-33	BSK313	2層	深鉢形	胴部	III B	沈線	P-1、内外面炭化物
95-34	BSK327	堆積土	深鉢形	胴部	VIB	LR斜回	
96-6	BSK335	堆積土	深鉢形	胴部	VIB	LR縦回	
96-7	BSK337	堆積土	深鉢形	胴部	VIB	LR斜回	粗砂粒
96-8	BSK343	堆積土	深鉢形	口縁部	VB	小波状口縁、沈線(横位、口縁内面)、 胴部突起、LR斜回	内外面炭化物
96-9	BSK343	堆積土	深鉢形	胴部	VIB	LR斜回	内面炭化物、粗砂粒

図番号	出土位置	層位	器種	部位	分類	文様等の属性	備考
96-10	BSK345	堆積土	深鉢形	胴部	MB	LS斜回	P-1, 外面炭化物
96-11	BSK346	堆積土	深鉢形	胴部	MB	LS横回	外面炭化物
96-12	BSK350	堆積土	深鉢形	胴～底部	MB	LS横回	直径8.5cm
96-13	BSK372	2層	浅鉢形	胴部	MB	LS斜回	P-1, 粗砂粒
96-14	BSK397	堆積土	深鉢形	口縁部	MB	LS横回	粗砂粒
96-15	BSK398	堆積土	深鉢形	口縁部	MB	LS斜回	粗砂粒
106-1	BSK035	1層	深鉢形	胴～底部	MB	LS横・斜回, 底部上げ底状	P-1, 内外面炭化物, 薄緑状骨針, 直径7.4cm
106-2	BSK036	2層	深鉢形	口縁部	IIIc	口縁部突起(頂部刻目)	内外面炭化物
106-3	BSK036	3層	深鉢形	胴～底部	IIIc	沈線(人組帯状文), LS充填	内外面炭化物, 直径7.5cm
106-4	BSK037	堆積土	深鉢形	口縁部	VIC2	沈線(横位), 口唇部, 粘土粒貼付, LS横回	内外面炭化物, 粗砂粒, 年代測定試料 No. 14
106-9	BSK047	堆積土	深鉢形	口縁部	IIH	折り返し状口縁, 沈線(逆U字状懸垂文), LS横回	内外面炭化物
106-10	BSK047	堆積土	深鉢形	口縁部	IIH	折り返し状口縁, 円形刺突, LS横回	外面炭化物, 薄緑状骨針
106-11	BSK047	堆積土	深鉢形	胴部	IIH	沈線(横位区画, 逆U字状懸垂文), 円形刺突, LS横回	
106-12	BSK047	堆積土	深鉢形	口縁部	II	折り返し状口縁, LS横回	内外面炭化物
106-13	BSK047	堆積土	深鉢形	口縁～胴部	II	LS横・斜回	内外面炭化物, 口径20.7cm
106-14	BSK047	堆積土	小型	胴～底部	II	LS横回, 底部筆刺痕	土1, 内外面炭化物, 直径4.2cm
106-15	BSK047	堆積土	小型	口縁～底部	II	指形正底	口径5.7cm, 直径3.6cm, 器高2.9cm
107-1	BSK047	堆積土	深鉢形	口縁～胴部	IIH	沈線(波状文, 円形文, 逆U字状懸垂文), 円形刺突, LS横・斜回	外面炭化物, 薄緑状骨針
107-6	BSK068	堆積土	深鉢形	口縁部	II	波状口縁, 口唇部肥厚, 凹線(渦管文)	外面炭化物
107-7	BSK068	堆積土	深鉢形	口縁部	II	口唇部肥厚, 条痕(縦位)	外面炭化物, 薄緑状骨針
107-8	BSK068	堆積土	深鉢形	口縁部	II	口唇部肥厚, LS横回	内外面炭化物
107-9	BSK054	堆積土	深鉢形	胴部	IIH	沈線(懸垂文), LS横・斜回	
107-10	BSK054	2層	深鉢形	胴部	IIH	沈線(逆U字状懸垂文), LS横回	
107-11	BSK054	堆積土	深鉢形	口縁部	II	折り返し状口縁, 墨文	
107-12	BSK064	堆積土	深鉢形	口縁～胴部	II	LS横回	補修孔, 内外面炭化物
108-2	BSK068	堆積土	深鉢形	口縁部	II	隆帯, LS横回	外面炭化物
108-3	BSK073	2層	深鉢形	口縁～胴部	IVA	小底状口縁, 沈線(弧状, 人組文), LS充填	内外面炭化物, 口径16.5cm
108-4	BSK090	堆積土	深鉢形	胴部	IIA	隆帯, 刺突	内外面炭化物, 薄緑状骨針
108-5	BSK114	堆積土	深鉢形	胴部	VBA	条痕(縦位)	内外面炭化物, 粗砂粒
108-6	BSK164	2層	深鉢形	口縁部	II	波状口縁, 沈線(弧線文), LS側正, LS横・斜回	
108-7	BSK164	3層	深鉢形	口縁部	II	口唇部斜行刻目, LS横回	外面炭化物
108-11	BSK192	1層	深鉢形	口縁部	II	沈線, LS側正, LS斜回	補修孔
108-13	BSK201	1層	深鉢形	口縁～胴部	II	波状口縁, 口縁部突起, 隆帯, 沈線(弧線文), LS側正, LS横回	P-1, 補修孔, 外面炭化物, 口径18.2cm
108-14	BSK201	1・2層	深鉢形	口縁～胴部	II	波状口縁, 口唇部斜行刻目, 隆帯, 沈線(縦位区画, 弧線文), LS横回	P-3, 内外面炭化物, 薄緑状骨針
108-15	BSK201	2層	深鉢形	口縁部	II	口唇部肥厚, 口唇部斜行刻目, 沈線(弧線文), LS横回	P-2, 外面炭化物
108-16	BSK201	堆積土	深鉢形	口縁部	II	口縁部突起, 穿孔, 隆帯, 沈線, LS横回	内外面炭化物
108-17	BSK201	1層	深鉢形	口縁部	II	口唇部肥厚, 無文	外面炭化物
108-18	BSK201	1層	深鉢形	口縁部	II	波状口縁, 口唇部肥厚, LS横回	内外面炭化物
108-19	BSK201	2層	小型	胴～底部	II	無文	P-1, 直径3.3cm
109-9	BSK352	堆積土	深鉢形	口縁部	VIA	沈線(横位), LS斜回	内外面炭化物, 粗砂粒
109-10	BSK352	堆積土	深鉢形	口縁部	VIC2	口縁部突起(頂部刻目), 沈線(横位平行, 口縁内面), LS横回	外面炭化物
109-11	BSK352	堆積土	浅鉢形	口縁部	VIB2	隆帯, 沈線(横位, 口縁内面), LS充填	外面赤色顔料
109-12	BSK352	堆積土	浅鉢形	口縁～胴部	VIC2	口縁部突起, 沈線(横位, 口縁内面)	内外面炭化物, 外面赤色顔料
109-13	BSK352	堆積土	深鉢形	口縁部	VBA	条痕(縦位)	粗砂粒
109-14	BSK352	堆積土	深鉢形	口縁部	MB	小底状口縁, LS横・斜回	内外面炭化物, 粗砂粒
110-1	BSK394	6層	深鉢形	口縁～胴部	MB	LS横回	P-1, 図110-2と同一個体

図番号	出土位置	層位	器種	部位	分類	文様等の属性	備考
110-2	BSK294	6層	深鉢形	胴～底部	VIB	LR横回,底部上げ底状	F-1,図110-1と同一個体,内外面炭化物,底径8.8cm
110-3	BSK296	堆積土	深鉢形	胴部	IVA	沈澱,LR横回	外面炭化物
110-4	BSK293	堆積土	右付鉢	胴～底部	VIB	無文	外面炭化物,海綿状骨針,底径7.2cm
110-5	BSK295	堆積土	深鉢形	口縁部	III C	沈澱,LR文様	内外面炭化物
110-6	BSK295	堆積土	深鉢形	胴部	IVA	沈澱,LR横回	内外面炭化物
110-7	BSK295	堆積土	深鉢形	口縁部	VIB	口唇部肥厚,LR横回	粗砂粒
113-1	BSR02	堆積土	深鉢形	口縁部	VIB	小波状口縁,乱横・斜回	外面炭化物,口径28.3cm
113-2	BSR03	堆積土	深鉢形	胴～底部	VIB	工具打'後にLR横・斜回,底部上げ底状	内外面炭化物,海綿状骨針,底径8.9cm
113-3	BSR04	堆積土	深鉢形	口縁～底部	VIB	口縁部突起,一面LR横回後に工具打',底部加撃痕小	内外面炭化物,粗砂粒,年代測定試料No.15,口径30.3cm,底径10.9cm,器高29.6cm
113-4	BSR05	堆積土	深鉢形	胴～底部	VIB	乱斜回	内外面炭化物
113-5	BSR06	堆積土	深鉢形	胴～底部	VIB	乱斜回	内外面炭化物
113-6	BSR07	堆積土	深鉢形	胴～底部	VIB	乱斜回,底部上げ底状	内外面炭化物,粗砂粒,底径7.6cm
114-1	BSR08	堆積土	深鉢形	胴～底部	VIB	乱横・斜回	内外面炭化物,底径8.4cm
114-2	BSR10	堆積土	深鉢形	口縁～底部	VIB	平口縁,乱横・斜回,底部上げ底状	内外面炭化物,口径30.6cm,底径10.6cm,器高36.2cm
114-3	BSR11	堆積土	深鉢形	胴部	VIB	LR横回	外面炭化物,粗砂粒
114-4	BSR11	堆積土	深鉢形	底部	VIB	底部上げ底状	外面炭化物,粗砂粒,底径7.5cm
114-5	BSR12	堆積土	深鉢形	胴～底部	VIB	LR横・斜回,底部上げ底状	内外面炭化物,底部穿孔(外面側からの加撃痕),年代測定試料No.16,底径10.1cm
114-6	BSR14	堆積土	深鉢形	底部	VIB	横状打'	粗砂粒
114-7	BSR13	堆積土	深鉢形	胴～底部	VIB	乱斜回,底部上げ底状	内外面炭化物,底径9.0cm
114-8	BSR15	堆積土	深鉢形	胴～底部	VIB	乱斜回,底部上げ底状	内外面炭化物,粗砂粒,底径9.4cm
114-9	BSR16	堆積土	深鉢形	胴～底部	VIB	乱斜回,底部上げ底状	内外面炭化物,粗砂粒,底径11.1cm
115-1	BSR17	堆積土	深鉢形	胴～底部	VIB	乱横・斜回,底部上げ底状	内外面炭化物,粗砂粒,年代測定試料No.27,底径8.6cm
115-2	BSR18	堆積土	深鉢形	胴～底部	VIB	乱斜回	内外面炭化物,粗砂粒,底径8.3cm
115-3	BSR19	堆積土	深鉢形	胴～底部	VIB	乱斜回,底部上げ底状	内外面炭化物,粗砂粒,海綿状骨針,底径9.5cm
115-4	BSR20	堆積土	深鉢形	口縁～底部	VIB	平口縁,乱斜回	内外面炭化物,口径29.6cm,底径9.8cm,器高31.9cm
115-5	BSR21	堆積土	深鉢形	胴～底部	VIB	斜回,底部付近横状打'	内外面炭化物,海綿状骨針,底径9.5cm
115-6	BSR22	堆積土	深鉢形	胴～底部	VIB	乱斜回,底部上げ底状	内外面炭化物,粗砂粒
115-7	BSR23	堆積土	深鉢形	口縁～胴部	II I	口唇部肥厚,LR横回	外面炭化物,口径26.6cm
115-8	BSR25	堆積土	深鉢形	胴部	II I	LR横回	内外面炭化物
115-9	BSR27	堆積土	深鉢形	口縁～胴部	VIB	乱横・斜回	外面炭化物,口径31.9cm
116-1	BSR37	堆積土	深鉢形	口縁部	II F	口唇部肥厚,凹縁,沈澱	図116-2-3と同一個体
116-2	BSR37	堆積土	深鉢形	胴部	II F	沈澱,LR斜回	図116-1-3と同一個体
116-3	BSR37	堆積土	深鉢形	胴部	II F	LR斜回	図116-1-2と同一個体
116-5	BSR38	堆積土	深鉢形	胴～底部	VIB	LR横・斜回,底部上げ底状	内外面炭化物,底径8.4cm
117-1	BSN03	堆積土	深鉢形	口縁～胴部	II H	平口縁,折り返し状口縁,沈澱(逆V字状懸垂文),円形突起,乱横回	外面炭化物,図117-2と同一個体,口径31.9cm
117-2	BSN03	堆積土	深鉢形	底部	II H	無文('14')	図117-1と同一個体
117-3	BSN16	堆積土	深鉢形	胴部	II F	沈澱(弧状,懸垂文),LR横回	外面炭化物
117-4	BSN16	堆積土	深鉢形	口縁～底部	II I	LR縦回	外面炭化物,海綿状骨針,口径17.9cm,底径6.0cm,器高24.6cm
128-1	BP11367	柱直	深鉢形	口縁部	VIA	小波状口縁,条痕(縦位)	外面炭化物,粗砂粒
128-2	BP11367	堆積土	深鉢形	胴部	VIC	沈澱(横位,矢羽状),LR縦回	外面炭化物
128-3	BP11512	堆積土	浅鉢形	口縁部	VIC T	口縁部突起(頂部斜目),口唇部沈澱,沈澱(変形十字文,口縁内面),粘土粒粘付	外面赤色顔料
128-4	BP11512	堆積土	浅鉢形	口縁部	VIC T	口縁部突起(頂部斜目),口唇部沈澱,沈澱(変形十字文,口縁内面),粘土粒粘付	内外面炭化物
128-5	BP11512	堆積土	深鉢形	胴部	VIA	条痕(縦位)	内外面炭化物
128-9	BP11524	堆積土	深鉢形	口縁部	VIC C	沈澱(横位平行,口縁内面),乱横・斜回	内外面炭化物
128-10	BP11505	堆積土	浅鉢形	口縁部	VIC C	沈澱(横位,口縁内面)	内外面赤色顔料

図番号	出土位置	層位	器種	部位	分類	文様等の属性	備考
128-13	BPi:1640	堆積土	深鉢形	口縁部	II F	口唇部肥厚、凹線、LR斜回	海綿状骨針
128-14	BPi:1650	堆積土	深鉢形	口縁部	VI C2	口縁部突起(頂部削突)、沈線(横位平行、口縁内面)、LR横回	
128-15	BPi:1699	堆積土	浅鉢形	口縁部	VI C7	口縁部突起(頂部削目)、口唇部沈線、沈線(実形工平文、口縁内面)、粘土粘貼付	
128-16	BPi:1708	堆積土	壺形	口縁部	VI B	隆帯、沈線(工平文、口縁内面)	外面赤色顔料、口径8.8cm
128-18	BPi:1701	堆積土	深鉢形	口縁～底部	II I	LR横・斜回	P-1、外面炭化物、口径18.4cm、底径7.7cm、器高22.0cm
128-19	BPi:1729	堆積土	台付浅鉢	底部	VI E	沈線(横位)、内面有段	P-1、内外面赤色顔料
129-1	BPi:1768	堆積土	壺形	胴部	VI B	無文	P-1、外面漆状物質、金雲母、底径5.6cm
129-2	BPi:1771	堆積土	深鉢形	胴部	VI	沈線(横位)、LR斜回	内外面炭化物
129-3	BPi:1792	堆積土	深鉢形	口縁部	II F	口唇部肥厚、凹線、LR横回	内外面炭化物、粗砂粒
129-4	BPi:1800	堆積土	深鉢形	胴部	II F	沈線(渦巻文)、LR横回	外面炭化物、海綿状骨針
129-5	BPi:1813	堆積土	深鉢形	口縁部	II F	波状口縁、口唇部肥厚、凹線(渦巻文)、LR横回	外面炭化物
129-6	BPi:1838	堆積土	鉢形	口縁部	V	口唇部削目、沈線(横位、口縁内面)、LR横回	内外面炭化物
129-7	BPi:1869	堆積土	深鉢形	胴部	III C2	沈線、削目、LR充塞	内外面炭化物
130-1	BPi:1902	堆積土	鉢形	胴部	VI B2	沈線(横位平行)、LR斜回	
130-2	BPi:2061	堆積土	深鉢形	口縁部	III B	口唇部平坦、LR横・斜回	内外面炭化物
130-3	BPi:2061	堆積土	深鉢形	口縁部	III B	小波状口縁、LR斜回	内外面炭化物
130-6	BPi:2068	堆積土	深鉢形	口縁部	VI C2	沈線(横位平行、横位、口縁内面)、粘土粘貼付、LR横・斜回	内面炭化物
130-7	BPi:2225	堆積土	深鉢形	口縁部	II I	口唇部肥厚、LR横回	外面炭化物
135-1	VE-55	IIa-1層	深鉢形	口縁部	III C	波状口縁、口唇部肥厚、貼瘤、沈線、LR充塞	P-120、内外面炭化物、海綿状骨針
135-2	VE-65	IIa-2層	深鉢形	口縁～胴部	III C2	口縁部突起、口唇部沈線、沈線、削目、貼瘤、LR充塞	内外面炭化物、口径16.4cm
135-3	VE-64	IIa-1層	深鉢形	口縁部	III C2	口縁部突起(頂部削目)、口唇部肥厚、沈線、削目、LR充塞	内外面炭化物
135-4	VE-65	IIa-1層	深鉢形	口縁部	III C2	人面意匠突起、沈線、削目、LR充塞	外面炭化物
135-5	VD-55	IIa-1層	壺形	口縁～胴部	III C	沈線、貼瘤、LR横回	P-106、外面漆状物質、粗砂粒
135-6	VE-55 VD-56	IIa-1層	深鉢形	口縁～底部	III C	口縁部突起(頂部削目)、口唇部肥厚、沈線、貼瘤、LR充塞	P-120、内外面炭化物
135-7	VD-55	IIa-2層	深鉢形	口縁部	III C3	平口縁、沈線、LR充塞	外面炭化物、口径21.2cm
135-8	VJ-53	IIa層	深鉢形	口縁～胴部	III C3	小波状口縁、口縁部突起、沈線、LR横回	P-239、外面炭化物、口径29.3cm
135-9	VD-55	IIa-1層	深鉢形	口縁～胴部	III C3	口縁部突起、口唇部平坦、沈線(三叉文)、LR充塞	P-106-107、内外面炭化物
135-10	VE-54 VF-54	IIa-1層	注口	胴部	IV	沈線	粗砂粒
136-1	VE-56	IIa-2層	鉢形	口縁～胴部	IV B	口縁部突起、沈線(平歯状文)、LR横回	内外面炭化物、口径12.7cm
136-2	VI-54	IIa層	深鉢形	口縁～胴部	IV B	口縁部突起、口唇部削目、沈線、削突、胴部突起、LR横回	内外面炭化物、海綿状骨針、口径20.6cm
136-3	VD-66	IIa-2層	鉢形	口縁部	IV B	口縁部突起、口唇部削目、沈線、削突、LR横回	内外面炭化物
136-4	VE-56	IIa-1層	鉢形	口縁部	V	口縁部突起、沈線(横位)、LR横回	内外面炭化物
136-5	VE-55 VE-55	IIa-1層 II層	鉢形	口縁～胴部	V	口縁部突起、口唇部削目、沈線(横位)、LR横回	内外面炭化物、海綿状骨針、口径13.2cm
136-6	VE-55 VE-55	I層 IIa-1層	深鉢形	口縁～胴部	VA	口縁部突起、口唇部削目、沈線(横位)、削突、LR横回	外面炭化物、口径30.8cm
136-7	VB-56	IIa-1層	鉢形片口	口縁～底部	V	口縁部突起、沈線(横位)、LR斜回	P-117、内外面炭化物、口径15.8cm、底径6.4cm、器高12.4cm
136-6	VA-57	I層 IIa-1層	鉢形	口縁～胴部	VB	口唇部削目、沈線(横位)、胴部突起、LR斜回	内外面炭化物、年代測定試料No. 23、口径20.8cm
136-9	VB-56	IIa-1層	鉢形	口縁部	VB	口唇部削目、沈線(横位、口縁内面)、胴部突起、LR斜回	内面炭化物
136-10	VC-56	IIa-1層	鉢形	口縁部	VB	口唇部削目、沈線(横位、口縁内面)、胴部突起、LR斜回	内面炭化物
136-11	VA-57	IIa-1層	鉢形	口縁～底部	V	沈線(横位)、胴部突起、LR横回	P-118、外面炭化物、口径15.3cm、底径6.2cm、器高13.0cm
136-12	VA-66	IIa-1層	鉢形	口縁～底部	VB	口唇部削目、沈線(横位)、LR横・斜回	内外面炭化物、口径14.1cm、底径6.4cm、器高11.8cm

調査号	出土位置	層位	器種	部位	分類	文様等の属性	備考
136-13	VE-56	IIa-1層	台付鉢	底部	V	沈線、LK横回	海綿状骨針
137-1	VC-66 VE-55	IIa-1層	浅鉢形	口縁部	VA	沈線(雲形文、口縁内面)、刻目、LK充填	
137-2	VB-56	IIa-1層 IIa-2層	浅鉢形	口縁部	VA	沈線(雲形文)、刻目、LK充填	口径12.4cm
137-3	VC-66	IIa-1層	浅鉢形	口縁～底部	VA	口唇部沈線、沈線(雲形文)、LK充填	内外面赤色顔料
137-4	VD-56	IIa-1層	浅鉢形	口縁～底部	VA	平口縁、沈線(横位)	内外面赤色顔料、口径17.7cm、底径7.2cm、器高5.5cm
137-5	VC-66	IIa-1層	浅鉢形	口縁～底部	VA	口縁部突起、沈線(横位、底部凹形文)	内外面赤色顔料、口径19.3cm、底径6.9cm、器高4.9cm
137-6	VJ-56	IIa層	壺形	胴～底部	VA	平口縁、肩部突起、雲形文	内外面赤色顔料、口径2.8m、底径5.0cm、器高12.5cm
137-7	VC-66	IIa-1層	壺形	胴部	VB	沈線、LK充填	
137-8	IVJ-58	IIa-1層	深鉢形	口縁部	VIC2a	沈線(横位平行、口縁内面)、粘土粒貼付、LK横-斜回	外面炭化物
137-9	IVJ-58	IIa-1層	深鉢形	口縁部	VIC2a	沈線(横位平行、口縁内面)、粘土粒貼付、LK横-斜回	外面炭化物
137-10	VJ-56	IIa層	深鉢形	口縁部	VIC3	沈線(矢羽状、口縁内面)、LK横回	内外面炭化物、海綿状骨針
137-11	IVJ-58	IIa-1層	浅鉢形	胴部	VI2	沈線	外面赤色顔料
137-12	VC-66	IIa-1層	浅鉢形	口縁部	VI2	沈線(横位)	
137-13	VE-55	IIa層 II層	台付浅鉢	胴部	VIC7	沈線	外面赤色顔料
137-14	VB-56	IIa-1層	壺形	口縁～胴部	VI	平口縁、沈線(横位)	外面赤色顔料、口径6.7cm
137-15	VN-63	IIa層	浅鉢形	口縁～底部	VIC7	口縁部突起(頂部刻目)、口唇部沈線、沈線(雲形文字文、口縁内面、内面凹形文)、粘土粒貼付、LK斜回	
137-16	VJ-53	IIa-1層	浅鉢形	胴部	VI7	沈線(雲形文字文)	海綿状骨針
137-17	IVJ-58	IIa-1層	深鉢形	胴部	VIA	条痕(縦位)	内外面炭化物、海綿状骨針
137-18	VA-57	IIa-1層	深鉢形	口縁部	VIB	小波状口縁、口縁横位+、LK横回	内外面炭化物
137-19	IVJ-58	IIa-1層	深鉢形	口縁部	VIB	小波状口縁、LK横回	外面炭化物
137-20	VD-56	IIa-1層	深鉢形	口縁部	VIB	平口縁、口唇部肥厚、LK横-斜回	P-115、外面炭化物、海綿状骨針
137-21	VE-56	IIa-2層	深鉢形	口縁部	VIB	平口縁、口唇部平出、LK横-斜回	外面炭化物、粗砂粒
138-1	IVJ-58	IIa-1層	深鉢形	口縁～底部	VIB	平口縁、LK横回	P-1、内外面炭化物、口径16.2cm、底径5.3cm、器高19.0cm
138-2	VA-57	IIa-1層	深鉢形	口縁～胴部	VIB	平口縁、LK斜回	P-115、外面炭化物、口径26.4cm
138-3	VA-56	IIa-1層	深鉢形	口縁～胴部	VIB	平口縁、口縁部突起、LK斜回	P-114、内外面炭化物、口径22.4cm
138-4	VD-56	IIa-1層	深鉢形	口縁部	VIB	平口縁、口唇部肥厚、LK横回	外面炭化物
138-5	VB-56	IIa-1層	深鉢形	口縁部	VIB	平口縁、沈線(口縁内面)、LK斜回	P-112、外面炭化物
138-6	VC-66	IIa-1層	鉢形	口縁～底部	VIB	平口縁、無文	粗砂粒、口径17.9cm、底径6.9cm、器高14.8cm
138-7	VD-56	IIa-1層	台付小型	胴～底部	VIB	無文	外面炭化物、底径2.8cm
138-8	VE-65	IIa-2層	台付小型	胴～底部	VIB	指痕圧痕	外面炭化物、底径2.9cm
138-9	VE-55	IIa-2層	台付小型	胴～底部	VIB	指痕圧痕	底径2.7cm
150-1	VG-73	IIa層	深鉢形	口縁～底部	VIC2a	沈線(横位平行、縦位、底部付近に横位2条、口縁内面)、粘土粒貼付、LK斜回	P-6、外面炭化物、粗砂粒、口径27.4cm、底径8.1cm、器高28.3cm
150-2	VG-74	IIa層	深鉢形	口縁～胴部	VIC2a	沈線(横位平行、口縁内面)、LK横-斜回	内外面炭化物、粗砂粒
150-3	VG-73	IIa層	深鉢形	口縁部	VIC2a	平口縁、沈線(横位平行)、粘土粒貼付、LK横回	外面炭化物、粗砂粒
150-4	VH-73	IIa層	深鉢形	口縁部	VIC2a	沈線(横位平行、口縁内面)、粘土粒貼付、LK横回	内外面炭化物、粗砂粒
150-5	VH-74	IIa層	深鉢形	口縁部	VIC2a	沈線(横位平行、口縁内面)、粘土粒貼付、LK斜回	内外面炭化物、粗砂粒
150-6	VH-74	IIa層	深鉢形	口縁部	VIC2a	口縁部突起(頂部刻目)、沈線(横位平行、縦位、口縁内面)、LK横-斜回	外面炭化物
150-7	VH-74	IIa層	深鉢形	口縁部	VIC2a	口縁部突起(頂部刻目)、沈線(横位平行、口縁内面)、粘土粒貼付、LK横-斜回	外面炭化物
150-8	VH-74	IIa層	深鉢形	口縁部	VIC2	口縁部突起(頂部刻目)、沈線(横位平行、口縁内面)、LK横-斜回	粗砂粒
150-9	VG-73	IIa層	深鉢形	口縁部	VIC2a	沈線(横位平行、口縁内面)、LK横-斜回	外面炭化物
150-10	VH-74	IIa層	深鉢形	口縁部	VIC2a	沈線(横位平行)、LK横回	内外面炭化物、粗砂粒

図番号	出土位置	層位	器種	部位	分類	文様等の属性	備考
150-11	VH-73	Ⅱa層	深鉢形	口縁部	VIC2a	沈線(横位平行、口縁内面)、粘土粒貼付、L横-斜回	内外面炭化物
150-12	VH-74	Ⅱa層	深鉢形	口縁部	VIC2a	沈線(横位平行、口縁内面)、粘土粒貼付、L横-斜回	内面炭化物、粗砂粒
150-13	VH-73	Ⅱa層	深鉢形	口縁部	VIC2a	沈線(横位平行、口縁内面)、粘土粒貼付、L横回	内外面炭化物、粗砂粒
150-14	VH-73	I層 Ⅱa層	鉢形	口縁~胴部	VIC2b	口縁部突起(推定8単位)、沈線(横位平行、口縁内面)、粘土粒貼付、L横-斜回	口徑13.6cm
150-15	VH-74	Ⅱa層	鉢形	口縁部	VIC2b	口縁部突起(頂部刻目)、沈線(横位平行、口縁内面)、粘土粒貼付、L横-斜回	内外面炭化物、粗砂粒
150-16	VH-73	Ⅱa層	鉢形	胴部	VIC2b	沈線(横位平行、縦位)、粘土粒貼付、L斜回	P-24、内面炭化物
150-17	VG-73	Ⅱa層	鉢形	胴部	VIC2b	沈線(横位平行)、粘土粒貼付、L斜回	粗砂粒
150-18	VH-73	Ⅱa層	深鉢形	胴~底部	VI	沈線(底部付近に横位1条)、L横回、底部染織痕	内外面炭化物、粗砂粒、底径6.3cm
151-1	VG-73	Ⅱa層	台付鉢	底部	VI2b	沈線(横位平行)、L斜回	P-9、内面炭化物、底径6.8cm
151-2	VG-73 VH-74	Ⅱa層	台付鉢	底部	VI2b	沈線(横位平行)、L斜回	P-20、内面炭化物、粗砂粒、底径7.3cm
151-3	VH-74	Ⅱa層	台付鉢	底部	VI2b	沈線(横位平行)、L斜回	P-17、粗砂粒、底径7.8cm
151-4	VG-74	Ⅱa層	台付鉢	底部	VI2b	沈線(横位平行)、L斜回	内面炭化物、底径4.6cm
151-5	VH-73	Ⅱa層	鉢形	口縁部	VIC3	沈線(横位平行、矢羽横状、口縁内面)、L斜回	P-14、内面炭化物
151-6	VH-73	Ⅱa層	鉢形	口縁部	VIC3	口縁部突起(頂部刻目)、沈線(横位平行、矢羽横状、口縁内面)、L横-斜回	内面炭化物、粗砂粒
151-7	VG-73	Ⅱa層	鉢形	口縁部	VIC3	沈線(横位平行、矢羽横状、口縁内面)、L横-斜回	内外面炭化物
151-8	VH-73 VH-74	I層 Ⅱa層	鉢形	胴部	VI3	沈線(横位平行、矢羽横状)、L斜回	P-15、内面炭化物、粗砂粒
151-9	VG-73	Ⅱa層	鉢形	口縁部	VIC3	口縁部突起(頂部刻目)、沈線(横位平行、矢羽横状、口縁内面)、L横-斜回	外表面炭化物、粗砂粒
151-10	VG-73	Ⅱa層	鉢形	口縁部	VIC3	口縁部突起(頂部刻目)、沈線(横位平行、矢羽横状、口縁内面)、粘土粒貼付、L横-斜回	内外面炭化物
151-11	VH-73	Ⅱa層	鉢形	口縁部	VIC3	口縁部突起(頂部刻目)、沈線(横位平行、矢羽横状、口縁内面)、L横回	内外面炭化物
151-12	VH-73	Ⅱa層	鉢形	口縁~底部	VIa1	沈線(横位、縦位)、底部上り底状	P-27、内面炭化物、海綿状骨針、口徑10.4cm、底径3.3cm、器高6.6cm
151-13	VH-73	Ⅱa層	台付鉢	口縁~底部	VIa1	沈線(横位、口縁内面)	P-12、口徑10.9cm、底径4.9cm、器高6.5cm
151-14	VG-73 VG-74	Ⅱa層	深鉢形	口縁部	VIb7	口唇部沈線、沈線(変形工文字、口縁内面)、L斜回	海綿状骨針
151-15	VH-73	Ⅱa層	深鉢形	口縁部	VIb7	口縁部突起(頂部刻目)、口唇部沈線、沈線(横位、変形工文字、口縁内面)、粘土粒貼付、L斜回	
151-16	VH-73	Ⅱa層	浅鉢形	口縁~胴部	VIb1	口縁部突起(頂部刻目)、沈線(横位、口縁内面)、L横-斜回	P-23、粗砂粒、口徑25.6cm
151-17	VH-73	I層 Ⅱa層	浅鉢形	口縁~胴部	VIb1	口縁部突起(頂部刻目)、口唇部沈線、沈線(横位、口縁内面)、L横-斜回	粗砂粒
151-18	VG-73	Ⅱa層	浅鉢形	口縁~底部	VIb2	口縁部突起、沈線(横位、縦位、口縁内面)、L横-斜回	P-25、口徑15.2cm、底径6.1cm、器高5.6cm
151-19	VH-73	Ⅱa層	浅鉢形	口縁部	VIb2	口縁部突起、沈線(横位、内面横位)、粘土粒貼付	内外面赤色顔料、外表面炭化物
151-20	VH-74	Ⅱa層	浅鉢形	口縁部	VIb2	沈線(横位、口縁内面)	外表面赤色顔料
151-21	VG-73	Ⅱa層	浅鉢形	胴部	VIc2	沈線(横位、口縁内面)	内外面赤色顔料
151-22	VH-73	Ⅱa層	浅鉢形	口縁部	VIc2	口縁部突起(頂部刻目)、沈線(横位、縦位、口縁内面)	内外面赤色顔料
151-23	VH-73	Ⅱa層	浅鉢形	口縁部	VIc3	口縁部突起(頂部刻目)、口唇部沈線、沈線(横位、矢羽横状、口縁内面)、L斜回	粗砂粒
151-24	VH-73	Ⅱa層	浅鉢形	口縁~底部	VIc7	口縁部突起、口唇部沈線、沈線(横位、変形工文字、口縁内面)	外表面赤色顔料、内外面漆(年代測定中)、口徑20.6cm、底径8.0cm、器高10.4cm
151-25	VH-73	I層 Ⅱa層	浅鉢形	口縁部	VIc7	口縁部突起(頂部刻目)、口唇部沈線、沈線(変形工文字、口縁内面)、粘土粒貼付、L斜回	海綿状骨針、口徑16.4cm
152-1	VG-74 VH-74	Ⅱa層	浅鉢形	口縁部	VIc7	口縁部突起(頂部刻目)、口唇部沈線、沈線(横位、変形工文字、口縁内面)、粘土粒貼付	口徑26.0cm

図番号	出土位置	層位	形種	部位	分類	文様等の属性	備考
152-2	VH-73	I層 IIa層	浅鉢形	口縁部	VIC7	口縁部突起(頂部刻目)、沈線(横位、実形文字文、口縁内面)	内外面赤色顔料
152-3	VG-74	IIa層	浅鉢形	口縁部	VIC7	口縁部突起(頂部刻目)、口唇部沈線、沈線(横位、実形文字文、口縁内面)、粘土粒結付	
152-4	VG-74	IIa層	浅鉢形	口縁部	VIC7	口縁部突起(頂部刻目)、口唇部沈線、沈線(実形文字文、口縁内面)、粘土粒結付	
152-5	VH-74	IIa層	浅鉢形	口縁部	VIC7	口縁部突起(頂部刻目)、口唇部沈線、沈線(実形文字文、口縁内面)、粘土粒結付、瓦割回	内外面炭化物、年代測定試料No. 21
152-6	VG-73	IIa層	台付浅鉢	底部	VI	沈線(円形文)	底径8.5cm
152-7	VH-74	IIa層	台付浅鉢	底部	VI	瓦割回	
152-8	VH-74	IIa層	壺形	胴部	VI	沈線、瓦割回	海綿状骨針
152-9	VG-73	IIa層	壺形	口縁部	VII5	沈線(凸字状)	P-30、内外面赤色顔料、口径5.9cm
152-10	VG-73	IIa層	壺形	口縁～胴部	VII6	沈線(流水文字文、胴部下半に横位2条)、口縁部構成角穿孔、瓦割回	口径8.1cm
152-11	VG-74	IIa層	壺形	胴部	VII7	沈線(実形文字文)	P-1、金雲母
152-12	VG-73	IIa層	壺形	胴部	VII8	瓦割段、無文(13'4)	
152-13	VH-73	IIa層	壺形	口縁～底部	VII8	沈線(口縁内面)、無文(13'4)	P-29、海綿状骨針、口径7.0cm、底径6.4cm、器高13.2cm
152-14	VG-73	IIa層	壺形	胴部	VII8	瓦割段、無文(13'4)	粗砂粒
152-15	VG-73	IIa層	壺形	胴部	VII8	瓦割回	粗砂粒
152-16	VG-73	I層 IIa層	壺形	胴部	VII8	瓦割回	粗砂粒、海綿状骨針
152-17	VG-73	IIa層	深鉢形	口縁部	VIIA	小波状口縁、条痕(縦位)、口縁横位付*	P-6、外面炭化物、粗砂粒
152-18	VG-73	IIa層	深鉢形	口縁部	VIIA	小波状口縁、条痕(縦位)、口縁横位付*	外面炭化物、粗砂粒
152-19	VH-73	IIa層	深鉢形	胴部	VII8	無文	海綿状骨針
152-20	VH-73	IIa層	深鉢形	口縁部	VII8	小波状口縁、瓦割回	外面炭化物
152-21	VH-73	IIa層	深鉢形	口縁部	VII8	平口縁、瓦割回	外面炭化物
152-22	VH-73	IIa層	深鉢形	底部	VII8	瓦割・斜回、底部上げ底状・葉脈痕	内面炭化物、粗砂粒、底径7.5cm
152-23	VH-74	IIa層	深鉢形	底部	VII8	瓦割回、底部上げ底状	P-21、内外面炭化物、粗砂粒、底径5.7cm
152-24	VG-73	IIa層	深鉢形	底部	VII8	瓦割回、底部上げ底状	外面炭化物、粗砂粒、底径7.2cm
152-25	VG-73	IIa層	小型	胴～底部	VII8	沈線	P-8、底径3.8cm
152-26	VG-74	IIa層	台付小型	底部	VII8	無文	P-3、外面漆状物質
152-27	VG-74	IIa層	小型	口縁～底部	VII8	無文、市須圧痕	土-2、口径3.5cm、底径3.9cm、器高2.6cm
156-1	VI9-75	II層	深鉢形	口縁部	I	L型圧、車輪跡条付L型回	濃緑色
156-2	VI9-73	II層	深鉢形	口縁～胴部	IIA	隆帯、刺突	外面炭化物、海綿状骨針、口径17.6cm
156-3	VI9-74	II層	深鉢形	口縁～胴部	IIA	隆帯、刺突、L型圧	海綿状骨針、口径22.8cm
156-4	VS-64	表I層	深鉢形	口縁部	II6	波状口縁、隆帯、貼付文、瓦割回	外面炭化物
156-5	VI9-70	I層 II層	深鉢形	胴部	II C	口縁部突起、口唇部沈線、隆帯、瓦割回	外面炭化物
156-6	VI9-63	I層	深鉢形	口縁部	II D	口縁部突起、隆帯、沈線(弧線文)、L型圧・横回	外面炭化物、海綿状骨針
156-7	VI9-71	II層	深鉢形	口縁部	II D	口縁部突起、穿孔、隆帯、口唇部斜行刻目、沈線(縦位区画、弧線文)、瓦割回	外面炭化物
156-8	VI7-74	I層	深鉢形	口縁部	II D	口縁部突起、隆帯、口唇部刻目、沈線(縦位)、L型回	外面炭化物、海綿状骨針
156-9	VI9-59 VI9-60	I層 II層	深鉢形	口縁部	II D	波状口縁、口唇部肥厚、隆帯、比線(弧線文)、瓦割回	外面炭化物
156-10	VI9-74 VI9-74	II層	深鉢形	口縁部	II D	口唇部肥厚、口唇部斜行刻目、沈線(横位)、瓦割回	
156-11	VI7-79	II層	深鉢形	口縁部	II E	口唇部斜行刻目、隆帯、比線、瓦割回	外面炭化物
156-12	VI9-68	I層	深鉢形	口縁部	II E	隆帯、沈線、L型横・縦回	外面炭化物
156-13	VI9-66	II層	深鉢形	口縁部	II E	波状口縁、口唇部沈線、隆帯(高巻文)、瓦割回	外面炭化物
156-14	VI9-72	II層	深鉢形	口縁部	II E	波状口縁、隆帯(高巻文)、沈線(高巻文)、瓦割回	外面炭化物
156-15	VI9-70	II層	深鉢形	口縁部	II E	波状口縁、口唇部肥厚、隆帯(高巻文)、沈線(高巻文)、瓦割回	外面炭化物

図番号	出土位置	層位	器種	部位	分類	文様等の属性	備考
156-16	V10-76	Ⅱ層	深鉢形	口縁部	ⅡF	足倉部突起、穿孔、口唇部沈線、凹線、沈線、丸横回	外面炭化物
157-1	V10-73	Ⅱ層	深鉢形	口縁部	ⅡF	波状口縁、口唇部肥厚、凹線(溝巻文)、沈線、丸横・縦回	外面炭化物
157-2	V1A-76	Ⅱ層	深鉢形	口縁部	ⅡF	波状口縁、口唇部肥厚、凹線(溝巻文)、沈線、丸横	
157-3	V1B-66	Ⅱ層	深鉢形	口縁部	ⅡF	波状口縁、口唇部肥厚、凹線(溝巻文)、丸横・縦回	
157-4	V1B-66	Ⅱ層	深鉢形	口縁部	ⅡF	波状口縁、口唇部肥厚、凹線(弧状、溝巻文)、沈線、丸横回	外面炭化物
157-5	VF-72	Ⅱ層	深鉢形	口縁部	ⅡF	波状口縁、口唇部肥厚、口唇部凹線(溝巻文)、丸横回	外面炭化物
157-6	VF-74	Ⅱ層	深鉢形	口縁部	ⅡF	口唇部肥厚、口唇部凹線、丸横回	外面炭化物
157-7	V0-74	Ⅱ層	深鉢形	口縁～胴部	ⅡF	波状口縁、口唇部肥厚、口唇部凹線(溝巻文)、沈線(横位区画、弧状、溝巻文)、刺突、丸横・斜回	
157-8	V8-64	Ⅰ層	深鉢形	口縁部	ⅡF	波状口縁、口唇部肥厚、口唇部凹線(溝巻文)、沈線(横位)	外面炭化物
157-9	VQ-76	Ⅱ層	深鉢形	口縁部	ⅡF	波状口縁、口唇部肥厚、口唇部凹線、沈線(横位)	外面炭化物
157-10	V0-73	Ⅱ層	深鉢形	胴部	ⅡF	沈線(溝巻文)、横位沈線内に刺突区画、丸横回	
157-11	V0-73	Ⅱ層	深鉢形	胴部	ⅡF	横位沈線内に刺突区画、丸横回	
157-12	VF-73	Ⅱ層	深鉢形	胴部	ⅡF	沈線(弧状、溝巻文)、丸横回	外面炭化物
157-13	V1-68	Ⅱ層	深鉢形	胴部	ⅡG	沈線(溝巻文)、丸横回	外面炭化物
157-14	V0-75	Ⅱ層	深鉢形	口縁部	ⅡH	沈線(逆U字状懸垂文)、丸横回	
157-15	V6-66	Ⅱ層	深鉢形	口縁部	ⅡH	折り返し状口縁、沈線(逆U字状懸垂文)、円形刺突、丸横回	外面炭化物
157-16	V1-50 V8-50	Ⅰ層	深鉢形	胴部	ⅡH	沈線(懸垂文)、円形刺突、丸横回	
157-17	VY-67	Ⅰ層	深鉢形	胴部	ⅡI	網目状懸垂文	
157-18	V1B-70	Ⅱ層	深鉢形	口縁～胴部	ⅡI	平口縁、口唇部肥厚、丸横回	外面炭化物、口径12.6cm
157-19	V1A-69	Ⅱ層	深鉢形	口縁～胴部	ⅡI	平口縁、半輪縁全体1周状	外面炭化物、口径20.9cm
158-1	V10-73	Ⅱ層	深鉢形	口縁部	ⅢA	波状口縁、橋状把手、隆帯、刺突	外面炭化物
158-2	V3-85	Ⅱ層	壺形	胴部	ⅢB	沈線(円形文、楕円形文)	外面赤色顔料、海綿状骨針
158-3	V1B-69	Ⅰ層	壺形	胴～底部	ⅢB	沈線(入組波状文)、L充墳	
158-4	V8-64	Ⅱ層	深鉢形	胴部	ⅢC	沈線、貼瘤、丸充墳	
158-5	VN-64	Ⅰ層	深鉢形	口縁部	ⅢC2	口縁部突起、刻目、貼瘤	内外面炭化物
158-6	V8-65	Ⅱ層	深鉢形	口縁部	ⅢC2	口縁部突起、沈線(入組波状文)、刻目、貼瘤、丸充墳	内外面炭化物
158-7	-	攪乱	深鉢形	胴部	ⅢC2	沈線、刻目、貼瘤、丸充墳	内外面炭化物、珉彩粒
158-8	V1-63	Ⅱ層	深鉢形	胴部	ⅢC2	沈線、刻目、丸充墳	粗砂粒
158-9	VF-55	Ⅰ層	深鉢形	口縁部	ⅢC	人面意匠突起、丸充墳	
158-10	V1-50	Ⅰ層	注口	胴部	ⅢC2	沈線、刻目、貼瘤	
158-11	VJ-53	Ⅰ層	鉢形	胴部	ⅣA	隆帯、沈線(魚眼状三叉文)、L充墳	
158-12	VF-56	Ⅰ層	鉢形	口縁～胴部	ⅣA	小波状口縁、沈線(魚眼状三叉文)、丸横回	外面炭化物
158-13	VD-68	Ⅰ層	注口	胴部	ⅢC	注口部沈線、丸充墳	海綿状骨針
158-14	VK-64	Ⅱ層	注口	底部	ⅢC	無文(注口)、底部上付座状	底径2.8cm
158-15	VJ-52	Ⅰ層	鉢形	口縁～胴部	ⅣB	口唇部刻目、沈線(半唐状文)、丸横回	外面炭化物
158-16	V8-55	Ⅰ層	注口	口縁～胴部	ⅣB	口縁部突起、沈線(半唐状文)、胴部突起	内外面赤色顔料、口径8.2cm
158-17	-	-	注口	胴部	ⅣB	沈線(半唐状文)	海綿状骨針
158-18	VJ-53	Ⅰ層	鉢形	口縁部	VA	口縁部突起、口唇部刻目、沈線(横位、口縁内面)、刺突、0段多糸丸斜回	内外面炭化物
158-19	V8-64	Ⅰ層	鉢形	口縁部	VA	口縁部突起、沈線(横位)、刺突、丸横回	内外面炭化物
158-20	V8-73	Ⅰ層	鉢形	口縁部	VA	口縁部突起、口唇部刻目、沈線(横位、口縁内面)、刺突、胴部突起、丸横回	内外面炭化物
158-21	V8-69	Ⅱ層	鉢形	口縁部	VA	口縁部突起、沈線(横位、口縁内面)、刺突、丸横回	内外面炭化物
158-22	V8-69	Ⅱ層	鉢形	口縁部	VA	口縁部突起、口唇部刻目、沈線(横位、口縁内面)、刺突、丸横回	内外面炭化物

図番号	出土位置	層位	器種	部位	分類	文様等の属性	備考
158-23	VL-102	II層	鉢形	口縁部	VA	沈線(横位、口縁内部)、刺突、乱横回	内外面灰化物
158-24	VM-71	II層	鉢形	口縁部	V	口縁部突起、沈線(横位、口縁内部)、刺突、胴部突起、乱横回	
158-25	VJ-52	I層	鉢形	口縁部	V	口縁部突起、口唇部刻目、沈線(横位)、刺突、乱横回	内外面灰化物
158-26	VJ-53	I層	鉢形	口縁部	V	口縁部突起、口唇部刻目、沈線(横位、口縁内部)、刺突、乱斜回	内外面灰化物
158-27	VI-53	I層	鉢形	口縁部	V	口唇部刻目、沈線(横位、口縁内部)、刺突、乱横回	内外面灰化物
159-1	VK-54	II層	鉢形	口縁~胴部	V	口唇部刻目、沈線(横位)、乱横回	内外面灰化物、口径14.3cm
159-2	VF-73	I層	鉢形	口縁部	V	口唇部刻目、沈線(横位、口縁内部)、胴部突起、乱横回	内外面灰化物
159-3	VL-70	I層	鉢形	口縁部	V	口唇部刻目、沈線(横位、口縁内部)、乱横回	外面灰化物
159-4	VO-69	II層	鉢形	口縁部	V	口唇部刻目、沈線(横位、口縁内部)、乱横回	内外面灰化物
159-5	VC-56	II層	鉢形	口縁部	V	口縁部突起、口唇部刻目、沈線(横位)、乱横回	内外面灰化物
159-6	VM-73	I層	鉢形	口縁部	V	口唇部刻目、沈線(横位、口縁内部)、胴部突起、乱斜回	外面灰化物
159-7	VM-70	II層	鉢形	口縁部	V	口唇部刻目、沈線(横位)、胴部突起、乱横回	内外面灰化物
159-8	VL-76	II層	鉢形	口縁部	VB	口唇部刻目、口縁部突起、沈線(横位、口縁内部)、乱斜回	内外面灰化物
159-9	VI-64	II層	鉢形	口縁部	VB	口唇部刻目、沈線(横位、口縁内部)、胴部突起、乱横回	内外面灰化物
159-10	VJ-53	I層	鉢形	口縁部	VB	口唇部刻目、沈線(横位、口縁内部)、乱横回	内外面灰化物
159-11	VM-75	II層	鉢形	口縁部	VB	口唇部刻目、沈線(横位、口縁内部)、乱斜回	内外面灰化物
159-12	VJ-53	I層	鉢形	口縁部	VB	口唇部刻目、沈線(横位、口縁内部)、胴部突起、乱斜回	内外面灰化物、年代測定資料No. 24
159-13	VB-56	I層	鉢形	口縁部	VB	口唇部刻目、口縁部突起、沈線(横位)、乱斜回	内外面灰化物
159-14	VA-57	I層	鉢形	口縁部	VB	口唇部刻目、沈線(横位)、胴部突起、0段多糸乱斜回	海綿状骨針
159-15	VI-64	II層	鉢形	口縁部	VB	口唇部刻目、口縁部突起、沈線(横位)、乱斜回	内外面灰化物
159-16	VM-73	I層	浅鉢形	口縁部	VA	沈線(横位、口唇部1糸)、口唇部刻目、乱横回	
159-17	VJ-53	I層	浅鉢形	口縁~底部	VA	口縁部突起、沈線(雲形文)	内外面赤色顔料、口径11.8cm、底径3.2cm、器高4.1cm
159-18	VM-76	II層	浅鉢形	胴部	VA	沈線(雲形文)	内外面赤色顔料
159-19	VM-69	II層	浅鉢形	口縁部	VA	口縁部突起~刻目、沈線(雲形文)、刺突、乱横回?	内外面赤色顔
159-20	VJ-52	I層	浅鉢形	口縁部	VA	沈線(雲形文)、刺突、乱横回	補修孔、内外面赤色顔料
159-21	VC-61 VC-62	I層 II層	浅鉢形	口縁~底部	VA	平口縁、沈線(横位、底部円形文)	F-225、内外面赤色顔料、口径19.0cm、底径6.1cm、器高7.5cm
159-22	VJ-53 VK-53	I層	浅鉢形	口縁部	VB	口縁部突起、沈線(入組文)、乱横回	
159-23	VO-72	II層	浅鉢形	胴部	VB	沈線(入組文)、乱横回	
159-24	-	表洗	浅鉢形	胴部	VB	沈線(入組文)、乱横回	内外面赤色顔料
159-25	VK-68	II層	台付鉢	底部	V	台部沈線、乱斜回	外面灰化物
159-26	VO-64	II層	深鉢形	口縁部	VIa1	沈線(横位)、乱斜回	内面灰化物、海綿状骨針、口径8.9cm
159-27	VB-59	II層	深鉢形	口縁部	VIa1	沈線(横位)、乱横回	内面灰化物、海綿状骨針
159-28	VJ-52 VJ-53	I層	深鉢形	口縁部	VIa1	口唇部刻目、沈線(横位)、乱横回	内外面灰化物
159-29	VM-49	I層	深鉢形	口縁部	VIa1	小波状口縁、沈線(横位)、乱横回	外面灰化物
159-30	VL-74	II層	深鉢形	口縁部	VIa1	小波状口縁、沈線(横位)、条痕(縦位)、乱横回	内外面灰化物
159-31	VM-57 VM-57	I層	深鉢形	口縁部	VIa1	沈線(横位)、条痕(縦位)	粗砂粒
159-32	VK-54	I層	深鉢形	口縁部	VIa1	小波状口縁、沈線(横位)、条痕(縦位)	外面灰化物、粗砂粒
160-1	VF-69	I層	鉢形	口縁部	VIa1	沈線(横位、入組文、口縁内部)、胴部突起、乱横回	内面灰化物
160-2	VE-57	II層	鉢形	口縁部	VIa1	口縁部突起、沈線(横位、口縁内部)、胴部突起、乱横回	内外面灰化物
160-3	VB-58	II層	深鉢形	口縁部	VIb1	沈線(横位)、胴部突起、乱横回	内外面灰化物
160-4	VC-55	II層	深鉢形	口縁部	VIb1	沈線(横位、口縁内部)、胴部突起、乱斜回	内外面灰化物、年代測定資料No. 25
160-5	VM-49	I層	深鉢形	口縁~胴部	VIb1	沈線(横位)、胴部突起、乱横回	内外面灰化物、口径18.1cm
160-6	VA-59	塊乱	深鉢形	口縁部	VIb1	口縁部突起、口唇部沈線、沈線(横位)、胴部突起、乱斜回	内外面灰化物
160-7	VB-59	II層	深鉢形	口縁部	VIb1	口縁部突起、沈線(横位、縦位、口縁内部)、胴部突起、乱横~斜回	内外面灰化物

図番号	出土位置	層位	器種	部位	分類	文様等の属性	備考
160-8	VJ-53	I層	深鉢形	口縁部	VIb1	沈澱(横位), 粘土粒貼付, 乱斜回	内外面炭化物, 粗砂粒
160-9	VK-55	I層	深鉢形	口縁部	VIb1	沈澱(横位), 胸部突起, 乱斜回	内面炭化物, 粗砂粒
160-10	VD-55	I層	深鉢形	口縁部	VIb1	沈澱(横位), 胸部突起, 乱横回	内外面炭化物
160-11	VF-71	II層	鉢形	口縁部	VIb1	沈澱(横位, 入組文, 口縁内面), 縦線状付布文, 乱横回	内外面赤色顔料
160-12	VK-54	I層	深鉢形	口縁部	VIb1	沈澱(工字文, 口縁内面), 胸部突起, 乱横回	内外面炭化物
160-13	VK-53	I層	深鉢形	口縁部	VIb1	口唇部奇目, 沈澱(横位, 口縁内面), 縦線状付布文, 乱横回	内外面炭化物
160-14	VF-98	II層	深鉢形	口縁部	VIb2	口縁部突起, 口唇部沈澱, 沈澱(横位, 縦位), 粘土粒貼付, 乱横回	内外面炭化物, 粗砂粒
160-15	VP-98	II層	深鉢形	口縁部	VIb2	沈澱(横位), 粘土粒貼付, 乱斜回	外面炭化物, 粗砂粒
160-16	VK-54	I層	深鉢形	口縁部	VIb2	沈澱(工字文), 粘土粒貼付, 乱横回	内外面炭化物, 年代測定試料No. 22
160-17	VK-54	I層	深鉢形	口縁部	VIb2	沈澱(横位), 粘土粒貼付, 乱斜回	内外面炭化物
160-18	VF-98	II層	深鉢形	口縁部	VIb2	口唇部沈澱, 沈澱(横位平行, 縦位), 粘土粒貼付, 乱横・斜回	内外面炭化物, 粗砂粒
160-19	VK-54	I層	深鉢形	口縁部	VIa2a	沈澱(横位平行), 粘土粒貼付, 乱横回	内外面炭化物
160-20	VK-54	I層	深鉢形	口縁部	VIa2a	沈澱(横位平行), 粘土粒貼付, 乱斜回	内外面炭化物
160-21	VM-67	I層	深鉢形	口縁部	VIa2	口唇部沈澱, 沈澱(横位平行), 粘土粒貼付	内外面炭化物, 粗砂粒
160-22	VI-74	I層	深鉢形	口縁部	VIa2a	沈澱(横位平行, 口縁内面), 粘土粒貼付, 乱横・斜回	内外面炭化物
160-23	VM-67	I層	深鉢形	口縁部	VIc2a	口縁部突起, 沈澱(横位平行, 縦位, 口縁内面), 粘土粒貼付, 乱横・斜回	内外面炭化物
160-24	VB-73	I層	深鉢形	口縁部	VIc2	口縁部突起(頂部奇目), 沈澱(横位平行, 口縁内面), 粘土粒貼付, 乱横・斜回	
160-25	VK-60	II層	深鉢形	口縁部	VIc2	口縁部突起, 沈澱(横位平行, 口縁内面), 粘土粒貼付, 乱横回	内外面炭化物
160-26	VB-71	II層	深鉢形	口縁部	VIc2	沈澱(横位平行, 口縁内面), 乱斜回	内外面炭化物, 粗砂粒
160-27	VB-73	I層	深鉢形	口縁部	VIc2a	沈澱(横位平行, 口縁内面), 粘土粒貼付, 乱横・斜回	内外面炭化物
160-28	VB-73	I層	深鉢形	口縁部	VIc2a	沈澱(横位平行, 口縁内面), 粘土粒貼付, 乱横・斜回	内面炭化物
160-29	-	表様	深鉢形	口縁部	VIc2a	沈澱(横位平行, 口縁内面), 乱横・斜回	内外面炭化物
160-30	VB-73	I層	深鉢形	口縁～底部	VIc2a	沈澱(横位平行, 口縁内面), 乱横・斜回, 底部葉脈痕	内外面炭化物, 海綿状骨針, 口径13.4cm, 底径6.0cm, 器高11.7cm
160-31	VK-54	I層	鉢形	口縁～底部	VIc2a	平口縁, 沈澱(横位平行, 口縁内面), 粘土粒貼付, 乱横・斜回, 底部葉脈痕	内外面炭化物, 口径9.9cm, 底径6.0cm, 器高9.4cm
160-32	VM-67	I層	深鉢形	口縁～胴部	VIc2a	平口縁, 沈澱(横位平行, 口縁内面), 粘土粒貼付, 乱横回	外面炭化物, 口径20.9cm
161-1	VB-74	II層	深鉢形	口縁部	VIc2a	沈澱(横位平行, 口縁内面), 乱横・斜回	内外面炭化物, 粗砂粒
161-2	VB-72	I層	深鉢形	口縁部	VIc2a	沈澱(横位平行, 口縁内面), 粘土粒貼付, 乱斜回	内外面炭化物
161-3	VG-71	I層	深鉢形	口縁部	VIc2a	沈澱(横位平行, 口縁内面), 粘土粒貼付, 乱横・斜回	内外面炭化物, 粗砂粒
161-4	VK-54	I層	深鉢形	口縁部	VIc2a	口縁部突起, 沈澱(横位平行, 縦位, 口縁内面), 粘土粒貼付, 乱横・斜回	外面炭化物, 年代測定試料No. 26
161-5	VK-54	I層	深鉢形	口縁部	VIc2	沈澱(横位平行, 縦位, 口縁内面), 粘土粒貼付, 乱横・斜回	内外面炭化物, 粗砂粒
161-6	VF-57	I層	深鉢形	口縁部	VIc2a	沈澱(横位平行, 縦位, 口縁内面), 乱横回	
161-7	VK-54	I層	深鉢形	胴部	VIa2	沈澱(横位平行, 縦位), 乱横回	内外面炭化物
161-8	VJ-54	I層	深鉢形	胴部	VIa2	沈澱(横位平行, 縦位), 乱斜回	内外面炭化物
161-9	VB-74	II層	深鉢形	底部	VI	沈澱(底部付近に横位2条), 乱斜回, 底部葉脈痕	底径6.4cm
161-10	VK-54	I層	鉢形	口縁部	VIc2b	口縁部突起, 沈澱(横位平行, 縦位, 口縁内面), 粘土粒貼付, 乱横・斜回	内外面炭化物
161-11	VB-73	I層	鉢形	胴部	VIc2b	沈澱(横位平行, 縦位), 乱斜回	内面炭化物
161-12	VB-72	I層	鉢形	胴部	VIc2b	沈澱(横位平行, 縦位), 乱斜回	内外面炭化物
161-13	VB-73	I層	鉢形	胴部	VIc2b	沈澱(横位平行), 乱斜回	
161-14	VI-65	I層	鉢形	口縁部	VIc3	口縁部突起(頂部奇目), 沈澱(横位平行, 矢羽根状, 口縁内面), 粘土粒貼付, 乱横回	内外面炭化物, 口径16.0cm
161-15	VP-70	II層	鉢形	口縁部	VIc3	口縁部突起(頂部奇目), 沈澱(横位平行, 矢羽根状, 口縁内面), 乱横・斜回	内面炭化物
161-16	VI-54	II層	鉢形	口縁部	VIc3	沈澱(横位平行, 矢羽根状, 口縁内面), 乱横・斜回	内外面炭化物
161-17	VK-53	I層	鉢形	口縁部	VIc3	口縁部突起(頂部奇目), 沈澱(横位平行, 矢羽根状, 口縁内面), 乱横・斜回	内外面炭化物

図番号	出土位置	層位	形状	部位	分類	文様等の属性	備考
161-18	VP-70	II層	鉢形	口縁部	VIC3	沈澱(横位平行、矢羽旗状、口縁内部)、L横・斜割	内面炭化物
161-19	VH-73	I層	鉢形	口縁部	VIC3	沈澱(横位平行、矢羽旗状、口縁内部)、粘土粒貼付、L横・斜割	内外面炭化物、粗砂粒
161-20	VH-74	I層	鉢形	口縁部	VIC3	沈澱(横位平行、矢羽旗状、口縁内部)、L斜割	内外面炭化物、粗砂粒
161-21	VL-55	I層	鉢形	口縁～胴部	VIC3	口縁部突起(頂部高目)、沈澱(横位平行、縦位、矢羽旗状、口縁内部)、粘土粒貼付、L横・斜割	内面炭化物、口径16.4cm
161-22	VH-73	II層	鉢形	口縁部	VIC3	口縁部突起(頂部高目)、沈澱(横位平行、矢羽旗状、口縁内部)、L斜割	内面炭化物、粗砂粒
161-23	-	表採	鉢形	口縁部	VIC3	沈澱(横位平行、矢羽旗状、口縁内部)、粘土粒貼付、L横割	外面炭化物、粗砂粒
161-24	VG-74	I層	鉢形	胴部	VIC3	沈澱(横位平行、縦位、矢羽旗状)、L斜割	
161-25	VK-74	II層	鉢形	胴部	VI3	沈澱(横位平行、矢羽旗状)、縦文斜割	内面炭化物
161-26	VH-73	I層	鉢形	口縁部	VIC3	口縁部突起(頂部刺突)、沈澱(横位平行、矢羽旗状、口縁内部)、L横割	外面炭化物
161-27	VH-56	I層	鉢形	口縁～胴部	VIC3	沈澱(横位平行、矢羽旗状、口縁内部)、粘土粒貼付、L横割	内面炭化物
162-1	VE-54	I層	鉢形	口縁部	VIC3	口縁部突起(頂部高目)、沈澱(横位平行、矢羽旗状、口縁内部)、L横・斜割	内外面炭化物
162-2	VH-74	I層	鉢形	口縁部	VIC3	口縁部突起(頂部高目)、沈澱(横位、矢羽旗状、口縁内部)、粘土粒貼付、L横・斜割	内面炭化物、粗砂粒
162-3	VH-73	I層	鉢形	口縁部	VIC3	沈澱(横位、矢羽旗状、口縁内部)、L横・斜割	内外面炭化物
162-4	VH-74	I層	鉢形	口縁部	VIC3	沈澱(横位平行、矢羽旗状、口縁内部)、L横・斜割	内外面炭化物
162-5	VH-73	I層	鉢形	口縁部	VIC3	口縁部突起(頂部高目)、沈澱(横位平行、斜位、口縁内部)、粘土粒貼付、L横割	内外面炭化物
162-6	VH-74	I層	鉢形	口縁部	VIC3	口縁部突起(頂部高目)、沈澱(横位平行、斜位、口縁内部)、L横・斜割	内外面炭化物
162-7	VH-73	I層	鉢形	胴部	VIC3	沈澱(横位平行、斜位)、L斜割	内面炭化物
162-8	VH-56	I層	鉢形	口縁部	VIC4	口縁部突起、沈澱(横位平行、斜位、口縁内部)、粘土粒貼付剥落、L横・斜割	外面炭化物
162-9	VE-55	II層	鉢形	口縁部	VIC4	口縁部突起、沈澱(横位平行、斜位、口縁内部)、L横・斜割	内外面炭化物
162-10	VE-54	I層	鉢形	口縁～胴部	VIC4	口縁部突起、沈澱(横位平行、斜位、口縁内部)、粘土粒貼付、L横・斜割	内面炭化物、口径15.4cm
162-11	VD-58	II層	鉢形	口縁～胴部	VIC3	口縁部突起(頂部高目)、沈澱(横位平行、矢羽旗状、口縁内部)、粘土粒貼付、L横・斜割	
162-12	VD-56	II層	浅鉢形	口縁～底部	VI1	沈澱(横位、口縁内部)	内外面赤色顔料、口径9.7cm、底径4.1cm、高さ4.1cm
162-13	VE-54	I層	浅鉢形	口縁部	VI1	沈澱(横位、口縁内部)、粘土粒貼付	外面炭化物、海綿状骨針
162-14	VH-73	I層	浅鉢形	口縁部	VI1	口唇部沈澱、沈澱(横位、口縁内部)、L横・斜割	外面炭化物
162-15	VD-56	II層	浅鉢形	口縁～底部	VI1	口縁部突起、沈澱(横位、口縁内部)、L斜割	口径12.9cm、底径4.1cm、高さ5.8cm
162-16	VH-59	II層	浅鉢形	口縁部	VI1	口縁部突起、沈澱(工字文、口縁内部)、胴部突起、L横割	内面炭化物
162-17	VH-59	II層	浅鉢形	口縁～胴部	VI1	隆帯、沈澱(横位、口縁内部)、粘土粒貼付、L横割	
162-18	-	-	浅鉢形	口縁部	VI1	沈澱(横位、口縁内部)、隆帯区画、L横割、L横割	外面炭化物
162-19	VF-69	I層	浅鉢形	口縁部	VI1	沈澱(工字文、口縁内部)、隆帯区画、粘土粒貼付、L横・斜割	
162-20	VE-54	I層	浅鉢形	口縁部	VI2	口縁部突起、沈澱(横位、縦位、口縁内部)	内外面赤色顔料、海綿状骨針
162-21	VE-54	I層	浅鉢形	口縁部	VI2	口縁部突起、沈澱(横位、縦位、口縁内部)、粘土粒貼付	内外面赤色顔料、海綿状骨針
162-22	VE-54	I層	浅鉢形	口縁部	VI2	口縁部突起、沈澱(横位、縦位、口縁内部)	内外面赤色顔料、海綿状骨針
162-23	VL-74	II層	浅鉢形	口縁部	VI2	口縁部突起(頂部高目)、沈澱(工字文、口縁内部)	内外面赤色顔料
162-24	VE-53	I層	浅鉢形	口縁部	VI2	沈澱(横位、縦位)、粘土粒貼付	内外面赤色顔料、海綿状骨針
162-25	VG-68	II層	浅鉢形	胴部	VI2	沈澱(横位平行、工字文)	内外面赤色顔料、海綿状骨針
162-26	VH-59	II層	浅鉢形	口縁～胴部	VI3	沈澱(矢羽旗状)	外面赤色顔料、海綿状骨針
162-27	VJ-69	I層	浅鉢形	胴部	VI6	沈澱(流水工字文)	
162-28	VH-73	I層	浅鉢形	底部	VI	沈澱(円形文)	
162-29	VK-53	I層	台付浅鉢	底部	VI2	沈澱(横位)、内面焼	内外面赤色顔料
162-30	VE-54	I層	台付浅鉢	底部	VI2	沈澱(横位、円形文)	内外面赤色顔料、直径8.8cm
163-1	VL-55 VK-67	I層	浅鉢形	口縁～底部	VI4	沈澱(斜位、口縁内部)	内外面赤色顔料、外底漆状物質、口径10.4cm、底径4.7cm、高さ1.9cm

図番号	出土位置	層位	器種	部位	分類	文様等の属性	備考
163-2	VM-67	I層	浅鉢形	口縁～底部	VIc4	口唇部刻目、口唇部沈線、沈線(斜位、口縁内面)	内外面赤色顔料、口径17.9cm、底径4.2cm、器高7.0cm
163-3	VG-74	I層	浅鉢形	口縁部	VIc4	口唇部沈線、沈線(横位、斜位、口縁内面)、粘土貼付、L斜割	
163-4	VM-56	I層	浅鉢形	口縁部	VIc7	口唇部沈線、沈線(変形工字文)	内外面赤色顔料
163-5	VO-71	II層	台付浅鉢	口縁～底部	VIc7	口縁部突起(頂部刻目)、口唇部沈線、沈線(変形工字文、口縁内面)、粘土貼付、L斜割	薄縁状骨針、口径16.6cm、底径6.6cm、器高5.1cm
163-6	VB-75	I層	浅鉢形	口縁部	VIb7	口縁部突起(頂部刻目)、沈線(変形工字文、口縁内面)	外面赤色顔料
163-7	VB-75	I層	浅鉢形	口縁部	VIb7	口縁部突起(頂部刻目)、沈線(変形工字文、口縁内面)	内外面赤色顔料
163-8	-	表探	浅鉢形	口縁部	VIb7	口唇部沈線、沈線(変形工字文、口縁内面)	
163-9	VF-99	II層	浅鉢形	口縁部	VIc7	口縁部突起(頂部刻目)、口唇部沈線、沈線(変形工字文、口縁内面)、粘土貼付	
163-10	VB-74	II層	浅鉢形	口縁部	VIc7	口縁部突起(頂部刻目)、口唇部沈線、沈線(変形工字文、口縁内面)、粘土貼付、L斜割	
163-11	VB-75	I層	浅鉢形	口縁部	VIc7	口縁部突起、口唇部沈線、沈線(変形工字文、口縁内面)、L斜割	
163-12	VG-74	II層	浅鉢形	口縁部	VIc7	口縁部突起(頂部刻目)、口唇部沈線、沈線(変形工字文、口縁内面)、粘土貼付	
163-13	VB-75	I層	浅鉢形	口縁部	VIc7	口縁部突起、口唇部沈線、沈線(変形工字文、口縁内面)、粘土貼付、L斜割	
163-14	VB-75	I層	浅鉢形	口縁部	VIc7	口縁部突起(頂部刻目)、口唇部沈線、沈線(変形工字文、口縁内面)、L斜割	
163-15	VG-68	II層	浅鉢形	口縁部	VIc7	口縁部突起(頂部刻目)、口唇部沈線、沈線(変形工字文、口縁内面)、粘土貼付	
163-16	VG-74	II層	浅鉢形	口縁部	VIc7	沈線(変形工字文、口縁内面)、L斜割	
163-17	VM-67	I層	浅鉢形	口縁部	VIc7	口唇部沈線、沈線(変形工字文)	内外面赤色顔料
163-18	VO-68	II層	浅鉢形	口縁部	VIc7	口唇部沈線、沈線(変形工字文、口縁内面)	内外面赤色顔料、薄縁状骨針
163-19	VG-72	II層	浅鉢形	口縁部	VI7	口縁部突起、口唇部沈線、沈線(変形工字文、口縁内面)、粘土貼付、L斜割	図163-20・21と同一体
163-20	VG-73	II層	浅鉢形	胴～底部	VI7	沈線(横位、変形工字文)、器面L斜割	図163-19・21と同一体
163-21	VG-73	II層	浅鉢形	胴～底部	VI7	沈線(横位、変形工字文)、器面L斜割	図163-19・20と同一体
163-22	VF-98 VG-98	II層	壺形	口縁部	VI	口縁部突起、沈線(横位、口縁内面)、粘土貼付	外面溝状物質、口径19.5cm
163-23	VL-65	II層	壺形	口縁部	VI5	口縁部突起、沈線(工字文)	外面赤色顔料
163-24	VE-103	I層	壺形	胴部	VI6	沈線(横位、流水工字文)、横位沈線内に刻突	金雲母
163-25	VB-75	I層	壺形	胴部	VI6	沈線(横位、流水工字文)、横位沈線内に刻突、粘土貼付	外面赤色顔料
163-26	VL-74	II層	壺形	口縁～底部	VI	平口縁、沈線(工字文、口縁内面)	口径6.3cm、底径7.5cm、器高16.4cm
163-27	VB-49	I層	壺形	胴部	VI6	沈線(流水工字文)、刻突	外面赤色顔料
163-28	VL-55	I層	壺形	胴部	VI6	沈線(流水工字文)、刻突	外面赤色顔料、金雲母
163-29	VO-71	II層	壺形	口縁～胴部	VI7	口縁部突起(頂部刻目)、沈線(変形工字文)、L斜割	
164-1	VB-72	I層	深鉢形	口縁部	VIa	平口縁、余灰(縦位)	外面灰化物、粗砂粒
164-2	VF-98	II層	深鉢形	口縁部	VIa	小波状口縁、余灰(縦位)、口縁横位付*	外面灰化物、粗砂粒
164-3	VF-70	II層	深鉢形	口縁部	VIa	小波状口縁、余灰(縦位)、口縁横位付*	内外面灰化物、粗砂粒
164-4	VB-72	I層	深鉢形	口縁部	VIa	小波状口縁、余灰(縦位)	外面灰化物、粗砂粒
164-5	VG-74	I層	深鉢形	口縁部	VIa	小波状口縁、余灰(縦位)、口縁横位付*	外面灰化物、粗砂粒
164-6	VT-80	II層	深鉢形	口縁部	VIa	平口縁、余灰(縦位)	外面灰化物
164-7	VT-80	II層	深鉢形	口縁～底部	VIa	平口縁、余灰(縦位)	内外面灰化物、口径26.3cm、底径9.9cm、器高32.7cm
164-8	VB-69	I層	深鉢形	口縁部	VIb	口縁部指型圧痕、L斜割	内外面灰化物
164-9	VE-54	II層	深鉢形	口縁部	VIb	小波状口縁、L横割	外面灰化物
164-10	VB-69	II層	深鉢形	口縁～胴部	VIb	平口縁、L斜割	外面灰化物、粗砂粒、口径25.6cm
164-11	VB-61	II層	深鉢形	口縁～底部	VIb	平口縁、L横割、底部上付底状	内外面灰化物、口径17.8cm、底径5.4cm、器高11.9cm
164-12	VB-64	I層	深鉢形	口縁～底部	VIb	平口縁、L横割、底部上付底状	内外面灰化物、口径12.2cm、底径3.9cm、器高9.7cm
164-13	VT-63	次I層	深鉢形	胴～底部	VIb	L横割、斜割、底部上付底状	外面灰化物、底径8.5cm
164-14	VB-72	I層	深鉢形	底部	VIb	L斜割、底部上付底状	内外面灰化物、粗砂粒、底径6.4cm
164-15	VE-79	II層	深鉢形	胴～底部	VIb	L斜割	内外面灰化物、粗砂粒、底径10.4cm
164-16	VB-74	II層	深鉢形	口縁部	VIb	小波状口縁、口縁横位付*	粗砂粒
164-17	VF-74	II層	台付小型	胴～底部	VIb	沈線	底径4.4cm
164-18	VB-77	II層	小型	胴～底部	VIb	沈線	底径3.7cm

剥片石器観察表

図番号	出土地点	層位	器種	分類	計測値(mm)			重量(g)	石材	備考
					長さ	幅	厚さ			
図13-7	BS102	I層	石匙	I	59	25	9	10.4	珪頁	片面磨縁
図15-11	BS103	堆積土	微細		(32)	41	13	14.9	珪頁	
図18-1	BS104	堆積土	石鏃	I a	17	14	4	0.9	珪頁	
図18-2	BS104	堆積土	石鏃	I a	(29)	15	4	1.8	珪頁	尖端欠損、フキヤット
図18-3	BS104	堆積土	石鏃	II b	(44)	15	7	4.5	珪頁	尖端磨耗、基部欠損
図18-4	BS104	堆積土	石槍	II	65	35	14	29.3	珪頁	
図18-6	BS104	堆積土	石鏃	III	42	27	10	9.7	珪頁	
図18-6	BS104	堆積土	微細		(67)	39	17	32.8	珪頁	下部欠損
図18-7	BS104	堆積土	微細		49	47	17	28.8	珪頁	
図18-8	BS104	堆積土	微細		48	42	15	26.6	珪頁	
図18-9	BS104	堆積土	石核		83	93	51	460.8	珪頁	
図21-1	BS105	堆積土	石鏃	I a	23	12	4	0.9	珪頁	
図21-2	BS105	堆積土	石鏃	I b	(31)	16	6	2.8	珪頁	尖端欠損
図21-3	BS105	堆積土	石鏃	I c	31	13	6	2.3	珪頁	
図21-4	BS105 周溝	堆積土	石鏃	I d	33	27	7	3.3	珪頁	
図21-6	BS105	堆積土	石鏃	I d	39	15	7	3.6	珪頁	
図21-6	BS105	堆積土	石鏃	II b	(31)	14	5	2.3	珪頁	尖端基部欠損
図21-7	BS105	堆積土	石鏃	II b	28	13	6	1.1	珪頁	フキヤット
図21-8	BS105	堆積土	石鏃	III	42	13	12	4.5	珪頁	尖端磨耗
図21-9	BS105	堆積土	石槍	I	(78)	22	15	20.9	珪頁	尖端欠損
図21-10	BS105	堆積土	石槍	II	61	20	10	9.6	珪頁	
図21-11	BS105	堆積土	両面調整	I	53	17	8	8.0	珪頁	
図21-12	BS105	堆積土	両面調整	I	48	18	10	9.8	珪頁	
図21-13	BS105	床面	両面調整	I	51	27	16	21.1	珪頁	
図21-14	BS105	貼床	両面調整	I	50	30	10	13.5	珪頁	
図21-15	BS105	堆積土	両面調整	I	45	29	10	12.2	珪頁	
図21-16	BS105	堆積土	両面調整	I	42	26	8	10.8	珪頁	
図21-17	BS105	堆積土	両面調整	I	35	(22)	9	5.1	珪頁	
図21-18	BS105	堆積土	石槍		68	24	13	23.7	珪頁	
図21-19	BS105	堆積土	石鏃		64	27	12	24.5	珪頁	
図21-20	BS105	堆積土	石匙	I	56	36	13	11.5	珪頁	側縁微細
図21-21	BS105	堆積土	スライス-		63	25	12	17.5	珪頁	
図21-22	BS105	堆積土	スライス-		(62)	33	10	15.7	珪頁	下部欠損
図21-23	BS105	堆積土	スライス-		44	27	11	10.0	珪頁	
図21-24	BS105	堆積土	微細		64	36	20	30.4	珪頁	光沢あり
図21-25	BS105	堆積土	微細		48	48	14	30.7	珪頁	
図22-1	BS105	堆積土	微細		73	42	18	49.0	珪頁	光沢あり
図22-2	BS105	堆積土	微細		57	50	15	29.5	珪頁	裏面縁辺に光沢
図22-3	BS105	堆積土	微細		(81)	(52)	21	60.3	珪頁	下部欠損、 フキヤット?
図22-4	BS105	堆積土	微細		59	46	12	18.0	珪頁	正面左側縁に光沢
図22-5	BS105	堆積土	石核		31	35	43	42.3	珪頁	
図22-6	BS105	堆積土	石核		114	130	103	1237.0	珪頁	接合資料 (図22-7, 図23-1~5)
図22-7	BS105	堆積土	石核		117	128	80	991.2	珪頁	図23-1~6と接合
図23-1	BS105	堆積土	スライス-		69	79	38	123.0	珪頁	石核 図22-7と接合
図23-2	BS105	堆積土	剥片		91	49	21	35.9	珪頁	石核 図22-7と接合
図23-3	BS105	堆積土	微細		62	46	17	35.4	珪頁	石核 図22-7と接合
図23-4	BS105	堆積土	剥片		45	70	18	41.7	珪頁	石核 図22-7と接合
図23-6	BS105	堆積土	剥片		56	27	10	9.8	珪頁	石核 図22-7と接合

図番号	出土地点	層位	器種	分類	計測値(mm)			重量(g)	石材	備考
					長さ	幅	厚さ			
図25-7	BS106 伊	堆積土	石織	I b	(25)	16	5	1.7	珪 頁	
図25-8	BS106 伊	堆積土	石織	I a	41	18	8	4.9	珪 頁	
図25-9	BS106	1層	石織		(58)	32	22	39.6	珪 頁	光沢
図27-6	BS107	堆積土	石槍	II	82	24	15	26.3	珪 頁	
図27-7	BS107	堆積土	微細		71	35	9	14.2	珪 頁	
図27-8	BS107	堆積土	両面調整	I	36	21	8	4.8	珪 頁	
図27-9	BS107	堆積土	石槍		32	44	40	51.7	珪 頁	
図28-2	BS108	堆積土	石匙	I	56	37	17	29.7	珪 頁	
図28-3	BS108	堆積土	微細		33	39	13	14.5	珪 頁	
図28-6	BS111	床面	両面調整	II	105	42	24	76.8	珪 頁	
図31-3	BS116	2層	両面調整	I	31	19	7	4.9	珪 頁	
図31-4	BS116	床直 3層	両面調整	I	(38)	19	6	5.4	珪 頁	槍(欠損品)
図31-5	BS116	床直 3層	両面調整	I	(35)	24	11	8.3	珪 頁	槍(欠損品)
図31-6	BS116	2層	両面調整	I	(42)	36	13	18.3	珪 頁	
図31-7	BS116	1層	石銃		70	33	10	27.4	珪 頁	光沢あり
図31-8	BS116	床面	石匙	I	66	29	5	8.8	珪 頁	側縁微細
図34-3	BS118	2層 上面	石織	II b	45	12	7	3.2	珪 頁	フタット、尖端摩滅
図34-4	BS118	2層	石織	II b	(35)	13	6	2.3	珪 頁	両端欠損
図34-5	BS118	榎方	石槍	I	60	20	8	8.9	珪 頁	
図34-6	BS118	1層	両面調整	I	(37)	14	6	2.8	珪 頁	
図34-7	BS118	1層	両面調整	I	39	21	9	7.4	珪 頁	
図34-8	BS118	1層	両面調整	I	40	22	9	8.2	珪 頁	
図34-9	BS118	1層	石銃	III	52	13	8	3.5	珪 頁	光沢、摩滅
図34-10	BS118	床直	石匙	I	75	24	10	15.2	珪 頁	
図34-11	BS118	1層	石銃		73	40	17	42.2	珪 頁	
図36-7	BS120	2層	石槍	I	56	28	6	8.9	珪 頁	
図36-8	BS120	床面	石匙	III	51	39	9	11.7	珪 頁	刺刺：両面周縁
図37-5	BS121	堆積土	石織	I d	48	15	10	7.1	珪 頁	
図37-6	BS121	1層	両面調整	I	(36)	23	8	5.4	珪 頁	槍(欠損品)
図37-7	BS121	堆積土	両面調整	I	40	26	11	10.7	珪 頁	石里付近
図37-8	BS121	堆積土	両面調整	I	46	39	13	18.8	珪 頁	両端欠損
図37-9	BS121	堆積土	石銃	II	29	14	8	3.6	珪 頁	光沢、摩滅
図41-17	BS128b	堆積土	スライパ-		(90)	45	8	28.2	珪 頁	
図42-6	BS128a-b	1層	石槍	II	95	31	11	37.6	珪 頁	未製品?
図42-7	BS128a-b	1層	石槍	I	55	18	10	8.5	珪 頁	
図44-4	BS133	堆積土	石織	II b	(28)	11	5	14.0	珪 頁	フタット、 BP1c-1468
図44-5	BS133	堆積土	剥片		47	14	4	34.0	珪 頁	フタット、 BP1c-1460
図62-8	BSK002	1層 下部	石匙	II	72	38	10	20.3	珪 頁	つまみ部フタット (繊維状の痕跡残る)、 両面周縁
図62-9	BSK002	1層 下部	石匙	IV	43	15	6	2.4	珪 頁	未製品、つまみのみ
図63-12	BSK008	堆積土	微細		71	38	15	31.4	珪 頁	
図64-12	BSK014	堆積土	石匙	III	58	54	13	37.1	珪 頁	両面周縁
図67-2	BSK027	2層	スライパ-	I	60	39	18	31.2	珪 頁	
図67-3	BSK027	2層	微細		84	47	13	47.7	珪 頁	
図67-10	BSK030	堆積土	微細		68	49	22	43.6	珪 頁	
図94-21	BSK101	2層	石織	I d	28	8	4	0.8	珪 頁	

図番号	出土地点	層位	器種	分類	計測値(mm)			重量(g)	石材	備考
					長さ	幅	厚さ			
図94-22	BSK101	1層	石匙	I	44	19	8	6.5	珪 頁	側縁微損
図95-11	BSK207	堆積土	石鏃	I d	31	10	6	1.7	珪 頁	
図95-13	BSK216	5層	石鏃	I a	35	16	6	2.7	珪 頁	7X77#
図95-19	BSK238	堆積土	石鏃	II b	(27)	12	4	0.9	珪 頁	両端欠損
図95-31	BSK254	堆積土	スレイン		77	43	14	43.0	珪 頁	
図96-1	BSK260	堆積土	石鏃	II b	34	17	4	1.7	珪 頁	基部欠損
図96-2	BSK260	堆積土	石鏃	II b	(31)	15	4	1.5	珪 頁	両端欠損
図96-3	BSK260	堆積土	石鏃	II b	(30)	17	5	1.7	珪 頁	両端欠損(彫刻状刻痕)
図96-4	BSK260	堆積土	石鏃	II b	(31)	19	4	2.0	珪 頁	両端欠損
図96-5	BSK260	堆積土	石鏃	II b	(33)	19	6	2.3	珪 頁	両端欠損
図106-5	BSK037	堆積土	石匙	I	35	28	7	5.1	珪 頁	7X77#
図106-6	BSK037	堆積土	スレイン		102	48	23	69.9	珪 頁	7X77#
図106-7	BSK037	堆積土	スレイン		55	28	16	16.4	珪 頁	
図107-5	BSK047	堆積土	石鏃	I a	28	(11)	3	0.7	珪 頁	尖端、左脚部欠損
図107-13	BSK064	堆積土	微細		90	77	13	57.1	珪 頁	光沢
図108-8	BSK173	堆積土	石筥		54	33	15	28.4	珪 頁	
図108-10	BSK176	堆積土	石鏃	I d	(19)	9	5	0.7	珪 頁	尖端欠損
図108-12	BSK192	1層	両面調整	I	(53)	26	17	19.7	珪 頁	槽(欠損基)
図109-1	BSK201	堆積土	石鏃	I d	44	11	6	2.7	珪 頁	
図109-2	BSK201	1層	石鏃	II b	(34)	13	5	1.9	珪 頁	基部欠損
図109-3	BSK201	1層	両面調整	I	47	27	13	15.6	珪 頁	
図109-4	BSK201	1層	両面調整	II	116	45	29	131.7	珪 頁	
図109-8	BSK206	堆積土	両面調整	I	91	42	12	40.3	珪 頁	
図109-15	BSK352	堆積土	石鏃	II a	20	10	4	0.6	珪 頁	
図109-16	BSK352	堆積土	石鏃	II b	(37)	10	4	11.0	珪 頁	
図109-17	BSK352	堆積土	石鏃	II b	(29)	9	4	90.0	珪 頁	
図109-18	BSK352	堆積土	石鏃	II b	(33)	12	5	16.0	珪 頁	7X77# 基部欠損
図109-19	BSK352	堆積土	石鏃	I d	31	12	4	14.0	珪 頁	
図109-20	BSK352	堆積土	石鏃	II	(31)	27	9	65.0	珪 頁	
図109-21	BSK352	堆積土	スレイン		48	26	7	76.0	珪 頁	
図128-11	Bpit1695	堆積土	石鏃	I d	43	20	7	4.3	珪 頁	
図128-12	Bpit1611	堆積土	石鏃	I a	33	18	5	2.9	珪 頁	7X77#
図128-20	Bpit1729	堆積土	石鏃	I d	47	11	4	1.7	珪 頁	
図128-21	Bpit1729	堆積土	剥片		49	35	8	10.5	珪 頁	7X77#
図139-1	VA-67	IIa-1層	石鏃	I d	23	6	4	0.8	珪 頁	
図139-2	VE-67	IIa層	石鏃	I d	24	6	4	0.6	珪 頁	
図139-3	VA-56	IIa-1層	石鏃	I d	23	7	3	0.6	珪 頁	7X77#
図139-4	VA-57	IIa-2層	石鏃	I d	(21)	8	3	1.0	珪 頁	
図139-5	VA-67	IIa-2層	石鏃	I d	(19)	7	4	1.0	珪 頁	7X77#
図139-6	VC-66	IIa-2層	石鏃	I d	26	10	5	0.9	珪 頁	
図139-7	VD-55	IIa-2層	石鏃	I d	(29)	8	5	1.1	珪 頁	基部欠損
図139-8	VB-57	IIa-1層	石鏃	I d	(32)	10	6	2.1	珪 頁	7X77# 基端部欠損
図139-9	VG-66	IIa-1層	石鏃	I d	41	10	8	3.2	珪 頁	
図139-10	VD-65	IIa-1層	石鏃	I d	41	7	5	1.6	珪 頁	
図139-11	VE-54	IIa-1層	石鏃	I d	(37)	10	9	2.6	珪 頁	尖端摩耗
図139-12	VA-67	IIa-1層	石鏃	I d	(38)	14	6	2.7	珪 頁	
図139-13	VE-55	IIa-1層	石鏃	I d	(47)	20	9	6.8	珪 頁	7X77# 尖端欠損
図139-14	VE-56	IIa-1層	石鏃	I d	45	20	11	9.3	珪 頁	
図139-15	不明	IIa層	石鏃	II b	43	16	7	3.1	珪 頁	
図139-16	VA-67	IIa-1層	石鏃	II b	(44)	19	8	4.4	珪 頁	7X77#

図番号	出土地点	層位	器種	分類	計測値(mm)			重量(g)	石材	備考
					長さ	幅	厚さ			
図139-17	VC-56	IIa-1層	石線	IIa	26	11	4	0.6	珪 頁	フタナト
図139-18	VD-55	IIa-1層	石線	IIa	30	17	4	1.4	珪 頁	
図139-19	VA-62	IIa-1層	石線	IIa	(21)	11	4	8	珪 頁	尖端欠損
図139-20	VC-56	IIa-1層	石線	IIb	(26)	10	4	9	珪 頁	
図139-21	VE-54	IIa-1層	石線	IIb	(28)	9	5	1.1	珪 頁	フタナト 尖端摩耗?
図139-22	VC-56	IIa-1層	石線	IIb	41	15	5	2.3	珪 頁	
図139-23	VB-56	IIa-2層	石線	II	(26)	15	4	1.1	珪 頁	フタナト 両端欠損
図139-24	不明	IIa層	石線	II	27	12	4	1.3	珪 頁	
図139-25	VF-56	IIa-1層	石線	II	(26)	12	4	7.0	珪 頁	フタナト 基部欠損
図139-26	VC-56	IIa-1層	石線	II	(30)	12	4	1.0	珪 頁	フタナト 基部欠損
図139-27	VG-54	IIa-2層	石線	II	(32)	11	5	1.3	珪 頁	基部欠損
図139-28	VF-56	IIa-2層	石線	II	(29)	14	4	1.1	珪 頁	フタナト 基部欠損
図139-29	VE-57	IIa層	石線	II	(29)	12	5	1.2	珪 頁	
図139-30	不明	IIa層	石線	II	(22)	18	4	0.8	珪 頁	両端欠損
図139-31	VA-56	IIa-2層	石線	II	(22)	15	3	0.8	珪 頁	フタナト 両端欠損
図139-32	VE-57	IIa層	石線	未	26	10	7	1.9	珪 頁	未製品A
図139-33	VE-56	IIa-2層	石線	未	42	17	11	5.6	珪 頁	未製品A
図139-34	VD-55	IIa-1層	両面調整	I	41	21	10	6.5	珪 頁	
図139-35	VD-55	IIa-1層	両面調整	I	39	22	8	6.4	珪 頁	
図139-36	不明	IIa層	両面調整	I	58	29	13	19.4	珪 頁	
図139-37	VE-55	IIa-1層	石匙	I	65	19	6	6.0	珪 頁	
図139-38	VE-55	IIa-1層	石匙	I	60	25	7	6.7	珪 頁	両側縁の縁辺光沢
図139-39	VE-55	IIa-1層	石匙	I	64	17	7	5.6	珪 頁	側縁微細
図139-40	VF-55	IIa-1層	石匙	I	35	29	4	2.3	珪 頁	
図139-41	VE-55	IIa-1層	石匙	I	44	35	7	6.1	珪 頁	
図139-42	VI-53	IIa-1層	石匙	I	67	42	13	22.8	珪 頁	側縁微細
図139-43	VD-56	IIa-1層	石匙	II	72	36	6	14.3	珪 頁	側縁微細
図140-1	VD-55	IIa-2層	石匙	II	43	31	8	6.3	珪 頁	大ノケ
図140-2	VD-55	IIa-1層	石匙	II	50	41	6	8.9	珪 頁	
図140-3	VE-64	IIa-1層	石匙	II	57	29	5	5.8	珪 頁	
図140-4	VF-55	IIa-1層	石匙	III	62	23	6	6.6	珪 頁	一部摩滅
図140-6	VE-55	IIa-2層	石匙	III	54	44	6	11.7	珪 頁	
図140-6	VE-57	IIa層	石匙	III	62	48	8	16.5	珪 頁	
図140-7	VF-55	IIa-1層	石匙	III	48	38	8	11.9	珪 頁	
図140-8	VE-56	IIa-2層	石匙		77	50	16	47.4	珪 頁	縁辺光沢 つまみ口側
図140-9	VD-55	IIa-1層	石匙	I	(31)	25	16	7.6	珪 頁	欠損品
図140-10	VF-55	IIa-1層	トリス		127	89	21	165.6	珪 頁	縁辺・棧に光沢あり
図140-11	IVF-58	IIa-1層	打製石斧		181	43	39	328.8	珪 頁	端部ケレ
図141-1	VE-55	IIa-2層	石杖		123	109	71	944.0	珪 頁	
図153-1	VG-73	IIa層	石線	Ia	26	16	4	0.9	珪 頁	
図153-2	VH-73	IIa層	石線	Ia	23	15	5	1.2	珪 頁	黒曜石
図153-3	VG-74	IIa層	石線	Id	(19)	6	4	0.4	珪 頁	基部欠損。 フタナト
図153-4	VG-74	IIa層	石線	IIb	27	8	3	0.5	珪 頁	
図153-6	VG-73	IIa層	石線	IIb	32	11	5	1.3	珪 頁	フタナト
図153-6	VG-73	IIa層	石線	IIb	(36)	11	5	1.2	珪 頁	基部一部欠損。 フタナト
図153-7	VH-73	IIa層	石線	IIb	39	11	6	1.0	珪 頁	
図153-8	VH-73	IIa層	石線	IIb	42	8	6	1.6	珪 頁	フタナト
図153-9	VH-73	IIa層	石線	IIb	(42)	10	4	1.5	珪 頁	両端欠損。 フタナト(ごく一部)

図番号	出土地点	層位	器種	分類	計測値(mm)			重量(g)	石材	備考
					長さ	幅	厚さ			
図163-10	VH-73	Ⅱa層	石鏃	I d	(48)	10	4	1.6	珉 頁	尖端欠損、 フキヤット
図163-11	VG-73	Ⅱa層	石鏃	Ⅱ b	(41)	10	5	1.6	珉 頁	尖端、基部欠損、 フキヤット
図163-12	VH-73	Ⅱa層	石鏃	Ⅱ b	(24)	10	4	0.7	珉 頁	尖端、基部欠損
図163-13	VH-74	Ⅱa層	石鏃	Ⅱ b	35	12	8	2.5	珉 頁	基部摩滅
図163-14	VG-74	Ⅱa層	石鏃	Ⅱ b	29	9	5	1.3	珉 頁	尖端摩耗
図163-15	VH-74	Ⅱa層	両面調整	I	35	16	9	4.3	珉 頁	
図163-16	VH-74	Ⅱa層	両面調整	I	(30)	16	6	1.8	珉 頁	基部欠損
図163-17	VG-74	Ⅱa層	石鏃	I	47	30	8	9.2	珉 頁	つまみ部にわずかに フキヤット残る
図163-18	VH-73	Ⅱa層	石鏃	I	71	20	14	12.5	珉 頁	
図163-19	VH-74	Ⅱa層	石鏃	I	87	54	11	43.7	珉 頁	フキヤット (繊維状の痕跡残る)
図163-20	VG-73	Ⅱa層	石鏃	Ⅱ	46	58	8	18.3	珉 頁	
図163-21	VG-73	Ⅱa層	石鏃	Ⅱ	42	51	9	10.2	珉 頁	つまみ部フキヤット (繊維状の痕跡残る)
図163-22	VH-73	Ⅱa層	石鏃	Ⅱ	50	58	9	19.1	珉 頁	刃部縁辺に光沢
図163-23	VH-74	Ⅱa層	石鏃	I	48	22	9	4.1	珉 頁	フキヤット
図163-24	VH-74	Ⅱa層	石鏃	I	(50)	26	7	3.9	珉 頁	尖端欠損、 フキヤット
図163-25	VG-73	Ⅱa層	石鏃	Ⅱ	(73)	27	9	11.2	珉 頁	尖端わずかに欠損
図163-26	VG-73	Ⅱa層	石鏃	Ⅱ	43	20	7	5.1	珉 頁	
図163-27	VH-74	Ⅱa層	石鏃	Ⅲ	28	8	5	0.9	珉 頁	尖端摩滅、 條痕痕跡認める
図163-28	VH-73	Ⅱa層	石鏃	Ⅲ	33	11	5	1.3	珉 頁	フキヤット?
図164-1	VG-73	Ⅱa層	スライパー		(51)	26	8	11.1	珉 頁	下部欠損
図164-2	VG-73	Ⅱa層	スライパー		36	50	11	10.9	珉 頁	
図164-3	VH-73	Ⅱa層	スライパー		50	19	12	11.7	珉 頁	
図164-4	VG-73	Ⅱa層	微細		66	46	13	40.9	珉 頁	側縁に摩滅あり
図164-5	VG-73	Ⅱa層	微細		63	36	11	20.5	珉 頁	
図164-6	VG-73	Ⅱa層	微細		94	28	19	29.6	珉 頁	
図164-7	VG-74	Ⅱa層	微細		61	46	13	23.5	珉 頁	
図164-8	VH-73	Ⅱa層	微細		66	34	16	28.9	珉 頁	
図164-9	VG-73	Ⅱa層	微細		62	43	15	27.6	珉 頁	
図164-10	VG-74	Ⅱa層	打製石斧		51	39	15	26.7	珉 頁	縁辺潰れ、摩滅あり
図164-11	VH-73	Ⅱa層	打製石斧		116	62	27	185.3	珉 頁	フキヤット?(ごく一部)
図166-1	VB-69	I層	石鏃	I a	(17)	13	2	0.3	珉 頁	フキヤット
図166-2	VL-104	I層	石鏃	I a	28	14	5	1.5	珉 頁	
図166-3	VV-69	I層	石鏃	I a	28	14	5	1.7	珉 頁	
図166-4	VW-69	I層	石鏃	I a	(29)	14	7	2.3	珉 頁	尖端欠損、 フキヤット
図166-5	VB-79	Ⅱ層	石鏃	I a	25	16	5	1.7	珉 頁	
図166-6	VI-68	Ⅱ層	石鏃	I a	(25)	18	6	2.1	珉 頁	フキヤット、 尖端欠損
図166-7	VP-78	Ⅱ層	石鏃	I a	32	18	5	2.2	珉 頁	
図166-8	VB-69	I層	石鏃	I a	24	16	4	1.2	珉 頁	
図166-9	VB-67	Ⅱ層	石鏃	I a	(22)	15	5	1.6	珉 頁	尖端欠損、フキヤット
図166-10	VB-70	I層	石鏃	I a	26	16	4	1.7	珉 頁	
図166-11	VI0-74	Ⅱ層	石鏃	I a	3	15	6	2.8	珉 頁	フキヤット
図166-12	VS-69	I層	石鏃	I a	41	16	6	2.9	珉 頁	フキヤット(ごく一部)
図166-13	VJ-66	Ⅱ層	石鏃	I a	(37)	14	5	2.4	珉 頁	尖端欠損、 フキヤット
図166-14	VO-73	Ⅱ層	石鏃	I a	28	10	6	1.3	珉 頁	
図166-15	VL-71	I層	石鏃	I b	27	12	7	2.3	珉 頁	尖端欠損、 フキヤット
図166-16	VM-74	Ⅱ層	石鏃	I b	(32)	16	5	2.5	珉 頁	尖端欠損

図番号	出土地点	層位	器種	分類	計測値(mm)			重量(g)	石材	備考
					長さ	幅	厚さ			
図165-17	VQ-84	Ⅱ層	石鏡	I b	44	14	6	3.6	珪 頁	
図165-18	VK-68	Ⅱ層	石鏡	I b	40	13	8	3.0	珪 頁	
図165-19	VN-81	I層	石鏡	I b	35	13	5	1.9	珪 頁	ｱｽﾌﾞﾙﾄ(ごく一部)
図165-20	VX-72	I層	石鏡	I c	28	15	6	2.5	珪 頁	
図165-21	VK-70	I層	石鏡	I d	(14)	7	3	0.3	珪 頁	基部欠損、 ｱｽﾌﾞﾙﾄ
図165-22	VK-70	Ⅱ層	石鏡	I d	16	7	3	0.3	珪 頁	ｱｽﾌﾞﾙﾄ
図165-23	VH-72	I層	石鏡	I d	19	8	3	0.5	珪 頁	ｱｽﾌﾞﾙﾄ
図165-24	VR-71	I層	石鏡	I d	17	7	3	0.4	珪 頁	ｱｽﾌﾞﾙﾄ
図165-25	VP-73	Ⅱ層	石鏡	I d	20	9	4	0.6	珪 頁	基部欠損、 ｱｽﾌﾞﾙﾄ
図165-26	VH-74	I層	石鏡	I d	(19)	8	4	0.7	珪 頁	基部欠損、 ｱｽﾌﾞﾙﾄ
図165-27	VH-74	Ⅱ層	石鏡	I d	24.4	9	5	1.0	珪 頁	ｱｽﾌﾞﾙﾄ
図165-28	VH-74	Ⅱ層	石鏡	I d	23.6	10	4	0.8	珪 頁	ｱｽﾌﾞﾙﾄ
図165-29	VIB-67	Ⅱ層	石鏡	I d	24	11	3	1.3	珪 頁	
図165-30	VH-73	I層	石鏡	I d	(26)	7	3.6	0.6	珪 頁	尖端欠損
図165-31	VA-55	I層	石鏡	I d	(26)	7	4	0.6	珪 頁	基部欠損
図165-32	VH-73	I層	石鏡	I d	30	9	4	0.9	珪 頁	基部欠損
図165-33	VH-73	I層	石鏡	I d	28	8	4	0.7	珪 頁	基部欠損
図165-34	VJ-71	I層	石鏡	I d	(29)	10	4	1.0	珪 頁	尖端欠損
図165-35	VR-85	Ⅱ層	石鏡	I d	(29)	9	3	0.7	珪 頁	基部欠損
図165-36	VO-59	I層	石鏡	I d	33	7	4	1.0	珪 頁	
図165-37	VE-58	Ⅱ層	石鏡	I d	31	9	7	1.5	珪 頁	尖端摩耗
図165-38	VQ-99	Ⅱ層	石鏡	I d	(36)	12	5	2.2	珪 頁	基部欠損
図165-39	VM-57	I層	石鏡	I d	35	13	5	2.6	珪 頁	
図165-40	VH-71	I層	石鏡	I d	33.7	14.1	6.1	3.1	珪 頁	
図165-41	VC-60	I層	石鏡	I d	(34)	14	6	2.2	珪 頁	尖端欠損
図165-42	VT-65	Ⅱ層	石鏡	I d	34	13	4	1.3	珪 頁	
図165-43	VB-63	Ⅱ層	石鏡	I d	(42)	13	7	3.0	珪 頁	ｱｽﾌﾞﾙﾄ 尖端欠損
図165-44	VR-64	I層	石鏡	I d	(38.9)	17.7	5.2	3.0	珪 頁	基部欠損、 尖端部が欠け
図165-45	VT-61	I層	石鏡	I d	43.1	11.4	8.8	3.6	珪 頁	基部末端摩滅
図165-46	VE-55	I層	石鏡	I d	(40)	9	4	1.2	珪 頁	尖端欠損
図165-47	VO-59	I層	石鏡	I d	46	13	5	1.9	珪 頁	
図165-48	VH-74	I層	石鏡	I d	(46)	11	7	3.1	珪 頁	尖端欠損、 ｱｽﾌﾞﾙﾄ
図165-49	VH-63	Ⅱ層	石鏡	I d	(45)	13	8	4.0	珪 頁	尖端欠損
図165-50	VIB-69	Ⅱ層	石鏡	I d	46	15	7	5.0	珪 頁	基部欠損、 尖端摩耗
図165-51	VC-62	I層	石鏡	Ⅱ b	(33)	12	5	1.5	珪 頁	基部欠損、 両端欠損(影器状剥離)
図165-52	VQ-65	I層	石鏡	Ⅱ b	(33)	10	5	1.5	珪 頁	基部欠損、 両端欠損(影器状剥離)
図165-53	VF-73	I層	石鏡	Ⅱ b	(36)	16	4	1.7	珪 頁	基部欠損
図165-54	VB-58	Ⅱ層	石鏡	Ⅱ b	41	12	5	2.0	珪 頁	基部欠損
図165-55	VIB-75	I層	石鏡	Ⅱ b	(47)	14	7	4.1	珪 頁	尖端欠損、 基部欠損
図165-56	VIL-74	Ⅱ層	石鏡	Ⅱ b	(45)	12	6	2.8	珪 頁	基部欠損、 両端欠損
図166-1	VK-70	I層	石鏡	Ⅱ a	(23)	12	4	0.8	珪 頁	両端欠損、 基部欠損
図166-2	VI-65	Ⅱ層	石鏡	Ⅱ a	21	9	3	0.4	珪 頁	基部欠損
図166-3	VI-66	Ⅱ層	石鏡	Ⅱ b	(18)	11	3	0.5	黒曜石	基部欠損
図166-4	VIF-96	I層	石鏡	Ⅱ b	(19)	14	5	1.2	玉 髓	両端欠損
図166-5	VIA-68	I層	石鏡	Ⅱ b	21	14	3	0.7	珪 頁	
図166-6	V I-66	Ⅱ層	石鏡	Ⅱ b	(21)	18	5	1.0	珪 頁	両端欠損

図番号	出土地点	層位	器種	分類	計測値(mm)			重量(g)	石材	備考
					長さ	幅	厚さ			
図166-7	VH-73	I層	石鏃	IIb	(18)	8	4	0.5	珪 頁	基部欠損、 ｱｽﾌﾟﾙﾄ
図166-8	VH-74	I層	石鏃	IIb	20	8	5	0.5	珪 頁	ｱｽﾌﾟﾙﾄ
図166-9	VH-74	I層	石鏃	IIb	22	7	3	0.4	珪 頁	
図166-10	VG-74	II層	石鏃	IIb	(23)	8	4	0.5	珪 頁	尖端欠損、 ｱｽﾌﾟﾙﾄ
図166-11	VA-69	II層	石鏃	IIb	23	11	4	0.8	珪 頁	ｱｽﾌﾟﾙﾄ
図166-12	VH-66	II層	石鏃	IIb	24	11	4	0.9	珪 頁	ｱｽﾌﾟﾙﾄ
図166-13	VF-69	I層	石鏃	IIb	(27)	11	5	1.1	珪 頁	尖端欠損、 ｱｽﾌﾟﾙﾄ
図166-14	VJ-55	I層	石鏃	IIb	(24)	12	5	0.9	珪 頁	尖端欠損、 ｱｽﾌﾟﾙﾄ
図166-15	VA-59	II層	石鏃	IIb	(27)	11	5	1.0	珪 頁	ｱｽﾌﾟﾙﾄ
図166-16	VO-62	II層	石鏃	IIb	30	16	5	1.3	珪 頁	ｱｽﾌﾟﾙﾄ
図166-17	VI-65	II層	石鏃	IIb	(29)	13	4	1.2	珪 頁	尖端欠損
図166-18	VH-69	II層	石鏃	IIb	29	9	4	0.8	珪 頁	
図166-19	VH-69	II層	石鏃	IIb	(29)	11	5	1.1	珪 頁	ｱｽﾌﾟﾙﾄ 尖端欠損、 欠損部摩滅
図166-20	VC-67	II層	石鏃	IIb	34	12	4	1.1	珪 頁	ｱｽﾌﾟﾙﾄ
図166-21	VH-74	II層	石鏃	IIb	36	10	4	1.2	珪 頁	ｱｽﾌﾟﾙﾄ
図166-22	VD-58	II層	石鏃	IIb	(27)	13	5	1.3	珪 頁	両端欠損
図166-23	VH-73	I層	石鏃	IIb	(27)	11	4	0.9	珪 頁	基部欠損
図166-24	VH-73	I層	石鏃	IIb	(30)	12	5	1.2	珪 頁	基部欠損
図166-25	VH-74	II層	石鏃	IIb	(30)	12	5	1.2	珪 頁	基部欠損
図166-26	VH-69	II層	石鏃	IIb	(30)	13	5	1.4	珪 頁	基部欠損
図166-27	VJ-54	I層	石鏃	IIb	(37)	(15)	5	1.8	珪 頁	基部、左側縁欠損 ｱｽﾌﾟﾙﾄ
図166-28	VD-58	II層	石鏃	IIb	(34)	15	5	2.0	珪 頁	両端欠損
図166-29	VH-69	II層	石鏃	IIb	(41)	11	4	1.1	珪 頁	尖端欠損
図166-30	VA-59	II層	石鏃	IIb	(41)	11	6	1.5	珪 頁	基部欠損
図166-31	VG-74	I層	石鏃	IIb	50	12	6	2.8	珪 頁	
図166-32	VG-73	I層	石鏃	IIb	52	12	6	3.1	珪 頁	ｱｽﾌﾟﾙﾄ
図166-33	VH-73	I層	石鏃	IIb	(56)	12	5	2.9	珪 頁	両端欠損、ｱｽﾌﾟﾙﾄ
図166-34	VF-69	I層	石鏃	IIb	(53)	12.3	7.7	4.2	珪 頁	両端欠損、 尖端欠損部摩滅、 縁に転用か？ ｱｽﾌﾟﾙﾄ
図166-35	VK-61	II層	石鏃	破損品	(20)	8.0	2.8	0.5	珪 頁	基部欠損、 ｱｽﾌﾟﾙﾄ
図166-36	VH-72	I層	石鏃	未製品	(18)	10	2	0.4	珪 頁	未製品A
図166-37	VC-67	I層	石鏃	未製品	38	13	5	1.8	珪 頁	未製品A
図166-38	VH-73	II層	石槍	I	(95)	27	13	27.6	珪 頁	基部欠損
図166-39	VJ-53	I層	石槍	I	50	20	10	10.4	珪 頁	
図166-40	VIJ-73	II層	石槍	II	46	23	9	8.6	珪 頁	
図166-41	VH-78	II層	両面調整	I	89	30	15	37.9	珪 頁	
図166-42	VF-60	I層	両面調整	I	41	20	10	7.3	珪 頁	
図166-43	VH-63	II層	両面調整	I	(44)	19	10	8.5	珪 頁	
図167-1	VH-76	I層	両面調整	I	39	(18)	9	5.1	珪 頁	槍(欠損品)
図167-2	VR-64	I層	両面調整	I	(39)	18	9	5.7	珪 頁	槍(欠損品)
図167-3	VH-73	I層	両面調整	I	31	22	6	4.1	珪 頁	
図167-4	VF-70	I層	両面調整	I	32	20	6	3.7	珪 頁	
図167-5	VU-68	I層	両面調整	I	49	22	10	9.7	珪 頁	
図167-6	VH-80	I層	両面調整	I	45	23	12	10.2	珪 頁	
図167-7	VH-69	風倒木	両面調整	I	46	34	14	21.4	珪 頁	

図番号	出土地点	層位	器種	分類	計測値(mm)			重量(g)	石材	備考
					長さ	幅	厚さ			
図167-8	VV-69	I層	両面調整	I	(50)	19	13	11.0	珪頁	
図167-9	VIB-70	表土	両面調整	I	(48)	19	7	7.8	珪頁	
図167-10	VIG-72	II層	両面調整	I	60	20	10	10.6	珪頁	
図167-11	VW-66	I層	両面調整	I	56	23	13	18.8	珪頁	
図167-12	VW-69	I層	両面調整	I	64	22	12	16.3	珪頁	
図167-13	VIV-67	I層	両面調整	I	(50)	27	13	15.3	珪頁	尖滯欠損
図167-14	VA-59	II層	両面調整	II	67	35	13	27.0	珪頁	
図167-15	VW-66	I層	両面調整	II	75	39	17	42.5	珪頁	
図167-16	VX-71	I層	両面調整	II	71	39	21	53.2	珪頁	
図167-17	VIK-73	II層	石匙		51	26	9	14.4	珪頁	光沢あり
図167-18	VIB-69	II層	石匙		(37)	28	12	14.3	珪頁	
図167-19	VD-58	II層	石匙		(52)	21	12	11.1	珪頁	
図167-20	VI-69	I層	石匙		46	34	10	14.5	珪頁	
図167-21	VA-59	II層	石匙		68	49	18	45.3	珪頁	フラスコによる 変色範囲か? 装着痕の可能性あり
図168-1	VIC-67	不明	石匙		93	40	26	97.6	珪頁	フラスコ
図168-2	VX-99	II層	石匙		84	39	17	60.8	珪頁	フラスコ?
図168-3	VIC-68	II層	石匙		74	25	11	22.0	珪頁	
図168-4	表探	不明	石匙		56	26	10	16.3	珪頁	
図168-5	VO-74	II層	石匙		59	23	13	18.4	珪頁	
図168-6	VI-69	II層	石匙		59	23	9	12.0	珪頁	フラスコ
図168-7	VIB-66	II層	石匙		64	25	14	24.8	珪頁	
図168-8	VID-69	II層	石匙		66	25	16	27.0	珪頁	
図168-9	VE-55	II層	石匙		(54)	28	10	18.4	珪頁	
図168-10	VX-77	I層	石匙		92	62	16	90.0	珪頁	光沢あり
図168-11	VI-74	II層	石匙		82	38	10	35.7	珪頁	
図168-12	VQ-63	I層	石匙		69	33	10	24.2	珪頁	両側面摩滅あり
図168-13	VII-74	I層	石匙		75	31	16	38.5	珪頁	
図168-14	VIK-75	II層	石匙	I	56	29	8	13.1	珪頁	松原型前期初型
図168-15	VS-63 訳1	I層	石匙	I	45	39	4	8.2	珪頁	フラスコ
図168-16	VQ-98	II層	石匙	I	41	14	6	2.6	珪頁	
図169-1	VL-77	II層	石匙	I	70	34	9	17.5	珪頁	フラスコ、光沢 側縁微細
図169-2	VG-73	I層	石匙	I	68	27	11	13.1	珪頁	フラスコ (繊維状の痕跡残る) 側縁微細
図169-3	VG-73	I層	石匙	I	62	28	10	10.1	珪頁	フラスコ、 側縁微細
図169-4	VH-74	II層	石匙	I	78	34	11	25.8	珪頁	フラスコ (繊維状の痕跡残る) 側縁微細
図169-5	VH-73	I層	石匙	I	86	33	20	34.4	珪頁	フラスコ (繊維状の痕跡残る) 側縁微細
図169-6	IVS-65	I層	石匙	I	83	35	14	26.0	珪頁	
図169-7	VH-74	I層	石匙	I	63	42	11	23.3	珪頁	下部欠損後 わずかに摩耗あり フラスコ (繊維状の痕跡残る) 側縁微細
図169-8	VH-74	I層	石匙	I	67	44	13	30.4	珪頁	側縁微細
図169-9	VH-73	I層	石匙	I	84	36	13	31.0	珪頁	フラスコ (繊維状の痕跡残る) 側縁微細
図169-10	VJ-63	I層	石匙	I	76	34	11	22.8	珪頁	フラスコ
図169-11	VH-74	I層	石匙	I	76	40	11	25.7	珪頁	フラスコ、 側縁微細

図番号	出土地点	層位	器種	分類	計測値(mm)			重量(g)	石材	備考
					長さ	幅	厚さ			
図169-12	VH-73	I層	石匙	I	64	34	8	11.5	珪 頁	アフリット (織維状の痕跡残る) 側縁微腫
図169-13	V0-69	II層	石匙	I	60	35	12	11.4	珪 頁	裏面側縁に光沢
図169-14	VN-71	II層	石匙	I	68	35	10	11.4	珪 頁	両面周縁
図169-15	VG-73	I層	石匙	I	72	42	10	16.3	珪 頁	アフリット、 側縁縁面に光沢
図170-1	VA-59	風刺木	石匙	I	75	43	16	41.0	珪 頁	
図170-2	VH-75	II層	石匙	II	46	59	11	17.4	珪 頁	
図170-3	V0-65	I層	石匙	II	38	57	9	13.5	珪 頁	アフリット (織維状の痕跡残る)、 側縁微腫
図170-4	VE-53	I層	石匙	II	38	52	9	13.7	珪 頁	アフリット、刃部摩滅
図170-5	VB-60	II層	石匙	II	55	50	9	16.9	珪 頁	アフリット
図170-6	VH-74	I層	石匙	II	49	39	6	7.7	珪 頁	器面一部に アフリット?
図170-7	VA-59	II層	石匙	III	48	46	9	13.7	珪 頁	アフリット
図170-8	VC-60	I層	石匙	III	27	34	80	5.6	珪 頁	
図170-9	VG-74	II層	石匙	III	37	67	11	17.6	珪 頁	アフリット
図170-10	VH-74	II層	石匙	III	41	61	9	15.6	珪 頁	アフリット、 層部側縁に強い光沢
図170-11	VC-58	II層	石匙	III	68	46	13	29.5	珪 頁	
図170-12	VH-73	I層	石匙	III	61	70	15	34.9	珪 頁	
図170-13	VI-74	I層	石匙	III	40	63	12	23.5	珪 頁	アフリット
図171-1	VB-58	I層	石匙	III	57	50	11	26.8	珪 頁	
図171-2	VE-56	II層	石匙	III	68	58	11	29.2	珪 頁	アフリット
図171-3	VG-62	I層	石匙	III	64	58	17	46.8	珪 頁	
図171-4	VE-64	II層	石匙	III	(46)	(40)	9	13.4	珪 頁	一部欠損、アフリット
図171-5	VC-61	I層	石匙	III	58	55	10	20.8	珪 頁	アフリット
図171-6	VB-55	I層	石匙	III	49	46	9	17.5	珪 頁	
図171-7	VB-59	II層	石匙	III	65	51	14	34.1	珪 頁	アフリット
図171-8	VB-59	風刺木	石匙	III	60	47	12	29.8	珪 頁	アフリット
図171-9	VB-55	I層	石匙	III	46	39	8	13.0	珪 頁	底縁の縁面に光沢、 アフリット
図171-10	VC-58	I層	石匙	III	54	51	8	18.1	珪 頁	アフリット
図172-1	VG-68	II層	石匙	III	(65)	(57)	14	34.0	珪 頁	一部欠損
図172-2	VD-55	II層	石匙	III	58	50	15	27.6	珪 頁	アフリット
図172-3	VJ-54	I層	石匙	III	73	71	16	80.4	珪 頁	アフリット 掻き取り具か?
図172-4	VG-73	I層	石匙	III	53	49	10	17.8	珪 頁	
図172-5	VE-57	II層	石匙	未製品	71	52	17	53.0	珪 頁	つまみのみ
図172-6	VI-71	II層	石匙	未製品	27	19	6	2.1	黒曜石	つまみのみ
図172-7	VH-73	I層	石鏃	I	(27)	16	6	1.8	珪 頁	
図172-8	VH-74	I層	石鏃	I	(30)	16	5	1.3	珪 頁	尖端欠損
図172-9	VI-75	I層	石鏃	I	40	20	11	5.4	珪 頁	
図172-10	VM-58	I層	石鏃	I	(42)	36	5	4.2	珪 頁	尖端欠損
図172-11	V0-66	I層	石鏃	I	(50)	22	7	4.4	珪 頁	尖端欠損
図172-12	VI-74	I層	石鏃	I	(55)	(28)	10.9	9.6	珪 頁	尖端欠損
図172-13	VI-53	I層	石鏃	I	(66)	49	13	25.8	珪 頁	尖端欠損
図172-14	不明	不明	石鏃	I	52	20	11	6.3	珪 頁	
図172-15	VH-71	I層	石鏃	I	(65)	37	17	16.1	珪 頁	尖端わずかに欠損
図172-16	VG-72	II層	石鏃	I	(61)	35	17	19.3	珪 頁	尖端欠損、 アフリット
図173-1	VI-65	I層	石鏃	I	(53)	15	10	6.3	珪 頁	尖端欠損
図173-2	VA-59	II層	石鏃	I	51	23	10	4.9	珪 頁	

図番号	出土地点	層位	器種	分類	計測値(mm)			重量(g)	石材	備考
					長さ	幅	厚さ			
図173-3	VH-73	I層	石錐	I	41	23	5	2.2	珉頁	ｱｽﾌﾟﾙﾄ? 機能部破壊わずかに 光沢あり、尖端摩耗
図173-4	VF-72	I層	石錐	II	21	19	11	3.0	珉頁	
図173-5	VH-74	I層	石錐	II	25	29	11	4.8	玉髓	尖端摩耗
図173-6	VG-73	I層	石錐	II	31	27	9	4.3	玉髓	尖端欠損後再加工
図173-7	VA-56	I層	石錐	II	37	35	10	10.6	珉頁	側縁縁辺にｱｽﾌﾟﾙﾄ、 掻き取り具としても 使用か?
図173-8	VH-73	I層	石錐	II	53	27	14	13.4	珉頁	未成品
図173-9	VH-74	I層	石錐	II	(39)	29	7	6.5	珉頁	尖端欠損
図173-10	VH-74	II層	石錐	II	99.1	48	21	67.8	珉頁	ｱｽﾌﾟﾙﾄ 微細剝離あり
図173-11	VH-71	II層	石錐	II	(53)	49	14	17.5	珉頁	尖端欠損
図173-12	VK-69	II層	石錐	II	50	63	9	24.6	珉頁	
図173-13	VH-73	I層	石錐	II	42	16	8	4.6	珉頁	尖端わずかに摩耗、 ｱｽﾌﾟﾙﾄ
図173-14	VG-73	I層	石錐	III	32	10	6	1.3	珉頁	尖端摩耗
図173-15	VH-73	I層	石錐	III	50	14	7	4.6	珉頁	
図173-16	VC-66	I層	石錐	破損品	(58)	16	12	10.2	珉頁	基部一部ガジリ
図173-17	VH-75	I層	石錐	破損品	(56)	13	12	8.9	珉頁	一部ガジリ
図173-18	VH-64	I層	石錐	破損品	(41)	17	11	10.2	珉頁	
図173-19	VB-59	II層	異形		(44)	(29)	4	3.6	珉頁	
図173-20	VG-74	II層	異形		(31)	(32)	8	4.5	珉頁	
図173-21	VIK-73	II層	ｽﾌﾟﾗｲﾝ		84	26	18	39.8	珉頁	
図173-22	VW-66	I層	ｽﾌﾟﾗｲﾝ		100	41	20	69.5	珉頁	
図174-1	VL-74	II層	ｽﾌﾟﾗｲﾝ		84	27	9	15.5	珉頁	
図174-2	VJ-53	I層	ｽﾌﾟﾗｲﾝ		59	21	9	10.7	珉頁	ｱｽﾌﾟﾙﾄ 掻き取り具として 使用か?
図174-3	VH-73	I層	ｽﾌﾟﾗｲﾝ		71	19	7	8.1	珉頁	ｱｽﾌﾟﾙﾄ
図174-4	VD-59	II層	ｽﾌﾟﾗｲﾝ		(82)	21	6	11.3	珉頁	
図174-5	VD-64	I層	ｽﾌﾟﾗｲﾝ		41	18	7	4.4	珉頁	ｱｽﾌﾟﾙﾄ、 掻き取り具として 使用か? 側縁に光沢
図174-6	VJ-52	I層	ｽﾌﾟﾗｲﾝ		64	62	15	49.4	黒曜石	
図174-7	VG-72	I層	ｽﾌﾟﾗｲﾝ		67	38	13	30.5	珉頁	ｱｽﾌﾟﾙﾄ
図174-8	VH-75	II層	ｽﾌﾟﾗｲﾝ		48	42	7	12.2	珉頁	ｱｽﾌﾟﾙﾄ 掻き取り具として 使用か?
図174-9	VH-73	I層	ｽﾌﾟﾗｲﾝ		(39)	37	7	8.7	珉頁	一部欠損
図174-10	VH-69	II層	ｽﾌﾟﾗｲﾝ		54	24	8	7.1	珉頁	
図174-11	VO-69	II層	ｽﾌﾟﾗｲﾝ		47	22	13	12.3	珉頁	
図174-12	VI-74	I層	ｽﾌﾟﾗｲﾝ		81	40	12	25.9	珉頁	
図174-13	VM-63	II層	ｽﾌﾟﾗｲﾝ		45	33	14	19.9	珉頁	
図174-14	VM-62	I層	ｽﾌﾟﾗｲﾝ		195	84	20	234.9	珉頁	断面一部に光沢
図175-1	VG-74	I層	ｽﾌﾟﾗｲﾝ		44	37	12	12.5	珉頁	
図175-2	VH-73	I層	ｽﾌﾟﾗｲﾝ		(32)	(37)	12.6	15.7	珉頁	一部欠損
図175-3	VF-73	I層	微細		40	35	9	10.9	珉頁	
図175-4	VH-74	I層	微細		62	42	19	35.1	珉頁	黒色物あり、 ｱｽﾌﾟﾙﾄ?
図175-5	VII-84	攪乱	微細		48	62	15	36.0	珉頁	光沢
図175-6	VI-74	I層	微細		45	36	16	26.8	珉頁	
図175-7	VE-64	II層	微細		56	35	16	24.7	珉頁	微細剝離部分摩滅 光沢あり、 ｱｽﾌﾟﾙﾄ
図175-8	VE-67	I層	微細		44	35	10	14.6	珉頁	光沢あり

図番号	出土地点	層位	器種	分類	計測値(mm)			重量(g)	石材	備考
					長さ	幅	厚さ			
図175-9	VG-73	II層	微細		72	31	11	17.9	珪頁	
図175-10	VG-74	I層	微細		60	23	18	19.8	珪頁	
図175-11	VH-73	I層	微細		52	53	19	46.7	珪頁	
図175-12	VH-75	II層	微細		87	54	22	74.1	珪頁	
図175-13	VH-74	I層	微細		86	67	18	94.3	珪頁	微細剥離の部分に 弱い光沢、 [スフィート]
図176-1	VH-74	I層	微細		37	(35)	11	16.5	珪頁	右側欠損
図176-2	VH-75	I層	微細		50	27	10	9.2	珪頁	側縁微細
図176-3	VT-69	I層	微細		54	39	14	29.1	珪頁	
図176-4	VG-74	I層	微細		93	30	15	29.3	珪頁	光沢
図176-5	VN-59	I層	微細		96	26	9	16.5	珪頁	
図176-6	VH-74	I層	微細		71	30	10	16.5	珪頁	
図176-7	VH-75	II層	微細		71	45	16	37.3	珪頁	
図176-8	VB-73	I層	微細		68	67	16	50.8	珪頁	光沢
図176-9	VD-64	I層	二次加工		74	79	29	114.1	珪頁	
図176-10	表採	不明	二次加工		42	28	10	11.6	珪頁	
図176-11	VF-69	I層	二次加工		27	15	6	2.1	黒曜石	
図176-12	VF-69	I層	石核		31	55	41	52.8	珪頁	
図177-1	VF-67	II層	石核		76	78	53	254.2	珪頁	
図177-2	VS-62	I層	石核		57	67	47	212.3	珪頁	
図177-3	VE-57	II層	石核		81	78	72	555.5	珪頁	
図177-4	VC-56	II層	石核		50	53	49	35.0	珪頁	
図178-1	VS-62 訳1	I層	石核		136	27	27	103.9	珪頁	
図178-2	VM-57	I層	両極石核		39	61	33	70.5	珪頁	
図178-3	VT-61 訳1	I層	両極石核		56	77	30	130.1	珪頁	
図178-4	VH-74	I層	挟み撃ち 痕のある剥 片		28	29	9	6.7	珪頁	
図178-5	VH-74	I層	挟み撃ち 痕のある剥 片		32	24	8	6.5	珪頁	
図178-6	VE-65	I層	両極剥片		23	15	8	2.6	黒曜石	
図178-7	VH-74	I層	両極剥片		36	32	17	19.0	珪頁	
図178-8	VE-57	I層	楔形石器		31	32	10	12.0	珪頁	
図178-9	VK-54	I層	楔形石器		38	34	13	16.5	珪頁	
図178-10	VA-55	I層	楔形石器		26	30	10	9.0	珪頁	
図178-11	表採		打製石斧		93	46	25	91.1	珪頁	
図178-12	VG-73	I層	打製石斧		84	48	15	66.0	珪頁	[スフィート]？ (ごく一部)
図178-13	VB-59	風倒木	打製石斧		59	43	21	40.8	珪頁	裏面の器面に光沢
図178-14	VH-74	I層	打製石斧		58	45	16	38.3	珪頁	端部フクレ
図179-1	VU-64	I層	打製石斧		136	69	34	287.2	珪頁	側縁及び 端部に敲打痕
図179-2	VT-65	II層	打製石斧		95	50	28	162.7	珪頁	
図179-3	VL-58	I層	打製石斧		(85)	40	30	94.6	珪頁	
図179-4	VT-61 訳1	I層	打製石斧		(75)	60	39	148.8	珪頁	
図179-5	VU-64	I層	トソクエ		81	64	15	75.8	珪頁	
図179-6	VU-63	I層	トソクエ		60	42	11	20.2	珪頁	
図179-7	MT-86	II層	トソクエ		65	37	14	27.7	珪頁	
図179-8	IVW-62	II層	磨製石斧		95	56	26	23.9	安山岩	
図179-9	VG-56	I層	磨製石斧		67	20	9	24.0	粘板岩	S-102

石器観察表

図番号	出土位置	層位	器種	計測値 (mm)			重量(g)	石材	備考	数量
				長さ	幅	厚さ				
図13-8	BS102	1層	石皿	254	(128)	56	216.0	安山岩		218
図16-12	BS103	床面	凹み石	120	106	61	929.5	凝灰岩	両面: 2* (2), 3* (1)	109
図15-13	BS103	床面	凹み石	122	99	55	675.1	凝灰岩	正面: 2* (1)	108
図15-14	BS103	堆積土	敲き・磨り石	131	70	37	351.4	礫岩	正面: 3*→2* (1), 側面: 3* (1) 裏面: 2* (7)・3* (1)	111
図16-16	BS103	床面	敲き・磨り石	133	63	37	322.3	凝灰岩	正面: 3*→2* (2) 裏面: 2* (7)	104
図16-1	BS103	堆積土	敲き・磨り石	107	88	62	542.3	凝灰岩	両面: 2* (1)→3* (1) 側面: 3*	115
図16-2	BS103	床面	磨り石	94	85	81	640.3	礫岩	正面: 3* 側面: 3*	107
図16-3	BS103	床面	石皿	231	(149)	48	1207.4	凝灰岩	S-3, 有縁	103
図16-4	BS103	床面	台石	282	262	11	11480.0	安山岩	S-2, 片面磨削痕	102
図23-6	BS105	床面	凹み石	158	55	35	396.7	凝灰岩	S-4, 正面: タボミ (4), 裏面: タボミ (1), 小2* (5)・3* (1)	409
図23-7	BS105	堆積土	敲き・磨り石	114	95	45	496.1	砂岩	正面: 3*→2* (1), 小2* (1) 裏面: 3*→2* (2), 小2* (1) 踏面両面に磨削の痕があり, 北海道式石皿に似る。 しかし, 側面には痕はない。	132
図23-8	BS105	貼床	敲き・磨り石	129	93	64	996.0	凝灰岩	正面: 3*→2* (2) 側面: 3* 裏面: 3*→タボミ (1), 小2* (1), 3* (1)	389
図23-9	BS105	堆積土	敲き・磨り石	123	66	25	219.0	凝灰岩	正面: 2* (1) 2側面: 3*	127
図24-1	BS105	床面	磨り石	153	74	55	986.1	砂岩	S-2, 両面: 3*, 2側面: 3*	1028
図24-2	BS105	堆積土	磨り石	200	92	48	1184.1	凝灰岩	側面: 3*	136
図24-3	BS105	床面	磨り石	178	87	39	808.2	凝灰岩	正面: 3*, 2側面: 3*	134
図24-4	BS105	床面	磨り石	143	70	43	644.8	凝灰岩	側面: 3*, 2側面: 3*	1026
図24-5	BS105	床面	台石	406	367	81	18200.0	凝灰岩	S-1, 7* (4)・9 藍色付着物あり	1068
図25-10	BS106	1層	凹み石	105	71	38	307.8	凝灰岩	正面: 2* (1), 裏面: 2* (1), 小2* (2), 3* (1)	410
図26-1	BS106	1層	敲き・磨り石	137	83	63	927.5	凝灰岩	正面: 3*→2* (6) 裏面: 3*→1*, 側面: 3*	397
図26-2	BS106 ⁹⁾	堆積土	敲き・磨り石	128	64	40	470.0	安山岩	正面: 2* (2), 小2* (4) 裏面: 2* (1), 小2* (1), 3* (1) 1側面: 3*	398
図26-3	BS106	2層	敲き・磨り石	128	88	5	727.8	凝灰岩	正面: 2* (5), 小2* (6) 裏面: 2* (5), 小2* (6) タボミ, 2側面: 3*	399
図26-4	BS106	2層	磨り石	137	55	39	460.0	凝灰岩	両面: スリ	1027
図26-4	BS108	床面	凹み石	102	79	21	188.5	凝灰岩	両面: 2* (1), 3* (1)	402
図29-3	BS114	堆積土	磨り石	147	81	45	892.6	安山岩	1側面: スリ	1029
図31-9	BS116	3層床直	凹み石	122	71	35	418.0	凝灰岩	正面: 2* (3), 3* (1) 裏面: 2* (4), 小2* (2), 3* (1)	411
図31-10	BS116	床面	敲き・磨り石	89	86	54	826.6	砂岩	S-102, 正面・裏面: 3*, 側面: 3*	395
図32-3	BS117	堆積土	凹み石	128	96	25	420.3	凝灰岩	正面: 2* (4), 3* (1) 裏面: 2* (4)	406
図32-4	BS117	堆積土	磨り石	122	94	70	1176.9	花園閃緑岩	正面: 3*	1032
図34-12	BS118	2層	敲き・磨り石	123	90	49	664.9	砂岩	正面: 3*→2* (4), 裏面: 3*→2* (5), 小2* (1)	390
図34-13	BS118	1層	敲き・磨り石	89	68	38	292.1	安山岩	正面: 3*→2* (4), 小2* (1) 裏面: 3*→2* (2), 小2* (3), 3* (1)	391
図34-14	BS118	床直	磨り石	118	86	54	756.5	安山岩	両面: 3*, 1側面: 3*	1030
図35-2	BS119	3層上面	磨り石	119	80	46	543.9	凝灰岩	S-3, 正面: 3*, 1側面: 3*	1031
図37-11	BS121	堆積土	石皿	540	322	61	6390.0	凝灰岩	側面及び内面に磨削調整。	137
図40-6	BS128a	床面	台石	415	253	40	6100.0	安山岩	S-1, 両面に藍色顔料付着, 藍色顔料分析資料	1160
図40-9	BS128a	堆積土	凹み石	108	54	29	189.8	凝灰岩	正面: 2* (3), 小2* (2), 3* (1)	407
図40-10	BS128a	石組施設	台石	232	135	61	2490.0	安山岩	S-4, 被膜, 磨痕	1066
図40-11	BS128a	石組施設	台石	449	241	116	17500.0	凝灰岩	S-2	1067

図番号	出土位置	層位	器種	計量値 (mm)			重量(g)	石材	備考	数量
				長さ	幅	厚さ				
図40-11	BS128a p1	伊石	敷き・磨り石	102	83	63	649.4	凝灰岩 正面:片→片 ¹ (3), 小片 ² (1) 裏面:片→片 ¹ (3), 片 ¹ , 端部:片 ¹ (2) 被熱	393	
図41-1	BS128a	床底	台石	408	249	63	12800.0	安山岩	S-1, 台石の形状が悪い	1063
図41-2	BS128a	床底	台石	223	164	48	2600.0	凝灰岩	S-2, 被熱	1064
図42-1	BS128b p3	伊石	台石	445	208	97	11800.0	凝灰岩	S-1, 表裏両面を使用	1065
図52-16	BS809	1層	台石	305	261	120	16700.0	安山岩	BP111696	1061
図63-1	BS8002	1層	回み石	107	78	49	281.9	凝灰岩	正面:片 ¹ (1), 穿孔底顕著 裏面:片 ¹ (2), 1側面:片 ¹	44
図63-2	BS8002	1層	回み石	(123)	81	23	241.5	凝灰岩	正面:片 ¹ (1), 小片 ² (1) 裏面:片 ¹ (2)	42
図63-3	BS8002	1層	回み石	(97)	83	48	299.4	砂岩	正面:片 ¹ (2) 穿孔底顕著, 小片 ² (2), 形状の片 ¹ 裏面:片 ¹ (2), 小片 ² (1)	38
図63-13	BS8008	2層	回み石	148	66	49	601.6	凝灰岩	正面:片 ¹ (4), 片 ¹ 裏面:片 ¹ (1), 片 ¹ S-2,	33
図64-3	BS8009	1層	回み石	(71)	(56)	43	157.9	凝灰岩	正面:片 ¹ (1), 小片 ² (2), 片 ¹ 裏面:小片 ² (4), 側面:小片 ² (4) 片 ¹ (底面中央の穿孔底顕著)	32
図64-13	BS8014	3層	回み石	122	105	47	579.7	凝灰岩	S-1, 正面:片 ¹ (1) 裏面:片 ¹ (2), 小片 ² (5)	28
図65-4	BS8016	2層	台石	162	145	26	407.6	砂岩	赤色顔料, 彩色物質付着	14
図65-5	BS8016	2層	台石	184	143	37	1152.3	砂岩	S-1, 彩色顔料付着	15
図66-17	BS8023	堆積土	台石	(99)	(92)	18	153.5	凝灰岩	顔料付着の印に彩色顔料付着	220
図66-11	BS8026	堆積土	回み石	143	58	39	370.9	凝灰岩	正面:片 ¹ (2) 内面磨滅, 小片 ² (2) 裏面:片 ¹ (1)	37
図66-12	BS8026	堆積土	敷き・磨り石	102	55	49	182.7	凝灰岩	正面:片 ¹ (1), 小片 ² (10) 穿孔底顕著→X1, 裏面:片 ¹ (1), 小片 ² (2)→X1	36
図66-13	BS8026	堆積土	敷き・磨り石	123	60	35	227.3	凝灰岩	正面:片 ¹ (2), 片 ¹ 側面:X1, 裏面:片 ¹ (2) 片 ¹ (底面は磨滅し, 穿孔底が顕著)	34
図66-4	BS8027	2層	敷き・磨り石	115	77	46	413.6	礫岩	正面:片→片 ¹ (3), 小片 ² (1) 裏面:片→片 ¹ (2), 片 ¹ , 被熱	35
図67-5	BS8027	堆積土	敷き・磨り石	99	75	41	212.6	凝灰岩	S-1, 正面:片 ¹ (1), 側面:片 ¹	29
図67-11	BS8030	2層	回み石	114	85	42	341.3	凝灰岩	正面:片 ¹ (1), 小片 ² (2) 裏面:片 ¹ (1), 穿孔底顕著	30
図67-12	BS8030	2層	台石	369	245	47	5400.0	凝灰岩	正面:片→片 ¹ (2), 小片 ² (3), 片 ¹ 裏面:片 ¹	17
図69-1	BS8078	堆積土	敷き・磨り石	83	55	50	263.0	凝灰岩	正面:片→片 ¹ (2), 小片 ² (3), 片 ¹ 裏面:片 ¹	140
図94-26	BSK101	2層	台石	419	334	132	25500.0	花崗閃緑岩		1070
図94-27	BSK101	2層	台石	521	399	40	10000.0	安山岩	土坑の側板	1075
図95-6	BSK110	堆積土	回み石	122	103	54	966.4	凝灰岩	正面:片 ¹ (2), 小片 ² (2), 片 ¹ , 裏面:片 ¹	401
図96-7	BSK170	堆積土	磨り石	117	64	51	456.7	礫岩	端部:片 ¹	1033
図95-9	BSK170	堆積土	石舞I	87	67	24	144.2	凝灰岩		385
図95-20	BS8240	堆積土	回み石	103	81	40	304.2	礫岩	正面:片 ¹ (6), 小片 ² (1) 裏面:片 ¹ (2), 片 ¹	404
図96-22	BS8247	堆積土	敷き石	845	67	28	160.3	砂岩	正面:片 ¹	400
図106-8	BS8037	4層	敷き・磨り石	87	50	33	116.9	凝灰岩	正面:片→片 ¹ (1) 内面磨滅	31
図107-2	BS8047	堆積土	磨り石	116	91	80	1057.2	凝灰岩	正面:片 ¹	10
図107-3	BS8047	堆積土	敷き・磨り石	100	83	60	473.4	凝灰岩	正面:片 ¹ (1), X1 裏面:片 ¹ (2)→X1, 側面:片 ¹ (3) 片 ¹ (内面磨滅)	51
図107-4	BS8047	堆積土	台石	389	249	76	8800.0	凝灰岩	S-1, 中央に回み石, 回み底面赤色	18
図108-1	BS8098	堆積土	敷き・磨り石	122	87	47	574.2	凝灰岩	正面:X1, 片 ¹ (8), 小片 ² (4) 裏面:X1, 片 ¹ (3), 側面:X1 X1底顕著	139
図108-9	BSK175	堆積土	回み石	127	82	45	381.4	凝灰岩	正面:片 ¹ (1), 片 ¹ 裏面:片 ¹ (2), 側面:片 ¹	387
図109-5	BS8291	堆積土	回み石	140	72	55	737.0	凝灰岩	正面:片 ¹ (4), 片 ¹ 裏面:片 ¹ (1), 片 ¹	403
図109-6	BS8291	1層	回み石	133	78	45	625.9	凝灰岩	正面:片 ¹ (4), 小片 ² (1), 片 ¹ , 裏面:片 ¹ (2), 小片 ² (2), 片 ¹	405
図109-7	BS8291	1層	磨り石	103	68	54	540.8	凝灰岩	両面・1側面:X1	1034
図116-4	BS827	堆積土	磨り石	50	40	40	95.9	凝灰岩	正面・1側面:X1	1035
図128-6	BP11708	確認面	台石	(143)	(136)	14	386.2	安山岩	彩色物質付着	383
図128-7	BP11520	堆積土	磨り石	128	67	38	519.6	花崗閃緑岩	正面・裏面:X1	1036
図128-8	BP11633	確認面	台石	376	274	77	16700.0	安山岩	使用痕跡弱い	1062
図128-17	BP11708	柱 礎	石 皿	(178)	(150)	82	2044.6	安山岩		384

図番号	出土位置	層位	器種	計測値 (mm)		重量 (g)	石材	備考	番号	
				長さ	幅					
図129-8	EP11868	根掘め	台石	355	269	127	22500.0	花崗閃緑岩	S-1, 根掘め石	1071
図129-9	EP11872	地掘土	台石	440	254	88	16900.0	花崗閃緑岩	S-1	1069
図129-10	EP11873	確認跡	台石	474	294	92	19500.0	安山岩	安山岩	1072
図129-11	EP11875	地掘土	台石	326	229	84	10200.0	花崗閃緑岩	S-1	1073
図130-5	EP11922	根掘め	台石	272	188	88	6300.0	安山岩	側面使用, 根掘め石	1074
図141-2	VE-55	IIa-2層	敷き石	98	68	23	205.3	砂岩	正面・裏面:P99	345
図141-3	VD-56	IIa-1層	敷き石	137	61	33	213.8	凝灰岩	正面・裏面:P99, 0mmの尖孔痕	1044
図141-4	VE-56	IIa-2層	敷き石	132	66	42	296.0	安山岩	正面・1側面:P99	347
図141-5	VE-55	IIa-1層	敷き石	120	83	32	657.9	凝灰岩	正面・裏面:P99	1055
図141-6	VE-55	IIa-2層	敷き石	122	89	39	412.1	凝灰岩	台石破損品からの転用品	312
図141-7	VE-55	IIa-1層	敷き石	106	82	34	326.2	雑岩	正面:P99	1048
図141-8	VG-55	IIa-2層	敷き石	58	51	43	89.5	珪質頁岩	ハンマー	342
図141-9	VA-56	IIa-2層	敷き石	44	43	32	148.4	珪質頁岩	ハンマー	340
図142-1	VD-56	IIa-1層	隅み石	89	71	42	311.7	凝灰岩	正面・裏面:P99*(1) P99*(内面摩滅 側面:P99*(8)	357
図142-2	VD-55	IIa-1層	隅み石	114	98	33	417.1	凝灰岩	正面・裏面:P99*(1) P99*(内面摩滅	358
図142-3	VE-56	IIa-1層	隅み石	132	97	28	406.5	凝灰岩	正面:P99*(1)内面摩滅 裏面:P99*(1), P99	364
図142-4	VE-55	IIa-1層	隅み石	74	70	48	254.4	凝灰岩	正面:P99*(1)内面摩滅 裏面:P99*(3), 小P99*(3)	367
図142-5	VE-55	IIa-1層	隅み石	101	79	34	278.1	凝灰岩	正面:P99*(2)	349
図142-6	VE-55	IIa-1層	隅み石	106	63	33	186.0	凝灰岩	正面:P99*(2)	889
図142-7	VC-55	IIa-1層	隅み石	138	79	56	737.9	凝灰岩	正面:P99*(5)内面摩滅, 小P99*(2) 裏面:P99*(4), P99	366
図142-8	VF-57	IIa-2層	隅み石	97	49	43	266.0	砂岩	正面:P99*(1), 小P99*(1) 裏面:P99*(3)	900
図142-9	VE-55	IIa-2層	隅み石	96	86	41	289.9	凝灰岩	正面:P99*(4), 小P99*(2) 裏面:P99*(2)内面摩滅, P99	362
図142-10	VD-55	IIa-1層	隅み石	136	77	41	454.2	凝灰岩	正面:P99*(3), 小P99*(4), P99 裏面:P99*(2)内面摩滅	360
図142-11	VE-56	IIa-1層	隅み石	112	77	45	379.9	雑岩	正面:P99*(3), 小P99*(4) 裏面:P99*(1)内面摩滅, P99, 接痕	363
図143-1	VF-56	IIa-2層	隅み石	115	81	27	300.7	凝灰岩	正面:P99*(2)内面摩滅, 小P99*(1) 裏面:P99*(1), P99	895
図143-2	VE-55	IIa-1層	隅み石	110	96	34	409.9	凝灰岩	正面:P99*(3), P99 裏面:P99*(2)	361
図143-3	VE-56	IIa-2層	隅み石	112	74	32	347.4	凝灰岩	正面:P99*(3), P99 裏面:P99*(1), P99	354
図143-4	VF-57	IIa-2層	隅み石	146	80	45	708.7	雑岩	正面:P99*(3), 小P99*(1), P99 裏面:P99	907
図143-5	VI-53	IIa-1層	隅み石	(110)	62	40	306.1	凝灰岩	正面:P99*(2), 小P99*(2), P99 裏面:P99*(4), P99	356
図143-6	VE-56	IIa-2層	隅み石	113	59	32	270.0	凝灰岩	正面:P99*(2), P99 裏面:P99*(1), 小P99*(2), P99	1022
図143-7	VD-55	IIa-1層	隅み石	122	61	30	244.6	凝灰岩	正面:P99*(6), 小P99*(3) 裏面:P99*(1), 小P99*(5), P99	346
図143-8	VE-54	IIa-1層	隅み石	128	58	27	300.1	凝灰岩	正面:P99*(1), 小P99*(4), P99 裏面:P99*(2), P99	1018
図143-9	VD-56	IIa-2層	隅み石	102	70	57	464.4	雑岩	正面:P99*(3), 小P99*(3), P99 裏面:P99*(4), P99 側面:P99*(2), P99	350
図143-10	VD-55	IIa-1層	隅み石	96	58	56	280.3	凝灰岩	正面:P99*(3), 小P99*(3), P99 裏面:P99*(2)内面摩滅, 小P99*(6) 1側面:P99*(1), 小P99*(5)	355
図144-1	VE-55	IIa-1層	敷き・磨り石	101	85	52	560.8	凝灰岩	正面:V9, P99*(1)内面摩滅, P99 裏面:V9, P99*(2), 小P99*(2), P99	323
図144-2	VE-55	IIa-1層	敷き・磨り石	104	71	57	566.3	安山岩	正面:V9, P99*(2) 裏面:V9, P99*(3), P99	328
図144-3	VE-55	IIa-1層	敷き・磨り石	94	91	62	720.3	安山岩	正面:V9, 小P99*(2), P99 裏面:V9	325
図144-4	VE-55	IIa-1層	敷き・磨り石	103	68	50	406.3	凝灰岩	正面:P99, V9, P99*(1) 裏面:V9, P99*(3), P99	351
図144-5	VE-55	IIa-1層	敷き・磨り石	87	65	59	397.3	凝灰岩	正面:P99*(1), 裏面:V9, P99*(1) P99*(内面摩滅 側面:P99*(2), P99	330
図144-6	VG-53	IIa-2層	敷き・磨り石	153	100	31	492.0	凝灰岩	正面:V9, P99*(2), 小P99*(1) 裏面:P99*(3)	327
図144-7	VB-56	IIa-1層	敷き・磨り石	126	63	40	411.5	凝灰岩	正面:P99*(4), P99 裏面:V9, P99*(3), P99 側面:P99	322
図144-8	VE-57	IIa層	敷き・磨り石	157	114	24	540.8	凝灰岩	正面:V9, P99*(3), 小P99*(5), P99 裏面:P99*(2)	321

図番号	出土位置	層位	器種	計量値 (mm)			重量(g)	石料	備考	整理
				長さ	幅	厚さ				
図144-9	VE-55	IIa-2層	敲き・磨り石	122	81	35	366.6	凝灰岩	正面:AI, 背:(2) 裏面:背:(2), 背? 底部:背?, AI	334
図144-10	VE-55	IIa-1層	敲き・磨り石	105	54	24	149.5	凝灰岩	正面:AI, 背:(5), 小背:(4), 背? 裏面:AI, 背:(3), 小背:(3), 背? 背面:背:(4), 小背:(4), 背? 裏面:AI, 背:(8), 背? 側面:背:(1), 背?	333
図145-1	VC-56	IIa-1層	敲き・磨り石	154	65	37	456.7	緑色凝灰岩	正面:AI, 背:(1), 小背:(4), 背? 左側面:AI, 背:(1), 背? 右側面:背:(1), 小背:(2), 背? 底部:背?	332
図145-2	VE-56	IIa-2層	敲き・磨り石	144	71	53	720.1	凝灰岩	正面:AI, 背:(2), 背? 裏面:AI, 背:(3), 小背:(1) 底部:AI	338
図145-3	VC-56	IIa-1層	敲き・磨り石	117	78	43	442.2	凝灰岩	正面:AI, 背? 側面:背:(1), 背? 底部:AI, 背?	329
図145-4	VE-54	IIa-1層	敲き・磨り石	103	81	66	714.1	凝灰岩	正面:AI, 小背:(5) 側面:AI, 底部:AI	353
図145-5	VE-55	IIa-1層	敲き・磨り石	91	51	36	162.6	頁岩	側面:背?, 底部:AI, 石冠か?	371
図145-6	VE-56	IIa-2層	敲き・磨り石	76	52	55	226.1	凝灰岩	両面:背?, AI	352
図145-7	VE-56	IIa-1層	敲き・磨り石	50	42	37	86.9	凝灰岩	正面:背?, AI 裏面:AI, 背:(2), 側面:AI	331
図145-8	VC-56	IIa-1層	敲き・磨り石	115	91	62	888.5	凝灰岩	正面:背:(1), 背? 背面:背:(1), 背?	335
図145-9	VE-56	IIa-2層	敲き・磨り石	140	52	50	645.9	礫岩	正面:背:(1), 背?	336
図146-1	VE-55	IIa-1層	磨り石	109	94	65	856.4	安山岩	両面:AI	377
図146-2	VD-56	IIa-1層	磨り石	50	47	44	60.3	凝灰岩	両面:AI	380
図146-3	VF-56	IIa-1層	磨り石	61	47	34	89.1	凝灰岩	両面:AI	382
図146-4	VE-54	IIa-1層	磨り石	54	48	41	113.2	安山岩	正面:AI	379
図146-5	VE-56	IIa-2層	磨り石	102	74	54	551.3	安山岩	正面:AI	373
図146-6	VE-56	IIa-1層	磨り石	81	72	49	436.0	花崗閃緑岩	両面:AI	376
図146-7	VE-55	IIa-1層	磨り石	103	56	30	174.8	凝灰岩	底部:AI	372
図146-8	VG-56	IIa-2層	磨り石	100	63	48	315.9	凝灰岩	底部:AI	369
図146-9	VE-56	IIa-2層	磨り石	109	59	44	277.4	凝灰岩	1側面:AI	376
図146-10	VE-55	IIa-2層	磨り石	125	75	48	832.8	安山岩	両面・両側面・両底部:AI	335
図146-11	VG-56	IIa-1層	磨り石	102	84	65	705.2	凝灰岩	両面・1側面:AI	374
図146-12	VD-55	IIa-2層	石錘I	69	65	16	91.1	砂岩		309
図146-13	VD-55	IIa-1層	石錘I	71	62	21	108.7	凝灰岩		317
図146-14	VE-55	IIa-1層	石錘I	102	76	23	238.4	凝灰岩		315
図147-1	VE-56	IIa-1層	石錘I	119	71	21	199.3	砂岩		310
図147-2	VA-56	IIa-2層	石錘II	86	70	45	246.0	礫岩	敲き石からの転用品	605
図147-3	VC-56	IIa-1層	石錘II	135	71	31	395.0	凝灰岩	叩み石からの転用品	314
図147-4	VC-56	IIa-2層	石錘II	96	70	30	269.9	凝灰岩	叩み石からの転用品	877
図147-5	VE-55	IIa-1層	石錘II	114	80	66	618.7	安山岩	敲き・磨り石からの転用品	316
図147-6	VE-56	IIa-2層	石錘II	98	86	28	217.4	砂岩	敲き・磨り石からの転用品	878
図147-7	VE-54	IIa-1層	石錘II	97	68	44	350.3	凝灰岩	正面で背が溝状になる→北海道式 石冠からの転用?	337
図147-8	VI-53	IIa-1層	礫石	185	78	56	1096.1	流紋岩		320
図150-1	WE-77	IIa層	磨り石	128	86	54	906.4	花崗閃緑岩	両面・両側面:AI	210
図150-2	VG-74	IIa層	敲き・磨り石	93	43	33	159.6	凝灰岩	正面:背:(2), 裏面:背:(1), 背? 底部:AI	182
図150-3	VG-73	IIa層	叩み石	130	65	43	383.4	安山岩	正面:背:(1)内面磨蝕 裏面:背:(2), 背?	161
図180-1	VA-59	風倒木	敲き石	79	77	62	407.7	珪質頁岩	ハンマー	341
図180-2	VI-52	I層	敲き石	110	45	33	264.4	安山岩	両面:背:(1)内面磨蝕, 側面:背? 裏面磨蝕, 石錘として使用か?	348
図180-3	VF-69	I層	叩み石	95	77	38	279.3	凝灰岩		175
図180-4	VL-73	II層	叩み石	104	68	24	187.6	凝灰岩	正面:背:(1), 背? 裏面:背:(2), 背?	76
図180-5	VF-56	II層	叩み石	113	105	60	900.2	礫岩	正面:背:(1)内面磨蝕, 小背:(3) 裏面:背:(1), 小背:(2), 背? 側面:背:(1), 背?	359
図180-6	VP-74	II層	叩み石	126	80	56	712.1	礫岩	正面:背:(3), 小背:(2), 背? 裏面:背:(2), 背? 側面:背:(1), 背?	73
図180-7	VX-72	II層	叩み石	150	64	31	365.5	砂岩	正面:背:(1)内面磨蝕, 小背:(16) 裏面:背:(4), 小背:(1), 背?	365
図180-8	VG-56	II層	叩み石	120	88	26	277.8	凝灰岩	正面:小背:(1), 背? 裏面:小背:(8)	995
図180-9	VO-64	I層	敲き・磨り石	116	63	34	288.1	凝灰岩	正面:AI, 背:(3), 小背:(1) 裏面:背:(2), 小背:(5)	172
図181-1	VS-82	I層	敲き・磨り石	135	134	40	870.7	凝灰岩	正面:小背:(10), AI	180

図番号	出土位置	層位	器種	計面積 (mm)			重量(g)	石材	備考	数量
				長さ	幅	厚さ				
図181-2	VK-62	II 層	織き・磨り石	83	61	49	228.5	凝灰岩	正面:ス, 下 ² (2), 小下 ² (4) 裏面:ス, 下 ² (2), 下 ²	68
図181-3	VS・T-62	祝 1 I 層	織き・磨り石	70	86	41	228.8	花崗閃緑岩	正面:ス, 溝い赤色付着物 燻部:???	305
図181-4	VN-80	II 層	織き・磨り石	111	55	53	340.2	凝灰岩	正面:ス, 下 ² (1)内面摩滅 裏面:???	66
図181-5	VS-78	II 層	織き・磨り石	132	81	32	411.1	安山岩	正面:ス, 下 ² (4), 下 ² 裏面:ス, 下 ² (2), 下 ²	77
図181-6	VP-72	II 層	織き・磨り石	108	44	37	236.3	凝灰岩	正面:下 ² (1), 裏面:???, 燻部:???	72
図181-7	VN-68	II 層	織き・磨り石	103	67	41	231.6	砂岩	正面:下 ² (1)内面摩滅, 小下 ² (3), ス, 下 ² 裏面:下 ² (2)内面摩滅 側面:摩滅:ス	64
図181-8	VIII-73	I 層	織き・磨り石	151	72	52	812.4	凝灰岩	正面:ス, 下 ² (3), 小下 ² (11), 下 ² 裏面:ス, 下 ² (5), 小下 ² (4), 下 ² 燻部:ス	201
図181-9	VN-74	I 層	織き・磨り石	128	61	53	627.7	凝灰岩	正面:下 ² (6), 小下 ² (3), 下 ² 裏面:下 ² (1), 下 ² 側面:下 ² (2), 下 ² , ス	194
図182-1	VII-56	II 層	織き・磨り石	166	101	71	1157.0	砂岩	磨面全域に磨痕や 凹取りされたスリ痕が連続してい る。	368
図182-2	VK-60	I 層	磨り石	151	67	25	251.6	凝灰岩	素材端部付近?	177
図182-3	VY-66	I 層	磨り石	160	74	53	1093.8	安山岩	磨面側面, 1側面:ス	187
図182-4	VII-66	II 層	磨り石	130	79	55	774.9	凝灰岩	磨面側面, 1側面:ス	425
図182-5	VK-61	II 層	磨り石	131	76	46	892.5	凝灰岩	磨面側面・両側面:ス, 素材端部両端:ス	7
図182-6	VII-66	II 層	磨り石	151	71	38	480.7	凝灰岩	正面・2側面:ス	422
図183-1	VY-64	I 層	磨り石	197	93	58	1272.3	凝灰岩	側面:スリ, 両端:打ち欠き	660
図183-2	VG-54	II 層	磨り石	81	72	40	216.6	凝灰岩	側面・燻部:ス	370
図183-3	VIE-73	I 層	磨り石	57	56	51	210.7	頁岩	磨面全体・多面:ス	420
図183-4	VS-62	I 層	磨り石	188	88	56	1279.6	流紋岩	側面:ス	179
図183-5	VII-75	II 層	磨り石	207	90	39	805.0	安山岩	側面:ス	21
図183-6	VII-73	I 層	北海道式石硯	162	83	64	1038.8	凝灰岩		202
図184-1	VII-79	I 層	北海道式石硯	149	85	51	1098.5	花崗閃緑岩		306
図184-2	VS・T-62	祝 1 I 層	織 器	171	83	18	878.7	流紋岩	燻部??	300
図184-3	VI-63	I 層	加工礫	216	115	36	1125.6	安山岩	周縁は削磨調整されているが使用 痕跡なし	302
図184-4	VS・T-62	祝 1 I 層	加工礫	159	103	30	740.7	安山岩	周縁は削磨調整されているが使用 痕跡なし	301
図184-5	VK-54	I 層	加工礫 (165)	(100)	65	1311.7	凝灰岩	全面に磨痕, 石礫未製品か?	319	
図184-6	VII-73	II 層	石礫 I	49	49	17	49.2	凝灰岩		141
図184-7	VII-62	I 層	石礫 I	94	70	25	187.2	安山岩		166
図185-1	VC-64	II 層	石礫 I	90	84	27	261.9	凝灰岩		311
図185-2	VII-74	II 層	石礫 II	100	75	20	169.3	凝灰岩	凹み石からの転用品	318
図185-3	VN-63	I 層	石礫 II	91	71	32	236.8	凝灰岩	織き・磨り石からの転用品	168
図185-4	VII-74	II 層	石礫 II	89	71	29	207.4	凝灰岩	織き・磨り石からの転用品	156
図185-5	VII-59	II 層	石礫 II	124	68	40	441.0	凝灰岩	織き・磨り石からの転用品	326
図185-6	VI-62	祝 1 I 層	石礫 II	170	84	35	820.1	凝灰岩	磨り石からの転用品	635
図185-7	VJ-83	I 層	石 皿	(249)	(228)	56	2258.2	砂岩		619
図185-8	VI-77	II 層	台 石	247	241	49	4256.7	砂岩		1
図185-9	VE-57	II 層	台 石	216	17	36	1468.9	凝灰岩		611
図186-1	VG-55	II 層	台 石	278	169	71	3894.2	凝灰岩	下 ² , 下 ²	610
図186-2	VF-56	I 層	台 石	237	169	60	2610.3	凝灰岩	石製品-311, 側面が彫形	609
図186-3	VII-73	II 層	台 石	302	202	39	3174.4	安山岩	赤色顔料付着	199
図186-4	VY-65	II 層	台 石	(72)	(65)	9	64.1	安山岩	赤色顔料付着 使用痕跡あり	304
図186-5	VP-69	I 層	台 石	(54)	(32)	11	25.3	安山岩	赤色顔料付着, 186-6と同一個体 板状処理	174
図186-6	VP-72	II 層	台 石	88	65	13	85.6	安山岩	赤色顔料付着, 186-5と同一個体, 板状処理 側面にも顔料付着→脱製品を 使用か?	4
図186-7	表採	不明	台 石	(225)	139	29	716.9	凝灰岩	一部脱熱, 赤色顔料付着	1083
図186-8	VS-62	祝 1 I 層	砥 石	156	144	17	394.8	頁岩		307
図186-9	VK-63	I 層	砥 石	117	45	11	72.8	頁岩		306
図186-10	VI-63	I 層	砥 石	53	52	11	38.6	頁岩		308

土製品観察表

図番号	出土位置	層位	種類	計測値(cm)			重量(g)	部位・文様等	備考
				長さ	幅	厚さ			
24-6	BS105	堆積土	環状土製品	4.9	5.1	1.4	20.0	無文	
148-1	VE-56	IIa-1層	土鍋	(4.1)	(4.6)	2.0	14.9	胴面部、隆帯、沈線、LR	土-101,中空、赤色顔料
148-2	VG-66	IIa-2層	土器片加工円盤	2.9	2.8	0.7	5.3	土器胴部片,LR	
148-3	VF-56	IIa-1層	土器片加工円盤	3.5	4.2	0.8	10.5	土器胴部片,L	
148-4	VC-86	IIa-2層	土器片加工円盤	3.9	4.3	1.0	16.1	土器胴部片、無文	
148-5	VD-56	IIa-2層	土器片加工円盤	3.2	3.4	0.6	6.0	土器胴部片、無文	
148-6	VF-57	IIa-2層	土器片加工円盤	3.2	3.4	0.7	5.8	土器胴部片、無文	
187-1	VH-74	I層	土鍋	(13.1)	14.1	2.9	412.9	胴部、胸部突起、胴部突起、沈線	土-1、中空、赤色顔料、器面剥落
187-2	VH-76	II層	土鍋	(3.7)	(3.4)	2.1	20.5	胴部、突起	中央、七稜板
187-3	VB-56	II層	土器片加工円盤	3.9	4.0	1.0	12.9	土器口縁部片、L	
187-4	VE-55	I層	土器片加工円盤	3.6	3.9	0.8	8.5	土器胴部片、L	
187-5	VF-58	I層	土器片加工円盤	3.9	3.1	0.7	6.6	土器胴部片、L	
187-6	VL-57	II層	土器片加工円盤	5.3	5.3	0.9	18.1	土器胴部片、L	
187-7	VC-62	II層	環状土製品	1.8	1.8	0.6	1.6	無文	土-107
187-8	VJ-53	I層	有孔土製品	4.3	4.3	1.7	24.2	扉貫通孔、無文	赤色顔料
187-9	VH-73	I層	環状土製品	(3.6)	7.1	5.1	20.8	沈線(従水工字文)	
187-10	VH-64	I層	不明土製品	(3.0)	5.4	2.0	19.8	隆帯	

石製品観察表

図番号	出土位置	層位	器種	計測値(cm)			重量(g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
31-11	BS116	床面	石棒	(11.7)	(5.6)	4.8	445.5	凝灰岩	S-100,側面研磨,端部敲打
34-15	BS118	2層上部	石棒	(13.4)	10.0	7.7	1397.5	凝灰岩	S-1-3,敲打,研磨,被熱
37-10	BS121	堆積土	不明石製品	4.5	3.1	0.9	12.9	頁岩	研磨
37-12	BS121	堆積土	石棒	38.0	7.5	7.2	2179.9	砂岩	石-1,敲打,研磨,端部凹み,側面凹凸物
42-8	BS128	1層	円盤状石製品	6.5	5.6	1.2	53.8	凝灰岩	削離
52-12	BS905 (P11715)	堆積土	岩版	11.7	8.0	2.9	382.8	頁岩	研磨,縁刻
63-4	BSK002	1層	円盤状石製品	6.6	6.1	2.3	123.4	凝灰岩	削離
63-14	BSK008	1層	円盤状石製品	3.6	3.7	1.2	21.1	安山岩	石-1,削離,側縁摩滅,端部鉄分蝕化
63-15	BSK008	2層	円盤状石製品	6.4	5.8	1.9	105.2	安山岩	削離後の敲打
65-18	BSK023	堆積土	円盤状石製品	6.9	6.4	1.6	113.2	頁岩	削離
66-14	BSK026	堆積土	円盤状石製品	4.3	4.2	1.8	48.5	花崗閃緑岩	石-1,削離後の敲打
94-6	BSK091	堆積土	有孔石製品	4.6	3.9	1.8	42.0	凝灰岩	側面穿孔,研磨
94-23	BSK101	2層	円盤状石製品	3.6	3.9	1.4	23.1	頁岩	石-3,削離,側縁鉄分蝕化
94-24	BSK101	2層	円盤状石製品	4.2	4.5	1.2	35.5	頁岩	石-4,削離
94-25	BSK101	2層	円盤状石製品	3.6	3.6	1.8	31.0	安山岩	石-1,削離後の敲打
96-16	BSK094	複孔	玉壺	2.3	1.2	0.7	3.2	ヒスイ	玉-1,片面穿孔
96-17	BSK094	底面	玉壺	1.7	0.9	0.9	2.4	ヒスイ	玉-5,片面穿孔,角柱状
96-18	BSK094	底面	玉壺	1.6	0.9	0.6	1.7	ヒスイ	玉-9,片面穿孔
96-19	BSK094	複孔	玉壺	1.6	2.0	0.7	3.5	ヒスイ	片面穿孔
96-20	BSK094	複孔	玉壺	1.2	1.1	0.6	1.4	ヒスイ	玉-2,片面穿孔
96-21	BSK094	複孔	玉壺	(0.7)	0.8	(0.4)	0.3	ヒスイ	玉-3,片面穿孔
96-22	BSK094	底面	玉壺	0.8	0.8	0.6	0.5	ヒスイ	玉-4,片面穿孔
96-23	BSK094	底面	玉壺	1.0	0.7	0.4	0.6	ヒスイ	玉-6,片面穿孔
96-24	BSK094	底面	玉壺	0.9	0.9	0.7	0.8	ヒスイ	玉-7,片面穿孔
96-25	BSK094	底面	玉壺	1.3	1.3	1.0	2.6	ヒスイ	玉-8,片面穿孔
96-26	BSK094	底面	玉壺	0.8	0.8	0.7	0.6	ヒスイ	玉-10,片面穿孔
96-27	BSK094	底面	玉壺	1.5	1.5	1.1	3.9	ヒスイ	玉-11,片面穿孔
96-28	BSK094	底面	玉壺	0.9	1.0	0.7	0.9	ヒスイ	玉-12,片面穿孔か
96-29	BSK094	複孔	玉壺	1.0	1.0	0.6	0.9	ヒスイ	片面穿孔
96-30	BSK094	複孔	玉壺	0.9	1.0	0.6	0.8	ヒスイ	片面穿孔
96-31	BSK094	複孔	玉壺	1.0	1.0	0.7	1.2	ヒスイ	片面穿孔か

図番号	出土位置	層位	器種	計測値(cm)			重量(g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
96-32	BSK064	覆瓦	玉類	0.9	0.9	0.6	0.7	ヒスイ	片面穿孔
96-33	BSK064	覆瓦	玉類	1.0	1.0	0.7	1.1	ヒスイ	片面穿孔か
96-34	BSK064	覆瓦	玉類	1.0	1.1	0.7	1.0	ヒスイ	片面穿孔
96-35	BSK064	覆瓦	玉類	1.0	1.1	0.7	1.1	ヒスイ	片面穿孔
96-36	BSK064	覆瓦	玉類	1.0	1.0	0.6	0.9	ヒスイ	片面穿孔
96-37	BSK064	覆瓦	玉類	1.0	1.0	0.7	0.9	ヒスイ	片面穿孔か
96-38	BSK064	覆瓦	玉類	1.1	1.2	0.9	1.6	ヒスイ	片面穿孔
96-39	BSK064	覆瓦	玉類	1.0	1.0	0.7	1.1	ヒスイ	片面穿孔
96-40	BSK064	覆瓦	玉類	1.1	1.0	0.8	1.3	ヒスイ	片面穿孔
96-41	BSK064	覆瓦	玉類	0.9	0.9	0.6	0.9	ヒスイ	片面穿孔
96-42	BSK064	覆瓦	玉類	1.1	1.1	0.8	1.6	ヒスイ	片面穿孔
96-43	BSK064	覆瓦	玉類	0.9	0.9	0.7	1.1	ヒスイ	片面穿孔
97-1	BSK069	底面	勾玉	2.8	2.0	0.8	6.1	ヒスイ	片面穿孔
97-2	BSK370	1層	玉類	0.6	0.6	0.4	0.10	緑色凝灰岩	S-1, 両面穿孔
97-3	BSK370	1層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.11	緑色凝灰岩	S-2, 両面穿孔
97-4	BSK370	1層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.11	緑色凝灰岩	S-3, 両面穿孔
97-5	BSK370	1層	玉類	0.8	0.8	0.4	0.23	緑色凝灰岩	S-4, 両面穿孔
97-6	BSK370	1層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.08	緑色凝灰岩	S-5, 両面穿孔
97-7	BSK370	1層	玉類	0.8	0.8	0.2	0.18	緑色凝灰岩	S-6, 両面穿孔, 小口面研磨痕著
97-8	BSK370	1層	玉類	(0.5)	0.6	0.3	0.07	緑色凝灰岩	S-8, 両面穿孔
97-9	BSK370	1層	玉類	(0.5)	-	0.3	0.03	緑色凝灰岩	S-9, 両面穿孔
97-10	BSK370	1層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.08	緑色凝灰岩	S-10, 両面穿孔
97-11	BSK370	1層	玉類	(0.5)	0.6	0.3	0.09	緑色凝灰岩	S-11, 両面穿孔
97-12	BSK370	1層	玉類	0.6	0.5	0.3	0.14	緑色凝灰岩	S-12, 両面穿孔
97-13	BSK370	1層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.13	緑色凝灰岩	S-15, 両面穿孔
97-14	BSK370	1層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.08	緑色凝灰岩	S-16, 両面穿孔
97-15	BSK370	1層	玉類	(0.4)	0.6	0.3	0.05	緑色凝灰岩	S-19, 両面穿孔
97-16	BSK370	1層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.12	緑色凝灰岩	S-20, 両面穿孔
97-17	BSK370	1層	玉類	0.6	0.6	0.4	0.12	緑色凝灰岩	S-21, 両面穿孔
97-18	BSK370	1層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.10	緑色凝灰岩	S-22, 両面穿孔
97-19	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.08	緑色凝灰岩	S-23, 両面穿孔, 片側小口内減り
97-20	BSK370	2層	玉類	0.6	0.5	0.5	0.11	緑色凝灰岩	S-24, 両面穿孔
97-21	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.6	0.14	緑色凝灰岩	S-25, 両面穿孔
97-22	BSK370	2層	玉類	0.6	0.5	0.3	0.07	緑色凝灰岩	S-26, 両面穿孔
97-23	BSK370	2層	玉類	(0.5)	0.6	0.3	0.06	緑色凝灰岩	S-27, 両面穿孔
97-24	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.4	0.09	緑色凝灰岩	S-28, 両面穿孔, 片側小口内減り
97-25	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.07	緑色凝灰岩	S-30, 両面穿孔
97-26	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.4	0.11	緑色凝灰岩	S-31, 両面穿孔
97-27	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.2	0.07	緑色凝灰岩	S-32, 両面穿孔
97-28	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.07	緑色凝灰岩	S-33, 両面穿孔
97-29	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.08	緑色凝灰岩	S-34, 両面穿孔
97-30	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.09	緑色凝灰岩	S-35, 両面穿孔
97-31	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.07	緑色凝灰岩	S-36, 両面穿孔
97-32	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.13	緑色凝灰岩	S-37, 両面穿孔
97-33	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.08	緑色凝灰岩	S-38, 両面穿孔
97-34	BSK370	1層	玉類	(0.7)	-	0.3	0.05	緑色凝灰岩	S-40, 両面穿孔
97-35	BSK370	1層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.08	緑色凝灰岩	S-41, 両面穿孔
97-36	BSK370	1層	玉類	0.6	0.5	0.3	0.05	緑色凝灰岩	S-43, 両面穿孔
97-37	BSK370	1層	玉類	0.6	0.6	0.4	0.11	緑色凝灰岩	S-44, 両面穿孔
97-38	BSK370	1層	玉類	(0.4)	0.6	0.3	0.04	緑色凝灰岩	S-46, 両面穿孔
97-39	BSK370	1層	玉類	(0.4)	0.6	0.4	0.09	緑色凝灰岩	S-47, 両面穿孔
97-40	BSK370	1層	玉類	0.7	0.7	0.4	0.12	緑色凝灰岩	S-49, 両面穿孔
97-41	BSK370	1層	玉類	0.6	0.6	0.4	0.12	緑色凝灰岩	S-51, 両面穿孔
97-42	BSK370	1層	玉類	0.7	0.7	0.3	0.14	緑色凝灰岩	S-52, 両面穿孔
97-43	BSK370	1層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.12	緑色凝灰岩	S-53, 両面穿孔
97-44	BSK370	1層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.08	緑色凝灰岩	S-54, 両面穿孔

図番号	出土位置	層位	器種	計測値(cm)			重量(g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
97-45	BSK370	1層	玉類	0.7	0.7	0.2	0.14	緑色凝灰岩	S-55, 両面穿孔, 小口面研磨顯著
97-46	BSK370	1層	玉類	(0.4)	0.7	0.3	0.11	緑色凝灰岩	S-57, 両面穿孔
97-47	BSK370	1層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.09	緑色凝灰岩	S-58, 両面穿孔
97-48	BSK370	1層	玉類	0.7	0.7	0.3	0.12	緑色凝灰岩	S-59, 両面穿孔
97-49	BSK370	1層	玉類	(0.3)	0.5	0.3	0.04	緑色凝灰岩	S-61, 両面穿孔
97-50	BSK370	1層	玉類	(0.7)	-	0.3	0.04	緑色凝灰岩	S-62, 両面穿孔
97-51	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.04	緑色凝灰岩	S-63, 両面穿孔, 表面摩耗
97-52	BSK370	2層	玉類	(0.6)	-	0.3	0.05	緑色凝灰岩	S-64, 両面穿孔
97-53	BSK370	1層	玉類	0.7	0.6	0.5	0.12	緑色凝灰岩	S-66, 両面穿孔
97-54	BSK370	1層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.07	緑色凝灰岩	S-67, 両面穿孔
97-55	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.6	0.13	緑色凝灰岩	S-68, 両面穿孔
97-56	BSK370	2層	玉類	0.7	0.7	0.4	0.14	緑色凝灰岩	S-69, 両面穿孔
97-57	BSK370	2層	玉類	0.5	0.6	0.2	0.04	緑色凝灰岩	S-71, 両面穿孔
97-58	BSK370	2層	玉類	(0.4)	0.6	0.3	0.05	緑色凝灰岩	S-73, 両面穿孔
97-59	BSK370	2層	玉類	(0.5)	-	0.3	0.01	緑色凝灰岩	S-75, 両面穿孔
97-60	BSK370	2層	玉類	(0.4)	0.6	0.3	0.03	緑色凝灰岩	S-76, 両面穿孔
97-61	BSK370	2層	玉類	0.5	0.5	0.3	0.06	緑色凝灰岩	S-77, 両面穿孔
97-62	BSK370	2層	玉類	0.8	0.9	0.5	0.26	緑色凝灰岩	S-78, 両面穿孔
97-63	BSK370	2層	玉類	0.8	0.6	0.4	0.07	緑色凝灰岩	S-79, 両面穿孔
97-64	BSK370	2層	玉類	0.8	0.5	0.3	0.05	緑色凝灰岩	S-80, 両面穿孔
97-65	BSK370	2層	玉類	0.8	0.6	0.3	0.09	緑色凝灰岩	S-81, 両面穿孔
97-66	BSK370	2層	玉類	0.5	0.5	0.3	0.05	緑色凝灰岩	S-82, 両面穿孔
97-67	BSK370	2層	玉類	(0.4)	0.6	0.3	0.01	緑色凝灰岩	S-83, 両面穿孔
97-68	BSK370	2層	玉類	0.8	0.6	0.3	0.07	緑色凝灰岩	S-84, 両面穿孔
97-69	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.06	緑色凝灰岩	S-85, 両面穿孔
97-70	BSK370	2層	玉類	0.5	0.5	0.3	0.05	緑色凝灰岩	S-86, 両面穿孔
97-71	BSK370	2層	玉類	0.5	0.5	0.3	0.05	緑色凝灰岩	S-87, 両面穿孔
97-72	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.08	緑色凝灰岩	S-88, 両面穿孔
97-73	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.09	緑色凝灰岩	S-89, 両面穿孔
97-74	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.08	緑色凝灰岩	S-90, 両面穿孔
97-75	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.2	0.05	緑色凝灰岩	S-91, 両面穿孔
97-76	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.07	緑色凝灰岩	S-92, 両面穿孔, 片側小口内減り
97-77	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.09	緑色凝灰岩	S-93, 両面穿孔
97-78	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.13	緑色凝灰岩	S-94, 両面穿孔
97-79	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.11	緑色凝灰岩	S-95, 両面穿孔
97-80	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.10	緑色凝灰岩	S-96, 両面穿孔
97-81	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.12	緑色凝灰岩	S-97, 両面穿孔
97-82	BSK370	2層	玉類	0.7	0.7	0.3	0.20	緑色凝灰岩	S-100, 両面穿孔
97-83	BSK370	2層	玉類	0.8	0.8	0.3	0.16	緑色凝灰岩	S-102, 両面穿孔, 両側小口内減り
97-84	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.4	0.13	緑色凝灰岩	S-103, 両面穿孔
97-85	BSK370	2層	玉類	(0.6)	-	0.3	0.04	緑色凝灰岩	S-104, 両面穿孔
97-86	BSK370	2層	玉類	0.6	0.7	0.2	0.07	緑色凝灰岩	S-105, 両面穿孔
97-87	BSK370	2層	玉類	0.7	0.7	0.3	0.17	緑色凝灰岩	S-106, 両面穿孔
97-88	BSK370	2層	玉類	0.7	0.7	0.3	0.14	緑色凝灰岩	S-107, 両面穿孔
97-89	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.12	緑色凝灰岩	S-108, 両面穿孔
97-90	BSK370	2層	玉類	0.7	0.6	0.3	0.13	緑色凝灰岩	S-109, 両面穿孔
97-91	BSK370	2層	玉類	(0.4)	0.6	0.3	0.04	緑色凝灰岩	S-110, 両面穿孔
97-92	BSK370	2層	玉類	(0.5)	-	0.3	0.02	緑色凝灰岩	S-111, 両面穿孔
97-93	BSK370	2層	玉類	(0.6)	-	0.3	0.04	緑色凝灰岩	S-112, 両面穿孔
97-94	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.12	緑色凝灰岩	S-114, 両面穿孔
97-95	BSK370	2層	玉類	(0.4)	0.6	0.3	0.01	緑色凝灰岩	S-115, 両面穿孔
97-96	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.07	緑色凝灰岩	S-116, 両面穿孔
97-97	BSK370	2層	玉類	(0.4)	0.6	0.3	0.03	緑色凝灰岩	S-118, 両面穿孔
97-98	BSK370	2層	玉類	0.7	0.7	0.3	0.11	緑色凝灰岩	S-119, 両面穿孔
97-99	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.12	緑色凝灰岩	S-120, 両面穿孔
97-100	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.10	緑色凝灰岩	S-121, 両面穿孔

図番号	出土位置	層位	器種	計測値(cm)			重量(g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
97-101	BSK370	2層	玉類	(0.5)	0.6	0.3	0.04	緑色凝灰岩	S-124, 両面穿孔
97-102	BSK370	2層	玉類	0.5	0.5	0.3	0.05	緑色凝灰岩	S-128, 両面穿孔
97-103	BSK370	2層	玉類	0.5	0.5	0.2	0.05	緑色凝灰岩	S-129, 両面穿孔
97-104	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.07	緑色凝灰岩	S-130, 両面穿孔
97-106	BSK370	2層	玉類	0.7	0.6	0.3	0.11	緑色凝灰岩	S-131, 両面穿孔
97-106	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.10	緑色凝灰岩	S-134, 両面穿孔
97-107	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.13	緑色凝灰岩	S-155, 両面穿孔
97-108	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.11	緑色凝灰岩	S-126, 両面穿孔
97-109	BSK370	2層	玉類	(0.4)	0.6	0.3	0.03	緑色凝灰岩	S-137, 両面穿孔
97-110	BSK370	2層	玉類	(0.5)	0.6	0.3	0.10	緑色凝灰岩	S-139, 両面穿孔, 片側小口内張り
97-111	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.07	緑色凝灰岩	S-140, 両面穿孔
97-112	BSK370	2層	玉類	(0.6)	0.6	0.3	0.05	緑色凝灰岩	S-142, 両面穿孔
97-113	BSK370	2層	玉類	(0.4)	0.6	0.3	0.06	緑色凝灰岩	S-145, 両面穿孔
97-114	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.4	0.11	緑色凝灰岩	S-146, 両面穿孔
97-115	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.08	緑色凝灰岩	S-147, 両面穿孔
97-116	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.08	緑色凝灰岩	S-148, 両面穿孔
97-117	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.10	緑色凝灰岩	S-149, 両面穿孔
97-118	BSK370	2層	玉類	0.7	0.7	0.3	0.10	緑色凝灰岩	S-151, 両面穿孔
97-119	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	(0.3)	0.06	緑色凝灰岩	S-152, 両面穿孔
97-120	BSK370	2層	玉類	0.6	(0.5)	(0.3)	0.03	緑色凝灰岩	S-153, 両面穿孔
97-121	BSK370	2層	玉類	0.5	0.5	0.3	0.06	緑色凝灰岩	S-154, 両面穿孔
97-122	BSK370	2層	玉類	0.6	0.6	0.3	0.13	緑色凝灰岩	S-155, 両面穿孔
97-123	BSK370	埋積土	玉類	0.6	0.6	0.3	0.14	緑色凝灰岩	両面穿孔
97-124	BSK373	5層	玉類	0.8	0.8	0.6	0.27	緑色凝灰岩	S-1, 両面穿孔
97-125	BSK373	5層	玉類	0.8	0.8	0.6	0.28	緑色凝灰岩	S-2, 両面穿孔
97-126	BSK373	5層	玉類	0.8	0.8	0.6	0.25	緑色凝灰岩	S-3, 両面穿孔
97-127	BSK373	5層	玉類	0.8	0.8	0.6	0.35	緑色凝灰岩	S-4, 両面穿孔
130-4	EP1-2051	埋積土	円盤状石製品	5.2	5.1	1.8	67.3	頁岩	石-2, 割離, 片面中央に黒色物質
148-7	VF-65	IIa-1層	磨盤 (12.1)	12.3	3.0	375.1	凝灰岩	石-102, 川原平(1)遺跡西捨場VB-28埋土上, 幾細, 全面半色顔料	
148-8	VF-56	IIa-2層	磨丸鏡	(9.0)	8.4	3.2	269.2	凝灰岩	石-133, 敲打, 研磨, 幾細
148-9	VA-62	IIa-1層	石錠	5.1	7.1	4.1	62.7	スロリア	石-221
148-10	VE-56	IIa-1層	石棒	(9.3)	2.7	2.1	74.2	凝灰岩	石-116, 敲打, 研磨
148-11	VE-55	IIa-1層	石棒	(5.5)	2.7	2.4	55.5	青色片岩	研磨
148-12	VF-56	IIa-2層	石棒	(11.1)	3.1	2.4	110.3	緑色岩	石-131, 研磨
148-13	VD-55	IIa-1層	石棒	(28.4)	3.7	1.6	225.7	緑色岩	石-103, 研磨
148-14	VA-57	IIa-1層	石刀	(20.6)	3.3	1.4	158.3	凝灰岩	石-001, 端部敲打, 研磨
148-15	VK-54	IIa層	勾玉	4.3	2.3	3.7	27.3	緑色凝灰岩	石-356, 研磨, 穿孔
148-16	VB-56	IIa-1層	円盤状石製品	7.2	7.2	3.0	249.8	凝灰岩	割離後の敲打, 片面中央に黒色物質
148-17	VB-56	IIa-1層	円盤状石製品	7.4	6.9	2.5	179.0	砂岩	割離後の敲打
148-18	VE-56	IIa-1層	円盤状石製品	7.7	6.1	2.9	213.2	円結岩	石-113, 割離後の敲打
149-1	VA-55	IIa-2層	円盤状石製品	6.9	6.0	2.7	172.1	安山岩	石-138, 割離後の敲打
149-2	VE-55	IIa-1層	円盤状石製品	9.1	9.2	3.5	340.2	凝灰岩	割離後の敲打, 両面中央敲打
149-3	VB-56	IIa-2層	円盤状石製品	7.2	6.0	3.1	183.1	頁岩	石-124, 割離後の敲打, 断面鉄分酸化
149-4	VD-55	IIa-2層	円盤状石製品	8.5	9.1	3.1	231.3	理宜頁岩	割離
149-5	VE-56	IIa-1層	円盤状石製品	7.6	6.9	2.5	149.5	頁岩	石-130, 割離, 断面鉄分酸化
149-6	VE-56	IIa-1層	円盤状石製品	7.9	7.4	1.6	111.1	細粒凝灰岩	割離
149-7	VB-56	IIa-1層	円盤状石製品	2.9	2.8	0.9	11.1	凝灰岩	割離
149-8	VE-55	IIa-1層	円盤状石製品	5.5	5.0	1.2	56.3	頁岩	割離, 側縁摩蝕
149-9	VB-56	IIa-2層	円盤状石製品	6.5	6.5	1.6	69.3	安山岩	石-126, 割離, 片面中央に黒色物質
155-4	VG-72	IIa層	鏡鉢石	4.2	9.5	4.2	110.1	緑色凝灰岩	石-1, 敲打, 研磨, 挟り跡状
155-5	VH-73	IIa層	円盤状石製品	4.1	3.9	1.6	38.5	安山岩	割離
155-6	VG-74	IIa層	円盤状石製品	4.7	4.9	1.5	45.1	安山岩	割離, 敲打
187-11	VO-74	II層	磨丸鏡	6.6	2.6	1.5	25.3	凝灰岩	研磨, 幾細
187-12	VU-62	II層	磨丸鏡	10.8	10.6	2.5	228.5	凝灰岩	研磨, 幾細
187-13	VM-57	I層	磨丸鏡	6.2	5.8	4.7	163.9	凝灰岩	幾細

図番号	出土位置	層位	器種	計測値(cm)			重量(g)	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
187-14	VS-82 VT-82	沢1層	磁結石	4.9	(11.2)	4.9	362.8	砂岩	敲打、研磨、決り跡状
187-15	VS-82 VT-82	沢1層	磁結石	(19.0)	6.3	3.6	433.9	凝灰岩	剥離、敲打、決り、未成品か
188-1	VM-49	I層	石棒	(19.4)	2.9	2.3	197.5	片岩	川原平(1)遺跡西捨場13の7下段重層と接合、 敲打、研磨、條刻
188-2	VL-104	I層	石棒	(17.1)	2.6	2.2	176.3	粘板岩	川原平(1)遺跡西捨場VA-26重層上と接合、 敲打、研磨、條刻
188-3	VE-64	II層	石棒	(7.4)	2.4	1.5	36.5	粘板岩	敲打、研磨、條刻
188-4	VK-64	I層	石刀	(4.0)	2.0	1.3	12.0	粘板岩	研磨
188-5	VM-68	I層	石剣	(18.5)	3.3	1.5	145.0	粘板岩	敲打、研磨
188-6	VM-68	I層	石刀	(14.3)	3.3	1.7	142.5	緑色岩	研磨
188-7	-	II層	円盤状石製品	6.5	6.1	2.2	111.4	砂岩	剥離、敲打、片面中央に黒色物質付着
188-8	VE-67	II層	円盤状石製品	5.6	5.3	2.1	94.4	凝灰岩	剥離、敲打
188-9	VM-49	I層	円盤状石製品	5.9	6.7	2.4	108.9	凝灰岩	剥離後の敲打、片面に黒色物質、表面鉄分酸化
188-10	VN-69	II層	円盤状石製品	5.4	5.4	2.2	78.8	凝灰岩	剥離、側縁に黒色物質
189-11	VS-82 VT-82	沢1層	円盤状石製品	3.8	3.7	1.8	40.2	凝灰岩	剥離
189-12	VN-57	I層	円盤状石製品	5.0	4.6	2.4	75.6	頁岩	剥離
189-13	VE-66	II層	円盤状石製品	11.9	10.5	3.9	430.6	凝灰岩	剥離
189-14	VE-75	I層	円盤状石製品	5.7	5.9	3.0	98.9	珪質頁岩	剥離
189-15	VN-59	I層	不明石製品	6.0	4.0	1.3	43.2	頁岩	研磨
189-16	VS-69	II層	不明石製品	11.9	3.7	2.8	150.2	凝灰岩	研磨
189-17	VB-72	I層	磨状石製品	(3.4)	5.5	1.8	14.5	安山岩	研磨
189-18	VI-64	II層	磨状石製品	4.5	4.4	0.6	3.1	頁岩	側面割目
189-19	VN-70	II層	玉類	2.7	1.7	0.8	5.1	緑色凝灰岩	両面穿孔、研磨
189-20	VG-70	I層	玉類未製品	2.5	2.0	1.0	6.3	緑色凝灰岩	S-1、両面非貫通穿孔
189-21	VX-74	複孔	玉類	0.7	0.6	0.6	0.18	緑色凝灰岩	両面穿孔
189-22	VX-74	複孔	玉類	0.6	0.5	0.5	0.09	緑色凝灰岩	両面穿孔
189-23	VX-74	複孔	玉類	0.7	0.7	0.5	0.16	緑色凝灰岩	両面穿孔、片面小口内減り
189-24	VX-74	複孔	玉類	0.6	0.6	0.4	0.14	緑色凝灰岩	両面穿孔
189-25	VX-74	複孔	玉類	0.7	0.7	0.4	0.14	緑色凝灰岩	両面穿孔
189-26	VX-74	複孔	玉類	0.7	0.7	0.4	0.18	緑色凝灰岩	両面穿孔
189-27	VX-74	複孔	玉類	0.6	0.7	0.4	0.13	緑色凝灰岩	両面穿孔
189-28	VX-74	複孔	玉類	(0.5)	0.6	0.4	0.05	緑色凝灰岩	両面穿孔
189-29	VD-66	I層	勾玉	3.9	2.8	0.7	5.2	頁岩	両面穿孔、研磨

土器器観察表

図番号	出土位置	層位	器種	部位	器面調整等	備考
189-1	VO-69	II層	甕	口縁・胴部	外面:口縁より上、胴～胴部より下(縦)、縦歯状比線 内面:口縁より下、後縁上、輪縁状	内面炭化物、口縁推定17cm



遺跡全景（南西から）



遺跡全景（北から）

写真1 遺跡全景（1）



B区全景(左方北・合成写真)

写真2 遺跡全景(2)



基本層序①（東から）



基本層序②（西から）



基本層序③（北東から）



基本層序④（西から）



基本層序⑥（南から）



A地点基本層序V G-55 付近（南から）



B地点基本層序（北西から）



B地点基本層序V H-73 付近（西から）

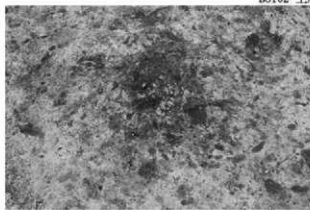
写真3 基本層序



BS102 完掘(東から)



BS102 土層(東から)



BS102 砂検出(東から)



BS102 遺物出土(西から)

写真4 竪穴住居跡(1)



BS103 完掘 (北から)



BS103 土層 A-A' 北側 (東から)



BS103 炭化材・遺物出土 (東から)



BS103 伊検出 (北から)



BS103 伊土層 (北東から)

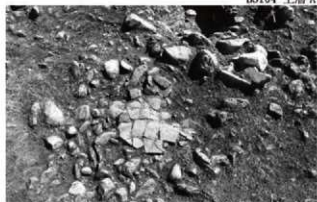
写真5 竪穴住居跡 (2)



BS104 完掘 (南から)



BS104 土層 A-A' (西から)



BS104 焼土上面土器出土 (西から)



BS104 Pit01 土層 (南から)

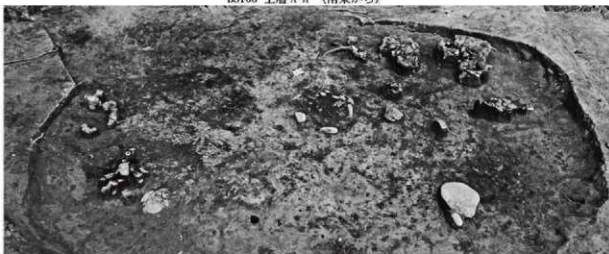
写真6 竪穴住居跡(3)



BS105 完掘 (南東から)

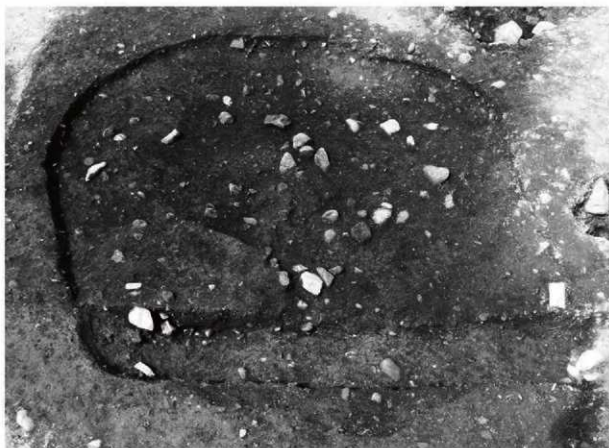


BS105 土層 A-A' (南東から)

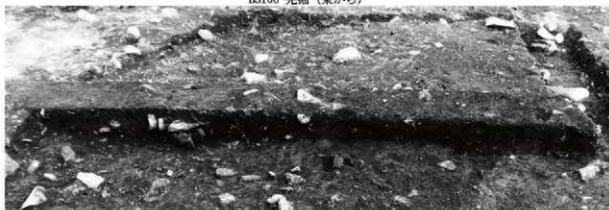


BS105 遺物出土 (南東から)

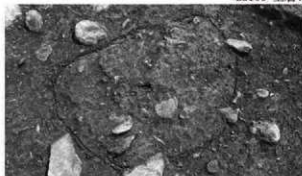
写真7 竪穴住居跡(4)



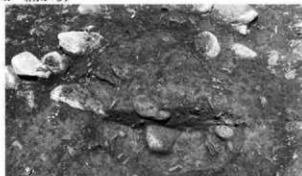
BS106 完掘 (東から)



BS106 土層 A-A' (南から)

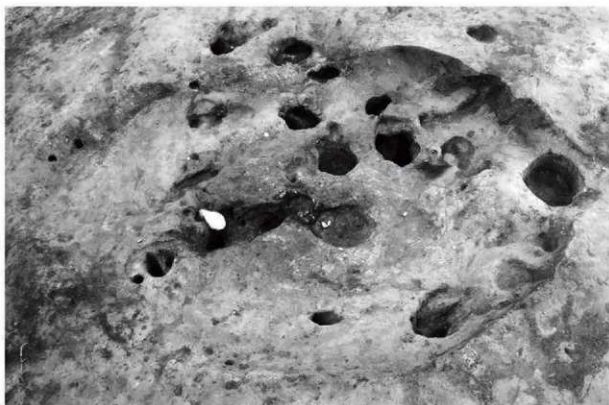


BS106 炉検出 (西から)



BS106 炉土層 (南から)

写真8 竪穴住居跡(5)



BS107 穴掘 (南西から)



BS107 土層 (南西から)



BS107 炉土層 (南西から)



BS107 Pit01 土層 (北東から)

写真9 竪穴住居跡(6)



BS108 完掘（北から）



BS111 完掘（北から）



BS111 炉検出（南から）



BS111 伊土層（南から）

写真 10 竪穴住居跡（7）



BS114 完掘（南から）



BS114 土層（南東から）



BS114 図29-2 土層（南東から）



BS114 遺物出土（図29-2・西から）

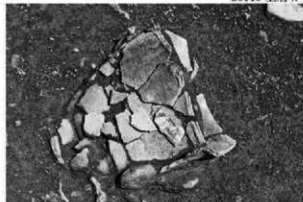
写真11 竪穴住居跡(8)



BS115 完掘（西から）



BS115 土層 A-A'（南から）



BS115 遺物出土（図 29-5・南から）



BS115 図 29-5 土層（南から）

写真 12 竪穴住居跡（9）



BSI16 完掘 (南から)



BSI16 土層 A-A' (南から)



BSI17 完掘 (南から)

写真 13 竪穴住居跡 (10)



BS118 完掘 (南から)



BS118 土層 B-B' (北西から)



BS118 竪1・竪2検出(南から)



BS119 検出(南から)

写真 14 竪穴住居跡 (11)



BS120 発掘 (南から)



BS120 土層 A-A' (南から)



BS120 検出面焼土 (東から)



BS120 炉土層 (東から)

写真 15 竪穴住居跡 (12)



BS121 完掘（南東から）



BS121 検出（西から）



BS121 石棒・石皿出土（西から）

写真 16 竪穴住居跡 (13)



BS121 炉・配石検出（東から）



BS121 土層 B-B'（南から）



BS121 炉土層（南東から）



BS121 配石検出（北から）



BS123 完掘（南西から）

写真 17 竪穴住居跡 (14)



BS124 完掘 (南東から)



BS125 炉1・炉2完掘 (南東から)



BS125 炉1遺物出土 (南東から)



BS125 炉1土層 (南東から)

写真 18 竪穴住居跡 (15)



BS128a 完壘（南東から）



BS128a 土層 A-A'（南東から）



BS128a-28b 土層 B-B'（北東から）

写真 19 竪穴住居跡 (16)



BS128a 炉1 検出 (南東から)



BS128a 炉1 土層 (南東から)



BS128a 炉1 検出・顔料付台石出土 (南西から)



BS128a 遺物出土 (南東から)



BS128a 石組施設検出 (南西から)

写真 20 竪穴住居跡 (17)



BS128b 完掘（南東から）



BS128b 炉²1 検出・土層（南東から）



BS128b 炉²1（右）・炉²2（左）土層（南東から）



BS132 完掘（東から）



BS132 遺物出土（南西から）

写真 21 竪穴住居跡（18）



BS134 完掘 (東から)



BSN10・11・12 検出 (東から)



BPit1583 土層 (北から)



BSD04 土層 (北東から)

写真 22 竪穴住居跡 (19)



BS135 完掘 (北から)



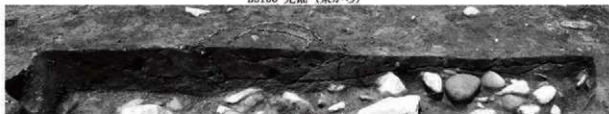
BS135 炉土層 (西から)



BS135 炉内部土層 (西から)

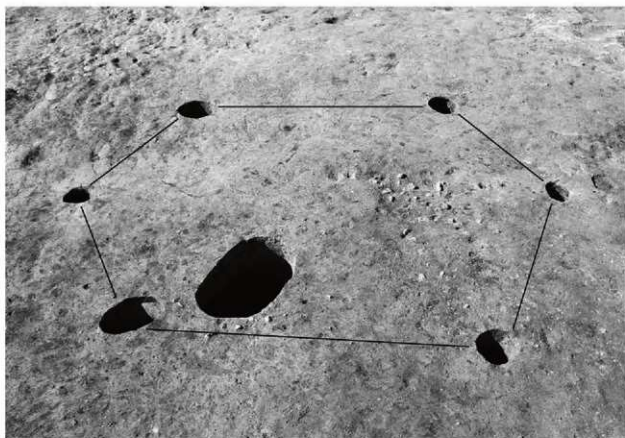


BS136 完掘 (東から)



BS136 土層 (南から)

写真 23 竪穴住居跡 (20)



BSB01 完棚 (南から)



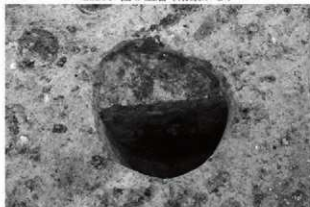
BSB01 柱1土層 (南西から)



BSB01 柱3土層 (南東から)



BSB01 柱5土層 (南から)



BSB01 柱6土層 (南から)

写真 24 掘立柱建物跡 (1)



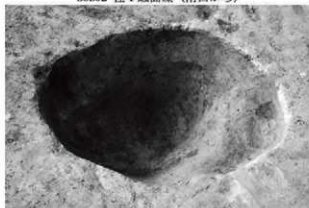
BSB02 完掘 (北東から)



BSB02 柱1底面様 (南西から)



BSB02 柱1土層 (南西から)



BSB02 柱6完掘 (南東から)



BSB02 柱6土層 (南東から)

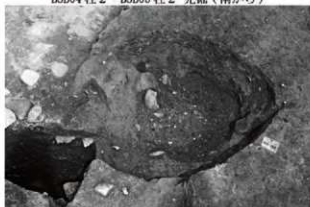
写真 25 掘立柱建物跡 (2)



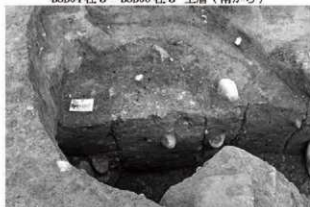
BS04 柱2・BS05 柱2 完掘(南から)



BS04 柱3・BS05 柱3 土層(南から)



BS05 柱1 柱底(東から)



BS05 柱1 土層(西から)



BS05 柱1 岩版出土(西から)



BS05 柱4 土層(南西から)

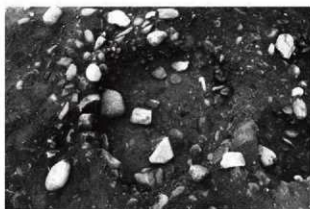


BS06 柱1 土層(北から)



BS06 柱3 土層(北西から)

写真 26 掘立柱建物跡(3)



BSB08 柱1 完掘（北から）



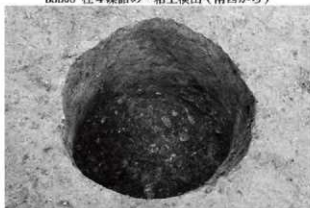
BSB08 柱2 土層（南東から）



BSB08 柱4 礫詰め・粘土検出（南西から）



BSB08 柱4 土層（南から）



BSB10 柱1 柱アタリ検出（南西から）



BSB10 柱2 完掘（北東から）



BSB11 柱2 検出（南東から）

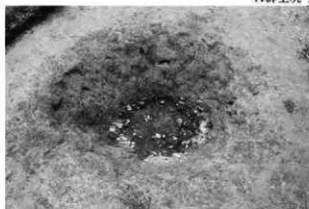


BSB11 柱2 礫詰め直下土層（北から）

写真27 掘立柱建物跡（4）



A群土坑 完掘（北東から）



BSK002 完掘（北東から）



BSK002 遺物出土（北東から）



BSK007 完掘（東から）



BSK007 土層（東から）

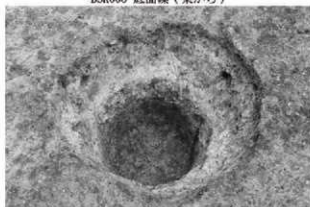
写真 28 A群土坑（1）



BSK008 底面礫（東から）



BSK008 土層（東から）



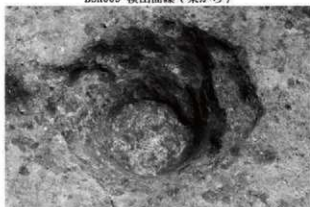
BSK009 完掘（南から）



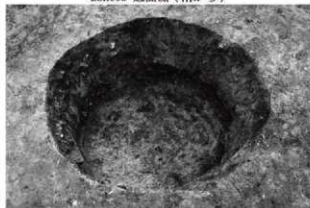
BSK009 検出面礫（東から）



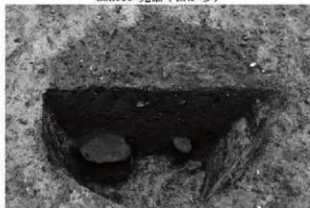
BSK009 底面礫（南から）



BSK010 完掘（西から）



BSK012 完掘（北から）



BSK012 土層（北から）

写真 29 A群土坑（2）



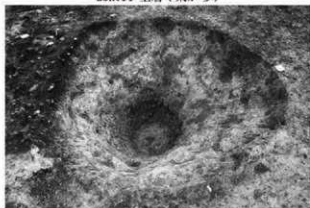
BSK014 完掘（東から）



BSK014 土層（東から）



BSK014 底面礫（南から）



BSK015 完掘（北から）



BSK015 検出（北東から）



BSK015 遺物出土（北から）

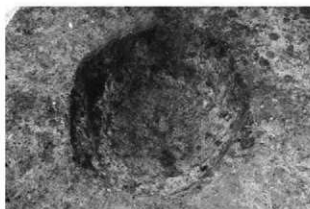


BSK015 土層（北東から）



BSK015 底面礫（北西から）

写真 30 A群土坑（3）



BSK017 完掘（東から）



BSK017 土層（東から）



BSK017 底面礫（東から）



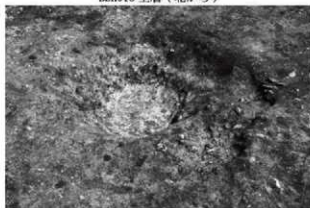
BSK018 壁面礫（南東から）



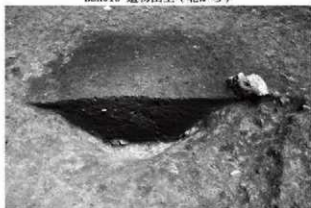
BSK018 土層（北から）



BSK018 遺物出土（北から）

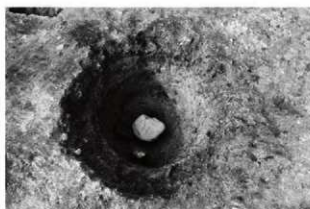


BSK020 完掘（南東から）



BSK020 土層（南から）

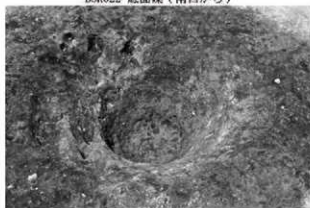
写真31 A群土坑（4）



BSK022 底面礫 (南西から)



BSK022 土層 (南東から)



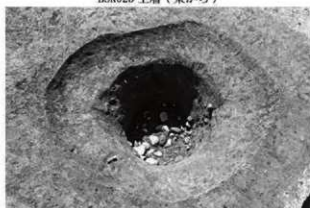
BSK023 完掘 (南東から)



BSK023 土層 (東から)



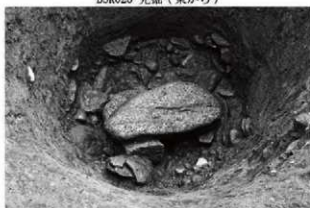
BSK023 底面礫 (南西から)



BSK025 完掘 (東から)

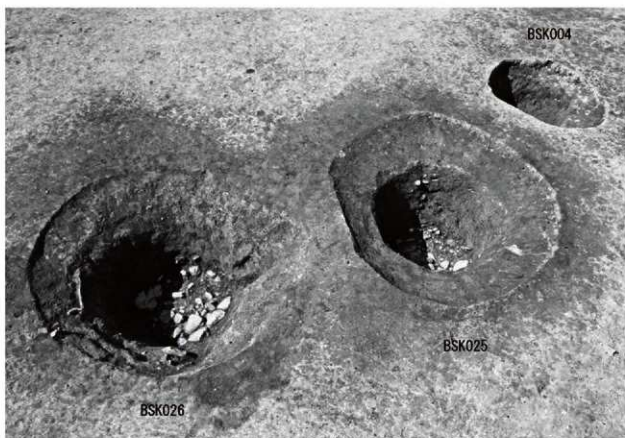


BSK025 土層 (東から)



BSK025 底面礫 (北東から)

写真 32 A群土坑 (5)



BSK004・025・026 完掘（南から）



BSK026 検出（北から）



BSK026 土層（南西から）

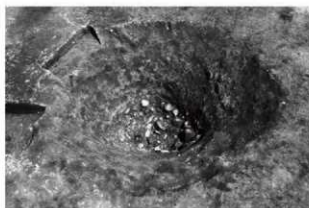


BSK026 底面裸（南から）



BSK026 石製品出土（南から）

写真 33 A群土坑（6）



BSK027 完掘（西から）



BSK027 検出（北西から）



BSK027 遺物出土（西から）



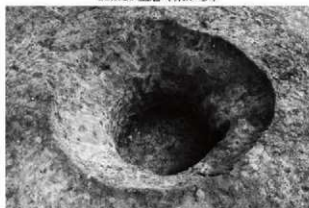
BSK028（右）・BSK029（左）完掘（南から）



BSK028 土層（東から）



BSK030 土層（南から）



BSK031 完掘（北東から）



BSK032 土層（東から）

写真 34 A群土坑（7）



B1群土坑 遺構配置(上方北)

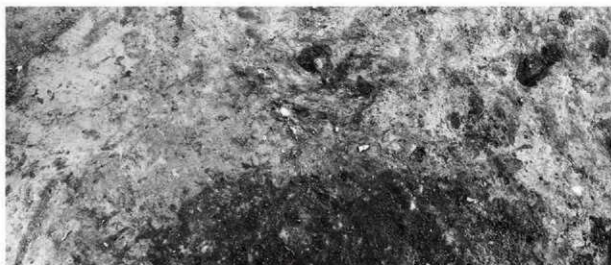


B1群土坑 検出(南から)



B1群土坑 検出(南から)

写真35 B1群土坑(1)



BSK084 検出(南から)



BSK084 土層(南から)



BSK084 ヒスイ製玉類出土(南から)

写真 36 B I 群土坑(2)



BSK075 発掘（南東から）



BSK075 土層（南東から）



BSK088 発掘（北東から）



BSK088 遺物出土（北東から）



BSK089 土層・ヒスイ製勾玉出土（東から）

写真 37 B I 群土坑（3）



BSK101 検出(北東から)



BSK101・BSK356 土層(西から)



BSK101 裡出土(南から)



BSK101 板状籾出土(東から)

写真 38 B I 群土坑(4)



雑出土坑群 検出 (BSK108・109・110 北西から)



BSK108 雑出土 (南西から)



BSK108 土層 A-A' 南側 (南西から)



BSK108 土層 B-B' 東側 (南東から)

写真 39 B I 群土坑 (5)



BSK108 赤色顔料検出(南東から)



BSK108 赤色顔料土層 D-D' (南西から)



BSK108 赤色顔料土層 E-E' (南東から)



BSK109 覆出土(南東から)



BSK109 土層 B-B' 西側(南東から)

写真 40 B I 群土坑 (6)



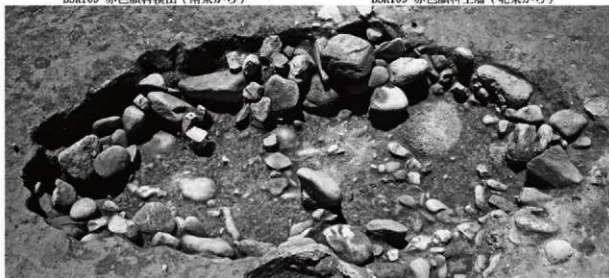
BSK109 赤色顔料検出（南東から）



BSK109 赤色顔料検出（北東から）



BSK109 赤色顔料土層（北東から）

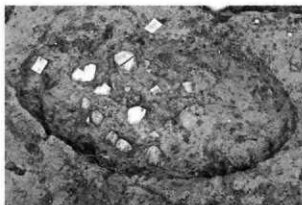


BSK110 礎出土（北東から）



BSK110 土層（南西から）

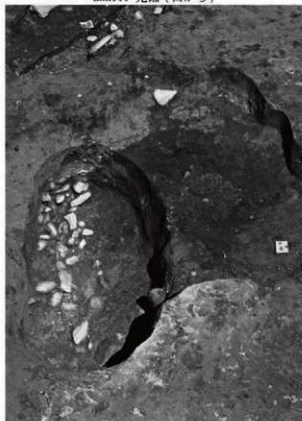
写真 41 B I 群土坑（7）



BSK111 完掘(西から)



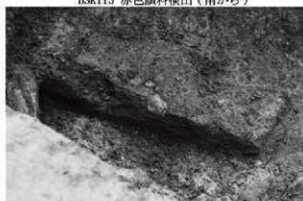
BSK111 土層(東から)



BSK113 完掘・BSK175 検出(南から)



BSK113 赤色顔料検出(南から)



BSK113 赤色顔料土層(西から)



BSK113 土層(西から)

写真 42 B I 群土坑(8)

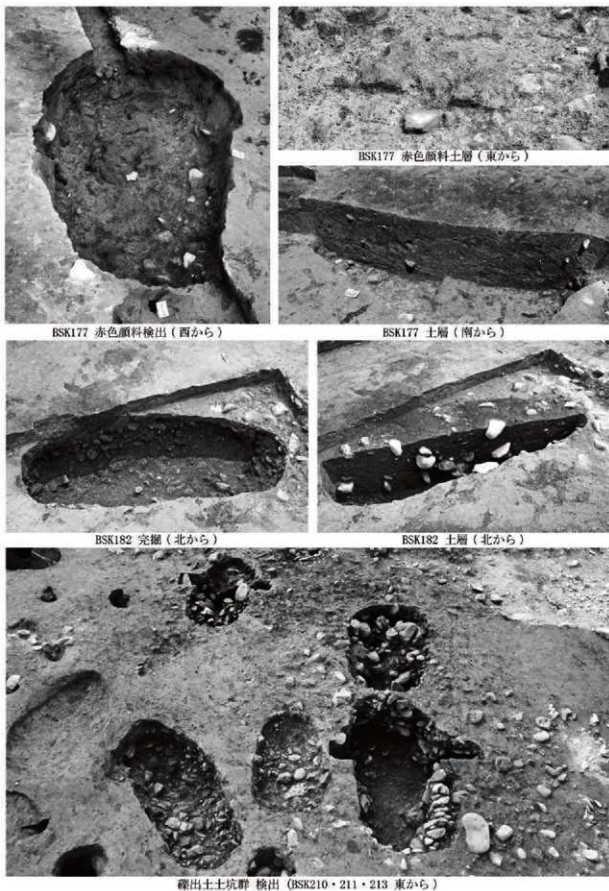


写真 43 B I 群土坑 (9)



BSK210 完掘 (北西から)



BSK210 礫出土 (南東から)



BSK210 上部土層 A-A' (北東から)

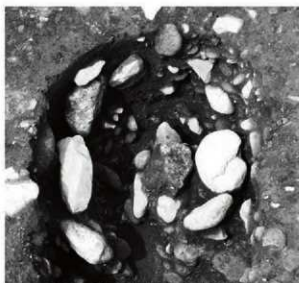


BSK211 完掘 (南西から)

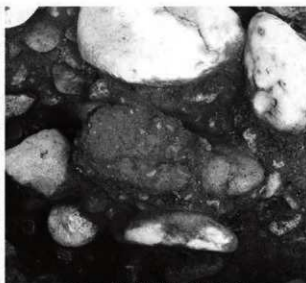


BSK211 土層 B-B' (南東から)

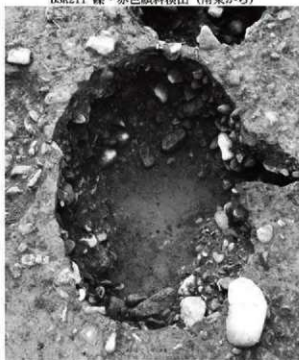
写真 44 B I 群土坑 (10)



BSK211 礫・赤色顔料検出 (南東から)



BSK211 赤色顔料土層 (南西から)



BSK213 完掘 (東から)



BSK213 礫出土 (東から)



BSK213 土層 B-B' 南側 (西から)



BSK213 土層 A-A' (南から)

写真 45 B I 群土坑 (11)



BSK215 礫出土 (東から)



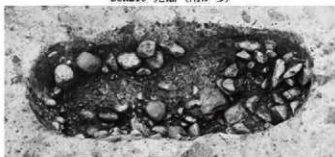
BSK215 土層 (南から)



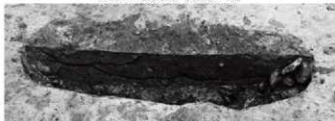
BSK215 完掘 (南から)



BSK218 完掘 (南東から)



BSK218 礫出土 (北東から)



BSK218 土層 (北東から)



BSK221 礫出土 (東から)



BSK221 土層 (東から)

写真 46 B I 群土坑 (12)



BSK222 赤色顔料検出（東から）



BSK222 赤色顔料土層（南から）



BSK222 土層（南から）



BSK223 礫・赤色顔料検出（北西から）

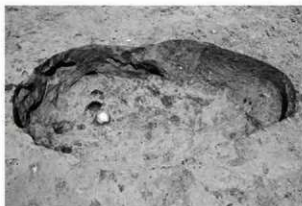


BSK223 赤色顔料土層（南から）



BSK223 土層（南西から）

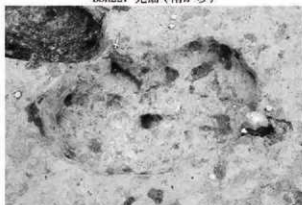
写真47 B I 群土坑 (13)



BSK227 完掘(南から)



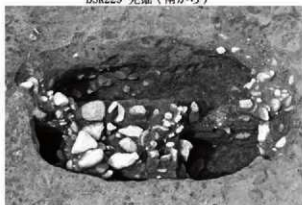
BSK227 土層(南東から)



BSK229 完掘(南から)



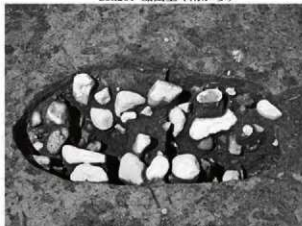
BSK229 礫出土(北から)



BSK230 礫出土(南から)



BSK230 土層(東から)



BSK233 礫出土(南から)



BSK233 土層(南から)

写真 48 B I 群土坑 (14)



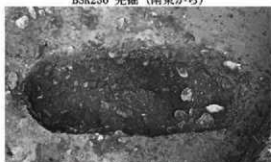
BSK236 完掘 (南東から)



BSK236 土層 (北東から)



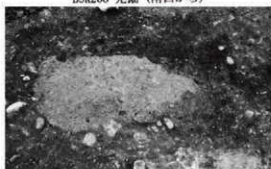
BSK238 石撤出土 (南西から)



BSK238 完掘 (南西から)



BSK238 土層 (南西から)



BSK239 検出 (南から)



BSK239 土層 (南から)



BSK240 完掘 (北から)



BSK240 土層 (南から)

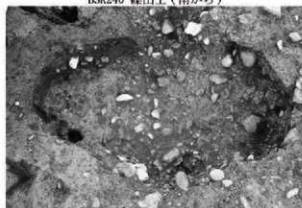
写真 49 B I 群土坑 (15)



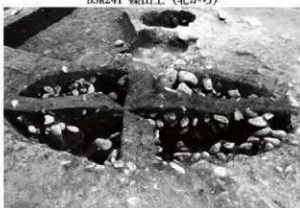
BSK240 礫出土(南から)



BSK241 礫出土(北から)



BSK241 完掘(北から)



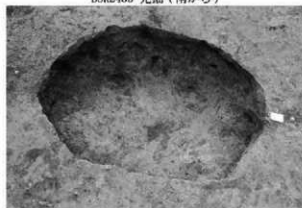
BSK241 土層 A-A' (北から)



BSK243b 完掘(南から)



BSK243b 土層(南から)

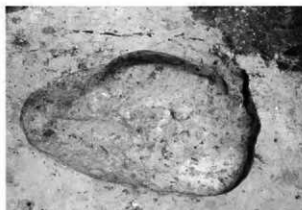


BSK265 完掘(北東から)



BSK265 土層(北東から)

写真 50 B I 群土坑 (16)



BSK268 完掘 (南から)



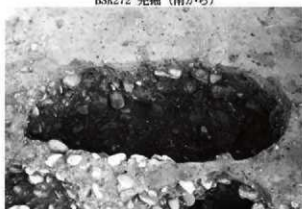
BSK268 土層 (南から)



BSK272 完掘 (南から)



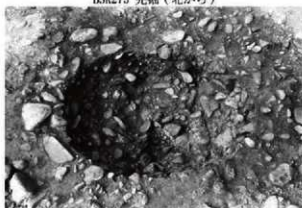
BSK272 土層 (南から)



BSK273 完掘 (北から)



BSK273 土層 (南から)



BSK274 完掘 (南から)

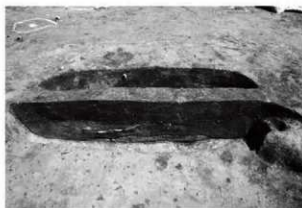


BSK274 土層 (南から)

写真 51 BI 群土坑 (17)



BSK275 完掘(南から)



BSK275 土層(南から)



BSK276 雑出土(北から)



BSK276 土層(北から)



BSK277 完掘(南西から)



BSK277 土層(南西から)



BSK292 完掘(南から)



BSK292 土層(南から)

写真 52 B I 群土坑 (18)



BSK293 完掘（北西から）



BSK293 遺物出土（東から）



BSK293 土層（南東から）



BSK294 礫出土（南から）



BSK294 土層 A-A'（南から）



BSK296 礫出土（北から）



BSK296 土層 A-A'（北から）

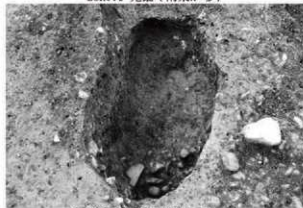
写真 53 B I 群土坑 (19)



BSK301 完掘(南東から)



BSK301 土層(南東から)



BSK303 赤色顔料検出(東から)



BSK303 赤色顔料土層(北から)



BSK307 完掘(北西から)



BSK307 土層(南西から)



BSK307 掘出土(北西から)



BSK312 赤色顔料検出 (南から)



BSK312 土層 (南から)



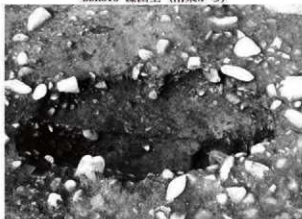
BSK313 礎出土 (南東から)



BSK313 土層 (南西から)



BSK313 北西側土層 (南西から)



BSK315 発掘 (南西から)



BSK315 土層 (南西から)

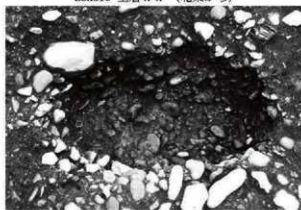
写真 55 B I 群土坑 (21)



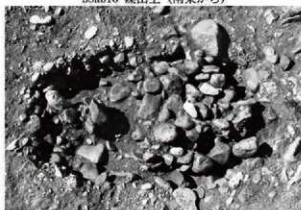
BSK316 礎出土 (南東から)



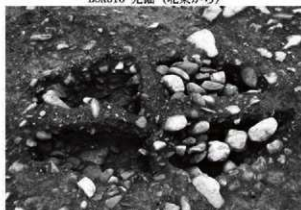
BSK316 土層 A-A' (北東から)



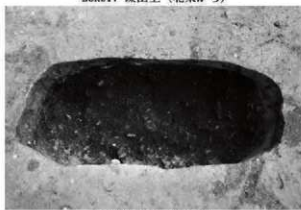
BSK316 完掘 (北東から)



BSK317 礎出土 (北東から)



BSK317 土層 A-A' (北東から)



BSK320 完掘 (北から)



BSK320 土層 (北から)

写真 56 B I 群土坑 (22)



BSK329 完掘 (南から)



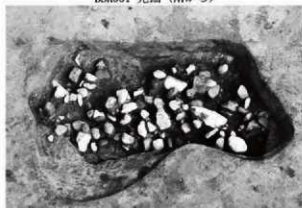
BSK329 土層 (南から)



BSK331 完掘 (南から)



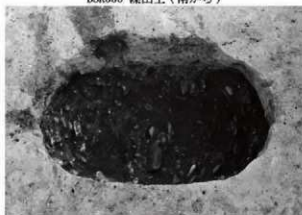
BSK331 土層 (南から)



BSK335 礎出土 (南から)



BSK335 土層 (南から)



BSK337 完掘 (北から)



BSK337 土層 (北から)

写真 57 B I 群土坑 (23)



BSK342 完掘 (南から)



BSK342 土層 (南から)



BSK345 確出土 (南から)



BSK345 土層 (南から)



BSK402 完掘 (南から)



BSK402 土層 (南から)

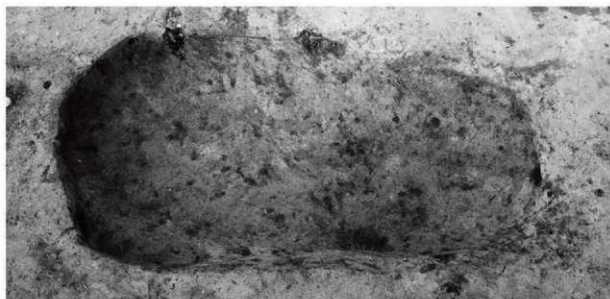


BSK403 完掘 (南から)



BSK403 土層 (南から)

写真 58 B I 群土坑 (24)



BSK370 完掘 (南から)



BSK370 土層 (南から)

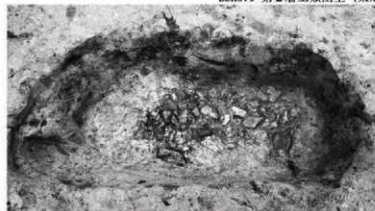


BSK370 玉類出土 (南から)

写真 59 B I 群土坑 (25)



BSK370 第2層玉類出土(東から)



BSK373 完掘(南から)



BSK373 土層(南から)

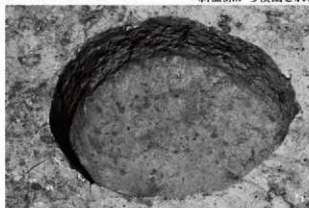


BSK373 玉類出土(南から)

写真 60 B I 群土坑 (26)



斜面照から検出されたBⅡ群土坑（左方北）



BSK034 完掘（南東から）



BSK034 土層（南東から）



BSK035 完掘（南から）



BSK035 土層（南から）

写真 61 BⅡ群土坑（1）



BSK035 遺物出土1 (南から)



BSK035 遺物出土2 (南から)



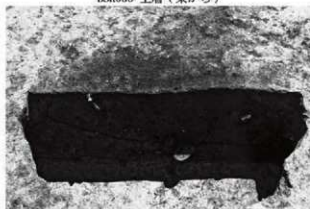
BSK036 完掘 (東から)



BSK036 土層 (東から)



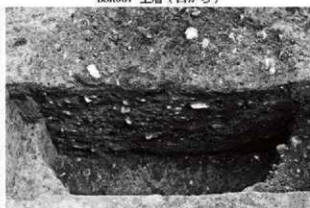
BSK037 完掘 (西から)



BSK037 土層 (西から)



BSK038 完掘 (北から)



BSK038 土層 (北から)

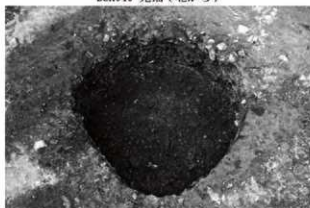
写真 62 BⅡ群土坑(2)



BSK040 完掘（北から）



BSK040 土層（北から）



BSK047 完掘（南から）



BSK047 土層（南から）



BSK047 遺物出土（北から）



BSK047 小型土器出土（南から）



BSK054 完掘（東から）

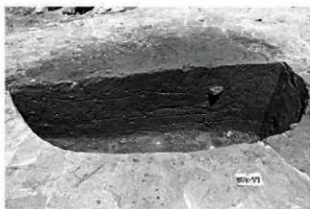


BSK054 土層（東から）

写真 63 BⅡ群土坑（3）



BSK057 完掘 (西から)



BSK057 土層 (南から)



BSK058・BSK085 完掘 (南から)



BSK058 土層 (南から)



BSK060 完掘 (南東から)



BSK060 土層 A-A' (南東から)



BSK065 完掘 (南から)



BSK065 土層 (南から)

写真 64 BⅡ群土坑(4)



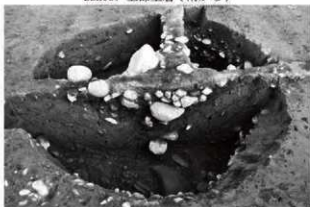
BSK067 完掘（南から）



BSK067 上部土層（南から）



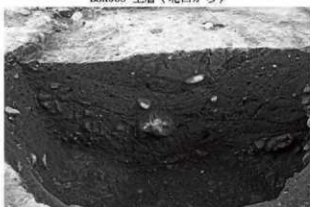
BSK068 完掘（北西から）



BSK068 土層（北西から）



BSK069 完掘（北から）



BSK069 土層（北から）

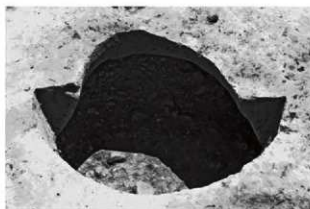


BSK090 完掘（北から）



BSK090 土層（北から）

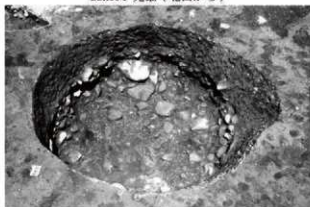
写真 65 B II 群土坑（5）



BSK094 完掘 (北西から)



BSK094 土層 (北西から)



BSK095 完掘 (南西から)



BSK095 土層 (南西から)



BSK114 完掘 (南から)



BSK114 土層 (南から)



BSK164 完掘 (南から)



BSK164 土層 (南から)

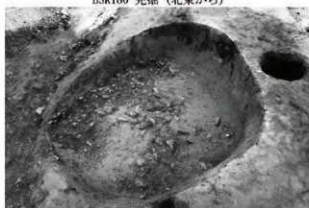
写真 66 BⅡ群土坑(6)



BSK180 完掘 (北東から)



BSK180 土層 (北東から)



BSK181 完掘 (北から)



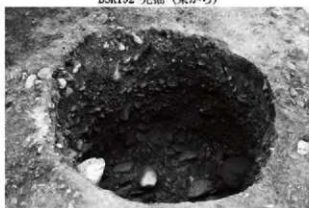
BSK181 土層 (北から)



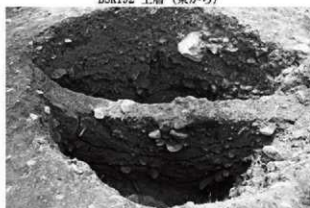
BSK192 完掘 (東から)



BSK192 土層 (東から)



BSK201 完掘 (北から)



BSK201 土層 (北から)

写真 67 B II 群土坑 (7)



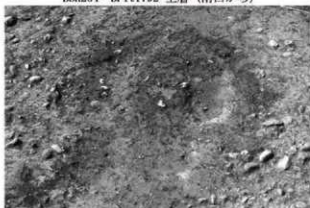
BSK264(左)・BSK338(右) 完掘(東から)



BSK264・BPit1792 土層(南西から)



BSK338 土層(東から)



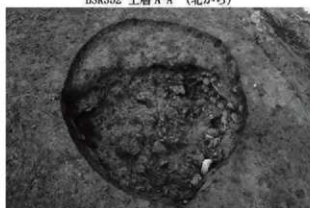
BSK352 検出(北東から)



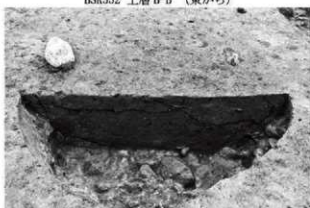
BSK352 土層 A-A' (北から)



BSK352 土層 B-B' (東から)

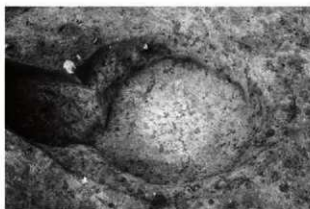


BSK390 完掘(東から)



BSK390 土層(東から)

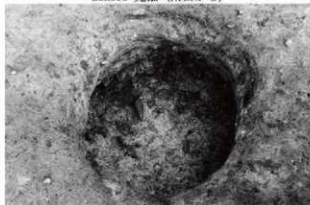
写真 68 BⅡ群土坑(8)



BSK393 完掘 (南西から)



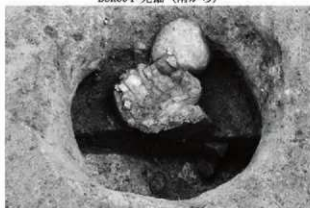
BSK393 土層 (南西から)



BSK394 完掘 (南から)



BSK394 上部土層 (南から)



BSK394 下部土層 (南から)



BSK394 遺物出土 (南から)

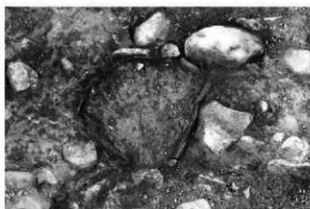


BSK395 完掘 (南西から)



BSK395 土層 (南西から)

写真 69 B II 群土坑 (9)



BSR02 検出(南から)



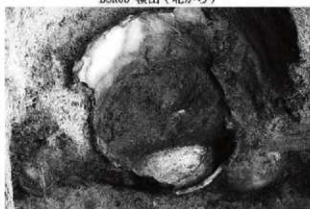
BSR02 土層(南西から)



BSR03 検出(北から)



BSR03 土層(北から)



BSR04 赤色顔料検出(西から)



BSR04 土層(西から)



BSR06 検出(北から)



BSR06 土層(北から)

写真 70 土器埋設遺構(1)



BSR10 検出（西から）



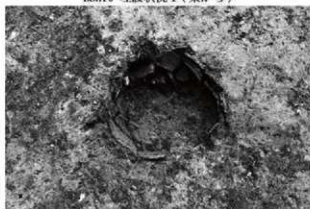
BSR10 土層（東から）



BSR10 埋設状況1（東から）



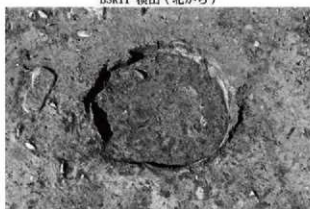
BSR10 埋設状況2（南東から）



BSR11 検出（北から）



BSR11 土層（西から）

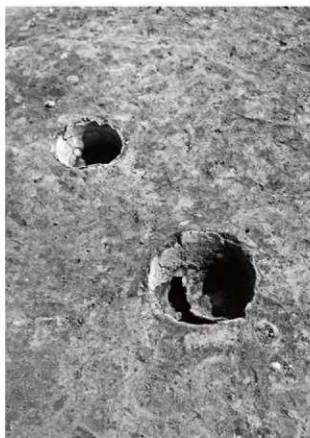


BSR12 検出（南から）



BSR12 土層（南から）

写真71 土器埋設遺構（2）



BSR15(右)・BSR17(左) 完掘(南西から)



BSR15 土層(西から)



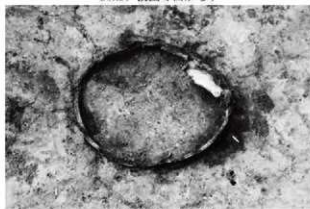
BSR17 土層(西から)



BSR16 検出(西から)



BSR16 土層(西から)



BSR20 検出(南から)



BSR20 土層(南から)

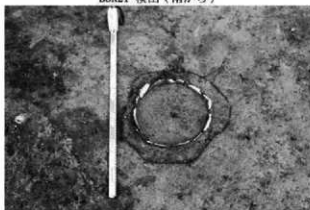
写真 72 土器埋設遺構(3)



BSR21 検出 (南から)



BSR21 土層 (南から)



BSR22 検出 (南から)



BSR22 土層 (南から)



BSR23 検出1 (南から)



BSR23 検出2 (南から)



BSR23 土層 (西から)



BSR25 検出 (南から)



BSR25 土層 (南から)

写真 73 土器埋設遺構 (4)



BSR27 検出(北から)



BSR39 土層(東から)



BSN03 検出(北から)



BSN03 土層(北から)



BSN16 検出(南から)



BSN16 土器埋設状況(南から)



BSN16 土層(南から)



BSN16 土器片敷(南から)

写真 74 土器埋設遺構・焼土遺構



BPit1426 土層（南東から）



BPit1533 柱底内粘土検出（東から）



BPit1534 土層（南から）



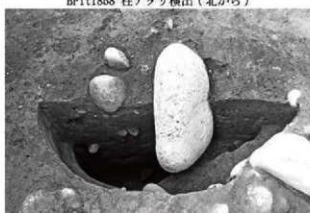
BPit1608 土層（南西から）



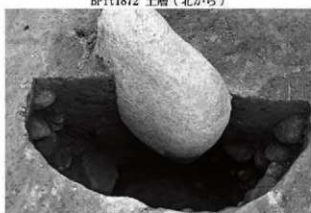
BPit1868 柱アタリ検出（北から）



BPit1872 土層（北から）



BPit1868 土層（北東から）



BPit1875 土層（北から）

写真 75 ピット（1）



BPit1873 台石出土（北から）



BPit1873 台石直下土層（北から）



BPit1933 土層（東から）



BPit1997 土層（南から）



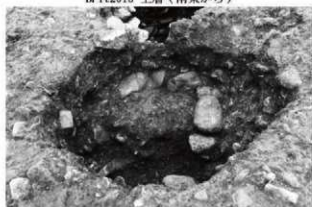
BPit1998 土層（南東から）



BPit2013 土層（南東から）

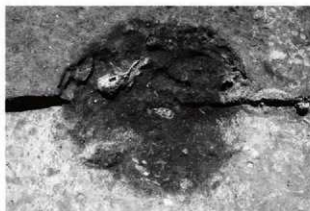


BPit2016 土層（南から）



BPit2095 土層（南西から）

写真 76 ピット（2）



BSK001 炭化材出土（北から）



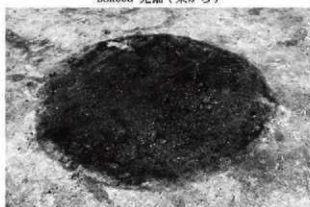
BSK001 土層（北から）



BSK005 発掘（東から）



BSK005 土層（北から）



BSK033 発掘（南東から）



BSK033 土層（東から）

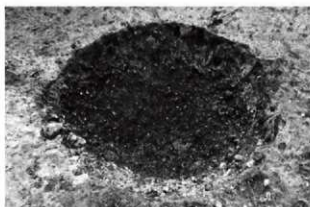


BSK042 下部土層（西から）



BSK043 発掘（北から）

写真 77 炭窯跡 (1)



BSK045 完掘 (西から)



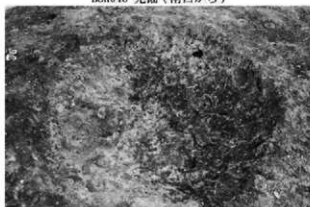
BSK045 土層 (西から)



BSK046 完掘 (南西から)



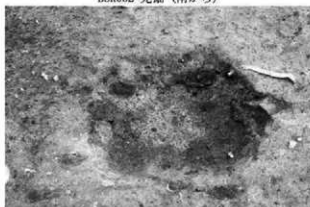
BSK046 土層 (南西から)



BSK062 完掘 (南から)



BSK062 土層 (南西から)



BSK354 完掘 (西から)



BSK354 土層 (東から)

写真 78 炭窯跡 (2)



川原平(1)遺跡

A地点 第Ⅱ a層範囲(南から)



遺物出土1(西から)



遺物出土2(北東から)

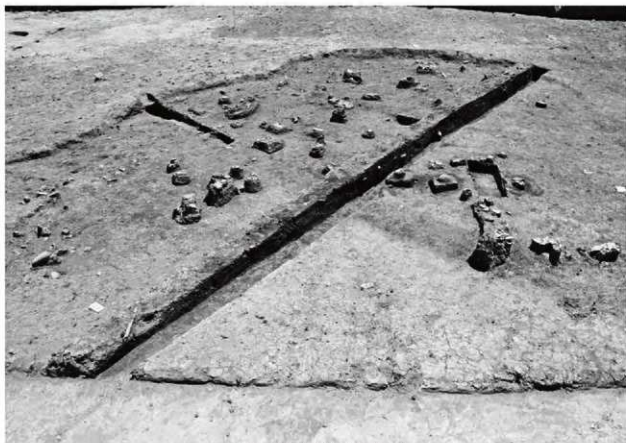


遺物出土3(東から)



遺物出土4(北から)

写真 79 A地点第Ⅱ a層遺物出土状況



B地点 第Ⅱa層範圍(北西から)



遺物出土1



遺物出土2



遺物出土3



遺物出土4

写真 80 B地点第Ⅱa層遺物出土状況

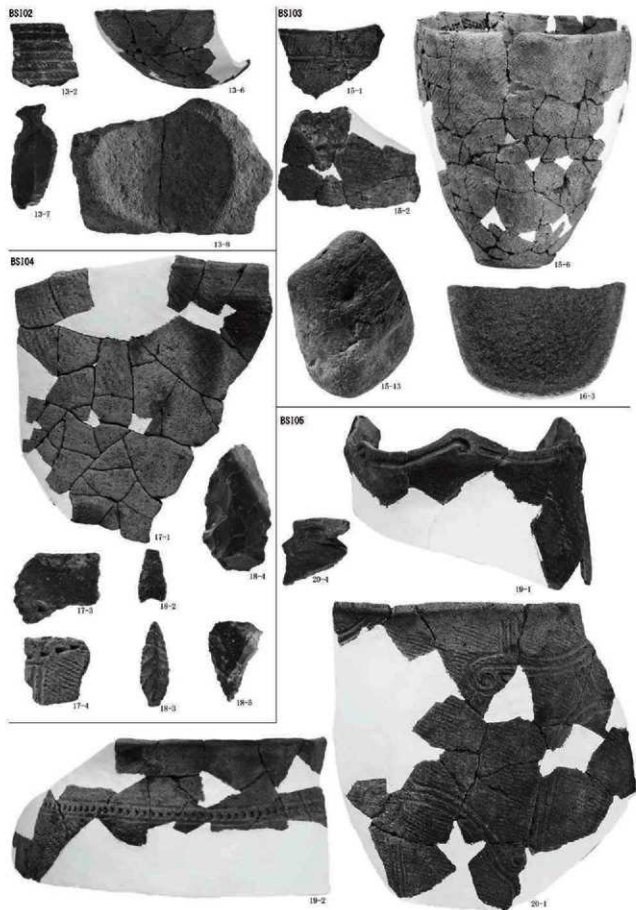


写真 81 竪穴住居跡出土遺物 (1)

B5105

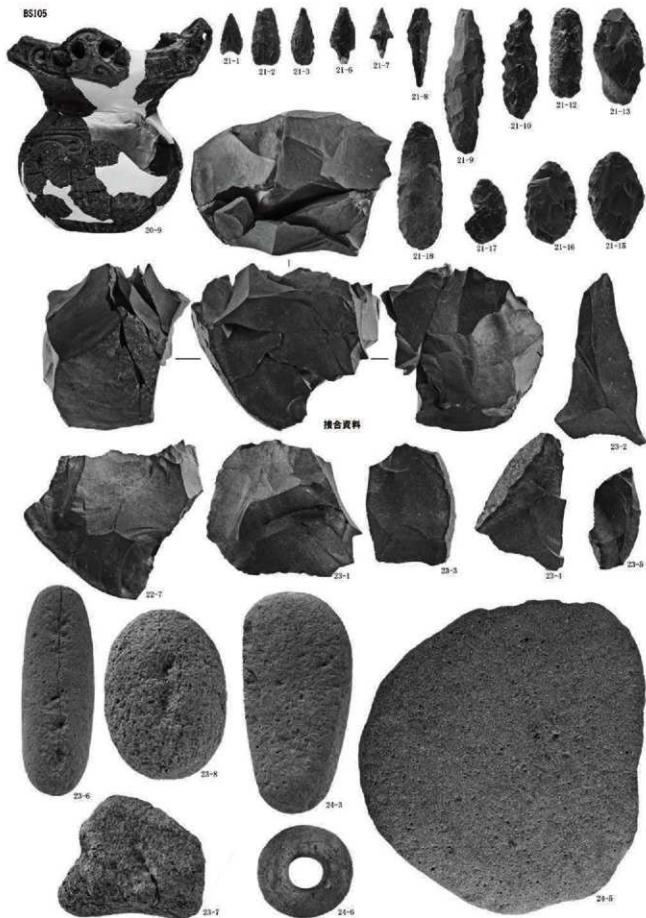


写真 82 竪穴住居跡出土遺物(2)

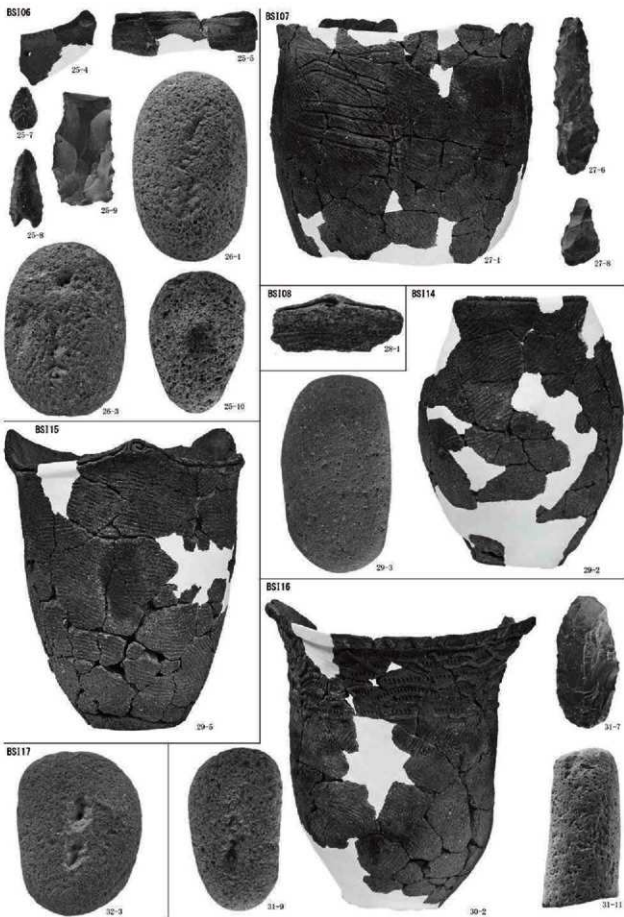


写真 83 竪穴住居跡出土遺物 (3)

BS116



30-1

BS119



35-1

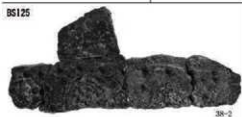
BS120



35-7

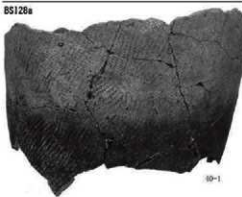
35-8

BS125



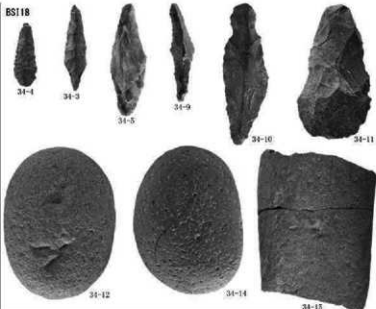
38-2

BS126a



40-1

BS118



34-4

34-3

34-5

34-9

34-10

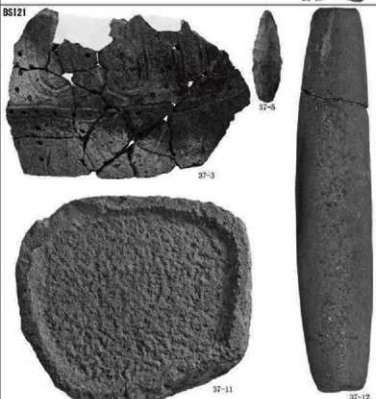
34-11

34-12

34-14

34-13

BS121



37-5

37-3

37-11

37-12



40-7



40-12



40-9

写真 84 竪穴住居跡出土遺物(4)

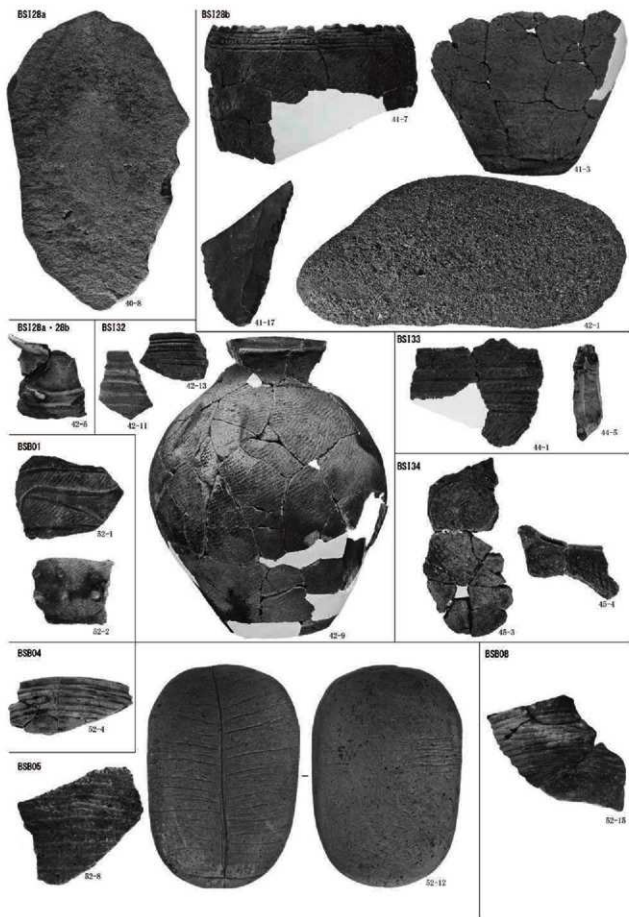


写真 85 竪穴住居跡・掘立柱建物跡出土遺物

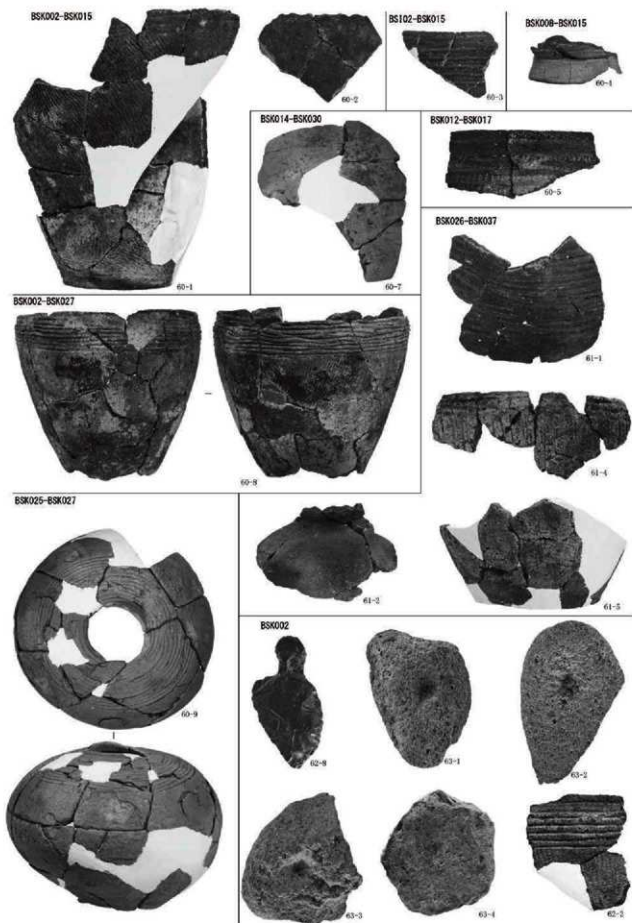


写真 86 遺構間接合遺物・A群土坑出土遺物

BSK002

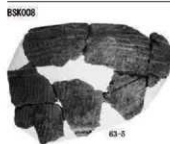


62-6



62-5

BSK008



63-5



63-6



63-13



63-11



63-10



63-14

BSK015



64-15

BSK009



61-2



61-1



61-3

BSK014



61-7



61-12



61-13



61-8



61-17

61-14

写真 87 A群土坑出土遺物(1)

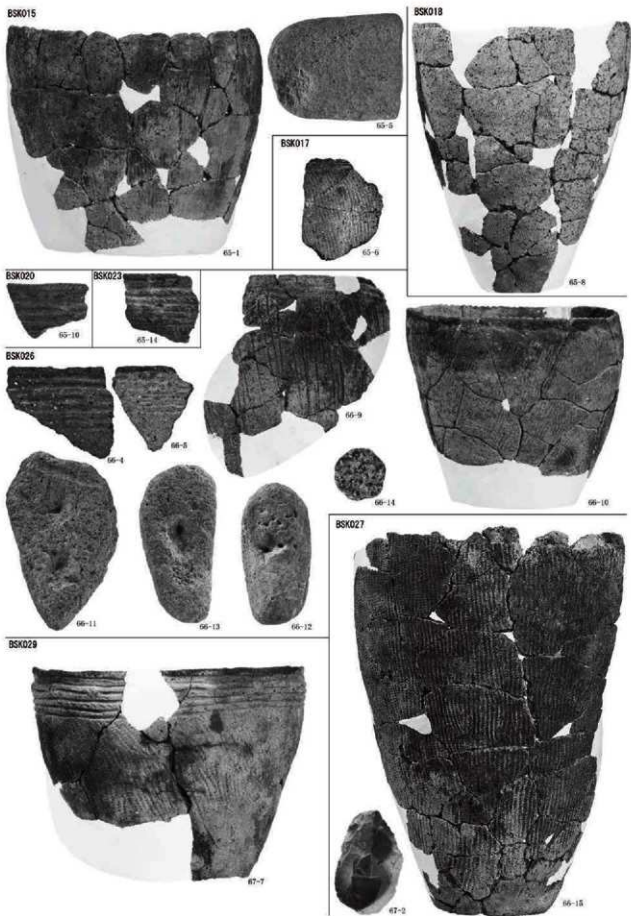


写真 88 A 群土坑出土遺物(2)

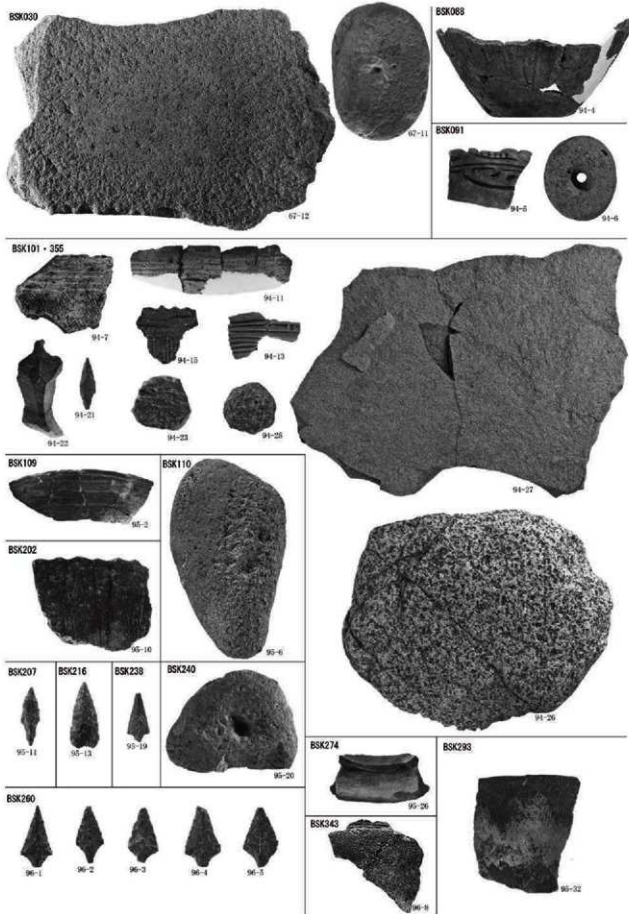


写真 89 A 群土坑・B I 群土坑出土遺物

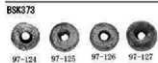
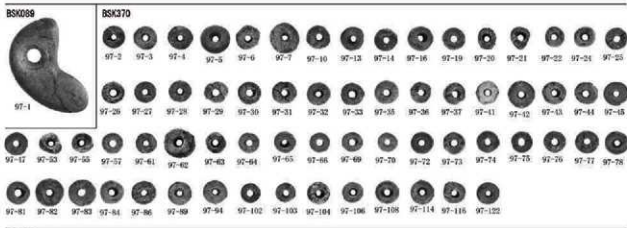
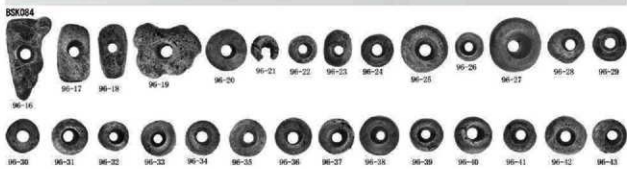
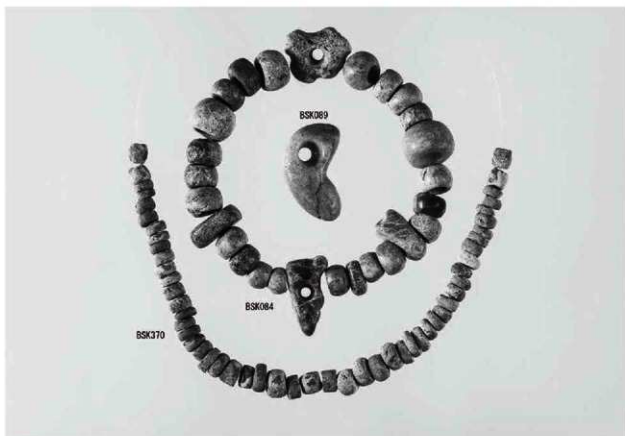


写真 90 B I 群土坑出土遺物

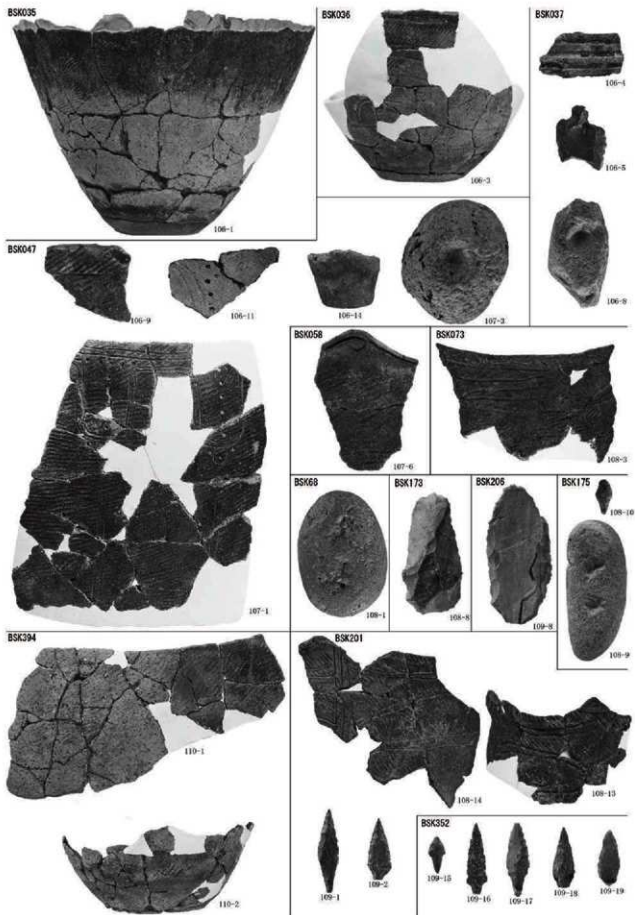


写真 91 B II 群土坑出土遺物

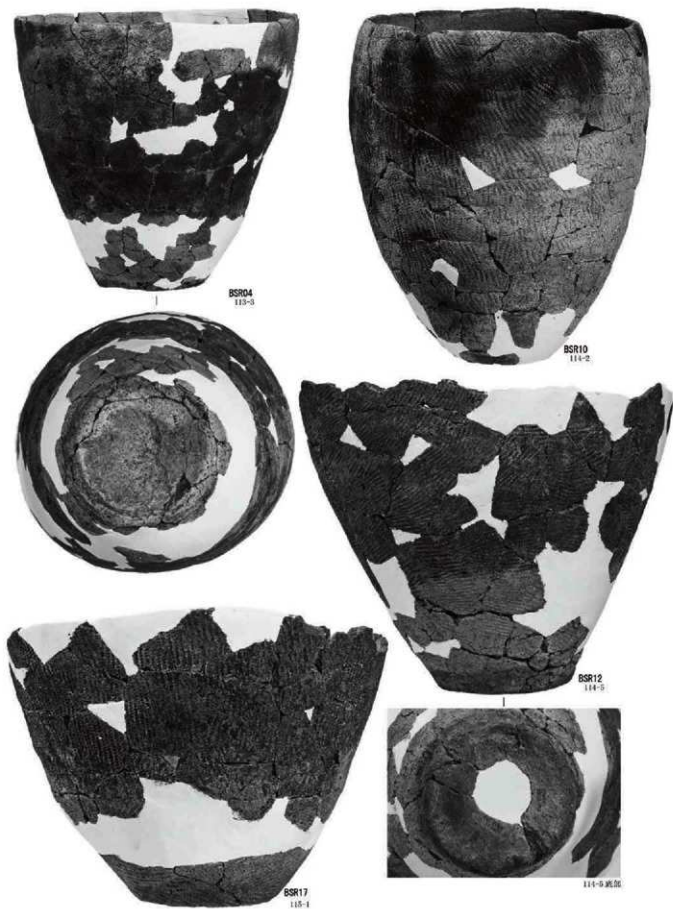


写真 92 土器埋設遺構出土遺物(1)

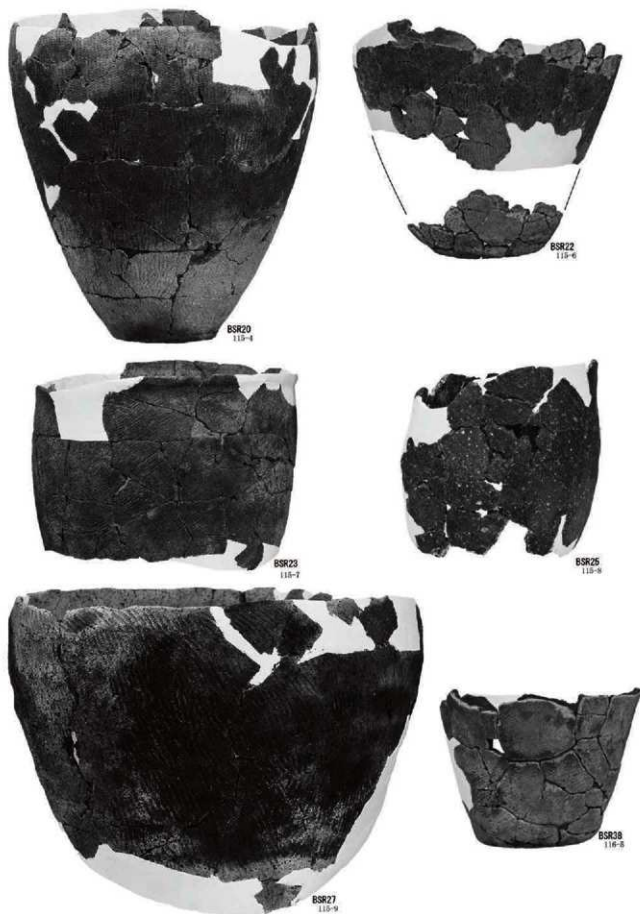


写真 93 土器埋設遺構出土遺物 (2)

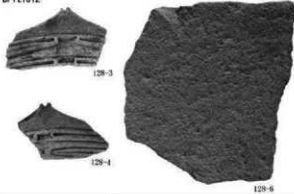
BSN03



BSN16



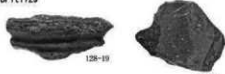
BPit1512



BPit1708



BPit1729



BPit1813



BPit1869



BPit1872



BPit1873



BPit2061

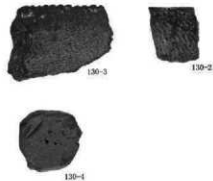


写真 94 焼土遺構・ピット出土遺物

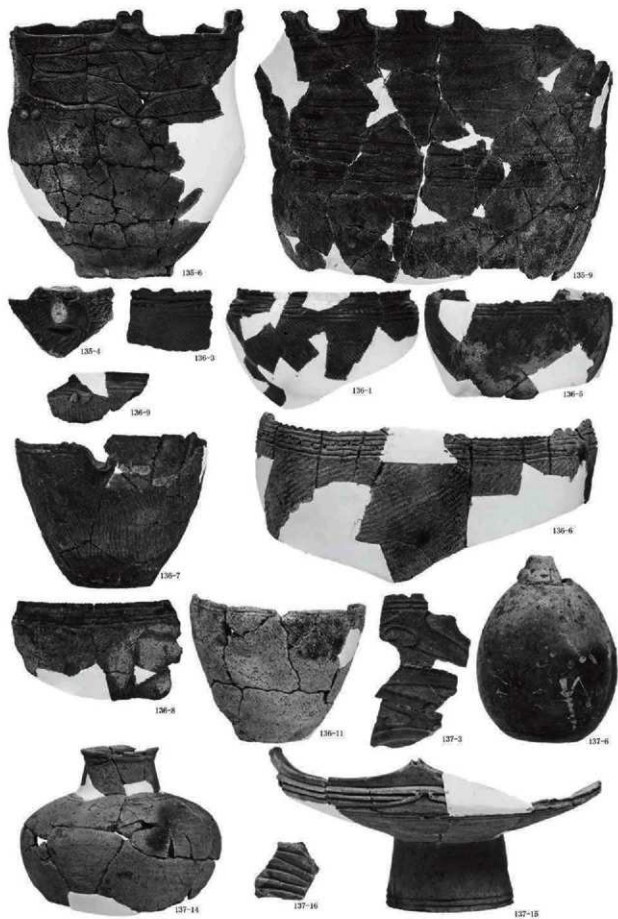


写真 95 A地点第Ⅱa層出土遺物(1)

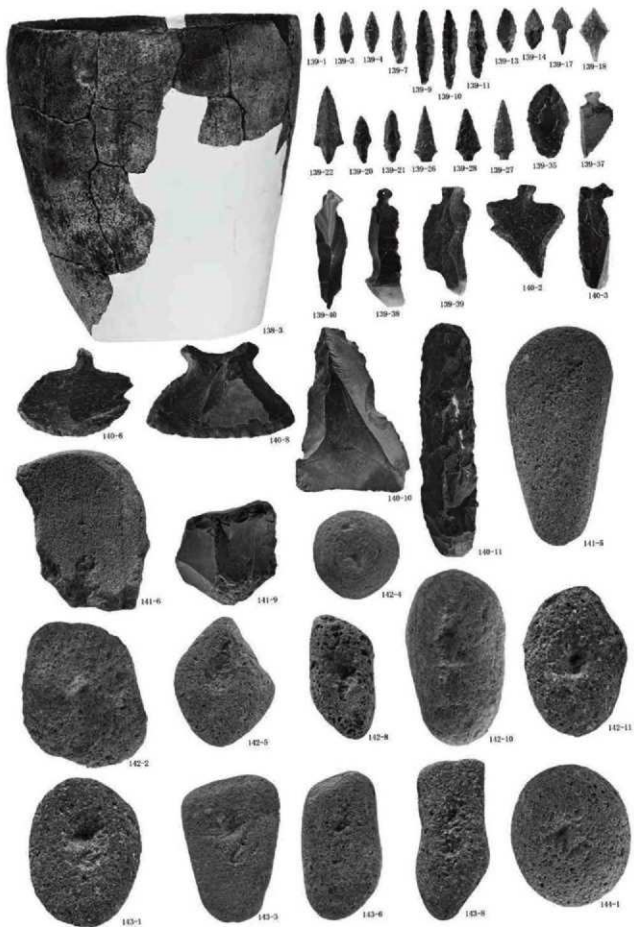


写真 96 A地点第Ⅱ a層出土遺物(2)

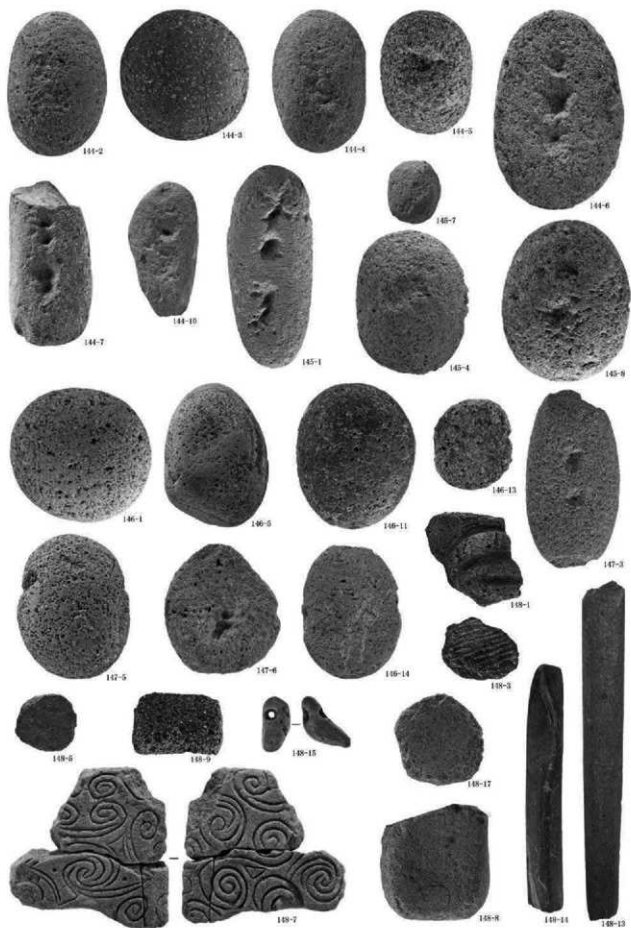


写真 97 A地点第Ⅱ a層出土遺物(3)

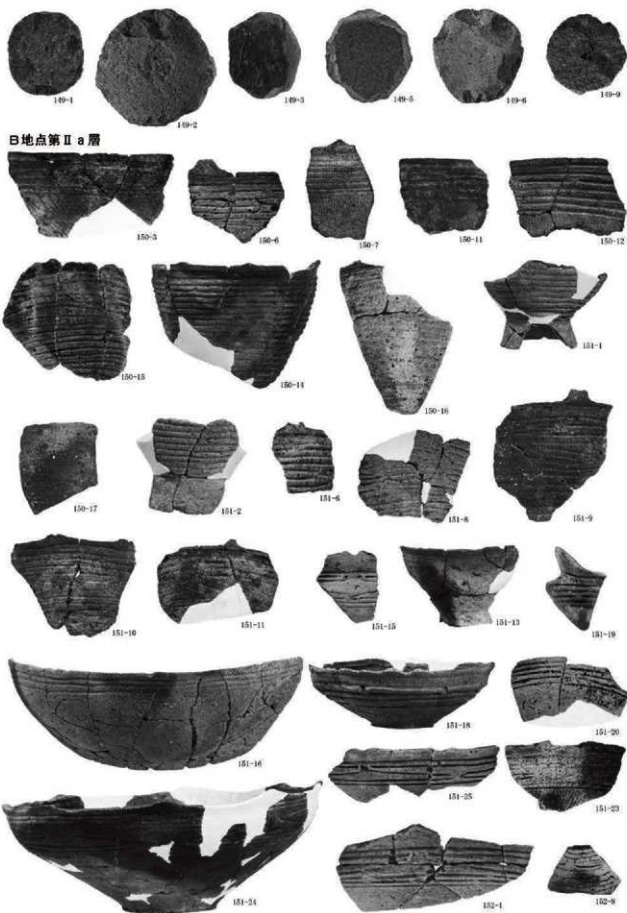
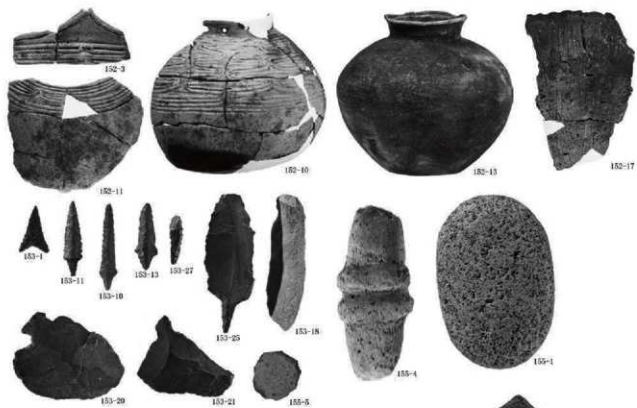


写真 98 A地点第Ⅱa層・B地点第Ⅱa層出土遺物



遺構外

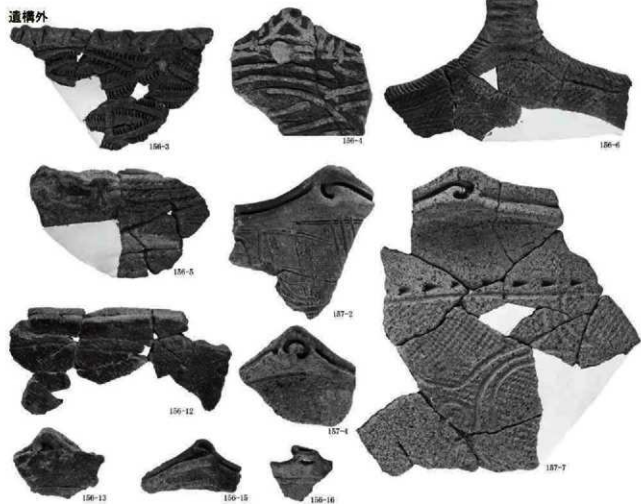


写真 99 B地点第Ⅱ a層・遺構外出土遺物

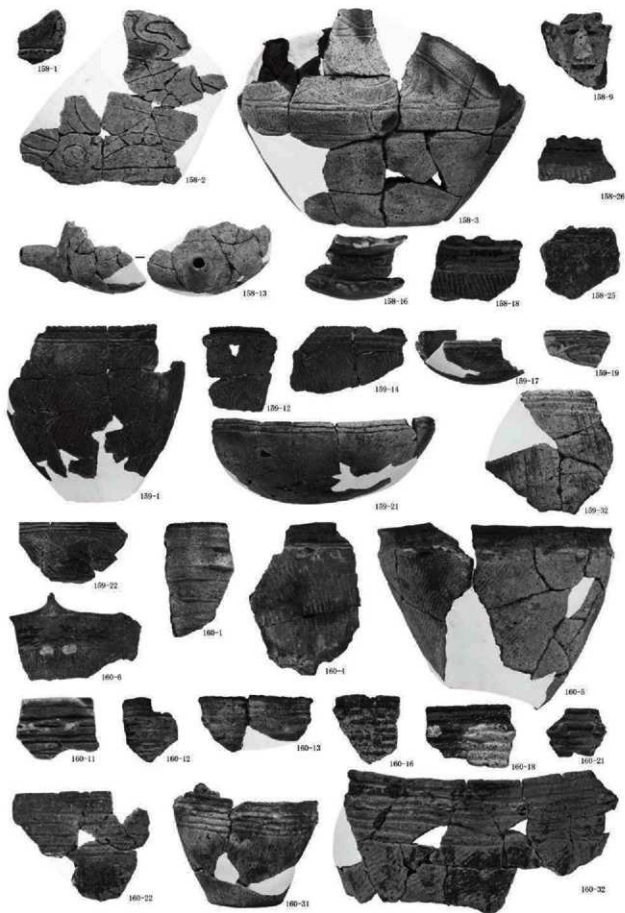


写真 100 遺構外出土遺物(1)



写真101 遺構外出土遺物(2)

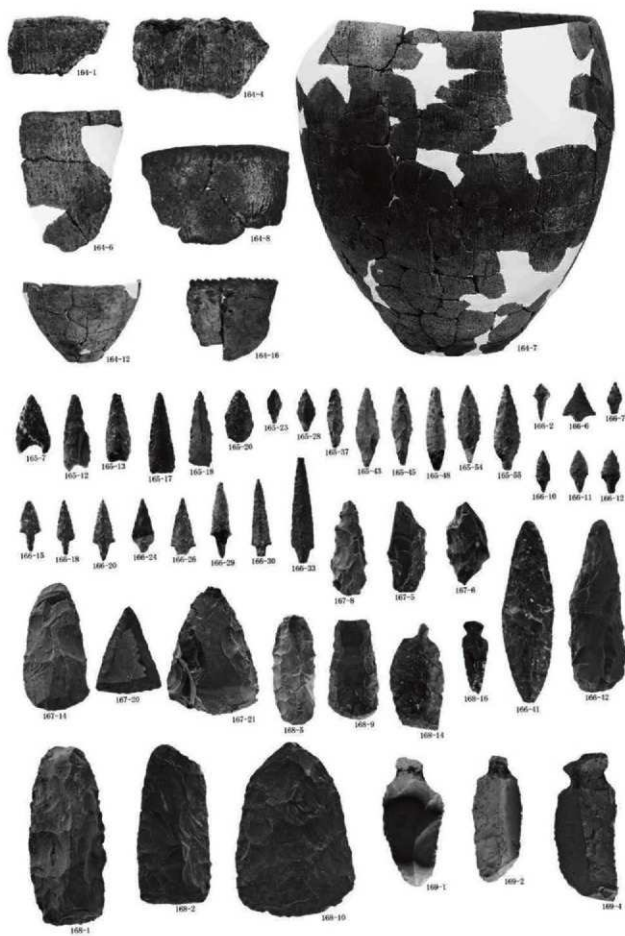


写真102 遺構外出土遺物(3)

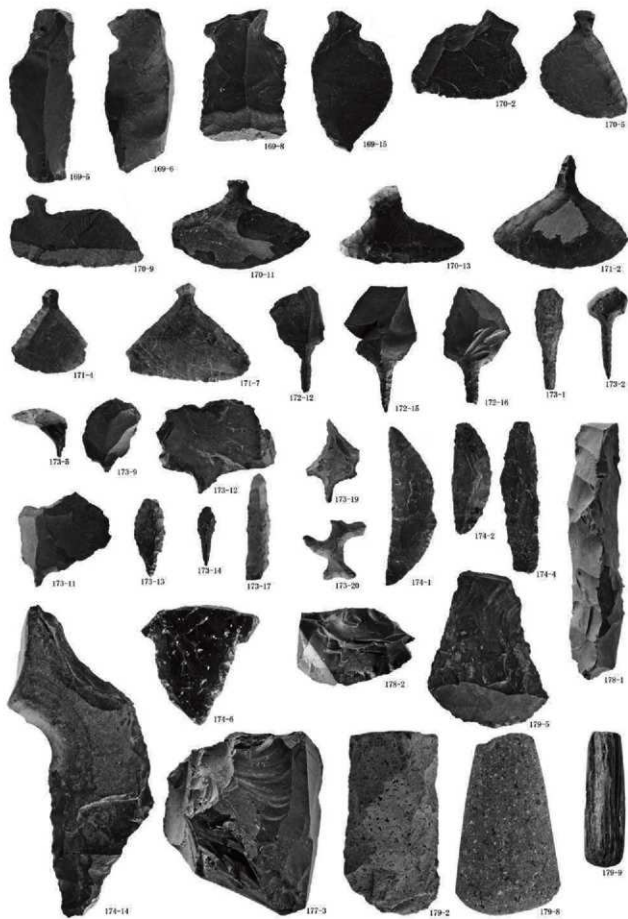


写真 103 遺構外出土遺物 (4)



写真 104 遺構外出土遺物 (5)

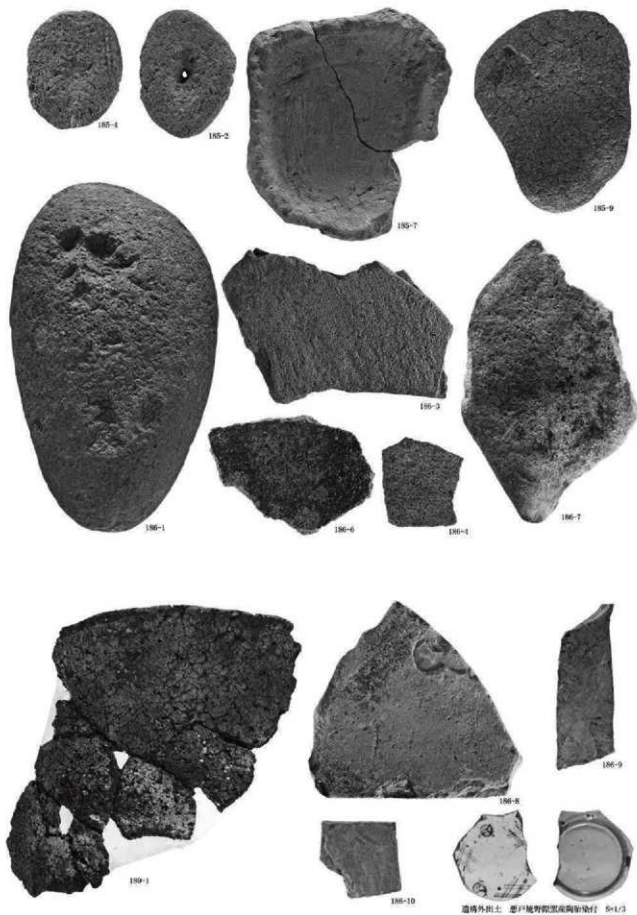


写真 105 遺構外出土遺物 (6)



写真 106 遺構外出土遺物(7)

報告書抄録

ふりがな	かわらたいかつこよんいせきよん							
書名	川原平(4)遺跡Ⅳ							
副書名	津軽ダム建設事業に伴う遺跡発掘調査報告							
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第566集							
編著者名	最上法聖、小山浩平、秦光次郎、工藤忍							
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒038-0042 青森県青森市新城字天田内152-15 TEL 017-788-5701 FAX 017-788-5702							
発行機関	青森県教育委員会							
発行年月日	2016年3月25日							
ふりがな	ふりがな	コード	世界測地系 (JGD2000)		調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因	
			北緯	東経				
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
かわらたいかつこよんいせきよん 川原平(4)遺跡	あおもりけん 青森県 なかつぶらひん 中津軽郡 にしめつかわら 西目屋村 あはらざかから 大字川原 たいしやまふかひら 平字福岡	02304	343022	40° 31′ 41″	140° 13′ 41″	20110511～ 20110713 20120508～ 20120928 20130507～ 20130906 20140501～ 20141114	35,300	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
川原平(4)遺跡	集落	縄文時代	堅穴住居跡	27	縄文土器、石器、 土製品、石製品	一部の土坑墓、土 器埋設遺構から赤色 顔料出土。 土坑墓内からヒスイ 製・緑色凝灰岩製の 玉類出土。		
			掘立柱建物跡	11				
土坑	295							
土器埋設遺構	26							
施土遺構	3							
ピット	578							
散布地	古代以降	土坑 炭窯跡	1 21	土師器、陶磁器類				
要約	<p>川原平(4)遺跡は、岩木川とその支流である大沢川との合流点付近に位置する。遺跡周辺は河岸段丘が発達する。B区はA・E区よりも高所の段丘面に位置し、本遺跡の西側に隣接する川原平(1)遺跡と同一の段丘面に相当する。</p> <p>本遺跡B区では、平成15・23～26年度の発掘調査の結果、主に縄文時代中期から晩期にかけての集落跡であることがわかった。また、A区では主に縄文時代中期末葉から後期初頭にかけての堅穴住居跡、E区では主に縄文時代早期中葉の遺物や縄文時代後期後半から晩期前葉の遺構等が発見されており、地点により主体となる遺構・遺物の時代的様相が異なる状況が確認された。</p> <p>B区の検出遺構で特筆されるものとしては、縄文時代晩期の土坑墓群と土器埋設遺構群が挙げられる。一部の土坑墓及び土器埋設遺構からは、赤色顔料が出土している。また、土坑墓内からは、ヒスイ製及び緑色凝灰岩製玉類の出土事例も得られた。</p> <p>出土遺物は、縄文時代晩期を主体とし、中でも晩期後葉が多数を占める。また、川原平(1)遺跡との接合関係を示す事例が得られたことが注目される。さらに、調査区東側で検出された縄文時代晩期後葉の土坑群を中心に、多くの遺構間接合が認められた。古代の遺物では、窟状沈線文をもつ土師器が出土している。</p>							

青森県埋蔵文化財調査報告書 第 566 集

川原平(4)遺跡Ⅳ

—津軽ダム建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

発行年月日 2016年3月25日
発行 青森県教育委員会
編集 青森県埋蔵文化財調査センター
〒038-0042 青森県青森市新城字天田内 152-15
TEL 017-788-5701 FAX 017-788-5702
印刷 川口印刷工業株式会社
〒030-0811 青森県青森市青柳 1丁目 16-3 木村ビル 2F
TEL 017-721-6520 FAX 017-775-3510
